

全学共通科目シラバス・履修案内

平成 30 年度

(2018 年)



大阪市立大学学務企画課

目 次

| | |
|------------------------------------|-----|
| I. 全学共通科目の履修案内 | |
| 1. 全学共通教育の目的と位置付け | 1 |
| 2. 全学共通科目の理念と目的 | 1 |
| (1) 総合教育科目 | 1 |
| (2) 基礎教育科目 | 2 |
| (3) 外国語科目 | 2 |
| (4) 健康・スポーツ科学科目 | 2 |
| 3. 単位の基準 | 2 |
| 4. 授業時間 | 3 |
| 5. 全学共通科目の履修について | 3 |
| 6. 履修登録等について | 3 |
| 7. 障がいをもつ学生の受講等について | 3 |
| 8. 試験及び成績について | 3 |
| (1) 定期試験等 | 3 |
| (2) 成 績 | 4 |
| 9. 各種掲示について | 4 |
| 10. 交通スト、台風時等の授業について | 4 |
| 11. 単位互換について | 5 |
| 12. 地域志向系科目について | 5 |
| 13. 科目ナンバーについて | 5 |
| 14. OCU指標について | 6 |
| 15. 全学共通科目Q&A | 8 |
| II. 全学共通科目の授業科目 | |
| 1. 全学共通科目の分類体系 | 12 |
| 2. 配当クラスの表記について | 13 |
| 3. 平成30年度全学共通科目の授業科目一覧 | 14 |
| 参考(1) 平成30年度新設廃止科目名変更一覧 | 44 |
| 参考(2) 平成13年度から30年度までの総合教育科目の開講実績一覧 | 45 |
| 4. 地域志向系科目 | 51 |
| III. 全学共通科目シラバス（講義概要）等 | |
| 1. 総合教育科目 A | 53 |
| 2. 総合教育科目 B | 81 |
| 3. 基礎教育科目 | 179 |
| 4. 外国語科目 | |
| 英語 | 221 |
| 新修外国語 | 243 |
| ドイツ語 | 248 |
| フランス語 | 269 |
| 中国語 | 287 |
| ロシア語 | 303 |
| 朝鮮語 | 314 |
| 日本語 | 324 |
| 5. 健康スポーツ科学科目 | 333 |
| 健康・スポーツ科学科目の履修について | 334 |
| 実習授業時の集合場所 | 335 |
| シラバス | 336 |
| IV. 教室等施設配置図 | 359 |
| V. 学 則 | 365 |
| VI. 各学部等の電話番号・所在地 | 379 |

平成30年度カレンダー

〔後期〕

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----------------------------------|
| 4月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 2日(月) 新入生ガイダンス |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 5日(木) 入学式 |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 6日(金) 新入生健康診断 |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 10日(火) 前期授業開始 |
| | 29 | 30 | | | | | | 19日(木) 新歓祭5限休講 20日(金) 新歓祭午後休講 |

〔後期〕

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----------------------------|
| 10月 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1日(月) 後期授業開始 |
| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | |
| | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 30日(火) 振替授業日 (金曜の授業を実施) |
| | 28 | 29 | 30 | 31 | | | | 31日(水) 大学祭5限休講 |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|---------------------------|
| 5月 | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1日(火) 振替授業日 (月曜の授業を実施) |
| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | |
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | |
| | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----------------------------|
| 11月 | | | | | 1 | 2 | 3 | 1日(木) 大学祭休講 |
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 2日(金) 大学祭休講 |
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 21日(水) 振替授業日 (金曜の授業を実施) |
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 6月 | | | | | | 1 | 2 | |
| | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|--------------------------|
| 12月 | | | | | | | 1 | |
| | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | |
| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | |
| | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 22日(土)~1月6日(日) 冬季休業期間 |
| | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----------------------------|
| 7月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 18日(水) 振替授業日 (月曜の授業を実施) |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 23日(月)~8月3日(金) 授業・試験期間 |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | |
| | 29 | 30 | 31 | | | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----------------------------|
| 1月 | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 18日(金) センター試験に 伴う休講措置 |
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 29日(火)~2月12日(火) 授業・試験期間 |
| | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|--------------------------|
| 8月 | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 4日(土)~9月14日(金) 夏季休業期間 |
| | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | |
| | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | |
| | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | |
| | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|-------------------------------|
| 2月 | | | | | | 1 | 2 | |
| | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 12日(火) 振替授業日 (月曜の授業・試験を実施) |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 13日(水)~3月19日(火) 研修期間 |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|-----------------------|
| 9月 | | | | | | | 1 | |
| | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | |
| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 15日(土)~30日(日) 研修期間 |
| | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | |
| | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|---------------|
| 3月 | | | | | | 1 | 2 | |
| | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 20日(水)~春季休業期間 |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |

□振替授業日 ■休業期間 ■休講日 ■授業・試験期間

平成30年度学年暦

| | |
|-----------------|-------------------------|
| 学 年 開 始 | 4月 1日 (日) |
| 新 入 生 ガ イ ダ ン ス | 4月 2日 (月) |
| 入 学 式 | 4月 5日 (木) |
| 新 入 生 健 康 診 断 | 4月 6日 (金) |
| 前 期 授 業 開 始 日 | 4月 10日 (火) |
| 振 替 授 業 日 | 5月 1日 (火) 月曜日の授業を実施 |
| 創 立 記 念 日 | 6月 1日 (金) (通常通り授業実施) |
| 振 替 授 業 日 | 7月 18日 (水) 月曜日の授業を実施 |
| 授 業 ・ 試 験 期 間 | 7月 23日 (月) ～ 8月 3日 (金) |
| 夏 季 休 業 | 8月 4日 (土) ～ 9月 14日 (金) |
| 研 修 期 間 | 9月 15日 (土) ～ 9月 30日 (日) |
| 後 期 授 業 開 始 日 | 10月 1日 (月) |
| 振 替 授 業 日 | 10月 30日 (火) 金曜日の授業を実施 |
| 振 替 授 業 日 | 11月 21日 (水) 金曜日の授業を実施 |
| 冬 季 休 業 | 12月 22日 (土) ～ 1月 6日 (日) |
| 授 業 ・ 試 験 期 間 | 1月 29日 (火) ～ 2月 12日 (火) |
| 振 替 授 業 日 | 2月 12日 (火) 月曜日の授業・試験を実施 |
| 研 修 期 間 | 2月 13日 (水) ～ 3月 19日 (火) |
| 春 季 休 業 | 3月 20日 (水) ～ |

- ※ 振 替 授 業 日 —— 各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。
- ※ 研 修 期 間 —— 集中講義や補講などが行われることがある。
- ※ 授 業 ・ 試 験 期 間 —— 定期試験や授業を行う。
- ※ 卒 業 式 —— 日程確定後、ホームページ（ホーム>教育・学生生活>授業・履修関係>行事予定・授業時間）に掲載します。

振替試験日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。

☆ 参 考

- ・ 新入生歓迎祭（ふたば祭）開催に伴う休講
4月19日（木）5時限、20日（金）3～5時限
[歓迎祭開催日程：4月19日（木）5限～、20日（金）午後～、21日（土）終日]
- ・ 大学祭（银杏祭）開催に伴う休講
10月31日（水）5時限、11月1日（木）全時限、11月2日（金）全時限
[大学祭開催日程：10月31日（水）～11月4日（日）]
- ・ センター入試準備に伴う休講
平成31年1月18日（金）全時限
[センター試験：1月19日（土）・20日（日）]

I 全学共通科目の履修案内

I 全学共通科目の履修案内

ポイント

- ◆ 履修登録をしないと、単位は修得できません。所定の期間内に必ず履修登録を行って下さい。
- ◆ 平成27年度から授業時間が一部変更されています。
- ◆ 平成27年度以降の入学生は、「地域志向系科目」が必修となります。

1. 全学共通教育の目標と位置付け

全学共通教育は、「大学生として必要な知識を修得すること、自主的・総合的な判断力を養成すること、そして社会人として必要な教養を身につけること」を目標としています。

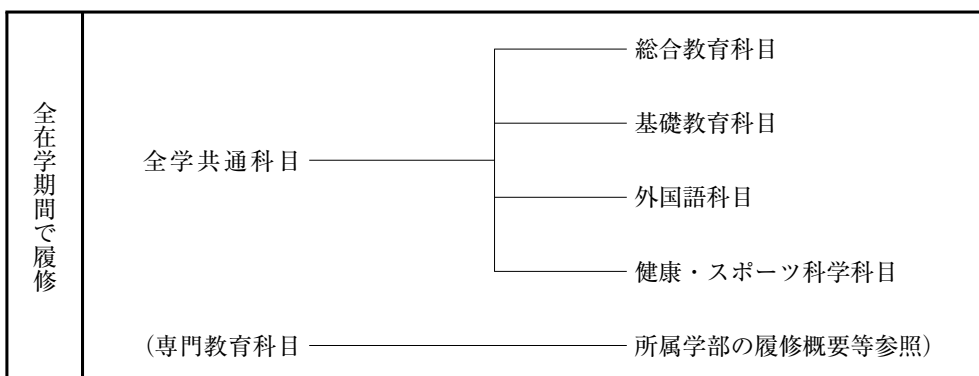
本学では原則として、全在学期間を通じた一貫教育体制のもと教育を行っています。これは、それぞれの学部が提供する専門教育科目と、全学体制で提供する全学共通科目とを、全在学期間を通じて並行して学習するという制度です。

もちろん、全学共通科目として提供されているもののうち、基礎教育科目や外国語科目のように低学年での履修が望ましい科目もあります。

しかし、総合教育科目に関しては、専門に偏ることがないように、できるだけ学問的視野を広げ、幅広い知識と教養を身につけるように設けられた科目であり、「初年次教育」のような1年生向けの科目もありますが、高学年での履修に適した科目も提供されています。

したがって、総合教育科目については低学年で集中的に履修するのではなく、全在学期間を通して、履修計画を立てることが望まれます。

また、全学共通教育は、集中的・効果的な教育、科目体系と科目選択の多様化、学生の国際交流の観点から、 Semester制度（前期・後期の2期制）を導入し、それぞれの期間で完結する授業を提供しています。



注意：履修方法については所属学部の履修概要等を参照してください。

2. 全学共通科目の理念と目的

(1) 総合教育科目

総合教育科目は、大学教育全般の基礎となる学習・研究能力の育成、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる普遍性をもつ教養の修得等を目的とするもので、全学の協力のもとに行われます。

総合教育科目は、総合教育科目Aと総合教育科目Bの二つに区分されます。

- ① 総合教育科目Aは、人類の生存や市民生活等に直接かかわり、すぐれて現代的・実質的な問題を、多面的に取り扱う科目から構成され、これまでの本学における教育・研究の蓄積に基づいて、「人間と環境」「都市・大阪」及び「生命と人間」という三つの主題と一つの「特別枠」で行われます。総合教育科目Aは、とくに学際的・総合的な科目ですので、全学生の受講の便宜をはかって、原則として総合教育科目以外の授業のない水曜日・金曜日の5時限に開講されています。
- ② 総合教育科目Bは、人間にとってより基本的かつ一般的な問題を取り扱います。ここには、人間存在とその基礎となる社会に関わる問題をテーマとする「人間と社会」、過去から今日に至る人間の社会的営為が生み出してきたものをテーマとする「歴史と文化」、こうした人間のもう一方の基盤である自然の理解をテーマとする「自然と人間」、情報社会を生きる人間として必要な計算機ならびに情報をテーマとする「情報と人間」、大学で学問することの意味を体験する「初年次教育」という五つの科目群と一つの「特別枠」がもうけられ、その下にさらに十の主題が設けられています。学生諸君はこの多様なメニューを持った総合教育科目A・Bの中から、各々の関心や興味に

応じて、自由に科目を選択することができますが、所属の学部や専攻領域にとらわれず、幅広く、また4年間（医学部を除く）の中で計画的に修得するようにしてください。

- ③ 総合教育科目Aの特別枠「大阪市大でどう学ぶか」と総合教育科目Bの初年次教育「初年次セミナー」は1回生を対象に前期に開講される科目で、新生が本学のことをよく知り、大学での学び方を習得することを目的としています。
- ④ 総合教育科目Bの演習科目は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。
- ⑤ 総合教育科目Bの特別枠「単位互換科目」は、個別大学の枠を超えた大学相互の協力によって大学間連携を強めるとともに、大学の知的財産を活用することによって地域社会に貢献することを目的として大学コンソーシアム大阪並びに、大阪府立大学及び大阪商業大学との協定によって科目が提供されます。

(注) 履修登録をするだけで、受講しない者が多く見受けられます。そのため、授業や試験時の教室運用に支障をきたす場合があります。履修する科目を慎重に選んで履修登録をするように注意してください。履修希望者が定員を上回る場合は、履修者数を制限することがあります。

(2) 基礎教育科目

主として理系の学部において専門教育のための原点であり、広い意味での基礎として体系的習得が望まれる授業です。数学、物理学、その他の自然科学が一例です。これは専門教育に直接つながる専門基礎教育とは異なり、基礎的学問分野をそれ自身の体系として学習し、専門教育のより深い理解と目先の科学技術にとらわれない、長期的視野に立つ創造の原動力たることを目的とします。

(注) 実験、実習科目では安全かつ効果的に実習を行うため、各科目に定員を設けています。

(3) 外国語科目

本学の外国語教育は、学問研究のための情報交換や将来の職業上の必要性を考慮し、それに応じた語学力の養成、外国人とのコミュニケーション能力の開発、異文化の正確な理解を目標として総合的な見地から行われています。そのため教育内容やクラス編成を多様化し、視聴覚機器（外国語特別演習室）を利用した授業も提供されています。

(4) 健康・スポーツ科学科目

健康と体力増進に関する科学的知識と個人に応じたその実践方法を修得すること、生涯を通じて、よりスポーツに親しみ楽しむことができるようにスポーツ科学の知識を修得すること、個人の体力や能力に応じたスポーツ実践能力を高めることによって健康的で活動的なライフスタイルを形成し、豊かな社会生活を営むうえでの資質を育成することを目的とします。

3. 単位の基準

大学の授業の単位は、大学設置基準に基づき、原則として教室での学習と教室外の学習とを含めて45時間の学習に対して1単位と定められています。

本学の全学共通科目における1単位の基準は下記のとおりとします。

講義、演習科目……………15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

外国語科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

新修外国語〔特修〕…15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

実験、実習科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

全学共通科目では、1回（時限）の授業時間を2時間としているので、各科目の学習時間と単位は次のとおりです。

| | 授業時間数 | 自習時間数 | 期間（回数） | 合計時間数 | 単位数 |
|-----------|--------|-------|--------|-------|-----|
| 講義、演習科目 | 1回 2時間 | 4時間 | 15週 | 90時間 | 2 |
| 外国語科目 | 1回 2時間 | 1時間 | 15週 | 45時間 | 1 |
| 新修外国語〔特修〕 | 1回 2時間 | 4時間 | 15週 | 90時間 | 2 |
| 実験、実習科目 | 1回 2時間 | 1時間 | 15週 | 45時間 | 1 |

4. 授業時間（杉本キャンパス）

教室移動や実験実習、体育実技等の受講準備の利便性を考慮し、平成27年度から杉本キャンパスの授業時間を変更しています。

| | |
|------|-------------|
| 第1時限 | 8：55～10：25 |
| 第2時限 | 10：40～12：10 |
| 第3時限 | 13：00～14：30 |
| 第4時限 | 14：45～16：15 |
| 第5時限 | 16：30～18：00 |

5. 全学共通科目の履修について

全学共通科目の履修については、所属する学部・学科によって進級又は卒業に必要な科目、単位数、履修年次等が異なっていたり、科目数を指定していたりする場合がありますので所属学部で発行している履修概要等を参照してください。

◎演習科目

平成10年度から開講された総合教育科目Bの演習科目は、概ね主題ごとに1～2科目を提供します。
演習科目は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。

◎留学生対象科目の履修について

外国人留学生を対象に、外国語科目として日本語1A～5B、総合教育科目Bとして日本事情IA～IIBが開講されています。初回授業には必ず出席してください。

6. 履修登録等について

単位を修得しようとする科目は、履修登録期間中に Web 履修システムにて履修登録を行ってください。履修登録しなければ、単位は修得できません。

(1) 履修登録及び確認

- 履修登録期間に履修登録が必要な科目を Web 上で登録してください。
前期に登録する科目：前期科目および前期集中講義科目
後期に登録する科目：後期科目および後期集中講義科目
※平成30年度より、後期集中講義科目は後期に履修登録を行うことになりました。
- クラス指定がある科目は、該当クラスを登録してください。
- 抽選結果の発表日に、抽選結果および登録内容を確認してください。追加可能な科目についてポータルサイトおよび掲示板に掲載します。追加登録を希望する学生は、登録方法を確認してください。
- 確認・修正登録期間に Web 上で履修登録の修正・追加・削除が可能な科目を登録できます。
- 最終確認日に履修登録内容を確認してください。

(2) 登録上の注意

- 具体的な登録方法は「Web 履修システム操作マニュアル」を参照してください。
- その他、履修登録についての詳細は、ポータルサイトおよび掲示板に掲載されますので、必ず確認してください。

(3) 平成30年度後期以降の履修登録について（重要）

平成30年度後期より、Web 履修システムが新しくなる予定です。履修登録の方法やスケジュール等の詳細については、別途掲示により周知を行いますので、確認してください。

7. 障がいをもつ学生の受講等について

障がいをもつ学生の受講等について要望があるときは、学生サポートセンター所属学部教務担当に申し出てください。

8. 試験及び成績について

(1) 定期試験等

全学共通科目の定期試験は、原則として各セメスターの期末に行います。ただし、授業担当者によっては、このほかに各授業内で実施する「期間外試験」や、試験に替えてレポートの提出、平常の成績などで評価する場合があります。さらに、その他随時実施される試験があります。

◎ 追試験

病気その他やむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者に対しては、所属学部が指定する範囲・条件を満たす場合に限り、本人の願い出により追試験を行うことがあります。

追試験の願い出は、当該科目の試験終了後、所定の期日までに受験できなかった理由を明記し、医師の診断書等証明する書類を追試験願に添付のうえ、所属学部教務担当に提出しなければなりません。

追試験に関する条件等は所属学部履修概要で確認してください。

「学校において予防すべき感染症」に罹患し、定期試験を受験出来なかった場合は、所属学部教務担当に申し出てください。

(注)試験に関する詳細は適宜、全学共通教育棟1階掲示板および、学生サポートセンター1F掲示板に掲示します。

また、追試験を許可された者の学籍番号及び実施日程等も、定期試験終了後定められた日に、上記掲示板に掲示します。

◎ 試験において不正行為を行った場合、そのセメスターの全科目の単位が無効となります。

(2) 成績

成績は下記の表記をもって通知します。

◎平成24年度以前の入学者

合格科目 → 「A」80点以上 「B」70点～79点 「C」60点～69点

不合格科目 → 「E」60点未満

◎平成25年度以降の入学者

合格科目 → 「AA」90点以上 「A」80点～89点 「B」70点～79点 「C」60点～69点

不合格科目 → 「F」60点未満

成績通知は Web 履修サイト上で確認することができます。成績通知日は所属学部からお知らせします。

9. 各種掲示について

全学共通科目に関する事項（授業、休講、履修等）やその他あらゆる連絡事項は掲示板をもって行いますので、見落とさないよう注意してください。全学ポータルサイトに掲載する情報もあります。

全学共通科目に関する掲示板は、全学共通教育棟1階ピロティ東側および、学生サポートセンター1階にあります。なお、健康・スポーツ科学科目に関する掲示はすべて第1(旧)体育館前掲示板にて行います。

10. 交通機関の運休、気象条件の悪化による授業の休講および定期試験の延期措置について

(1) 交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関の①または②のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）を行った場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、運休の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

●杉本キャンパス

- ① JR 阪和線全線
- ② 大阪市営地下鉄御堂筋線全線およびJR 大阪環状線全線が同時

(2) 気象条件の悪化による授業の休講について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報（すべて対象とする）のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

(別表)

●杉本キャンパス

| 運行再開・警報解除の時間 | 休講となる時限 | 授業を行う時限 |
|--------------------|---------|-----------|
| 午前 7 時 以前 | | 全 時 限 |
| 午前 10 時 以前 | 1・2 時 限 | 3・4・5 時 限 |
| 午前10時を過ぎても解除されない場合 | 全 時 限 | |

※交通機関の運休とは、事故、気象現象、地震、交通ストライキ、その他の理由により交通機関が運行休止になり、通学が困難な場合をいいます。

※授業中または試験中に、暴風警報又は特別警報が発令された場合は、原則として、実施中の授業・試験についてはそ

のまま行い、その次の時限から授業は休講とします。

※このほか、必要がある場合は、各学部又は各研究科において別に定めています。

11. 単位互換について

- ・大学コンソーシアム大阪センター科目
 - ・大阪府立大学・大阪商業大学で提供される単位互換科目
 - ・紀の国大学に加盟する大学で提供される単位互換科目
- 上記の科目を履修して、単位を修得できる制度があります。

所属学部によって単位認定等の取扱が異なりますので、必ず所属学部の履修規程等を参照してください。
シラバス等詳細は、全学ポータルに掲載します。出願時期が限られているので注意してください。

12. 地域志向系科目について（平成27年度以降入学生のみ）

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」として、本学と大阪府立大学との共同申請「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」が採択されました。本事業は、大学と自治体の連携を通して、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めていくものです。

以上の理念に基づき、平成27年度入学生より、「地域志向系科目」として指定されている科目から、2単位以上を修得することが必要になります。平成27年度以降に入学された学生の皆さんは、在学中に「地域志向系科目」から必ず1科目は受講するようにして下さい。

「地域志向系科目」にあたる科目については、Ⅱ.4.「地域志向系科目」を参照してください。また所属する学部の履修案内も必ず参照するようにして下さい。

13. 科目ナンバーについて

本学では、平成28年度より、すべての科目に番号を付け、分類する「科目ナンバリング」を導入しています。科目ナンバーは、その科目の分野、水準、学年等を示すものです。学習の段階や順序を整理し、教育課程をより体系的に理解するための一つのツールとして、履修科目を選択する際などに利用して下さい。

※科目ナンバリング コード配分

| | | | | | | |
|---|-----------|------------|----------|----------|----------|----------|
| 例 | <u>GE</u> | <u>FIR</u> | <u>0</u> | <u>1</u> | <u>0</u> | <u>1</u> |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |

①科目の提供組織（全学共通・学部・学科・副専攻など）（1・2桁目）
全学共通科目はすべて「GE」とする。

②科目の分野（3～5桁目）
（別表1）を参照。

③各学部の学習マップでの学習段階（6桁目）
全学共通科目はすべて「0」。

④対象学年または難易度（7桁目）（別表2・3）
全学共通科目では対象学年または難易度を表している。
6桁目まで同一の科目内での学習順序を示す。

⑤科目別の識別番号（8・9桁目）
1～7桁目が同一で、異なった科目を識別するための番号。

なお、上記7桁の後ろに小数点以下の桁を設ける場合がある。（別表4）
全学共通科目では「地域志向系科目」を識別するために、「.CO」を付している。

【別表1】科目の分野（3～5桁目）

| 科目群 | 主 題 | 記 号 |
|-----------------|-------|-----|
| 総合教育科目A | | GEN |
| 総合教育科目B | 人間と社会 | HUM |
| | 歴史と文化 | HIS |
| | 自然と人間 | NAT |
| | 情報と人間 | INF |
| | 初年次 | FIR |
| 基礎教育科目 | 数学 | MAT |
| | 物理学 | PHY |
| | 化学 | CHE |
| | 生物学 | BIO |
| | 地球学 | GEO |
| | 図形科学 | GRA |
| 外国語科目 | 英語 | ENG |
| | ドイツ語 | GER |
| | フランス語 | FRA |
| | 中国語 | CHN |
| | ロシア語 | RUS |
| | 朝鮮語 | KOR |
| | 日本語 | JPN |
| 健康・スポーツ科学 科目 | 講義 | HEA |
| | 実習 | SPO |

【別表2】対象学年（7桁目）

| 対象学年 | 記号 |
|-------|----|
| 1回生以上 | 1 |
| 2回生以上 | 2 |
| 3回生以上 | 3 |
| 4回生 | 4 |

【別表3】難易度（7桁目）

| 難易度 | 記号 |
|-------|----|
| 初級・入門 | 1 |
| 中級・応用 | 2 |
| 上級 | 3 |
| 発展 | 4 |

【別表4】小数点以下

| 科目名 | 記号 |
|---------|-----|
| 地域志向系科目 | .CO |

14. OCU（Osaka City University）指標について

本学での4年間（6年間）の学修を通して皆さんがどのように多様な学修成果を身につけたかが卒業時に問われます。

OCU指標は、これら複数の（多様な）学修成果をどの程度身につけたかを視覚的にわかりやすい形で示せる総合化指標です。

OCU指標は、各授業科目で身につく内容を複数の学修成果に分解して数値化され、累積されていきます。学生の皆さんは、OCU指標を利用することで、各学年の途中で現在の自身の学修状況と自分が希望するキャリアのために身につけるべき学修成果を見比べて、今からどのような能力を身につけるべきかを考え、その足りない部分を補うためにどのような授業科目を履修すれば良いのかを知ることができます。

科目ナンバーとの関連

それぞれの授業科目を修得することで身につける事が出来る学修成果の配分は、科目ナンバーごとに決められています。

学修成果の種類

OCU指標での学修成果は次の六つです。学修成果A～Eは全学共通、学修成果Fは（学位プログラムにしたがい）各学部で独自に定められています。

| | | | |
|---|--|----------------------------|-----------|
| A | 修得した専門知識を、論理的な思考と柔軟な発想によって応用することができる | 知識・理解 | A 論理的思考 |
| B | 多様な情報を収集・分析し、それを日々の生活のなかで活用することができる | 技能 | B 情報活用 |
| C | 外国の言語と文化を学習・修得し、世界のさまざまな国・地域の人びとと意思疎通することができる | 外国の文化を日本語で教えている授業も含む | C 外国言語・文化 |
| D | 分析の結果を、言語や記号を用いてわかりやすく表現することができる | 技能 表現 = プレゼン、論文・レポート、テスト | D 表現 |
| E | グローバルな社会の一員であり、かつ地域社会の一員であることの自覚をもち、自らの知識・技能を生かして、（他者と協調して）社会の発展のために寄与することができる | 日本地域や大阪、応用的な授業 | E 社会貢献 |
| F | 学修成果A～Eを活用し、多様な見方を総合して、問題解決の新しい方途を複眼的に構想することができる | 各学部独自 | F 各学部独自 |

OCU 指標の計算例

各科目の OCU 指標は、科目ナンバーごとに定められた各学修成果の配分と成績評価（グレードポイント：GP）によって決まります。あらかじめ定められた学修成果の配分にしたがって GP が配分され各学修成果の OCU 指標となります。

科目ナンバーごとの学修成果配分例

| | | | | | | | |
|------|--------|---|---|---|---|---|--|
| 科目 α | 学修成果 A | B | C | D | E | F | |
| 科目 β | 学修成果 A | B | C | D | E | F | |

科目 α の学修成果配分 A : B : C : D : E : F = 3 : 2 : 2 : 1 : 1 : 3

科目 β の学修成果配分 A : B : C : D : E : F = 2 : 1 : 5 : 1 : 2 : 1

成績の差による身についた学修成果のイメージと OCU 指標算出方法の例

| | | | | | | |
|-----------|--------|---|---|---|---|---|
| 科目 α : AA | 学修成果 A | B | C | D | E | F |
|-----------|--------|---|---|---|---|---|

(GP 4 = AA の場合：成果配分の比率に従って 4 / 4 倍で累積される)

| | | | | | | |
|----------|---|---|---|---|---|---|
| 科目 β : B | A | B | C | D | E | F |
|----------|---|---|---|---|---|---|

(GP 2 = B の場合：成果配分の比率に従って 2 / 4 倍で累積される)

科目 α で身についた学修成果 A の OCU 指標 $3 / (3 + 2 + 2 + 1 + 1 + 3) \times 4 = 1.0$

科目 β で身についた学修成果 A の OCU 指標 $3 / (3 + 1 + 1 + 1 + 1 + 5) \times 2 = 0.5$

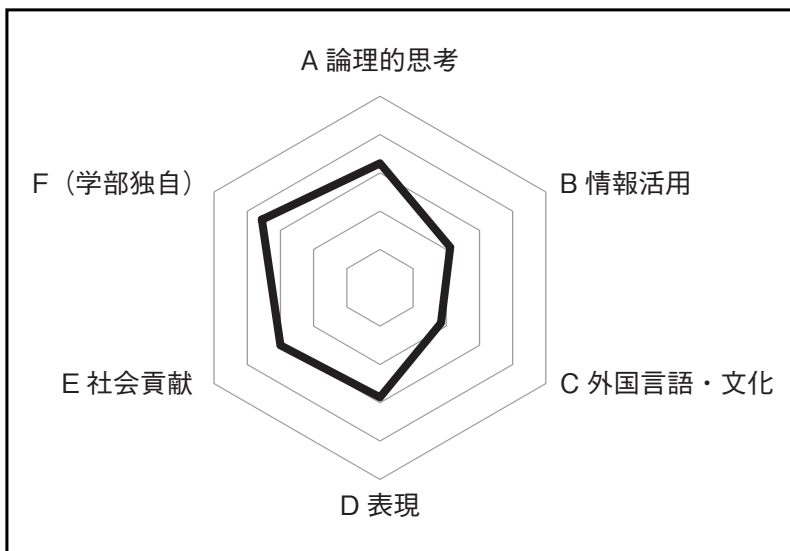
学生の皆さんそれぞれの OCU 指標は、学年半期ごとにレーダーチャートで示されます。

各学修成果の OCU 指標は、それまでに単位を修得した科目の学修成果の累計になります。

自身のレーダーチャートは学修支援推進室でも常時確認することが出来ます。

綺麗な六角形が理想ではなく、学部（学位プログラム）（または自身の希望するキャリア）によって理想となる形は様々です。

OCU 指標レーダーチャートのイメージ



OCU 指標の成果配分

| 科目内容 | | 概要 | A | B | C | D | E | 小計 |
|---------|-------------|--|---|---|---|---|---|----|
| 科目群 No. | 総合教育科目 | | | | | | | |
| | | 大学教育全般の基礎となる学習・研究能力の育成 広い視野に立った総合的な判断力の育成 現代社会に生きる人間に求められる普遍性をもつ教養の修得 | - | - | - | - | - | - |
| 1 | 総合教育科目 A | 人間の生存や市民生活等に直接かわり、すぐれて現代的・実地的な問題を、多面的に取り扱う学際的・総合的な科目 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | 10 |
| | 総合教育科目 B | 人間にとってより基本的かつ一般的な問題 | - | - | - | - | - | - |
| 2 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 2 | 総合教育科目 B | 歴史と文化 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 2 | 総合教育科目 B | 自然と人間 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 2 | 総合教育科目 B | 情報と人間 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 3 | 総合教育科目 B | 初年次教育 | | | | | | |
| | | 自ら選んだ問いについて調査・検討して報告し、議論 ・自分の考え方や態度を相対化 ・大学生生活が持つ意義を広い視野から考えられるようになる ・対話・コミュニケーション ・アカデミック・スキル | 2 | 2 | 1 | 3 | 2 | 10 |
| 4 | 基礎教育科目 | 主として理系の学部において専門教育のための原点 広い意味での基礎として体系的習得が望まれる授業 数学、物理学、その他の自然科学 | 3 | 2 | 1 | 3 | 1 | 10 |
| 5 | 基礎教育科目 | 実験 | 2 | 3 | 1 | 3 | 1 | 10 |
| 5 | 基礎教育科目 | 図形科学 | 2 | 3 | 1 | 3 | 1 | 10 |
| 6 | 外国語科目 | 語学力の養成 外国人とのコミュニケーション能力の開発 異文化の正確な理解 | 1 | 2 | 5 | 1 | 1 | 10 |
| 7 | 健康・スポーツ科学科目 | 健康と体力増進に関する科学的知識と個人に応じたその実践方法の修得 スポーツ科学の知識修得 スポーツ実践能力を高める | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |

15. 全学共通科目 Q & A

Q1 全学共通教育は何のため？

人生の中でも大学生の間こそ、自らを磨く絶好の機会です。本学の皆さんには、学部の専門を習得することはもちろんですが、専門の狭い範囲だけにとじこもることなく、時代の変化に対応できる基礎を固め、広い視野を持つて考えることのできる人間になってほしいと思います。全学共通教育は、そのために皆さんを手助けします。卒業に必要な一定の単位数などが定められてはいますが、それを受け身ではなく、自らの”人間づくり”のために積極的に履修してください。

Q2 なぜ、全学共通科目はセメスター制なのか？

本学でも以前は1年間を通して授業をする通年制でしたが、平成6年の教育課程の改革にあわせて、1年間を前期と後期に分けて、授業を各期に完結させるセメスター制に移行しました。セメスター制を採用したのは、次のようなメリットが考えられるからです。①短期間に集中して履修をすることで、効果的な学習ができる。②多数の科目を提供することによって、科目体系が整備され、多様な科目の選択が可能になる。③海外の大学の学期と整合させることで、学生の国際交流が促進される。

Q3 総合教育科目は、なぜこんなにたくさんあるの？

全学共通科目の中でとりわけ総合教育科目は、幅広い視野と考える力を身につけることにより社会人として必要な教養を培うとともに、自己の専門の意義も据え直すことにより人間としての責務を考える最適の場です。本学では平成6年に大規模なカリキュラム改革を行いました。セメスター制の利点を生かして総合教育科目を多様化し、学生の皆さんの関心に応じて自由な履修ができるようにしました。総合教育科目のシラバスが「全学共通科目シラバス・履修案内」の大半を占めているのはそのためですので、在学中の履修計画を立てるために必ず目を通してください。本学の総合教育科目は、基礎的・教養的なものから応用的・実践的なもの、さらに学際的・総合的なものまで、多種多様な科目から構成されており、他大学に比べて豊富なメニューに恵まれていると言っていいでしょう。

Q4 4年一貫教育とは？

最近、「4年一貫教育」（全在学期間を通じての体系的教育という意味）という言葉がよく使われますが、これは専門教育と全学共通科目の両方を学生の全在学期間を対象に行うということで、以前は1・2回生を教養課程、3回生から専門課程となっていました。これを廃止したのはそのためです（なお、医学部だけはキャンパスの都合で全学共通科目の履修は現在も2回生までとなっています）。

もちろん、全学共通科目の中でも外国語科目や基礎教育科目の多くはその性格上、今も1・2回生における履修が中心となっていますが、総合教育科目に関しては1・2回生の間だけでなく、3・4回生になってからも履修を続けることを強く勧めます。総合教育科目の中には専門科目をある程度習得した3・4回生に適した科目も数多くあります。とくに総合Aは上回生が受けやすいように専門科目のない5時限に開かれています。専門科目の習得段階に応じた科目を選ぶためにもシラバスを活用してください。

Q5 総合教育科目の履修制限は、なぜ？

総合教育科目の履修制限を行っている理由は、履修を全く自由にしてしまうと、卒業に必要な単位数を早く取ってしまうと、1・2年生の間に空いている時間を総合教育科目で埋めてしまう傾向があるからです。外国語や専門科目の大部分が年次指定されているのに対し、総合教育科目は原則としていつでも履修できるからです。しかし、大学での授業は、十分な予習・復習時間を必要としています。したがって、履修科目が多すぎると、十分な予習と復習ができなくなります。在学期間全体を通して総合教育科目を履修するという4年一貫教育の趣旨からしても、総合教育科目の履修制限は必要と考えています。

Q6 総合教育科目の受講者数制限は、なぜ？

授業を行う教室の席数には上限がありますし、また科目によっては授業に合った人数の適正規模もありますので、授業と学習を正常に行うためにはやむを得ない措置です。

Q7 総合教育科目Aは、なぜ5時限目なの？

総合教育科目Aは、どの学部・学年の学生の受講にも応えられるようにと、全学の協力で提供している学際的・実質的な科目です。したがって、どの学部・学年の学生でも受講しやすい時間帯に開講する必要があります。しかし、1時限から4時限まではすでに他の科目が入っていますので、それらの受講と競合しないように、週2回（水・金）の5時限に開講しています。

Ⅱ 全学共通科目の授業科目

1. 全学共通科目の分類体系

| 日 本 語 | | | 英 語 | | |
|------------|-----------|---|-------------------------------------|--------------------------|---|
| 総合教育科目 A | | | Integrated General Courses A | | |
| | 主題 | 人間と環境 都市・大阪 生命と人間 特別枠 | | 主題 | Humanity and the Environment Studies of Osaka Humanity and Life |
| 総合教育科目 B | | | Integrated General Courses B | | |
| 科目群 | 人 間 と 社 会 | | 科目群 | Humanity and Society | |
| | 主題 | 人間と知識・思想 現代社会と人間 社会と人権 | | 主題 | Humanity and Knowledge Humanity and Modern Society Society and Human Rights |
| 科目群 | 歴 史 と 文 化 | | 科目群 | History and Culture | |
| | 主題 | 歴 史 地域と文化 文学と芸術 | | 主題 | History Regions and Culture Literature and the Arts |
| 科目群 | 自 然 と 人 間 | | 科目群 | Nature and Humanity | |
| | 主題 | 現代の自然科学 自然科学と人間 | | 主題 | Modern Natural Science Natural Science and Humanity |
| 科目群 | 情 報 と 人 間 | | 科目群 | Information and Humanity | |
| | 主題 | 情報と人間 | | 主題 | Information and Humanity |
| 科目群 | 初 年 次 教 育 | | 科目群 | First Year Experience | |
| | 主題 | 初年次教育 | | 主題 | First Year Experience |
| 基礎教育科目 | | | Basics in the Sciences | | |
| | 主題 | 数 学 物 理 学 化 学 生 物 学 地 球 学 図 形 科 学 | | 主題 | Mathematics Physics Chemistry Biology Geosciences Graphics |
| 外国語科目 | | | Foreign Languages | | |
| | 主題 | 英 語 ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 中 国 語 ロ シ ア 語 朝 鮮 語 日 本 語 | | 主題 | English German French Chinese Russian Korean Japanese |
| 健康スポーツ科学科目 | | | Health, Exercise and Sport Sciences | | |
| | 主題 | 講義 実習 { 実験実習 スポーツ実習 | | 主題 | Lectures Practical Courses { Experimental Education Sports Education |

2. 配当クラスの表記について

配当クラスとは、当該科目を履修できる、あるいは履修する必要のある学生の所属する学部やグループ等をさします。

| | | |
|----------|-----------|----------|
| (例) | | |
| <u>J</u> | <u>I</u> | <u>b</u> |
| ① | ② | ③ |
| <u>S</u> | <u>II</u> | 物(数) |
| ① | ② | ④ |

① 学部等の略称

| 略称 | 学部等 | 略称 | 学部等 |
|-----|----------|----|---------|
| 全 | 全学部 | 全文 | 文科系の全学部 |
| 「再」 | 再履修者用クラス | 全理 | 理科系の全学部 |
| C | 商学部 | E | 経済学部 |
| J | 略称 | L | 文学部 |
| S | 理学部 | T | 工学部 |
| M | 医学部医学科 | N | 医学部看護学科 |
| H | 生活科学部 | | |

② 履修年次

| 略称 | 履修年次 | 略称 | 履修年次 |
|-----|-------|----|------|
| I | 1回生 | II | 2回生 |
| III | 3回生 | IV | 4回生 |
| 低 | 1・2回生 | | |

③ クラス分け

アルファベット小文字によるクラス分けを示しています。外国語科目等に使用されます。詳細はシラバス (P.246・P.247) を参照してください。

④ 学科の略称によるクラス分けを示しています。外国語科目・基礎教育科目に使用されます。基礎教育科目については、() のない学科は必修科目、() のある学科は選択もしくは選択必修科目であることを示しています。

| 学部 | 略称 | 学科 |
|----|----|-------------------------------|
| 理 | 数 | 数学科 |
| | 物 | 物理学科 |
| | 化 | 化学科 |
| | 生 | 生物学科 |
| | 地 | 地球学科 |
| | 選* | 理科選択 |
| 工 | 機 | 機械工学科 |
| | 電 | 電子・物理工学科 |
| | 情 | 電気情報工学科 (2013～)・情報工学科 (～2012) |
| | 化 | 化学バイオ工学科 |
| | 建 | 建築学科 |
| | 都 | 都市学科 |
| 生 | 食 | 食品栄養科学科 |
| | 環 | 居住環境学科 |
| | 人 | 人間福祉学科 |

※「選」のクラス指定がある科目については、指定されたクラスを履修すること。ただし、指定クラスがない場合は、2年次以降に進級を予定している学科のクラスを履修すること。
(詳細はコースガイダンスで確認してください。)

3. 平成30年度 全学共通科目の授業科目一覧

○総合教育科目A

総合教育科目Aでは、すぐれた現代的・実的な問題を「主題」として取り上げ、総合大学としての本学の教育・研究の蓄積を生かして、一つひとつの「主題」を様々な学問領域から多面的に取り扱うことによって、今日的な問題について多面的かつ総合的な理解力と判断力を養うことをめざしている。今年度開講の三つの主題の内、「人間と環境」では、人間と環境の関わりを、公害、科学技術、医療、法・行政、経済活動等の視点から検討する。「都市・大阪」では、本学がそこに立地する大阪の都市としての歴史・文化や在り方、地理、都市生活、都市政策や都市づくり、経済活動などを多面的に取り扱う。また「生命と人間」では、生命倫理、戦争、医療、福祉、進化等、人間の生死に深くかかわる問題に、様々な学問領域からアプローチする。いずれの主題に属する科目も、一つひとつ完結した科目であるが、同じ主題に属する科目を複数受講することによって、その主題についてより深い知見を得ることができる。

| 主題 | 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担 当 教 員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 |
|-----------------|--------------------------------|------|-----|-----------|-----|------------|----------|-----|-----------|----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 人間と環境 | 環 境 と 歴 史 | 2 | 2 | 水・5 | | 全 | 大黒 俊二 | | 1 | 54 |
| | 日 本 の 公 害 | 2 | 2 | 木・4 | | 全 | 除本 理史 | | 2 | 55 |
| | 開 発 と 環 境 | 2 | 2 | 水・2 | | 全 | 森脇 祥太 | | 3 | 55 |
| | 人 間 と 居 住 環 境 | 2 | 2 | 金・5 | | 全 | 渡部 嗣道 他 | | 4 | 56 |
| 都市・大阪 | 歴 史 の な か の 大 阪 | 2 | 2 | | 水・5 | 全 | 塚田 孝 | | 5 | 57 |
| | 大 阪 の 自 然 | 2 | 2 | | 金・5 | 全 | 三田村 宗樹 他 | | 6 | 57 |
| | 大 阪 の 都 市 づ くり | 2 | 2 | 金・5 | | 全 | 徳尾野 徹 他 | | 7 | 58 |
| | 大 阪 の 地 理 | 2 | 2 | 水・5 | | 全 | 水内 俊雄 | | 8 | 59 |
| | 現 代 都 市 論 | 2 | 2 | 水・4 | | 全 | 木下 祐輔 | | 9 | 60 |
| | 都 市 の 経 済 と ビジネス | 2 | 2 | | 水・4 | 全 | 近 勝彦 他 | | 10 | 61 |
| | 国 際 地 域 経 済 と 都 市 | 2 | 2 | | 水・4 | 全 | 有賀 敏之 他 | | 11 | 61 |
| | 大 阪 落 語 へ の 招 待 | 2 | 2 | 水・5 | | 全 | 久堀 裕朗 他 | | 12 | 63 |
| | 都 市 ・ 地 域 政 策 | 2 | 2 | | 金・3 | 全 | 久末 弥生 他 | | 13 | 64 |
| | 市 大 都 市 研 究 の 最 前 線 | 2 | 2 | | 金・5 | 全 | 全 泓奎 他 | | 14 | 65 |
| コ ミ ュ ニ テ ィ 防 災 | 2 | 2 | 水・5 | | 全 | 生田 英輔 他 | | 15 | 66 | |
| 生命と人間 | 生 と 死 の 倫 理 | 2 | 2 | | 水・5 | 全 | 土屋 貴志 | | 16 | 68 |
| | 生 命 と 法 | 2 | 2 | | 金・5 | 全 | 三島 聡 他 | | 17 | 69 |
| | 戦 争 と 人 間 | 2 | 2 | 火・1 | | 全 | 佐賀 朝 | | 18 | 70 |
| | 生 命 と 進 化 | 2 | 2 | | 水・5 | 全 | 若林 和幸 他 | | 19 | 70 |
| | 現 代 の 医 療 | 2 | 2 | 水・5 | | 全 | 大平 雅一 他 | | 20 | 71 |
| | 生 体 の し く み | 2 | 2 | 金・5 | | 全 | 大谷 直子 他 | | 21 | 72 |
| | 健 康 へ の ア プ ロ ー チ | 2 | 2 | 金・5 | | 全 | 古澤 直人 他 | | 22 | 74 |
| | 技 術 と 生 命 | 2 | 2 | | 水・5 | 全 | 林 和則 他 | | 23 | 74 |
| 生 命 と 環 境 | 2 | 2 | | 金・5 | 全 | 増井 良治 | | 24 | 75 | |
| 特別枠 | 大 阪 市 大 で どう 学 ぶ か | 2 | 2 | 水・5 | | 全I | 大久保 敦 他 | | 25 | 77 |
| | 大 阪 の 知 (学 長 特 命 科 目) | 2 | 2 | | 水・5 | 全 | 福島 祥行 他 | | 26 | 78 |
| | 国 際 ビジネス 演 習 (五 代 友 厚 寄 附 講 座) | 2 | 2 | 水・5 | | 全II～IV | 下崎 千代子 他 | | 27 | 79 |

○総合教育科目B

科目群：人間と社会

「人間と社会」の目標は、社会の構成要素である人間そのものと、人間が形成する社会について、多様な側面から総合的に理解することである。そのために多数の科目が配置されているが、主題「人間の知識・思想」では、人間の心理・思想・行為など人間の内面や人間の行動に関する科目が配置され、人間そのものに対する理解を深めることが目標である。「現代社会と人間」の目標は、政治・経済・法制度など社会、とりわけ現代社会の仕組みと人間の関わりを理解することである。「社会と人権」では、人間の権利とそれに関連する諸問題に関する科目を提供し、人権尊重の認識を深めることを目標とする。

| 主題 | 科目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当 クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載 No. | 頁 |
|----------|--------------------|------|-----|-----------|-------|-----------|---------|----|-----------|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 人間と知識・思想 | 論理学入門 | 2 | 2 | 火・4 | | 全 | 佐金 武 | | 28 | 82 |
| | 性格心理学入門(感情・人格心理学) | 2 | 2 | | 金・3 | 全 | 田中 宏明 | | 29 | 82 |
| | 心理学への招待(心理学概論) | 2 | 2 | 月・3 | | 全 | 山 祐嗣 | | 30 | 83 |
| | 心理学への招待(心理学概論) | 2 | 2 | 火・3 | | 全 | 谷口 友梨 | | 31 | 84 |
| | 心理学への招待(心理学概論) | 2 | 2 | 木・4 | | 全 | 矢田 尚也 | | 32 | 85 |
| | 心理学への招待(心理学概論) | 2 | 2 | 金・1 | | 全 | 田端 拓哉 | | 33 | 85 |
| | 行動と学習の心理(学習・言語心理学) | 2 | 2 | | 火・4 | 全 | 佐伯 大輔 | | 34 | 86 |
| | ゲームで学ぶ社会行動 | 2 | 2 | | 木・3 | 全 | 渡邊 席子 | | 35 | 87 |
| | 教育と発達の心理学(発達心理学) | 2 | 2 | 火・2 | | 全 | 西垣 順子 | | 36 | 88 |
| | 教育と発達の心理学(演習) | 2 | 2 | | 木・3 | 全 | 西垣 順子 | | 37 | 89 |
| | リテラシー教育の思想と方法 | 2 | 2 | | 火・4 | 全 | 西垣 順子 | | 38 | 89 |
| | 心理学・認知科学と人間(心理学概論) | 2 | 2 | | 火・4 | 全 | 平 知宏 | | 39 | 90 |
| 現代社会と人間 | 現代文化の社会学 | 2 | 2 | | 水・3 | 全 | 笹島 秀晃 | | 40 | 92 |
| | 宗教と社会 | 2 | 2 | 木・4 | | 全 | 仲原 孝 | | 41 | 92 |
| | 現代の経営 | 2 | 2 | 木・2 | | 全 | 高橋 信弘 | | 42 | 93 |
| | 社会科学のフロンティア | 2 | 2 | | 水・2 | 全 | 坂上 茂樹 | | 43 | 94 |
| | 日本国憲法 | 2 | 2 | 火・1 | | 全 | 阿部 和文 | | 44 | 95 |
| | 日本国憲法 | 2 | 2 | 金・5 | | 全 | 中谷 実 | | 45 | 95 |
| | 都市的世界の社会学 | 2 | 2 | | 木・3 | 全 | 伊地知 紀子 | | 46 | 96 |
| | 現代社会学入門 | 2 | 2 | 月・2 | | 全 | 進藤 雄三 | | 47 | 97 |
| | 現代の社会問題 | 2 | 2 | 木・2 | | 全 | 川野 英二 | | 48 | 98 |
| | 家族と社会 | 2 | 2 | | 木・4 | 全 | 佐々木 洋子 | | 49 | 98 |
| | 世界のなかの日本経済 | 2 | 2 | 火・4 | | 全 | 小川 亮 | | 50 | 99 |
| | 現代経済学入門 | 2 | 2 | 金・3 | | 全 | 長沼 進一 | | 51 | 100 |
| | 法と社会 | 2 | 2 | | 木・4 | 全 | 国友 明彦 他 | | 52 | 101 |
| | 現代社会と健康 | 2 | 2 | 火・2 | | 全 | 吉川 貴仁 | | 53 | 102 |
| | 現代社会と健康 | 2 | 2 | | 火・2 | 全 | 吉川 貴仁 | | 53 | 102 |
| | 現代社会と健康 | 2 | 2 | 木・2 | | 全 | 宇治 正人 | | 53 | 102 |
| | 現代社会と健康 | 2 | 2 | | 木・2 | 全 | 宇治 正人 | | 53 | 102 |
| | 現代社会におけるキャリアデザイン | 2 | 2 | | 火・3 | 全 | 飯吉 弘子 | | 54 | 103 |
| 現代社会と大学 | 2 | 2 | 木・4 | | 全 | 飯吉 弘子 | | 55 | 104 | |
| 地域実践演習 | 2 | 2 | | 金・3 | 全I・II | 小長谷 一之 | | 56 | 107 | |
| 地域実践演習 | 2 | 2 | | 月・5 | 全I・II | 水内 敏雄 | | 57 | 107 | |

| 主題 | 科目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当 クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載 No. | 頁 |
|---------------|-----------------|------|-----|-----------|-----|-----------|-----------|----|-----------|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 現代社会と人間 | 地域実践演習 | 2 | 2 | 月・5 | | 全I・II | 木村 義成 | | 58 | 108 |
| | 地域実践演習 | 2 | 2 | | 水・4 | 全I・II | 天野 景太 | | 59 | 109 |
| | データから見る大阪市大(演習) | 2 | 2 | | 木・4 | 全 | 平 知宏 | | 60 | 110 |
| | 現代社会と大学(演習) | 2 | 2 | | 木・3 | 全 | 飯吉 弘子 | | 61 | 111 |
| 社会と人権 | エスニック・スタディ応用編 | 2 | 2 | | 金・2 | 全 | 金 光敏 | | 62 | 112 |
| | 現代の部落問題 | 2 | 2 | 金・2 | | 全 | 齋藤 直子 | | 63 | 112 |
| | メディアと人権 | 2 | 2 | 金・1 | | 全 | 中村 一成 | | 64 | 114 |
| | 部落解放のフロンティア | 2 | 2 | | 金・1 | 全 | 齋藤 直子 | | 65 | 114 |
| | 部落差別の成立と展開 | 2 | 2 | 金・1 | | 全 | 上杉 聰 | | 66 | 115 |
| | 世界のマイノリティ | 2 | 2 | | 金・2 | 全 | 川越 道子 | | 67 | 116 |
| | 障がい者と人権Ⅰ | 2 | 2 | 金・2 | | 全 | 松波 めぐみ | | 68 | 117 |
| | 障がい者と人権Ⅱ | 2 | 2 | | 金・2 | 全 | 松波 めぐみ | | 69 | 118 |
| | ジェンダーと現代社会Ⅰ | 2 | 2 | 金・2 | | 全 | 古久保 さくら 他 | | 70 | 119 |
| | ジェンダーと現代社会Ⅱ | 2 | 2 | | 金・2 | 全 | 古久保 さくら 他 | | 71 | 119 |
| | エスニック・スタディ入門編 | 2 | 2 | 金・2 | | 全 | 朴 一 | | 72 | 120 |
| | クィアスタディーズ入門 | 2 | 2 | 金・2 | | 全 | 新ヶ江 章友 | | 73 | 121 |
| | 企業と人権 | 2 | 2 | 金・5 | | 全 | 李 嘉永 | | 74 | 122 |
| | 地球市民と人権 | 2 | 2 | | 金・2 | 全 | 阿久澤 麻里子 | | 75 | 123 |
| 人権と多様性の研究(演習) | 2 | 2 | | 金・4 | 全 | 齋藤 直子 他 | | 76 | 124 | |

○総合教育科目B

科目群：歴史と文化

「歴史と文化」は、人間の築きあげた社会や文化を歴史的、地理的に展望すること、文化の高度に洗練された部分である文学や芸術の真髄に触れることを目的とする科目からなる。これらを通じて、人間の生と営みの意義を認識し、現代を主体的に生きていくことのできる人間としての自己を形成すること、総合的思考力を養い、専門科目の完全な習得のために必要な知的基礎と豊かな人間性を涵養することを目指している。主題「歴史」は、人間社会の構造の形成過程、言語文化の展開などを学び、歴史的なものの考え方を養成する。「地域と文化」は、世界諸地域の空間的仕組みとさまざまな伝統的・現代的文化の理解を通じて、国際化時代にふさわしい知性を養う。「文学と芸術」は古来からの人間の生の軌跡を示す文学・美術などの享受により、古典の素養を身につけ、人間性について深く思索する姿勢を培う。

| 主題 | 科目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当 クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載 No. | 頁 |
|-------|-----------------|------|-----|-----------|-----|-----------|----------|----|-----------|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 歴史 | 日本史の見方 | 2 | 2 | 月・2 | | 全 | 磐下 徹 | | 77 | 125 |
| | 東洋史の見方 | 2 | 2 | 木・2 | | 全 | 磯貝 真澄 | | 78 | 125 |
| | 西洋史の見方 | 2 | 2 | 火・4 | | 全 | 北村 昌史 | | 79 | 126 |
| | 日本社会の歴史 | 2 | 2 | | 月・2 | 全 | 天野 忠幸 | | 80 | 127 |
| | 東洋社会の歴史 | 2 | 2 | | 木・1 | 全 | 平田 茂樹 | | 81 | 127 |
| | 西洋社会の歴史 | 2 | 2 | | 火・3 | 全 | 草生 久嗣 | | 82 | 128 |
| | 現代の歴史 | 2 | 2 | | 木・2 | 全 | 野村 親義 | | 83 | 129 |
| | 考古学入門 | 2 | 2 | | 火・2 | 全 | 岸本 直文 | | 84 | 130 |
| | ことばの歴史 | 2 | 2 | | 木・1 | 全 | 丹羽 哲也 | | 85 | 130 |
| 地域と文化 | 現代の地理学 | 2 | 2 | | 木・2 | 全 | 山崎 孝史 | | 86 | 132 |
| | 都市の地理学 | 2 | 2 | | 月・3 | 全 | 大場 茂明 | | 87 | 132 |
| | 文化人類学入門 | 2 | 2 | 火・3 | | 全 | 多和田 裕司 | | 88 | 133 |
| | 環境と文化 | 2 | 2 | 木・4 | | 全 | 祖田 亮次 | | 89 | 134 |
| | 民族と社会 | 2 | 2 | | 金・1 | 全 | 王 静 | | 90 | 135 |
| | 観光研究入門 | 2 | 2 | 水・3 | | 全 | 天野 景太 | | 91 | 135 |
| | 観光と文化 | 2 | 2 | | 水・3 | 全 | 天野 景太 | | 92 | 136 |
| | アーツマネジメント | 2 | 2 | 月・2 | | 全 | 菅原 真弓 | | 93 | 137 |
| | 日本事情 I A | 2 | 2 | 水・4 | | 全 | 堀 まどか | | 94 | 138 |
| | 日本事情 I B | 2 | 2 | | 水・4 | 全 | 堀 まどか | | 95 | 139 |
| | 日本事情 II A | 2 | 2 | 水・2 | | 全 | 増田 聡 | | 96 | 140 |
| | 日本事情 II B | 2 | 2 | | 木・1 | 全 | 郭 南燕 | | 97 | 141 |
| 文学と芸術 | 日本の古典文学 I | 2 | 2 | | 火・2 | 全 | 大坪 亮介 | | 98 | 142 |
| | 日本の古典文学 II | 2 | 2 | | 水・2 | 全 | 山本 真由子 | | 99 | 142 |
| | 西洋の文学 | 2 | 2 | 火・3 | | 全 | 神野 ゆみこ 他 | | 100 | 143 |
| | 日本の近代文学 | 2 | 2 | 月・2 | | 全 | 奥野 久美子 | | 101 | 144 |
| | 芸術の世界 | 2 | 2 | 月・2 | | 全 | 高梨 友宏 | | 102 | 145 |
| | 東洋美術の流れ | 2 | 2 | 金・4 | | 全 | 村田 隆志 | | 103 | 146 |
| | 音楽の諸相 | 2 | 2 | 水・3 | | 全 | 増田 聡 | | 104 | 146 |
| | 視覚文化の世界 | 2 | 2 | | 木・2 | 全 | 石川 優 | | 105 | 147 |
| | 文学と芸術へのいざない(演習) | 2 | 2 | 火・4 | | 全 | 野末 紀之 | | 106 | 148 |

○総合教育科目B

科目群：自然と人間

高度に発達に発達した現代の科学技術社会において、自然と人間の関わりを自然科学の視点から理解することは、理科系文科系を問わず不可欠である。そのために本科目群では、自然を理解する科学の方法を学び、自然を正しく理解することを目的とした主題「現代の自然科学」と、人間と自然科学・人間と科学技術との関わりや、科学とは一体何であるかについて考える主題「自然科学と人間」とを提供する。

主題「現代の自然科学」は、文科系学生、生活科学部人間福祉学科と医学部看護学科の学生を対象とする。

主題「自然科学と人間」は、文科系及び理科系の学生を対象とする。

| 主題 | 科目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載No. | 頁 |
|---------|-------------------|------|-----|-----------|-------|-----------|----------|----|-------|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 現代の自然科学 | 数学の考え方1 | 2 | 2 | | 月・2 | 全文・H(人)・N | 河内 明夫 | | 107 | 149 |
| | ニュートンからアインシュタインへ | 2 | 2 | 木・2 | | 全文・H(人)・N | 牲川 章 | | 108 | 149 |
| | ミクロとマクロの世界 | 2 | 2 | | 火・3 | 全文・H(人)・N | 村田 恵三 | | 109 | 150 |
| | 化学の世界 | 2 | 2 | 月・3 | | 全文・H(人)・N | 豊田 和男 他 | | 110 | 150 |
| | 現代の分子科学 | 2 | 2 | | 火・3 | 全文・H(人)・N | 中沢 浩 | | 111 | 151 |
| | 生物学への招待 | 2 | 2 | 水・3 | | 全文・H(人)・N | 田中 俊雄 他 | | 112 | 152 |
| | 地球の科学 | 2 | 2 | | 火・1 | 全文・H(人)・N | 益田 晴恵 他 | | 113 | 153 |
| | 体験で知る科学と技術 | 4 | 4 | | 水・3-4 | 全文・H(人)・N | 山本 和弘 他 | | 114 | 153 |
| | 地球学入門 | 2 | 2 | 月・3 | | 全文・H(人)・N | 足立 奈津子 他 | | 115 | 155 |
| 自然科学と人間 | 科学と社会 | 2 | 2 | 金・4 | | 全 | 木野 茂 | | 116 | 156 |
| | 現代科学と人間 | 2 | 2 | 木・4 | | 全 | 宮田 真人 他 | | 117 | 157 |
| | 心と脳(神経・生理心理学) | 2 | 2 | | 月・2 | 全 | 川邊 光一 | | 118 | 157 |
| | ドキュメンタリー・環境と生命 | 2 | 2 | | 水・4 | 全 | 木野 茂 | | 119 | 158 |
| | 森林環境と人間社会 | 2 | 2 | | 火・4 | 全 | 大久保 敦 | | 120 | 159 |
| | 21世紀の植物科学と食糧・環境問題 | 2 | 2 | | 火・3 | 全 | 植松 千代美 他 | | 121 | 160 |
| | 植物の機能と人間社会 | 2 | 2 | | 月・2 | 全 | 曾我 康一 | | 122 | 161 |
| | 植物と人間(演習) | 2 | 2 | 集中 | | 全 | 植松 千代美 他 | | 123 | 162 |

○総合教育科目B

科目群：情報と人間

「情報と人間」の目標は、情報社会に生きる人間として、情報の価値を知るとともに、これを資産として活用するための知識と技能の習得を通じて、情報に関する科学的な見方、考え方を養い、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる能力を養うことにある。

| 主題 | 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担 当 教 員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 |
|------------|-----------|------|-----|-----------|-------|------------|---------|-----|-----------|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 情報と人間 | 情報基礎 | 4 | 2 | 月・3-4 | | 全 | 西村 雄一郎 | | 125 | 164 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | 水・1-2 | | 全 | 安倍 広多 | | 124 | 163 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | 木・1-2 | | 全 | 村上 晴美 | | 124 | 163 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | 木・3-4 | | 全 | 豊田 博俊 | | 124 | 163 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | 木・3-4 | | 全 | 大西 克実 | | 125 | 164 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | 金・1-2 | | 全 | 岡田 一郎 | | 125 | 164 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | 金・1-2 | | 全 | 豊田 博俊 | | 124 | 163 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | 金・3-4 | | 全 | 永田 好克 | | 124 | 163 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | 金・3-4 | | 全 | 米澤 剛 | | 125 | 164 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | | 火・1-2 | 全 | 安倍 広多 | | 124 | 163 |
| | 情報基礎 | 4 | 2 | | 木・1-2 | 全 | 村上 晴美 | | 124 | 163 |
| | プログラミング入門 | 4 | 2 | 月・3-4 | | 全 | 松浦 敏雄 | | 126 | 164 |
| | プログラミング入門 | 4 | 2 | 金・3-4 | | 全 | 石橋 勇人 | | 127 | 165 |
| | プログラミング入門 | 4 | 2 | | 月・3-4 | 全 | 石橋 勇人 他 | | 128 | 166 |
| | プログラミング入門 | 4 | 2 | | 木・3-4 | 全 | 大西 克実 | | 129 | 166 |
| | プログラミング入門 | 4 | 2 | | 金・3-4 | 全 | 松浦 敏雄 | | 126 | 164 |
| | 情報の探索と利用 | 2 | 2 | 火・2 | | 全 | 吉田 大介 | | 130 | 167 |
| | 情報の探索と利用 | 2 | 2 | | 水・1 | 全 | 米谷 優子 | | 130 | 167 |
| | 情報の探索と利用 | 2 | 2 | | 水・2 | 全 | 米谷 優子 | | 130 | 167 |
| | 地図と地理情報 | 2 | 2 | | 火・2 | 全 | 木村 義成 | | 131 | 168 |
| 情報化の光と影 | 2 | 2 | | 木・2 | 全 | 平田 茂樹 他 | | 132 | 168 | |
| ジオ・リテラシー入門 | 2 | 2 | 集中 | | 全 | 木村 義成 | | 133 | 169 | |

○総合教育科目B

科目群：初年次教育

初年次セミナーは、学生が自ら選んだ問いについて調査・検討して報告し、議論することを通じて、次の目標を実現するための科目です。

- ・異なる学部の学生との議論等を通じて興味関心の幅を広げ、自分の考え方や態度を相対化できること。
- ・これからの人生において大学生生活が持つ意義を広い視野から考えられるようになること。
- ・異なる考え方や知識を持つ人々と対話・コミュニケーションが出来ること。
- ・情報検索、レポート執筆等のアカデミック・スキルを活用増強させること。

| 主題 | 科目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当 クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載 No. | 頁 |
|-------|---------|------|-----|-----------|----|-----------|-------|----|-----------|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 初年次教育 | 初年次セミナー | 2 | 2 | 木・2 | | 全I | 大久保 敦 | | 134 | 171 |
| | 初年次セミナー | 2 | 2 | 火・4 | | 全I | 西垣 順子 | | 135 | 172 |
| | 初年次セミナー | 2 | 2 | 火・4 | | 全I | 飯吉 弘子 | | 136 | 173 |
| | 初年次セミナー | 2 | 2 | 木・3 | | 全I | 渡邊 席子 | | 137 | 174 |
| | 初年次セミナー | 2 | 2 | 水・4 | | 全I | 天野 景太 | | 138 | 175 |
| | 初年次セミナー | 2 | 2 | 火・5 | | 全I | 高橋 太 | | 139 | 176 |
| | 初年次セミナー | 2 | 2 | 火・1 | | 全I | 今津 篤志 | | 140 | 177 |

基礎教育

| 授 業 科 目 名 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 ク ラ ス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|----------------|-------|-----|-----------|-----|---|-----------------------|--------|--------|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| 数 講 学 義 | 線形代数Ⅰ | 2 | 2 | 木・1 | | SI数 | 古澤 昌秋 | | 141 | 180 |
| | 線形代数Ⅰ | 2 | 2 | 木・1 | | SI物 TI情1~32 | 尾角 正人 | | 141 | 180 |
| | 線形代数Ⅰ | 2 | 2 | 木・1 | | SI(化・生) HI(環) | 鎌田 聖一 | | 141 | 180 |
| | 線形代数Ⅰ | 2 | 2 | 木・1 | | SI(地) TI(化) | 綾野 孝則 | | 141 | 180 |
| | 線形代数Ⅰ | 2 | 2 | 木・1 | | TI電(都1~28) | 金信 泰造 | | 141 | 180 |
| | 線形代数Ⅰ | 2 | 2 | 木・1 | | TI建(都29~) | 河内 明夫 | | 141 | 180 |
| | 線形代数Ⅰ | 2 | 2 | 木・1 | | TI機・情33~ | 橋本 要 | | 141 | 180 |
| | 線形代数Ⅱ | 2 | 2 | | 木・1 | SI数 | 尾角 正人 | | 142 | 180 |
| | 線形代数Ⅱ | 2 | 2 | | 木・1 | SI物 TI情1~32 | 小松 孝 | | 142 | 180 |
| | 線形代数Ⅱ | 2 | 2 | | 木・1 | SI(化・地) TI(化) HI(環) | 大仁田 義裕 | | 142 | 180 |
| | 線形代数Ⅱ | 2 | 2 | | 木・1 | TI電(都1~28) | 綾野 孝則 | | 142 | 180 |
| | 線形代数Ⅱ | 2 | 2 | | 木・1 | TI建(都29~) | 橋本 要 | | 142 | 180 |
| | 線形代数Ⅱ | 2 | 2 | | 木・1 | TI機・情33~ | 枘田 幹也 | | 142 | 180 |
| | 解析Ⅰ | 2 | 2 | 火・2 | | SI数 | 兼田 正治 | | 143 | 181 |
| | 解析Ⅰ | 2 | 2 | 火・2 | | SI物 TI情1~32 | 齋藤 洋介 | | 143 | 181 |
| | 解析Ⅰ | 2 | 2 | 火・2 | | SI(化・生) HI(環) | 高橋 太 | | 143 | 181 |
| | 解析Ⅰ | 2 | 2 | 火・2 | | SI(地) TI(化) | 河内 明夫 | | 143 | 181 |
| | 解析Ⅰ | 2 | 2 | 火・2 | | TI電(都1~28) | 秋吉 宏尚 | | 143 | 181 |
| | 解析Ⅰ | 2 | 2 | 火・2 | | TI(建・都29~) | 河村 建吾 | | 143 | 181 |
| | 解析Ⅰ | 2 | 2 | 火・2 | | TI機・情33~ | 鎌田 聖一 | | 143 | 181 |
| | 解析Ⅱ | 2 | 2 | | 火・2 | SI数 | 吉田 雅通 | | 144 | 181 |
| | 解析Ⅱ | 2 | 2 | | 火・2 | SI物 TI情1~32 | 濱野 佐知子 | | 144 | 181 |
| | 解析Ⅱ | 2 | 2 | | 火・2 | SI(化・生) HI(環) | 齋藤 洋介 | | 144 | 181 |
| | 解析Ⅱ | 2 | 2 | | 火・2 | SI(地) TI(化) | 金信 泰造 | | 144 | 181 |
| | 解析Ⅱ | 2 | 2 | | 火・2 | TI電(都1~28) | 安本 真士 | | 144 | 181 |
| | 解析Ⅱ | 2 | 2 | | 火・2 | TI(建・都29~) | (未定) | | 144 | 181 |
| | 解析Ⅱ | 2 | 2 | | 火・2 | TI機・情33~ | 塚田 大史 | | 144 | 181 |
| | 解析Ⅲ | 2 | 2 | 火・1 | | SII物(化・生・地) TII(都) | 濱野 佐知子 | | 145 | 182 |
| | 解析Ⅲ | 2 | 2 | 火・1 | | TII(電・情・建) HII(環) | 佐官 謙一 | | 145 | 182 |
| | 解析Ⅲ | 2 | 2 | 火・1 | | TII機(化) | 高橋 太 | | 145 | 182 |
| | 解析Ⅳ | 2 | 2 | | 火・1 | SII物(化・地) TII(機) | 佐官 謙一 | | 146 | 183 |
| | 解析Ⅳ | 2 | 2 | | 火・1 | TII(電・情・化・建・都) HII(環) | 加藤 信 | | 146 | 183 |
| | 応用数学A | 2 | 2 | 月・1 | | SII(物・化) TII機 | 吉田 雅通 | | 147 | 183 |
| 応用数学A | 2 | 2 | 月・1 | | SII(生・地) TII(化・建・都) | 小松 孝 | | 147 | 183 | |
| 応用数学A | 2 | 2 | 月・1 | | TII(電・情) HII(環) | 伊達山 正人 | | 147 | 183 | |
| 応用数学B | 2 | 2 | | 月・1 | SII(物) TII(機・電) | 阿部 健 | | 148 | 184 | |
| 応用数学B | 2 | 2 | | 月・1 | SII(化・生・地) TII(情・化・建・都) HII(環) | 釜江 哲朗 | | 148 | 184 | |
| 応用数学C | 2 | 2 | | 金・4 | SII(物・化・生・地) TII(機・電・情・化・建) TIII(都) HII(環) | 伊達山 正人 | | 149 | 185 | |

| 授 業 科 目 名 | | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 ク ラ ス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|-----------|----------|------------|-----|-----------|-------|-------------------------------|---|-------|--------------------------------------|-----|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| 数 学 | 講 | 基礎数学 A | 2 | 2 | 月・4 | | CEIa(CI001~060,EI001~060)* | 山中 仁 | ※()は学籍番号の下3桁を表している。指定されたクラスで履修すること。 | 150 | 185 |
| | | 基礎数学 A | 2 | 2 | 月・4 | | CEIb(CI061~120,EI061~120)* | 宮地 兵衛 | | 150 | 185 |
| | | 基礎数学 A | 2 | 2 | 月・4 | | CEIc(CI121~180,EI121~180)* | 塚田 大史 | | 150 | 185 |
| | | 基礎数学 A | 2 | 2 | 月・4 | | CEId(CI181~終,EI181~終)* | 佐官 謙一 | | 150 | 185 |
| | | 基礎数学 A | 2 | 2 | 火・4 | | H I | 佐野 昂迪 | | 150 | 185 |
| | 義 | 基礎数学 B | 2 | 2 | | 月・4 | CEIa(CI001~060,EI001~060)* | 山中 仁 | ※()は学籍番号の下3桁を表している。指定されたクラスで履修すること。 | 151 | 186 |
| | | 基礎数学 B | 2 | 2 | | 月・4 | CEIb(CI061~120,EI061~120)* | (未定) | | 151 | 186 |
| | | 基礎数学 B | 2 | 2 | | 月・4 | CEIc(CI121~180,EI121~180)* | 古澤 昌秋 | | 151 | 186 |
| | | 基礎数学 B | 2 | 2 | | 月・4 | CEId(CI181~終,EI181~終)* | 釜江 哲朗 | | 151 | 186 |
| | | 基礎数学 B | 2 | 2 | | 火・4 | H I | 河内 明夫 | | 151 | 186 |
| | | 統計学 A | 2 | 2 | 木・3 | | M I | 福井 充 | | 152 | 186 |
| 統計学 B | 2 | 2 | | 木・3 | M I | 福井 充 | | 153 | 187 | | |
| 物 理 学 | 講 | 基礎物理学 I | 4 | 4 | 月1・金4 | | S I 物(数・地) | 有馬 正樹 | | 154 | 188 |
| | | 基礎物理学 I | 4 | 4 | 月1・金4 | | S I (化・生) T I 電 | 中川 道夫 | | 154 | 188 |
| | | 基礎物理学 I | 4 | 4 | 月1・金4 | | T I 機 | 牲川 章 | | 154 | 188 |
| | | 基礎物理学 I | 4 | 4 | 月1・金4 | | T I 建(情) | 林 嘉夫 | | 154 | 188 |
| | | 基礎物理学 II | 4 | 4 | | 月1・金4 | S I 物(数・化・生・地) | 浜端 広充 | | 155 | 188 |
| | | 基礎物理学 II | 4 | 4 | | 月1・金4 | T I (機) | 竹内 宏光 | | 155 | 188 |
| | | 基礎物理学 II | 4 | 4 | | 月1・金4 | T I 電(情) | 寺本 吉輝 | | 155 | 188 |
| | | 基礎物理学 I-A | 2 | 2 | | 水・1 | S I 物 | 糸山 浩 | | 156 | 189 |
| | | 基礎物理学 I-A | 2 | 2 | | 水・1 | T I 電 | 牲川 章 | | 156 | 189 |
| | | 基礎物理学 II-A | 2 | 2 | 水・3 | | S II 物 T II (電) | 糸山 浩 | | 157 | 189 |
| | 義 | 基礎物理学 I-E | 2 | 2 | 月・1 | | S I (数・化・生) S 低(地) H 低(食・環) | (未定) | | 158 | 190 |
| | | 基礎物理学 I-E | 2 | 2 | 月・1 | | T I (化) | 浜端 広充 | | 158 | 190 |
| | | 基礎物理学 I-E | 2 | 2 | 月・1 | | T I (都) | 神田 展行 | | 158 | 190 |
| | | 基礎物理学 II-E | 2 | 2 | | 月・1 | S 低(地) S I (数・化・生・選) H 低(食・環) | (未定) | | 159 | 191 |
| | | 基礎物理学 II-E | 2 | 2 | | 月・1 | T I (化・建) | 丸山 稔 | | 159 | 191 |
| | | 基礎物理学 III | 2 | 2 | 水・1 | | S II 物(数・化・生・地) | 矢野 英雄 | | 160 | 191 |
| | | 基礎物理学 III | 2 | 2 | 水・1 | | T II 電 | 丸山 稔 | | 160 | 191 |
| | | 基礎物理学 III | 2 | 2 | 水・1 | | T II (機・情) | 石原 秀樹 | | 160 | 191 |
| | | 基礎物理学 III | 2 | 2 | 水・1 | | T II (化・建・都) | 畑 徹 | | 160 | 191 |
| | | 基礎物理学 IV | 2 | 2 | | 水・1 | S II 物(数・化・生・地) T II (機) T IV (建) | 中尾 憲一 | | 161 | 192 |
| | | 基礎物理学 IV-E | 2 | 2 | | 水・1 | S II (数・化・生・地) T II (機・化・情) T IV (建) | 河合 俊治 | | 162 | 193 |
| 学 | 物理学 I | 2 | 2 | 木・1 | | M I | 河合 俊治 | | 163 | 193 | |
| | 物理学 II | 2 | 2 | | 木・1 | M I | 中川 道夫 | | 164 | 194 | |
| | 入門物理学 I | 2 | 2 | 月・1 | | S I (数・化・生) S 低(地) T I (化) | 加藤 宏平 | | 165 | 194 | |
| | 入門物理学 I | 2 | 2 | 月・1 | | H 低(食・環) N I | 佐藤 弘一 | | 165 | 194 | |
| | 入門物理学 II | 2 | 2 | | 月・1 | S I (数・化・生) S 低(地) T I (化) | 加藤 宏平 | | 166 | 195 | |
| | 入門物理学 II | 2 | 2 | | 月・1 | H 低(食・環) | 佐藤 弘一 | | 166 | 195 | |

| 授 業 科 目 名 | | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 ク ラ ス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|-----------|----|----------|-----|-----------|---------------------|-----------|-------------------------------------|---------|-----------|-----|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| 物理学 | 実験 | 入門物理学実験 | 4 | 2 | | 金3・4 | S低(数・化・生・地)HI食(環) | 鐘本 勝一 他 | | 167 | 196 |
| | | 基礎物理学実験Ⅰ | 6 | 3 | 火3・4・5 | | SI物TI(機①・都) | 伊藤 洋介 他 | *①は学籍番号奇数 | 168 | 197 |
| | | 基礎物理学実験Ⅰ | 6 | 3 | 火3・4・5 | | TI情(機②) | 岩崎 昌子 他 | *②は学籍番号偶数 | 168 | 197 |
| | | 基礎物理学実験Ⅰ | 6 | 3 | | 火3・4・5 | S低(数・化・生・地) TI電(建・化)HI(環) | 竹内 宏光 他 | | 168 | 197 |
| | | 基礎物理学実験Ⅱ | 6 | 3 | 月3・4・5 | | TII電(情)SII(化) | 小原 顕 他 | | 169 | 198 |
| | | 基礎物理学実験Ⅱ | 6 | 3 | | 月3・4・5 | SII物(数・生・地)TII(機) | 岩崎 昌子 他 | | 169 | 198 |
| 化学 | 講義 | 基礎物理化学A | 2 | 2 | | 水・1 | SI化 | 佐藤 和信 | | 170 | 198 |
| | | 基礎物理化学A | 2 | 2 | 水・1 | | TI(機・電) | 中澤 重顕 | | 170 | 198 |
| | | 基礎物理化学A | 2 | 2 | 水・1 | | HI(食・環)TII(都) | 麻田 俊雄 | | 170 | 198 |
| | | 基礎物理化学A | 2 | 2 | 水・1 | | MI | 神谷 信夫 他 | | 170 | 198 |
| | | 基礎物理化学A | 2 | 2 | | 木・3 | SI(数・物・生・地)TI(情・建) | 麻田 俊雄 | | 170 | 198 |
| | | 基礎物理化学B | 2 | 2 | | 水・2 | SI化(数・物・生・地) | 塩見 大輔 他 | | 171 | 199 |
| | | 基礎物理化学B | 2 | 2 | | 水・2 | TI(建・都・電)HI(食・環) | 宮崎 裕司 | | 171 | 199 |
| | | 基礎有機化学Ⅰ | 2 | 2 | 月・2 | | SI化(数・物・生・地) | 西村 貴洋 | | 172 | 200 |
| | | 基礎有機化学Ⅱ | 2 | 2 | | 月・2 | SI化(数・物・生・地) | 坂口 和彦 | | 173 | 200 |
| | | 基礎有機化学 | 2 | 2 | 水・2 | | TI(機・建・電・都) | 岡田 恵次 | | 174 | 201 |
| | 実験 | 基礎有機化学M | 2 | 2 | | 火・3 | MI | 宮田 興子 | | 175 | 201 |
| | | 基礎無機化学 | 2 | 2 | 水・2 | | SII化 | 西岡 孝訓 | | 176 | 202 |
| | | 基礎無機化学 | 2 | 2 | 火・4 | | SII(数・物・生・地) TII(機・電・建・都・情) | 小林 克彰 | | 176 | 202 |
| | | 基礎無機化学 | 2 | 2 | | 水・1 | MI | 中島 隆行 | | 176 | 202 |
| | | 基礎分析化学 | 2 | 2 | 金・3 | | SII化 | 東海林 竜也 | | 177 | 203 |
| | | 基礎分析化学 | 2 | 2 | 金・3 | | SII(数・物・生・地) TII(電・建・都)HII(食・環) | 細川 千絵 | | 177 | 203 |
| | | 入門化学 | 2 | 2 | 月・2 | | NI SI(数・物・生・地) | 品田 哲朗 他 | | 178 | 203 |
| | | 基礎化学実験Ⅰ | 6 | 3 | 火3・4・5 | | TI化(建) | 宮原 郁子 他 | | 179 | 204 |
| | | 基礎化学実験Ⅰ | 6 | 3 | 木3・4・5 | | TII(情)HI食(環) | 宮原 郁子 他 | | 179 | 204 |
| | | 基礎化学実験Ⅰ | 6 | 3 | | 火3・4・5 | S低(数・物・生・地)TI(都) | 宮原 郁子 他 | | 179 | 204 |
| 基礎化学実験Ⅰ | 6 | 3 | | 木3・4・5 | SI化SI(選)TI(電)TII(機) | 宮原 郁子 他 | | 179 | 204 | | |
| 基礎化学実験Ⅱ | 6 | 3 | | 月3・4・5 | SII化TII(化) | 吉野 治一 他 | | 180 | 205 | | |
| 生物学 | 講義 | 生物学概論A | 2 | 2 | 水・1 | | SI TI(建・電) TII(機)TIII(都) | 幸田 正典 他 | | 181 | 206 |
| | | 生物学概論A | 2 | 2 | | 火・1 | TI(化)H低(食・環) | 伊東 明 他 | | 181 | 206 |
| | | 生物学概論B | 2 | 2 | | 水・2 | SI TI(電・建)TIII(都) H低(食・環) | 藤田 憲一 他 | | 182 | 206 |
| | | 生物学概論C | 2 | 2 | | 水・2 | SII TII(建・電) | 後藤 慎介 他 | | 183 | 207 |
| | | 生物学概論D | 2 | 2 | 水・2 | | SII TII(機・電)TIV(建)TIII(都) HII(食) | 中村 太郎 | | 184 | 208 |
| | | 生物学概論Ⅰ | 2 | 2 | 水・2 | | MI | 幸田 正典 他 | | 185 | 208 |
| | | 生物学概論Ⅱ | 2 | 2 | | 水・2 | MI | 宮田 真人 他 | | 186 | 209 |
| | | 生物学概論Ⅲ | 2 | 2 | 火・4 | | NI | 福永 昭廣 | | 187 | 209 |
| | 実験 | 生物学実験A | 4 | 2 | 木3・4 | | TII(機・化・都)S低(化) | 水野 寿朗 他 | | 188 | 210 |
| | | 生物学実験A | 4 | 2 | 金3・4 | | SI生(地)S低(数・物)TII(建) | 水野 寿朗 他 | | 188 | 210 |
| | | 生物学実験B | 4 | 2 | | 木3・4 | TI化<46人程度>HI食 | 水野 寿朗 他 | | 189 | 211 |
| | | 生物学実験B | 4 | 2 | | 金3・4 | TI化<10人程度> SI生(地)S低(数・物・化) | 水野 寿朗 他 | | 189 | 211 |

| 授 業 科 目 名 | | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 ク ラ ス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|-----------|-----|---------------|-----|-----------|------|-----------|------------------------|-------------|--------|-----|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| 地 球 学 | 講 義 | 一般地球学A-I | 2 | 2 | 水・2 | | SI地 S 低(数・物・化・生) | 升本 眞二・江崎 洋一 | | 190 | 211 |
| | | 一般地球学A-II | 2 | 2 | | 水・2 | SI地 S 低(数・物・化・生) | 篠田 圭司 他 | | 191 | 212 |
| | | 一般地球学B-I | 2 | 2 | 水・2 | | TI(機・建・電)TII(都)H低(環) | 井上 淳 他 | | 192 | 213 |
| | | 一般地球学B-II | 2 | 2 | | 水・2 | TI(機・建・電・都)H低(環) | 柵山 徹也 他 | | 193 | 214 |
| | 実 験 | 建設地学 | 2 | 2 | | 火・3 | TI(建・都)HI(環) | 升本 眞二 他 | | 194 | 214 |
| | | 建設地学実験 | 4 | 2 | | 火4・5 | TI(建・都)HI(環) | 升本 眞二 他 | | 195 | 215 |
| | | 地球学実験A | 4 | 2 | 木3・4 | | SI地 S 低(数・物・化・生)TII(機) | 根本 達也 他 | | 196 | 215 |
| | | 地球学実験B | 4 | 2 | | 木3・4 | SI地 S 低(数・物・化・生) | 三田村 宗樹 他 | | 197 | 216 |
| 図 形 科 学 | 講 義 | 図形科学 I | 2 | 2 | 月・2 | | TII(情)HI環 | 瀧澤 重志 | | 198 | 217 |
| | | 図形科学 I | 2 | 2 | 金・3 | | TI建(電) | 瀧澤 重志 | | 198 | 217 |
| | | 図形科学 I | 2 | 2 | 金・4 | | TI(都) | 瀧澤 重志 | | 198 | 217 |
| | | 図形科学 II | 2 | 2 | | 月・2 | TII(情)HI環 | 瀧澤 重志 | | 199 | 217 |
| | | 図形科学 II | 2 | 2 | | 金・3 | TI建(電) | 瀧澤 重志 | | 199 | 217 |
| | | 図形科学 II | 2 | 2 | | 金・5 | TI(都) | 瀧澤 重志 | | 199 | 217 |
| 共 通 基 礎 | 講 義 | 基礎文章力向上セミナー-S | 2 | 2 | 金・1 | | SI | 大坪 亮介 | | 200 | 218 |
| | | 基礎文章力向上セミナー-S | 2 | 2 | | 金・1 | SI | 大坪 亮介 | | 200 | 218 |
| | | 基礎文章力向上セミナー-T | 2 | 2 | 月・5 | | TII | 石川 優 | | 201 | 219 |
| | | 基礎文章力向上セミナー-T | 2 | 2 | 火・5 | | TII | 佐伯 綾那 | | 201 | 219 |
| | | 基礎文章力向上セミナー-T | 2 | 2 | 木・5 | | TII | 渡辺 拓也 | | 201 | 219 |
| | | 基礎文章力向上セミナー-H | 2 | 2 | 月・5 | | H全 | 渡辺 拓也 | | 202 | 220 |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | | | |
|-----|--------------------|-----|-----------|------|------------|--------|--------------|-----------|-----|-----|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | | | |
| 英 | College English I | 2 | 1 | 月・3 | | TNIj | Jones | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・3 | | TNIk | Dalby | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・3 | | TNII | Stepanczuk | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・3 | | TNIIm | Sievert | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIa | Quinn | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIb | Fernandes | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIc | Fenstermaker | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIId | 高森 | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIE | Jacobs | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIf | Dalby | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIg | McAvoy | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIh | Thorson | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIi | Mansfield | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIj | Sievert | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIk | Silva | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIl | Vaughan | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIIm | Jones | | 203 | 223 | | |
| | | | | 月・4 | | SMHIIn | Stepanczuk | | 203 | 223 | | |
| | | | | | | | 月・5 | 全「再」 | 野田 | | 220 | 241 |
| | | | | | | | 月・5 | 全「再」 | 豊田 | | 220 | 241 |
| | | | 水・5 | 全「再」 | 野末 | | 220 | 241 | | | | |
| 語 | College English II | 2 | 1 | 水・1 | | EJIa | Chen | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIb | Silva | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIc | Dalby | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIId | 多賀 | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIe | Micklas | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIIf | Sievert | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIg | Fenstermaker | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIh | Leigh | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIi | Walsh | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIj | Hudgens | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIk | McAvoy | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIl | Selzer | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIIm | Vaughan | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIIn | Thorson | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・1 | | EJIo | Lau | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・2 | | CLIa | Micklas | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・2 | | CLIb | Jones | | 204 | 225 | | |
| | | | | 水・2 | | CLIc | Silva | | 204 | 225 | | |

| 科目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当 クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載 No. | 頁 |
|--------|------|-------|--------------|----|-----------|--------------|----|-----------|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 英 語 | 2 | 1 | 水・2 | | CLId | 多賀 | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLLe | Walsh | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIf | 高森 | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIg | Hudgens | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIh | Vaughan | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIi | Dalby | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIj | Selzer | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIk | Thorson | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIl | Fenstermaker | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIm | McAvoy | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIn | Lau | | 204 | 225 |
| | | | 水・2 | | CLIo | Chen | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIa | Silva | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIb | Micklas | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIc | Dalby | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHI d | Walsh | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIe | Jones | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHI f | Hudgens | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIg | Sievert | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIh | 多賀 | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIi | Vaughan | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIj | McAvoy | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIk | Lau | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHIl | Thorson | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHI m | Fenstermaker | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHI n | Selzer | | 204 | 225 |
| | | | 水・3 | | SMHI o | Richards | | 204 | 225 |
| | | | 水・4 | | TNIa | Jones | | 204 | 225 |
| | | | 水・4 | | TNIb | Sievert | | 204 | 225 |
| | | | 水・4 | | TNIc | Micklas | | 204 | 225 |
| | | | 水・4 | | TNI d | Silva | | 204 | 225 |
| | | | 水・4 | | TNI e | Dalby | | 204 | 225 |
| | | | 水・4 | | TNI f | Walsh | | 204 | 225 |
| | | | 水・4 | | TNIg | Vaughan | | 204 | 225 |
| 水・4 | | TNIh | Thorson | | 204 | 225 | | | |
| 水・4 | | TNIi | Hudgens | | 204 | 225 | | | |
| 水・4 | | TNIj | Lau | | 204 | 225 | | | |
| 水・4 | | TNIk | Selzer | | 204 | 225 | | | |
| 水・4 | | TNI l | Fenstermaker | | 204 | 225 | | | |
| 水・4 | | TNI m | McAvoy | | 204 | 225 | | | |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 |
|---------------------|------|-------|--------------|-----|------------|--------------|-----|-----------|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| College English II | 2 | 1 | | 月・5 | 全「再」 | 野田 | | 220 | 241 |
| | | | | 月・5 | 全「再」 | 豊田 | | 220 | 241 |
| | | | | 水・5 | 全「再」 | 野末 | | 220 | 241 |
| College English III | 2 | 1 | | 月・1 | CL Ia | Leigh | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Ib | Dalby | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Ic | Sievert | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Id | Walsh | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Ie | McAvoy | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL If | Fenstermaker | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Ig | Fernandes | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Ih | Quinn | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Ii | Stepanczuk | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Jj | Vaughan | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Ik | Richards | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL II | 山本 | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Im | Thorson | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL In | Jones | | 205 | 226 |
| | | | | 月・1 | CL Io | Chen | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Ia | McAvoy | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Ib | Walsh | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Ic | Mansfield | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Id | Sievert | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Ie | Dalby | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ If | Thorson | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Ig | Richards | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Ih | Fenstermaker | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Ii | Chen | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Ij | Jones | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Ik | Vaughan | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Il | Fernandes | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Im | Quinn | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ In | Stepanczuk | | 205 | 226 |
| | | | | 月・2 | EJ Io | Jacobs | | 205 | 226 |
| | 月・3 | TN Ia | Dalby | | 205 | 226 | | | |
| | 月・3 | TN Ib | Sievert | | 205 | 226 | | | |
| | 月・3 | TN Ic | Silva | | 205 | 226 | | | |
| | 月・3 | TN Id | McAvoy | | 205 | 226 | | | |
| | 月・3 | TN Ie | Mansfield | | 205 | 226 | | | |
| | 月・3 | TN If | Jones | | 205 | 226 | | | |
| | 月・3 | TN Ig | Fenstermaker | | 205 | 226 | | | |

英

語

| 科目 | | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載No. | 頁 | |
|----|---------------------|------|------|-----------|-----|--------|--------------|----|-------|-----|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| 英語 | College English III | 2 | 1 | | 月・3 | TNIh | Quinn | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・3 | TNIi | Fernandes | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・3 | TNIj | Vaughan | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・3 | TNIk | Jacobs | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・3 | TNIl | Thorson | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・3 | TNI m | Stepanczuk | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIa | Sievert | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIb | Mansfield | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIc | McAvoy | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHId | Silva | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIf | Dalby | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIf | Chen | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIg | Fenstermaker | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIh | Jones | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIi | 高森 | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIj | Stepanczuk | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIk | Quinn | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHIl | Jacobs | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHI m | Fernandes | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHI n | Thorson | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・4 | SMHI o | Vaughan | | 205 | 226 | |
| | | | | | 月・5 | | 全「再」 | 山本 | | 220 | 241 |
| | | | | | 月・5 | | 全「再」 | 山崎 | | 220 | 241 |
| | | | | | 火・4 | | 全「再」 | 野田 | | 220 | 241 |
| | | | | | 水・5 | | 全「再」 | 関 | | 220 | 241 |
| | 水・5 | | 全「再」 | 高島 | | 220 | 241 | | | | |
| 英語 | College English IV | 2 | 1 | | 水・1 | EJIa | Vaughan | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJIb | Lau | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJIc | Selzer | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI d | Thorson | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI e | Sievert | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI f | 高森 | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI g | Walsh | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI h | Hudgens | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI i | McAvoy | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI j | Micklas | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI k | Silva | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI l | Fenstermaker | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI m | Dalby | | 206 | 228 | |
| | | | | | 水・1 | EJI n | 多賀 | | 206 | 228 | |

| 科目 | | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載No. | 頁 |
|----|--------------------|------|-----|-----------|-----|--------|--------------|----|-------|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 英語 | College English IV | 2 | 1 | | 水・1 | EJIo | Leigh | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CLIa | Lau | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Ib | Vaughan | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Ic | Selzer | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Id | Thorson | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Ie | 高森 | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL If | Hudgens | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Ig | Dalby | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Ih | Richards | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Ii | Walsh | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Ij | Jones | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Ik | 多賀 | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL II | Silva | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Im | McAvoy | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL In | Fenstermaker | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・2 | CL Io | Micklas | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHIa | Selzer | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHIb | Vaughan | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHIc | Walsh | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI d | Thorson | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI e | Lau | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI f | Sievert | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI g | Hudgens | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI h | Dalby | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI i | Jones | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI j | Fenstermaker | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI k | McAvoy | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI l | Chen | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI m | Micklas | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI n | 高森 | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・3 | SMHI o | Silva | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・4 | TNIa | Thorson | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・4 | TNIb | Selzer | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・4 | TNIc | Lau | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・4 | TNI d | Walsh | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・4 | TNI e | Vaughan | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・4 | TNI f | Dalby | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・4 | TNI g | McAvoy | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・4 | TNI h | Hudgens | | 206 | 228 |
| | | | | | 水・4 | TNI i | Sievert | | 206 | 228 |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 |
|--------------------|------|-------|-------------------|-----|------------|--------------|-----|-----------|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| College English IV | 2 | 1 | | 水・4 | TNIj | Micklas | | 206 | 228 |
| | | | | 水・4 | TNIk | Silva | | 206 | 228 |
| | | | | 水・4 | TNII | Jones | | 206 | 228 |
| | | | | 水・4 | TNIm | Fenstermaker | | 206 | 228 |
| | | | 月・5 | | 全「再」 | 山本 | | 220 | 241 |
| | | | 月・5 | | 全「再」 | 山崎 | | 220 | 241 |
| | | | 火・4 | | 全「再」 | 野田 | | 220 | 241 |
| | | | 水・5 | | 全「再」 | 関 | | 220 | 241 |
| | | | 水・5 | | 全「再」 | 高島 | | 220 | 241 |
| | | | College English V | 2 | 1 | 火・1 | | CIIa | 筒井 |
| 火・1 | | CIIb | | | | 山澤 | | 207 | 229 |
| 火・1 | | CIIc | | | | 辻 | | 207 | 229 |
| 火・1 | | CII d | | | | 倉恒 | | 207 | 229 |
| 火・1 | | CIIe | | | | 高 | | 207 | 229 |
| 火・1 | | CII f | | | | 山本 | | 207 | 229 |
| 火・1 | | CII g | | | | 清川 | | 207 | 229 |
| 火・1 | | CII h | | | | 片岡 | | 207 | 229 |
| 火・2 | | JII a | | | | 清川 | | 207 | 229 |
| 火・2 | | JII b | | | | 高 | | 207 | 229 |
| 火・2 | | JII c | | | | 熊懐 | | 207 | 229 |
| 火・2 | | JII d | | | | 片岡 | | 207 | 229 |
| 火・2 | | JII e | | | | 倉恒 | | 207 | 229 |
| 火・2 | | JII f | | | | 笹倉 | | 207 | 229 |
| 火・2 | | JII g | | | | 山澤 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII a | | | | 片岡 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII b | | | | 筒井 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII c | | | | 名和 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII d | | | | 豊田 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII e | | | | 古賀 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII f | | | | 笹倉 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII g | | | | 山崎 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII h | | | | 井狩 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII i | | | | 野末 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII j | | | | 山本 | | 207 | 229 |
| 火・3 | | TII k | | | | 野田 | | 207 | 229 |
| 木・1 | | HII a | | | | 藤井 | | 207 | 229 |
| 木・1 | | HII b | | | | 山口 | | 207 | 229 |
| 木・1 | | HII c | | | | 津田 | | 207 | 229 |
| 木・1 | | HII d | | | | 北岡 | | 207 | 229 |
| 木・1 | | HII e | 田中 (一) | | 207 | 229 | | | |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | | | |
|----------------------------|------|-----|-----------------------------|----|------------|--------|--------|-----------|-----|-----|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | | | |
| 英 College English V | 2 | 1 | 木・2 | | SⅡa | 山口 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・2 | | SⅡb | 津田 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・2 | | SⅡc | 藤井 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・2 | | SⅡd | 高島 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・2 | | SⅡe | 北岡 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・2 | | SⅡf | 高橋 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・2 | | SⅡg | 関 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | EⅡa | 杉井 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | EⅡb | 長嶺 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | EⅡc | フィゴーニ | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | EⅡd | 高橋 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | EⅡe | 中村 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | EⅡf | 荒木 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | EⅡg | 豊田 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | EⅡh | 野末 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | MⅡa | 廣田 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | MⅡb | 辻 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・3 | | MⅡc | 上里 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・4 | | LⅡa | 荒木 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・4 | | LⅡb | 田中 (孝) | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・4 | | LⅡc | 野末 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・4 | | LⅡd | 長嶺 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・4 | | LⅡe | フィゴーニ | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・4 | | LⅡf | 中村 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・4 | | LⅡg | 古賀 | | 207 | 229 | | | |
| | | | 木・5 | | 全「再」 | 田中 (孝) | | 220 | 241 | | | |
| | | | | | 火・4 | 全「再」 | 名和 | | 220 | 241 | | |
| | | | | | 火・4 | 全「再」 | 熊懷 | | 220 | 241 | | |
| | | | | | 水・5 | 全「再」 | 関 | | 220 | 241 | | |
| | | | | | 木・5 | 全「再」 | 田中 (一) | | 220 | 241 | | |
| | | | 語 College English VI | 2 | 1 | 木・4 | | MⅡa | 上里 | | 208 | 231 |
| | | | | | | 木・4 | | MⅡb | 廣田 | | 208 | 231 |
| 木・4 | | MⅡc | | | | 辻 | | 208 | 231 | | | |
| | 火・1 | CⅡa | | | | 高 | | 208 | 231 | | | |
| | 火・1 | CⅡb | | | | 倉恒 | | 208 | 231 | | | |
| | 火・1 | CⅡc | | | | 片岡 | | 208 | 231 | | | |
| | 火・1 | CⅡd | | | | 清川 | | 208 | 231 | | | |
| | 火・1 | CⅡe | | | | 山澤 | | 208 | 231 | | | |
| | 火・1 | CⅡf | | | | 辻 | | 208 | 231 | | | |
| | 火・1 | CⅡg | 筒井 | | 208 | 231 | | | | | | |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 |
|--------------------------------------|------|-----|-----------|-----|------------|-------|-----|-----------|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 英 College English VI 語 | 2 | 1 | | 火・1 | CⅡh | 野田 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・2 | JⅡa | 笹倉 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・2 | JⅡb | 片岡 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・2 | JⅡc | 筒井 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・2 | JⅡd | 高 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・2 | JⅡe | 熊懷 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・2 | JⅡf | 清川 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・2 | JⅡg | 倉恒 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡa | 清川 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡb | 野田 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡc | 笹倉 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡd | 山本 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡe | 筒井 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡf | 名和 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡg | 片岡 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡh | 田中(孝) | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡi | 高島 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡj | 山崎 | | 208 | 231 |
| | | | | 火・3 | TⅡk | 古賀 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・1 | HⅡa | 北岡 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・1 | HⅡb | 高橋 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・1 | HⅡc | 藤井 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・1 | HⅡd | 山口 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・1 | HⅡe | 津田 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・2 | SⅡa | 北岡 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・2 | SⅡb | 廣田 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・2 | SⅡc | 高橋 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・2 | SⅡd | 山口 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・2 | SⅡe | 津田 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・2 | SⅡf | 藤井 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・2 | SⅡg | 高島 | | 208 | 231 |
| | | | | 木・3 | EⅡa | 田中(孝) | | 208 | 231 |
| | | | | 木・3 | EⅡb | 上里 | | 208 | 231 |
| | 木・3 | EⅡc | 荒木 | | 208 | 231 | | | |
| | 木・3 | EⅡd | 辻 | | 208 | 231 | | | |
| | 木・3 | EⅡe | フィゴーニ | | 208 | 231 | | | |
| | 木・3 | EⅡf | 中村 | | 208 | 231 | | | |
| | 木・3 | EⅡg | 長嶺 | | 208 | 231 | | | |
| | 木・3 | EⅡh | 廣田 | | 208 | 231 | | | |
| | 木・4 | LⅡa | 辻 | | 208 | 231 | | | |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|--------------------------|--------------------|-----|-----------|-----|------------|-----------|--------|-----------|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| 英 | College English VI | 2 | 1 | | 木・4 | LⅡb | 長嶺 | | 208 | 231 |
| | | | | | 木・4 | LⅡc | 荒木 | | 208 | 231 |
| | | | | | 木・4 | LⅡd | 中村 | | 208 | 231 |
| | | | | | 木・4 | LⅡe | 杉井 | | 208 | 231 |
| | | | | | 木・4 | LⅡf | 上里 | | 208 | 231 |
| | | | | | 木・4 | LⅡg | フィゴーニ | | 208 | 231 |
| | | | | 火・4 | | 全「再」 | 熊懷 | | 220 | 241 |
| | | | | 火・4 | | 全「再」 | 名和 | | 220 | 241 |
| | | | | 水・5 | | 全「再」 | 杉井 | | 220 | 241 |
| | | | | 木・5 | | 全「再」 | 古賀 | | 220 | 241 |
| | | | | | 火・4 | 全「再」 | 山本 | | 220 | 241 |
| ACE: Intensive Reading | 2 | 1 | 火・4 | | 全 | 田中 (一) | | 218 | 239 | |
| | | | | 火・2 | 全 | 山澤 | | 218 | 239 | |
| ACE: TOEIC650 | 2 | 1 | 月・2 | | 全 | 高森 | | 211 | 234 | |
| | | | 木・1 | | 全 | 川端 | | 211 | 234 | |
| | | | | 月・2 | 全 | 高森 | | 211 | 234 | |
| | | | | 木・1 | 全 | 川端 | | 211 | 234 | |
| ACE: TOEFL80 | 2 | 1 | 木・2 | | 全 | 川端 | | 209 | 232 | |
| | | | | 木・2 | 全 | 川端 | | 209 | 232 | |
| ACE: TOEFL80+ | 2 | 1 | | 木・3 | 全 | 川端 | | 210 | 233 | |
| ACE: Films | 2 | 1 | | 水・3 | 全 | 多賀 | | 219 | 240 | |
| ACE: Media English | 2 | 1 | 月・4 | | 全 | 野田 | | 214 | 237 | |
| | | | | 水・3 | 全 | 古賀 | | 214 | 237 | |
| ACE: Critical Writing | 2 | 1 | 水・4 | | 全 | 高森 | | 213 | 236 | |
| | | | | 火・1 | 全 | Mansfield | | 213 | 236 | |
| | | | | 木・4 | 全 | Chen | | 213 | 236 | |
| ACE: Presentation | 2 | 1 | | 水・2 | 全 | Leigh | | 216 | 238 | |
| ACE: Literature | 2 | 1 | 火・2 | | 全 | 筒井 | | 215 | 237 | |
| ACE: Discussion | 2 | 1 | 火・1 | | 全 | Mansfield | | 217 | 239 | |
| ACE: Comparative Culture | 2 | 1 | 木・4 | | 全 | Chen | | 212 | 235 | |
| ド イ ツ 語 | ドイツ語基礎 1 | 2 | 1 | 月・1 | | E I a | 林田 陽子 | | 221 | 248 |
| | | | | 月・1 | | E I b | 神野 ゆみこ | | 221 | 248 |
| | | | | 月・1 | | J I a | 高井 絹子 | | 221 | 248 |
| | | | | 月・1 | | J I b | 長谷川 健一 | | 221 | 248 |
| | | | | 月・2 | | C I a | 林田 陽子 | | 221 | 248 |
| | | | | 月・2 | | C I b | 三上 雅子 | | 221 | 248 |
| | | | | 月・2 | | L I a | 神竹 道士 | | 221 | 248 |
| | | | | 月・2 | | L I b | 國光 圭子 | | 221 | 248 |
| | | | | 月・3 | | S I a | 國光 圭子 | | 221 | 248 |
| | | | | 月・3 | | S I b | 三上 雅子 | | 221 | 248 |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | | |
|------------------|----------|----------|-----------|--------|------------|--------|--------|-----------|-----|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | | |
| ド イ ツ 語 | ドイツ語基礎 1 | 2 | 1 | 月・3 | | SIc | 和田 資康 | | 221 | 248 | |
| | | | | 月・3 | | MIa | 海老根 剛 | | 221 | 248 | |
| | | | | 月・3 | | MIb | 神野 ゆみこ | | 221 | 248 | |
| | | | | 月・3 | | HI | 神竹 道士 | | 221 | 248 | |
| | | | | 月・4 | | TIa | 海老根 剛 | | 221 | 248 | |
| | | | | 月・4 | | TIb | 三上 雅子 | | 221 | 248 | |
| | | | | 月・4 | | TIc | 國光 圭子 | | 221 | 248 | |
| | | | | 月・4 | | TI d | 和田 資康 | | 221 | 248 | |
| | | | | 月・4 | | TIeNI | 神野 ゆみこ | | 221 | 248 | |
| | | ドイツ語基礎 2 | 2 | 1 | 水・1 | | CIa | 神野 ゆみこ | | 222 | 250 |
| | 水・1 | | | | | CIb | 廣瀬 ゆう子 | | 222 | 250 | |
| | 水・1 | | | | | LIa | 田島 昭洋 | | 222 | 250 | |
| | 水・1 | | | | | LIb | 長谷川 健一 | | 222 | 250 | |
| | 水・2 | | | | | EIa | 田島 昭洋 | | 222 | 250 | |
| | 水・2 | | | | | EIb | 廣瀬 ゆう子 | | 222 | 250 | |
| | 水・2 | | | | | JIa | 田中 秀穂 | | 222 | 250 | |
| | 水・2 | | | | | JIb | 中村 恵 | | 222 | 250 | |
| | 水・3 | | | | | TIa | 武田 良材 | | 222 | 250 | |
| | 水・3 | | | | | TIb | 田中 秀穂 | | 222 | 250 | |
| | 水・3 | | | | | TIc | 田島 昭洋 | | 222 | 250 | |
| | 水・3 | | | | | TI d | 中村 恵 | | 222 | 250 | |
| | 水・3 | | | | | TIeNI | 千田 まや | | 222 | 250 | |
| | 水・4 | | | | | SIa | 武田 良材 | | 222 | 250 | |
| | 水・4 | | | | | SIb | 中村 恵 | | 222 | 250 | |
| | 水・4 | | | | | SIc | 田中 秀穂 | | 222 | 250 | |
| | 水・4 | | MIa | 千田 まや | | 222 | 250 | | | | |
| | 水・4 | | MIb | 田島 昭洋 | | 222 | 250 | | | | |
| | 水・4 | | HI | 廣瀬 ゆう子 | | 222 | 250 | | | | |
| | ドイツ語基礎 3 | 2 | 1 | | 月・1 | EIa | 林田 陽子 | | 223 | 251 | |
| | | | | 月・1 | EIb | 神野 ゆみこ | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・1 | JIa | 高井 絹子 | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・1 | JIb | 長谷川 健一 | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・2 | CIa | 林田 陽子 | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・2 | CIb | 三上 雅子 | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・2 | LIa | 神竹 道士 | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・2 | LIb | 國光 圭子 | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・3 | SIa | 國光 圭子 | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・3 | SIb | 三上 雅子 | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・3 | SIc | 和田 資康 | | 223 | 251 | | |
| | | | | 月・3 | MIa | 海老根 剛 | | 223 | 251 | | |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 |
|-----------------|------|-----|-----------|-----|------------|----------|-----|-----------|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| ド イ ツ 語 基 礎 3 | 2 | 1 | | 月・3 | MIb | 神野 ゆみこ | | 223 | 251 |
| | | | | 月・3 | HI | 神竹 道士 | | 223 | 251 |
| | | | | 月・4 | TIa | 海老根 剛 | | 223 | 251 |
| | | | | 月・4 | TIb | 三上 雅子 | | 223 | 251 |
| | | | | 月・4 | TIc | 國光 圭子 | | 223 | 251 |
| | | | | 月・4 | TI d | 和田 資康 | | 223 | 251 |
| | | | | 月・4 | TIeNI | 神竹 道士 | | 223 | 251 |
| ド イ ツ | 2 | 1 | | 水・1 | CIa | 神野 ゆみこ | | 224 | 253 |
| | | | | 水・1 | CIb | 廣瀬 ゆう子 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・1 | LIa | 田島 昭洋 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・1 | LIb | 長谷川 健一 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・2 | EIa | 田島 昭洋 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・2 | EIb | 廣瀬 ゆう子 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・2 | JIa | 田中 秀穂 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・2 | JIb | 中村 恵 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・3 | TIa | 武田 良材 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・3 | TIb | 田中 秀穂 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・3 | TIc | 田島 昭洋 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・3 | TI d | 中村 恵 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・3 | TIeNI | 千田 まや | | 224 | 253 |
| | | | | 水・4 | SIa | 武田 良材 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・4 | SIb | 中村 恵 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・4 | SIc | 田中 秀穂 | | 224 | 253 |
| | | | | 水・4 | MIa | 千田 まや | | 224 | 253 |
| | 水・4 | MIb | 田島 昭洋 | | 224 | 253 | | | |
| | 水・4 | HI | 廣瀬 ゆう子 | | 224 | 253 | | | |
| ド イ ツ 語 応 用 1 A | 2 | 1 | 金・3 | | JIa | 江川 英明 | | 225 | 254 |
| | | | 金・3 | | JIb | 大森 智子 | | 225 | 254 |
| | | | 金・4 | | LIa | 大森 智子 | | 225 | 254 |
| | | | 金・4 | | LIb | 中村 恵 | | 225 | 254 |
| ド イ ツ 語 応 用 2 A | 2 | 1 | | 金・3 | JIa | 江川 英明 | | 226 | 255 |
| | | | | 金・3 | JIb | 大森 智子 | | 226 | 255 |
| | | | | 金・4 | LIa | 大森 智子 | | 226 | 255 |
| | | | | 金・4 | LIb | 中村 恵 | | 226 | 255 |
| ド イ ツ 語 応 用 1 B | 2 | 1 | 火・2 | | CIIa | 石黒 義昭 | | 227 | 256 |
| | | | 火・2 | | CIIb | 神野 ゆみこ | | 227 | 256 |
| ド イ ツ 語 応 用 2 B | 2 | 1 | | 火・2 | CIIa | 石黒 義昭 | | 228 | 257 |
| | | | | 火・2 | CIIb | 神野 ゆみこ | | 228 | 257 |
| ド イ ツ 語 特 修 1 a | 2 | 2 | 火・2 | | 全II～IV | ジモン・エルトレ | | 229 | 258 |
| ド イ ツ 語 特 修 1 b | 2 | 2 | 水・4 | | 全II～IV | ジモン・エルトレ | | 230 | 259 |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|-----------------------|-----------|-----|-----------|-----|------------|----------|--------|-----------|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| ドイツ語特修 2 | 2 | 2 | | 水・4 | 全Ⅱ～Ⅳ | ジモン・エルトレ | | 231 | 260 | |
| ドイツ語特修 3 a | 2 | 2 | 木・2 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 竹内 一高 | | 232 | 260 | |
| ドイツ語特修 3 b | 2 | 2 | 木・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 田島 昭洋 | | 233 | 261 | |
| ドイツ語特修 4 | 2 | 2 | | 木・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | 竹内 一高 | | 234 | 262 | |
| ドイツ語特修 5 | 2 | 2 | 木・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 竹内 一高 | | 235 | 263 | |
| ドイツ語特修 6 | 2 | 2 | | 木・2 | 全Ⅱ～Ⅳ | 竹内 一高 | | 236 | 264 | |
| ドイツ語特修 7 | 2 | 2 | 金・4 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 江川 英明 | | 237 | 265 | |
| ドイツ語特修 8 | 2 | 2 | | 金・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | 中村 恵 | | 238 | 265 | |
| ドイツ語特修 9 | 2 | 2 | 金・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 中村 恵 | | 239 | 266 | |
| ドイツ語特修 10 | 2 | 2 | | 金・4 | 全Ⅱ～Ⅳ | 江川 英明 | | 240 | 267 | |
| フ ラ ン ス 語 | フランス語基礎 1 | 2 | 1 | 月・1 | | E I | 久後 貴行 | | 241 | 269 |
| | | | | 月・1 | | J I | 藤本 智成 | | 241 | 269 |
| | | | | 月・2 | | C I | 辻 昌子 | | 241 | 269 |
| | | | | 月・2 | | L I a | 福島 祥行 | | 241 | 269 |
| | | | | 月・2 | | L I b | 原野 葉子 | | 241 | 269 |
| | | | | 月・3 | | S I | 久後 貴行 | | 241 | 269 |
| | | | | 月・3 | | M I | 藤田 あゆみ | | 241 | 269 |
| | | | | 月・3 | | H I a | 辻 昌子 | | 241 | 269 |
| | | | | 月・3 | | H I b | 酒井 美貴 | | 241 | 269 |
| | | | | 月・4 | | T N I | 酒井 美貴 | | 241 | 269 |
| フ ラ ン ス 語 | フランス語基礎 2 | 2 | 1 | 水・1 | | C I | 鈴木田 研二 | | 242 | 270 |
| | | | | 水・1 | | L I a | 大山 大樹 | | 242 | 270 |
| | | | | 水・1 | | L I b | 福島 祥行 | | 242 | 270 |
| | | | | 水・2 | | E I | 秋吉 孝浩 | | 242 | 270 |
| | | | | 水・2 | | J I | 鈴木田 研二 | | 242 | 270 |
| | | | | 水・3 | | T N I | 小林 裕史 | | 242 | 270 |
| | | | | 水・4 | | S I | 原野 葉子 | | 242 | 270 |
| | | | | 水・4 | | M I | 小林 裕史 | | 242 | 270 |
| | | | | 水・4 | | H I a | 藤田 あゆみ | | 242 | 270 |
| | | | | 水・4 | | H I b | 大山 大樹 | | 242 | 270 |
| フ ラ ン ス 語 | フランス語基礎 3 | 2 | 1 | | 月・1 | E I | 久後 貴行 | | 243 | 271 |
| | | | | | 月・1 | J I | 藤本 智成 | | 243 | 271 |
| | | | | | 月・2 | C I | 辻 昌子 | | 243 | 271 |
| | | | | | 月・2 | L I a | 原野 葉子 | | 243 | 271 |
| | | | | | 月・2 | L I b | 白田 由樹 | | 243 | 271 |
| | | | | | 月・3 | S I | 久後 貴行 | | 243 | 271 |
| | | | | | 月・3 | M I | 藤田 あゆみ | | 243 | 271 |
| | | | | | 月・3 | H I a | 酒井 美貴 | | 243 | 271 |
| | | | | | 月・3 | H I b | 辻 昌子 | | 243 | 271 |
| | | | | | 月・4 | T N I | 酒井 美貴 | | 243 | 271 |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|-----------------------|-------------|-----|-----------|-----|------------|-------|----------|-----------|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| フ ラ ン ス 語 | フランス語基礎 4 | 2 | 1 | | 水・1 | C I | 鈴木田 研二 | | 244 | 272 |
| | | | | | 水・1 | L I a | 白田 由樹 | | 244 | 272 |
| | | | | | 水・1 | L I b | 福島 祥行 | | 244 | 272 |
| | | | | | 水・2 | E I | 秋吉 孝浩 | | 244 | 272 |
| | | | | | 水・2 | J I | 鈴木田 研二 | | 244 | 272 |
| | | | | | 水・3 | TN I | 小林 裕史 | | 244 | 272 |
| | | | | | 水・4 | S I | 原野 葉子 | | 244 | 272 |
| | | | | | 水・4 | M I | 小林 裕史 | | 244 | 272 |
| | | | | | 水・4 | H I a | 白田 由樹 | | 244 | 272 |
| | | | | | 水・4 | H I b | 藤田 あゆみ | | 244 | 272 |
| ン | フランス語応用 1 A | 2 | 1 | 金・3 | | J I | 藤澤 秀平 | | 245 | 274 |
| | | | | 金・4 | | L I a | 藤本 智成 | | 245 | 274 |
| | | | | 金・4 | | L I b | 大山 大樹 | | 245 | 274 |
| ス | フランス語応用 2 A | 2 | 1 | | 金・3 | J I | 藤澤 秀平 | | 246 | 275 |
| | | | | | 金・4 | L I a | 大山 大樹 | | 246 | 275 |
| | | | | | 金・4 | L I b | 藤本 智成 | | 246 | 275 |
| 語 | フランス語応用 1 B | 2 | 1 | 火・2 | | C II | 秋吉 孝浩 | | 247 | 276 |
| | フランス語応用 2 B | 2 | 1 | | 火・2 | C II | 岩本 篤子 | | 248 | 277 |
| | フランス語特修 1 | 2 | 2 | 火・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 岩本 篤子 | | 249 | 278 |
| | フランス語特修 2 | 2 | 2 | | 火・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | 岩本 篤子 | | 250 | 278 |
| | フランス語特修 3 | 2 | 2 | 火・4 | | 全Ⅱ～Ⅳ | ロラン・バレイユ | | 251 | 279 |
| | フランス語特修 4 | 2 | 2 | | 火・4 | 全Ⅱ～Ⅳ | 大山 大樹 | | 252 | 280 |
| | フランス語特修 5 | 2 | 2 | 木・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | ロラン・バレイユ | | 253 | 281 |
| | フランス語特修 6 | 2 | 2 | | 木・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | 福島 祥行 | | 254 | 282 |
| | フランス語特修 7 | 2 | 2 | 金・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 藤本 智成 | | 255 | 282 |
| | フランス語特修 8 | 2 | 2 | | 金・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | ロラン・バレイユ | | 256 | 283 |
| 中 国 語 | 中国語基礎 1 | 2 | 1 | 月・1 | | E I a | 秋岡 英行 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・1 | | E I b | 福田 知可志 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・1 | | E I c | 韓 艶玲 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・1 | | E I d | 田渕 欣也 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・1 | | J I a | 大岩本 幸次 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・1 | | J I b | 山口 博子 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・2 | | C I a | 山口 博子 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・2 | | C I b | 秋岡 英行 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・2 | | C I c | 福田 知可志 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・2 | | L I a | 岩本 真理 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・2 | | L I b | 韓 艶玲 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・3 | | MH I | 長谷川 慎 | | 259 | 287 |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|-------------|---------|-----------|-----------|-----|------------|-----------|--------|-----------|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| 中 国 語 | 中国語基礎 1 | 2 | 1 | 月・4 | | T I a | 山口 博子 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・4 | | T I b | 長谷川 慎 | | 259 | 287 |
| | | | | 月・4 | | T I c N I | 田淵 欣也 | | 259 | 287 |
| | 中国語基礎 2 | 2 | 1 | 水・1 | | C I a | 趙 冬輝 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・1 | | C I b | 王 標 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・1 | | C I c | 大野 陽介 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・1 | | L I a | 史 彤春 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・1 | | L I b | 松浦 恆雄 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・2 | | E I a | 王 標 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・2 | | E I b | 史 彤春 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・2 | | E I c | 大野 陽介 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・2 | | E I d | 南 真理 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・2 | | J I a | 田 婧 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・2 | | J I b | 趙 冬輝 | | 260 | 288 |
| | | | | 水・3 | | T I a | 趙 冬輝 | | 260 | 288 |
| 水・3 | | T I b | 史 彤春 | | 260 | 288 | | | | |
| 水・3 | | T I c N I | 田 婧 | | 260 | 288 | | | | |
| 水・4 | | M H I | 田 婧 | | 260 | 288 | | | | |
| 中 国 語 | 中国語基礎 3 | 2 | 1 | 月・1 | | E I a | 秋岡 英行 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・1 | | E I b | 福田 知可志 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・1 | | E I c | 韓 艶玲 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・1 | | E I d | 田淵 欣也 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・1 | | J I a | 大岩本 幸次 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・1 | | J I b | 山口 博子 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・2 | | C I a | 山口 博子 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・2 | | C I b | 秋岡 英行 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・2 | | C I c | 福田 知可志 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・2 | | L I a | 岩本 真理 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・2 | | L I b | 韓 艶玲 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・3 | | M H I | 長谷川 慎 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・4 | | T I a | 山口 博子 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・4 | | T I b | 長谷川 慎 | | 261 | 289 |
| | | | | 月・4 | | T I c N I | 田淵 欣也 | | 261 | 289 |
| 中 国 語 | 中国語基礎 4 | 2 | 1 | 水・1 | | C I a | 趙 冬輝 | | 262 | 290 |
| | | | | 水・1 | | C I b | 王 標 | | 262 | 290 |
| | | | | 水・1 | | C I c | 大野 陽介 | | 262 | 290 |
| | | | | 水・1 | | L I a | 史 彤春 | | 262 | 290 |
| | | | | 水・1 | | L I b | 松浦 恆雄 | | 262 | 290 |
| | | | | 水・2 | | E I a | 王 標 | | 262 | 290 |
| | | | | 水・2 | | E I b | 史 彤春 | | 262 | 290 |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|------------------|-----------|-----|-----------|-----|------------|-----------|-------------|-----------|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| 中 国 語 | 中国語基礎 4 | 2 | 1 | | 水・2 | E I c | 大野 陽介 | | 262 | 290 |
| | | | | | 水・2 | E I d | 南 真理 | | 262 | 290 |
| | | | | | 水・2 | J I a | 田 婧 | | 262 | 290 |
| | | | | | 水・2 | J I b | 松浦 恆雄 | | 262 | 290 |
| | | | | | 水・3 | T I a | 趙 冬輝 | | 262 | 290 |
| | | | | | 水・3 | T I b | 史 彤春 | | 262 | 290 |
| | | | | | 水・3 | T I c N I | 田 婧 | | 262 | 290 |
| | | | | | 水・4 | M H I | 田 婧 | | 262 | 290 |
| | 中国語応用 1 A | 2 | 1 | 金・3 | | J I a | 王 標 | | 263 | 291 |
| | | | | 金・3 | | J I b | 馮 艶 | | 263 | 291 |
| | | | | 金・4 | | L I a | 范 紫江 | | 263 | 291 |
| | | | | 金・4 | | L I b | 馮 艶 | | 263 | 291 |
| | 中国語応用 2 A | 2 | 1 | | 金・3 | J I a | 王 標 | | 264 | 292 |
| | | | | | 金・3 | J I b | 馮 艶 | | 264 | 292 |
| | | | | | 金・4 | L I a | 范 紫江 | | 264 | 292 |
| | | | | | 金・4 | L I b | 馮 艶 | | 264 | 292 |
| | 中国語応用 1 B | 2 | 1 | 火・2 | | C II a | 田淵 欣也 | | 265 | 293 |
| | | | | 火・2 | | C II b | 張 新民 | | 265 | 293 |
| | | | | 火・2 | | C II c | 大岩本 幸次 | | 265 | 293 |
| | 中国語応用 2 B | 2 | 1 | | 火・2 | C II a | 田淵 欣也 | | 266 | 294 |
| | | | | | 火・2 | C II b | 張 新民 | | 266 | 294 |
| | | | | | 火・2 | C II c | 大岩本 幸次 | | 266 | 294 |
| | 中国語特修 1 | 2 | 2 | 月・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 韓 艶玲 | | 267 | 295 |
| | 中国語特修 2 | 2 | 2 | | 月・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | 韓 艶玲 | | 268 | 296 |
| | 中国語特修 3 | 2 | 2 | 火・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 岩本 真理 | | 269 | 296 |
| | 中国語特修 4 | 2 | 2 | | 火・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | 岩本 真理 | | 270 | 297 |
| | 中国語特修 5 | 2 | 2 | 水・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 南 真理 | | 271 | 298 |
| 中国語特修 6 | 2 | 2 | | 水・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | 南 真理 | | 272 | 299 | |
| 中国語特修 7 | 2 | 2 | 木・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 張 新民 | | 273 | 299 | |
| 中国語特修 8 | 2 | 2 | | 木・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | 張 新民 | | 274 | 300 | |
| 中国語特修 9 | 2 | 2 | 金・3 | | 全Ⅱ～Ⅳ | 范 紫江 | | 275 | 301 | |
| 中国語特修 10 | 2 | 2 | | 金・3 | 全Ⅱ～Ⅳ | 范 紫江 | | 276 | 302 | |
| ロ シ ア 語 | ロシア語基礎 1 | 2 | 1 | 月・2 | | TH I | 江村 公 | | 277 | 303 |
| | | | | 月・3 | | CEJLSMN I | バクン・エレーナ | | 277 | 303 |
| | ロシア語基礎 2 | 2 | 1 | 水・1 | | TH I | ズマグロワ・アイヌーラ | | 278 | 304 |
| | | | | 水・4 | | CEJLSMN I | 江村 公 | | 278 | 304 |
| | ロシア語基礎 3 | 2 | 1 | | 月・2 | TH I | 江村 公 | | 279 | 305 |
| | | | | | 月・3 | CEJLSMN I | バクン・エレーナ | | 279 | 305 |
| | ロシア語基礎 4 | 2 | 1 | | 水・1 | TH I | ズマグロワ・アイヌーラ | | 280 | 305 |
| | | | | | 水・4 | CEJLSMN I | 江村 公 | | 280 | 305 |

| 科 目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配 当 クラス | 担当教員 | 備 考 | 掲載 No. | 頁 | |
|--------|----------|-----|-----------|-----|------------|--------|-------------|-----------|-----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | | | | | | |
| ロシア語 | ロシア語応用1A | 2 | 1 | 金・4 | | 全I | ズマグロワ・アイヌーラ | | 281 | 306 |
| | ロシア語応用2A | 2 | 1 | | 金・4 | 全I | ズマグロワ・アイヌーラ | | 282 | 307 |
| | ロシア語応用1B | 2 | 1 | 月・4 | | 全II | バクン・エレーナ | | 283 | 308 |
| | ロシア語応用2B | 2 | 1 | | 月・4 | 全II | バクン・エレーナ | | 284 | 309 |
| | ロシア語特修1 | 2 | 2 | 水・3 | | 全II～IV | 江村 公 | | 285 | 310 |
| | ロシア語特修2 | 2 | 2 | | 水・3 | 全II～IV | 江村 公 | | 286 | 311 |
| | ロシア語特修3 | 2 | 2 | 金・3 | | 全II～IV | ズマグロワ・アイヌーラ | | 287 | 311 |
| | ロシア語特修4 | 2 | 2 | | 金・3 | 全II～IV | ズマグロワ・アイヌーラ | | 288 | 312 |
| 朝鮮語 | 朝鮮語基礎1 | 2 | 1 | 月・2 | | CT I | 野崎 充彦 | | 289 | 314 |
| | | | | 月・3 | | EMHN I | 野崎 充彦 | | 289 | 314 |
| | | | | 月・4 | | JL I | 野崎 充彦 | | 289 | 314 |
| | 朝鮮語基礎2 | 2 | 1 | 水・3 | | CT I | 北島 由紀子 | | 290 | 315 |
| | | | | 水・4 | | EMHN I | 北島 由紀子 | | 290 | 315 |
| | | | | 水・4 | | JL I | 金 宝英 | | 290 | 315 |
| | 朝鮮語基礎3 | 2 | 1 | | 月・2 | CT I | 野崎 充彦 | | 291 | 315 |
| | | | | | 月・3 | EMHN I | 野崎 充彦 | | 291 | 315 |
| | | | | | 月・4 | JL I | 野崎 充彦 | | 291 | 315 |
| | 朝鮮語基礎4 | 2 | 1 | | 水・3 | CT I | 北島 由紀子 | | 292 | 316 |
| | | | | | 水・4 | EMHN I | 北島 由紀子 | | 292 | 316 |
| | | | | | 水・4 | JL I | 金 宝英 | | 292 | 316 |
| | 朝鮮語応用1A | 2 | 1 | 木・3 | | 全I | 金 静愛 | | 293 | 317 |
| | 朝鮮語応用2A | 2 | 1 | | 木・3 | 全I | 金 静愛 | | 294 | 318 |
| | 朝鮮語応用1B | 2 | 1 | 木・4 | | 全II | 金 静愛 | | 295 | 319 |
| | 朝鮮語応用2B | 2 | 1 | | 木・4 | 全II | 金 静愛 | | 296 | 320 |
| 朝鮮語特修1 | 2 | 2 | 火・3 | | 全II～IV | 野崎 充彦 | | 297 | 321 | |
| 朝鮮語特修2 | 2 | 2 | 水・3 | | 全II～IV | 金 宝英 | | 298 | 321 | |
| 朝鮮語特修3 | 2 | 2 | | 火・3 | 全II～IV | 野崎 充彦 | | 299 | 322 | |
| 朝鮮語特修4 | 2 | 2 | | 水・3 | 全II～IV | 金 宝英 | | 300 | 323 | |
| 日本語 | 日本語1A | 2 | 1 | 月・3 | | 全 | 堀 まどか | | 301 | 324 |
| | 日本語1B | 2 | 1 | | 月・3 | 全 | 堀 まどか | | 302 | 325 |
| | 日本語2A | 2 | 1 | 火・3 | | 全 | 坂本 美加 | | 303 | 326 |
| | 日本語2B | 2 | 1 | | 火・3 | 全 | 坂本 美加 | | 304 | 327 |
| | 日本語3A | 2 | 1 | 月・2 | | 全 | 堀 まどか | | 305 | 327 |
| | 日本語3B | 2 | 1 | | 月・2 | 全 | 堀 まどか | | 306 | 328 |
| | 日本語4A | 2 | 1 | 火・4 | | 全 | 坂本 美加 | | 307 | 329 |
| | 日本語4B | 2 | 1 | | 火・4 | 全 | 坂本 美加 | | 308 | 330 |
| | 日本語5A | 2 | 1 | 金・2 | | 全 | 高坂 史朗 | | 309 | 331 |
| | 日本語5B | 2 | 1 | | 金・2 | 全 | 高坂 史朗 | | 310 | 331 |

○健康スポーツ科学科目
(健康スポーツ科学講義)

| 授業形態 | 科目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載No. | 頁 |
|------|------------|------|-----|-----------|-----|-------|-------|----|-------|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 講義 | 健康運動科学 | 2 | 2 | 木・3 | | 全 | 渡辺 一志 | | 311 | 336 |
| | 健康運動科学 | 2 | 2 | 木・4 | | 全 | 横山 久代 | | 312 | 337 |
| | 健康運動科学 | 2 | 2 | | 木・3 | 全 | 渡辺 一志 | | 311 | 336 |
| | 健康運動科学 | 2 | 2 | | 木・4 | 全 | 横山 久代 | | 312 | 337 |
| | スポーツ実践科学 | 2 | 2 | 木・2 | | 全 | 鈴木 雄太 | | 313 | 338 |
| | スポーツ実践科学 | 2 | 2 | 木・3 | | 全 | 荻田 亮 | | 314 | 338 |
| | スポーツ実践科学 | 2 | 2 | | 木・4 | 全 | 荻田 亮 | | 314 | 338 |
| | 体力トレーニング科学 | 2 | 2 | 火・2 | | 全 | 岡崎 和伸 | | 315 | 339 |
| | 体力トレーニング科学 | 2 | 2 | | 火・2 | 全 | 岡崎 和伸 | | 315 | 339 |
| | 体力トレーニング科学 | 2 | 2 | | 木・3 | 全 | 今井 大喜 | | 316 | 339 |

(健康スポーツ科学実習)

| 授業形態 | 科目 | 週時間数 | 単位数 | 開講期・曜日・時限 | | 配当クラス | 担当教員 | 備考 | 掲載No. | 頁 |
|----------|--------------|------|-----|-----------|-----|-------|-------|-----|-------|-----|
| | | | | 前期 | 後期 | | | | | |
| 実習 | アーチェリー 1 | 2 | 1 | 火・3 | | 全 | 渡辺 一志 | | 317 | 340 |
| | アーチェリー 1 | 2 | 1 | 火・4 | | 全 | 渡辺 一志 | | 317 | 340 |
| | アーチェリー 1 | 2 | 1 | 木・1 | | 全 | 渡辺 一志 | | 317 | 340 |
| | アーチェリー 1 | 2 | 1 | | 火・4 | 全 | 渡辺 一志 | | 317 | 340 |
| | アーチェリー 2 | 2 | 1 | | 火・3 | 全 | 渡辺 一志 | | 318 | 341 |
| | ゴルフ 1 | 2 | 1 | 火・3 | | 全 | 上野 聖志 | | 319 | 341 |
| | ゴルフ 1 | 2 | 1 | 火・4 | | 全 | 上野 聖志 | | 319 | 341 |
| | ゴルフ 1 | 2 | 1 | | 火・3 | 全 | 上野 聖志 | | 319 | 341 |
| | ゴルフ 1 | 2 | 1 | | 火・4 | 全 | 上野 聖志 | | 319 | 341 |
| | サッカー 1 | 2 | 1 | 火・3 | | 全 | 今井 大喜 | | 320 | 342 |
| | サッカー 1 | 2 | 1 | 火・4 | | 全 | 今井 大喜 | | 320 | 342 |
| | サッカー 1 | 2 | 1 | | 火・3 | 全 | 今井 大喜 | | 320 | 342 |
| | サッカー 1 | 2 | 1 | | 火・4 | 全 | 今井 大喜 | | 320 | 342 |
| | ジョギング・マラソン 1 | 2 | 1 | 火・3 | | 全 | 岡崎 和伸 | | 321 | 343 |
| | ジョギング・マラソン 1 | 2 | 1 | 火・4 | | 全 | 岡崎 和伸 | | 321 | 343 |
| | ジョギング・マラソン 1 | 2 | 1 | 木・2 | | 全 | 岡崎 和伸 | | 321 | 343 |
| | ジョギング・マラソン 1 | 2 | 1 | | 火・3 | 全 | 岡崎 和伸 | | 321 | 343 |
| | ジョギング・マラソン 2 | 2 | 1 | | 火・4 | 全 | 岡崎 和伸 | | 322 | 344 |
| | ソフトボール 1 | 2 | 1 | 火・2 | | 全 | 加藤 由香 | | 323 | 344 |
| | ソフトボール 1 | 2 | 1 | 火・3 | | 全 | 加藤 由香 | | 323 | 344 |
| ソフトボール 1 | 2 | 1 | 木・3 | | 全 | 今井 大喜 | | 324 | 345 | |
| ソフトボール 1 | 2 | 1 | 木・4 | | 全 | 鈴木 雄太 | | 325 | 346 | |
| ソフトボール 2 | 2 | 1 | 火・4 | | 全 | 加藤 由香 | | 326 | 346 | |
| タグラグビー 1 | 2 | 1 | 火・3 | | 全 | 鈴木 雄太 | | 327 | 347 | |

参考(1)

平成30年度 新設科目等について

下記のとおり、平成30年度から科目を新設、廃止および科目名変更を行います。

| 新設・廃止・変更 | 教科 | 科目群 | 主題 | 科目名 |
|----------|-----------|-------|---------|---|
| 廃止 | 総合教育科目 A | | 生命と人間 | 光と生命 |
| 新設 | 総合教育科目 A | | 生命と人間 | 生命と環境 |
| 新設 | 総合教育科目 A | | 特別枠 | 国際ビジネス演習 |
| 廃止 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 現代社会と人間 | 現代文化の社会学（演習） |
| 廃止 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 現代社会と人間 | 現代の社会問題（演習） |
| 変更 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 現代社会と人間 | 【変更前】教育と発達心理学 【変更後】教育と発達心理学(発達心理学) |
| 変更 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 現代社会と人間 | 【変更前】行動と学習の心理 【変更後】行動と学習の心理(学習・言語心理学) |
| 変更 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 現代社会と人間 | 【変更前】心理学・認知科学と人間 【変更後】心理学・認知科学と人間(心理学概論) |
| 変更 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 現代社会と人間 | 【変更前】心理学への招待 【変更後】心理学への招待(心理学概論) |
| 変更 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 現代社会と人間 | 【変更前】性格心理学入門 【変更後】性格心理学入門(感情・人格心理学) |
| 変更 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 現代社会と人間 | 【変更前】認知のしくみ 【変更後】認知のしくみ(知覚・認知心理学) |
| 変更 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 現代社会と人間 | 【変更前】文化と社会の心理 【変更後】文化と社会の心理(社会・集団・家族心理学) |
| 廃止 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 社会と人権 | 平和と人権 |
| 廃止 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 社会と人権 | 平和学 |
| 新設 | 総合教育科目 B | 人間と社会 | 社会と人権 | クィアスタディーズ入門 |
| 廃止 | 総合教育科目 B | 歴史と文化 | 地域と文化 | 言語学入門 |
| 変更 | 総合教育科目 B | 自然と人間 | 自然科学と人間 | 【変更前】心と脳 【変更後】心と脳(神経・生理心理学) |
| 廃止 | 基礎教育科目 | 講義 | 地球学 | 建設地学 |
| 新設 | 基礎教育科目 | 講義 | 共通基礎 | 基礎文章力向上セミナー S |
| 新設 | 基礎教育科目 | 講義 | 共通基礎 | 基礎文章力向上セミナー T |
| 新設 | 基礎教育科目 | 講義 | 共通基礎 | 基礎文章力向上セミナー H |
| 廃止 | 基礎教育科目 | 実験 | 化学 | 基礎化学実験Ⅱ |
| 廃止 | 基礎教育科目 | 実験 | 化学 | 化学実験 |
| 廃止 | 基礎教育科目 | 実験 | 地球学 | 建設地学実習 |
| 新設 | 健康・スポーツ科学 | | 実習 | ラージボール卓球 1 |
| 新設 | 健康・スポーツ科学 | | 実習 | フィジカルフィットネスエクササイズ 1 |

下記のとおり、平成29年度から科目を新設、廃止および科目名変更を行います。

| 新設・廃止・変更 | 教科 | 科目群 | 主題 | 科目名 |
|----------|----------|-------|---------|---------|
| 廃止 | 総合教育科目 B | 自然と人間 | 現代の自然科学 | 現代の理学 A |

平成13年度から30年度までの総合教育科目の開講実績一覧

〔科目名は、30年度を基準に記載し、旧科目については、新科目に置き換える。ただし、単位互換科目は、他大学等提供科目を含む〕(○：開講、 — ：未開設を示す)

○総合教育科目 A

| 主 題 | 授 業 科 目 | 13年度 | | 14年度 | | 15年度 | | 16年度 | | 17年度 | | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | | 21年度 | | 22年度 | | 23年度 | | 24年度 | | 25年度 | | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | | 29年度 | | 30年度 | | |
|-------|--------------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|---|---|
| | | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | | | |
| 人間と環境 | 環境と歴史 | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | ○ | |
| | 日本の公害 | ○ | | | ○ | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| | 技術と環境 | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | ○ |
| | 環境と健康 | | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | 開発と環境 | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | 環境と法・行政 | | | | | | | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| | 環境と経済 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| | 人間と居住環境 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| 都市・大阪 | 歴史のなかの大阪 | | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | | ○ | |
| | 大阪の自然 | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | | ○ |
| | 都市生活と人間福祉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | | ○ |
| | 大阪の都市づくり | | | ○ | | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○ | |
| | 都市の経済とビジネス | | | ○ | | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | ○ | |
| | 大阪の地理 | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | ○ | |
| | 現代都市論 | | | ○ | | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | ○ | |
| | 大阪の空間文化論 | | | ○ | | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 国際地域経済と都市 | | | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| | 大阪落語への招待 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| | 都市・地域政策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| | 市大都市研究の最前線 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| | コミュニティ防災 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 生命と人間 | 生と死の倫理 | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | |
| | 戦争と人間 | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○ | | |
| | 生命と進化 | ○ | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | 現代の医療 | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | ○ | |
| | 人体を考える | | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | |
| | 生体のしくみ | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | 生命と法 | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○ | |
| | 健康へのアプローチ | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | 技術と生命 | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | ○ |
| | 生命と環境 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 特別枠 | 大阪市大で学ぶふか | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | 大阪の知(学長特命科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | 国際ビジネス演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |

○総合教育科目B

科目群：人間と社会

| 主題 | 授業科目 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | |
|---------------|-----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| | | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 1部 | 1部 |
| 人間と知識・思想 | 哲学入門 | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | 論理学入門 | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ |
| | 心理学への招待 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 西洋の思想 | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | 東洋の思想 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 論理学の展開 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 認知のしくみ | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ |
| | 文化と社会の心理 | ○ | | ○ | | | | ○ | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| | 性格心理学入門 | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | | | ○ | | | ○ | | ○ |
| | 人間と宗教 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | 倫理学入門 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| | 行動と学習の心理 | ○ | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| | 感覚と知覚の心理 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 対人行動の影響と意味 | | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | ゲームで学ぶ社会行動 | | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 日常の中の不思議を探す(演習) | | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 教育と発達心理学 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 教育と発達心理学(演習) | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| リテラシー教育の思想と方法 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 心理学・認知科学と人間 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 現代社会と人間 | 現代文化の社会学 | | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | 社会科学のフロンティア | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 日本国憲法 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 都市的世界の社会学 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| | 日本と世界の教育 | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | | | | |
| | 宗教と社会 | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 現代社会学入門 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 現代社会問題 | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| | 世界のなかの日本経済 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 現代経済学入門 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 法と社会 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| | 政治と人間 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 現代の経営 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | ○ |
| | 日本の企業 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| | ライフサイクルと教育 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | 現代社会と健康 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 家族と社会 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| メディアの社会学 | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |

| 主題 | 授 業 科 目 | 13年度 | | 14年度 | | 15年度 | | 16年度 | | 17年度 | | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | | 21年度 | | 22年度 | | 23年度 | | 24年度 | | 25年度 | | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | | 29年度 | | 30年度 | | | | | |
|---------------|-----------------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|---|---|---|---|
| | | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | | | | |
| 現代社会と人間 | 現代社会におけるメディア | | | | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | 現代社会と大学 | | | | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | 基礎会計学 | | | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 現代文化の社会学(演習) | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 現代の経営(演習) | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 日本の企業(演習) | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 国際理解と教育(演習) | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 現代の社会問題(演習) | | | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 現代社会と大学(演習) | | | | | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | テークから見る大阪府大(演習) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域実践演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会と人権 | 現代の部落問題 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | メディアと人権 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 部落解放のフロンティア | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | 部落差別の成立と展開 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 世界のマイノリティ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 障がい者と人権Ⅰ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 障がい者と人権Ⅱ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 障がい者と人権 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ジェンダーと現代社会Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ジェンダーと現代社会Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ジェンダーと現代社会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | エスニックスタディ入門 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | エスニックスタディ応用 | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| | 企業と人権 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地球市民と人権 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平和と人権 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平和学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クイアスタディーズ入門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| エスニックスタディ(演習) | ○ | | | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人権と多様性の研究(演習) | | | | | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |

科目群：歴史と文化

| 主題 | 授業科目 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | |
|-----------|---------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| | | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 1部 | 1部 |
| 歴史 | 日本史の見方 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 東洋史の見方 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 西洋史の見方 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 日本社会の歴史 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 東洋社会の歴史 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| | 西洋社会の歴史 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 現代の歴史 | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 考古学入門 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ことばの歴史 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 歴史学の世界(演習) | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| 地域と文化 | 現代の地理学 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 都市の地理学 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| | 文化人類学入門 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 文化コミュニケーション | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 言語学入門 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | ことばと文化 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 環境と文化 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| | アジアの文化 | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 西洋の文化 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 民族と社会 | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 観光研究入門 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 観光と文化 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | アーツマネジメント | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | アジアの地域と文化(演習) | | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| 日本事情 I A | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 日本事情 I B | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 日本事情 II A | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 日本事情 II B | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 文学 | 日本の古典文学 I | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 日本の古典文学 II | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | ○ |
| | 東洋の文学 | | | ○ | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 西洋の文学 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 日本の詩歌 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 日本の近代文学 | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| | 視覚文化の世界 | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| | 芸術の世界 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 美の本質 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 東洋美術の流れ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 西洋美術の流れ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ |

| 主題 | 授業科目 | 13年度 | | 14年度 | | 15年度 | | 16年度 | | 17年度 | | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | | 21年度 | | 22年度 | | 23年度 | | 24年度 | | 25年度 | | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | | 29年度 | | 30年度 | |
|----|-----------------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|--|
| | | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | | |
| | 音楽の諸相 | | | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | 文学と芸術へのいざない(演習) | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |

科目群：自然と人間

| 主題 | 授業科目 | 13年度 | | 14年度 | | 15年度 | | 16年度 | | 17年度 | | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | | 21年度 | | 22年度 | | 23年度 | | 24年度 | | 25年度 | | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | | 29年度 | | 30年度 | |
|-----------|-------------------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|---|
| | | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | | |
| 現代の自然科学 | 数学の考え方1 | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| | 数学の考え方2 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| | ニュートンがアインシュタインへ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | ミクロとマクロの世界 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 化学の世界 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 現代の分子科学 | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| | 新しい動物行動学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | 生物学への招待 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 地球の科学 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 実験で知る自然の世界 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | 体験で知る科学と技術 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地球学入門 | | | | | | | | ○ | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 現代の理学A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自然科学と人間 | 科学と社会 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 現代科学と人間 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | 近代科学の成立 | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| | 日本の科学技術 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | |
| | 心と脳 | | | ○ | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| | ドキュメンタリー-環境と生命 | | | ○ | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| | 実験で知る自然環境と人間 | | | | | | | | ○ | | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| | 森林環境と人間社会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 21世紀の植物科学と食糧-環境問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 植物の機能と人間社会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 植物と人間(演習) | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |

科目群：情報と人間

| 主題 | 授業科目 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | |
|-------|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| | | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 1部 | 1部 |
| 情報と人間 | 情報基礎 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | プログラミング入門 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 情報の探索と利用 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 地図と地理情報 | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | |
| | 情報化の光と影 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 社会と統計 | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | |
| | ジョ・リテラシー入門 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | |

科目群：初年次教育

| 主題 | 授業科目 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|-------|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 1部 |
| 初年次教育 | 初年次セミナー | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

○総合教育科目B
特別枠

| 主題 | 授業科目 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|-----|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 2部 | 1部 | 1部 |
| 特別枠 | 単位互換科目 | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

4. 地域志向系科目

平成27年度以降の入学生のみ、「地域志向系科目」として指定されている科目から、2単位以上を修得することが必要となります。(詳しくは所属学部の履修案内を参照)

地域志向系科目：

医学部生（医学科および看護学科）：医学部の履修案内を参照。

医学部生以外：下記の科目の中から選択。

H30年度「地域志向系科目」

| 科目 | 科目群 | 主題 | 科目名 | 開講期等 |
|--------|-----------|----------|-----------------|-----------|
| 総合教育 A | | ①人間と環境 | 人間と居住環境 | 前期 金・5 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 大阪の都市づくり | 前期 金・5 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 歴史のなかの大阪 | 後期 水・5 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 大阪の自然 | 後期 金・5 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 大阪の地理 | 前期 水・5 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 現代都市論 | 前期 水・4 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 都市の経済とビジネス | 後期 水・4 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 国際地域経済と都市 | 後期 水・4 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 大阪落語への招待 | 前期 水・5 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 都市・地域政策 | 後期 金・3 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | 市大都市研究の最前線 | 後期 金・5 |
| 総合教育 A | | ②都市・大阪 | コミュニティ防災 | 前期 水・5 |
| 総合教育 A | | 特別枠 | 大阪の知（学長特命科目） | 後期 水・5 |
| 総合教育 B | | 人間と社会 | ⑥現代社会と人間 | 都市的世界の社会学 |
| 総合教育 B | ⑥現代社会と人間 | | 現代の社会問題 | 前期 木・2 |
| 総合教育 B | ⑥現代社会と人間 | | データから見る大阪市大（演習） | 後期 木・4 |
| 総合教育 B | ⑦社会と人権 | | 現代の部落問題 | 前期 金・2 |
| 総合教育 B | ⑦社会と人権 | | 部落解放のフロンティア | 後期 金・1 |
| 総合教育 B | ⑦社会と人権 | | 部落差別の成立と展開 | 前期 金・1 |
| 総合教育 B | ⑦社会と人権 | | エスニック・スタディ入門編 | 前期 金・2 |
| 総合教育 B | 歴史と文化 | ⑧歴史 | 日本社会の歴史 | 後期 月・2 |
| 総合教育 B | | ⑨地域と文化 | 現代の地理学 | 後期 木・2 |
| 総合教育 B | | ⑨地域と文化 | 都市の地理学 | 後期 月・3 |
| 総合教育 B | | ⑨地域と文化 | 環境と文化 | 前期 木・4 |
| 総合教育 B | | ⑨地域と文化 | 観光研究入門 | 前期 水・3 |
| 総合教育 B | | ⑨地域と文化 | 観光と文化 | 後期 水・3 |
| 総合教育 B | | ⑨地域と文化 | アーツマネジメント | 前期 月・2 |
| 総合教育 B | 自然と人間 | ⑫自然科学と人間 | 植物と人間（演習） | 前期 集中 |
| 総合教育 B | 情報と人間 | ⑬情報と人間 | ジオ・リテラシー入門 | 前期 集中 |
| 総合教育 B | | ⑬情報と人間 | 地図と地理情報 | 後期 火・2 |
| 総合教育 A | H30年度開講せず | ①人間と環境 | 環境と経済 | 休講 |
| 総合教育 A | H30年度開講せず | ②都市・大阪 | 都市生活と人間福祉 | 休講 |
| 総合教育 A | H30年度開講せず | ②都市・大阪 | 大阪の空間文化論 | 休講 |

Ⅲ 全学共通科目シラバス（講義概要）等

1. 総合教育科目 A

[科目ナンバー : GE GEN 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 環境と歴史 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 大黒 俊二 (文) |
| 1 | 英語表記 | Environment and History | | | | | | |

●科目の主題

環境という視点から世界の歴史をふり返る。人間は環境に規定され、環境に働きかけながら歴史を作ってきた。この当然の事実が意識されるようになってきたのは最近のことにすぎない。長く歴史の主役は人間以外にはないと素朴に信じられてきた。「進歩」、「発展」、「開発」という言葉は、いずれもこうした人間中心史観を表している。しかし人々は、「発展」や「開発」による環境破壊を前にして、ようやく環境に規定された人間の姿に気づくようになってきた。環境が歴史のもう一つの主役として登場してきたのである。こうした視点から過去を見直す試みが「環境史」である。講義では最近の環境史研究の成果を系統的に紹介したい。

●授業の到達目標

環境史は歴史を単純な「進歩」の過程としてはみない。また環境と人間を対等の主役とみなし、環境の中の人間を一つの全体としてあつかう。講義の第一の目的は、こうした「環境の中の人間」という視点から歴史をふり返り、「進歩」の意味を問い直すことである。第二に、環境を「問題」として意識する私たち自身も歴史的存在である。環境はこれまでいかに意識化されてきたか、その軌跡をたどることが第二の目的である。第三に、環境と人間の関係に焦点を合わせると、従来の時代区分は意味をなさなくなる。環境史においては20世紀以後とそれ以前との断絶が決定的な意味をもってくる。環境史における20世紀の意味を問い直すことが第三の目的である。

●授業内容・授業計画

- ①環境と歴史への視点
- ②自然と文化のはざま(1)——黒死病と14世紀の危機
- ③自然と文化のはざま(2)——予防抑制と17世紀の人口
- ④動物裁判とディープ・エコロジー
- ⑤移動と環境変化(1)——コロンブスの交換
- ⑥移動と環境変化(2)——コロンブスの不等価交換
- ⑦移動と環境変化(3)——原生自然と二次的自然
- ⑧地域の環境史(1)——ヴェネツィアとラグーナ
- ⑩地域の環境史(2)——満洲の森
- ⑪地域の環境史(3)——岡山県のはげ山
- ⑫地域の環境史(4)——入江内湖のエコトーン

⑬「日のもとに新しきもの」——20世紀環境史

⑭「自然と権力」——環境史は現代を異化する

⑮環境と歴史への視点、再考

●事前・事後学習の内容

「参考書」として挙げた書物はいずれも本格的な研究書で読み通すのは容易でないが、このうち少なくとも1冊には、部分的でもよいから目を通してほしい。

●評価方法

出席20点、レポート40点、定期試験40点。

●受講生へのコメント

本講義は文字どおり「環境」と「歴史」の双方に関わるが、具体的な内容は歴史の方に重点がある。世界史上のさまざまな事例にふれることになるので、高校世界史のアウトライン程度は復習しておいてほしい。

●教材

教科書：なし

参考書：

1. A. クロスビー (佐々木昭夫訳) 『ヨーロッパ帝国主義の謎－エコロジーから見た10～20世紀－』岩波書店、1998年。
2. D. アーノルド (飯島・川島訳) 『環境と人間の歴史－自然、文化、ヨーロッパの世界的拡張－』新評論、1999年。
3. J. ラートカウ (海老根・森田訳) 『自然と権力』みすず書房、2012年。
4. J. マクニール (梅津・溝口他訳) 『20世紀環境史』名古屋大学出版会、2011年。
5. Ch. C. マン (布施由紀子訳) 『1491－先コロンブス期アメリカ大陸をめぐる新発見－』日本放送出版協会、2007年。
6. Ch. C. マン (布施由紀子訳) 『1493－世界を変えた大陸間の「交換」－』紀伊國屋書店、2016年。
7. 安富歩・深尾葉子編 『「満洲」の成立－森林の消尽と近代空間の形成－』名古屋大学出版会、2009年。
8. 佐野静代 『中近世の村落と水辺の環境史－景観・生業・資源管理－』吉川弘文館、2008年。

[科目ナンバー : GE GEN 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本の公害 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 除本 理史 (商) |
| 2 | 英語表記 | Environmental Pollution in Japan | | | | | | |

●科目の主題

この科目では、日本の公害問題の歴史を学び、今日の環境問題解決のために活かすべき教訓について考える。

●授業の到達目標

この科目では、環境論や環境政策などの学習において、必要な基礎的知識を習得するためのものである。日本の公害問題史に関する基本的知識を習得し、今日の環境問題解決において、市民として何ができるか、考え行動できるようになることをめざす。

●授業内容・授業計画

以下の要領で進める予定である。

1. 戦後日本の公害研究：概観（1～3回）
2. 大気汚染公害と環境再生：西淀川（4～6回）
3. 水俣病事件と「もやい直し」（8～10回）
4. 福島原発事故と日本の公害（11回～）

●事前・事後学習の内容

事前にテキストを熟読するとともに、講義後は、参

考文献を参照し、講義ノートをよく整理すること。

●評価方法

- ① 授業時間中に実施する臨時試験（1回、70%）およびレポート（1回、30%）による。
- ② ポイント加算システムの導入

授業の最後に「質問用紙」に記載してもらう。次回授業冒頭でその一部に回答する。よいペーパーを出したものに、上記①に対して一定の加算を行う。

●受講生へのコメント

- ・授業の進行、教科書、成績評価などについては、第1回目のガイダンスでより詳しく説明する。
- ・1点だけあらかじめ述べれば、履修者には、授業時間中に講義をよく聞き自らノートをまとめる力が求められるので、そのことを履修の要件として十分考慮すること。

●教材

- ・除本理史『公害から福島を考える』岩波書店、2016年

[科目ナンバー : GE GEN 01 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 開発と環境 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 森脇 祥太 (経) |
| 3 | 英語表記 | Development and Environment | | | | | | |

●科目の主題

本授業では、経済発展と環境の関係について理論的・実証的な説明を行う。

●授業の到達目標

経済発展についての理解を深め、「持続的な発展」のための方法について考察出来るようになること。

●授業内容・授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 経済発展とは何か
- 第3回 近代経済成長
- 第4回 人口増加と環境問題
- 第5回 産業構造変化
- 第6回 緑の革命と農業発展
- 第7回 農業発展と環境問題
- 第8回 輸入代替工業化
- 第9回 輸出志向工業化
- 第10回 工業化と環境問題
- 第11回 地球温暖化

- 第12回 近代経済成長以前の環境問題
- 第13回 アジア諸国の環境問題
- 第14回 アフリカ諸国の環境問題
- 第15回 持続可能な発展とは

なお、授業計画は予告なく変更されることがある。

●事前・事後学習の内容

- ・授業で使用する資料は全て授業支援システムのムードルに掲載します。事前・事後学習に役立てて下さい。 <https://moodle.ex.media.osaka-cu.ac.jp/>

●評価方法

- ・期末試験 100%
- ・小テストを行う。

●受講生へのコメント

- ・受講生が少ない場合、ゼミ形式で授業を行う。
- ・私語や携帯電話の使用など、他の学生の迷惑となる行為を行った場合は失格にする。

●教材

- ・開講後に指示する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 06 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 人間と居住環境 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 渡部 嗣道 (生) 他 |
| 4 | 英語表記 | Life and Residential Environment | | | | | | |

●科目の主題

私たちを取り巻く居住環境は、日常生活が舞台となるため、さまざまな社会問題、環境課題と密接な関係がある。本講義では、高齢化や地球温暖化の中で、安全に安心して、そして快適に生活するために、居住環境に関連して必要となる多様な知識や実践例について学ぶ。

●授業の到達目標

居住環境学においては、生活者としての視点を持つことが重要である。その視点を通じて、人間とそれを取り巻く居住環境に対する今日の課題や今後の展望について理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義します。

- 第1回 ガイダンス マンションの寿命 (渡部嗣道)
- 第2回 超高層マンションを考える (辻英一)
- 第3回 (山浦晋弘)
- 第4回 エイジング・イン・プレイスと福祉転用1 (森一彦)
- 第5回 エイジング・イン・プレイスと福祉転用1 (加藤悠介)
- 第6回 エイジング・イン・プレイスと福祉転用3 (森一彦・加藤悠介)
- 第7回 変わる家族と住まい (小伊藤亜希子)
- 第8回 母子世帯の住まいと生活事情 (葛西リサ)
- 第9回 協同して住む：高齢期の住まいの選択 (上野勝代)
- 第10回 空き家を取り巻く現状と再生 (松下大輔)
- 第11回 京都の町屋再生 (Geoffrey P. Moussas)

第12回 居住環境のリノベーション (弥田俊男)

第13回 人間と色彩環境：基礎編 (酒井英樹)

第14回 人間と色彩環境：応用編 (片山一郎)

第15回 試験 (渡部嗣道 松下大輔)

●事前・事後学習の内容

授業内容に関して、事前に文献調査などによって学習しておくこと。事後学習として、実施された授業を複数するとともに、事前学習に対する補足調査を行うこと。

●評価方法

期末の筆記試験を原則とするが、講義内容によって小テストまたはレポートを課す場合がある。採点する小テストまたはレポート課題を課した場合、ひとつの課題について14分の1の配点を行う。最高点を100点として、60点以上を合格とする。追試等は原則として一切行わない。

●受講生へのコメント

非常勤講師を含む教員によるオムニバス形式で行いますが、講師の都合により授業の順番が前後することがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の講義出席が前提であり、出された小テストや課題について、積極的に取り組んで欲しい。また、日頃から居住環境について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望む。

●教材

講義では、プロジェクターやOHP、スライド、ビデオ等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリントを配布や、参考文献の紹介を行う。

[科目ナンバー : GE GEN 01 09 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 歴史のなかの大阪 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 塚田 孝 (文) |
| 5 | 英語表記 | History of Osaka | | | | | | |

●科目の主題

「近世都市大阪の社会組織と民衆生活」

豊臣秀吉の大坂城とその城下町建設に始まる近世（江戸時代）の大坂は、現代都市大阪につながってくる直接の基点である。しかし、一方で、近世の大坂に生きた人々は、現在のわれわれの生活感覚とは異質な面も多い。この講義では、現代の基点である側面と異質な側面を意識しつつ、豊臣期から近世にかけての大坂の社会組織と民衆生活にしぼって紹介する。

●授業の到達目標

近世大阪の都市社会の基本的なことを理解する。それを通して、私たちが現在くらしている現代都市大阪について、過去との共通性・異質性の両面から相対化して考えられるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

この講義では、はじめに舞台となる大阪の都市空間の形成過程と構造について触れ、その後は、都市社会の主人公である都市民衆の生活に光を当てていく。その際、都市の住民生活の基礎単位である「町」に着目して、町の構造と機能をベースにしながら、そこで生きた家持や借屋などの生活をうかがっていく。

なお、各回の講義では、鍵となる近世の史料（活字）を入り口として話を進める。これにより大阪の歴史をより身近に感じてもらえればと思っている。

- ①三郷絵図…大坂の広がりりと三郷
 - ②安井家の由緒書…道頓堀の開発と惣年寄
 - ③水帳（土地台帳）と宗旨人別帳…町の空間と住民構成
 - ④町掟（町法）…自律的な共同組織としての町
 - ⑤孝子褒賞と忠勤褒賞…都市民衆の生活世界を探る
 - ⑥裏借屋の人びと…小営業と働き渡世、女性の活計
 - ⑦大店の盛衰…職人と商人
 - ⑧まとめ…近世から近代へ
- 各テーマについて1～2回程度で進めていくつもり

である。講義の前半では、毎回、『史料から読む近世大坂《試行版》』に収録する史料1～2点を取り上げる。後半では、孝子・忠勤褒賞の事例から民衆生活を窺う。重点的に述べる部分では、最先端の学説なども紹介するつもりなので、歴史学という学問の方法の一端にも触れてもらえればと思う。なお、授業の一環として、大阪歴史博物館の見学会を実施する（例年は、授業期間中の土曜日もしくは日曜日に実施）。

●事前・事後学習の内容

授業前半では、事前に、テキスト『史料から読む近世大坂《試行版》』に収録している史料の積文・現代語訳・語句説明を読んで、自分なりに史料の概要を把握しておく。授業後には、各史料の解説で書かれていることを参照して、講義内容の定着を図る。授業後半の孝子・忠勤褒賞については、テキスト『大坂 民衆の近世史』の予習を求め、授業後には配布した関連史料の復習によって講義内容の定着を図る。なお、翌週の授業で前週の講義内容に関わることを質問し、コミュニケーションカードで回答を求める。

●評価方法

授業中に行なう中テスト、レポート、コミュニケーションカード（各回の理解度）などで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

身近な大阪に関する講義なので、話に出てきた場所（史跡など）に自ら足を運んでみるくらいの積極的な姿勢で受講してほしい。

●教材

教科書：『史料から読む近世大坂《試行版》』2012年
塚田孝『大坂 民衆の近世史－老いと病・生業・下層社会』ちくま新書、2017年
参考書：塚田孝『歴史のなかの大阪』岩波書店、2002年

[科目ナンバー : GE GEN 01 12 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|--------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 大阪の自然 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 三田村 宗樹 (理) 他 |
| 6 | 英語表記 | Natural History in and around Osaka Plain | | | | | | |

●科目の主題

大阪およびその周辺に広がる現在の自然環境は、地

球の歴史の変遷の結果として成立したものである。私たちが生活している大阪平野は、もっとも新しい地質

都市・大阪

時代の新生代第四紀(260万年前から現在まで)に形成されてきた。したがって、第四紀は現在の自然を知るうえで重要である。とくに平野やその周辺を構成する各種の地盤は人間生活や災害にも密接に関係している。このような環境は、大阪にとどまらず、日本各地の海岸平野に立地する大都市周辺にも共通した状況でもある。

この授業では、大阪平野とそれをとりまく地域の地形・地質の形成史や植生変遷について解説し、われわれの生活との関係について考える。

●授業の到達目標

大阪の立地する大阪平野の形成史や自然環境の変遷の理解をつうじて、現在の都市大阪とその周辺の自然の位置づけや地盤災害との関係についての素養を深める。

●授業内容・授業計画

1. 大阪平野とその周辺の地形配置および構成地質とその変遷 (三田村担当)
 - (1) 地形配置とそれを構成する地質の特徴 (1回)
 - (2) 丘陵の地質 丘陵地を構成する地層とその成り立ちと第四紀の自然環境の変遷 (3回)
 - (3) 平野の地質 縄文海進と平野の形成史 (2回)
 - (4) 地盤災害に関係する平野の地層の特性 (2回)
 - (5) 山地と低地間に介在する活断層と地震 (2回)
2. 大阪周辺の森林植生とその変遷史(塚腰 実担当)

- (1) 化石植物群：メタセコイア化石植物群, 第四紀化石植物群の特徴、古気候の変遷と古植生 (3回)。
- (2) 現在の森林植生：植生の類型区分と分布、植生の遷移と二次林、人工林、人類が与えた植生への影響 (2回)。

●事前・事後学習の内容

月に1～2回程度、大阪周辺の博物館・植物園を訪れ、授業に関する事前学習を行う。博物館や植物園での事前学習の内容については、事前に指示し、その理解については、課題レポートで確認する。

●評価方法

事前学習に関わる課題レポート(50点)と期末試験(50点)で評価する。

●受講生へのコメント

講義は地学分野からみた「大阪の自然」が中心であるが、地学の基本的な考え方も含めて授業を行うので、高校での地学の履修の有無を問わない。

●教材

主な参考書：地学団体研究会大阪支部編『関西自然史ハイキング』創元社、同『大地のおいたち』築地書館、梶山・市原著『大阪平野のおいたち』青木書店)、大阪市立自然史博物館展示解説第13集『ネイチャースクエア 大阪の自然誌』、大阪市立自然史博物館特別展解説書『氷河時代』。

[科目ナンバー : GE GEN 01 13.CO]

| | | | | | | | | |
|-----------|------|--|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 7 | 科目名 | 大阪の都市づくり | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 徳尾野 徹 (工) 他 |
| | 英語表記 | Urban Planning and Construction on "Osaka" | | | | | | |

●科目の主題

都市大阪は、古代からわが国の、あるいは近畿圏の中心として、また東アジアをはじめとする国際拠点として、その立地条件を活かしつつ、上町台地を中心に先端的都市づくりを行ってきた。この歴史的試算とそこで培われてきた個性を継承しつつ、現代の都市大阪では、グローバル化と社会経済の変化、特に東京及び関東圏への一極集中が強まる中においても、269.1万人の常住人口と354.3万人の昼間人口(2015年国勢調査)の多様な活動が活発に行われている。

本科目は、我が国で最も昼間人口比率が高く、それ故、複合化・高度化する都市大阪の活動を支える都市基盤システム、並びに人々の活動と住まいの場を快適に整える都市空間の計画・設計について、5つのテーマ(安全、循環、流動、水と緑、居住)を設けて講義する。それぞれ第一線で活躍する専門家が担当し、最新の情報とその具体例を通して各テーマの基礎知識をわかりやすく解説する。

●授業の到達目標

テーマ毎に専任講師と大阪市の担当者が学術と実務の両側面から講義することで、大阪の都市づくりの沿革とそこでの種々の課題を実践的に学び、将来の大阪の都市像を描く素養を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- ①ガイダンス・都市大阪の沿革
徳尾野 徹 (建築学科)
倉方 俊輔 (建築学科)
- ②災害から都市を守る (その1) 地震と火災
橋口 博之【大阪市消防局】
- ③災害から都市を守る (その2) 台風
谷口 徹郎 (建築学科)
- ④資源を循環させる (その1) エネルギーのシステム
西村 伸也 (機械工学科)
- ⑤資源を循環させる (その2) 都市廃棄物のシステム

- 水谷 聡 (都市学科)
- ⑥人・物を物流させる (その1) 都市港湾のシステム
田中 利光【大阪市港湾局】
 - ⑦人・物を物流させる (その2) 都市交通のシステム
内田 敬 (都市学科)
 - ⑧都市計画
嘉名 光市 (都市学科)
 - ⑨水と緑に親しむ (その1) 水辺の空間
重松 孝昌 (都市学科)
 - ⑩水と緑に親しむ (その2) 緑豊かな環境
松本 直己【大阪市建設局】
 - ⑪住まいとまちづくり (その1) オオサカ Vital Housing
横山 俊祐 (建築学科)
 - ⑫住まいとまちづくり (その2) 住宅まちづくり政策
上村 洋【大阪市都市整備局】
 - ⑬講義のまとめ 大阪の都市づくりビジョン
 - ⑭総括レポートの作成と発表・討議 (その1)
 - ⑮総括レポートの作成と発表・討議 (その2)

●事前・事後学習の内容

事前・事後学習としては、都市やまちづくりに関心をもって、自分たちの住んでいるまち、学びのまちを、

普段からよく観察すること。気づいたことや、気に入った風景を写真・メモで記録するように心がけること。常に都市の問題にかかわる情報(新聞やテレビ、雑誌等の報道、各種評論など)に留意し、問題意識を持つこと。

●評価方法

レポート(毎回、講義時間後半にレポートを作成・提出(全13回)および総括レポート)と発表・討議の総合点により評価する。60点以上を合格とする。

●受講生へのコメント

これからの都市には、個別技術の機能や効率だけでなく、安全・安心、環境、福祉に十分配慮した都市づくりが求められており、その結果、自然と歴史と共生し得る美しい都市の実現が可能となる。そこでは、多様な視点と技術の総合化が必要となる。受講生には、各回の講義資料、参考文献による学習に加えて、できるだけ都市づくりの現場に出かけて、講義内容を体感するように心掛けて欲しい。質問等があれば、原則として昼休み時間に徳尾野・倉方またはTAを訪ねること。

●教材

それぞれの講義で、レジュメ・資料のプリントを配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。講義は原則として、プロジェクター、スライド等を用いて行う。

[科目ナンバー : GE GEN 01 14 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 大阪の地理 | | | | | | |
| 8 | 英語表記 | Geography of Osaka | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 水内 俊雄 (都プラザ・文) |

●科目の主題

現代都市、特に大阪市を中心にしつつ、京阪神大都市圏にも言及しながら、こうした地域で生起するさまざまな都市開発や都市経営、都市問題の起源、歴史、現状について座学で学ぶと同時に、実際に都市のフィールドワーク3回を行なうことによって、実感的にも把握してもらうことをめざしている。

●授業の到達目標

都市の歴史地理学として、都市形成の歴史や系譜をどのように発見し、地的教養を獲得してゆくことをめざしている。加えて特色として、フィールドワークを通じて、地域描写の文章化を課しているところにある。こうして京阪神とも比較しながら大阪の都市形成を学ぶこと、またそこでの系譜の遺産や課題を知ることは、大阪の将来を考えてゆく上での基礎的教養として役立つ。こうした教養が、大阪の将来を考えるにどのように貢献するのも紹介してみたい。歴史地理的な見方の醍醐味を味わっていただきたい。

●授業内容・授業計画

授業内容は地図や文字資料、映像をヴィジュアルに見せながら進めることを基本とするので、語られる都市空間の現実感覚を授業で養ってもらいたい。そしてフィールドワークが非常に重要な位置を占めるので、普段の講義で紹介するフィールドワーク術を学ぶとともに、実地でのまちを見る地図を読むトレーニングを積んでもらいたい。

- 1) 地図からみた杉本町と大阪市立大学の歴史
- 2) 絵図からみた近世都市空間
- 3) 明治初期の都市空間の特徴
- 4) フィールドワーク1 (大坂城下町)
- 5) 明治末期の大阪の都市景観
- 6) 郊外の誕生、スラムの拡大
- 7) 大正期の都市社会政策と居住状況
- 8) ベルエポック大阪 1930年代
- 9) フィールドワーク2 (郊外住宅地)
- 10) 戦争と都市

- 11) 空襲、そして戦後復興
- 12) バラック、闇市
- 13) 高度成長期の都市改造、都市再開発
- 14) フィールドワーク3（大都市の光と影）

●事前・事後学習の内容について

3回のフィールドワークについては、事前に対象地の下調べをしておくことで、実際の現場での観察の質が大きく向上する。貪欲に地域の情報をいろいろな手段で摂取するように心がけてほしい。

●評価方法

コミュニケーションカードの毎回の提出を出席の平常点とし、これに加えて、3回課す予定のフィールドワークレポートを必須とする。このレポート内容をベースに成績評価をおこなう。

●受講生へのコメント

この手の研究は、まず現場に対してどれだけの情報を持ち、実際にその場を知っているかと言う、現場のリアリティ感覚が最も問われる。フィールドワークで都市を「批判的に見る」目をやしなっておいて欲しい。また下記の使用教材は地図が多用された内容となっており、これなしで授業を受けると、理解不能となり、フィールドワークにも差し支えることを予め注意しておいて欲しい。

●教材

水内俊雄 他共著 『モダン都市の系譜－地図から読み解く社会と空間－』（ナカニシヤ出版）、2008年を参考書としてお勧めする。授業のかなりの部分は、この書に掲載されているところと重なっているため、より深い丁寧な理解を求める読者にこの本を推奨する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 15.CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代都市論 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 木下 祐輔（非常勤） |
| 9 | 英語表記 | Contemporary Urban Studies | | | | | | |

●科目の主題

本講義では、私たちに最も身近な都市・地域である「関西」を取り上げ、関西経済の成り立ちや現状と課題、それを克服するための処方箋について解説する。全15回の講義のうち、前半は関西の歴史や関東や中部といった他地域との比較を通じて関西経済について概観し、短期的・中長期的な課題について解説する。後半は教科書に基づき、足下の関西経済に関する最新のトピックス・経済ニュースについて解説する。また、本講義の特徴として、「アジア太平洋地域の中の関西」という視点から、アジア太平洋の国々と関西との繋がりについても紹介したい。

全体を通じて、単なる出来事の紹介ではなく、背景やそれが後にどう影響したかといった点についても踏み込んで解説したい。加えて、現代の日本社会が抱える問題について、関西というフィルターを通すとどのような解決策が見えてくるか、一緒に考えたい。

●授業の到達目標

本講義では、以下の3点を到達目標としたい。

- ・関西経済のこれまでの成り立ちや現状、全国と比較した違いについて知ること
- ・アジア太平洋地域の中の関西という視点から、課題克服のための見方を身につけること
- ・今後5年、10年と関西経済が成長できる戦略について自分なりの提案ができること

そして何より、関西の文化や経済・社会に詳しくなり、自分たちが今暮らしている関西という地域に自信と親しみを持てるようになることが一番の目標である。

●授業内容・授業計画

- 【第1回】イントロダクション：関西について知ろう
- 【第2回】関西経済の歩み(1)：古代～第2次世界大戦まで
- 【第3回】関西経済の歩み(2)：戦後～アベノミクスまで
- 【第4回】関西名経営者列伝
- 【第5回】徹底分析：関西経済の長期低迷
- 【第6回】老いる関西：克服できるか少子高齢化
- 【第7回】関西で女性は輝けるか
- 【第8回】震災復興と関西経済
- 【第9回】交通・物流インフラと関西経済
- 【第10回】関西の成長牽引産業(1)：医療・医薬品・介護産業
- 【第11回】関西の成長牽引産業(2)：インバウンド・ツーリズム
- 【第12回】国際通商政策と関西経済
- 【第13回】変貌するアジア経済と関西企業の進出戦略
- 【第14回】全体総括：これからの関西の話をしよう
- 【第15回】期末試験

●事前・事後学習の内容

教科書に従って講義を行うため、教員が事前にアナウンスする該当箇所を通読した上で授業に臨んでほしい。また、講義の中で気になった内容については、授業後に自分で調べる手間を惜しまないでほしい。

本講義では、関西経済に関する最近の時事問題を取り扱うため、新聞(特に全国紙の関西経済欄)やテレビ・インターネット等で日常的に情報収集を行っておくこ

とが理解を深めるポイントである(情報の読み方についても適宜解説したい)。なお、授業で取り上げるテーマは受講生の関心に合わせて決めたいと考えており、適宜リクエストも受け付けたい。

●評価方法

期末の定期試験で採点を行う。また、授業の感想や取り上げるテーマのリクエストに関するコミュニケーションカードを数回配布したいと考えており、これを平常点として考慮したい。

●受講生へのコメント

関西は笑いがあふれ、親しみやすい人柄は言うまでもなく、多くの文化的・歴史的な資産と最先端の研究開発が同居する、知れば知るほど大変面白い地域である。講義を通じて、こうした関西の魅力の一つでも多く皆に伝えたいと考えている。

●教材

教科書：(一財)アジア太平洋研究所、『アジア太平洋と関西－2017年版関西経済白書』,丸善プラネット,2017年.

[科目ナンバー : GE GEN 01 17 .CO]

| 掲載番号 | 科目名 | 都市の経済とビジネス | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 近 勝彦 (都) 他 |
|------|------|-------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 10 | 英語表記 | Aurban Economics and Business | | | | | | |

●科目の主題

本講義は、共通教育科目である。都市のなかで生成される多様な経済活動やその主体であるビジネスを、経済学、経営学、およびマーケティングを中心として、初学者に向けて論じる。そのなかでも、昨今のトピックは、「IoT ビッグデータ AI」である。これらが、総合的に一体となって、ビジネスのプロセスや生産費用を抑え、新たな価値を生み出し、競争優位性をもたらすのである。このようなICTの観点を大いに取り入れて「現代都市の経済・経営の法則」を平易に論じていく。

●授業の到達目標

主題にも書いたように、都市のなかで生まれる経済・経営現象や価値づくりを多面的に論じていくために、幅広い視野で、現実に即した形で、理解してもらいたい。「今、ここ」で起きている出来事に大いに関心を示してもらい、その背後にある意味や理論や課題を理解できることが目標である。

●授業内容・授業計画

1. 日本の現代都市の現状とその課題
2. ICTによる経済効果
3. シェアリングエコノミー
4. AIの社会経済へのインパクト

5. 中小企業経営
6. ICTの活用とその課題
7. ファンドの活用
8. 観光産業
9. スポーツビジネス
10. スポーツツーリズム
11. ネットコミュニティ
12. 経験経済
13. ECの発展とその課題
14. コンテンツビジネス
15. 総括 新しい経済システムを求めて

●事前・事後学習の内容

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。

●評価方法

テストで評価する。

●受講生へのコメント

ビッグデータやAIが内外で大きく取り上げられ注目される中、自らが理解しようとするのが大変に重要である。

●教材

こちらが用意した資料を使う。また授業中にここに指示をする。

[科目ナンバー : GE GEN 01 18 .CO]

| 掲載番号 | 科目名 | 国際地域経済と都市 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 有賀 敏之 (都) 他 |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|-------------|
| 11 | 英語表記 | International Regional Economy and Cities | | | | | | |

●科目の主題

いまや世界を解くキーワードとなったグローバル化、

その影響は世界のすみずみまで及ぶようになりました。われわれが身近に感じているように、21世紀は、隣の

都市・大阪

工場がアジアに移転したり、外国の商品や会社が入ってきたりする時代になってきているのです。

しかし、そのような中で各国の地域や地方には、独自の暮らしと経済活動があります。グローバル化の趨勢の中で地域が活性化していくためにも、地域独自の戦略や政策が必要となってきています。また経済がうまく機能するためには現地化・ローカル化といった働きも欠かすことができません。私たちの都市の暮らしが良くなるかどうか、こうした動きによって決まるといっても過言ではありません。

このように、グローバルのみならず、リージョナル、ローカルな視点から現代の経済の動向を捉える新しいコンセプトが「国際地域経済」という考え方です。この授業では、この国際地域経済という新しい視点から現在の世界とアジア各国経済の動きをわかりやすく説明し、各国の国民経済とそれを構成する主要都市との相互関係、またその振興策について考えてみたいと思います。

●授業の到達目標

経済のグローバルな動き、ローカルな動き、リージョナルな動きが互いに連動していること、自分のまちの変化が世界とつながっていることを理解してもらうことを目標とします。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の講義とし、以下のように各教員が分担で講じる。

[1] グローバルな経済の動きと分析レベル

- 第1回 イントロダクションー担当部局の紹介と本講義の概要ー (有賀) 10月4日
 第2回 三層の分析レベルと企業ーグローバル・リージョナル・ローカルー (有賀) 10月11日

[2] リージョナルな経済の動き

- 第3回 中国華東地域の概要 (有賀) 10月18日
 第4回 華東地域と現地進出日系企業 (1) (有賀) 10月25日
 第5回 華東地域と現地進出日系企業 (2) (有賀) 11月1日
 第6回 中国経済と上海の地域金融 (1) (王) 11月8日
 第7回 中国経済と上海の地域金融 (2) (王) 11月15日

- 第8回 中国経済と上海の地域金融 (3) (王) 11月22日

[3] ローカルな経済の動き

- 第9回 中国における都市と農村の経済問題 (李) 11月29日
 第10回 中国における日本企業の現地経営 (1) (李) 12月6日
 第11回 中国における日本企業の現地経営 (2) (李) 12月13日

[4] 地域経済の動きと都市

- 第12回 グローバル化と国内のリージョンー関西広域圏と東海広域圏の対比 (1)ー (有賀) 12月20日
 第13回 グローバル化と国内のリージョンー関西広域圏と東海広域圏の対比 (2)ー (有賀) 1月10日
 第14回 国際地域経済と大阪 (有賀) 1月17日
 [5] まとめと試験
 第15回 まとめーアジアの都市発展と経済成長ー (有賀) 1月24日
 第16回 定期試験 (試験期間内) 1月31日

●事前・事後学習の内容について

事前学習としては、各回の授業前にシラバスに従い、参考書の該当箇所を読んで予習しておくことが望まれる。また事後学習としては、各回の講義から次の講義までの期間に、自分でとったノートを見返して復習し、既習内容の定着を図ることである。

●評価方法

期末の筆記試験(記述・論述式)を原則とするが、出席率や受講姿勢が悪い場合には、平常点をみるための措置を別途考慮する。

●受講生へのコメント

この科目に限らないが、定期試験における出題意図とはすなわち担当教員の問題意識である。これを理解するために、平素の出席が欠かせない。

●教材(参考書)

有賀著『中国日系企業の産業集積』(同文館出版, 2012)
 関下・有賀編著『東海地域と日本経済の再編成』(同文館出版, 2009)

[科目ナンバー : GE GEN 01 19 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------|-----|---|------|----|------|---|
| 掲載番号 | 科目名 | 大阪落語への招待 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 久堀 裕朗 (文) 桂 春團治 (文 客員) 桂 春雨 (文 客員) 他 |
| 12 | 英語表記 | Introduction to Osaka Rakugo | | | | | | |

●科目の主題

江戸時代、商都として栄えた大阪は、多くの新しい文化を生み出し、育んだが、その中の一つに落語をあげることができる。落語は、16世紀末の安土桃山時代、大名の側近にあって咄相手や講釈をした御伽衆の営為に端を発し、直接には17世紀後半、京都・大阪・江戸で辻咄をする商業的落語家が登場し、その芸が発達を遂げたものである。江戸後期には寄席での興行が始まり、近代にかけて大阪・江戸（東京）を中心に最盛期を迎えた。当初は単に「はなし」と呼ばれ、その後「軽口・軽口ばなし」と言われたが、咄を効果的に結ぶ「落ち」の技法が確立されるとともに「落としばなし」の名称が定着、近代に入って「落語（らくご）」と音読みされるようになった。一人の演者が、扇子や手拭いその他、わずかな道具を使うだけで、全ての登場人物を演じ分け、季節や場面を髣髴とさせる高度な話芸が育まれたのは、先人たちの長きにわたる丹精のたまものである。

この科目は、「大阪落語」の第一線で活躍する落語家を講師に迎えて、落語の実演をたっぷり聴くとともに「落語の情（優しさと思いやり）」という観点から、主として大阪を中心に発達を遂げてきた落語の本質と特色について考察する。

●授業の到達目標

落語の歴史、芸の約束事、周辺芸能との関係、東西落語の比較など、様々な視点を導入することによって「落語」というジャンルへの理解を深め、併せて伝統芸に対する演者の姿勢を知ることにより、現代における落語の意義やあり方について受講者の思索を深めることを目標とする。またそれらを通して、落語にとどまらず、広く大阪の歴史・文化・芸能について考える視座を提供しようとするものである。

●授業内容・授業計画

① 開講にあたって

科目の趣旨、講義計画、履修の心得、評価のこと、など。

②～⑤ 初級編

まずは、落語とはいかなる芸能かを4回にわたって解説する。落語を演じるときの基本的なルールや、扇子と手拭いの使い方、落語のルーツや現在に至るまでの歴史、そして江戸落語との比較など、様々な角度から大阪落語を分析する。(テーマ) 落語とは・落語の演じ方・東西落語・落語のルーツなど。

⑥～⑨ 中級編

続く4回は中級編として、長屋の暮らしや、落語に影響を与えた他の芸能、寄席囃子などを取り上げ、昔の大阪や大阪落語の芸に対する理解を深める。(テーマ) 長屋の暮らし・落語と義太夫・落語と大阪の芝居・寄席囃子など。

⑩～⑬ 上級編

最後の4回は上級編として、「落語の情」という観点から、大阪落語の特色について更に深く掘り下げていく。また、寄席への招待として、それまでの授業に増して本格的に落語の実演に接する機会を提供する。(テーマ) 落語の中の男と女・親子の情愛など。

⑭ 終講にあたって

⑮ 授業全体のまとめ、レポート提出

●事前・事後学習の内容

授業で取り上げるテーマは事前に予告されるので、あらかじめそれについて基本的なことを調べた上で授業に臨むこと。また授業後は、それぞれ授業の中で特に関心を持った事柄について、参考になる文献を探して読み、思索を深めること。

●評価方法

毎回の授業に対する感想・意見（コミュニケーションカードに記入・提出）と期末のレポートによる（評価の比重は、前者50％・後者50％）。ただし、本科目は、出席することに大きな意義があるので、②～⑬の授業のうち5回以上欠席した者については、原則として単位を認めない。

●受講生へのコメント

本科目で取り上げるのは、落語という一伝統芸能であるが、講義で扱われるテーマは、落語の世界にとどまらない広がりを持つものである。各回の講義を一つの契機として、受講者が、落語のみならず、芸能全般、伝統と現代、大阪の歴史と文化等々について、更に考察を発展させていくことを期待したい。

※本科目の設置趣旨から、市民への公開授業としても提供するため、受講者数は200名程度とする。

●教材

テキスト：プリント配布。

参考書：天満天神繁昌亭・上方落語協会編 やまだりよこ著『上方落語家名鑑 第二版』（出版文化社）
豊田善敬編『桂春團治はなしの世界』（東方出版）

DVD「極付十番 三代目 桂春團治」(松竹
芸能株式会社)
DVD繁昌亭らいぶシリーズ1 桂春之輔

「ぜんざい公社」「もう半分」「まめた」(テ
イチクエンタテインメント)

[科目ナンバー : GE GEN 01 20 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 都市・地域政策 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 久末 弥生(都)他 |
| 13 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

都市や地域における現代的課題について知見を深め、政策的思考を身につける。

●授業の到達目標

都市や地域の経済や法、政策に関する問題について分析的に思考・表現することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

「都市」や「地域」は、自然、歴史、文化、産業、暮らしなど市民の営みの舞台であり、時代を越えて継承されてきた。人口減少時代、成熟社会が到来した今、都市・地域ではどのような学術的思想が必要とされるのか。担当教員3人それぞれのテーマに沿って考えていきたい。

各回具体的な地域のトピックを扱う。①(久末)日本と欧米における考古遺産法制の最新動向を紹介しながら、考古遺跡と現代都市の共存を考える。②(江口)都市・地域に関わる問題の分析や解決、計画立案に活用できる、論理的思考とコミュニケーションを促進する図解化手法(「教育のためのTOC」の図解メソッド)について、受講者が授業中に手を動かして体得する場とする。③(高野)日本において、政策がどのような者たちの手で、いかなるプロセスを経て形成、決定されていくかについて、主に環境政策を題材として考える。

第1回 オリエンテーションー都市・地域政策とわたしたち

第2回 日本の考古遺産法制

第3回 イギリスの考古遺産法制

第4回 フランスの考古遺産法制

第5回 アメリカの考古遺産法制

第6回 問題状況の構造を論図で可視化する

第7回 ジレンマ状況の解消を論図で考える

第8回 政策目標実現への道筋を論図で描く

第9回 社会問題の解決に「対話」と「論図」を

第10回 都市型社会と政治・政策

第11回 環境政策の射程

第12回 中央省庁の意思決定過程ー概論

第13回 中央省庁の意思決定過程ー「幻のごみ法案」と中央省庁の意思決定過程の問題点

第14回 環境政策と議員立法ー議員立法の可能性

第15回 期末テスト

(担当)

第1～5回 久末弥生(都市経営研究科)

第6～9回 江口雅祥(非常勤)

第10～14回 高野恵亮(都市経営研究科)

第15回 久末弥生・高野恵亮

●事前・事後学習の内容

第1～14回 教材の指定箇所を読み、出席するのが望ましい。指定箇所と事後学習の内容は、授業時に連絡する(第1回、第6回、第10回の事前学習は不要)。

●評価方法

期末テスト、授業中の積極度、出席状況などから総合的に判断する。

●受講生へのコメント

都市や地域での活動に興味を持つ、全学部の意欲ある学生の受講を歓迎する。

●教材

教科書:

久末弥生『考古学のための法律』日本評論社、2017年。

参考書:

岸良裕司・きしらまゆこ『考える力をつける3つの道具』ダイヤモンド社、2014年。

宗像優(編)『環境政治の展開』志學社、2016年。

[科目ナンバー : GE GEN 01 21 .CO]

| | | | | | | | | |
|-----------|------|--|-----|----------|------|----|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | 市大都市研究の最前線 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | <small>じょん ほんぎゅ</small> 全 泓奎 (都プラザ) 他 |
| 14 | 英語表記 | The Forefront of Urban Studies in Osaka City University | | | | | | |

●科目の主題

都市研究プラザ (URP) は、本学の建学精神 (「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」) を受け継ぎ、「都市を学問創造の場」としてとらえ、都市の諸問題に正面から取り組んできた。そして、グローバルCOE「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」を推進し、独自に築いた海外センター・オフィスを始めとする国際的なネットワーク、そして大阪や名古屋の都市で展開する現場プラザとの協力の下、先端的都市研究に向けた学際的かつ広範囲の分野に渡る研究実績を積んできた。また2014年度からは、これまでの研究活動の蓄積によって生まれた、国内外の包摂型現場ネットワークの活用による共同研究活動を最大限活かす形で、文部科学省により共同利用・共同研究拠点として選ばれている。本講義は、本拠点による共同研究の成果の報告から構成される。授業内容・計画に提示する分野ごとに、先端都市研究に向けた研究活動の最新の研究動向を知ることができる。コミュニケーションカードを用いて双方向の対話を試み、理解の深度を高めてゆく。

●科目の到達目標

複雑かつ多様化しつつある都市問題に対応し、大学の資源を利用しながらどのように都市の再生に取り組んでいくか、それが今後の都市研究の一つのカギとなる。この課題に対し、研究の第一線で活躍している都市研究プラザ関連教員の方々から最新の研究動向や実績をまず学び、理解することが求められる。また、コミュニケーションカードを通じ、学生側のコメントとそれに対する講師の回答という双方向の意見交流を組み込むことにより、学生同士の切磋琢磨や講師の気づきなどの仕掛けも組み込んでいる。これらを通じて、当代の都市問題に対応した先端的都市研究の含意を、理論的かつ実践的に理解してほしい。同時に都市問題の仕組みを理解し、課題の把握、分析、都市の再生に向けた対策立案能力の取得のためのヒントを得ることを通じ、今後の受講生のキャリア形成の第一歩としたい。

「市大都市研究の最前線2018：包摂型アジア都市とレジリエンスの試み」

●授業内容・授業計画・講師(敬称略)案：

オムニバス形式の授業で各教員が分担して講義するため、講義内容は毎年変わる。

【包摂型創造都市とレジリエント都市の創生】(第1回～第5回)

包摂型創造都市とレジリエント都市に関する都市研究の成果を紹介する。

- 第1回：(イントロダクション) 就労なき社会的包摂の可能性：阿部昌樹、法学研究科教員・URP所長
- 第2回：東アジアと欧州を架橋する包容力ある都市論の構築とレジリエントな安全網の生成：水内俊雄、URP教員
- 第3回：復元力・文化編集・世界遺産：創造的な述語(動詞)で編集・包摂する：岡野浩、URP教員
- 第4回：民族関係論の成果と課題：谷富夫、甲南大学教員・URP特別研究員
- 第5回：近世大坂の非人集団の生存環境と家：塚田孝、文学研究科教員・URP特別研究員

【都市空間再生に向けた包摂型アートマネジメントと多文化都市】(第6回～第8回)

アートマネジメントと多文化都市が生み出す包摂型都市空間再生に向けた理論と実践を紹介する。

- 第6回：アジアを視野に入れた社会包摂型アートマネジメントの形成に向けて：中川真、URP特任教員
- 第7回：都市の忘却空間となった水都再生 - 水都大阪の挑戦 - : 嘉名光市、工学研究科教員・URP兼任研究員
- 第8回：大阪の長屋保全まちづくり～この10年の振り返り：藤田忍、生活科学研究科教員・URP兼任研究員

【包摂型アジア都市と居住福祉実践】(第9回～第14回)

包摂都市の構築に向けた課題と居住福祉の実践に関わる共同研究の成果を紹介する。

- 第9回：包摂型アジア都市への「中間的社会空間」試論：穂坂光彦、日本福祉大学名誉教授・URP特別研究員
- 第10回：東アジアにおける貧困と社会政策：五石敬路、創造都市研究科教員・URP特別研究員
- 第11回：参加型仕事づくりの試みから明らかになる労働間と外部者の役割、綱島洋之・URP特任教員
- 第12回：居住福祉を基調とした地域福祉施策における専門職の役割：野村恭代、生活科学研究科教員・URP特別研究員
- 第13回：都市内格差社会における社会的包摂のチャ

都市・大阪

レンジ：理論的背景を中心に：コルナトウスキ・ヒュラルド、九州大学教員・URP 特別研究員

第14回：東アジア都市における生産主義福祉モデルと居住福祉の実践：全泓奎、URP教員

●事前・事後学習の内容

シラバスで指定する【テキスト】の講義関連チャプターを、事前に予習のうえ講義に出席すること、講義後は、適宜【補助教材】もあわせて参照したり、講義中に教員から紹介のあった内容について調べ、理解を深めてもらいたい。

●評価方法

毎回の講義の終了時に提出するコミュニケーションカード及び平常点により評価を行う。

●受講生へのコメント

講義は、都市研究プラザ教員及び特別研究員を中心にオムニバス形式で行うが、理論と実践を網羅した多様な知識を提供するため毎回の講義出席が前提である。

また、日頃から都市や地域の再生について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。なお、コミュニケーションカードにかんしては、成績評価の重要な基準となるので、短い時間ではあるが各講義後のコミュニケーションカードの記入には、真剣に取り組んでいただきたい。また講師の都合で順番が入れ替わることもあるため、授業期間中の掲示に注意すること。

●教材

講義では、プロジェクター等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリントの配布を行うが、以下のテキストを入手することが望ましい。

・【テキスト】阿部昌樹・水内俊雄・岡野 浩・全泓奎編（2017）『包摂都市のレジリエンス：理念モデルと実践モデルの構築』、水曜社

・【補助教材】全 泓奎編（2016）『包摂都市を構想する：東アジアにおける実践』、法律文化社

[科目ナンバー : GE GEN 01 22 .CO]

| 掲載番号 | 科目名 | コミュニティ防災 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 生田 英輔（生）他 |
|------|------|-------------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 15 | 英語表記 | Community Based Disaster Management | | | | | | |

●科目の主題

頻発する自然災害に対して、レジリエントな地域づくりがわが国の課題となっている。今後懸念される巨大複合災害には従来の公的機関による防災対応に加え、地域コミュニティの力を生かしたコミュニティ防災が重視されており、本講座ではコミュニティ防災の基礎となる災害事象とコミュニティ防災を実践する上での基礎素養を学ぶ。

●科目の到達目標

コミュニティ防災においては、災害時における被災者の視点および対応者の視点が必要である。本講座では災害事象のメカニズムと被害・対策、人間行動、防災計画、災害情報、要配慮者、災害医療、災害ボランティア、レジリエンス等の理解を目標とする。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義します。

- | | | |
|-----|------------|--------------------|
| 第1回 | 防災士の役割 | 森 一彦（生） |
| 第2回 | 避難と避難行動 | 添田晴雄（文） |
| 第3回 | 近年の自然災害に学ぶ | 重松孝昌（工） |
| 第4回 | 地震のしくみと被害 | 三田村宗樹（理） |
| 第5回 | 耐震診断と補強 | 谷口与史也（工） |
| 第6回 | 土砂災害と対策 | 大島昭彦（工） |
| 第7回 | 災害情報の発信と入手 | 吉田大介（創） 米澤 剛（創） |

- | | | |
|------|--------------|-------------------------------|
| 第8回 | 身近でできる防災対策 | ラガワン（創） 渡辺一志（健） 生田英輔（生） |
| 第9回 | 災害医療 | 山本啓雅（医） |
| 第10回 | 災害とボランティア活動 | 野村恭代（生） |
| 第11回 | 火災と防火対策 | 重松孝昌（工） |
| 第12回 | 都市防災 | 重松孝昌（工） |
| 第13回 | 被害想定とハザードマップ | 中條壮大（工） |
| 第14回 | 災害と流言・風評 | 佐伯大輔（文） |
| 第15回 | 地域の自主防災活動 | 生田英輔（生） 佐伯大輔（文） |

●事前・事後学習の内容

事前学習として教材の該当講を読了しておくこと。事前学習には90分程度の時間を要する。事後学習として教材及びレジュメ・資料等を整理、確認したうえで最新の災害事例の情報をまとめること。事後学習には90分程度の時間を要する。

●評価方法

レポート3回により評価する。最高点を100点として、60点以上を合格とする。

●受講生へのコメント

講義は非常勤講師を含む教員によるオムニバス形式で行うが、講師の都合により講義の順番が前後することがあるため、講義時の連絡をよく聞くこと。実践を

踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の講義出席が前提であり、積極的に取り組んで欲しい。また、日頃からコミュニティ防災について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。

なお、本科目は、特定非営利活動法人日本防災士機構の「防災士養成講座」として認証されており、受講者は、本科目を受講することで、防災士資格取得の要件の一部を満たすことができる。防災士資格取得については、初回の授業で説明する。

●教材

講義では、「防災士教本（防災士機構発行）」を教材として用いる。毎回の講義はもちろんレポート課題も教材に応じた内容とするため、受講生は必ず購入すること。防災士教本は生協・書店等では入手できないため、購入に関しては初回の講義で案内する。教本に加

えてスライド、ビデオ等を用い、必要に応じてレジュメ・資料を配布する。講義内容の理解を深めるために参考文献を購入しても良い。

【教材】※ 購入は必須

・防災士教本 頒価3,000円

【参考文献】※ 購入は任意

・いのちを守る都市づくり【課題編】東日本大震災から見えてきたもの、大阪市立大学都市防災研究グループ編、大阪公立大学共同出版会、ISBN978-4-901409-89-6

・いのちを守る都市づくり【アクション編】みんなで備える広域複合災害、大阪市立大学都市防災研究グループ編、大阪公立大学共同出版会、ISBN978-4-901409-98-8

[科目ナンバー : GE GEN 01 23]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生と死の倫理 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 土屋 貴志 (文) |
| 16 | 英語表記 | Bioethics | | | | | | |

●科目の主題

生命倫理学 (bioethics) のトピックのうち、人工妊娠中絶を取り上げ、今日におけるその倫理的・法的・社会的問題について考える。

●授業の到達目標

人工妊娠中絶をめぐる今日の倫理的・法的・社会的問題を理解し、それに関して受講生諸君が自分の意見を持ち、意見の根拠を他者が納得できるように説明できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業予定は下記の通りだが、適宜変更する可能性もある。

1. オリエンテーション
2. 妊娠と出産について
3. 中絶をめぐる日本の状況～法と統計～
4. 人工妊娠中絶の手術
5. 中絶論争 (1) 生命尊重派の主張
6. 中絶論争 (2) 中絶権擁護派の主張
7. 討論1 (母体保護法の経済的理由を削除すべきか)
8. 中間的総括 (中間レポート)
9. 出生前診断と選択的中絶 (1)
10. 出生前診断と選択的中絶 (2)
11. 中絶胎児の利用 (1)
12. 中絶胎児の利用 (2)
13. 討論2 (中絶胎児の利用を進めるべきか)
14. 中絶カウンセリング
15. 全体の総括 (期末レポート)

これらのテーマについて、講義やプリント資料、ビデオ視聴などによって基本的知識を得たあと、問題点を絞り込み、そこで下される倫理的判断を抽出し、その根拠を検討する。倫理的判断の根拠の検討にあたっては、グループディスカッションや討論なども取り入れる。

●事前・事後学習の内容

毎回、次回の講義で用いるプリント資料を事前配布するので、次回の授業までに熟読して出席すること。

また、毎回の授業内容を復習し、プリント資料を何度も読み返し、参考文献を読み、ネットを検索するなど、討論およびレポートに向けて十分な準備を行うこと。

●評価方法

担当教員は、授業期間中に2回課すレポートの成績に、授業への参加姿勢などを勘案して評点原案を作成する。受講者は、半期にわたる自らの学習活動を評点化しその根拠を記した「自己評価レポート」を最終授業時に提出する。担当教員は評点原案と自己評価レポートの内容を突き合わせて成績を決定する。

●受講生へのコメント

1. 中間および期末の2回のレポート両方において合格点を取らなければ当科目の単位は取得できない。毎回出席し授業内容を正確に理解するだけでなく、自学自習してレポートを書くことが要求されるので、相当の覚悟をして履修すること。
2. 所定の事項を記入した受講カードを提出すること。受講カードは所見と評価を記録する「カルテ」として用いる。受講者は自分の受講カードの記載内容をいつでも閲覧できる。
3. 受講者の顔と名前を覚えたいので、顔と氏名を積極的に売り込むこと。履修登録者数が20人を越えた場合は、顔写真の受講カードへの貼付を求める。
4. レポート・自己評価レポート・受講カードは成績採点終了後に返却する。返却の掲示が出たら、8号館2階の全学共通教育担当まで各自受け取りに来ること。
5. 受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも未提出の場合は履修放棄とみなす。

●教材

教科書：とくに指定しない。

参考書：授業中に紹介する。

その他、プリント資料を配布し、ビデオを上映する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 24]

| | | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|----------|----|------|------------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | 生命と法 | | | | | | | |
| 17 | | | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 三島 聡 (法) 他 | |
| | 英語表記 | Life and Law | | | | | | | |

●科目の主題

「生命に関わる法的諸問題」を主題とする。
 今日、生命の保障を含む「人権」がきわめて重要な社会的価値として世界的に認識されるようになってい
 る。だがその一方で、たとえば過労死や戦争を考えればわかるように、現実の社会では人の生命がないがしろにされる事態も多々起こっている。

また、科学のめざましい発展にともない人の生命を操作できる時代に入り、医学や生命倫理のみならず、法学においても、人の生命にかかる人為的操作にいかに対応するかが問われている。

古くから「生命と法」の一環として墮胎や安楽死の問題が論じられてきた。現在では、これらに加えて、胎児以前の胚の保護、尊厳死や脳死などが問題になっている。さらに、医療を受ける権利、臓器移植、医療事故、医療における自己決定権、人体に有害な製品の貿易制限、医療品アクセス問題、戦争における生命保護、死刑など、関連する今日的課題は多岐にわたる。

本講義では、生命と法をめぐる諸問題の中から重要だと思われる項目を抽出して検討する。

●授業の到達目標

本講義では、医事法を中心に、国際法、国際経済法、刑事法、中国法といった法分野において今日問われている生命と法に関する諸問題を取りあげ、生命と法をめぐる種々の問題を多角的に検討できる素養を身につける。それとともに、法的なものの考え方の基礎を学ぶ。

●授業内容・授業計画

授業は、医事法をはじめ、中国法、国際法、国際経済法、刑事法を専攻する本学あるいは他大学の法学関係教員が講師となり、オムニバス形式でおこなう。各回の授業では、それぞれ以下のようなテーマを取り上げることを予定しているが、変更になることもありうる。各回の授業のより詳細な内容については、最初の授業の時間に示す予定である。

担当者 項 目

| | | |
|------|------|------------------------------|
| 第1回 | 三島 聡 | 「生命と法」を学ぶにあたって |
| 第2回 | 手嶋 豊 | 患者の自己決定権・説明義務 |
| 第3回 | 手嶋 豊 | 医療事故の処理 |
| 第4回 | 手嶋 豊 | 生殖補助医療 |
| 第5回 | 王 晨 | 中国における臓器移植と法 |
| 第6回 | 手嶋 豊 | 終末期医療・臨死介助の問題 |
| 第7回 | 手嶋 豊 | 感染症対策 |
| 第8回 | 王 晨 | 中国法における医療損害責任 |
| 第9回 | 手嶋 豊 | 実験的医療 |
| 第10回 | 平 覚 | 知的財産権と医療品アクセス問題 |
| 第11回 | 平 覚 | 人や動植物の生命および健康を保護するための貿易制限の扱い |
| 第12回 | 桐山孝信 | 戦争と法 |
| 第13回 | 三島 聡 | 死刑 |
| 第14回 | 三島 聡 | 胎児性致死傷、「生命と法」全体をふりかえって |
| 第15回 | | 試験 |

●事前・事後学習の内容

本授業では事後学習が中心。授業の際に配布する講義レジュメや資料、授業の際に各自が取ったノートをもとに、当該授業で学んだ基礎的な事項を整理し、当該項目に関する主要な問題点はなにか、その問題点を法的にどのように解決しようとしているのか、などの点を復習する。

●評価方法

通常試験による。

●受講生へのコメント

生命と法をめぐる諸問題は、私たちひとりひとりの生活や生き方と密接に結びついている。講義でとりあげる各項目につき、自分の生活や生き方に引きつけ自分自身に関わる問題として考えてほしい。

●教 材

講義の際に、必要に応じて資料等を配布する。当該時限のみの配布とし、事後の配布要求は受け付けない。受領し忘れることのないよう注意すること。

生命と人間

[科目ナンバー : GE GEN 01 25]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 戦争と人間 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 佐賀 朝 (文) |
| 18 | 英語表記 | War and Human | | | | | | |

●科目の主題

本講義では、1931年の満洲事変に始まり、1945年の日本の敗戦によって終わった「日中十五年戦争」の歴史について、その推移を追うとともに、重要なトピックについては掘り下げる形で論じる。あわせて、「従軍慰安婦」問題や靖国神社をめぐる問題など、この戦争に関わる現代の諸問題についても考察したい。

●授業の到達目標

この講義では、現代の戦争と平和をめぐる問題ともかかわって様々な場で議論になっている日本の侵略と加害の問題について、史実にもとづいて基本的な知識を得ることを第一の目標とする。その上で、今後、日本やアジアがどのような道を歩むべきかについて、アジアの人びとと冷静で誠実な対話が可能となるための方向性を探っていききたい。

●授業内容・授業計画

第1回 はじめに－「十五年戦争」とは何か

第2回～第5回

・大日本帝国／満洲事変と排外主義／「満洲国」と華北分離工作

第6回～第9回

・日中全面戦争と総動員体制／南京大虐殺／戦時下の市民生活／「草の根帝国主義」と翼賛体制

第10回～第12回

・アジア・太平洋戦争への道／昭和天皇の戦争責任をめぐって／「大東亜共栄圏」の実態／朝鮮人・中国人強制連行／「従軍慰安婦」／沖縄戦／本土空襲と原爆投下

第13回 戦争責任と戦後補償問題

第14回 靖国神社問題とは何か

第15回 おわりに－日本国憲法の現代的意義

●事前・事後学習の内容

講義で配布するレジュメ・資料プリントは、事前学習用の教材としても利用可能な形とするので、事前・事後学習には主にこれを用いること。また資料プリントは授業中にすべて読み上げることは不可能であるため、事後学習で読み、復習すること。

以上とは別に、下記の参考文献や授業で紹介する文献等についても事前・事後に用いること。

●評価方法

平常点・小レポート（約40～50%）、定期試験（約50～60%）により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

日本が中国・朝鮮をはじめとするアジア諸国に多大な損害をあたえたこの戦争にかかわる史実を、史料にもとづいた歴史研究を基礎として認識・理解することは、今後、私たちがアジアの人びとと共に生きていこうとする上で不可欠である。現在、靖国神社や「従軍慰安婦」をめぐる問題では、史実を無視し、あるいは歪めた認識の上に立つ議論が横行しているが、過去の事実に誠実に向き合うことなくして人間の未来はない。

●教材

随時、プリント等を配付するが、参考文献は以下の通り。

・江口圭一『十五年戦争小史〔新版〕』（青木書店、1991年）

・吉見義明『従軍慰安婦』（岩波新書、1995年）

・笠原十九司『南京事件』（岩波新書、1997年）

・吉田裕『アジア・太平洋戦争』（岩波新書、2007年）

・加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』（朝日出版社、2009年）

・山田朗『昭和天皇の戦争』（岩波書店、2017年）

以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 26]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生命と進化 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 若林 和幸 (理) 他 |
| 19 | 英語表記 | Life and Evolution | | | | | | |

●科目の主題

地球上の生命は、地球の歴史とともに進化してきた。その記録は、私達を含めた現在の生命体に残されている。この科目では、分子、細胞、個体のレベルで、進

化について紹介する。

●授業の到達目標

現代社会における医療や環境、食糧、農業などの様々な問題を正しく理解するためには、ある程度の生

物理学の知識が必要である。社会人として、現代社会を生きる際に求められる教養の1つとして、私達を含む「生き物」の成り立ちや多様性を学習し理解する。

●授業内容・授業計画

1. 細胞の進化 (若林和幸担当)

地球の誕生から数億年を経て最初の生命である原核細胞が出現し、その後、約20億年をかけて私達の体を構成するような真核細胞へと進化した。この原核細胞から真核細胞への進化の過程について、細胞生物学、形態学、生化学的観点から解説する。

2. 分子の進化 (小柳光正担当)

進化の研究は、分子生物学の技術の導入によって大きく進展し、進化をDNAやタンパク質といった分子のレベルで研究する分子進化学が誕生した。この分子進化学の基礎、方法、その成果について具体的に解説する。

3. 個体の進化 (厚井聡担当)

生物は、多細胞体制を獲得して陸上へ進出したことにより、飛躍的に多様化した。多細胞体制の進化と陸上での多様化について、植物を中心に紹介する。

- (1) 序論 生命(生物)とは
- (2) 生命の基本単位である細胞の種類と機能。
- (3) 化学進化から生命(細胞)の誕生。
- (4)・(5) 原核細胞から真核細胞への道すじ。核や細胞小器官の形成について説明する。
- (6) 細胞のエネルギー生産系の進化。
- (7) 分子の進化を理解するために必要な分子生物学の知識について説明する。

- (8) 分子時計や中立説など分子進化学の基礎となる概念を説明する。
- (9)・(10) 分子進化学によって初めて明らかとなった生物の系統関係や進化のメカニズムについて、方法論を交えて紹介する。
- (11) 多細胞体制の進化。
- (12) 生物の陸上進出。
- (13)・(14) 陸上生物(特に植物)の多様化について説明する。
- (15) まとめと試験

●事前・事後学習の内容

事前学習については、参考図書等で各項目について一通り予習することが望ましい。また、授業で説明した内容や用語について、理解が不十分であると感じた事柄について、事後学習によって正しく理解し、知識を定着させることが重要である。

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

高校で「生物」を履修していない人にも理解しやすいように、生物学の基礎的事項・内容についての説明や解説を含めながら授業を進める。講義の順番は、担当教員の都合により入れ替わる場合がある。

●教材

参考書：宮田隆「分子からみた生物進化」(講談社ブルーバックス)、ニコラスH. パートンほか著、宮田隆監訳「進化」(メディカル・サイエンス・インターナショナル)、中村運「細胞の起源と進化」(培風館)

[科目ナンバー : GE GEN 01 27]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代の医療 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 大平 雅一 (医) 他 |
| | 英語表記 | Recent Advances in Medical Treatment | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | |

●科目の主題

厚生労働省は2016年のわが国の平均寿命が、男性80.98歳、女性87.14歳と男女とも過去最高を更新したと発表した。これでわが国は男女とも香港に次いで世界第2位の長寿国ということになる。またその要因としては医療技術の向上でがんや心疾患、脳血管疾患の死亡率が低下したことがあげられている。

現代の医療はこうした長寿を支えているわけであるが、特に近年の医療技術の進歩は目覚ましく、例えば胃がんの治療についてみると、十数年から二十年前はほとんどの症例が開腹、すなわち約20cmにわたっておなかを切開して胃を切除する治療が行われていたのに対し、最近では内科医師による胃内視鏡を用いた切除や、外科手術も腹腔鏡手術(小さな傷でテレビモニターを見ながら行う手術)の占める割合が増加し、さ

らにまもなくロボット手術も認可されるようになってきた。実際、医療の現場では様々な領域でこのような進歩がみられており、その治療成績は右肩上がり向上している。

しかし単に平均寿命を延ばすことでもいいのであろうか? もっと大切なことは、生活の質が担保された健康に生きられる期間すなわち健康寿命を延ばすことが必要であると考えられる(ちなみに2016年の健康寿命は男性72.14歳、女性74.79歳と報告されている)。つまり肉体的な病気を治すだけでなく、患者さんの精神状態やおかれている環境、社会的背景などすべてを網羅して患者さんの治療にあたるのが極めて大切である。言いかえれば病気を診るのではなく病人を診ることが大切なのである。

本講義では医療現場の第一線で活躍中の15名の医師

生命と人間

による、現代の最先端の医療の紹介と、現代医療の抱える問題、これからの課題などについてそれぞれの立場からわかりやすく解説していただく予定である。

●授業の到達目標

- (1) 医療の進歩について学び、それによる恩恵および負の側面について自ら考えるきっかけを得る。
- (2) 現代人に多い疾患、現代でもまだ治療法のない疾患、最近問題となっている疾患について学び、最先端の知識を得る。
- (3) 時代の変化とともに現代人、現代社会で起きている医療問題について知る。
- (4) 一線の医療現場でおきていることを直接に医師から学ぶことで、人生、社会について考える契機とする。

●授業内容・授業計画

1. 循環器内科 辰巳裕亮〔最近の循環器治療〕
2. 救急 野田智宏〔現代の救急医療〕
3. 神経内科 武田景敏〔高齢化社会と認知症：治療の最前線と認知症に関する諸問題〕
4. 形成外科 羽多野隆治〔現代の医療における形成外科〕
5. 整形外科 岡野匡志〔超音波を用いた運動器診療〕
6. 代謝内分泌内科学 藏城雅文〔現代の医療における内分泌疾患および高尿酸血症・痛風〕
7. 皮膚科 立石千晴〔皮膚病を治すには…〕
8. 神経精神科 片上素久〔私たちに身近なネット依存〕
9. 産婦人科 三枚卓也〔現代の生殖医療〕
10. 消化器内科 田中史生〔消化器内科診療 Up to Date〕
11. 第1外科 木村健二郎〔現代の消化器癌外科治療〕
12. 第2外科 高橋洋介〔心臓血管手術の安全性と低侵襲化〕
13. 放射線科 小山孝一〔現代の医療における放射線科の役割〕

14. 小児科 濱崎考史〔子供たちの健やかな成長のために〕
15. 血液内科 中尾吉孝〔がんと緩和ケア〕

●事前・事後学習の内容

授業までに、次回の講義に関する一般的な知識を得ておくこと。授業後には、講義を聴講して、最先端の医療と自分が目指している人間像や職業とどのように関わりを持っていきたいか等を事後学習し、発展的な考察を行うことが望ましい。

●評価方法

15回の講義のうち、何れか一つの講義についてのレポート（A4指定 1000字～2000字）をその講義終了後下記の期限以内に提出すること。レポートの表紙に、「講義日・講義担当者・講義の題名・学籍番号・名前」を記載すること。記載漏れがあった場合は採点しない。レポートの内容は講義のサマリーではなく、講義に対する感想、考えさせられたこと、講義でとりあげた内容に対する意見、講義の内容に対して疑問に感じその後に自分で調べたこと、などが望ましい。

提出期限：各講義から2週間後の水曜日17時（第15講分については別途指示する。）

提出先：学生サポートセンター1階 全学共通科目レポートボックス

※WEB等からの盗作や、他人のものを写した場合は、不正行為とみなし単位を与えない

●受講生へのコメント

大阪市立大学医学部附属病院の第一線で働く15人の医師が、週替わりで15週間にわたって医療の現状を伝える貴重な講座である。医学生はもとより、一般の学生にとっても病気、健康、生死、医療問題などについて、これだけ多くの医師の生の声が聴ける機会はまずないと思われる。例年人気のある講座ではあるが、折角のチャンスを逃さないように、なるべく多くの学生に聴講してほしい。

●教材

特定のものは使用しない。

[科目ナンバー : GE GEN 01 28]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生体のしくみ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 大谷 直子 (医) 他 |
| 21 | 英語表記 | Physiological and Biochemical Basis in Humans | | | | | | |

●科目の主題

私たちの体がどのような構造と機能を持ち日々の営みを支えているのかを、下記のテーマについて教授する。

●授業の到達目標

下記のテーマについて、生体の驚異の仕組みと病気・

治療との関連について理解を深める。

●授業内容・授業計画

- 1) 2) 「がん細胞の特性と治療標的分子」近年、2人に1人ががんに罹患する時代であるが、分子細胞生物学的アプローチによる発症機構の解明や、それにもとづく様々な分子標的薬の開発が

- 進んでいる。本講義では、がん細胞の特性、治療標的分子等を含む腫瘍生物学全般について講義する。(大谷 直子)
- 3) 「海馬と記憶」海馬と呼ばれる脳の領域は、我々が「いつ、どこで、何を」経験したかを思い出すエピソード記憶に必須である。記憶の形成と定着における海馬のシステム・シナプス・分子レベルのメカニズムを概説する。(水関 健司)
 - 4) 「睡眠・覚醒・概日リズムのメカニズム」ヒトを含めた動物は概日リズム(体内時計)を持ち、睡眠と覚醒を繰り返す。これらの神経・分子メカニズムを概説する。(水関 健司)
 - 5) 「形態形成と維持に必要なシグナルの伝達とその破綻に伴う様々な疾患」個体は受精卵から始まり増殖・分化を経て形態形成が完成する。この間、細胞は様々なシグナルを周辺から受けその情報を細胞核に伝えて遺伝子発現を制御している。この講義ではそのメカニズムを総論的に解説し、またそのメカニズムの破綻に伴う疾患について説明する。(広常 真治)
 - 6) 「ヒトゲノム情報を解読したヒトゲノム計画とその光と影について」ヒトゲノム計画が発足してヒトのゲノム情報が明らかとなった。また、この間ゲノム情報の解析技術とその処理システムが飛躍的に向上し、様々な疾患の原因が明らかとなった。一方でその情報は人の将来をも予見するまで発達しつつあり新たな問題となっている。最新のゲノム研究がもたらす光と影について解説する。(広常 真治)
 - 7) 「ゲノムの恒常性維持に必要な複製と細胞分裂について」ゲノム情報は正確な複製と分配によってその恒常性が維持されている。その制御機構の破綻は腫瘍を始め様々な疾患の原因となっている。この講義ではDNA複製と分配機構について概説し、その破綻と疾患との関連について説明する。(広常 真治)
 - 8) 「細胞におけるタンパク質の折りたたみと小胞体ストレス」近年、ノーベル賞候補として名高い小胞体ストレス応答の細胞メカニズムに加えて、新生タンパク質の分子シャペロンによる折りたたみ(フォールディング)や、その異常が引き起こす疾患との関連について紹介する。(及川 大輔)
 - 9) 「細胞内タンパク質分解と病気」細胞内では、タンパク質を適切に壊すことが新たに作ることも同程度に重要な意義を持つ。本講義では、細胞内タンパク質分解機構として重要なユビキチン系とオートファジー系について、細胞機構や病気との関わりを講義する。(徳永 文稔)
 - 10) 「快楽、価値、予測を生む脳のしくみ」快楽(報酬)を求める人間の本能的な性質は、生存戦略に必須である。報酬を最も多く得るためには、外界にある事物の価値を適切に予測し、評価・判断する必要がある。これらの機能を司る報酬系のメカニズムと、その異常が関連する疾患について概説する。(松本 英之)
 - 11) 「腸内フローラと疾患」腸内細菌は宿主が代謝できない物質を代謝して生存し、その代謝物を宿主は利用することで、腸内細菌叢と宿主はお互い共生関係にある。一方、腸内細菌による代謝物は全身を巡り宿主の健康に影響を及ぼす。本講義では腸内細菌の解析法と関与する疾患について概説する。(大谷 直子)
 - 12) 13) 「くすりとヒトとのかかわり」現代医療において病気の予防や治療に薬物療法は必須のものとなっている。薬の歴史を紐解きながらくすりによってヒトはどのように病に立ち向かって来たかについて話す。さらに今日の薬物療法によってもたらされる利益と不利益について概説する。(三浦 克之)
 - 14) 15) 「酸素を感知して適応する仕組み」酸素は生命維持に必須である。生体がどのように酸素濃度を感知して適応するのかについて、その仕組みと意義について概説する。(富田 修平)
- 事前・事後学習の内容
- 毎回の講義内容を科目の主題と授業内容・計画の記載事項から把握し、講義内容に関する項目を事前に学習しておくこと。既習の内容については、関連科目の授業内容を振り返り確認をしておくこと。各自講義の要点をまとめるなど、事前・事後学習を欠かさないようにすること。
- 評価方法
- 1) 単位取得には、全授業数2/3以上すなわち10回以上の出席が必要である
 - 2) レポート100点(テーマの中から興味を持ったテーマを1つ選び、コース終了後2週間以内に、A4用紙2枚以内でレポート(手書き)を作成し(学生サポートセンター1階 全学共通科目レポートボックス)に提出する。60点以上を合格とする。
- 尚、レポートの表紙には、表題、氏名、学生番号のほか、必ず、レポートの対象となる授業のコース番号および担当教員の名前を明記すること。記入していないものや判別できないものは採点しないので注意すること。
- 受講生へのコメント
- 授業には適時スライド、OHPを使用。授業の妨げとなる行為は減点とする。高等学校教育での生物学の知識があることが望ましい。

生命と人間

●教材

適宜配布する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 30]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 健康へのアプローチ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 古澤 直人 (生) 他 |
| 22 | 英語表記 | Approach to health | | | | | | |

●科目の主題

生活様式の多様化・高齢化などにより社会状況が急速に変化し、食生活を取り巻く環境も大きく様変わりしてきた。これに伴い人の健康についても複雑、かつ多岐にわたる問題が生じている。近年、「食」の持つ新しい機能も次々と明らかにされ、医食同源と言われるように食と健康の関わりは極めて密接なものである。

本講義では、食品・衛生学、栄養学および医学的分野における多彩な専門領域のエキスパートである講師から健康な生活へ近づくための様々なアプローチ法を学びます。

●授業の到達目標

「健康」についての知見を得るとともに、考え、今後の実生活に生かす。

●授業内容・授業計画

以下のサブテーマ（もしくはキーワード）について、当研究科の教員6名ならびに非常勤講師7名によるオムニバス形式で講義します。

- 1) イントロダクション 他
- 2) 幼児期から育む食を営む力
- 3) 世界の健康・栄養問題－栄養の二重苦、発展途上国も先進国も－
- 4) ウイルス感染症、麻しん
- 5) 代謝、生と死
- 6) 食水系感染症、細菌性食中毒および結核
- 7) 日本人の食生活と疾病の発症

- 8) 遺伝子レベルで人の健康を見る
- 9) 古くて新しい生活習慣病
- 10) 現代の食料供給事情
- 11) 一人暮らしを始めた人のための健康へのアプローチ
- 12) 食品の安全性確保
- 13) 食中毒予防概論
- 14) 人体でのエネルギーの産生と利用
- 15) 課題レポート

注：2)－14)の順が入れ替わる場合あり

●事前・事後学習の内容

毎回の受講後、紹介されたキーワードについて改めて深く調べてみることをお奨めする。

●評価方法

- 1) 出席点を考慮。
- 2) 最後の授業で、本授業に関する課題についてレポートをまとめいただきます。このレポートが未提出の場合は、成績評価はいたしませんので、最終講義は必ず出席してください。上記2点より評価します。

●受講生へのコメント

健康に生きて行くためのヒントが多く含まれていますので、是非ご自身の生活にも役立ててください。

●教材

適宜、プリント等を配布します。

[科目ナンバー : GE GEN 01 31]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 技術と生命 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 林 和則 (工) 他 |
| 23 | 英語表記 | Technology and Life | | | | | | |

●科目の主題

電話、テレビ、コンパクトディスクやコンピュータ等を使って、ほしい情報を持ってきたり加工したりする技術は「情報通信技術」と呼ばれ、我々の現代生活にはなくてはならない技術の一つになってきた。この情報通信技術を支えているのはエレクトロニクスであり、我国のこれまでの発展にエレクトロニクスは大き

く貢献してきたし、今後貢献し続けることには疑う余地はない。本科目は、エレクトロニクスの誕生とその情報通信技術への応用により、私の生活がどのように変わってき、また、今後どのように変わっていくかについて概説する。

●授業の到達目標

- ・エレクトロニクスおよび電子回路の基本的な知識

- が理解できる
- ・コンピュータハードウェア、ソフトウェアの基礎が理解できる
- ・情報理論、符号理論の基礎を理解できる
- ・通信アーキテクチャおよびネットワークの基礎を理解できる
- ・学習および人工知能の原理を理解できる
- ・情報通信技術がどのように社会に貢献するかを理解できる

●授業内容・授業計画

- 第1回 エレクトロニクスの誕生 三極管からトランジスタへ : 辻本
- 第2回 電子回路と集積化技術 小さなチップに大きな機能 : 宮崎
- 第3回 身近な自動制御技術 : 蔡
- 第4回 磁石って、もう古い? 磁石からスピンまで : 仕幸
- 第5回 コンピュータのしくみ ハードウェアとソフトウェア : 岡
- 第6回 生体計測機器のしくみ 人間をはかる装置の原理と構造 : 吉本
- 第7回 符号化、暗号化、セキュリティ 情報を正確に伝送し、保護する : 辻岡
- 第8回 インターネットの考え方 コンピュータを上手につなぐ : 阿多

- 第9回 「いつでも、どこでも、誰とでも」の実現 携帯電話はなぜつながる? : 原
- 第10回 人工知能、学習、推論 コンピュータにものを考えさせる : 上野
- 第11回 ロボットの挑む未来 ロボットの動きはどのように実現されるか : 田窪
- 第12回 ヒューマンインタフェース コンピュータと人間をうまくつなげる : 高橋
- 第13回 医療応用 安全・安心のために情報通信技術を活かす : 中島
- 第14回 ユビキタスって何だ? いたるところにコンピュータがある社会へ : 杉山
- 第15回 情報の数理 「情報の量」を数学的に定義する : 林

●事前・事後学習の内容

授業計画に記載した各回の授業内容について、身近にある具体的な事例や情報を収集すること。

●評価方法

授業中に行なう小テスト、およびレポートなどで総合的に評価し、60点以上合格。

●受講生へのコメント

「エレクトロニクス」、「情報」や「通信」に関心のある学生を歓迎する。

●教材

各講義で適宜プリント等を配布する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 36]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生命と環境 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 増井 良治 (理) |
| 24 | 英語表記 | Life and Environment | | | | | | |

平成29年度以前に「光と生命」の単位を修得した者は、本科目を履修できない。

●科目の主題

変化する環境で生きていくため、生物は光や温度、酸素などの刺激を環境要因として認識し、その変化に対応している。そのような環境応答を可能にしている細胞および分子レベルでのミクロな仕組みが詳細に解明されつつある。また、マクロな視点から生物集団と環境との相互作用を研究する生態学的な研究も大きく進展している。この科目では、生物と環境とのさまざまなかわりを理解する。

●授業の到達目標

- ・生物が環境からの刺激を感知・認識している多様な仕組みを大まかに説明できるようになる。
- ・生物が環境刺激に応答して生きていくためのさまざまな仕組みを説明できるようになる。

●授業内容・授業計画

以下の主要テーマについて、教員による講義と受講

者による課題レポート発表を組み合わせ形式で実施する。

- 第1回 生物の環境応答
- 第2～4回 光に対する応答: 視覚, 紫外線による障害, 体内時計, 光合成, など
- 第5～7回 空気・水に対する応答: 呼吸, 活性酸素, 乾燥, 浸透圧など
- 第8～10回 温度に対する応答: 高温, 低温, 体温維持, 冬眠, 開花など
- 第11～13回 他生物に対する応答: 病原菌, ウィルス, 寄生, 共生, 縄張りなど
- 第14回 生命活動が環境に与える影響
- 第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

主要テーマの講義を聞いた後、数人のグループごとに自分たちで課題を設定し、それについて調べ、授業内でのグループ内外の議論をふまえて発表内容をまとめ、次の授業でプレゼンテーション形式で発表すると

生命と人間

いう形式なので、各授業の前後の各自の取り組みが重要である。

●評価方法

質問カード（毎時間提出）、口頭発表およびそれに対する感想・意見、提出されたレポートにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

全学部が対象なので、なるべく身近な話題にひきつ

けた課題（テーマ）を想定している。受講者自身が課題の決定・調査・議論・資料作成・発表を行うので、積極的に参加する姿勢をのぞむ。

上記の講義内容は一部変更することがある。

オフィスアワーは特に設けないが、メールでの問合せは随時可能（e-mail: rmasui [at] sci.osaka-cu.ac.jp）。

●教材

教科書は用いない。資料を配布する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 33]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 大阪市大でどう学ぶか | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 大久保 敦（大教）他 |
| 25 | 英語表記 | What and How to Learn in OCU | | | | | | |

●科目の主題

新入生の皆さん大阪市立大学へ入学おめでとうございます。ところで、皆さんは授業選択をどのようにしていますか？ 友達と相談？ 先輩からのアドバイス？ それともネットの情報ですか？ いろいろあると思いますが、シラバスを参考に授業の選択をする人はどのくらいいるのでしょうか？ 大学生活を開始するに当たり、授業選択は大学での学びをどのようにデザインするかに直接的に結びつきます。また、それは今後の人生をデザインすることともつながっていきます。このような重要な授業選択をサポートするためのツールとしてシラバスは作られています。

「大阪市大でどう学ぶか」の授業ではそのように重要なシラバスの読み方、使い方から始まります。そして、これからの社会において、大学とは何か、そこで学ぶ意義は何か、また自分がこれから学ぶ市大がどのような大学なのかを知り、そこで何をどのように学び、どのように人生をデザインし、どのような人間になり、そしてどのように社会に貢献していきたいかを入学直後のこの期間に考えます。

今年みなさんは本学の大学生となりました。これからの社会に何を求め、どのように築いていくかは皆さんに掛かっています。さらに、市民としてどのように関わり、どのように自己実現をはかっていくかも、これからの大学生活に掛かっていると言っても良いでしょう。その第一歩がこの授業です。

なお、科目の趣旨から、授業は1回生ならびに編入学生を対象に行います。それ以外の方は登録しても受講できません。

●授業の到達目標

- ①大学とは何か、高校と大学の学びの違いを理解し、大阪市立大学で学ぶことの意味や意義を考えるきっかけとすること。
- ②大学4年間（医学科は6年間）を通した学びの基本的デザインを行うこと。
- ③各学問分野等への興味・関心・意欲を涵養すること。
- ④大学で学んだことを卒業後どのように生かすのかを考えること。

●授業内容・授業計画

学長はじめその道の専門家が授業をオムニバ形式で担当し、大学とは何か、大学で学ぶ意義、そして大阪市大や各学部・研究科の生い立ちから現在そして未来への展望、また各学問分野の魅力やその誘い、あるいは

講師自らの学生時代などの体験談を基にしたアドバイス等々、各講師陣の個性を發揮した1回完結型の授業構成が基本となっています（一部2回連続の内容あり）。

- ①オリエンテーション シラバスの読み方と授業選択
- ②市大とはどんな大学か1 大阪市立大学の教育と研究
- ③市大とはどんな大学か2 大阪市立大学の歴史
- ④大学での学び方とは1 学生生活を健康に過ごす方法①（こころの健康）
- ⑤大学での学び方とは2 学生生活を健康に過ごす方法②（からだの健康）
- ⑥大学での学び方とは3 なぜレポートを書くか①
- ⑦大学での学び方とは4 なぜレポートを書くか②
- ⑧大学での学び方とは5 高校と大学の学びのちがひ①
- ⑨大学での学び方とは6 高校と大学の学びのちがひ②
- ⑩大学での学び方とは7 国際化と語学
- ⑪大学での学び方とは8 英語力を身につける方法
- ⑫大学での学び方とは8 情報を使いこなす方法
- ⑬人生をデザインするとは1 大学で学んだこと生かす方法①
- ⑭人生をデザインするとは2 大学で学んだこと生かす方法②
- ⑮まとめ 学びのデザインと人生のデザイン

※上記は授業内容の項目を示したものです。実際の授業スケジュールは初回授業で知らせます。

●事前・事後学習の内容

第1回目の授業において、この授業全体で参考となる文献やWEBサイトを紹介するので、各回の授業のテーマに関する事項について、授業開始前までに必ず内容を確認し授業に臨むこと。また、第15回目授業では最終まとめの課題に取り組むための事前の準備が必要である。

●評価方法

- ①最初の授業で、シラバスを使って1回生での授業選択を点検します。それを基にこれからの学びの計画や人生計画などをレポートにまとめます。
- ②2回目以降の各授業で、その日の授業内容の要点をまとめ、それをもとに考えたことを授業の最後に小レポートにまとめます。
- ③最終回（15回目）の授業で、「この授業で学んだ

特別枠

ことは何か、それを今後の学びや人生にどう生かしていくのか」をテーマに最終レポートをまとめます。

成績評価は上記①から③のレポートで行います。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

●受講生へのコメント

この授業は例えるならば、大学での学びや、その先の人生を歩むためのルートマップ作りと捉えることができます。ここで作ったルートマップを用いて勉強を進めたり、その先の人生を歩むためには、それなりの心構えと基本的能力が必要です。つまり、心構えとは、大学での学びは高校までと大きく異なり、自ら学ぶ態度が求められます。そのために全学共通教育の1回生だけを対象に少人数演習形式で行う「初年次セミ

ナー」や各学部で開講される1回生対象の演習科目を合わせて受講することを推奨します。一方、基本的な能力とは、例えば最近では、インターネットによる情報の検索やコンピューターを活用した学習や研究など、ICTを効果的に活用する能力が求められています。このような学びを効率的・効果的にするための基本的な能力をスタディ・スキルといいます。一回生の間にぜひスタディ・スキルの基礎も身につけてください。

●教材

教科書：教科書は使用しませんが、**第1回目の授業では「シラバス」を必ず持参**してください（2回目以降は使用しません）。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

[科目ナンバー : GE GEN 01 35 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 大阪の知ーグローバル視野と最先端から見る大阪ー(学長特命科目) | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 福島 祥行(文)他 |
| 26 | 英語表記 | Special Lectures on Osaka : Global & Frontier Perspectives | | | | | | |

●科目の主題

国際的な競争の激化、企業のグローバル化など、日本を取り巻く社会情勢は国際化に向けて大きく変貌を遂げており、グローバルに活躍する人間へのニーズが一層高まっています。また、ハード・ソフト等諸分野のイノベーションはそのスピードが増し、常に最先端の取り組みが求められており、時代を先取りし柔軟に適応できる能力も求められています。

公立大学である本学にはこうした潮流のなかで、大阪という地元の地域社会にアイデンティティーを抱きながら、世界を舞台に最先端で活躍できる人材の育成が求められています。そこで、グローバル視野と最先端から大阪という地域を捉えられるような授業を開講し、それを機として、学ぶ意欲を高め、国際化に対応し、最先端を自ら拓く学生を育成したいと考えます。

授業の提供に際しては、世界で活躍する社会人、国内外に誇る教育研究成果を上げている市大の教員を講師として、グローバルと最先端をキーワードに、大阪との繋がりを念頭に置いて、授業を開いていただきます。受講生の皆さんには、授業を通じて、最先端の国際情勢、経済社会状況、テクノロジー、文化などを学んで、知的刺激を得るなかで、大阪という地域をより深く理解し、グローバルな社会における生き方の指針を見つけていただきたいと思います。

●授業の到達目標

- ・全世界に急速に広がりつつあるグローバル化と諸分野の最先端の動向を知ること。
- ・グローバル化とイノベーションのなかでの大阪の

現状と未来を考えるきっかけとすること。

- ・専門を越えた幅広い知識を身につけること。
- ・在学中だけでなく、卒業後も見据えて、どのような職業に就き、いかに生きていくかを考える手がかりとすること。

●授業内容・授業計画

グローバルな活動を展開している社会人、優れた教育研究成果を上げている本学教員がオムニバス形式で授業を担当します。大阪を中心として、国際的な企業活動、健康・医療、都市づくり、スポーツ、文化などの多方面の現場からの報告・分析、国際水準の教育研究の成果を聞き、意見を交換するなかで、大学で学ぶ意味、実社会に接続するそれぞれの進路、大阪の未来を考えてもらいます。

- ①ガイダンス：福島祥行（文学研究科教授）他
- ②テーマ未定：相良暁（小野薬品工業株式会社 代表取締役社長）
- ③パナソニックに見る大阪人のグローバルマインド：植田健三（リロ・パナソニックエクセルインターナショナル株式会社 顧問）
- ④国際化とは：大畑健治（医学研究科教授）
- ⑤どうすれば夢が描け、どうすれば叶えることができるのか：荒川哲男（大阪市立大学学長）
- ⑥新事業の構築 エアバッグインフレーター用ガス発生剤と私：高部昭久（株式会社ダイセル研究開発本部 執行役員 研究開発本部副本部長）
- ⑦少子高齢化社会に対応した住まいと環境：加茂みどり（大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究

所 主席研究員)

- ⑧あ、人生に涙あり～出会いに感謝－南太平洋に雄飛して－：岸本義明（株式会社マルタニ相談役）
- ⑨技術を世界に～関西からモノづくりの再生を：青木豊彦（株式会社アオキ 会長）
- ⑩ここ一番で〈力〉を発揮するためには：柳本晶一（一般社団法人アスリートネットワーク 理事長）
- ⑪世界の家電や自動車業界の現況と日本の将来展望：南繁行（大阪市立大学複合先端研究機構 特任教授）
- ⑫地域間競争時代の情報発信：浦部喜行（堺市市長公室広報部 シティプロモーション担当課長）
- ⑬大阪のまちづくりの先駆性：田中清剛（大阪市副市長）
- ⑭ダイバーシティ（多様性）な社会で働く後輩たちのHAPPYキャリアを考える：西浦けい子（株式会社マンダム 人事部 ダイバーシティ推進室長）
- ⑮まとめ+期末レポート：福島祥行（文学研究科教授）

※講義内容は前後する場合があります。

●事前・事後学習の内容

各回の授業内容をうけたあと、関連資料等を読み、配布資料やノートを用い復習する。また、毎回の予習として、自身の将来像やキャリアプランを見据え自分に取り組むテーマを設定すること。

●評価方法

- ①最初の授業のガイダンスで本授業の主旨を説明します。それを聞いたうえで、それぞれの進路、グローバル化、大阪の特色をミニ・レポートにまとめてもらいます。
- ②2回目以降の授業で、その日の授業の要点をまと

め、それをもとに考えたことをコミュニケーションカードに記載し、提出します。

- ③第1回ガイダンスの時点での自分自身の考えを念頭に置きながら、それぞれの進路、グローバル化、大阪の未来像などをキーワードとして、それまでの授業で学んだことを踏まえて期末レポートにまとめ、最後の授業で提出してもらいます。

成績評価は①から③によって行います。期末レポートの提出は必須です。評価の配点比率は①と③で40%、②で60%とします。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

●受講生へのコメント

この授業は、グローバル化と最先端のイノベーションといった潮流のなか、大阪がどのような状況にあり、いかなる問題を抱えているのか、今後どのようにすれば新たな未来を切り拓くことができるのかを、受講生それぞれが自分自身のこととして考える場として提供します。単に授業を聞くのみならず、新聞、本、テレビ、その他各種メディアをフルに活用して、グローバル化に柔軟に対応できるような知力、実践力を培えるようにしてください。

また、学外講師による評価方法の工夫、双方向授業などの条件を考慮しなければならないので、受講生数は100名程度に制限します。

●教材

教科書：使用しません。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

*氏名に下線が付けられている講師は学外社会人。

*各授業を担当するファシリテーター：飯吉弘子、井上徹、今井大喜、嘉名光市、小伊藤亜希子、鈴木洋太郎、林朝茂、福島祥行、八ッ橋智幸、横山久代

[科目ナンバー :]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------------|-----|---|----------|----|------|-------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 国際ビジネス演習 (五代友厚 寄附講座) | | | | | | |
| 27 | 英語表記 | Global Business Practices | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 下崎 千代子 (非常勤) 他 |

●科目の主題

日本社会においては、グローバル人材の育成が喫緊の課題となっていることから、この科目は、演習科目で20名を上限として、講師とのインタラクティブな学習形態をとる。講師は、海外での実務経験豊富な方が中心である。数名の実務家講師は講義を2回担当し、1回は各国のビジネス習慣・文化・宗教・勤労意識などについて講義し、2回目は学生と対話しながら理解を深めるという方法をとる。

●授業の到達目標

グローバルなビジネスが展開する中で、異文化を理解して、各国ごとにビジネス習慣、仕事に対する考え方が異なることを理解する。

●授業内容・授業計画

- 第1回 国際的なビジネスマナー
- 第2回 国際ビジネスの潮流
- 第3回 グローバル人材に求められるもの
- 第4,5回 グローバルビジネスとは

特別枠

- 第6.7回 北米（U.S.A、カナダ）における企業経営の特徴
- 第8.9回 香港における企業経営の特徴
- 第10.11回 タイにおける企業経営の特徴
- 第12.13回 会計実務の国際比較
- 第14回 ヨーロッパにおける企業経営の特徴
- 第15回 全体のまとめ

内容については変更される場合があります。詳細は、掲示板にて伝達します。

●事前・事後学習の内容

事前には、各国や地域に関する予備的な学習を課す。事後的には、レポートなどで講義内容を復習して、学習内容を定着させる。

●評価方法

各講師が総合的に5点～10点満点で評価。

最後に、国際ビジネスに関するレポート試験(40点)を課す。

これらを総合して評価する。

●受講生へのコメント

将来、グローバルな職業生活を送りたいと希望する者を歓迎する。履修者の中から、国際インターンシップへの参加者を選定する(予定)。

また、本科目はWeb履修登録以外に、レポート・アンケート等により、履修者の選抜を実施します。詳細は履修登録期間開始前にポータルサイトおよび掲示板にて周知します。要領に従って応募ください。

●教材

各講義時に連絡。

2. 総合教育科目 B

[科目ナンバー : GE HUM 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 論理学入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 佐金 武 (文) |
| 28 | 英語表記 | Introduction to Logic | | | | | | |

●科目の主題

論理学とは、正しい推論とその原理について研究する学問である。正しく推論する能力がなければ、分野を問わずどんな学問の研究も適切に行うことはできないし、我々の思考や知識の伝達がそもそも困難になる。本科目では、誰にとっても重要な推論の能力を養い、推論の正しさに対する鋭敏な感覚を磨くとともに、「論理的であるとはいかなることか」や「推論の正しさとは何か」について、基礎的な理解を得ることを主題とする。

●授業の到達目標

現代の記号論理学の基本である、命題論理および述語論理をタブロー法により習得することにより、論理的思考についての理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1課 論理的に正しい推論とはどのようなものか
- 第2課 真理関数の論理Ⅰ：真理関数としての論理結合子
- 第3課 真理関数の論理Ⅱ：推論の妥当性
- 第4課 真理関数の論理Ⅲ：トートロジーと矛盾
- 第5課 真理の木Ⅰ：タブロー法による分析(1)
- 第6課 真理の木Ⅱ：タブロー法による分析(2)
- 第7課 真理の木Ⅲ：命題論理の健全性と完全性
- 第8課 中間テスト
- 第9課 一般性Ⅰ：命題論理から述語論理へ
- 第10課 一般性Ⅱ：量化文の意味論
- 第11課 一般性Ⅲ：述語論理のタブロー
- 第12課 重なり合った一般性Ⅰ：多重量化を含む述語論理
- 第13課 重なり合った一般性Ⅰ：多重量化のタブロー
- 第14課 同一性
- 第15課 最終テスト

●事前・事後学習の内容

事前に教科書をよく読み、授業に参加すること。復習や関連する教科書の練習問題にも取り組み、評価に関わる課題やテストについては、下記の項目に留意すること。

- ・授業では解説とともに、真理表やタブローを用いた論理計算の練習を多く取り入れる。
- ・授業テーマごとに課題(2、3の小問)が出される。
- ・課題の解答用紙を回収し出席をカウント、受講生の理解を確認する。
- ・授業ごとの課題に加えて、中間テスト(8回目の授業)と最終テスト(15回目)を実施する。

●評価方法

- (1) 中間テスト30%、最終テスト50%。
- (2) 平常点20%(課題提出+α)。

●受講生へのコメント

受講生の理解を促進するため、できるだけ多くの課題や練習問題に取り組む。論理学は積み上げの学問である。欠席を重ね課題提出を怠ると、単位修得はかなり難しくなるので要注意。少しでも分からないことがあれば、遠慮せずに質問する積極性がこの科目では特に望まれる。また、多くの課題作業を通じて理解を確かめつつ進める必要があるため、受講者数は100名程度に制限する。

●教材

- ・講義はリチャード・ジェフリー著『形式論理学』にそって行う。予習と復習のために、テキストを入手すること。
- ・授業においては資料や課題等を配布する。
- ・ノートおよび計算用紙(雑用紙可)を持参のこと。(授業では、実際に手を動かして論理計算を行う。)

[科目ナンバー : GE HUM 01 07]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 性格心理学入門 (感情・人格心理学) | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 田中 宏明 (非常勤) |
| 29 | 英語表記 | Introduction to Personality Psychology | | | | | | |

●科目の主題

感情心理学とパーソナリティ心理学の基礎的な内容について概説する。私たちは他者やさまざまな出来事に直面したとき、それに応じて多様な感情を経験する。

感情は、しばしば人間の理性的な行動を妨げることがあるが、現在では、進化の過程で形成された適応的な機能をもつものと考えられている。感情がどのように生起し、行動を引き起こしているのか、そのメカニズ

ムについて述べる。

また、不安などの感情を経験する頻度には個人差がある。感情だけではなく、認知と行動にも個人ごとに一定の傾向があり、これはパーソナリティとよばれる。パーソナリティの測定に関する問題と、現在の主要な理論である5因子モデルを中心に説明する。さらに、感情とパーソナリティの生物学的基盤と発達過程について解説する。

●授業の到達目標

感情心理学とパーソナリティ心理学の基礎を理解し、自身の日常を見つめ直すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

感情心理学とパーソナリティ心理学の各領域からトピックを精選して講義する。内容は、およそ以下のとおりである。各テーマに1回または2回程度充てる予定である。

1. パーソナリティの定義、類型論と特性論
2. パーソナリティ用語の分類と5因子モデル
3. 測定の信頼性と妥当性
4. パーソナリティに対する遺伝の影響
5. パーソナリティと発達
6. 感情と脳、遺伝子の関係
7. 感情が行動に与える影響
8. 感情と進化
9. 感情と認知

10. 感情と発達

11. 感情とパーソナリティに関連する精神障害

●事前・事後学習の内容

授業後、授業の内容について十分に復習を行い、関連する図書を探して講読することが望ましい。

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

なお、本科目は、「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「感情・人格心理学」に対応している。

●教材

教科書：特に使用しない。

参考書：小塩真司著『Progress & Application パーソナリティ心理学』（サイエンス社）、鈴木公啓編『パーソナリティ心理学概論－性格理解への扉』（ナカニシヤ出版）、榎本博明・安藤寿康・堀毛一也著『パーソナリティ心理学－人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』（有斐閣アルマ）、大平秀樹編『感情心理学・入門』（有斐閣アルマ）、島 義弘編『パーソナリティと感情の心理学』（サイエンス社）

基本的にスライド (PowerPoint) によって資料提示を行う予定である。参考書を購入する必要は特にない。

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

| 掲載番号 | 科目名 | 心理学への招待 (心理学概論) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 山 祐嗣 (文) |
|------|------|----------------------------|-----|---|----------|----|------|----------|
| 30 | 英語表記 | Introduction to Psychology | | | | | | |

●科目の主題

多くの人は、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心には、感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などの機能・領域がある。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題とし

ている。

●授業の到達目標

心理学に関する基本的な知識の獲得と、それについての科学的な考え方を習得することを目標とする。また、それらを、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに応用する視点を取ることができるようになることも目標とする。

●授業内容・授業計画

この授業では、教科書に示した以下の章立てに従って、心理学分野の全般にわたり、講義形式で授業を進める。

- (1) 心理学の歴史
- (2) 心理学の方法
- (3) 脳と心理学
- (4) 発達
- (5) 感覚・知覚
- (6) 学習

- (7) 記憶
- (8) 問題解決と意思決定
- (9) 推論
- (10) 動機づけと情動
- (12) パーソナリティとアセスメント
- (13) 社会的行動
- (14) 精神分析と分析心理学
- (15) まとめ

●事前・事後学習の内容

テキスト等の予習復習。授業中に紹介された文献を読む。

●評価方法

主として平常点と学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

- ・同じ心理学であっても、研究分野によって、研究者の視点、研究対象、研究方法は異なる。受講生には、心理学における様々な考え方を習得し、幅広く知識を身につけることを期待する。
- ・心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請したりする場合がある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

山祐嗣・山口素子・小林知博(編著)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房 2009年

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

| | | | | | | | | |
|------------|------|----------------------------|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 31 | 科目名 | 心理学への招待 (心理学概論) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 谷口 友梨 (非常勤) |
| | 英語表記 | Introduction to Psychology | | | | | | |

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学における基本的で身近なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査を実施したり、ビデオ教材等を活用する。

内容は、およそ以下のとおりである。各テーマに1～2回程度充てる予定である。

1. 心理学とは何か：科学と常識のあいだ
2. 心と体を結ぶもの：脳科学と心理学
3. 精神疾患の脳生理
4. 心と身体疾患
5. 行動と心の力学
6. 心を動かす源泉：欲求と感情
7. 心の個人差と形成因
8. 環境と心
9. 文化と心

●事前・事後学習の内容

各授業の前週にプリント資料を配布するので、事前に目を通しておくこと。また、各授業のテーマにかわり適宜参考図書を紹介するので、学期末までに入手し読んでおくことが望ましい。

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業終了時に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

なお、本科目は、「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理学概論」に対応している。

●教材

教科書：特に使用しない。適宜プリントを配布。

参考書：無藤隆他編 『よくわかる心理学』(ミネルヴァ書房)

丹野義彦著 『性格の心理』(サイエンス社)

その他：OHP、ビデオ、DVDを使用する予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 心理学への招待 (心理学概論) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 矢田 尚也 (非常勤) |
| 32 | 英語表記 | Introduction to Psychology | | | | | | |

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学における基本的で身近なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査を実施したり、ビデオ教材等を活用する。

内容は、およそ以下のとおりである。

1. 心理学とは
2. 心理学の研究法
3. 感覚と知覚
4. 記憶と学習
5. 言語と思考

6. 社会的認知
7. 対人関係
8. 集団と個人
9. 社会と人間
10. 発達
11. 感情
12. 動機づけ
13. 性格
14. 臨床心理学：理論とアセスメントの実際
15. 臨床心理学

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業後に、講義で提示した資料を、次回の授業内容も含めて本授業のWebサイトに掲載する。各自が次回の授業内容を確認した上で、次回の授業に臨む。

事後学習：本授業のWebサイトに掲載される講義で提示した資料に目を通し、復習する。

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

なお、本科目は、「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理学概論」に対応している。

●教材

教科書：特に使用しない。

参考書：無藤隆他編 『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房） 無藤隆他著 『心理学』（有斐閣）

プロジェクタを使用する予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 心理学への招待 (心理学概論) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 田端 拓哉 (非常勤) |
| 33 | 英語表記 | Introduction to Psychology | | | | | | |

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講すること

によって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だから

である。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組み及び働きを知り、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学の各領域からトピックを精選して講義する。内容は、およそ以下のとおりである。前半の7週に、後半の各トピックにもかかわる心理学の成り立ちについて概説する。後半は人の心の基本的な仕組み及び働きの解説として、1、2週ずつ残りの2～7のトピックに充てる予定である。

1. 心理学の成り立ち：心理学の歴史と方法の多様性
2. 記憶の構造と過程：記憶には種類がある
3. 脳と心理学：記憶の観点から
4. 学習による行動の変化：記憶が行動に影響する

5. 動機づけにかかわる自己：自己についての記憶が影響する
6. 心の発達：養育者と自己の関係の記憶
7. 心の健康と精神疾患

●事前・事後学習の内容

事前学習：前回の授業時までには次回授業内容にかかわるプリントを配布し、事前に目を通しておくよう指示する。

事後学習：当該授業のテーマにかかわる参考図書を紹介し、各自が学期末までに読んでおくよう指示する。

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

なお、本科目は、「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理学概論」に対応している。

●教材

教科書：特に使用しない。

参考書：無藤隆他編 『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房）

基本的にスライド（PowerPoint）によって資料提示を行う予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 13]

| | | | | | | | | |
|------------|------|--|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 34 | 科目名 | 行動と学習の心理 (学習・言語心理学) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 佐伯 大輔 (文) |
| | 英語表記 | Psychology of Behavior and Learning | | | | | | |

●科目の主題

ヒトを含め、動物の行動は、生まれつきそのように行動することが決まっている行動（生得的行動）と、生まれてからの経験によって獲得される行動（習得的行動）に大別される。この授業では、主に習得的行動を取り上げ、その変容過程である「学習」という現象について、これまでにヒトや動物を対象に行われてきた研究と、そこから明らかにされた事実について紹介する。さらに、ヒトと動物を分ける行動としてみなされてきた言語行動について、その特徴と習得過程について、解説する。

●授業の到達目標

自分や他者の行動を学習の原理に基づいて分析することにより、何がその行動の原因であるかを知ることができるようになること。

●授業内容・授業計画

この授業では、教科書に示した以下の章立てに従っ

て、講義形式で授業を進める。

- (1) 学習研究の歴史
- (2) 学習の研究方法
- (3) 生得的行動と習得的行動
- (4) レスポンデント条件づけ
- (5) オペラント条件づけ (1)：基礎的概念
- (6) オペラント条件づけ (2)：強化スケジュール
- (7) オペラント条件づけ (3)：刺激性制御
- (8) 複雑な学習 (1)：概念弁別
- (9) 複雑な学習 (2)：言語行動
- (10) 複雑な学習 (3)：刺激等価性
- (11) 複雑な学習 (4)：ルール支配行動
- (12) 複雑な学習 (5)：選択行動
- (13) 学習の応用 (1)：レスポンデント条件づけ
- (14) 学習の応用 (2)：オペラント条件づけ
- (15) まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：教科書の該当箇所を授業までに読んでおき、不明な点や自分の意見を明らかにする。

事後学習：事前学習と授業を通して明らかになったことを確認し、まとめておく。

●評価方法

主として平常点と学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

- (1) 心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参

加を要請する場合がある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

- (2) 本科目は、「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「学習・言語心理学」に対応している。

●教材

教科書：伊藤正人「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」(昭和堂 2005)

参考書：ジェームズ・E・メイザー(著) 磯 博行／坂上貴之／川合伸幸(訳)「メイザーの学習と行動 日本語版第3版」(二瓶社 2008)

[科目ナンバー : GE HUM 01 15]

| 掲載番号 | 科目名 | ゲームで学ぶ社会行動 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 渡邊 席子(大教) |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|-----------|
| 35 | 英語表記 | Learning about Social Behavior with Experimental Games | | | | | | |

●科目の主題

この授業の主題は、自分のキャリア(=労働を含む「生き方」全般)について「他者とともに、自分で考え、あらかず」である。授業中に行われる多様なワークを通じて、受講生それぞれが自分を取り巻く環境(世界/社会)との折り合いをつけ、いかにして自分のキャリアを発達させるために行動するか/しないかについて改めて考え、かつ、考えたことを頭の中だけにとどめず、自分の言葉で説明し、あらかずして確認する機会を提供する。

「授業形態」のところでは「講義」に区分されているが、本授業は、講義部分とあわせて個人ワーク・グループワークを多様に用いる形式をとっている。座学ではないことを十分理解したうえで他受講生とともに協働し、積極的に受講いただきたい。

●授業の到達目標

この授業の到達目標は、①キャリアカウンセリング理論の基礎を理解できること、②各種課題を通じて自分のキャリアについて分析・考察し、自身を取り巻く環境と折り合いをつけながら社会とともに生きる自立した人となるために必要なことを自分なりの視点から見出せること、の2点である。

●授業内容・授業計画

全15回の授業を介して、受講生には、キャリアカウンセリング理論についての講義を受け、他受講生とともに各種課題(教材作成、グループワーク、ゲーミング・シミュレーションへの参画など)に取り組みながら、いかに自身のキャリアを発達させるために行動するか/しないかを問い、語り、気づき、考えていただく機会を提供する。

第1回：ガイダンス+導入課題

第2～8回：ユニット1＝大学生向けキャリアデザイン・ゲーミング・シミュレーション教材をつくる(キャリアカウンセリング理論についての基礎講義、教材作成、相互評価、自己評価)

第9～15回：ユニット2＝意思決定ゲーミング・シミュレーションを通じて「自分」と「社会」を知る(ナラティヴ・キャリアカウンセリングワーク、ゲーミング・シミュレーションへの参画、討論、相互評価、自己評価)、まとめと総合自己評価

なお、授業期間中に最低2度、授業内容の理解度チェックをかねた小テストを行う。

●事前・事後学習の内容

全15回の授業期間中、日常的に各自に実践を求めるのは、以下の2点である。

【1】日常生活の中で、自分の行動、態度、意志決定プロセス、結果を客観視する機会をもつ。

【2】日常生活の中で、自分にとって価値があると思えるものをできるだけたくさん見つける。

これらについて日常的に考えているかどうか、気づいているかどうか、即座に言語化して表出できるかどうか、授業における各種ワークの質、および、ワークを介して他受講生と学び合える内容に直接影響する。あわせて、授業の進捗状況に応じて、事前に考えておいてほしいことに関する宿題、および、事後に振り返りを促す宿題を出す。

●評価方法

- (1) 平常点(学ぼうとする意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、時間・期限を順守できていたか、授業期間中に行う小テスト、自己評価等)：80点満点

(2) 各種課題に対する学生同士の相互評価：20点満点

→合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・授業は2つのユニットから成っている。全15回のうち、13回以上の演習への誠実な参画と、それに見合った学修成果を上げていることが単位認定の最低ラインである。すなわち、授業に参画し、一定の学修成果をおさめた人のみ、先に進める構造である。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・他受講生との協同を通じて「積極的に自己と向き合い、表出し、確認し、いかに生きるかを考えること」が求められる授業である。自立的に生きる

ひとりの大学生として、他受講生とともに、自分の優れた側面を発見するのはもちろんのこと、不十分な点や曖昧な点、迷いや恐れ等々も含めて過去と現在の姿を受け止めつつ、自分の足で将来へと歩み進んでいく準備(キャリア・デベロップメント・レディネス)ができているかどうか、よく見極めたうえで受講するかどうかを決めていただきたい。つまり、「(今はまだ)自分のキャリアについて考えたくない、考える必要がない」、あるいは「もう十分考えているので自分には必要ない」と思っている人には向かない。

●教材

- ・教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。なお、教材となりうる素材を受講者自身が作成したり、自分で調査して持ち寄る場合もある。

[科目ナンバー : GE HUM 01 17]

| 掲載番号 | 科目名 | 教育と発達心理学 (発達心理学) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 西垣 順子 (大教) |
|------|------|---|-----|---|----------|----|------|------------|
| 36 | 英語表記 | Psychology on Education and Development | | | | | | |

●科目の主題

人間の発達に関する3人の研究者の発達理論とその理論の成立背景を学びながら、「人間の発達とは何か」「すべての人の発達する権利を保障するために教育はどのような役割を果たすのか」という問題について考えます。

●授業の到達目標

- ①ピアジェ、ヴィゴツキー、田中昌人の3名の人間発達理論のエッセンスとその成立背景を理解すること
- ②自分自身の発達過程を多面的に分析することを通じて、現代社会における教育と発達に関わる諸問題について、より広い視野から検討できるようになること
- ③「発達する権利」について理解し、その権利が保障される社会の創出に参画する市民として、自らの生き方を考察できるようになること

●授業内容・授業計画

- | | |
|-----|--------------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 発達と発達する権利 |
| 第3週 | 科学としての心理学の誕生から発達心理学の誕生まで |
| 第4週 | ピアジェの発達理論 |
| 第5章 | ヴィゴツキーの発達理論 |
| 第6週 | 田中昌人の発達論1 |
| 第7週 | 田中昌人の発達論2：認知発達と人格社会性発達 |
| 第8週 | 発達保障論の形成 |

第9週 田中昌人の発達論：20歳前後の質的変化

第10週 レポート課題の出題と説明

第11-12週 映画「夜明け前の子どもたち」視聴

第13週 生涯発達(誕生から高齢期まで)への展望

第14-15週 発達保障の現在と未来

●事前・事後学習の内容

- ・読み物を読んで考えたことを執筆してもらう宿題を7-8回出す予定
- ・教科書を熟読しておくこと
- ・レポートの作成に際して、教科書とその他関連する書籍を読むこと

●評価方法

期末レポートが22点、毎回の授業で執筆するミニペーパーは43点、宿題が35点の計100点満点で評価します。期末レポートが13点以上かつ合計点60点以上が合格。

●受講生へのコメント

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。本授業では受講生の皆さんに読み物を読んで考えたことを執筆してもらう宿題を7-8回出す予定をしています(評価方法の欄参照)。

受講生の数にもよりますが、授業中に4人一組でグループトークをします。そこで出た意見を発表してもらう可能性もあります。

なお、授業には遅刻せずに毎回出席するのが常識で

す。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という依頼も受け付けません。担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

なお、本科目は「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「発達心理学」に対応している。

[科目ナンバー : GE HUM 01 18]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|----------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 教育と発達の心理学 (演習) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 西垣 順子 (大教) |
| 37 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

すべての人が「健康に発達する権利」が保障されなければならないという発達保障の思想を基盤に、「発達心理学：心の謎を探る旅（北樹出版）」を読み解きながら生涯発達について検討します。

●授業の到達目標

- ① 教科書に示されている内容をもとに、自らの心・認識をフィールドとして探究しながら、考えを深めていくことができること
- ② ①の内容を報告しながら議論に参加できること
- ③ ①や②の内容をレポートにまとめることができること

●授業内容・授業計画

第3週め以降は、受講生による発表と議論ですすめていきます。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 序章：発達心理学とは？
- 第3－4週 第1章：最初期の発達－冒険者たちの旅立ち
- 第5－6週 第2章：幼児期の発達－魔法の森の仲間たち
- 第7－8週 第3章：児童期の発達－冒険家たちの宝箱

●教材

次の本を教科書として指定します。必ず購入しておくこと。手元にないと宿題やレポートに取り組みません。

中村隆一 「発達の旅－人生最初の10年 旅支度編」
クリエイツかもがわ (1,700円)

第9－11週 第4章：青年期の発達－さまよえる旅人たちの休息

第12－14週 第5章：生涯発達－そして旅は続く
第15週：「未来を生きるすべての人へのメッセージ」

●事前・事後学習の内容

- ・発表者はレジメの作成する
- ・発表者以外は、教科書を事前に読んで「ミニペーパー」を作成して授業に臨む。

●評価方法

発表と議論への貢献50点、レポート30点、平常点20点の割合で評価します（満点は100点）

●受講生へのコメント

演習形式の授業のため、受講生数を16名程度以下に制限します。

演習形式ですので、受講生の発表や議論を中心に授業を進めます。授業への積極的な関与を期待します。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の2時限目と昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示する。

●教材

次の書籍を教科書として指定します。手元にないと受講することができませんので、必ず購入しておいてください。

長谷川真理 「発達心理学－心の謎を探る旅」 北樹出版 (2,100円)

[科目ナンバー : GE HUM 01 19]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|----------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | リテラシー教育の 思想と方法 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 西垣 順子 (大教) |
| 38 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

リテラシーは読み書き能力という意味が基本ではあるが、実際には一般的に考えられているようには単純な概念ではない。本授業では、リテラシーという概念

の多面的な意味を踏まえながら、リテラシーとその教育が人間個人と社会の発達において果たす役割について考え、これからのリテラシー教育のあり方について考察する。

●授業の到達目標

- ①機能的リテラシー、批判的リテラシー等のリテラシー概念を理解し、多様に展開されているリテラシー教育について、その目的や意義を理解するとともに、批判的に検討できるようになること
- ②自らが巻き込まれているリテラシー学習について、その目的と意義を理解しながら、批判的に検討できること

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
 第2週 言葉を自覚する
 第3週 機能的リテラシー
 第4－6週 フレイレの教育思想
 第7－8週 映画「こんばんは」の視聴と検討
 第9週 大学生のライティング
 第10－11週 「生きなおすことば」を読む
 第12週 レポートの相互検討
 第13－14週 批判的思考と市民リテラシー
 第15週 レポート返却と講評

●事前・事後学習の内容

- ・読み物を読んで考えたことを執筆してもらう宿題を7－8回出す予定
- ・教科書を熟読しておくこと、グループディスカッションに利用します
- ・レポートの作成に際して、教科書とその他関連する書籍を読むこと

●評価方法

期末レポートが27点、毎回の授業で執筆するミニペーパーは41点、宿題が32点の計100点満点で評価し

ます（配点は5点程度は変動する可能性がありますが、初回の授業の際に確定した数値を出します）。合計点60点以上かつ期末レポート15点以上が合格

●受講生へのコメント

受講生の多くの方は受けたことがないと思われるリテラシー教育について知るために、参考資料を宿題として読み、それについて、授業中にディスカッション（グループトーク）をします。授業を聞くだけではなく、参加するという姿勢で取り組んでください。

期末レポート課題に相当するレポート課題を、正月明けに出してもらいます。1月の授業ではそれをもとにしたグループトーク等も計画しています。そのつもりをしておいてください。

なお、授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

●教材

大沢敏郎（著）「生きなおす、ことば―書くことのちから―横浜寿町から」太郎次郎エディタス（1,800円）を教科書とします。授業で使うので、必ず購入しておくこと。

小柳正司（著）「リテラシーの地平：読み書き能力の教育哲学」（大学教育出版）（1,600円）を参考書とします。授業を聞くだけでは理解できない部分はこの本を読んで復習してください。

[科目ナンバー : GE HUM 01 20]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 心理学・認知科学と人間（心理学概論） | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 平 知宏（大教 特任） |
| 39 | 英語表記 | Psychology, Cognitive Science, and Human Beings | | | | | | |

●科目の主題

本授業では、心理学および認知科学と呼ばれる分野の発展とその成果を概観し、「人間とは何か」という問いかけに対しての「暫定的で」「多角的で」「多領域にわたる」考え方を見ていく。

●授業の到達目標

「人間とは何か」という問題点から、人間のものの考え方やものの認識の仕方に対する理解を深めることを目的としている。いくつかのテーマ・観点から基礎知識を身につけた上で、自分なりに「人間とは何か」という問いに対する答えを、自発的に出せるようになること、またそうした自分なりの答えに応じて、大学の学びの中で、他者と積極的に関わることや社会の中で人間の在り方の意義等について理解できるように

なることも目標としている。

●授業内容・授業計画

- 01回：初回ガイダンス
- 02回：心理学・認知科学の歴史
- 03回：方法論とその意味
- 04回：生物としての人間（1） 神経科学
- 05回：生物としての人間（2） 発達
- 06回：人間の在り方（1） 感覚と知覚
- 07回：人間の在り方（2） 表象
- 08回：人間の在り方（3） 学習
- 09回：情報と人間（1） 記憶
- 10回：情報と人間（2） 思考・知能
- 11回：情報と人間（3） 思考と言語
- 12回：文化・社会と人間（1） 感情

13回：文化・社会と人間（2） パーソナリティ

14回：文化・社会と人間（3） 文化・社会

15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

毎回の講義テーマに関連する形で、参考文献や資料をまとめて、事前学習として利用可能な形でWeb上に掲載予定である。

また、毎回講義後に、授業時に出す小テストについての解説や、補足説明、受講生からの質問等に対する回答、追加資料および文献等をまとめて、事後学習として利用可能な形でWeb上に掲載する予定である。

これら事前および事後の学習については、本授業での単位認定に直接関わる必須の活動ではないが、期末試験で単位認定基準を満たす得点を取るために必要となる学習活動としてだけでなく、科目の主題についての深い理解を得るための学習活動として位置づけられていることを理解されたい。

●評価方法

[授業内課題の提出 (25%)]

毎回の授業時に出す小テストへの回答について提出を求める。小テストの点数そのものは成績評価の対象外だが、提出および回答のあるなしをもとに評価を行う。

[期末試験 (75%)]

講義内容に基づく期末試験を実施する。試験問題は、毎回授業時に出す小テストから一部と、講義内容に基

づく応用問題より構成されている。

[その他]

別途心理学・認知科学に関連する実験・調査への参加を依頼することがある。実験・調査への参加は成績評価の必須要件ではないが、実験・調査への参加頻度に応じて、成績評価にボーナスをつける。

●受講生へのコメント

受講希望者は、初回授業に必ず参加するようにすること。講義の進め方や本授業専用Webページへのアクセス方法、成績評価などについての簡易な説明を行う。特に本授業で使用する必要な資料等は、全て授業用Webページにて掲載する予定であるため、やむを得ず初回授業に参加できなかった場合でも、適宜教員に連絡を取り、授業用Webページへのアクセス方法を確認しておくこと。

また本授業は講義形式であるが、積極的な参加を求める。取り扱うテーマについてのコメントの記入だけでなく、話題提供や講義進行中に行う質問への回答などを求めることがある。

なお、本科目は、「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「心理学概論」に対応している。

●教材

教材については、全て授業内で配布するため、特に事前に準備するもの等はない。また本授業専用Webページを通じて、授業内外で活用できる参考文献や資料等は、すべて配信・伝達する予定である。

[科目ナンバー : GE HUM 01 21]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代文化の社会学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 笹島 秀晃 (文) |
| 40 | 英語表記 | Cultural Sociology and Sociology of Arts | | | | | | |

●科目の主題

文化の社会学は、宗教・科学技術・メディア・ジェンダーなど幅広い現象を対象とするが、本講義では芸術に関わる論点を取り上げる。

●授業の到達目標

文化・芸術に対する社会的思考の基礎を理解することを目指す。すなわち、個別の作品の表象分析ではなく、芸術作品・芸術家をめぐる政治経済的・組織的・制度的背景の分析である。

●授業内容・授業計画

授業では、下記のように芸術に関する社会的研究の諸論点を紹介する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文化社会学と文化の社会学
- 第3回 芸術社会学における組織・制度論の系譜
- 第4回 ハワード・ベッカーのアート・ワールド論
- 第5回 ピエール・ブルデューの界の理論
- 第6回 芸術と市場①：商品としての芸術
- 第7回 芸術と市場②：職業としての芸術家
- 第8回 芸術と市民社会①：フィランソロピー
- 第9回 芸術と市民社会②：NPO
- 第10回 芸術と国家①：文化政策
- 第11回 芸術と国家②：権力と表現
- 第12回 芸術とメディア

第13回 芸術と都市①：自治体文化政策

第14回 芸術と都市②：グラフィティ

第15回 期末テスト

●事前・事後学習の内容について

事前学習：本講義は、ハワード・ベッカー『アート・ワールド』（2016年、慶應義塾大学出版会）の論点を敷衍しながら行う。したがって、講義と並行して同書を読み進めておくことと理解の助けになる。

事後学習：各講義で使用したスライドを講義終了後webサイトに掲示する。スライドを復習し講義の内容を確認しつつ、特に講義中言及した理論や概念については、社会学辞典や総論的な社会学の教科書、くわえて文献辞典やレビュー文献（『社会学ベーシックス1～10+別冊』世界思想社）をよみ理解を深めるとよい。

●評価方法

平常点：20%（コメントペーパー）＋期末テスト：80%

●受講生へのコメント

芸術社会学の基本的な論点を紹介することが本講義の目的だが、関連分野（文化経済学・文化政策学・アートマネジメント）の議論も適宜紹介する。

●教材

教科書：なし（講義では、適宜プリントを配布する）
参考書：なし

[科目ナンバー : GE HUM 01 22]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 宗教と社会 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 仲原 孝 (文) |
| 41 | 英語表記 | Religion and Human Society | | | | | | |

●科目の主題

あらゆる宗教は社会を構成する。したがって宗教には必ず社会的な問題がつきまとう。この授業ではこうした宗教をめぐる社会的問題を、講義形式で様々な角度から考察して行く。

●授業の到達目標

宗教と社会の関係をめぐる問題に関して、各自が自分独自の見解を形成することができるようになることを、授業の目標とする。

●授業内容・授業計画

今年は「宗教の多元生」の問題について考察する。あらゆる宗教は自己自身を絶対的な真理と見なすもの

であり、無数の宗教が共存しなければならない現代世界では宗教対立が深刻な問題となっている。講義では、どうすれば多様な宗教がひとつの世界で共存していくことが可能になるか、という問題を、さまざまな実例や、この問題に取り組んだ先人の思想の例などを紹介しながら考えていく。

授業計画は次のとおり（ただし授業進捗の関係上、授業計画に多少の変更が行なわれる場合もありうることを付記しておく）。

1. 序論。宗教の多元性の問題
2. 具体例からの考察（1）——ISIL（イスラム国）について

3. 具体例からの考察（2）——世界に現存する宗教差別
 4. 具体例からの考察（3）——進化論裁判
 5. 道徳の多元性の問題（1）——ニーチェのキリスト教絶対主義批判の例
 6. 道徳の多元性の問題（2）——人身供犠文化の実例の考察
 7. 道徳の多元性の問題（3）——道徳と宗教の共通性と相違性
 8. ジョン・ヒックの宗教多元主義（1）——ヒックの経歴と立場
 9. ジョン・ヒックの宗教多元主義（2）——宗教多元主義の原理
 10. ジョン・ヒックの宗教多元主義（3）——宗教多元主義の応用可能性
 11. ジョン・ヒックの宗教多元主義（4）——宗教多元主義への批判
 12. カール・ラーナーの包括主義（1）——ラーナーの経歴と立場
 13. カール・ラーナーの包括主義（2）——包括主義の原理
 14. カール・ラーナーの包括主義（3）——包括主義の批判的検討
 15. あるべき宗教多元論の模索
- 事前・事後学習の内容
必要に応じて資料を配布し、参考文献を指示するので、次回授業までに熟読してくること。
- 評価方法
小論文形式の試験またはレポートを課す。論ずべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらがすべて満たされていることが単位認定の必須の条件となる。
- 受講生へのコメント
宗教の問題に唯一の確定的な答はあり得ない。講義の目的はあくまで受講者各自が問題を考える上での手がかりを提供するところにある。したがって、小論文では講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められ、ノートや参考書をまとめただけの答えは最低の評価となるので注意すること。
- 教材
教科書は用いない。必要な資料は印刷して配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 24]

| 掲載番号 | 科目名 | 現代の経営 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 高橋 信弘 (商) |
|------|------|----------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 42 | 英語表記 | Contemporary Business Management | | | | | | |

●科目の主題

経済の変化のスピードが高まっている。数十年前であれば、電機メーカーは、冷蔵庫の新製品を出せば、次の製品を出すのは10年後であった。一方、現代のスマートフォンのメーカーは、半年ごとに新製品を出す。このように商品サイクルは短縮化している。本授業では、現在の企業と置かれた経済環境と、そのもとで企業がどのように経営をしているのかを見ていく。つまり、経済との関係から経営を考察する。

●授業の到達目標

グローバル化の進展のなかで日本経済が進む方向と日本企業の展開のあり方を理解するための、最低限の知識を得られる。これにより、様々な問題をについて自分で考えられる。また、世界の動きをより具体的に認識できるので、世界に対する視野が広がる。

●授業内容・授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 アジア通貨危機 発生の理由
- 3 アジア通貨危機 日系企業の経営への影響
- 4 サブプライムローン問題と世界金融危機
- 5 欧州債務危機 発生の理由
- 6 欧州債務危機 銀行経営への影響

- 7 海外へのアウトソーシング
- 8 日本の貿易と直接投資の拡大
- 9 少子高齢化社会
- 10 世界貿易機関（WTO）と経済連携協定（EPA）
- 11 中国経済 経済成長の理由
- 12 中国経済 日系企業の経営
- 13 TPP 概要
- 14 TPP 日本企業への影響
- 15 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習として教科書を読み、授業の概要を把握しておくことが望ましい。また、事後学習として、授業の内容を振り返り、各経済現象がどのような理由で起こるのか、自分が理解できているか確認することが求められる。本授業の目的は、経済や経営の用語を学ぶことではなく、因果関係の把握にある。つまり、経済や経営の変化のメカニズムを理解し、それをもとに今後の日本と世界の経済の動きを考察することである。そうした理解と考察が出来ているのかどうか、授業の後に考えて欲しい。

●評価方法

期末試験のみ。試験時の資料持ち込みについては、

後日指示する。

●受講生へのコメント

受講生が経済や経営に対する基礎知識ゼロであることを前提に、丁寧に説明していく。

誰もが、その生活において、経済や経営の影響を強く受ける。特に就職後、多くの人がこのことを強く実感する。また、理系の学生でも、課長になれば企業の

経営の視点を持つことが求められるため、経済や経営の知識は必須である。しかし、そのときには、経済や経営についてじっくり学ぶ時間をとれない。だからこそ、自由にものを考える時間がある学生時代に、経済や経営について学んでほしい。

●教材

高橋信弘『国際経済学入門 改定2版』（ナカニシヤ）

[科目ナンバー : GE HUM 01 25]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 社会科学のフロンティア | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 坂上 茂樹(経) |
| 43 | 英語表記 | Frontier of Social Science | | | | | | |

●科目の主題

「本邦自動車用代用燃料技術史の基本構造 ～戦時バイオマス燃料狂想曲の顛末～」

所謂、代用燃料自動車及びその周辺に係わる社会技術史を扱う。

●授業の到達目標

標記について正確な社会史的・技術史的理解を深めること。

●授業内容・授業計画

上記の目次は以下の通り

はじめに

第1章 木炭ガス発生装置の進化——浅川式その他から統制型日燃式へ——

1. 浅川権八の時代、人と業績
2. 可搬式及び移動用内燃機関のガス化と各種の燃料を用いるガス発生装置
3. 国産木炭ガス発生装置先発3型式とその適応放散……据付用、非軌道車両用、機関車用
4. 浅川式木炭ガス発生装置付き森林鉄道用、熊林3型5、6号機関車
5. 鉄道省における代燃装置の使用・改良実績
6. 乱立から統制へ……日本燃料機合同の設立と日燃式木炭ガス発生装置の創製
7. 日燃式木炭ガス発生装置の裾野ないしベース技術

第2章 戦時期日本の自動車用コーライト並びに石炭ガス発生装置——開発の目的と成果——

1. 自動車用発生炉ガス燃料として木炭の次に期待を集めたコーライトと石炭
2. 日燃式自動車用コーライト／石炭ガス発生装置
3. 代燃統制の境界領域と中央貿易の中央式双立型ガス発生装置
4. 日燃式石炭ガス発生装置の技術的境界
5. 大陸科学院・富士工業系の石炭ガス発生装置

第3章 戦時～復興期日本における自動車用代燃装置——木炭から薪への転換、圧縮・液化・溶解ガス、アルコール、代燃専用機関——

1. 木炭から薪へ……統制前後における自動車用薪炭ガス発生装置の転換
2. 本邦自動車用代用燃料総覧……アセチレン、その他のガス体燃料とアルコール
3. 戦後における薪ガス発生炉及びその他代燃車の研究開発と実用化
4. ゴーゼル自工の薪炭ガス専用機関EA10型、EB10型

第4章 戦時～復興期日本におけるディーゼル機関のガス運転——その諸相と実現形態——

1. 前提としてあったドイツにおけるディーゼルガス運転実験
2. 池貝自動車製造におけるディーゼルガス駆動実験
3. 鉄道省におけるディーゼルガス運転とオートー転換実験
4. ゴーゼル自動車工業(いすゞ)におけるディーゼルガス駆動の実験と実践
5. 発動機製造(ダイハツ)における据付用ディーゼルガス駆動機関

むすびにかえて

●事前・事後学習の内容

拙稿「本邦自動車用代用燃料技術史の基本構造～戦時バイオマス燃料狂想曲の顛末～」は開講時点では本学リポジトリに đăng載されている予定である。事前・事後に良く読んでおくこと。更なる参考文献はそこに示されている。

●評価方法

期末試験による。

●受講生へのコメント

教材(約200頁)は只で読める。

●教材

拙稿「本邦自動車用代用燃料技術史の基本構造～戦時バイオマス燃料狂想曲の顛末～」(大阪市立大学学術機関リポジトリ đăng載予定)

[科目ナンバー : GE HUM 01 27]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本国憲法 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 阿部 和文 (法) |
| 44 | 英語表記 | The Constitution of Japan | | | | | | |

●科目の主題

日本国憲法の基礎知識

●授業の到達目標

本講義の基本的な目標は、日本国憲法に関する基本的な知識を得ることにある。日本国憲法の条文は一見すると単純であるが、それだけに背後には数多くの複雑な問題が控えている。一学期という限られた時間ではあるが、特に重要と思われるテーマについて、最低限の知識と考え方を身につけることが目標となる。

●授業内容・授業計画

以下では各回で扱うテーマの概略を示す。ただ、これはあくまでシラバスを作成している時点での見通しである。また、授業の進行など事情に応じて、扱う順序を変更することがある。

- 1 イントロダクション (憲法の意味、日本国憲法の概観)
- 2 国民主権と立憲主義
- 3 立法権・行政権
- 4 司法権
- 5 戦争放棄
- 6 基本的人権・総説
- 7 法の下での平等
- 8 信教の自由・政教分離
- 9 表現の自由① (検閲と差止め、名誉毀損・プライバシーとの関係)
- 10 表現の自由② (報道の自由、放送制度、インターネットの問題)
- 11 経済的自由
- 12 「生存権」
- 13 地方自治
- 14 憲法改正
- 15 日本憲法史

●事前・事後学習の内容

各回で取り上げるテーマについて、下に掲げる教材を予習してることが求められる。具体的な予習箇所は、初回で告知する。予習に際しては、教科書や条文・判決が、政治・社会のどのような問題を想定しているのか、大まかなイメージを持てるようにしてほしい。

また、初回の授業までに、日本国憲法の条文を通読しておくことが望ましい。

●評価方法

基本的には、学期末に行う定期試験によって評価する。中間試験を実施するかどうか、レポート課題を出すかどうかは、未定である。この点は、初回の授業までに正式な告知を行う。

●受講生へのコメント

予備知識は特に要求しない。ただ、高校で政治経済や現代社会を履修している人は、教科書や資料集を読み返して、どのような勉強をしたのか思い出しておくに役立つ。

なお、法学部生に対しては、本講義は教職の単位としてのみ認定される。(全学共通教育の単位としては認定されない)

教職の単位を必要としない法学部生は専門科目の憲法Ⅰ・Ⅱのみを受講されたい。

●教材

初宿正典ほか編『目で見える憲法 第5版』(有斐閣、2018年)

野中俊彦ほか編『憲法判例集 第11版』(有斐閣、2016年)

*なお、授業開始前に改訂が行われることが分かった場合には、教材購入に間に合う限りで、改めて告知する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 27]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本国憲法 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 中谷 実 (非常勤) |
| 45 | 英語表記 | The Constitution of Japan | | | | | | |

●科目の主題

憲法改正、立憲主義…という言葉が、毎日のようにいわれているが、誰もが理解しているとはいえない。本授業では、憲法を、日本という政治的共同体の設計

図として捉え、その設計図の中身を検討する。設計図とは、設計者が考えたことを誰も一後生の人にも一見できるように描きだし、設計者の意図を、読み手に確実かつ容易に伝達できるように保存するためのものであ

る。もっとも、憲法という設計図は、平和や国民の幸福を実現する理想を含む設計図であり、設計図を解釈するJIS規格のような共通の基準がなく、様々な解釈がありうる点で、機械の設計図とは異なる。後世代の国民が書きついでいく未完の設計図という性格をもつことにも留意したい。

●授業の到達目標

憲法という設計図は、国民の幸福実現のために、①国民→選挙→国会→内閣という政治のメインルート、②メインルートから生まれた法律が憲法の規定、特に人権規定に違反した場合に違憲として排除する機能をもつ違憲審査のルートが記されている。①②について、具体的な事件や新聞報道などを題材にしながら理解し、日本国憲法の基本的イメージを獲得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業内容と関連するビデオを使用することがある。

- 【1回目】最近の憲法問題－憲法って何ですか？
- 【2回目】立憲主義の展開－マグナカルタから現代まで
- 【3回目】国民主権・国会・内閣－議会制民主主義のメインの回路
- 【4回目】司法権と違憲審査制の回路
- 【5回目】人権総論1－人権と公共の福祉
- 【6回目】人権総論2－続き
- 【7回目】幸福追求権－すべての人権の根源にあるもの
- 【8回目】法の下での平等－人の根源的な感情
- 【9回目】思想良心の自由・信教の自由・学問の自由
- 【10目】表現の自由1－自己実現と民主主義

- 【11回目】表現の自由2－続き
- 【12回目】経済的自由・人身の自由
- 【13回目】社会権1－生存権
- 【14回目】社会権2－教育を受ける権利
- 【15回目】平和主義・まとめ

●事前・事後学習の内容

- ①5分でもテキストの次回の範囲をみておくことが望ましい。
- ②配布資料、とくに判例は難しいので、授業のあと復習してください。
- ③日々の習慣として新聞に目を通すこと。

●評価方法

学期末に行う定期試験のみによって評価する。

●受講生へのコメント

- ①下記教材のところに掲げるテキストは、とっつきやすいものを選んだ。著者、中谷彰吾氏と私の苗字は同じであるが、偶然の一致である。
- ②授業当日、A3 1枚の資料を配布する（この資料は、次回に限り再配布し、それ以降は、配布しない）。テキストは簡明な記述をしているため、配布資料によって補いながら、授業を進行する。
- ③法学部の学生に対しては、本講義は教職の単位としてのみ認定される（全学共通教育の単位としては認定されない）。教職の単位を必要としない法学部生は専門科目の憲法Ⅰ、憲法Ⅱのみを受講されたい。

●教材

中谷彰吾『よくわかる憲法』（自由国民社）2000円。現在は第6版であるが、最新版を用いる。過去の版も使用可能であるが、数頁のズレに注意。

[科目ナンバー : GE HUM 01 28 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 都市的世界の社会学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 伊地知 紀子 (文) |
| 46 | 英語表記 | Sociology of Urbanization | | | | | | |

●科目の主題

都市的世界を社会学の視点から考察する。モノ・ヒト・情報がさまざまなボーダーを越えて移動する現代世界では、グローバル化が一つのキーワードとなり、日本もまたその流れのなかにある。この講義では、グローバル化のなかで生じる日本の都市的世界を朝鮮半島との関わりの中からは考える。具体的には、明治期から現代までを射程に入れ、大阪が多民族・多文化社会となっていく様子を韓国・濟州島との関わりを考察対象とする。

●授業の到達目標

都市を重層的に捉える視点を身につけ、自分に身近

な歴史や生活を見直すなかで、視野を広げ汎用性の高い世界観を養う。

●授業内容・授業計画

1. オリエンテーション
2. 日本社会とエスニシティ (1)
3. 日本社会とエスニシティ (2)
4. 韓国・濟州島／日本・大阪 (1)
5. 韓国・濟州島／日本・大阪 (2)
6. 越境する生活圏－解放前 (1)
7. 越境する生活圏－解放前 (2)
8. 越境する生活圏－解放後 (1)
9. 越境する生活圏－解放後 (2)

10. オールド・カマーとニュー・カマー (1)
11. オールド・カマーとニュー・カマー (2)
12. 都市化と移動
13. 多文化と共生 (1)
14. 多文化と共生 (2)
15. 試験

●事前・事後学習の内容

事後に配布資料を熟読し、関連書籍を読むようにすること。

●評価方法

授業中のミニレポートを含む平常点40%、期末試験

60%。

●受講生へのコメント

授業中に講義内容に関する意見を聞くことがある。

●教材

井上俊・伊藤公雄編『都市的世界』(社会学ベーシックス4)世界思想社。

伊地知紀子『生活世界の創造と実践-韓国・濟州島の生活誌から』御茶の水書房。

その他、授業中に適宜指示する。資料配布、ビデオやスライドも使用予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 30]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代社会学入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 進藤 雄三 (文) |
| 47 | 英語表記 | Invitation to Contemporary Sociology | | | | | | |

●科目の主題

現代社会で起きている多様な社会現象を素材に、社会学的分析を提示する。

●授業の到達目標

1. 社会学という学問領域についての概括的知識を習得する。基礎概念、基礎理論を説明できる。
2. 現代社会の多様な現象に関する知識を習得するとともに、社会学的思考法についての理解を深める。

●事前・事後学習の内容

次回講義の際に使用されるキーワードを指示するので、該当箇所を調べておく。

前回講義の復習の時間を設定するので、事後学習として活用する。

●授業内容・授業計画

以下のスケジュールに従い、講義形式で行う。

1. 社会学：オリエンテーション
2. 自己論：「私」という存在/ 社会学的自己論/ 「個人化」
3. 逸脱：逸脱とは何か/ 犯罪への2視点/ ラベリング理論
4. 医療：医療とは何か/ 医療の歴史/ 医療化
5. 政治：政治とは何か/ 権力と支配/ 国民国家
6. 情報・メディア：メディアとは何か/ メディア論
7. 教育：教育とは何か/ 近代社会と教育/ 日本型学歴社会

8. 宗教：宗教とは何か/ 世界の宗教/ 宗教社会学的分析
9. 家族：家族とは何か/ 近代家族/ 現代家族の位相
10. ジェンダー：ジェンダー概念/ 家父長制と資本制?
11. エスニシティ：エスニシティ概念/ オリエンタリズム
12. エイジング論：エイジングとは何か/ 「エイジズム」
13. グローバリゼーション論：それは何を意味するのか
14. 現代社会の歴史的位相：日本、世界の共時変容
15. 結語：社会学的想像力

●評価方法

出席2・コメント3・試験5の割合で、三者の総合評価(100点満点)によって判定する。

●受講生へのコメント

多様な時事的な問題に関する関心、知識を広めておいてください。

●教材

参考書：『新しい世紀の社会学中辞典』(ミネルヴァ書房、2005) 『社会学』(医学書院、2012)

毎回プリントアウトの資料を配布します。

[科目ナンバー : GE HUM 01 31 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代の社会問題 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 川野 英二 (文) |
| 48 | 英語表記 | Contemporary Social Problems | | | | | | |

●科目の主題

現代の貧困と新しい社会問題の特徴について論じる。講義では、労働と貧困に関係する社会問題の歴史と現代におけるその変容を論じる。欧州を中心とした先進国における貧困の国際比較と、日本とくに大阪の都市貧困を例にとりあげる。

●授業の到達目標

現代の社会は、非正規雇用やワーキングプアの増加、貧困の上昇や格差の増大など、新たな社会問題に取り組まざるをえなくなっている。これら現代の社会問題に関する問題意識を深めると同時に、関連する統計や映像、インタビューなど様々なデータを読み解き、解釈する能力を養う。

●授業内容・授業計画

- 第1・2講 貧困の基本形態
- 第3・4講 貧困と社会問題の歴史
- 第5・6講 福祉国家と社会問題
- 第7・8講 新しい貧困と社会的排除の登場
- 第9・10講 貧困と社会的排除の国際比較

第11・12講 都市貧困と社会的排除

第13・14講 大阪の都市貧困と排除

●事前・事後学習の内容

事前学習：テキストをよく読む。

事後学習：スライド資料を確認し、自分のテーマを見つけて調べる。

●評価方法

出席とコミュニケーションカード (30%)、試験 (70%) の結果を総合的に判断して評価する。

●受講生へのコメント

本講義をつうじて、新聞やニュースなどメディアで取り上げられるようなアクチュアルな問題を、歴史や社会構造などマクロな社会の変化と関係づけてとらえる想像力を養ってほしい。

●教材

教科書：セルジュ・ポーガム『貧困の基本形態』新泉社 2016年

参考図書は授業中に適宜指示する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 32]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|--------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 家族と社会 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 佐々木 洋子 (非常勤) |
| 49 | 英語表記 | Family and Modern Society | | | | | | |

●科目の主題

家族は、多くの人にとって非常に身近なものである。それゆえ私たちは、家族について、自身の経験から考察しがちである。しかし、家族（および家族生活）は、個人的な事柄であるだけでなく、文化的、社会的、歴史的なものでもある。本科目では、家族社会学の立場から家族にアプローチし、家族をめぐる様々な現象について考察する。

●授業の到達目標

家族に関する基礎的なデータや理論枠組みの理解を通じて自身の家族経験を相対化し、家族をめぐる諸現象について考察できるようになる。

●授業内容・授業計画

授業は、講義形式で進める。受講生には、毎回、講義内容の要約、コメントおよび課題等を提出してもらい、次回以降でフィードバックすることをつうじて双方向的に授業を進める。また、映像資料なども用いる。

1. オリエンテーション

2. 現代の家族イメージ

3. 家族とは？

4. 統計で見る家族の姿

5. 近代家族の誕生 (1)

6. 近代家族の誕生 (2)

7. 家族の形成と解消 (1)

8. 家族の形成と解消 (2)

9. 家族の生活時間

10. 子どもをもつということ

11. 子育てと親子関係

12. 高齢期と家族

13. 脱家族？

14. 家族と社会 (まとめ)

15. 試験

●事前・事後学習の内容

授業で扱った内容について、授業内で紹介した文献

等を用いながら事後の学習・考察を行うことが望ましい。また、家族に関連する事柄は、メディア等で頻繁に報道されているので、日々の情報収集と、それらを題材として、家族について考察することを半期のあいだ継続してもらいたい。

●評価方法

毎回提出してもらおうコミュニケーションカード等に基づく平常点（30%）と期末試験（70%、論述形式・持ち込み不可）で評価を行う。

[科目ナンバー : GE HUM 01 33]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|---------|
| 掲載番号 | 科目名 | 世界のなかの日本経済 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 小川 亮（経） |
| 50 | 英語表記 | Japanese Economy from the World Viewpoint | | | | | | |

●科目の主題

本講義では、世界的な視野からみた日本経済の特徴について考える。日本経済の戦後からの変遷、産業構造の転換、格差問題、環境問題、新しい金融政策に関する議論、財政の維持可能性など、様々なテーマをとりあげる。

講義の特徴として、経済学の基礎理論（ミクロ経済学やマクロ経済学）および統計データを用いた解説が中心になる。世の中にあふれている経済に関する通説や主張は、あいまいな考えに基づいたり、未だ証明（実証）されていない仮説段階のものだったり、なんとも頼りないものが多い。それに振り回されないためには、経済学の理論や統計分析に立脚した物の見方が必要になる。

●授業の到達目標

講義を通じて、グローバル化や少子高齢化が進むなかでの日本経済の実態や課題について見識を深め、テレビや新聞などで取り上げられる関連ニュースに対しては深い考察や議論ができるような力をつけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

基本的にテキスト（下記参照）に沿って講義する。

1. イントロダクション
2. 日本経済論への招待
3. 高度成長はなぜ実現できたのか
4. 日本経済の失われた20年
5. 労働市場の構造変化と所得格差

●受講生へのコメント

受講生には、第1回目の授業時に、質問等のための連絡先を伝える。また、受講に際し、他の学生に迷惑をかけるような行為（私語など）を行う者には、退出を求めることがあるので、注意すること。

●教材

教科書：特に指定しない。資料を配付する。

参考書：神原・杉井・竹田編、2009『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房、永田・松本編2017『入門家族社会学』新泉社。ほか、授業中に適宜紹介する。

6. 中小企業・ベンチャー企業の役割
7. 産業構造の変化と日本経済の盛衰
8. 環境・エネルギー問題の克服
9. 日本の金融システム
10. デフレと非伝統的金融政策
11. 財政の維持可能性
12. 地域経済と政府の役割
13. 人口減少と社会保障
14. 国際経済の中の日本経済
15. これからの日本経済を考える アベノミクスを超えて

●事前・事後学習の内容

事前の学習：テキストを一読し、理解できない箇所を明らかにすること。

事後の学習：講義を聴いても理解できなかった箇所について、講師に積極的に質問したり、他の文献を読んだりすることで対処すること。

●評価方法

学期末の試験のみによる。

●受講生へのコメント

私語、スマホ操作、居眠り、特別の理由のない遅刻・途中退席といった受講上のマナー違反を慎むこと。場合によっては、退出を求める。

講師への質問がある場合は、講義終了後が望ましい。

●教材

テキスト：宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之(2017)『日本経済論』中央経済社

[科目ナンバー : GE HUM 01 34]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代経済学入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 長沼 進一（非常勤） |
| 51 | 英語表記 | Introduction to Modern Economics | | | | | | |

●科目の主題

経済学の目的は「さまざまな制約条件のもとにおいて人間の存在価値を最大にするための合理的かつ効率的な方法を見いだすこと」にあります。人間の生存に必要な資源はかぎられているため、それをどのように調達し、どのような用途にもちいるかは制約があります。世界の国々でそれらをどのように分け合うのか、一国においてもそれをどのような階層の人々で分け合うかは誰も大きな関心をもっていているでしょう。希少資源を無駄なく用いるための心構えはすべての人がかけねばならない重要課題です。

経済ということばは経世済民を意味し、世の中の秩序をただし民衆の生活を援けるという儒教的精神が込められています。他方、ギリシャ語のエコノミー(economy)の語源には家産の管理法則という意味があり、そこから節約や儉約という意味が派生してきました。それらのことを考えると、私たちがエコノミー・マインドを身につけるといことは私たちの生き方に非常に役に立つということです。経済学を学び、エコノミー・マインドを身につけることが本講義の課題です。

●授業の到達目標

第1に人間の生存と経済とのかかわりを理解し、その基本的仕組みがわかること。第2に経済ニュースの核心が何かを把握できること。第3に経済的選択が実際にできるようになること。以上の三つが本講義の目標です。

●授業内容・授業計画

業は語学であれば文法に相当する経済学の原理について解説します。経済学の原理は経済モデルをもちいてかなり抽象的な命題を解くかたちになるので、それを具体的に把握する最新のトピックスを取り上げ、現在起こっている経済現象の分析へとつなげていきます。授業は以下の計画にしたがってすすめることにしましょう。

- 第1回 経済学は何のために学ぶのか
- 第2回 人間の生存がモノの消費であること
- 第3回 満足度と効用関数
- 第4回 需要曲線の導き方
- 第5回 あれかこれかの選択と効用極大
- 第6回 供給曲線の導き方
- 第7回 生産と利潤極大
- 第8回 経済的豊かさの指標GDP

- 第9回 消費関数の型
- 第10回 投資関数の型
- 第11回 国民所得の決定と失業
- 第12回 経済成長と経済循環
- 第13回 貨幣需要と貨幣供給
- 第14回 財市場と貨幣市場の同時均衡
- 第15回 自由貿易と経済厚生

●事前・事後学習の内容

事前の学習として、講義計画にしたがい参考書や配布資料を用いて予習をすること。あらかじめ質問項目をコミュニケーションカードに書いて事前に提出すること。毎日、新聞に掲載される経済記事をチェックすると、講義で解説する時事問題がより理解しやすくなるでしょう。

事後の学習としては、黒板に板書した内容を整理し、参考文献をもとにサブノートを作成するとよい。専門用語や重要箇所のチェックを忘れずに行うことが大切です。

●評価方法

中間小テストと期末テストの成績を総合して評価します。

●受講生へのコメント

授業を面白く聴くには日ごろから経済ニュースに関心をもつこと。新聞の見出しだけでも目を通しておくと授業の話題についていけます。質問や意見は授業終了後をお願いします。またはコミュニケーションカードを提出してください。黒板に板書した内容を整理し、サブノートを作ることをお奨めします。

●教材

どのようなものであれ、学術情報センターにある経済学の入門書を手元に置いて勉強すると便利です。参考書については授業中にその都度指摘します。

テキストの1例：井堀利宏『入門 ミクロ経済学』新世社、2005年。

井堀利宏『入門 マクロ経済学』新世社、2005年。
梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学』日本評論社、2000年。

脇田 成『マクロ経済学のナビゲーター』日本評論社、2000年。

自学自習用として：J.E. スティグリッツ『マクロ経済学(第3版)』東洋経済新報社、2012年。

J.E. スティグリッツ『ミクロ経済学(第4版)』東洋経済新報社、2013年。

[科目ナンバー : GE HUM 01 35]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 法と社会 | | | | | | |
| 52 | 英語表記 | Law and Society | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 国友 明彦 (法) 他 |

●科目の主題

グローバル化の進む現代社会の中での国際関係法の役割について考える。国際関係法と一口に言ってもさまざまな分野があり、多角的な理解ができるように、本講義では法学部の国際関係法分野の3名の教員(国友明彦, 桐山孝信, 平覚)が分担して講義を担当する。

まず、桐山が、国際法および日本国憲法の観点から平和維持、国際法の観点から人権について講義をする。次に平が国際経済社会における法の役割について講じる。最後に国友が国籍法(国籍の取得喪失について定める法)および国際家族法(特に婚姻・離婚)について講じる。

●授業の到達目標

国際関係法分野に属する国際法、国際経済法、広義の国際私法〔国籍法を含む〕がどのような法であるかを理解し、また、そのうち本講義で取り上げる諸問題については、その問題の所在を理解し、その問題の解決について論理的に議論することができるようにする。

●授業内容・授業計画

〔第1回～第4回には、桐山が平和と人権について講義する〕

第1回 国際平和と法：法は国際平和をどのように維持しようとしているのか。国際法、特に国連憲章の観点から考える。

第2回 憲法と平和：日本国憲法はどのように平和を維持しようとしているか。憲法の平和主義の観点から考える。

第3回 国際人権と法：なぜ、人権は国際的に保障されなければならないのか。国際人権規約やその他の人権条約について考える。

第4回 国際人権と日本：日本での人権状況改善のために国際人権にはどのような貢献が可能か。国家報告制度や個人通報制度について考える。

〔第5回～第8回には、平が国際経済社会における法の役割について講義する〕

第5回 国際経済社会における法の役割(その1)：ゲーム理論を応用して、国際社会における法、とくに国際経済法の役割を考える。自由貿易に関する経済学理論、国内貿易政策の決定プロセスなどを検討する。

第6回 国際経済社会における法の役割(その2)：ゲーム理論を応用して、国際社会における法、とくに国際経済法の役割を考える。国際社会の構造、WTO(世界貿易機関)法の機能などを検討する。

第7回 国際経済紛争事例分析(その1)：WTOにおいて日本の制度が問題となった紛争事例として、1996年の「日本の酒税事件」を中心に、無差別原則の意味を考える。

第8回 国際経済紛争事例分析(その2)：環境保護のための貿易制限は許されるか。1992年「イルカ・マグロ事件」や1998年の「エビ・カメ事件」を取り上げ、自由貿易と環境保護という国際社会における異なる価値の衝突と調整の問題を考える。

〔第9回～第14回には、国友が国籍法と国際家族法について講義する〕

第9回～第12回 国籍法(国籍の意義、出生による国籍の取得、国籍選択制度+重国籍の評価、国籍の喪失)：国籍法は広義の国際私法のうち比較的素人にも理解しやすい法であり、かつ基本的な法なのでこれを取り上げる。なお、国籍法については憲法訴訟も相当数提起されており、ここではそのうち重要な憲法判例も取り上げる。そのため、憲法訴訟論(違憲審査権の行使のしかたについての議論)も必要最小限の範囲ではあるが説明する。

第13回～第14回 国際家族法(氏、婚姻の成立、離婚)：国際婚姻、国際離婚に関する私法上の問題で比較的素人にもわかりやすいと思われる諸問題を取り上げる。前提となる日本民法についての説明も行なう。日本民法と外国法の比較の観点もまじえて講じる。

第15回 試験

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、推薦された参考書を読んで問題意識を高めてほしい。

事後学習としては、講義内容を復習し、そのうち重要な問題については自分の意見を論理的な文章で書いてみるのが望ましい。

●評価方法

期末試験による。

●受講生へのコメント

法学=暗記というイメージを持っている人もいるかもしれない。たしかにごく基礎的なことなど覚えることはあるが、試験は知識量を試すことが主眼ではない。むしろ自分の意見を論理的な文章で書けるかどうかが重要である。

●教材

参考書としては下記のを推薦する。

〔桐山担当部分〕桐山孝信ほか編『国際機構(第4版)』(世界思想社、2009年)、芹田健太郎ほか『ブリッ

ジブック国際人権法(第2版)』(信山社, 2017年)

[平担当部分]小林, 飯野, 小寺, 福永『WTO・FTA
法入門ーグローバル経済のルールを学ぶ』(法律文化
社, 2016年), 中川淳司『WTO:貿易自由化を超えて』

(岩波新書1416, 2013年)

[国友担当部分]奥田安弘『家族と国籍:国際化の
安定のなかで』(明石書店, 2017年)

*これら以外の参考文献も講義の中で紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 38]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|----------|----|------|------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代社会と健康 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 吉川 貴仁 (医) 宇治 正人 (医) |
| 53 | 英語表記 | Modern Health Science | | | | | | |

●科目の主題

文明の急速な進歩に伴い、我々の暮らす現代社会は便利でかつ快適になった。その反面、社会機構や人間関係は複雑になり、健康を損ねる条件は時代と共に変わりつつある。産業廃棄物や環境汚染、歪んだ食欲とアンバランスな食生活、運動不足、複雑な人間関係によるストレスや疲労などの健康を阻害する要因で現代社会は満ち溢れている。一方で、社会の高齢化が進み、健康寿命は延長しているが、生活習慣病や癌は増加の傾向を示し、種々のアレルギー疾患の増加、大都市を中心にいまだに現代病である肺結核の問題や、HIVやエボラ出血熱のような感染症が次々と出現し、健康的な日常生活はむしろ脅かされるようになってきている。

“現代社会と健康”の授業では、自分自身や身の回りの人々の健康をキーワードにして、健康維持・増進のための情報を提供し、生涯にわたる積極的な健康づくりを支援する科目である。健康は自分自身で守るべきものであるが、そのためには正しい医学知識や科学的根拠に基づいて実践する必要がある。

本授業では、健康を守るためには「何が、なぜ必要なのか」に関して、医師としての経験も交えて、パワーポイントスライドやDVDの映写及びプリントを用い、イラストを多用しながら、誰もが理解できるような形で解説する。

●授業の到達目標

- ・現代人の健康・疾病に関する問題を、内的要因(体質)と外的要因(環境)の交わりという観点から理解する。
- ・健康維持のための生活習慣(栄養や運動、休養)の重要性を理解する。特に、これらは中高齢者だけでなく、若年の時期からヒトの一生を通じた問題であることを理解する。
- ・現代人を取り巻くアルコールやタバコの問題を理解する。
- ・癌、感染症、アレルギー疾患の成り立ちを知った上で、その予防法を理解する。
- ・心の健康について関心を持ち、自分自身のケアや悩んでいる周囲の人たちの支援ができる存在になる。

- ・社会人になる前の準備として、将来に生じうる健康面や経済面のリスクを理解し、人生設計について考える。
- ・救命措置の必要性を理解し、その方法を習得する。

●授業内容・授業計画

1. 総論(健康・病気とは、現代人の寿命や病気の傾向、人生設計とリスク管理、公的・私的保障制度)
2. 各病気の成り立ちと予防
 - ①癌(肺癌、胃癌、大腸癌、子宮頸癌、乳癌など)
 - ②生活習慣病(肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常症など)
 - ③血管障害(心筋梗塞、狭心症、脳卒中など)
 - ④アレルギー疾患(気管支喘息、鼻炎、湿疹など)
 - ⑤感染症(結核、HIVなど)
3. 健康と欲求・疲労・ストレス(脳科学的観点を含む)
4. 健康と嗜好品(タバコ、アルコールなど)
 - ー受講生のアルコール分解酵素の測定実習を行うー
5. 心の健康の問題
 - ー悩んでいる人に気づき声を掛け話を聞いて支援し見守る人、自殺予防、ゲートキーパー研修ー
6. 救命講習(AEDの使い方を含む心肺蘇生法)

●事前・事後学習の内容

事前には、本科目の全学習内容を初回のイントロダクションの授業時に提示するので、予習をすること。

事後には、関連図書を紹介するので、学習内容を深めるための復習として利用すること。

●評価方法

期末試験を中心に、平常の出席状況も加味して評価する。

●受講生へのコメント

自分自身や身の回りの人々の健康に関心があり、健康の維持・増進方法と病気の予防に興味のある学生の受講を歓迎します。特に、心身の成長が一段落したこの時期に、一生涯を見すえた“自分の健康”について考えてみよう。

また、医師と学生の交流の場と考えて、授業時間を

問わず、授業内容に限らず、気軽に質問してください。

●教材

1. スライドとプリントで提供する。
2. 参考図書があれば、授業の中で紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 40]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------------|-----|---|----------|----------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代社会における キャリアデザイン | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 飯吉 弘子 (大教) |
| 54 | 英語表記 | Career Design in Modern Society | | | | | | |

●科目の主題

本科目は、キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の状況について学び、その中における、個人の生涯を通じての幅広いキャリア(社会人としての人生)のあり方や可能性および社会における役割について、受講生が自らの問題として考える科目である。就職支援・対策を目的とするのではなく、教養教育の一環としてキャリアデザイン、社会人としての人生を考える。

知識基盤社会化やグローバル化が急速に進む中で、社会・世界のあり方も変化し、多様で複雑な課題が生じている。「就職」で人生の大半が決まるという従来の日本人の典型的な職業観・働き方・生き方モデルも変化・多様化している。そのような状況の中で、我々1人1人が、多様な価値観の中で、自らの「質の高い人生」をそれぞれに構築していくことや、「より上手に機能する社会」の実現に向けて多様な人々と協働しながら取り組んでいくことが必要となってきている。本科目では、こうした社会変化の中における、自らの役割や求められる力・姿勢等についても考え、その基本を学んでいく。

●科目の到達目標

急速な変化のなかにある社会において、個人の「質の高い人生」と「より上手に機能する社会」の両方を実現していくためには、「自ら取り組むべき課題に気づき、自ら考えつつ、多様な人々と協力しつつ解決に向けて行動すること」が一層重要となる。また、そのためには、「情報や知識を複数の視点から注意深く、かつ論理的に分析する」姿勢と能力が必要であり、それとともに、他者の意見や情報を鵜呑みにするのではなく、自分の思いこみも点検しながら、自らの意見をまとめ表現していける力を身につけることが重要となる。こうした力を「クリティカル・シンキング」と呼ぶが、なかでも本科目では、キャリアをめぐる現代の社会変化を題材に、他者の意見や情報、自らの思いこみ等を分析・点検しながら、多角的に考えたり、自分の意見をまとめ・他者に伝え、相互に理解し合おうとしたりする力・姿勢の基礎の修得を目指す。

また、キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の中における、個人の生涯を通じての幅広いキャリアのあ

り方や可能性について、受講生が自らの問題として考える中で、最終的には現在の自分を相対化できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業は具体的には、以下の内容に沿って進める。

- 1 回目：ガイダンス・イントロダクション・キャリアデザインとは？
なぜ今キャリアデザイン？—大学へ行く意味の変化
- 2 回目～15回目の授業の中では、以下の1.～4.の側面についてそれぞれ3～4回分の授業を使って考えていく予定である。

1. 現代社会における職場・仕事をめぐる動向
2. キャリア選択の多様性と若年労働者を中心とする状況
3. 21世紀に必要とされる能力・スキル等とは？
4. 自らのキャリアデザインについて考える（自己イメージと他者から見た自分像・仕事のイメージと現実・自らの今後の人生・役割と現在の自分、現代社会におけるキャリアデザイン 等）

前半は講義を中心に、小グループワークや毎回の小レポート課題の意見のフィードバックを行い、中盤～後半は、課外課題・レポート等にもとづく発表やグループワーク、授業内ディスカッション等の学生参加をより重視した授業を行う予定。

なお今年度は、大阪府立大学の教養科目「自己の役割とキャリア」との連携開講を行う予定であり、可能な限り両大学の学生の意見交流等も取り入れつつ進行する予定。

●事前・事後学習の内容

まず、毎回の授業は、前回の授業内容と関連付きながら展開するため、前回の授業内容の復習や、前回授業で提示された参考文献の参照、前回の授業内小レポート課題（授業の中心となる問題点について考える課題）についての考えをさらに深めておくこと。

また、自ら調べたり考えたりする必要のある複数の課外課題や他者へのインタビュー作業等を含む最終レポート課題を授業時に配布・提示するので、提出期限までに十分作業をして提出すること。

●評価方法

1) 毎時間提出の小レポートと発表など授業参加度 55点、および2) 期末レポート等課外課題(複数の課外課題を予定) 45点の総合評価とする。

ただしこれに加えて、全体回数の3分の2以上の出席が最低限求められる。これは、本授業が、知識伝達のみではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講生へのコメント

本授業では、各テーマの現状・動向を、ただ知識として吸収するだけでなく、毎回、自らの問題として向き合い・考えていくことを求める。そのため、毎時間の授業内小レポートや課外課題等で自らの意見を根拠とともに論理的に表明してほしい。それらを出来る限

り授業でフィードバックしながら進めたいと考えている。

また、全学共通教育科目であり、異なる学部学科の異なる考え方や観点を持つ多様な受講生のなかで、互いの意見を分かりやすく伝え合い、意見交換を行い、自分の考え方を相対化する経験を得る機会として欲しい。そのため、授業内の発表やグループワーク等にも積極的に参加してほしい。

最終的には、社会における自らの今後の人生・キャリア・働くということについて考えることを通して、現在の自己や社会を相対化し把握する契機としてほしい。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 41]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------|-----|---|------|----------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代社会と大学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 飯吉 弘子 (大教) |
| 55 | 英語表記 | University and Modern Society | | | | | | |

●科目の主題

同世代の2人に1人以上が大学や短大に進学する時代を迎えた日本の大学は、広く大衆や世界に開かれた場となり、かつてないほど多くの役割を社会から期待されている。大学に関する論議も頻繁に行われ、大学は存在意義やあり方を社会から問われている。

「大学」とはそもそもどのような場か?自分が通っている「自分の大学」はどういうところなのか?当たり前のように今通っている大学はどうやって出来たのか?考えてみたことはあるだろうか。

今ある「大学」はどのように出来たのか。大学が現在抱える諸問題はどのようなもので、何故生じたのか。大学および学生に対する社会からの現在の評価や社会との関係はいつ頃生まれたのか。本科目では、これらの点について、現在の問題を起点としつつ、歴史の側面からも考えることを通して、今後の大学のあり方を考えることを目指す。

●科目の到達目標

本授業で大学について考えることを通し、自らの足もとを改めて確認し、今後の大学のあり方、大阪市大での自らの学びのあり方・学生としての関わり方について考えることを最終目標とする。

「大学」というテーマは、学生にとって、学部を超えた共通の身近なテーマであるとともに、自らの足もとから社会や世界に広がるテーマでもある。本授業を通して、大学とは何かを自分なりに考え、自分の大学の色(特色)を実感して、そこから広がる現代社会を考えつつ、これからの大学のあり方や学生としての自分

を相対化して捉え直すことを目指す。

●授業内容・授業計画

以下の5つの側面について考えていくこととする。

1. 今ある大学はどのようにできたのか?～大学「制度」成立過程
 2. 今の学生・昔の学生～大学で学ぶ「学生」の変化
 3. 大学とはどういう存在なのか?～「社会との関係」の変遷
 4. 大学で学ぶということは?～教育機能と21世紀の教養教育
 5. これからの大学はどうなっていくのか?
～グローバル化・大学の質保証・オープン化等
- 授業計画としては、初回授業はガイダンスを行い、2～6回目授業で1.の側面について扱い、その後、7～10回目で2.と3.について、11～15回目で4.と5.について考えていく予定である。

なお、それぞれのテーマを扱う際には、現在の状況と同時にその歴史的背景についても考え、また、日本の大学全体の問題と同時に、自分がその中で学んでいる大阪市立大学という長い歴史を持つ1公立大学のケースについても考える。日本の大学全体の中に大阪市大はどのように位置づけられるのだろうか。「大阪市大らしさ」とは何か、についても考えていく。

●事前・事後学習の内容

まず、毎回の授業は、前回の授業内容と関連付きながら展開するため、前回の授業内容の復習や、前回授業で提示された参考文献の参照、前回の授業内小レ

ポート課題（授業の中心となる問題点について考える課題）についての考えをさらに深めておくこと。

また、現在の大学をめぐる動向・大学や学生への社会の眼差しを実感するために、毎回、大学に関する記事・ニュース等を探すことを課外課題として課し、その要約と意見を毎回の小レポートに記入することも求める。

●評価方法

評価割合は1)毎時間提出のレポート課題と授業内活動参加度合いが60%、2)期末レポートが40%とする。

ただしこれに加えて、全体の3分の2以上の出席回数が、最低限求められる。これは本授業が知識伝達のみでなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講者へのコメント

この授業は、講義を聴き知識をただ吸収するだけでなく、大学に関するテーマについて、自らの問題として考えること等を通して、「学生」としての自らの立場や「大学で学ぶ」ということの意味を考えることを目標としている。そのため毎回の小レポートや授業内発表や、グループディスカッション等で、大学に関する問題への自らの意見を積極的に表明することを求める。それら意見を出来る限り授業内でフィードバックしつつ授業を進めていく。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。サブテキストとして『大阪市立大学の歴史』を使用する。

地域実践演習 (GATSUN)

この演習は文科省事業「地(知)の拠点整備事業(COC)」と、その後継の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に結びついて、実施されている。この事業にもとづき、地域が抱える課題を発見し、解決できる人材育成を目標とし開講されているのが、「地域実践演習(GATSUN)」である。大阪はさまざまな地域課題を抱えており、それらは相互に関連し複合化しているため、ひとつの学問分野だけで対応できるものではない。そこでは学問分野を超えて、総合的にアプローチすることが求められている。

皆さんは学部または専攻まで決めて入学してきたが、総合的にアプローチする重要性を認識、経験したうえで、上回生で専門分野に進むという途もある。「鉄は熱いうちに打て」という諺が示唆するように、入学後できるだけ早い段階において地域で起きているさまざまな課題を自分の問題として認識してもらい、大学生として学ぶ意義を社会と向き合うまたとない機会を、この演習は皆さんに提供するように設計している。そうした企図を込めて、全学生を対象とする多くの地域志向系科目とともに、1-2回生を対象とした少人数の演習科目である「地域実践演習(GATSUN)」を開講している。

実際には、「地域実践演習(GATSUN)」は、学習形式として学生が主体的に課題に取り組むアクティブ・ラーニングという考え方を導入し、論理を実践につなげるスキル、自分の考えを他者に伝えるスキル、他者と協力しながら目的を実現するスキルなどの修得をめざしている。平成30年度は四つの演習が開講される。

本科目は、集中講義形式、土日祝祭日に現地での実習など、通常授業科目とは少々異なるスケジュールとなるうえ、演習内容によって交通費等の実費負担が生ずる。各演習のシラバスをよく確認した上、真剣に取り組む気構えが求められる。

●受講上の注意

①科目の趣旨から、本科目は1回生ならびに2回生を対象に行う。3回生以上で受講を希望する場合は、最初の授業時に授業担当者まで申し出て、必ず許可を得るようにすること。

その上で、受講を希望する学生は、以下の手続きを確実に行うこと。

■合同ガイダンスに出席する(推奨)

開催時期：4月上旬(全クラス)、7月(後期開

講クラスのみ)。

授業の進め方や下記レポート・アンケートの提出方法、履修手続き等についての詳細な説明が行われるため、出席することを強く推奨する。

■事前レポート・アンケートを提出する(必須)

提出時期：前期開講クラス…4月上旬～中旬
後期開講クラス…7月ガイダンス～9月下旬

■Web履修登録をする(必須)

これら受講に際する情報については、4月上旬以降、全学ポータルサイト上に告知されるので、随時確認すること。

なお、地域実践演習はⅠ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴおよび大阪府立大学提供の単位互換科目「地域実践演習」が開講されているが、そのうち1科目(2単位)のみ履修・単位修得することができる。なお、大阪府立大学提供の単位互換科目「地域実践演習」については、受講要件が異なるため、受講を希望する場合は全学ポータルや掲示の「単位互換科目」情報をチェックすること。

②本科目は、全学共通科目であると同時に、CR副専攻(詳細は平成30年度副専攻ガイド冊子参照)の導入となる科目である。CR副専攻の履修を希望する学生は、必ず1-2回生のうちに本科目を受講するよう注意されたい。

③本科目は、フィールドワークなど学外での活動を伴うため、受講を希望する学生は、「学生教育研究災害傷害保険」(略称「学研災」)及び「学研災付帯賠償責任保険」(※)などの傷害保険・賠償責任保険に事前に必ず加入しておくこと。

(※保護者の方が教育後援会の保護者会員となられている場合は、別途加入手続きは不要。詳細は <https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/education/life-support/insurance>)

履修が確定した学生について、「学研災」及び「学研災付帯賠償責任保険」に加入しているかどうか、学生支援課へ照会を行う。加入していなかった場合は、大学生協の「学生総合共済」及び「学生賠償責任保険」に加入しているかどうか、大学生協へ照会を行う。どちらにも加入していなかった場合は、授業内でフィールドワークへ参加する前に、保険加入をすることを求めるので、速やかに手続きを行い、加入証明書(領収書の写しなど)を提出すること。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------------------|-----|---|----------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 地域実践演習 (GATSUN) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 小長谷 一之 (都) |
| 56 | 英語表記 | Active Learning on local Community | | | | | | |

●科目の主題

大阪市の区単位で、その地域の魅力・観光資源を発掘し、それを編集して発信する作業を実践する。具体的には地域新聞の編集に参加し、まちづくりについて、現場で実践的にまなび、考える。

●授業の到達目標

大阪市内の適当な区のまちづくりの現場で、地域調査と地域新聞の編集に積極的に参加し、まちづくりについて、現場で実践的にまなび、考えることを身につける。

●授業内容・授業計画

2018年度後期の金曜日3限目に座学、フィールドワークとなる週は別に時間を設ける。

●事前・事後学習の内容

事前・事後の学習については、授業中に指示する。初回は準備を必要としない。

●評価方法

平常点（出席点、参加度合い）

●受講生へのコメント

とにかく出席し、積極的に参加すること

●教材

小長谷一之ほか（2015）『観光まちづくりマネジメント』古今書院。
（参考書）小長谷一之ほか（2012）『地域活性化戦略』晃洋書房。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------------------|-----|---|----------|----------|------|-------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 地域実践演習 (GATSUN) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 実習 | 担当教員 | 水内 俊雄 (都プラザ) 他 |
| 57 | 英語表記 | Active Learning on Local Community | | | | | | |

●科目の主題

紀伊半島における地域再生の現場に触れる一都市・農山漁村の課題と将来—

紀伊半島は大阪の南に大きく広がる世界遺産の宝庫である。隣県の和歌山にありながら、最も遠隔に位置する東牟婁郡は、東京より、鹿児島より遠い時間距離に位置している。陸路では遠くて不便な遠隔地であるが、太平洋を介して、全国、海外に羽ばたく進取の地でもあった。「都市＝地域を背景とした学問創造」をスローガンに掲げてきた本学に入学した学生諸君には、都市を考えることは同時に地方のことも考えていかねばならない。そのためには自分の足で、自分の眼で、山積する課題や新鮮な発見を共有しようではないか。合宿型の演習を導入し、紀伊半島、特に和歌山県のさまざまな地域課題に接し、日本の地方が抱える問題のエッセンスをつかみ取ってもらいたい。

●授業の到達目標

本演習は、地域にはいって体験することから始まる。県庁所在都市、河川流域都市、中山間地域にそれぞれ3度の合宿とそのレポート作成をゴールとして、その合宿に向けたチーム学習と、合宿での集中的な地域との交流が、地域にどこかで刺激を与え、持続可能なビジネスを生み出し、セーフティネットを再編するよう

な仕掛けを継続的に埋め込む実践的な演習であることも目標としている。

●授業内容・授業計画

担当教員 水内 俊雄（都市研究プラザ）
西川 禎一（生活科学研究科）

学習テーマは、県庁所在都市和歌山市、県内のいくつかの河川の河口都市、そして河川流域の中山間地域を対象にして、①地方中心でありながら活力の失われている中心市街地の再興をどうはかるか、②かつては河口都市として地域の中心であったが、人口減少の中で都市農村関係が不安定になっている地方都市の現状を知る、③高齢化が著しい中山間地域における農耕による地域再興の学修、という大きく三つから構成される。和歌山市以外は、演習でのディスカッションで訪問地を決定する。

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 1 回目 | 演習の概要についての説明 |
| 2 回目～3 回目 | 県庁所在地が抱える問題についての情報収集、テーマと関心を絞る |
| 4～5 回目（11月） | 1泊2日の第1回合宿 和歌山市において合宿 |
| 6～7 回 | 地方都市とその周辺の都市・農村関係についての情報収集、 |

| | |
|---------|---|
| 8～9回目 | テーマと関心を絞る 1泊2日の第2回合宿(12月) 河口都市にて合宿 |
| 10～11回目 | 中山間地域に関する情報収集と、 テーマと関心を絞る |
| 12～14回目 | 2泊3日の第3回合宿(春休み 実施)中山間地域にて合宿 |
| 15回目 | 各々の体験、実践のまとめ、 プレゼンを通じての設定課題に対 する回答を発表(春休みに実施) |

●事前・事後学習の内容について

演習と現地実習から構成されているので、事前と事後学習は肝要となる。内容については授業時間中に指示する。

●評価方法

授業での貢献度(出席、議論、プレゼン)で評価す

る。

●受講生へのコメント

- ・応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマで、レポートを提出してもらう。応募人数が多い時には、レポートにより選抜する。最大受講可能数を15名までとする。レポート提出など、その他情報については、「地域実践演習●受講上の注意」をよく確認すること。
- ・またチームプレイを原則にした、遠隔地での調査合宿を含む授業なので、よほどの事情がない限り、毎回出席が求められ、合宿への参加は必須である。
- ・学生の都合を調整しながら、臨機応変な授業実施体制を取るの、緊密な連絡体制のもとに授業に参加していただくことになる。

●教材

特になし、必要に応じて資料を配布。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

| 掲載番号 | 科目名 | 地域実践演習 (GATSUN) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 実習 | 担当教員 | 木村 義成(文)他 |
|------|------|---------------------------------------|-----|---|----------|----------|------|-----------|
| 58 | 英語表記 | Active Learning on Local Community | | | | | | |

●科目の主題

主題：上町台地から大阪平野に広がるまちの魅力をGISで発信する

GIS地理情報システムは、オープンデータが至便に利用できるようになることで、格段とその魅力を増した。特に地図データには、さまざまな情報が多様で多彩に満載されるようになった。みなさんも地図アプリ、地図ソフトでいろいろとその魅力と便利さを感じていると思われる。この講義ではそうした地図アプリやソフトの専門家と、そうした地図を魅力的にする、地図情報、歴史情報を収集するプロフェッショナルたちに出会い、魅力的な大阪のまちまちな情報発信を実際に皆さんとともに、実践的授業となっている。まちの歴史や地理、建築やものづくりの系譜やその生き生きした活動を、GISの力を借りて、市民に、インバウンドツーリストに発信してみよう。

●授業の到達目標

本演習は、3つの学習目標を有している。ひとつは、地域の歴史。地理情報を地図や空中写真、絵図から得る手法を学ぶこと、二つ目は、そうした地域に出向いて、まちの人々と出会いながら、発信すべき情報や映像、画像資料などを収集するフィールドワークを学ぶこと、三つ目は、そうした空間情報、地域情報、歴史情報を、GISの技術を用いて整理し、発信するスキルに馴染むこと、となっている。

●授業内容・授業計画

担当教員 木村 義成(文学研究科)、

吉田 大介(工学研究科)、

天野 景太(文学研究科)、

水内 俊雄(都市研究プラザ)

3つの獲得目標を段階的に学んでいく構成となっている。まずは大阪市における上町台地と低平地の大阪平野のまちの発展の系譜について(中央区、天王寺区と大阪環状線を挟んで、城東区、東成区、生野区のエリアを想定している)、地図や空中写真を用いて学修する。その後、フィールドワークを行い、地域との交流を通じて、地域情報を収集し、それを、GISを用いて編集、発信するという中身となる。当面は日本語のみで構成する。

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 1回目 | 演習の概要についての説明と、地図、空中写真情報の利用の仕方 |
| 2回目～3回目 | 地図、空間写真情報の分析webGISの概略を学修 |
| 4～5回目 | 上町台地から大阪平野で、第1回目のフィールドワーク |
| 6～7回目 | 地方都市とその周辺の都市・農村関係についての情報収集、テーマと関心を絞る |
| 8～9回目 | 地理情報とヒアリング情報のマッチング作業と、GISの簡便な操作を学ぶ |
| 10～13回目 | GISで動かすプレゼンテーションの試作 |
| 13～15回目 | 現地にて各々の体験、実践のまと |

め、プレゼンを通じての設定課題に対する回答を発表（夏休みに実施）

●事前・事後学習の内容について

演習と現地実習から構成されているので、事前と事後学習は肝要となる。内容については授業時間中に指示する。

●評価方法

授業での貢献度（出席、議論、プレゼン）で評価する。

●受講生へのコメント

・応募人数が多い時には選抜することもある。最大

受講可能数を15名までとする。レポート提出など、その他情報については、「地域実践演習●受講上の注意」をよく確認すること。

- ・またチームプレイを原則にした、フィールドワークを含む授業なので、よほどの事情がない限り、毎回出席が求められる。
- ・学生の都合を調整しながら、臨機応変な授業実施体制を取るので、緊密な連絡体制のもとに授業に参加していただくことになる。

●教材

特になし、必要に応じて資料を配布。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------------------|-----|---|----------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 地域実践演習 「GATSUN」 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 天野 景太（文） |
| 59 | 英語表記 | Active Learning on local Community | | | | | | |

まちを面白がる！

～学生視点による観光ガイドブックづくりを通じた地域の文化資源の魅力の発掘と発信～

●科目の主題

都市大阪の文化資源の取材を通じて地域に眠る歴史や文化・産業等の発掘を行い、地域の魅力を紹介する観光ガイドブックづくりを行う。本年度は、大阪市南部（住吉、住之江等）あるいは大阪市東部（東成）の地域文化の発掘・発信を予定しているが、詳細はCR副専攻のガイダンス等で説明する。

実際の現地取材のみならず、出版企画、事前調査、取材協力交渉、DTPソフトを用いた誌面デザイン、完成後の配布に至る全課程を参加者のイニシアティブに基づくプロジェクトとして実施する。できあがったガイドブックは、区役所、観光関係者等の協力を得て、公共施設や観光案内所等で実際に観光客に配布する予定である。この意味で、参加者は地域に対して一定の責任を負うことになる。

●授業の到達目標

メディアの企画・編集、現地取材、観光モデルコースのデザインなどの総合的な実践を通じて、地域における観光資源の発掘、魅力の洗い出し、他者への呈示の工夫など、自身が情報発信の担い手として活躍できるための基礎的な素養を体得していただくことを目指す。そのため、観光や都市文化、大阪の文化に興味をもつ学生のみならず、カメラ、フィールドワーク、取材、イベントの企画や運営、メディア制作（出版・放送・広告）などに興味を持つ学生の履修も大いに歓迎したい。

●授業内容・授業計画

カメラを携え、地域を歩き、見て、聞くという数回

にわたる取材活動を基本とし、授業時間（特に後半）は、編集会議の時間となる。授業は担当教員の他、適宜学外講師を含む複数の教員が現地取材や文化資源の発掘に関するレクチャーを行う。

第1回 ガイダンス

第2～3回 観光ガイドブックのデザインやフィールドワークに関する講義、グループ分け

第4～6回 パイロットサーベイの成果発表、企画会議

第7～10回 取材成果の中間報告と誌面の吟味

第11～14回 DTPソフトを用いたガイドブックの編集

第15回 まとめ、今後の配布計画の立案

●事前・事後学習の内容

プロジェクトの運営と作業分担が要求される。全面的な学生主導で進めるため、自ら何を準備すべきか考え、データを提供するなど積極的にプロジェクトに関与する姿勢が求められる。

●評価方法

平常点（ガイドブックづくりへの貢献度、プロジェクトへの意欲）により評価する。

●受講生へのコメント

本科目を通じたスキルの獲得、自己成長に強い意欲をもった学生の参加を期待したい。また、大医学の近隣とはいえ現地フィールドワークが多くのウエイトを占めるため、通常授業時間外における現地取材、PCにおける作業など、一定の時間的、金銭的投資が発生することを了解の上、履修されたい。

●教材

演習が始まる前に、旅行ガイドブックや旅ロケ番組、

観光学、社会調査、メディア制作などに関連する文献を自分で探し、日常的に読んだり視聴したりする習慣が身についていること。担当教員が過去に実施した同

種のプロジェクトの成果、『Re：すみよし』なども参考資料となる。

[科目ナンバー : GE HUM 01 42 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | データから見る 大阪市大（演習） | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 平 知宏（大教 特任） |
| 60 | 英語表記 | Seminar: Data Analysis of Osaka City University | | | | | | |

●科目の主題

大阪市立大学では、教員のみならず学生もまた大学での教育改善の担い手として、位置づけられている。本授業では、大阪市立大学での教育の在り方について、具体的なデータに基づいて、学生の立場から見えてくるものについて議論・考察していくことを目的としている。また本演習では、受講生が主体となって、簡易な調査立案のもと、大阪市大に関するデータ収集を行うことを予定している。

●授業の到達目標

受講生が自分なりに「大阪市立大学で学ぶとはどういうことか」「大阪市立大学では何を学んでいるのか」という問いに対し答えを出し、更には大阪市立大学での教育について、学生の立場から意見を提案できるようになることを目標としている。また、基本的なアンケート調査実施を通して、調査計画の立案と実施までの基本的な流れを理解することも目標としている。

●授業内容・授業計画

授業の進行の目安は以下のとおりであるが、受講人数、調査の進行状況等に応じて、適宜スケジュール調整を行うことがある。

- 01回：初回ガイダンス
- 02回：学生から見た「大阪市大」像についての議論（1）
- 03回：学生から見た「大阪市大」像についての議論（2）
- 04回：学生から見た「大阪市大」像についての議論（3）
- 05回：中間発表、中間レポート提出
- 06回：「大阪市大」像把握のための準備作業 予備調査立案（1）
- 07回：「大阪市大」像把握のための準備作業 予備調査立案（2）
- 08回：予備調査の実施と結果解釈、および本調査計画と実施（1）
- 09回：予備調査の実施と結果解釈、および本調査計画と実施（2）
- 10回：予備調査の実施と結果解釈、および本調査計画と実施（3）
- 11回：予備調査の実施と結果解釈、および本調査計

画と実施（4）

- 12回：本調査の実施と解釈、議論（1）
- 13回：本調査の実施と解釈、議論（2）
- 14回：本調査の実施と解釈、議論（3）
- 15回：成果発表、議論、最終レポート提出

●事前・事後学習の内容

本授業では、学生から見た「大阪市立大学」像を議論するために必要となる資料や文献を、あらかじめ読み解いた上で、授業に参加することが求められることがある。各学生の資料・文献に関する理解については、適宜資料としてまとめた上で、授業内時間内で発表の上、自分以外の学生にも理解できる形でアウトプットする必要があるため、各回前に担当教員から伝えられる事前学習の内容についてしっかり把握しておくこと。

また事後学習として、授業で学習した内容に基づいた新たな情報収集や調査計画等を立てる等、学生自らが動く必要があるため、各回後に担当教員から伝えられる事前学習の内容についてしっかり把握しておくこと。

●評価方法

平常点（30%）

毎回の授業への積極的な参加（態度・行動）、および授業内での課題・提出物等の作成と提出状況をもとに評価を行う。

中間発表・レポート（30%）

最終成果発表・レポート（40%）

中間発表時、および最終成果発表への参加、およびレポートの提出とその内容をもとに評価を行う。

●受講生へのコメント

受講希望者は、初回授業に必ず参加するようにすること。講義の進め方や本授業専用Webページへのアクセス方法、成績評価などについての簡易な説明を行う。

また本演習では、基本的なオフィスソフトウェア（Word, Excel, PowerPoint等）の使用が前提となる。PCに関する基本的な作業・操作法については適宜サポートする予定であるが、自ら積極的に作業する姿勢が必要となることに留意されたい。

●教材

教材や文献、資料については、全て授業内で配布するため、特に事前に準備するもの等はない。また本授

業専用Webページを通じて、授業内外で活用できる参

考文献や資料等は、すべて配信・伝達する予定である。

[科目ナンバー : GE HUM 01 43]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代社会と大学(演習) | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 飯吉 弘子 (大教) |
| 61 | 英語表記 | Seminar: University and Modern Society | | | | | | |

●科目の主題

本授業では、現代の大学が抱える多様な問題を通題材として調べ考え発表・ディスカッションすることによって、「大学」のあり方や「自分自身が大学で学ぶ意味」をより客観的に捉えなおしたり、考察したりすることを旨とする。現代社会において大学が抱える諸問題や大学と学生の位置づけのあり方等さまざまなテーマについて、自分で調べ、考え、その成果を発表し、学年・学部学科を超えたメンバーでのディスカッションを行う中で、自らテーマを設定し、自分の意見をまとめ、互いに伝えあい話し合う経験をする受講生参加型の演習授業である。

●科目の到達目標

その経験を通して、自ら課題を発見し解決策を考える力や多角的に物事を捉える力・相互の考えを深めるコミュニケーションを行う力の基礎の修得を旨とする。

このように大学という存在のあり方について考え、大学の一部である「学生」という立場で内側から見る「大学」と、外側から見られている「大学」像・「学生」像を比較し実感することを通して、最終的には、今後の大学自体のあり方とともに「自らの学びや学生としてのあり方」を考え、自己の相対化・客観化を行うことを旨とする。

●授業内容・授業計画

本授業では、大学に関する以下の7つのテーマ（他に興味のあるテーマがあれば応相談）の中から、各自ないしはグループの調査希望に沿って選んだ4～5つのテーマに関して進める。

【テーマ】

1. 大学の学生と学力の問題
2. 大学の入り口と初年次教育
3. 21世紀に求められる教育内容
4. 社会への出口としての大学・大学院
5. 社会から求められる能力・スキル
6. グローバル化と大学
7. 大学の目的・意義とあり方・大学像

授業は以下のとおり進める予定。

- 1 回目授業：ガイダンス・メンバー紹介・希望テーマ調査
- 2～3 回目：調査テーマ決定・調査方法の検討・グループ分け等必要に応じて資料検索・

収集と調査のまとめ方指導

4～15回目：上記4～5テーマについて、テーマ毎に授業2～3回分を1サイクル（発表と補足講義・補足資料の配信→論点決定→次週までに論点に関する配信資料を読んだり自分の意見を考えたりしておく→次週にディスカッション）として授業を進める。

●事前・事後学習の内容

本授業では、受講生がそれぞれ大学に関するテーマを選定し、授業時間外を使って調べ、発表準備を行い、ディスカッションの論点を考えることを求める。また、発表終了後は、発表やディスカッションの結果を踏まえたレポートにまとめる作業も引き続き課外で行ってもらう。

ディスカッションの前の週は、授業で決めた次回ディスカッションの論点3点について、授業内で配布された資料を読んだり、追加で調べたりしながら、自らの考えをまとめて論点シートに記入してくることを求める。

●評価方法

1) 授業内提出課題、2) テーマについての調査報告発表の相互評価、3) それをもとにまとめた最終レポート、4) ディスカッションへの参加度合い、5) 授業活動全体への参加度合いをそれぞれ20%ずつ総合評価する。（20点×5項目＝100点）

なお、授業内の活動参加を重視する科目のため、全体の3分の2以上の出席回数が必要と求められる。

●受講生へのコメント

本演習では、自らの発表担当回に限らず、授業内外での多くの自律学習と、授業内の活動への積極的な参加が求められるが、それらに真剣に取り組むことで、課題設定・探求力、思考力、自律的学習力・コミュニケーション力等の基本が身につくと考える。投げ出さずに最後までがんばって取り組んでほしい。

参加型の演習授業のため、受講生を20名程度に制限する。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 47]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | エスニックスタディ 応用編 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 金光敏 (非常勤) |
| 62 | 英語表記 | Application of the ethnic study | | | | | | |

●科目の主題

在日する外国人在留者数は2005年に200万人を突破した以降、増加傾向は続いている。日本による植民地支配政策を背景とする在日コリアンをはじめ、敗戦直後に日本が中国から徹底する過程で生み出された中国残留孤児問題、また1970年代に日本が初めて直面させられた難民問題。さらに1980年代から主に歓楽街で働くため斡旋され来日した東南アジアの女性たち。また、不足する労働力を補うため1990年の法律改定で招き入れられた南米の日系人たち等々。移民政策を採っていないはずの日本においても、多くの外国人たちが入国し、労働者として生活者として定住者として地域社会を担っている。こうした人々の渡日経過を辿り、多文化共生社会に向けた課題に焦点をあてる。また社会問題化する日本国内における排外主義の実態に迫り、差別を許さない共生社会のあり方について考える。

●授業の到達目標

社会課題について探求を深め、国際化や情報化社会に欠かすことのできない人権の視点からの分析と、それを克服するために求められる実践的なアプローチの方法を身に着けることを目指す。

●授業内容・授業計画

- 1、エスニックスタディ応用編を始める前に
- 2、在日コリアンとはどのような人々か？ 1
- 3、在日コリアンとはどのような人々か？ 2
- 4、中国残留孤児とはどのような人々か？ 1
- 5、中国残留孤児とはどのような人々が？ 2
- 6、日本にとっての沖縄問題

- 7、日本にとってのアイヌ問題
- 8、日本にとっての難民問題
- 9、JFCの視点から
- 10、在日ブラジルにとって日本とは
- 11、私たちは差別、排外とどう向き合うべきか？ 1
- 12、私たちは差別、排外とどう向き合うべきか？ 2
- 13、映画が再現した排外主義のその果て 1
- 14、映画が再現した排外主義のその果て 2
- 15、多文化共生社会の実現に向けて

●事前・事後学習の内容

日常的に社会問題への関心を持っておくことを奨励します。本授業では、日本国内で発生している時節時節のニュースなどとも関連させて解説、考察したいと考えています。

●評価方法

出席及び出席時に提出してもらうコミュニケーションカードの内容を精査した授業への参加度（平常点）、そして学期末試験の点数による評価。平常点で60点、学期末試験で40点の配分です。

●受講生へのコメント

エスニックスタディ入門編との連続性はありません。授業冒頭の10分程度を使って注目を集めているニュース解説を行います。社会への深い関心は多文化共生にも欠かせないものです。

●教材

「外国人・民族的マイノリティ人権白書2018」（外国人人人権法連絡会）

ほか、授業ごとにプリントを配布します。

[科目ナンバー : GE HUM 01 48 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|----------|----|------|-------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代の部落問題 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 齋藤 直子 (人権C 特任) |
| 63 | 英語表記 | Buraku Issues in Modern Japanese Society | | | | | | |

●科目の主題

部落問題とは、どのような問題なのだろうか。部落差別は増えているのだろうか、減っているのだろうか。差別はなくならないのだろうか。日本社会の変化とともに、部落問題のあり方にも変化があるのだろうか。

また、部落問題は「もうない」「昔のことだ」、部落差別を「若い人はしない」という意見をいう人もあるが、一方で「厳しい現実はある」、「知らないだけだ」

という意見もある。なぜ、これほどまで大きく認識が異なるのだろうか。

部落問題は、日本社会の構造と密接に関係した問題である。これらの問いについて考えることは、日本社会のある面について深く考えることでもある。

講義では、データや資料を用いながら、現代の部落問題がどのように生起しているのかを概観し、上記の問いについて考えていく。

さらに、90年代以降、「部落」「部落民」の再定義に関する議論が盛んになっている。部落問題は「古い問題」ではなく、理論的にも実践的にも「古くて新しい問題」になった。なぜ、このような議論が巻き起こったのだろうか。その社会的背景には何があるのか。部落問題に関する最新の議論についても考えていきたい。

また、1969年に施行された「同和对策事業特別措置法」にはじまり2002年に終了した一連の特別措置法と、約15年のブランクを経て2016年に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」といった法の概要についても学ぶ。

そして、上記の学習を踏まえて、「部落差別の解消の推進に関する法律」「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」に基づき、学校現場における部落問題学習（同和教育）の実践方法について考察する。

●授業の到達目標

2016年末、「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行された。この法律は、「部落差別は許されないものである」と宣言し、「部落差別を解消する必要性に対する国民一人一人の理解を深める」ことを目指している。また、国と地方自治体が部落差別解消のために教育・啓発をおこなうことも明記している。部落問題学習（同和教育）は、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」に基づき、これまでも行われてきたが、この新しい法律にのっとり、今後はますます重要性を増していくだろう。

本講義では、どうすれば部落差別をなくすことができるのか、部落差別が生じた場面でどのように対処すべきか、部落問題に関する言説をどのように解釈するのか、教育・啓発の場面においてどのように部落問題を教えるのかといった点について、学生ひとりひとりが自分自身で考えて意見を述べられるようになることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回：イントロダクション～「部落問題」ってなに？
－ひとまずの定義－
- 第2回：部落問題を学ぶ「見取り図」、部落問題学習（同和教育）とは
- 第3回：近年の大きな差別事件と、長年解決していない問題の考察
- 第4回：「連続大量差別はがき事件」から考える現代の部落差別のあり方
- 第5回：「身元」を調べるとのこと(1)－身元調べとは何か、なぜ調べるのか－
- 第6回：「身元」を調べるとのこと(2)－身元調べ

- をめぐり取り組み(条例、第三者通報制度)－
- 第7回：結婚差別を考える(1)－現代日本の「結婚」を考える－
- 第8回：結婚差別を考える(2)－データから結婚差別を考える－
- 第9回：結婚差別を考える(3) 結婚差別事象における相互作用(1)－うちあげ・反対・説得－
- 第10回：ゲストスピーカー（A地区より）
- 第11回：ゲストスピーカー（S地区より）
- 第12回：結婚差別を考える(4) 結婚差別事象における相互作用(2)－反対と説得・容認－
- 第13回：現代の部落問題と部落問題学習（同和教育）(1) 部落問題の現状をどう教えるか
- 第14回：現代の部落問題と部落問題学習（同和教育）(2) 結婚差別をめぐり問題をどう教えるか
- 第15回：この講義のまとめ 一定義問題の再考－

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、前の回の講義レジュメに次回テーマを明記するので、そのテーマについて、各自で調べること。

事後学習としては、講義のレジュメおよび資料を読み直すこと。とりわけ、資料については、授業では主要な個所の説明にとどまることがあるので、全体を通読すること。また、講義で配布されたコミュニケーションカードのまとめを読み直し、他の受講生の意見を把握すること。

●評価方法

毎回の授業におけるコミュニケーションカードの記述30パーセント、期末レポート70パーセントの割合で、評価を行う。

●受講生へのコメント

授業では、毎回、コミュニケーションカードを配布する。講義への意見や質問を求めることもあれば、設定された質問への回答を求めることもある。コミュニケーションカードを通じて、双方向的に授業をすすめるので、ただ講義を聞くだけではなく授業を構成する一員として参加してほしい。

また、授業に関連した書籍を少なくとも3冊読むことを希望する。

●教材

テキスト 教科書は用いない。

参考書・参考資料等 参考文献については、毎回の授業で指示する。参考資料は、レジュメで配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 49]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | メディアと人権 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 中村 一成 (非常勤) |
| 64 | 英語表記 | Media and Human Rights | | | | | | |

●科目の主題

テーマは、《人権》を軸に、メディア総体を巡る問題について考えることである。

マス・メディアの大きな存在意義とは、人々の「知る権利」に応え、民主主義の実現に必要な基盤「情報の平等」を実現することにある。しかし新聞やテレビなどの既存メディアは、その役割を果たしているだろうか？ 一方でインターネットの普及は、従来、国家や大企業の独占物だった情報発信を個人レベルで可能にし、さまざまな障壁を超えた「コミュニケーション革命」を実現した一方で、そのメディアとしての優位性ゆえの深刻かつ対処の難しい人権侵害事件をも生み出している。

「総メディア時代」の渦中で改めて考えたい「表現の自由」とは何か。社会問題化したヘイトスピーチとネットとの関係は。従来考えられない規模、速さ、記録性を持つネット空間での差別扇動に私たちはどう対処すべきなのか。マス・メディアはマイノリティを如何に「報じて」きたのか。「北朝鮮」や「テロ」を巡る濁流報道は何を見えなくしているのか。マス・メディアで人権侵害、差別事件が繰り返されるのは何故か——。具体的な例に即して、これらの問いを共に考えていきたい。

●授業の到達目標

身の回りに溢れるメディア情報を鵜呑みにせず、多角的に検証し、「人権」の観点から読み解く姿勢を身に付けること。「<知る権利><言論の自由>と人権」について自らの考えを展開できること。さらにはメディアをめぐる問題から日本社会それ自体の問題を抽出し思考すること

●授業内容・授業計画

①年間計画、メディアの歴史、評価方法などについて◆②～③「スカーフ論争」「シャルリーエブド事件」から考える「表現の自由」とは◆④～⑥インターネットとレイシズムの蔓延◆⑦～⑧インターネット上の人種差別を日本の司法はどう判断してきたか、諸外国の政府・自治体・企業はどう対処しているのか◆⑨～⑩メディアはマイノリティをどのように報じてきたか◆⑪～⑫「タブー」のマニュアル化がもたらす「差別」◆⑬～⑭「犯罪報道」という害悪◆⑮テスト

●事前・事後学習の内容

講義の性質上、「時事ネタ」に言及することも多い。レポート課題にも繋がってくるので、自らの問題意識に合致するニュースや、講義と関連する話題については新聞各紙やネットメディアを読み比べるなど、問題意識を持って欲しい。授業で紹介した映像作品や書籍はできるだけ目を通すこと。

●評価方法

期末テストと毎回のコミュニケーションカードの内容（「楽しかった」「つまらなかった」的な感想は、平常点にはカウントしない）を基に総合的に判断する。詳細は授業で説明する

●受講生へのコメント

講師は現役のフリージャーナリスト。今に至る経験を持ち込み、なるべく多くの「問い」を皆さんに提供し、共に思考を深めて行きたいと考えている。授業では映像資料などを頻繁に活用する。

●教材

授業ごとにレジュメや記事資料などをその都度、配布する。参考書籍は逐次、紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 50 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------------|-----|---|------|----|------|------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 部落解放のフロンティア | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 齋藤 直子 (人権C 特任) 他 |
| 65 | 英語表記 | Frontiers of Buraku Liberation | | | | | | |

●科目の主題

本講義は、部落解放のフロンティア（最先端）で活躍する2名の講師を招き、いま部落問題において、何が問題であり、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。

部落解放運動の歴史は、日本の社会運動においても

主要な位置を占めており、その動向を知ることは、この社会が人権を守る社会になるためのビジョンを、われわれに教えてくれるだろう。

部落問題は、「古い」問題ではない。日本社会の変容とともに、あるいは部落そのものの変容とともに、新しい視角や新しい課題がみえてくる。実践の最先端

にいる講師に、最新の状況について講義してもらおう。

●授業の到達目標

部落解放の最先端で活躍する2名の講師の講義を通じて、人権が守られる社会とはどのようなものか、そのような社会が構築されるために担えることは何かといった点について、受講者自身がビジョンを持てるようになることが本講義の到達目標である。

●授業内容・授業計画

本講義は、オムニバス形式でおこなう。齋藤直子（本学、人権問題研究センター）が全体をコーディネートする。

谷元昭信先生は、部落解放同盟綱領の2011年改正にあたって中心的役割を担われた。その中で「差別克服への3つの戦略課題」を提起された。それがどのような問題意識から生まれたのかを、じっくりと話をしてもらう。大北規句雄先生は、隣保館活動の重要性を一貫して主張されてきた方であり、また茨木市や東大阪市で「福祉と人権のまちづくり」を新しい手法で実践されている。

本講義は、受講生がすでに部落問題の基礎知識を有していることを前提としてすすめる。大学入学までに十分な部落問題学習・同和教育を受けていない人は、前期に『部落差別の成立と展開』や『現代の部落問題』などを受講するか、部落問題についての基礎的な文献を読んで勉強しておくことを強く希望する。

授業計画は次の通りである。

- 第1回目：[齋藤担当] 部落解放運動の歩み
- 第2回目：[谷元担当] 谷元先生講義のイントロダクション
- 第3回目：[谷元担当] 部落差別の実相と現状に関する認識論
- 第4回目：[谷元担当] 明治維新以降の部落差別の実態変遷
- 第5回目：[谷元担当] 部落差別を生み出す社会的背景への考察
- 第6回目：[谷元担当] 部落解放運動の歴史と日本の社会運動
- 第7回目：[谷元担当] 部落差別克服への基本方向

と課題

- 第8回目：[谷元担当] 谷元先生講義のまとめ
- 第9回目：[大北担当] 排除と隔離の100年を問う
- 第10回目：[大北担当] 2000年大阪府部落実態調査が示したもの
- 第11回目：[大北担当] セツルメントから隣保館へ
- 第12回目：[大北担当] 福祉と人権のまちづくりへの挑戦
- 第13回目：[大北担当] 部落の経験を社会発展の糧に
- 第14回目：[齋藤担当] 識字や聞き書きの実践と「社会運動」
- 第15回目：[齋藤担当] まとめと補足的な講義

●事前・事後学習の内容

受講生にはレジュメ集を配布するので、各講義分のレジュメと資料を通読すること。事後学習としては、レジュメおよび資料を再読し、講義の内容を確認しなおすこと。それを踏まえて、コミュニケーションカードに書いた内容について、考えを深めること。

●評価方法

出席、毎回提出してもらうコミュニケーションカードの内容、2名の講師それぞれが課す課題、そして期末試験によって総合的に評価する。

●受講生へのコメント

実際に、部落解放運動の現場で活躍されている方々に講師になっていただき、実践的な立場からの議論を展開する講義である。その議論を十分に理解するためには、受講生は基礎的な部落問題の知識が必要である。したがって、前期に『部落差別の成立と展開』や『現代の部落問題』などを受講したり、部落問題関連の書籍を読むことを強く希望する（文献リストを講義で配布する）。

●教材

それぞれの講師が、毎回、講義レジュメを配布する。なお、2名の講師それぞれの初回にあたる第2回と第9回には、レポートの課題についての説明があるので、必ず出席してもらいたい。

参考文献は、講義レジュメを参照されたい。

[科目ナンバー : GE HUM 01 51 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 部落差別の成立と展開 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 上杉 聡 (非常勤) |
| 66 | 英語表記 | History of Discrimination against Buraku | | | | | | |

●科目の主題

被差別部落とそれを生みだした社会の歴史について、学生諸君は小、中、高の段階である程度学んできたと思う。「土農工商えた非人」のピラミッド図式や、部落の始まりは江戸時代の初めにあるなど、聞き飽きた

人がいるかもしれない。

だが、部落の歴史研究は、とくにこの30年間、めまぐるしく進展し、そうした固定観念は大きく変えられている。本講義では、最新、かつ最先端の研究成果をもとに、部落差別とは何か、そしてその始まりと歴史

(中世から現在まで)について、平易に、しかし本格的に、学問として講義したい。

●授業の到達目標

どんな物事においてもそうだが、歴史を知ることは、現状を知り、将来の展望を導き出すために不可欠だ。大学に学んでいるこの機会に、部落問題をいちど根底から考えてみたい、また本格的に取り組んでみたいと考える諸君に、ぜひとも歴史学(実証と全体性)を通して深く考える方法を知ってもらいたいと考えている。

●授業内容・授業計画

- 第1回 なぜ部落の歴史を勉強するのか
- 第2回 「士農工商えた・非人」のまちがい
- 第3回 「社会外」という部落のあり方
- 第4回 「部落は江戸時代に作られた」のまちがい
- 第5回 中世の部落の姿
- 第6回 戦国時代に部落に生じた変化
- 第7回 差別制度が江戸時代に本格化する
- 第8回 討論
- 第9回 差別のゆるみと強制
- 第10回 賤民制度の廃止と欠落
- 第11回 近代の差別と水平社の挑戦
- 第12回 日本国憲法と戦後の部落
- 第13回 大阪市立大学と部落差別
- 第14回 被差別部落からのお話(外部講師)
- 第15回 予備

●事前・事後学習の内容について

おおむね1回の講義で教科書の1章(回)を取り扱う。

各章は講義内容と史料に分かれているので、少なくとも講義内容の方を読んで予習しておくこと。史料も、むつかしい単語には注を付けているので、内容は理解できるはず。予習をしておけば、確実に講義についていくことができるし、授業後は、分からなかったところを、教科書をもう一度読み返せば学習は完了しよう。

●評価方法

期末試験(50点満点)と出席(50点満点)で評価する。

●受講生へのコメント

真実は人を自由にする。厳しく不条理な差別の歴史だが、それを根底から考え直すとき、私たちの精神は自由となり、解放される。部落の歴史を知ることは楽しい。もし、お説教やドグマを求めて講義を受けに来る人がいれば、その人をガッカリさせてあげたいし、大学らしい知性溢れる授業にしたい。ただし、採点・評価は厳密に行い、不勉強かつ欠席が多い場合は容赦なく欠点にする。

●教材

教科書(毎回授業で使用し、試験にも使用するので、必ず入手ないし購入すること)

上杉 聡『これでわかった! 部落の歴史』(解放出版社)

参考書

上杉 聡『これでなっとく! 部落の歴史』(解放出版社)

[科目ナンバー : GE HUM 01 52]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 世界のマイノリティ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 川越 道子(非常勤) |
| 67 | 英語表記 | Minorities of The World | | | | | | |

●科目の主題

国境を越える人の移動が加速している現代世界において、私たちは日常生活の中でマイノリティとされる社会的弱者と出会ったり、生活をともにしたり、あるいは自分自身がマイノリティとなる状況下に置かれている。日本社会においても、社会の構成員が一層多様化しつつあり、多文化共生社会の実現が唱えられる一方で、少数者を排斥する発言や活動が社会問題となっている。こうした背景を踏まえて本授業では、マイノリティをめぐる社会の課題を検討し、改めてマイノリティの人権について考える。

「世界のマイノリティ」という科目名ではあるが、私たちが暮らしている社会を見つめ直すところからはじめたいため、授業では、主に日本のエスニック・マイノリティを取り上げていく。具体的には、現在、少子高齢社会を背景に受入れが急速に拡大している外国

人技能実習生をはじめ、「多文化共生」という概念が広まる契機となった震災後の神戸やその地に生きる在日外国人を取り上げて、他国の状況と比較しながら、マイノリティの直面する諸課題について考察する。

●授業の到達目標

日本のマイノリティの現状について理解を深める。日常生活の中に潜む課題に気づき、そしてその課題に対して自らどのように向き合うかを考え続ける忍耐力を身につける。自己/他者理解を深めつつ、異文化コミュニケーション能力を向上させるとともに、人権感覚と課題を解決する思考力を養うことを目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2~3回 グローバルな人の移動とマイノリティ
- 第4~5回 マイノリティと人権①: 労働を考える
- 第6回 ゲスト講演

- 第7～8回 マイノリティと人権②：平和と暴力
- 第9～10回 マイノリティと人権③：日常の中の力学
- 第11回 ゲスト講義
- 第12～14回 マイノリティと人権④：市民活動の現状と展開
- 第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

各授業の前後に授業内容に関する課題が記載された課題シートを配布する。各自、授業の予習、復習として課題シートを完成させて、授業中に提出すること。

●評価方法

出席、ミニレポートの提出を含む平常点（60%）、

および期末レポート（40%）を総合して評価する。

●受講生へのコメント

受講生参加型の授業を行う。講義を行うと同時に、講義にもとづいた課題を提起し、教員・受講生同士、対話を重ねる機会を用意する。そこでは、性急にひとつの答えを求めめるのではなく、異なる意見を聞き、忍耐強く対話を重ねる姿勢を期待する。積極的に授業に参加する人、繊細な感覚をもって他者の発言を聴く意欲のある人とともに、対話の空間を創ることを目指したい。

●教材

教科書は特に指定しない。適宜、参考文献を紹介し、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 53]

| | | | | | | | | |
|----------------|------|---|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 68 | 科目名 | 障がい者と人権 I | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 松波 めぐみ（非常勤） |
| | 英語表記 | Human Rights of Peoples with Disabilities I | | | | | | |

●科目の主題

2016年7月、神奈川県相模原市にある障害者施設で大量殺傷事件が起こった。元施設職員である容疑者はなぜ「障害者なんていなくなればいい」と考えるに至ったのか、こうした考え（優生思想）が容疑者だけのものではないとしたら、どのような背景があるのか。そして事件の被害者の顔や名前が隠されたのはなぜなのか。——このような疑問は尽きることがない。事件は、現代の日本社会における障害のある人を取りまく状況と決して無縁ではなく、大きな課題を突き付けているといえる。

そもそも「障害者」と呼ばれる人たちは、なぜ生まれた場所から遠く離れた施設に入所させられたり、近所の子どもと別の学校に行くことを強要されたりしたのだろうか？ そもそも、「障害」って何なんだろう？——それを何より問うてきたのは、障害をもつ人たちである。かれらは1970年頃から、健常者中心の社会のあり方（社会構造や価値観）を告発し、地域社会のなかで「共に生きる」ことを模索してきた。その結果、まちは少しずつ変わってきた。さらに障害者運動の主張を理論化する努力が実を結び、2006年に国連で障害者権利条約が採択された。日本もついに2014年1月に条約を批准し、「障害者差別解消法」も2016年4月から施行された。

それでも相模原事件は起き、「振り出しに戻った」ように感じている人もいる。改めてこの社会の何が変わり、何が変わらぬ課題としてあるのかを確認していく必要がある。

この授業では「福祉」ではなく「人権」の課題として、障害（者）と社会について学んでいく。障害を

もつゲストの方を数回、教室にお呼びし、直接お話をうかがう予定である。

●授業の到達目標

「障害の社会モデル」「インクルーシブ教育」など、障害者権利条約の基本概念を理解するとともに、現在の日本社会で切実な課題となっている事柄について、自分なりの問題意識をもてるようになる。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 自立生活について
- 第3回 障害者はどう社会を変えてきたのか？～自立生活運動から～
- 第4回 優生思想を考える～「相模原事件」を通して
- 第5回 障害の「社会モデル」と「障害者権利条約」
- 第6回 交通アクセスを考える～誰もが乗れるバス、電車をめざして～
- 第7回 災害のとき、障害者は？
- 第8回 ゲスト講義（障害当事者の目線から見た「共生まちづくり」）
- 第9回 情報・コミュニケーションの権利を考える
- 第10回 「盲ろう者」とコミュニケーション
- 第11回 インクルーシブ教育の意義と「合理的配慮」
- 第12回 ゲスト講義（優生思想を考える）
- 第13回 差別のない街を目指して～障害者差別解消法と地方条例～
- 第14回 障害者差別解消法を生かすために
- 第15回 まとめ・課題レポート作成

●事前・事後学習の内容

・授業内容に関連すると思われる新聞記事等に常に注意すること

・参考文献、参考となるweb上の資料を随時提示するので、読んでおくこと

●**評価方法**

平常点、および最終回の試験により評価を行う。

●**受講生へのコメント**

「なんとなく」ではなく、積極的な受講を期待する。

ふだんから障害のある人に関わる報道に注意する、学内の「障がい学生支援」に参加する等するなどして、講義で得る学びを最大限にしてほしい。

●**教材**

教科書は特になし。適宜、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 54]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------|-----|---|------|----|------|--------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 障がい者と人権Ⅱ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 松波 めぐみ (非常勤) |
| 69 | 英語表記 | | | | | | | |

●**科目の主題**

「障害」の世界にパラダイム・シフトが起こっている。かつて「障害」とは医学的・個人的問題であり、治療やリハビリテーションによって克服すべきものとされてきた。障害をもってうまれてきた子ども（障害を負った人）は、「障害の軽減、克服」のためには地域で暮らすことや、共に学ぶことや遊ぶことをあきらめることを余議なくされ、他の人と同じ「権利」が無くてもしかたがないとされてきた。

そんな社会に対して、障害者は異議をとなく、「障害の社会モデル」（個人の身体的欠陥ではなく、バリアや偏見などの「社会的障壁」こそが、障害者と括られた人を生きづらくさせている。変わるべきは社会である）という考え方をうみだし、それをテコに社会を変えてきた。この「障害の社会モデル」を理論化したのが、1980年代から発展してきた「障害学」（ディスアビリティ・スタディーズ）である。

この授業では、「福祉」ではなく「人権」の課題として、障害（者）のことを学んでいく。「障害者と人権Ⅰ」が、障害者運動や障害者権利条約に力点があったのに対して、Ⅱでは「障害学」にふれ、「文化」を含め、より多角的に社会のあり方を見ていきたい。Ⅰと同様、ゲストの方を数回呼び出す予定である。

●**授業の到達目標**

「障害の社会モデル」「優生思想」「インクルーシブ教育」など、障害者と人権の基本概念について理解を深める。現在の日本社会で切実な課題となっている事柄について、自分なりの問題意識をもてるようになる。

●**授業内容・授業計画**

第1回 オリエンテーション

- 第2回 「障害」ということばと「障害学」
- 第3回 「障害の社会モデル」とその意義
- 第4回 インクルーシブ教育とその課題
- 第5回 ゲスト講義（情報・コミュニケーションの平等をめざして）
- 第6回 「ろう文化」の世界
- 第7回 発達障害と「文化」
- 第8回 精神障害をもつ人のコミュニティ
- 第9回 知的障害のある人と地域生活
- 第10回 ゲスト講義（マイノリティ当事者の「学」としての障害学）
- 第11回 複合差別を考える（女性障害者）
- 第12回 「障害」とメディア
- 第13回 「働くこと」を考える
- 第14回 改めて考える「障害者の権利」
- 第15回 まとめ・課題レポート作成

●**事前・事後学習の内容**

- ・授業内容に関連すると思われる新聞記事等に常に注意すること
- ・参考文献、参考となるweb上の資料を随時提示するので、読んでおくこと

●**評価方法**

平常点、および最終回の試験により評価を行う。

●**受講生へのコメント**

「なんとなく」ではなく、積極的な受講を期待する。ふだんから障害のある人に関わる報道に注意する、学内の「障がい学生支援」に参加する等するなどして、講義で得る学びを最大限にしてほしい。

●**教材**

適宜、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 57]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------------|-----|---|------|----|------|--------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ジェンダーと現代社会 I | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 古久保 さくら (人権C) 他 |
| 70 | 英語表記 | Gender in the Modern Society I | | | | | | |

●科目の主題

本講義では、学生諸氏が慣れ親しんできた学校教育とマスメディアという領域と、大学を卒業して出て行く労働社会の領域を中心に、ジェンダー化された社会の現状について、考察したい。

●授業の到達目標

わたし達は社会的存在であり、社会的につくられた文化による刷り込みを日々受けている。社会的文化的刷り込みとしてのジェンダーに自覚的になり、社会のなかで当然と認識し、目にしていながら理解してこなかった問題を見えるもの、語りうるもののできる能力をつけること、これが本講義の主目標である。そのうえで、大学卒業後の生活においてジェンダー化されている社会の中で、主体的に生きる力を身につけることを期待する。

●授業内容・授業計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：コマーシャルにみるジェンダーの変遷（ゲスト：小川真知子）
- 第3回：メディアにおけるジェンダー：子ども用TV（ゲスト：小川真知子）
- 第4回：アニメーションから見るジェンダーの描きかた
- 第5回：報道とジェンダー（ゲスト：小川真知子）
- 第6回：グループディスカッション：ジェンダーをめぐる経験
- 第7回：教育現場におけるジェンダー格差
- 第8回：隠れたカリキュラム
- 第9回：ジェンダー平等教育の実践：NPOの取り組み（ゲスト：遠矢家永子）
- 第10回：スクールセクハラ防止のために
- 第11回：国際比較からみた労働現場におけるジェンダー
- 第12回：女性活躍推進社会への取り組み

第13回：職場のハラスメントの現実

第14回：ワークライフバランスの実現のために

第15回：まとめ 質疑応答 レポート提出

●事前・事後学習の内容

事前学習：次回の授業内容(テーマ)についての新聞記事などについて調べ読んでおくこと。特にグループディスカッションの前には、意見をまとめておくこと

事後学習：授業において出てきた専門用語・疑問点などを調べておくこと。紹介された参考文献などを読んで理解を深めること。

●評価方法

毎回提出するコミュニケーションカードにより判定する理解度（40点満点）・中間レポート（10点）・最終レポート（50点）により評価する。

中間レポートの提出とコミュニケーションカードの提出が8回以上がない者の最終レポートの提出を認めない。

レポートの課題などについては、初回授業時に説明する。

●受講生へのコメント

本科目では、ジェンダー平等教育のための市民活動の実践経験のあるゲストスピーカーを複数お迎えする。

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカード（感想文）の提出が義務づけられている。これをまとめてつくられる「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集する。ボランティアとして積極的に関与してくれることを期待している。また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

なお、10分以上の遅刻者は出席とはみとめない。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。

それ以外にも随時指示する予定である。

何回かの授業では、教材としてDVDを利用する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 58]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------------|-----|---|------|----|------|--------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ジェンダーと現代社会 II | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 古久保 さくら (人権C) 他 |
| 71 | 英語表記 | Gender in the Modern Society II | | | | | | |

●科目の主題

本科目では、ジェンダースタディーズという学問で

扱う問題領域のうち、セクシュアリティというテーマを中心に取り上げる。とくに、メンズ・リブ運動の市

民活動家や、フェミニスト・カウンセラー、弁護士など多様な非常勤講師をむかえ、現状の問題とその解決に向けた具体的方策などを講義いただく予定であり、セクシュアリティとジェンダーをめぐる課題を人権という視点から考察する。

●授業の到達目標

各テーマに関連して様々な観点からの問題提起型の授業をおこなう。講義を通じて、それぞれのテーマのもつ複雑さを理解し、物事を複眼的に考察するという能力を養うこと、関連問題の解決のための方策をとるに考えるという姿勢を習得することが、本科目の到達目標である。

●授業内容・授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 若者の性行動とジェンダー
- 第3回 身近にある性暴力
- 第4回 性暴力被害者の心理と援助者の役割(ゲスト：周藤由美子)
- 第5回 アサーティブ・トレーニング
- 第6回 性暴力禁止法をつくるとりくみ(ゲスト：周藤由美子)
- 第7回 男性性とセクシュアリティ：デートDVを中心に(ゲスト：中村彰)
- 第8回 法律家からみたジェンダー・セクシュアリティ(ゲスト：乗井弥生)
- 第9回 貧困・性サービス産業への水路づけ
- 第10回 人身売買と性の商品化
- 第11回 性の商品化：売り手の主体化
- 第12回 グループディスカッション(ゲスト：中村彰)
- 第13回 生殖技術とジェンダー
- 第14回 セクシュアリティ・生殖の自由・権利
- 第15回 まとめ 質疑応答とレポート提出

●事前・事後学習の内容

事前学習：次回の授業内容(テーマ)についての新聞記事などについて調べ読んでおくこと。特にグループディスカッションの前には、意見をまとめておくこと
 事後学習：授業において出てきた専門用語・疑問点などを調べておくこと。紹介された参考文献などを読んで理解を深めること。

●評価方法

毎週提出するコミュニケーションカードに基づいた理解度(40点満点)ならびに15回時に提出するレポート(60点)による。

コミュニケーションカード提出が8回以下の者はレポート提出を認めない。

レポートの課題などについては、授業初めに指示する。

●受講生へのコメント

ある程度のジェンダーに敏感な視点をもった学生を対象としており、「ジェンダーと現代社会Ⅰ」を既習していることを前提に授業を進める。

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカードの提出が義務づけられている。これをまとめてつくられる「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

なお、グループワークなどがあるため、10分以上の遅刻はみとめない。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材としてDVDを利用する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 59 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|----------|----|------|---------|
| 掲載番号 | 科目名 | エスニック・スタディ 入門編 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 朴 一 (経) |
| 72 | 英語表記 | Ethnic Study I | | | | | | |

●科目の主題

この講義では、在日外国人の人権をめぐる諸問題について学ぶ。日本で暮らす外国人は約200万人。このうち最も永い居住歴をもつエスニック・マイノリティ集団が、朝鮮半島をルーツに持つ在日コリアンである。彼らの多くは、戦前・戦中・戦後期にさまざまな事情で日本に渡ってきた人々とその子孫である。日本に生活基盤を置く彼らは、日本の多様なフィールドで活躍する一方、日本人と国籍が違うというだけで、結婚、家探し、就職、昇進など人生のさまざまな場面で人種

的な迫害や差別を受けることも少なくない。どうして、こうした民族差別が起こるのかだろうか。この講義では、日本人にとって最も身近な外国人である在日コリアンに光を当てて、日本の「内なる国際化」に問われた課題について考えてみたい。

●授業の到達目標

在日外国人問題についての基本的知識を身につけ、日本の「内なる国際化」に不可欠な人権感覚を養う。

●授業内容・授業計画

第1回 イントロダクション：この国に外国人に生

- 第2回 在日外国人との恋愛・結婚問題：ダーリンは外国人
- 第3回 外国人への入居差別の実態：ジャパニーズオンリーでいいの？
- 第4回 日本の中の外国人学校：朝鮮学校ボクシング部の葛藤
- 第5回 在日コリアンの来歴：彼らはなぜ玄海灘を渡ったのか
- 第6回 震災時に創られた「外国人犯罪」：二つの大震災と在日外国人
- 第7回 在韓被爆者問題：原爆補償法から除外された外国人被爆者たち
- 第8回 朝鮮人軍人・軍属への補償問題：忘れられた皇軍
- 第9回 在日外国人の法的地位：外国人登録証と指紋押捺
- 第10回 在日外国人と社会保障：外国人高齢者・障害者の無年金問題
- 第11回 在日外国人の就業問題：公務員「国籍条項」の壁

- 第12回 永住外国人への参政権付与問題：外国籍住民の声を地方自治にどう反映するか
- 第13回 外国人の日本国籍取得について考える：ある帰化代議士の自死をめぐって
- 第14回 在日外国人の経済活動：孫正義の挑戦
- 第15回 在日新世代のエスニック・アイデンティティ：同化と異化の狭間で生きる

●事前・事後学習の内容

毎回、講義を踏まえた課題と次週のテーマを与えるので、事後学習に取り組むとともに、関連文献などを読み、基礎知識を得て次の講義にのぞむこと。

●評価方法

講義課題に対する解答、レポート、期末テストの結果などを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

一つの答えが準備された教科ではない。「みなさんとともに、一緒に考える」ことを重視したい。

●教材

- 朴一『僕たちのヒーローはみんな在日だった』講談社文庫
- 朴一『在日マネー戦争』講談社文庫

[科目ナンバー :]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------|-----|---|----------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | クィアスタディーズ 入門 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 新ヶ江 章友 (都) |
| 73 | 英語表記 | Introduction to Queer Studies | | | | | | |

●科目の主題

本講義では、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーなどのセクシュアルマイノリティに関する基礎知識を取得し、アメリカ合衆国や日本におけるセクシュアルマイノリティについて、とりわけ第二次世界大戦後から現代に至る歴史と理論の両面から学習する。

●授業の到達目標

- ・セクシュアルマイノリティについての基礎的な用語が理解できる。
- ・アメリカ合衆国と日本におけるセクシュアルマイノリティをめぐる歴史について把握できる。
- ・クィアスタディーズの基礎的な理論や思想的背景について理解できる。

●授業内容・授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 セクシュアルマイノリティについての基礎知識
- 第3～4回 アメリカ合衆国における1960年代の若者と性革命
- 第5回 アメリカ合衆国における女性解放運動とフェミニズムの思想

- 第6～8回 アメリカ合衆国における1970年代のゲイ解放運動
- 第9～11回 エイズの流行とエイズ・アクティビズム
- 第12回 クィアスタディーズの理論と思想的背景
- 第13回 日本におけるエイズとゲイアクティビズム
- 第14回 日本における2010年代のLGBT、新自由主義、同性婚
- 第15回 試験

●事前・事後学習の内容

第1回目のイントロダクションの際に、読むべき文献リストを渡すので、関心のある本をできるだけ積極的にたくさん読むこと。また本を読むだけでなく、できるだけ多くの映画やドキュメンタリー番組なども視聴すること。

●評価方法

平常点20点、試験80点。ただし、70%以上の出席がない場合の試験の受験は認めない。

●受講生へのコメント

授業では映画、ドキュメンタリー番組などのメディア資料を多く用いることで、学生の知識の定着が容易

となるよう配慮するつもりです。

●教材

ロバート・エプスタイン、リチャード・シュミーセン (1983) 『ハーヴェイ・ミルク』(ドキュメンタリー映画)

ジム・ハバード (2012) 『怒りを力に - ACT UPの歴史』(ドキュメンタリー映画)。

トニー・クシュナー (2004) 『エンジェルズ・イン・アメリカ』(TVドラマ)。

[科目ナンバー : GE HUM 01 60]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 企業と人権 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 李 嘉永 (非常勤) |
| 74 | 英語表記 | Business and Human Rights | | | | | | |

●科目の主題

今日、企業の社会的責任 (CSR) を求める動きが、各方面で高まっています。CSRとは、事業活動に社会的公正さや環境への配慮を組み込み、多様なステークホルダーに対して説明責任を果たしていくことを指しますが、その重要な問題領域の一つのとして、人権問題が挙げられます。その背景には、経済不況のもとで、職場が余裕をなくし、しばしば人権侵害が発生していることが指摘されています。

そこで、この講義では、企業経営のさまざまな側面が発生している人権問題について概観し、その改善のために実施されているCSRの取り組みを紹介したいと考えています。

●授業の到達目標

企業を評価する際に、経済的指標に留まらず、社会的指標・環境的指標を含めた「トリプル・ボトムライン」を用いて判断できる思考を習得してほしいと考えています。また、企業が事業展開するにあたって、社会問題、とりわけ人権に関わる問題に対し、肯定的な影響を及ぼしうる配慮を組み込む工夫を理解していただければと思います。

●授業内容・授業計画

概ね、次のような構成で講義を進めたいと考えています。

1. イントロダクション：企業の社会的責任の概念
2. CSR促進の多様なツール
3. 労働問題(1)
4. 労働問題(2)
5. セクシュアル・ハラスメント
6. パワー・ハラスメント
7. 女性と労働

8. 障がい者の雇用促進
9. 非正規労働をどう考えるか
10. 児童労働・強制労働
11. 少子化対策
12. 消費者保護
13. サプライチェーンと人権
14. 人権問題解決に向けた社会貢献活動・NGOとの協働

●事前・事後学習の内容

講義レジュメに、参考文献や関連資料を紹介しておきますので、適宜参照してください。

また、講義の際に、振り返りや次回の講義に関連する簡単な課題を出すことがあります。その際には、A4のレポート用紙1枚程度に、その成果をまとめて講義の際に提出してください。

●評価方法

期末に試験を実施しますが、授業中にも、数回小テストを実施できればと考えています。小テストは、数回の講義を簡単に振り返るものですから、復習を欠かさないようにしてください。

配点は次の通りです。

期末試験：80点

小テスト：20点

●受講生へのコメント

毎回コミュニケーション・カードをお配りしますので、ご意見・ご感想を自由に書いてください。

また、ご質問等については、レジュメにメールアドレスを記載しますので、メールでも受け付けています。

●教材

教科書は特には指定しません。毎回レジュメを配布します。

[科目ナンバー : GE HUM 01 61]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 地球市民と人権 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 阿久澤 麻理子 (創) |
| 75 | 英語表記 | Global Citizenship and Human Rights | | | | | | |

●科目の主題

本講義では、現代社会における国内外の人権諸課題を取り上げ、「人権の基本的概念」や「人権を実現するための社会システム」とともに、「市民社会」の役割について理解を深める。なお、取り上げるのは、国内外において「議論のある課題」(controversial issues)や、現代社会の中で変容する差別・排除の実相など、up-to-dateなイシューである。現代社会に生起する諸課題に対して、批判的な視点から検証を加える基礎力をつけることを目指す。

●授業の到達目標

①もっとも基本的なこととしては、具体的な人権課題の学習を通じて、普段、抽象的にしか意識・理解されていない「人権」「平等」「差別」といった基本的概念を、自分の言葉で表現できるようになること(これらを「言葉」にできなければ、人権を実現するための法・制度を確立したり、人権侵害行為に対する規制を構想することもできない)。

②人権を実現するための社会システムとともに、「市民社会」による運動が果たす役割を理解する

④人権諸課題に関わるグローバルな議論を知り、自分自身の意見を持てるようになること(海外の議論等に簡単な英語で触れる)。

●授業内容・授業計画(順番は変更することがある)

1. オリエンテーション
2. 人権とは何か—human right “s” を具体的に考えよう
具体的な権利としての人権／世界史の中の「人権文書」／憲法と人権／国際人権基準
3. 「平等」「差別」とは何か
平等条項の比較研究／「人」とは誰か／各国(地)の「差別禁止法」が規定する「差別」とは
4. ジェンダーとダイバーシティー—社会が「標準」とする生き方・在り方を問い直す
5. 死刑制度から「生命への権利」を考える
Amnesty International 年次報告／日本の現状と世界の潮流／死刑容認・反対をめぐる議論／死刑囚を撮り続けるカメラマンからのメッセージ
6. 人は死を自己決定できるのか
スイスにおけるmedically assisted suicide／

physician aid-in-dying／是非をめぐる議論／NPOの果たす役割

7. ヘイトスピーチ
ヘイトスピーチとは何か／規制法をめぐる国内外の議論／京都朝鮮学園に対するヘイトスピーチと裁判
8. スポーツとレイシズム
9. 現代社会における差別・排除の論理の変容—在日外国人に対する排外団体とmodern racism 「古典的レイシズム」と「現代的レイシズム」／近年の差別・排外主義を見る視点
10. インターネット上の「表現の自由」と差別
ソーシャルメディアと排外／インターネット上のヘイトスピーチと部落差別／自治体によるインターネットモニタリング事業
11. 部落問題入門
12. 現代社会における差別・排除の論理の変容—部落差別と市民意識 (1)
各地の自治体による人権意識調査のデータに見る、市民意識の位相
13. 現代社会における差別・排除の論理の変容—部落差別と市民意識 (2)
14. ゲスト
15. 考査

●事前・事後学習の内容

教科書は特になし。毎回、レジュメを配布し授業を進めるので、各自がメモをとり、復習すること。また、資料やデータを事前に読んだり、視聴しておくように指示することがある(英語の資料や、英語の動画などを含む)。

●評価方法

テストによる。(前提として、出席が必ず全体の2/3以上となること)

●受講生へのコメント

授業での質問や、コメントカードによるフィードバックを積極的にしてください。

連絡先: akuzawa@gsc.osaka-cu.ac.jp

●教材

レジュメ・配布資料による。

[科目ナンバー : GE HUM 01 63]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|----------|----|------|---------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 人権の多様性の研究 (演習) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 齋藤 直子 (人権C 特任) 他 |
| 76 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

日常生活やメディアの中で、普段から気になっているが深く考えたことのない人権問題・差別問題はないだろうか。あるいは、日常において「これは人権問題なのではないか」といった疑問を抱いたことはないだろうか。それらについて、実際に自分で調べ、グループで議論して、認識を深めていくのが本演習の主題である。

●授業の到達目標

受講生ひとりひとりの持っている問題関心について、関連する資料を収集し、考察し、議論をすることを通じて、その問題について一定の知識を備え、論理的な主張ができるようになることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

演習では、1) まず最初に、関心をもっている差別問題・人権問題について報告をおこなう。2) その報告について、受講生全体で議論をおこなう。議論を通じて、新しい視点を獲得したり、さらなる課題を発見する。3) 議論で得た視点や課題をふまえてテーマを設定する。4) 関連する書籍や調査研究報告、雑誌論文、新聞資料、実践記録、報告書などを収集する。5) それらの文献を、通読、分析し、報告する。6) 一定数の文献を読んだ上で、中間報告をおこなう。7) 中間報告をふまえ、さらに文献を収集する。8) 他の受講生の意見も求めながら、最終レポートにまとめる。

受講生が多数の場合、グループに分けて、グループごとに上記1)～3)を行い、グループとしての共通の研究テーマを設定してもらう。その共通テーマに沿って、受講生ひとりひとりのサブテーマや役割分担を決める。

●事前・事後学習の内容

事前学習として、各自の研究テーマに沿った文献や

資料を収集し、リストを作成し、通読してくることを求める。また、報告者に当たったものは、レジメを作成する。事後学習として、他の報告者が配布した文献や資料を通読することを求める。

●評価方法

報告や議論での積極性などの平常点と、最後に提出するレポートによって評価する。当初持っていた問題関心について、演習内での報告や議論を通じて認識を深め最終レポートを仕上げしていくプロセスを重視する。したがって、出席回数と最終レポートだけで、単位を確実に取得できるというわけではない。

●受講生へのコメント

本演習の受講の前提として、すでに主題「社会と人権」に属する科目をいくつか受講しているか、現在受講していることを希望する。

また、受講生には自分の問題関心にそってテーマを決め、課題を発見して、レポートを作成してもらうため、差別問題や人権問題への関心や問題意識を強く抱いている学生の受講を望む。

演習では、それぞれのテーマに沿ってレジメを作成して報告してもらう。また、他の受講生の報告に対しても、積極的に議論に参加してもらいたい。また、討論は単発ではなく本演習を通じて持続的に展開していくので、継続的な出席が必要である。

演習科目のため、受講者数は20名以内がのぞましいため、受講制限をする場合もありうる。

●教材

教材はとくに定めない。発表者は、レジメおよび資料を全員に配布するように準備しておくこと。レジメおよび資料は、人権問題研究センターのコピー機で印刷することができる。

[科目ナンバー : GE HIS 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本史の見方 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 磐下 徹 (文) |
| 77 | 英語表記 | An Introduction to the Japanese History | | | | | | |

●科目の主題

「歴史資料からみた日本史」

本講義は、日本古代史を中心とした多様な資料（古文書、出土文字資料、法制史料、金石文など）をとりあげ、その読解を通じて日本史の世界を多面的に描き出すことを目的としている。

●授業の到達目標

歴史学研究の基本は資料の読解にある。資料（データ）に即した事実の抽出と考察は、歴史学に限らず広く大学での学びに必要なスキルであり、また社会に出てからも役立つ力である。

本講義を通して「客観的な事実にもとづき、物事を注意深く考える」姿勢を身につけてもらいたいと考えている。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
 - 第2～4回 古文書からみた日本史
 - 第5～6回 出土文字資料からみた日本史
 - 第7～9回 法制史料からみた日本史
 - 第10～12回 地域からみた日本史①－大阪の金石文－
 - 第13～14回 地域からみた日本史②－難波宮と古代史研究－
 - 第15回 総括
- * 講義内容は受講者の理解度等に応じて変更するこ

ともあります

●事前・事後学習の内容

講義に際してはプリントを配布するので、事前に目を通しておくこと（もしよくわからない語句などがあれば、辞典類を使って調べておくことが望ましい）。また講義後は、プリントやノートを読み返して講義内容を整理しておくとともに、それに対する自分の意見・考えをまとめておくこと。

●評価方法

期末の筆記試験を基礎とし（70%）、授業参加態度（感想・質問用紙への記入など、30%）も加味して総合的に評価する。

●受講生へのコメント

高校までの日本史は「暗記科目」としてのイメージが強いかもしれない。だがこの講義では、暗記は全く必要ない。

そうではなく、自ら考える姿勢を重視する。講義を聴いて自分なりの考えを持つことができるよう、積極的な意識・態度で授業に臨んでもらいたい。

●教材

毎回プリント・資料を配布し、それに即しながら講義を進めていく。参考文献・論文等に関しては必要に応じてその都度指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 東洋史の見方 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 磯貝 真澄 (非常勤) |
| 78 | 英語表記 | An Introduction to the Asian History | | | | | | |

●科目の主題

本講義はイスラーム初期史および中央ユーラシア・ムスリム地域史の基本知識を解説し、いわゆるオリエンタリズム批判をめぐる議論を概観した上で、ロシア帝国・ソヴィエト連邦の東洋学研究が有した諸問題について考察する。

●授業の到達目標

本講義は3つの到達目標を設定している。第1は、イスラーム初期史および中央ユーラシア・ムスリム地域史の基礎的事柄を知ることである。基本的な通史（歴史概説）というものは、変化が少ないようであり、実は常に更新されている。このため、本講義は近年の

研究成果を踏まえた基本知識を解説する。第2は、いわゆるオリエンタリズム批判をめぐる議論について、基礎知識を持つことである。E・W・サイードが欧米のイスラーム研究を検討し、1978年に『オリエンタリズム』を発表してから40年近く経つが、現在でも東洋史研究は、この議論を知らないまま進むわけにはいかない。本講義はこれについて説明する。第3は、オリエンタリズム批判をめぐる議論を踏まえた上で、サイードが検討しなかったロシア帝国・ソヴィエト連邦の東洋学、とくにイスラーム研究を題材とし、歴史研究を行なう（または、歴史を知る）際の視点・論点について考察を深めることである。

●授業内容・授業計画

授業は講義形式である。プリント資料を配布し、パワーポイント資料も提示する。講義内容に応じて、受講生の考えをミニッツペーパーで問う。

1. イントロダクションー現在のムスリム諸国・地域
2. イントロダクションーイスラームの教義の基礎知識
3. 預言者ムハンマドと初期ムスリム国家 1
4. 預言者ムハンマドと初期ムスリム国家 2
5. 正統カリフおよびウマイヤ朝の時代 1
6. 正統カリフおよびウマイヤ朝の時代 2
7. アッバース朝とイスラーム的国家・社会制度の成立
8. 中央ユーラシア 1ーイスラーム化とテュルク化
9. 中央ユーラシア 2ー中央アジアの13～18世紀 (概説)
10. 中央ユーラシア 3ー18世紀までのヴォルガ・ウラル地域 (概説)
11. E・W・サイード著『オリエンタリズム』をめぐる議論
12. ロシア帝国の東洋学 1
13. ロシア帝国の東洋学 2

14. ソヴィエト連邦の東洋学
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

講義では相当数の参考文献を紹介する。受講生には、関心を持った文献を中心に読み、理解を深めることが求められる。参考文献を利用して毎回の講義内容を理解し、授業中に行なう小テストと学期末に行なう筆記試験の準備を進める必要がある。

●評価方法

小テスト (授業中、学期を通して 2 回程度を予定) と筆記試験 (学期末に 1 回) によって行なう。成績評価全体におけるそれぞれの割合は、小テスト 40%、筆記試験 60% である。

●受講生へのコメント

東洋史に限らず歴史学研究を行なう者が、または単に歴史を知ろうとする者が知っているといふ視点・論点をテーマにします。様々な専門分野に関心のある方の受講を歓迎します。本講義をきっかけにして、読書や考察を進めてください。

●教材

教科書等の特定の教材は使用しない。プリント資料を配布する。参考文献は講義で提示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 03]

| | | | | | | | | |
|------------|------|--|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 79 | 科目名 | 西洋史の見方 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 北村 昌史 (文) |
| | 英語表記 | An Introduction to the Western History | | | | | | |

●科目の主題

1980年代以降研究手法として定着した社会史研究の成果からみた、西洋史の見方を提示する。具体的には、16世紀から19世紀にいたるヨーロッパ史の動向を、高校の世界史のような政治史や経済史からではなく、人々の日常生活のレベルからヨーロッパ史を描きたい。

●授業の到達目標

高校までの「歴史」は、教科書の記憶が中心といえる。それに対して、大学における「歴史学」は、歴史的事実の意味を把握し、説明することを目的とする。できるだけ具体的な史料・素材から話を展開することによって、大学の「歴史学」の理解を深めることが目標である。

●授業内容・授業計画

18世紀後半から19世紀前半にかけての時期が、社会史の観点から見たヨーロッパ史の転換点であるという観点から授業を行う。3から7時間目で長期的な視野に立つ社会史研究の成果に基づき、この転換の流れを確認した後、8時間目以降では転換点前後の時期のヨーロッパ社会の諸相を描く。

- 1 導入・ガイダンス

- 2 社会史研究の背景
 - 3 『子供』の誕生
 - 4 近代家族
 - 5 エリート文化と民衆文化／食事・都市化
 - 6 転換をもたらした要因 人口動態の変化(I)
 - 7 転換をもたらした要因 人口動態の変化(II)
 - 8 転換点以前の社会(1) 祭
 - 9 転換点以前の社会(2) シャリヴァリ
 - 10 転換点以前の社会(3) 食糧暴動
 - 11 転換点以前の社会(4) 民衆本
 - 12 転換点以前の社会(5) 食の変化
 - 13 転換点以前の社会(6) 時間観念
 - 14 転換点以後の社会(1) 水洗トイレの定着(I)
 - 15 転換点以後の社会(2) 水洗トイレの定着(II)
- 8回目以降のテーマについては、授業の進捗状況や受講生の関心に応じて変更の可能性はある。

●事前・事後学習の内容

受講するにあたっては予習や復習などは必要ないが、授業で学んだことをふまえて、自分の日常生活を今までとちがった観点からみてみる。授業で紹介する文献に、図書館などで折を見て触れていただけるとあ

りがたい。

●評価方法

最終成績評価100点満点すべてがレポートの成績による。

●受講生へのコメント

高校の世界史の知識は特に必要としない。世界史で

出てくる人物や事件はあまり授業では出てこない。どちらかといえば、高校までの歴史に抵抗感を感じた人に受講していただきたい。

●教材

参考文献などは授業中適宜指示する。教科書はとくに用いない。教材は、プリントを授業で配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 04 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本社会の歴史 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 天野 忠幸 (非常勤) |
| 80 | 英語表記 | Japanese History and Culture | | | | | | |

●科目の主題

日本の戦国時代は、100年以上続く内乱の時代であった。戦国武将が目立つことが多いが、社会を構成する、それ以外の階層も活力に満ちた時代であり、興味深い。

なぜ合戦が続いているのか。どのような惨禍が待っているのか。百姓はどうやって生き延びるのか。寺社はどんな役割を果たしたのか。どうやって地域社会を守るのか。地域社会や国境を越えてどのように活動していくのか。

現代とは比べものにならないくらい過酷な戦国時代を、一般的に被害者や弱者とされる階層の視点から捉え直し、生き残っていくシステムを紹介しながら見ていく。

●授業の到達目標

戦国武将以外の百姓・都市民・寺社・女性などに着目することで、戦国社会の特色を垣間見、日本社会の歴史の多様性や特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が、歴史を作りあげてゆくことを理解する。

●授業内容・授業計画

講義はおおよそ以下のテーマでおこなう。

- 1：戦国時代の概要
- 2：合戦の実像
- 3：村と民衆1
- 4：村と民衆2
- 5：都市に住む1
- 6：都市に住む2

- 6：戦国仏教1
- 7：戦国仏教2
- 8：旅する人々
- 9：商人の世界
- 10：水軍の世界
- 11：海外へ向かう人々
- 12：海外からやってくる人々
- 13：女性の城主
- 14：天下一統の時代
- 15：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業内において、予習・復習すべき図書を随時指示する。また、各自が博物館等施設を見学することで、講義の時代背景に関する知識を持ってもらう。これらについて、小レポートの提出を求める。

●評価方法

講義内容を的確に理解できているか、講義に能動的にかかわっているかを、小レポート (30/100) と定期試験 (70/100) で評価する。

●受講生へのコメント

高校までの「日本史」受講の有無や、暗記的知識の量は問わない。但し、受講にあたっては論理的展開をおってゆく努力が必要である。

●教材

テキスト：特になし。
参考文献：適宜しめす。
プリント：毎回配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 東洋社会の歴史 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 平田 茂樹 (文) |
| 81 | 英語表記 | Asian History and Culture | | | | | | |

●科目の主題

「小説を手がかりとして前近代中国社会を読む」

前近代中国社会の人々がどのような生活を送ったのか、その諸相を各種の小説を手がかりに読み解いてい

きます。授業では小説の場面について詳説するとともに、できる限り絵画、映像資料を用い、前近代中国社会における人々の「衣食住行」の姿や思考様式について出席者に学んでもらう予定です。

●授業の到達目標

歴史学は過去の現象を単に研究する学問ではありません。過去、現在、未来という時間軸を中心に、社会全体の問題を深く考える学問です。本講義ではこの問題意識のもとに、中国の過去、現在、未来の問題、並びに日本との関係について多面的に言及することを通じて、日本と世界との関わり、あるいは自己について長期の時間軸を中心に見つめ直すことを狙いとしています。

●授業内容・授業計画

- 第1講 インタロダクション：歴史文学と歴史学
- 第2講 『西遊記』から見る中国の旅行
- 第3講 『三国志演義』から見る義兄弟結合
- 第4講 『水滸伝』から見るアジールの世界
- 第5講 『金瓶梅』から見る明末の「官商」の世界
- 第6講 『儒林外史』、『児女英雄伝』から見る科挙社会

中間試験

- 第8講～第10講 『夷堅志』から見る宋代の風俗：「浴堂」、「風水」、「占い」、「美人局」…
- 第11講 『三言二拍』から見る明代の妓女と受験生
- 第12講 『聊齋志異』から見る「鬼」、「狐狸精」
- 第13講 『包公案』、『狄公案』から見る裁判の世界
- 第14講 総括試験
- 第15講 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前には次の授業の予習を課し、事後には授業内容に基づくレポートを課します。

●評価方法

二回の中間試験と総括試験（70%）、及び期間中行う小レポート（30%）。

毎回小レポートを課しますが、その中で2回について評価対象とします。

●受講生へのコメント

毎回簡単な小レポートを書いてもらいながら授業の内容の理解を深めていきますので、きちんと毎回出席するようにしてください。

●教材

- 参考書として、以下のものをあげておきます。
- 園田茂人『中国人の心理と行動』（NHKブックス）
- 斯波義信『中国都市史』（東京大学出版会）
- 平田茂樹『科挙と官僚制』（山川出版社）
- 伊原弘『中国開封の生活と歳時－描かれた宋代の都市生活』（山川出版社）
- 前田耕作『玄奘三蔵、シルクロードに行く』（岩波新書）
- 山口久和『「三国志」の迷宮－儒教への反抗 有徳の仮面』（文春新書）
- 佐竹靖彦『梁山泊－水滸伝・108人の豪傑たち』（中公新書）
- 日下翠『金瓶梅－天下第一の奇書』（中公新書）
- 羅信耀著・藤井省三他訳『北京風俗大全－城壁と胡同の市民生活誌』（平凡社）

[科目ナンバー : GE HIS 01 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 西洋社会の歴史 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 草生 久嗣（文） |
| 82 | 英語表記 | History of Western Society | | | | | | |

●科目の主題

1453年にオスマン朝によって征服されるまで、東地中海で独特の存在感を發揮しつつけたビザンツ帝国の歴史と社会について講義する。ローマの後継者を自認していたこの中世帝国は、首都コンスタンティノープルを中心として三大陸にまたがる文化的影響力を持ち、それはオスマン帝国以後から現在に至るまで残っている。西ヨーロッパ世界とは違う歩みを経験した中世帝国とそれを取り巻いた中世東地中海世界の個性について論じながら、いかにその世界が現在の地球規模に展開する問題を先取りしていたかを紹介する。多民族間の交渉とともに形成されていったその社会は、現在のグローバル・ネットワーク影響下の現在のわれわれの生活圏のありかたに重なる部分が多い。

●授業の到達目標

- 1) 高校教科書におけるビザンツ史理解の最先端の知見に基づくアップデートを学習する。
- 2) 現在に至るまでの東地中海世界における諸問題および社会の特徴の歴史的背景を理解する。
- 3) 我が国に馴染みの薄い言語文化や社会のあり方について理解を深める。

●授業内容・授業計画

各回における主題とキーワード群（各主題ごとに2回の講義を予定）

- 0) インタロダクション
 - ビザンツ学・ギボン・オストロゴルスキー・井上浩一・「合同生活圏」
- 1) 世界史におけるビザンツ帝国
 - イコン・ドーム・モザイク

- 2) 世界史学におけるビザンツ帝国
封建制度論・テマ(屯田兵)制度・プロノイ
ア制度・皇帝教皇主義
- 3) 「古代末期 Late Antiquity」という時代
ローマ世界のインフラ・初期キリスト教会・
大迫害時代・聖者・隠修士
- 4) ユスティニアヌスの「再征服」からイスラーム
勃興まで
コンスタンティノープル・ローマ法大全・ハ
ギアソフィア聖堂
- 5) 多民族生活圏と覇権帝国の成立
イスラーム・スラブ人・イコノクラスム・コ
ンスタンティノス7世帝
- 6) コムネノス家と合同生活圏の危機(十字軍の禍
い)
「ヘレニズム世界」・ランシマン史観・第四
回十字軍
- 7) パレオロゴス家と中世世界
ローマ教皇庁・オスマン朝・教会合同問題
- 8) ビザンツ後のビザンツ
イスタンブル・近代ギリシャ史・パレスチナ・
キプロス・アルメニア

まとめ
生活世界のコンテキストとコンフリクト

●事前・事後学習の内容

シラバス掲載の用語および授業で別途指定するキー
ワードについて、それぞれ基本知識を確認しておくこ
と。小クイズおよびレポートでその学習達成度を確認
することがある。また授業内容についてのコメントを
持ち帰りかつ連続で求めることがある。コメントカー
ドの様式を用いるが、各回かぎりの一般的な感想では
なく、各自の調査や考察について、回をまたいだ連続
提出を求める。

●評価方法

授業アンケート20%、コメントレポート40%、試験
40%。

●受講生へのコメント

指定教科書および参考書以外にも、授業中にイベン
ト情報や新刊本、重要な出版物についての紹介を行う。
教科書や参考書は、手元に用意できるように、図書館や
書店をチェックしておくこと。

●教材

- ・指定教科書
根津由喜夫『ビザンツの国家と社会』山川出版社
その他授業中に指定・配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 07]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代の歴史 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 野村 親義 (文) |
| 83 | 英語表記 | The Modern History | | | | | | |

●科目の主題

1990年代前半以降の本格的な経済自由化とその後の
おおよそ順調といえる経済の発展により、10億を超え
る人口を抱える巨大なインド経済は、ここ10数年世界
の注目を浴びてきた。2000年代半ば以降チャイナ・リ
スクを本格的に意識するようになった日本も、近年、
遅ればせながら、世界中が熱い視線を向けるインド経
済の動向に関心を向けるようになってきている。本科目の
主題は、近年とみに注目を集める独立(1947年)後イン
ド経済の概要を、近現代の政治・経済の歴史に十分配
慮しながら、概観することである。

●授業の到達目標

本講義の到達目標は、独立後インド経済における基
本的な論点を習得することである。

●授業内容・授業計画

1. 導入
2. 植民地支配からの独立：政治
3. 植民地支配からの独立：経済
4. インド経済概観：供給サイドを軸に(1)
5. インド経済概観：供給サイドを軸に(2)

6. インド経済概観：需要サイドを軸に(1)
7. インド経済概観：需要サイドを軸に(2)
8. 経済政策：輸入代替工業化(1950年代から1970
年代)
9. 経済政策：輸入代替工業化と農業
10. 経済政策：輸出加工型工業化(1980年代以降)
11. 輸出加工型工業化と企業
12. 輸出加工型工業化とその課題
13. 独立後インド政治：概要と制度
14. 独立後インド政治：制度とその運用
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業初日に提示する参考文献を適宜読み
込むとともに、新聞・ニュースなどの関連記事に目配
せすること。

事後学習：授業に関心を持った点を、参考文献等
を通じ、深化させること。

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

近年急速に注目を集めているインド経済の動向を正確に理解するには、インドが1947年に独立して以降たどってきた歴史に対する深い理解が不可欠である。現代と過去のインド経済に対する深い関心を持ちつつ授

業に参加することを期待する。

●教材

教科書ないが、参考文献を授業初日に紹介する。そのほか、プリントを授業中に配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 08]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 考古学入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 岸本 直文 (文) |
| 84 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

ひとびとが暮らした住まいの跡、使っていた道具などのモノ、これらが地面のなかに埋もれて遺っている、これが遺跡である。人間の活動が多様であるので、遺跡にもさまざまな種類がある。考古学は、こうした遺跡を発掘調査することにより、遺された遺構や遺物から、そこで生活したひとびとの営みを復元する。

●授業の到達目標

考古学により明らかになった日本の歴史の基本を修得する。

●授業内容・授業計画

日本の考古学では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代という時代区分をする。それぞれがどんな時代であったのか、遺跡の発掘調査の事例を紹介しながら、いま考えられている歴史像を紹介する。

- 1 考古学とはなにか
- 2 考古学の資料は遺跡
- 3 遺跡の発掘調査
- 4 旧石器時代 氷河の時代の狩猟生活
- 5 縄文時代 (1) 定住のはじまり
- 6 縄文時代 (2) 縄文文化の豊かさと限界
- 7 弥生時代 (1) 米作りの開始

- 8 弥生時代 (2) ムラからクニへ
- 9 弥生時代 (3) 墓にみる権力の形成とヤマト国
- 10 古墳時代 (1) 邪馬台国の考古学
- 11 古墳時代 (2) 前方後円墳の誕生
- 12 古墳時代 (3) 古市・百舌鳥古墳群の時代
- 13 古墳時代 (4) 前方後円墳の終焉
- 14 古代 律令社会の考古学
- 15 まとめ

●事前・事後学習の内容

前回の資料やノートを振り返っておくこと。また、講義を聞き、ノートを見直して、自分の言葉で理解をまとめておくこと。

●評価方法

小レポート提出2回 (各15点)。期末試験 (70点)。

●受講生へのコメント

遺跡は全国で40万カ所といわれる。どこにでもあり、ごく身近なところにある。有名な遺跡ばかりでなく、あまり知られていない数多くの遺跡のすべてが、みなさんが住んでいる地域の歴史を明らかにする素材となる。そうした身近な遺跡に関心をもってほしい。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | ことばの歴史 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 丹羽 哲也 (文) |
| 85 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

日本語の歴史研究には様々な分野があるが、この授業では、音韻・表記の分野を取り上げ、古代から現代にかけて音韻がどのように変遷してきたか、文字表記がどのように移り変わってきているかという問題について講ずる。

●授業の到達目標

例えば、五十音表でハ行だけなぜ半濁音のパ行があ

るのか、あるいは、古文で「あふぎ (扇)」と書いて何故「オーギ」と読むのか。こういった問題を解くためには、日本語の音韻と表記の知識が必要である。ハ行音、ア行・ヤ行・ワ行音など日本語の音韻がどのように変化し、それがどのような形で表記に反映しているか、あるいは、漢字や仮名の表記法がどのように移り変わり、人為的制限が加えられているかという問題について理解を深める。

●授業内容・授業計画

- 1～3 現代日本語の音声と音韻
- 4～6 ハ行音など子音の変化
- 7・8 「い・ゐ」「え・ゑ」「お・を」の区別と合流
- 9・10 音節構造、語形態の変化
- 11・12 歴史的仮名遣いと現代仮名遣い
- 13～ 漢字制限と漢字の字体

●事前・事後学習の内容

理解が追いついてない点について、授業プリントや課題解説プリントを読み直す。数回前に遡る必要があることもある。また、必要に応じて、授業中に紹介する参考文献を読む。

●評価方法

毎回課される課題の提出(1.5割)と学期末の試験(8.5割)による。

●受講生へのコメント

日本語を扱うとはいえ、なじみのない抽象的な概念が多く、難易度が低いというわけではない。また、古文の知識も前提とする。体系的な理解をするために、知識を積み上げていくという面が強いので、復習が必須である。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 21 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代の地理学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 山崎 孝史 (文) |
| 86 | 英語表記 | Current Geography | | | | | | |

●科目の主題

現代世界の諸問題に取り組む地理学を理解するために、大きく「地域への地理学のまなざし」、「経済活動を空間的に読み解く」、「地理学が映し出す想像力の世界」、「過去と現在を繋ぐ地図」、「地理学と現実世界の接点」の5つの主題に分け、それぞれの主題における地理学の先進的なアプローチについて具体的事例を通して紹介します。

●授業の到達目標

現代の地理学は、都市と農村、景観、食糧供給、工業立地、流通システム、政治、観光、文化、地図、地理情報、公共政策・環境問題といった多面的な問題を学ぶことのできる分野です。地理学を通して、過去から現在（そして未来）の問題へと、そして人間相互の関係から人間と空間・環境の関係へと、私たちの思考をどのように拡充できるのか、受講生とともに考えていきます。

●授業内容・授業計画

- 1 はじめに—地理学を学ぶために
- 2 都市のなりたち
- 3 変動する農村の社会
- 4 農業と食のネットワーク
- 5 工業立地変動のダイナミズム
- 6 流通システムと消費生活の基盤

- 7 地政言説から政治を読む
- 8 観光空間を文化論的に理解する
- 9 地域文化について考える
- 10 現実世界の歴史地理
- 11 想像世界の歴史地理
- 12 地理情報システムを使いこなす
- 13 地理学の公共政策への応用
- 14 環境問題への地理学のかかわり
- 15 まとめ—地理学で世界をみる

●事前・事後学習の内容

下記教科書や教員ホームページからダウンロードできる講義スライドを印刷したものを持参して授業に臨んで下さい。またこれらの文献・資料をもとにテストを出題しますので、事後学習に活用して下さい。

●評価方法

5つの主題ごとに行なう小テスト (100点)

●受講生へのコメント

下記教科書を必ず購入して、復習とテストに備えて下さい。講義に関する情報や資料は、教員・科目ホームページ (<http://polgeog.jp/>) で入手・確認してください。

●教材

竹中克行編『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房 (2014年) を使用します。

[科目ナンバー : GE HIS 01 22 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 都市の地理学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 大場 茂明 (文) |
| 87 | 英語表記 | Geography of Urban Area | | | | | | |

●科目の主題

現在、世界人口の過半数、先進工業国では国民の三分の二以上が都市に居住している。古代にメソポタミアで誕生して以来、都市の歴史は長いが、現代こそまさに「都市の時代」であるといえよう。また、都市は人々の日常生活や産業活動の舞台であると同時に、過密、環境汚染など様々な問題が集積している場所でもある。

そこで本講義では、自然・人文の諸現象が相互にむすびついて展開する地表面の空間的な構造を研究する地理学の立場から、都市の形態、機能、構造について国内外の具体的事例を提示しつつ概説する。

●授業の到達目標

この講義では、地理学のアプローチを通じて、近年の都市問題や今後のまちづくりの課題について考え、激動する現代社会の諸問題を理解するための術(すべ)を身につけてもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業では、以下の項目にしたがって、写真や映像資料などを用いて国内外の具体的な素材を提示しつつ講述する(数字は授業回数)。

- ① 序：地理学では都市をどう捉えるか？
- ②～④ 都市の形成過程
- ⑤・⑥ 都市機能分化と空間構造の変容

- ⑦・⑧ 日本の都市
- ⑨・⑩ 現代社会と都市問題
- ⑪・⑫ 都市更新事業とまちづくり
- ⑬・⑭ 人口減少と都市の縮退
- ⑮ まとめと今後の展望：都市の未来像

●事前・事後学習の内容

各回授業終了時に、次回の講義内容を予告するとともに、主要項目を3～4個のキーワードで示す。必ず事前にそれらの内容を確認し、授業に臨むこと。また、授業のはじめに、前回提出されたコミュニケーションカードに基づき質疑応答を行い、前回講義内容についての理解を深める（15～20分間程度）。したがって、授業終了後には、各自講義の要点を整理するなど、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

評価は、毎回の授業終了時に当日の講義内容に対す

る疑問点などを自由に記入してもらいコミュニケーションカードによる平常点(20%)と、定期試験の点数(80%)によって行う。

●受講生へのコメント

授業では、理論や概念のみを取り上げるのではなく、具体例に則して進めていく。したがって、高校時代に地理を履修していたかどうかは問わないし、特別な予備知識も必要としない。専門用語については、その都度解説や補足説明を加えていくので、授業に集中して臨んでほしい。

●教材

教科書：使用しない(各回授業時に、レジュメと資料を配布する)。

参考書：必要に応じて、授業時に紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 23]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 文化人類学入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 多和田 裕司 (文) |
| 88 | 英語表記 | Introduction to Cultural Anthropology | | | | | | |

●科目の主題

文化人類学とは、自分とは「異なる」人々にたいする理解を深め、同時に、どうすれば「異なる」もの同士の間でよりよいコミュニケーションを持つことが出来るのかを探ろうとする学問である。本講義においては、諸学説や具体的な民族誌の紹介をとおして、文化人類学がこれまで「他者／異文化」をどのようにとらえてきたかについて理解する。それとともに、受講者それぞれが「他者／異文化」と実際にかかわることで「他者／異文化理解」を自覚的に経験する。

●授業の到達目標

本講義は文化人類学を初めて学ぶ者にたいする入門的講義であり、文化人類学の基礎的知識や考えたかを身につけることを目標とする。あわせて人類学的フィールドワークの一端を自ら経験することで、「他者／異文化理解」という営為そのものについての理解の深化をはかる。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 文化人類学とはどういう学問か
- ② 文化人類学の対象：他者、文化、異文化
- ③ 文化人類学の方法：フィールドワーク
- ④ フィールドワークおよびレポート作成についての説明と助言
- ⑤⑥ 推論と偏見による異文化理解
- ⑦⑧ 「科学的」異文化理解への志向
- ⑨⑩ 文化相対主義とアメリカ文化人類学

- ⑪⑫ 文化を解釈する
- ⑬⑭ 双方向的異文化理解へ向けて
- ⑮ 講義の総括

●事前・事後学習の内容

はじめて習う概念や考え方がほとんどであると思われるので、事前学習よりも事後学習に力を入れてほしい。インターネットや文化人類学の各種入門書などで概念や事項の確認をおこなった上で、授業中に示されたポイントや考えどころを中心に、それについての自らの考えをノートにまとめるなどして整理しておくこと。

●評価方法

定期試験（60点満点）およびレポート（40点満点）によって評価する。

（レポート課題）

海外から日本を訪問中の人を対象にインタビューを行い、(1)その人が「日本にたいして感じたこと」、(2)自分が「そのインタビュー経験のなかで感じたこと」、についてまとめる。なお留学生や教員をインタビューの相手とすることは認めない。詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

本講義では、レポート作成のためのインタビューはもちろんのこと、通常の講義においても能動的な姿勢で学ぶことが求められる。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 26 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 環境と文化 (平成29年度以降履修用) | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 祖田 亮次 (文) |
| 89 | 英語表記 | Environment and Culture | | | | | | |

平成28年度以前にこの科目を単位習得した学生は履修できない。

●科目の主題

本講義では、人間-環境関係について、様々な視点から考える。その際、自然科学的な作業から自然現象を明らかにするのではなく、人文学的な視点から、何を問題と捉え、どのように考えればよいのかということを中心に講義を進める。

●授業の到達目標

「自然」や「環境」の意味は、社会状況や時代によって大きく異なるものであることを理解し、我々が「認識」している自然環境と、どのような関係を切り結んでいけばよいのか、多角的・多面的にとらえるための知識と考察方法を身につける。

●授業内容・授業計画

水田や里山は自然なのか？ 近所を流れる河川はなぜこのような形になっているのか？ 国立公園や世界自然遺産はどのような意味を持つのか？ 熱帯雨林の消滅に日本はどう関わっているのか？ エコツアーの背景にはどのような政治的意図があるのか？ 自然災害をどう認識し、克服すべきなのか？

現代は、様々な環境問題が国際政治の場において語られる一方で、人々は「身近な自然」に対しても意識的になりつつある。この講義では、これらの自然や環境に関わる具体的な現象や問題を取り上げながら、私たちがどのように自然や環境と関わっていくべきかを考察する。

考察対象とする具体的事例としては、近畿圏の身近なものから、アジア・ヨーロッパなど世界各地のものを取り上げる。

- ① イントロダクション
- ②～③ 環境決定論・環境可能論、風土論、政治生態学
- ④～⑦ 河川改修、自然再生、災害文化、流域社会論
- ⑧～⑩ 熱帯雨林、プランテーション、バイオマス社会論

⑪～⑫ 焼畑・狩猟採集・水田・里山、半自然・半栽培

⑬～⑮ 国立公園・世界遺産、エコツーリズム

●事前・事後学習の内容

2回に1回の割合で宿題を出しますので、それなりの負担になります。授業で学んだ内容をもとに自分で調べものをして理解を深めるためのもの（復習的なもの）や、翌週授業の予習と位置付けられるものなどが、課題として出されます。また、実際に現地を訪ねて情報を収集するフィールドワーク的な宿題が出る場合もあります。いずれも、A4で1枚程度（600～1,000字程度）の分量です。授業時間中に宿題の内容を発表しますので、欠席すると宿題を提出することが難しくなります。宿題は翌週の授業時間中の提出が必須です。欠席や宿題忘れなどの場合でも、遅れての事後提出は認めません。

●評価方法

評価のおよその内訳は以下のとおりです。出席：5%、授業時のコメント・ペーパー：20%、宿題・小レポート：40%、最終レポート35%

評価は「秀(AA) (2013年以降入学者のみ)」「優(A)」・「良(B)」・「可(C)」・「不可(F)」の4～5段階で、「欠」はありません。過去のおよその成績比率は以下の通り。

AA：5%、A：20%、B：35%、C：20%、F：20%

●受講生へのコメント

本講義は地理学の議論をベースにしますが、高校時代に「地理」を履修していたかどうかは一切問いません。高校までに「地理」を履修した人は、地理=地名や特産品の暗記というイメージを持っているかもしれませんが、本来の地理学は、人間-環境関係を考察することを主眼としています。したがって、少しでも環境認識や環境問題、災害文化等に関心があれば、誰でも受講可能です。

●教材

特定のテキストは使用しません。参考図書などがある場合は、講義の際に提示します。

[科目ナンバー : GE HIS 01 29]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 民族と社会 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 王 静 (非常勤) |
| 90 | 英語表記 | Ethnicity and Society | | | | | | |

●科目の主題

民族は現代世界を理解する上で重要な概念である。それは、論理的に突き詰めれば内実のない存在であるが、しかし人々に強く働きかける力を持っている。民族意識がしばしば紛争や対立の原因となる一方で、民族意識をよりどころとせざるを得ない人々がいることも事実である。近年では民族文化や民族芸能が商品化され、消費の対象となることも日常的になった。本講義は、民族概念についての検討、ナショナリズムと民族、消費社会における民族、多民族国家の実際などをサブ・テーマとしながら、現代社会における民族について広範に考えていく。

●授業の到達目標

本講義では、受講者が民族概念についての理解を深め、かつ民族が前景化する事象に触れることで、現代社会における様々な民族問題について、より柔軟な視点でとらえる能力を養うことを目的とする。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 民族とはなにか：講義の問題設定
- ② 民族概念の変遷
- ③ 民族意識とナショナリズム
- ④ レポート作成についての説明と助言
- ⑤ 現代社会における民族と国家
- ⑥ 「単一国家」日本における多民族性の実際
- ⑦ 構築：消費、実体化される民族
- ⑧ 民族の構築過程：中華民族の事例から
- ⑨ 民族文化の構築：台湾における中華茶文化の事例から

- ⑩ 国民文化の再構築：中華茶芸の事例から
- ⑪ 民族文化の消費 (1)：中国における少数民族観光の事例から
- ⑫ 民族文化の消費 (2)：民族衣装の事例から
- ⑬ 民族文化の消費 (3)：和食の事例から
- ⑭ これからの社会へ：民族の共存？解体？消滅？
- ⑮ 講義の総括

●事前・事後学習の内容

はじめて習う概念や考え方がほとんどであると思われるので、事前学習よりも事後学習に力を入れてほしい。インターネットや各種事典などで概念や事項の確認をおこなった上で、授業中に示されたポイントや考えどころを中心に、それについての自らの考えをノートにまとめるなどして整理しておくこと。

●評価方法

定期試験 (60点満点) およびレポート (40点満点) によって評価する。

(レポートについて)

本講義では「日本社会における民族の諸相」をテーマに、インタビューや参与観察等、いわゆるフィールドワークをもとにレポートを作成する。課題やレポート作成の詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

講義、レポート作成ともに能動的に取り組むことを求める。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 30.CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 観光研究入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 天野 景太 (文) |
| 91 | 英語表記 | Introduction of Tourism Study | | | | | | |

●科目の主題

「グローバル化・ボーダレス化社会における現代観光のナゼ？」をテーマとした観光研究に関する導入的な科目である。観光の歴史と現在に関して概観した後、それらを研究するための視点と方法に関して検討する。前半 (第2～7回) は、観光の歴史的展開や、観光という現象が現代社会において成立している背景に関し

て考察する。中半 (第8～10回) は、現代日本の国内・国際観光の実態に関して、各種の調査データ等に基づきつつ概観する。後半 (第10～15回) は、観光研究の視点と方法に関して、人文・社会科学的なアプローチを中心として、いくつかの具体的な研究成果を紹介しつつ説明する。

●授業の到達目標

21世紀は「観光の世紀」と謳われ、多方面から着目されている。このような中で、安易に時流に飲まれたり、目先の現象だけに囚われたりすることなく、総合的（幅広い視野から）、相対的（距離をおいて）に、観光現象の本質を捉えるセンスを持てるようにする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「観光」とは何か～観光を定義する
- 第3回 旅と観光の社会史Ⅰ～古代から近世に至るまでの“旅人”の相克
- 第4回 旅と観光の社会史Ⅱ～近代マス・ツーリズムの誕生
- 第5回 旅と観光の社会史Ⅲ～近代マス・ツーリズムの展開とポスト・マス・ツーリズム
- 第6回 現代観光を支える社会のしくみ～多文化の繋留・混交点としての駅・空港・世界都市…
- 第7回 観光地はなぜ「観光地」なのか～観光地イメージの構築と、観光資源の類型
- 第8回 現代日本人の観光スタイルを探る～国際観光アウトバウンド編
- 第9回 日本を訪れる外国人観光客の特徴～国際観光インバウンド編
- 第10回 観光政策の役割と「観光立国」論
- 第11回 観光研究の視点と方法Ⅰ～観光者の心理と行動をつかむ（観光心理学）
- 第12回 観光研究の視点と方法Ⅱ～自然景観や文化表象の意味や価値をめぐって（観光人類学・文化経済学）
- 第13回 観光研究の視点と方法Ⅲ～観光地域をデザインする（観光まちづくり論 理論編）
- 第14回 観光研究の視点と方法Ⅳ～観光地域をデザインする（観光まちづくり論 実践編）
- 第15回 観光研究の視点と方法Ⅴ～楽しみ（愉しみ）方をデザインする（観光メディア論）

講義形式で展開し、毎回写真や映像資料など、ビジュアルな資料を豊富に提示する予定である。板書は基本的に行わないので、内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていく姿勢が求められる。

●事前・事後学習の内容

日頃から主体的に新聞やテレビに接し、観光に関するニュースに親しんでおくこと。また、授業後、その日の授業内容に関して文章化し、自分の考えとともにノートにまとめておくこと。また、日頃から主体的に身近な観光体験を客観的に考えてみる習慣をつけること。

●評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらおう。コミュニケーションペーパーへの回答による平常点（30%）、と期末試験（70%）で評価する。ただし、コメントペーパーへの回答数（≒出席数）が通算で11回未満（出席率70%未満）の場合、原則として評点にかかわらずF評価となる。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等やむを得ず欠席する場合、出席率への配慮はするが、コミュニケーションペーパーへの回答が無い場合、平常点の加点はしない。

●受講生へのコメント

観光研究は、その制度的側面（法学）、経済・経営的側面（商学・経済学）、社会・文化的側面（社会学・文化論）、工学的側面（地域・景観計画）、福祉・医療的側面（ソーシャル・ツーリズム）など、さまざまな視点からの学際的なアプローチが要請されている研究分野である。旅行が好きな人、将来観光に関連する進路を目指す人、ゼミ等で観光分野の研究を志向する人をはじめ、幅広い学部からの履修を歓迎したい。

●教材

安福恵美子編(2006)『「観光まちづくり」再考』古今書院 ほか。参考文献は、教場において逐次紹介する。また、毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で使用したプリントの再配布はしない。

[科目ナンバー : GE HIS 01 31 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 観光と文化 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 天野 景太（文） |
| 92 | 英語表記 | Lecture in Tourism and Culture | | | | | | |

●科目の主題

世界文化遺産に象徴される歴史的な建造物や芸術作品を鑑賞したり、国際的なイベントに参加したり、テーマパークで映画に登場するキャラクターと出会ったり、民芸品を土産として購入したりなど、地域の文化との接触・交流を目的とした観光（文化観光）は、自然観光と並び現代の観光形態の主流をなしている。

観光対象としての文化は、過去から現在に至るまでのその地域における人間活動の記録・記憶の象徴から、観光目的で新たに創造されたものまで、さまざまである。

本科目では、こうした“文化”が、どのように観光資源化され、演出され、観光客に対して呈示されているのか、また、文化の観光化に伴う地域文化の変容が、

地域の人々にとって、観光者にとって、どのような影響を及ぼすのか、といった視点から、観光と文化の関わりについて、具体例を挙げながら検討する。

●授業の到達目標

自らの観光体験や異文化体験を本科目で解説された内容を参考にしながら、分析・考察出来るようになる。文化の観光化のあり方を理解することを通じ、自らが拠り所としている文化を相対化して捉え、他者に呈示する（例：外国の友人に日本文化を紹介する・日本の文化的観光資源をガイドする、など）ためのスキルの基礎が身につく。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 観光と文化とのかかわり～“世界遺産観光”の展開を例に
- 第3回 観光と文化遺産Ⅰ～世界遺産の概要と世界遺産検定ガイダンス
- 第4回 観光と文化遺産Ⅱ～文化の継承と遺産の制度化・商品化
- 第5回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅰ
- 第6回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅱ
- 第7回 観光における宗教文化の呈示と消費の諸相
- 第8回 観光における都市文化の呈示と消費の諸相
- 第9回 観光アトラクションの文化史Ⅰ「タワー」
- 第10回 観光アトラクションの文化史Ⅱ「遊園地とテーマパーク」
- 第11回 観光アトラクションの文化史Ⅲ「観光鉄道とクルーズ船」
- 第12回 観光アトラクションの文化史Ⅳ「温泉旅館とホテル」
- 第13回 観光アトラクションの文化史Ⅴ「リゾート」
- 第14回 観光アトラクションの文化史Ⅵ「土産品」
- 第15回 観光とメディア文化～デジタルメディアによる現実拡張経験

授業は講義形式で行う。加えて写真や旅番組やCM

等の映像、観光ガイドブックやWEBサイトなど、ビジュアルな資料を豊富に提示する。板書は基本的に行わないので、講義内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていくことが求められる。

●事前・事後学習の内容

日頃から主体的に新聞やテレビに接し、観光に関するニュースに親しんでおくこと。また、授業後、その日の授業内容に関して文章化し、自分の考えとともにノートにまとめておくことと良い。また、日頃から主体的に身近な観光体験を客観的に考えてみる習慣をつけること。

●評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらう。コミュニケーションペーパーへの回答（30%）、とレポート（35%）、期末試験（35%）で評価する。ただし、コミュニケーションペーパーへの回答数（≒出席数）が通算で11回未満（出席率70%未満）の場合、評点にかかわらず原則としてF評価となる。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等やむを得ず欠席する場合、出席率への配慮はするが、コミュニケーションペーパーへの回答が無い場合、平常点の加点はしない。

●受講生へのコメント

授業内容に関連する検定試験として「世界遺産検定」を本学で実施予定であるが、それに関連するガイダンスと申込受付を授業内で行う。世界遺産や就職に向けての資格取得に興味のある者は受験を推奨する。また、観光に関してより理解を深めたい者は、「観光研究入門」や、文学部の「観光文化論」等を併せて履修するとよい。

●教材

安福恵美子編(2006)『「観光まちづくり」再考』古今書院 ほか。また、毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で用いたプリントの再配布はしない。

[科目ナンバー : GE HIS 01 32 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | アーツマネジメント | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 菅原 真弓 (文) |
| 93 | 英語表記 | Arts Management | | | | | | |

●科目の主題

劇場の公演や美術館の展覧会、そして音楽会。こうした文化施設で行われる事業に加え、それ以外の芸術文化活動を含めた活動を、広く社会に発信していくための「仕組み」＝方法論をアーツマネジメントという。近年は演劇や美術、音楽などのファインアート（ハイ

アート）分野にとどまらず、広い意味での創造活動を発信する方法論をも指す言葉となった。地域活性化（まちづくり）の手法としても活発に行われている。

本講義では、この言葉が欧米において登場した経緯から日本への流入、そして日本での独自の発展までを、事例を挙げながら学んでいく。

●授業の到達目標

アーツマネジメントに関する実践的な知の習得を目標とする。但し、必ずしもアーツマネジメントの実践者を養成するための学びには限定せず、この学びを通じて、自らの学問的専門分野に生かせる気づきを得、自らの視野を広げるための眼を養ってもらいたい。

●授業内容・授業計画

美術館学芸員であった経験を基に、主に美術分野における様々な事例を挙げて詳説する。美術館での教育普及事業やイベント、地域アートプロジェクトやこれらと観光との接点（アートツーリズム）について、またこれに加えて、地域活性化の手法としてのアーツマネジメントなども併せて紹介する。後半はグループワークを実施し、グループでの企画を構想し、プレゼンテーションを行ってもらおう。

- 第1回 イントロダクション：アーツマネジメントとは何か
- 第2回 「アーツマネジメント」の登場と日本への流入
- 第3回 日本におけるアーツマネジメントのはじまり：芸術文化支援制度の整備
- 第4回 狭義のアーツマネジメント：美術館で行う事業を例に
- 第5回 広義のアーツマネジメント：芸術文化の社会への発信
- 第6回 キーワードは「連携」：文化庁芸術文化振興基金のテーマ変遷を踏まえて
- 第7回 地域におけるアートプロジェクトの事例
- 第8回 外部講師によるレクチャー：アートプロジェクトの事例
- 第9回 外部講師によるレクチャー：地域資源、地域産業遺産とその活用
- 第10回 地域アートプロジェクトを作る！1：

グループワークの趣旨説明とグループ分け

- 第11回 地域アートプロジェクトを作る！2：グループワーク
- 第12回 地域アートプロジェクトを作る！3：グループワーク
- 第13回 地域アートプロジェクトを作る！4：グループワーク
- 第14回 地域アートプロジェクトを作る！5：プレゼンテーション準備およびプレゼンテーション
- 第15回 地域アートプロジェクトを作る！5：プレゼンテーション、まとめ

●事前・事後学習の内容

授業前学習は特に必要としないが、授業後は、自ら住まう地域に加えて大阪市、大阪府内、また広く近畿圏で行われているアートプロジェクト（広い意味で）に関心を持ち、報告書などを自ら読み、その成果と問題点について考察すること。

●評価方法

小レポート（コミュニケーションシート3回程度）とグループワークの成果をもって評価する。グループワークの成果とは①グループワークでの発言など参加度②プレゼンテーションに用いるレジュメとプレゼンテーション資料（提出）を指す。

●受講生へのコメント

講義ではあるが、後半はグループワークを実施するので、自主的主体的な授業参加を求める。また日ごろからアートプロジェクト等に関心を持ち、文化施設に赴いてみることを希望する。

●教材

授業内でプリントを配布する。また、必要に応じて、授業内で参考文献などを紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 34]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本事情 I A | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 堀 まどか (文) |
| 94 | 英語表記 | Current Japanese Culture and Society I A | | | | | | |

●科目の主題

「日本事情IA」は外国人留学生と日本人学生が、現代日本の諸事情について、ともに学び、考え、理解を深める科目である。とくに「日本の20世紀」をテーマにして幾つかの文学作品を読み、日本の歴史、文学、文化、宗教、教育、政治など日本のさまざまな事情について学ぶ。また留学生が感じた日本人の慣習・価値観について議論する。講義にアクティブラーニング方式を組み合わせておこなう。

※本科目では、交換留学生の履修登録を第一に優先

し、正規留学生や日本人学生の履修希望者がクラスの適正人数をこえる場合には、履修制限をおこなう場合がある。

なお、期間中に他の専任教員による2回の特別講義が設けられている。

●授業の到達目標

日本の近現代の諸事情・諸状況を理解し、日本に関する基礎知識を身につけ、幅広い学問的探究心を高め、日本での生活を充実させる。さまざまな文化意識や異なる価値観をもつ仲間たちと対話や討議を重ね、共同

学習するなかで、国際社会や地域社会で活躍するための国際感覚と想像力をはぐくむ。

●授業内容・授業計画

- 第1週～：オリエンテーション、主題への導入
- 第2週～第6週：日本の歴史・文化を考えるための導入
- 第7週～第12週：応用能力の発展的養成
- 第13週～第14週：特別講義（日程については後日連絡）
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業の一週間前までに、次回の講義のための資料やテキスト、ディスカッションやプレゼンテーションのための課題を指示する。授業当日までに、内容を確認して授業にのぞむこと。

（学習時間として1回の授業時間に加え、2時間以上の自習や準備を前提としている。具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。）

●評価方法

平常点（出席、授業内参加、ディスカッション）50%、プレゼンテーション+レポート50%

問題意識を明確にした発表・レポートを特に評価する。授業への積極的な参加・討議・質問等についても重視する。

●受講生へのコメント

さまざまな文化背景をもつ仲間たちと、コミュニケーションすることをたのしみながら、「日本」についてさらに知識と好奇心を深めていけるとよい。

●教材

必要テキストは、授業内で指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 35]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本事情 I B | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 堀 まどか (文) |
| 95 | 英語表記 | Current Japanese Culture and Society I B | | | | | | |

●科目の主題

日本は、世界の人々からどのように理解され評価されてきたのだろうか。19世紀から現代までの、日本研究や日本文化紹介や日本文学を取り扱った主要な作品や作家に焦点を当てて、「日本」がどのような時代背景のなかで、どのように語られ、表象され、理解されてきたかを考える。この科目では、主にアクティブラーニングの方式をとり、外国人留学生と日本人学生が、ともに語り、学び、考え、理解を深めるものとする。

※交換留学生の履修登録を第一に優先する科目であり、正規留学生や日本人学生の履修希望者がクラスの適正人数をこえる場合には、履修制限をおこなう場合がある。

なお、期間中に他の専任教員による2回の特別講義が設けられている。

●授業の到達目標

日本の近代の姿を客観的に考え、学び、柔軟な思考と幅広い教養を身につける。さまざまな文化意識や異なる価値観をもつ仲間たちと対話や討議を重ね、共同学習するなかで、国際社会や地域社会で活躍するための国際感覚と想像力をはぐくむ。

●授業内容・授業計画

- 第1週～：オリエンテーション、主題への導入
- 第2週～第6週：日本文化を考えるための導入
- 第7週～第12週：応用能力の発展的養成
- 第13週～第14週：特別講義（日程については後日連絡）

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業の一週間前までに、次回の講義のための資料やテキスト、ディスカッションやプレゼンテーションのための課題を指示する。授業当日までに、内容を確認して授業にのぞむこと。

（学習時間として1回の授業時間に加え、2時間以上の自習や準備を前提としている。具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。）

●評価方法

平常点（出席、授業内参加、ディスカッション）50%、プレゼンテーション+レポート50%

問題意識を明確にした発表・レポートを特に評価する。授業への積極的な参加・討議・質問等についても重視する。

●受講生へのコメント

さまざまな文化背景をもつ仲間たちと、多く語りあい、協力していくなかで、「異文化とはなにか、理解とはなにか」といったことについて、じっくり考えてみる時間になると良い。

●教材

必要テキストは、授業内で指示する。

（なお、参考文献として、『「二重国籍」詩人 野口米次郎』(堀まどか著、2012年、名古屋大学出版会)を挙げておく。)

[科目ナンバー : GE HIS 01 36]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本事情ⅡA | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 増田 聡 (文) |
| 96 | 英語表記 | Current Japanese Culture and Society Ⅱ A | | | | | | |

●科目の主題

現代日本および諸外国のポピュラー音楽文化や都市の音楽環境の諸相について検討する。留学生が参加する授業という特性を生かし、受講者間の討議を交えながら授業は進行する。

●授業の到達目標

比較文化論的な観点から現代日本および諸外国の音楽文化・大衆文化を批判的に検討できる視座を獲得すること。および映像・音楽をもちいた効果的なプレゼンテーション技術を修得すること。

●授業内容・授業計画

カラオケ、携帯オーディオプレイヤー、多彩なCM音楽、携帯電話着信音楽、Jポップ、レンタルCD店、音楽配信、YouTube、ボーカロイドなど、現在の日本の都市空間やメディア空間で日常的に目に（耳に）することができる音楽環境は、あるものは海外から由来し、あるものは日本で生まれたものであるが、さまざまな歴史的・社会的な文脈を経て現在あるような姿へと至っている。われわれが聞き流す「あたりまえ」の音楽や音楽環境が、異なる社会の耳にとってどのように聞こえているかを探るべく、留学生と日本人学生との意見交換を行いながら授業は進行する。よって、下記の授業計画は大まかな方向性を示すものであり、受講生の関心に応じて内容は適宜変更される。

授業はゼミ形式を軸に、ときおり講義を交えるかたちで行われる。数回のレポート提出を経た後、受講生は、日本の（あるいは自国の、または他国の）音楽文化について、PCやスマートフォン等のIT機器を使用しつつ映像や音楽を交えたプレゼンテーションを、最低一人あたり一回は必ず行うことになる。日本や諸外国のポピュラー音楽文化についての比較文化論的な知見を深めようとする学生の受講を期待する。

- (1) イントロダクションと授業方針の決定
- (2～5) Jポップ、歌謡曲における「日本的イメージ」の諸相
- (6～9) 日本の都市音楽環境・音楽メディア環境について
- (10～15) 諸外国の都市音楽環境・音楽メディア環境について

●事前・事後学習の内容

教科書、参考文献を通読し、現代日本あるいは諸外国の大衆音楽環境について考察を深めておくこと。ま

た、授業内で触れたミュージシャンやジャンル、その他の固有名詞について、YouTubeやWikipediaなどのweb上のリソースを活用し、関連する情報を調べておくこと。

さらに、PCを用いたプレゼンテーションの手法について事前に訓練し、使用機材や接続環境、ネット環境（使用教室では、大学のネット環境がスムーズに使えない可能性が高い）の調査と準備を行い、アプリケーションや音楽・映像ファイルの扱いなどに習熟しておき、入念にリハーサルするなど、スムーズな発表が行えるようにしておくことを極めて重要な事前学習としてあげておく（毎年この準備が不十分なため、機材的なトラブルで発表がうまくいかないケースがとても多いので注意されたし）。

●評価方法

発表内容を中心に、出席点、討議への参加度、毎回課されるミニレポート、および最終レポートを総合して評価する。

●受講生へのコメント

留学生特例科目のため、留学生は優先的に全員受け入れ、日本人学生を選抜して受講生の上限を20名程度とする予定。受講生の選抜方法などは初回の授業で指示するので必ず出席すること（初回の授業に欠席した学生の受講は認めない）。また、出席と討議への参加度を非常に重視するので積極的な授業参加が望まれる。受講に際しては基礎的な情報処理技能（ウェブ閲覧と必要な情報の検索、音楽・動画の提示、プレゼンテーション資料作成など）を身につけていることが前提となる。発表準備はかなりの負担となるので、覚悟して受講すること。

●教材

- ・鳥賀陽弘道『Jポップとは何か』（岩波新書）
入手の上通読しておくこと。また、次の参考文献も読んでおくのが望ましい。
- ・輪島裕介『創られた「日本の心」神話－「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』（光文社新書）
- ・津田大介＋牧村憲一『未来型サバイバル音楽論－USTREAM、Twitterは何を変えたのか』（中公新書ラクレ）
- ・円堂都司昭『ソーシャル化する音楽－「聴取」から「遊び」へ』（青土社）

[科目ナンバー : GE HIS 01 37]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本事情ⅡB | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 郭 南燕 (非常勤) |
| 97 | 英語表記 | Current Japanese Culture and Society II B | | | | | | |

●科目の主題

This course introduces students to Japanese culture and society, and the traditional roots of modern Japanese culture. Taking a historical and multi-disciplinary approach, this course aims to achieve an in-depth understanding of Japanese culture by critical analysis of religious, literary, artistic, social and political traditions that influence the way Japanese people think and live today.

●授業の到達目標

In this course students will also gain an in-depth understanding of Japanese culture and society in the broader transnational contexts, and shall be able to articulate your opinions clearly and logically with confidence, both in written and oral forms.

●授業内容・授業計画

- Week 1 : Japanese Religions : Shinto
- Week 2 : Japanese Religions : Buddhism
- Week 3 : Japanese Religions : Buddhist Literature
- Week 4 : Japanese Religions : Christianity
- Week 5 : Japanese Religions : Christian Literature
- Week 6 : Japan's Relationship to Nature :
Manyōshū and *Kokin wakashū*
- Week 7 : Japan's Relationship to Nature :
The Tale of Genji
- Week 8 : Japan's Relationship to Nature :
Edo Literature
- Week 9 : Japan's Relationship to Nature : Haiku
- Week 10 : Japan's Relationship to Nature :
Shiga Naoya's *A Dark Night's Passing*
- Week 11 : War and Peace : Poetry
- Week 12 : War and Peace : Short Stories
- Week 13 : War and Peace : A Novel
- Week 14 : Research Method and Academic Writing
- Week 15 : Conclusion and a Short Test

●事前・事後学習の内容

To be familiar with the Reader before each class, review teaching contents of each class, and complete homework which will be discussed in the following class.

●評価方法

- Class tendency : 10%
- Class discussion : 20%
- A short test : 20%
- A research paper : 50%

●受講生へのコメント

Each class will have 20-minute discussion, and based on teaching and discussion, all students will write a research paper.

●教材

A Reader for this class will be prepared by the lecturer.

●参考図書

1. Yoshio Sugimoto, *An Introduction to Japanese Society*, 4th edition, Cambridge University Press, 2014.
2. Victoria Lyon Bestor, Theodore C. Bestor, eds. *Routledge Handbook of Japanese Culture and Society*, Routledge, 2011.
3. Paul L. Swanson, Clark Chilson, eds. *Nanzan Guide to Japanese Religions*, University of Hawai'i Press, 2006.
4. W. Puck Brecher, Lewiston, *An Investigation of Japan's Relationship to Nature and Environment*, Edwin Mellen Press, 2000.
5. Nanyan Guo, *Refining Nature in Modern Japanese Literature : The Life and Art of Shiga Naoya*, Lexington Books, 2014

[科目ナンバー : GE HIS 01 41]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本の古典文学Ⅰ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 大坪 亮介 (非常勤) |
| 98 | 英語表記 | Introduction to the Classics of Japanese Literature | | | | | | |

●科目の主題

人間が、長い時間の経過によっても侵食されることのない、不易の側面を有していることは言うまでもない。古の書物をひもとけば、古人の喜び、悲しみ、悩む姿が現前して、我々の共感を誘い、また数々の智慧の言葉が発せられて、我々の心をとらえる。時代を超えて読みつがれる古典というものは、こうした点によって支えられている面が大きいと言えよう。

けれども、その一方で、人間の営みの中には、時代と共に変化し、あるいは失われて、後代の人間の常識や感覚では、もはや捉えがなくなってしまうような部分が存在することも否定できない。古典を読む際、この点はいくらかの障害となって前方に立ちふさがることであろう。が、我々が少し努力して古人の側に身を添わせるなら、そこに、日頃何らの疑念も抱かずに当然視してきた「常識」を相対化し、くつがえす新鮮な視点が潜んでいるのを発見することも稀ではないのである。

何百年という時を超えて、古典の世界に飛び込み、しばし古人と哀歓を共にし、また大いに彼らに学びたいと思う。

●授業の到達目標

前近代の日本人が遺した文章と絵画から、我々とは異なる彼らの発想や思惟、世界観を読み取り、現代の「常識」を相対化する視点を養う。その上で、現代人が古典を読む意義を理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

『後三年合戦絵詞』と『男衾三郎絵詞』を読む。いずれも中世に制作された絵巻だが、前者は11世紀末に

勃発した奥州での争乱（後三年の役）を題材としており、後者は吉見二郎・男衾三郎という武士兄弟の物語である。これら合戦や武士を描いた絵巻を通して、中世日本における武士の心性や武士社会の様相を探る。

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1回目 | ガイダンス |
| 2回目 | 『後三年合戦絵詞』・『男衾三郎絵詞』概説 |
| 3回目～4回目 | 『後三年合戦絵詞』上巻を読む |
| 5回目～6回目 | 『後三年合戦絵詞』中巻を読む |
| 7回目～8回目 | 『後三年合戦絵詞』下巻を読む |
| 9回目～10回目 | 『男衾三郎絵詞』第一段～第二段を読む |
| 11回目～12回目 | 『男衾三郎絵詞』第三段～第四段を読む |
| 13回目～14回目 | 『男衾三郎絵詞』第五段～第七段を読む |
| 15回目 | まとめ |

●事前・事後学習の内容

授業前に詞書を読み、分からない語句などがあれば、事前に調べておくことが望ましい。授業後はその日の内容（人物関係や詞書の意味、絵と詞書の関係等）を必ず整理しておくこと。

●評価方法

期末試験のみによって評価する。

●受講生へのコメント

絵巻の詞書と絵を通じて、中世の人と社会を身近に感じて欲しい。

●教材

プリント配布。

[科目ナンバー : GE HIS 01 42]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本の古典文学Ⅱ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 山本 真由子 (文) |
| 99 | 英語表記 | Introduction to the Classics of Japanese Literature II | | | | | | |

●科目の主題

日本文学は、上代から現代に至るまで、外国の文学の影響を受けて、その表現世界を豊かにしてきた。特に、平安時代の文学は、中国文学から大きな影響を受けている。中国文学にならって、日本でも漢詩・漢文が書かれた。また、古代日本人の発明した和歌にも、中国文学の表現が取り入れられた。そして、漢字から

万葉仮名を経て、「かな」が成立するに及んで、和歌に加えて、和文による「日記」や「物語」といった文学作品が書かれるようになった。

さらに、平安時代の文学の表現世界を豊かにしたのは、中国文学からの一方的な影響のみではない。日本の漢詩・漢文から和歌・和文へ、或いは和歌・和文から漢詩・漢文へという相互の関わりが、日本文学の

新たな表現を生み出していったと考えられる。
外国の文学と日本文学との関わりは、今後も続くであろう。古典文学の表現を、外国の文学との関わりを考えて読み解くことにより、日本文学の特質の一端を明らかにしたい。

●授業の到達目標

平安時代の文学作品を、漢詩・漢文と和歌・和文との関わりを考えて、読み解く方法を学ぶ。併せて、日本文学と外国の文学との関わりをとらえ、世界の文学作品に幅広く関心をもつ姿勢を培う。

●授業内容・授業計画

平安時代の代表的な文学作品を読み、漢詩・漢文と和歌・和文とが関わりながら相互に表現世界を豊かにしてゆく諸相を具体的にとらえ、その意味を考える。授業の概略は以下の通り。

ガイダンス（1回）、和歌文学と漢詩文（4回程度）、日記文学と漢詩文（4回程度）、物語文学と漢詩文

（4回程度）、まとめ（1回）。

●事前・事後学習の内容

事前学習：配布プリントの文学作品を事前に読み、分からない語は辞書などを使って調べておく。

事後学習：授業をふまえて、文学作品を読み直すとともに、作品の他の箇所や、同じ作者の別の作品などを読むことで考察を深める。

●評価方法

試験による。

●受講生へのコメント

講義では、それぞれの文学作品から、特に読んでおいてほしい箇所をとりあげる。興味を持った作品については、ぜひ作品を通して読んでほしい。

●教材

教科書：プリントを配布。

参考書：三木雅博『和漢朗詠集』（角川ソフィア文庫）他

[科目ナンバー : GE HIS 01 44]

| 掲載番号 | 科目名 | 西洋の文学 | | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 神野 ゆみこ (非常勤) 他 |
|------|------|---------------------|--|-----|---|------|----|------|-------------------|
| 100 | 英語表記 | European Literature | | | | | | | |

●科目の主題

この授業では、18世紀から20世紀初頭の文学作品における「身体」をテーマに、独文学、英文学、仏文学より担当者がそれぞれ作品を選び、講じる。

●授業の到達目標

それぞれの担当者が取り上げた作家と作品への理解を深めることを目指す。独・英・仏の18世紀から20世紀前半の時代における、シュニッツラー、スウィフト、バルザックの3人の作家とその作品に関する知識を得て、その概要を簡単に説明することができる。

●授業内容・授業計画

はじめに神野が独文学として、作家アルトゥール・シュニッツラー(1862-1931)を取り上げる。シュニッツラーはオーストリア・ハンガリー帝国の帝都ウィーンで生まれ、19世紀から20世紀への世紀転換期のウィーンの街を舞台に、愛と性と死を中心とした市民階級の間人模様とその心理的内面を描いた。この授業では、小説『闇への逃走』(1931)と『夢小説』(1925-26)の二つの作品において、夢と現実の狭間における不安と肉体とがどのように関連付けられているかを読み解いていく。

ついで熊懷が18世紀英文学のジョナサン・スウィフト(1667-1745)を考察する。アングロ・アイリッシュのスウィフトは、英国の対外政策、特にアイルランドなどの植民地政策を痛烈に批判してきた。この回では、風刺小説『ガリバー旅行記』(1726)の4つの旅先で

出会う異国人の特異な身体や、また相対的に大きくなったり小さくなったりするガリバーの身体が、英国の対外政策に対する批判となっていることを明らかにしていく。

そして最後に秋吉が、バルザック(1799-1850)が書いた膨大な作品の中から、二つの短編を取り上げる。フランス革命後、急速に人口を増やしていくパリの都市化は、新たな文学の形を生むことになる。フランス十九世紀前半の代表的な小説家バルザックは、「幻視者」としてそうした都市の姿を見つめ、いろいろな側面を生涯様々な小説作品で描き、『人間喜劇』というひとつの小説世界を創り出す。もちろんそれは新たな都市の姿だけでなく、そこに住み、そこでその時代を生きる人々の姿を描くことでもあった。本講義では、そうした姿を、身体と内面、身体と性差、身体と社会といった視点から、『ファチノ・カーネ』『サラジヌ』という二作品をもとに読み取っていく。

①オリエンテーション（神野）

②『闇への逃走』精神と肉体の不均衡（神野）

③『闇への逃走』シュニッツラーと「神経の芸術」（神野）

④『夢小説』死の舞踏（神野）

⑤『夢小説』夢と現実のエロスの体現としての身体（神野）

⑥『ガリバー旅行記』リリパット国における風景化する身体（熊懷）

- ⑦『ガリバー旅行記』プロブディンナグ国における商品化する身体（熊懷）
- ⑧『ガリバー旅行記』ラピュータ国における狂気の身体（熊懷）
- ⑨『ガリバー旅行記』フウイヌム国における野蛮な身体（熊懷）
- ⑩バルザックと作品の時代背景（秋吉）
- ⑪『ファチノ・カーネ』にみられるバルザック的視点と身体（秋吉）
- ⑫『サラジヌ』の作品世界における身体（秋吉）
- ⑬『ファチノ・カーネ』と『サラジヌ』の語りの構造とその意味（秋吉）
- ⑭まとめ（神野）
- ⑮試験（神野）

●事前・事後学習の内容

事前学習としてあらかじめ、取り上げられる作品を読んでおくこと。事後学習としては、授業で聞いた内容をもとに、さらにもう一度該当箇所を読み直すこと。また、参考図書にも目を通しておくことが望ましい。

●評価方法

定期試験60%、毎回の小レポート40%として評価す

る。11回以上の講義への出席がなければ評価の対象としない。

●受講生へのコメント

独・英・仏文学の授業に満遍なく出席し、全体像を把握するようにしてほしい。事前学習を十分にしておき、授業中の検索目的等のスマホの使用は慎むこと。

●教材

授業でハンドアウト（プリント）を配布する。また、受講者があらかじめ読んでおくべき作品は、以下の通り。参考図書は各担当者が授業中に指示する。

■神野担当

シュニッツラー 池内紀、武村知子訳『夢小説 闇への逃走 他一篇』（岩波文庫）

■熊懷担当

スウィフト 山田蘭訳『ガリバー旅行記』（角川文庫）

■秋吉担当

バルザック 芳川泰久訳『サラジヌ 他三篇』（岩波文庫）（『ファチノ・カーネ』も収載）

[科目ナンバー : GE HIS 01 45]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本の近代文学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 奥野 久美子（文） |
| 101 | 英語表記 | Modern Japanese Literature | | | | | | |

●科目の主題

芥川龍之介作品精読：芥川龍之介の作品を素材に、文学研究とは何なのか、大学で取って日本近代文学を学ぶ、研究するとはどういうことか、その意味と面白さの一端を知ることを中心とする。またその前提として、古典も含めた代表的な日本文学作品にできるだけ多く触れるための動機づけもおこなう。

●授業の到達目標

鑑賞とは異なる研究の方法を学び、その一端を身に付けることを目標とする。また作品に描かれる事象や思想の時代的背景を知り、自らの環境や思想との比較により考察を深める。

●授業内容・授業計画

本講義では、芥川龍之介の作品を精読し、素材、時代や風俗、思想など、作品の諸背景をふまえた読みを試みる。一部、映画作品との比較も行う。各作品ごとに、精読後、小レポートを課し、また作品のテーマに応じて時間が許せばグループ討論も行う。

1. ガイダンス
2. 芥川龍之介と恒藤恭
3. 芥川龍之介「地獄変」(1) 典拠など
4. 芥川龍之介「地獄変」(2) 語り手

5. 芥川龍之介「地獄変」(3) まとめ、小レポート
6. 芥川龍之介「舞踏会」(1) 典拠など
7. 芥川龍之介「舞踏会」(2) 改稿
8. 芥川龍之介「舞踏会」(3) まとめ、小レポート、グループ討論
9. 芥川龍之介「藪の中」(1) 典拠など
10. 芥川龍之介「藪の中」(2) 素材について
11. 芥川龍之介「藪の中」(3) 映画
12. 芥川龍之介「藪の中」(4) まとめ、小レポート、グループ討論
13. 芥川龍之介その他作品
14. 全体のまとめ
15. 授業内試験

●事前・事後学習の内容

授業各回前に必ずその回に扱う作品を事前に読んでおくこと。また、各作品の精読を終えるごとに小レポートを実施するので、講義内容の復習や作品内容の反芻など、各自準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

授業への参加姿勢、一作品ごとに課する小レポート、および学期末試験（授業時間内）。

●受講生へのコメント

※グループ討論などの都合上、受講者数の定員を120名とする。

- ・毎回、対象作品の下読みなどの準備を必要とする。
- また指定された教科書の購入は必須である。

●教材

教科書：『教科書で読む名作 羅生門・蜜柑ほか』
(芥川龍之介 著) (ちくま文庫734円ISBN：978-448
0434111)

[科目ナンバー : GE HIS 01 46]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 芸術の世界 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 高梨 友宏 (文) |
| 102 | 英語表記 | Aesthetics and Science of Art | | | | | | |

●科目の主題

「芸術への美学的ないし哲学的アプローチの試み」

人の心を引きつけてやまない芸術作品。人は芸術作品にときに慰めを見だし、ときにそこから生きる希望を与えられてきた。芸術に理屈はいらない。ただ作品を前にして、心の感じるままにふるまえばよい。そう考えることももちろん間違いではない。しかし、芸術に心惹かれている状態から、一歩踏み込んでみよう。するとそこには、私たちが芸術に惹かれるのはなぜか、芸術において、美しいとはどういうことなのか、あるいは一般的に、美とは何か、芸術は美を乗り越えていくのか自然の美と芸術の美は違うのか同じなのか。芸術の本質は変化するのか、変わらないのか。芸術によって人は善くされるのか、墮落させられるのか、芸術は人間にとってどんな意味をもつのか、等々の問いが開かれている。この授業では、こうした問いについて、古来、美や芸術についてなされてきた考えに学びつつ、ともに考えていきたい。

●授業の到達目標

「芸術に関する知識の習得ではなく、芸術についての考え方を身につけること」

上記「科目の主題」に挙げたような問いを考えていくために、絵画や音楽の作品を実例として紹介することはあるが、こうした芸術作品に関する知識を学ぶことにこの授業の主眼があるわけではない。むしろ作品の実例を通して、芸術に関する美学的・哲学的な考え方を習得することを目指したい。

●授業内容・授業計画

- ① 「はじめに、または芸術 (美) ・真理・善」
- ②-⑤ 「芸術と美」
美の所在／自然美と芸術美／芸術美の変様

⑥-⑨ 「芸術と崇高」

崇高論／崇高と芸術／共感覚と触覚的視覚／美的近代の変様

⑩-⑫ 「芸術と倫理」

美的経験と道徳／芸術による人間形成

⑬-⑭ 「まとめ (調整)」

●事前・事後学習の内容

事前学習として、下の「教材」の項に挙げた参考図書のうち、少なくともどれか1冊に目を通してほしい。内容が難しければ、十分理解できなくてもよい。事後学習としては、授業で話した内容を踏まえて、関連図書 (授業中に指示) を改めて読み直してほしい。また各自、自分の芸術経験について、授業で話したことを踏まえて反省を試みてほしい。

●評価方法

学期末試験による評価。

●受講生へのコメント

予備知識は特に必要としないが、芸術への関心はもとより、哲学や美学に関心を持つ人を歓迎。面倒な理屈に付き合う覚悟を携えて受講してほしい。

●教材

参考書：今道友信『美について』講談社現代新書、カント『判断力批判』(から第1部「美(感)的判断力の批判」)(翻訳複数あり)、ヘーゲル『美学講義』(翻訳複数あり)、シラー『人間の美的教育について』法政大学出版、ドイツ観念論研究会編『思索の道標をもとめて-芸術学・宗教学・哲学の現場から-』萌書房など。その他、必要に応じて授業中に指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 47]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 東洋美術の流れ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 村田 隆志 (非常勤) |
| 103 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

東洋の漢字文化圏の美術の諸分野—書、画、彫刻、工芸などについて、日本を中心に概観し、その歴史や特色について理解を深める。あわせて美術史、書道史などの方法論についても学ぶ。

●授業の到達目標

それぞれの美術作品には、制作された時の時代の特徴や、作家の思想などが強く表れる。その魅力を認識する感性、そして、その感性を発揮して得た感想を、自身の言葉を用いて記述できる力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- ①イントロダクション 本科目の進め方と視点
- ②東洋の文化的特性 漢字文化圏の相互影響
- ③書1 篆隸楷行草の各体の成立
- ④書2 書法と書道の展開—中国と日本
- ⑤画1 東洋絵画の特性
- ⑥画2 北宗画と南宗画
- ⑦画3 近代日本画の世界
- ⑧画4 大阪の近世・近代画壇
- ⑨彫刻 東洋の彫刻史
- ⑩工芸1 金工
- ⑪工芸2 陶芸
- ⑫工芸3 漆芸
- ⑬工芸4 染織
- ⑭民芸

⑮総括

パワーポイントを使用し、作品画像を紹介しながらの講義形式で行う。

●事前・事後学習の内容

東洋史・日本史の高校までの既習内容を理解していることを前提として講義を展開するため、事前に復習しておくこと。本科目は、それぞれのテーマについて、実際の鑑賞経験を持っていくと理解が深まる。そのため、テーマに関連する書籍を読んでおくことや、展覧会等での鑑賞経験を予復習として事前・事後に積んでおくこと。

●評価方法

出席点 (30点) 講義中に課す小レポート (10点×2) と期末テスト (50点) で総合的に評価する。このほか、講義中に適宜行う質問について回答した場合に加点する。

●受講生へのコメント

全学共通科目としての講義であるため、東洋や日本の美術史を専門とする学生以外にも資するような内容 (視点や思考法の提供など) で実施する。反応を見極めながら講義の内容を調整するため、積極的な授業参加が望ましい。また、講義期間中に有意義な展覧会などが行われた場合、学外授業として見学会を実施する可能性がある。

●教材

レジュメを配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 49]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 音楽の諸相 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 増田 聡 (文) |
| 104 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

英米圏のブルース、ジャズ、ロック、ブラックミュージックを中心とする20世紀のポピュラー音楽史を講じる。19世紀末に発明され、20世紀前半に欧米を皮切りに世界中へと普及していったレコードやラジオといった音響再生産メディアは、それまでの音楽文化の姿を大きく変えることになった。さまざまな民族や都市文化の美学を反映した多彩なポピュラー音楽が市場に出回り、音楽産業は巨大なビジネスになっていく。本講義では、とりわけ20世紀の音楽産業の発展に最大

の影響をもたらした英米のポピュラー音楽史を、技術、経済、思想、政治、民族性、美学などの観点から、視聴覚資料に基づいて概観していく。

●授業の到達目標

20世紀英米ポピュラー音楽史の展開について標準的な知見を獲得し、それを社会的・文化史的な背景と関連づけて理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- (1) ポピュラー音楽形成の社会的背景
- (2～4) 初期音楽産業、ジャズ、ブルース (アメ

リカ黒人音楽文化の浮上と複製メディアの役割)

- (5) ロックンロールの誕生 (ティーンエイジャーと音楽産業)
- (6) 公民権運動とフォークロック、ビートルズ
- (7) 60年代ソウル
- (8) 英国へのアメリカ黒人音楽の影響
- (9) サイケデリック文化とロック
- (10) 70年代ロックの拡大と展開
- (11) パンク・ロック
- (12) 70年代黒人音楽の発展(ディスク文化の浮上)
- (13) 80年代のMTV文化とヒップホップ
- (14) 90年代以降のテクノ/クラブカルチャーの展開
- (15) MTV以後の音楽/映像文化の諸相とインターネット

順序は入れ替えたり、二つの主題を一つのコマで行う場合もある。

●事前・事後学習の内容

後述する参考書、また関連書籍を読むとともに、シラバスや授業内で触れたミュージシャンやジャンルに関連する楽曲をYouTubeなどを活用して各自視聴しておくこと。またWikipediaなどのweb上のリソースや各種関連書を用いて、授業内で触れた固有名詞につ

いて関連する情報を調べ、音楽史・文化史上の背景知識を自学自習しておくこと。

●評価方法

学期末試験の点数のみにより評価する。出席は一切とらない。授業内容に強い関心を持つ学生の履修を希望する。

●受講生へのコメント

単位取得が困難な授業であるので、単に時間割を埋めるための履修登録はお勧めしない。初回授業に欠席した学生の受講は認めない。視聴覚資料を多用するので、授業中の私語には厳しく対処する。また、Wikipedia、YouTube等を活用して授業外での積極的な自学自習を行うこと。

●教材

授業内容と関連する、あるいは発展的な内容を含む参考書として下記を挙げる。購入の必要はないが、授業期間内に通読しておくことが望ましい。

- ・増田聡・谷口文和『音楽未来形——デジタル時代の音楽文化のゆくえ』(洋泉社)
- ・大和田俊之『アメリカ音楽史—ミントレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』(講談社選書メチエ)
- ・長谷川町蔵+大和田俊之『文化系のためのヒップホップ入門』(アルテスパブリッシング)

[科目ナンバー : GE HIS 01 50]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 視覚文化の世界 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 石川 優 (非常勤) |
| 105 | 英語表記 | The World of Visual Culture | | | | | | |

●科目の主題

現代の視覚文化は、マンガ、アニメ、ゲームなどの複数のメディアが相互に関係することで形成されている。特に、マンガはこれらをつなぐハブとして機能しており、現代の文化状況を理解する上で重要な要素である。この授業では、マンガの理論と事例の考察をつうじて、日常的に接している視覚文化を批判的に見つめ直していく。具体的には、主に「表現論」、「創作/受容論」、「メディア論」という視点から、現代の視覚文化の機構と特徴を論じる。

●授業の到達目標

- (1) 現代の視覚文化をめぐる基本問題を説明できるようになる。
- (2) 日常的に接している文化を批判的にとらえ、自らの問題意識を論理的に言語化できるようになる。

●授業内容・授業計画

授業は講義形式でおこなう。まず、授業の前半では、マンガについて概括的に理解することを目的として、

マンガの形成史(第1~4回)と表現機構を講ずる(第5~7回)。次に、ポピュラー文化における創作と受容の流動的な関係性をマンガ同人誌という事例から考察し(第8~10回)、多様なメディア環境における視覚文化の諸相について論じる(第11~14回)。なお、以下の授業計画は受講生の人数や問題関心に応じて変更する可能性がある。

- 第1回 視覚文化としてのマンガ
- 第2回 形成史
- 第3回 少年マンガ論
- 第4回 少女マンガ論
- 第5回 マンガ表現と規制
- 第6回 キャラクター論①記号と身体
- 第7回 キャラクター論②自立性と横断性
- 第8回 マンガ同人誌の歴史
- 第9回 コミックマーケットと表現
- 第10回 「やおい/ボーイズラブ」論
- 第11回 『鉄腕アトム』とメディアミックス
- 第12回 『ビックリマン』と物語消費

第13回 二次創作とシミュラクル

第14回 海外におけるマンガ受容

第15回 総括と補遺

●事前・事後学習の内容

- (1) 授業内で指示する文献・資料をあらかじめ読んでおくこと。
- (2) 授業で配布する資料などに基づいて、授業内容を復習すること。
- (3) 全体をつうじて、新聞、テレビ、インターネットなどに目をとおり、ポピュラー文化に関する情報を日々収集すること。

●評価方法

コミュニケーションカードでの考察 (20%)、授業内に実施するミニレポート (30%)、期末レポート (50%)

●受講生へのコメント

マンガ、アニメ、ゲーム、動画、SNSなど、日頃から接している視覚文化を漫然と受容するのではなく、問題意識をもって接する機会を自発的につくって下さい。

●教材

プリントを配布する。参考文献は授業内で指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 51]

| | | | | | | |
|-------------|------|--|----------|----------------|------|-----------|
| 掲載番号 106 | 科目名 | 文学と芸術へのいざない (演習) | 単位数 2 | 授業 形態 演習 | 担当教員 | 野末 紀之 (文) |
| | 英語表記 | Seminar: Introduction to the Literature and Art | | | | |

●科目の主題

イギリス19世紀後半における男性同性愛の表現を読み解く

●授業の到達目標

19世紀イギリスでは、同性愛が処罰の対象であった。そのため、同性愛を擁護し表現する文学者たちは、ギリシャ神話を素材にしたり、親密な友情という名を借りたり、少数数の出版というかたちを取ったりした。それらの作品の読解を通じ、セクシュアリティの自由を求める闘争のありようについて知見を得、また考察を加えることを目標とする。

●授業内容・授業計画

プラトンの『饗宴』その他のギリシャの同性愛にかかわる基礎資料を翻訳で読んだのち、ジョン・アディントン・シモンズ、ウォルター・ペイター、オスカー・ワイルドらの作品を、原文で読みすすめてゆく。授業は演習形式を取る。毎回、発表担当の受講生には、訳読、内容の整理、問題点の指摘が求められる。翻訳のあるものは利用してよい。発表のあと、それにたいする質疑応答を行なう。

授業計画は以下の通り。

- ①イントロダクション (当時の同性愛をめぐる状況、処罰事件の解説、授業の進め方など)

- ②プラトン『饗宴』ほか

- ③～④チャールズ・ケインズ・ジャクスン「新しい騎士道」

- ⑤～⑥ジョン・アディントン・シモンズ「ギリシャ倫理学の問題」

- ⑦～⑧同上「現代倫理学の問題」

- ⑨～⑩ウォルター・ペイター『ルネサンス』

- ⑪～⑬オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』

- ⑭まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、資料、とくに英文の綿密な下調べが必要。事後には、授業内容をふまえて、表現の細部を読み直し、その意味合いや戦略、苦渋の痕跡などを考えることが必要となる。

●評価方法

授業時の発表と質疑への参加、学期末に提出するレポートおよび試験 (辞書持込可) による。

●受講生へのコメント

受講者数は15名までとする。各自、積極的にさまざまな作品を読んでほしい。

●教材

授業字に配布する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|--------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 数学の考え方 1 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 河内 明夫 (理 特任) |
| 107 | 英語表記 | Concepts of Mathematics 1 | | | | | | |

※平成24年度以前に「数学の考え方」の単位を修得した者は、「数学の考え方1」は履修できない。

●科目の主題

数学は科学の言葉であり、現在の科学文明の礎をなしている。数ある学問の中で一番役に立っているのは数学であると言っても過言ではない。しかし数学には、役に立つという実益の面だけでなく、美意識に訴える芸術的な面があり、一つの文化をなしている。多くの数学者は、実益の面より、むしろ美意識に動かされて数学を作ってきたと思われる。また歴史は、美意識を動機として作られた美しい数学が、時代を経て役に立つことを証明している。

●授業の到達目標

この講義では、数学の面白さ、美しさ、文化としての数学を伝えたい。そこから、数学の考え方が学び取れればと思う。

●授業内容・授業計画

結び目は、身近な生活に取り入れられているのみならず、現在、数学のいろいろな研究分野と関連しながら

ら研究されており、またいろいろな科学の研究においても登場している。この授業では、結び目をキーワードに、いろいろな結び目に関する話題、特に数学やいろいろな科学に関する話題を紹介する。それが如何なる数学になっているかを学習することにより、数学の考え方を理解する。

●事前・事後学習の内容

レポートを指定回数以上提出する必要があるので、講義で述べたキーワードについて、インターネットで検索したり、図書を調べたりする必要がある。

●評価方法

指定回数以上のレポート提出により評価する。

●受講生へのコメント

数学の予備知識としては、大学への文系志望者が学習する高校までの数学を仮定する。更に、数学への興味と論理的思考力のあることが不可欠である。

●教材

教科書は用いない。参考書は講義のなかで紹介する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ニュートンから アインシュタインへ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 牲川 章 (非常勤) |
| 108 | 英語表記 | History of Physical Concept from Newton to Einstein | | | | | | |

●科目の主題

17世紀のニュートンによる力学の法則の発見から、20世紀初頭のアインシュタインによる相対性理論の構築までの近代物理学の発展史。最近急速に認識が深まった宇宙の進化の歴史についても触れる。

●授業の到達目標

近代物理学の発展史：力学の完成 → 熱の物理学の確立 → 電磁気学の完成 → 近代原子論と熱の分子運動論 → 相対性理論の構築。これらの物理法則を理解するとともに、それらが如何にして発見されたかを学ぶことを通じて、物理的なものの考え方を理解してもらうこと目標とする。

●授業内容・授業計画

以下の項目について概説する。

- 1 ケプラーの法則の発見：惑星の軌道、周期に関するケプラーの3法則の発見史
- 2 ガリレイの実験と洞察：ガリレイの実験を通じ

ての力学に関する研究の足跡

- 3 ニュートン力学の完成：ニュートンによる力学の3法則の発見
- 4 熱の科学の確立：熱エネルギー、エントロピーなどの導入と熱力学の3法則の確立
- 5 電磁気学の完成：マクスウェルによる電磁気学の基本法則の発見に至る道筋の俯瞰
- 6 近代原子論：原子・分子が物質の基本構成要素であることの認識への道筋の概観
- 7 熱の分子運動論：熱現象を分子レベルから理解すること
- 8 相対性理論の誕生：アインシュタインによる特殊相対性理論、一般相対性理論の確立
- 9 ミクロ世界の最前線と宇宙の進化の歴史：ミクロ世界について現在までに判ったこと、それを元に138億年前にビッグバンにより誕生した宇宙の進化の歴史についての概観

●事前・事後学習の内容

事後、復習（反芻）を行うこと。

●評価方法

理解度（コミュニケーションカードを毎回提出、出席票を兼ねる）、出席状況等により評価。

●受講生へのコメント

授業中の質問は歓迎する。又、理解度を測るために

毎回配布するコミュニケーションカードに「質問」を書き加えることも歓迎する。尚、上記の授業内容は一部変更することがある

●教材

教科書を使用せずプリントを適宜配布する。参考書は必要に応じて授業中に提示する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ミクロとマクロの世界 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 村田 恵三（非常勤） |
| 109 | 英語表記 | Microscopic and Macroscopic Worlds | | | | | | |

●科目の主題

自然界の理解に向けたあくなき挑戦を通じて、一方でミクロ世界、他方でマクロ世界の理解が進んできた。ミクロ世界に分け入っていくと以下のような階層構造が見えてくる：物質□分子□原子□原子核+電子、原子核□陽子+中性子□クォーク。現在までにクォークは6種類確認されている。ここまでの、現在到達しているミクロ世界の最前線である。

一方、マイクロ（ミクロ）とはマイクロメートル、即ち 10^{-6} m程度、ナノとはナノメートル、即ち 10^{-9} m程度のサイズを指す。ナノ世界に比べて、マイクロも我々の生活空間は既にマクロ世界である。宇宙も勿論マクロ世界である。

本科目では、主としてナノ世界からマクロ世界に亘る物理学および科学技術の最前線や身の回りの話題も含めて、できるだけ数式を用いずに平易に解説する。

●授業の到達目標

どんなものが話題となっていたか科学的事実を正しく把握すること。それらの科学的事実はどのようにして確立されてきたかに議論できるようになること。

●授業内容・授業計画

以下の順序で進める。

1. 宇宙物理学

恒星の構造とその一生、137億年前のビッグバンに始まる宇宙の進化と現在の宇宙の構造などにつ

いて概説する。

2. 物性物理学、ナノサイエンス

物質は分子、原子から出来ているシステムであるという視点から解説する。ナノサイエンス、ナノテクノロジーから磁石、超低温での超伝導現象などをとりあげる。進捗状況にもよるが、生命、薬、通信、環境などにも触れる。

●事前・事後学習の内容

新しく耳にしたような話題は、次回からは、既知のものになっているようにしておくこと。

●評価方法

理解度（毎回提出、出席票を兼ねる）、出席状況等による総合評価。

●受講生へのコメント

講義の雰囲気向上のため、教室では後部の座席は使用しない。肘枕での在室は許可しない。授業中の質問を歓迎する。又、理解度を計るために毎回配布する用紙に「質問」を書き加えることも歓迎する。尚、上記の授業内容は一部変更することがある。

●教材

1. 「目で楽しむナノの世界」 R. Moret著、鹿児島誠一訳
2. 「身近な物理 I, II」 Aslamazov, Varlamov著、村田恵三 編・訳 共に、丸善出版。

[科目ナンバー : GE NAT 01 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 化学の世界 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 豊田 和男（理）他 |
| 110 | 英語表記 | World of Modern Chemistry | | | | | | |

●科目の主題

私たちの日常の健康に重要な役割を果たす食品や医薬品は、化学物質からできている。また、PCをはじめ

めとするエレクトロニクス、自動車、医療機器などに使われている素材は高度な科学技術の上に成り立っている。勿論、私たちの身体は化学物質からできており、

生命体としての機能は物質の性質に支えられている。本科目では、化学を専門としない学生に、化学に興味をもってもらえること、ちょっとした化学の知識と考え方が質の良い生活（QOL = Quality Of Life）を日常的に送るために大変役に立つことを念頭において、化学と私たちの関わりについて多彩な話題を提供する。

●授業の到達目標

日常的に接する身の回りの化学製品や、生物に由来する化学物質、歴史やニュースに登場する化学物質について表層的なとらえ方から一歩進んで、化学の原理・考え方に基づいて理解する力を養う。

●授業内容・授業計画

化学の各分野の講師によるオムニバス形式で実施する。各タームでは以下のテーマについて解説する。

- 第1ターム 化学のススメ
身近にある「化学」を理解するための基礎を学ぶ。
- 第2ターム 身の回りの化学
化学の基礎をふまえて、身の回りの化学を考える。
- 第3ターム ノーベル賞の化学

賞を題材に化学の研究と生活の関わりを解説する。

●事前・事後学習の内容

日頃から化学に関するニュースや記事などに注意して、関連する化学の事項を勉強することを勧める。また、講義を聞いて関心をもったことに関しても、さらに深く学習してもらいたい。

●評価方法

毎回の平常点に加えて、オムニバスの各タームで随時小テストを行い、総合的に成績を評価する。

●受講生へのコメント

なるべく専門用語は使わず、わかりやすく説明する。化学になじみのない受講生も歓迎する。上記の講義内容は一部変更することがある。

●教材

教科書は使用せず、教材は担当者が提供する。
授業担当者 理学研究科物質分子系専攻 坪井泰之・西岡孝訓・三宅弘之・豊田和男・舘祥光・板崎真澄・東海林竜也

[科目ナンバー : GE NAT 01 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代の分子科学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 中沢 浩 (理 特任) |
| 111 | 英語表記 | Modern Molecular Science | | | | | | |

●科目の主題

我々の身の回りには多くの化学物質が存在している。これらの化学物質の多くは、研究者の工夫により作り出されたものであり、そのお陰で人類の生活は豊かになってきた。また、自然の仕組みを理解し、そこから化学物質の役割が明らかにし、それらの知見を基にして医薬品などを作り出し、人類の健康に貢献してきた。しかし一方において、人類が作り出した化学物質が健康に害を及ぼし、環境破壊を招いている一面もある。我々は化学物質に対する正しい知識を持ち、正しく対処することが求められている。

理科系の分野を専門としない学生に対して化学の基礎を解説し、自然現象をどのように理解すればよいか、また人類は化学物質とどのように付き合っていけばよいのかについて紹介する。

●授業の到達目標

身の回りで起こっている現象（空はなぜ青いのか、夕焼けはなぜ赤いのか、なぜ3色の光だけですべての色が再現できるのかなど）や分子の本質（なぜ水分子はV字型構造をしているのか）、そして、現在社会の問題となっている地球温暖化やエネルギー問題について理解を深め、今後どう対処していくのかについて考える。これらを通じて化学に親しみ、関心が深まることを期待している。

●授業内容・授業計画

- 以下の課題で講義し、中間試験、期末試験を行う。
- 第1週目～3週目 自然現象の科学的理解
- 第4週目～6週目 化学物質と人体の関わり
- 第7週目 中間試験
- 第8週目～10週目 化学物質と環境の関わり
- 第11週目～13週目 化学物質とエネルギーの関わり
- 第14週目 Q & A タイム
- 第15週目 期末試験

●事前・事後学習の内容

授業の最後に、その日の講義内容についての質問事項について用紙に記載して回収する。これらの質問を整理して次回の講義の最初に回答する。また、次回の講義内容（キーワードなど）を授業の最後にアナウンスするので、次回までにそれらについて前もって予習することを勧める。

●評価方法

中間テスト、期末テスト、出席を含む平常点を加味した総合評価

●受講生へのコメント

化学を専門としない学生に対して、専門用語を極力使用せず、わかりやすく解説することにより、化学および化学物質を身近に感じてもらうように講義を行う。

●教材

教科書の指定なし。必要に応じて教材を提供する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 07]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生物学への招待 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 田中 俊雄 (理) 他 |
| 112 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

地球上に生命が誕生して35億年ほどが経過した。この間、生物は遺伝子DNAを営々と子孫に伝え、そこに刻まれた暗号を弛まなく変化させながら進化した。本講義では、まず、生命の最も基本的な単位である細胞（遺伝子・タンパク質）について理解し、肉眼では見ることのできないミクロの生命体、すなわち微生物の多様性やヒトとの関わりについて論じる。次いで、海洋大型動物を題材として形態や行動、繁殖システムなどマクロな視点から生物進化を解説する。さらに、生命の特徴の1つである環境に対する反応について、主に植物を例にとって概説する。

●授業の到達目標

[第1ターム] まず、遺伝子DNAに刻まれた暗号が多種多様なタンパク質へと変換され、それらタンパク質のはたらきによって細胞を基本単位とする生命現象が営まれることを理解する。ヒトの遺伝子情報が解読された今日においても、微生物はあいかわらず私たちにとって未知の存在であり、あるものは私たちの生命を脅かす存在である。このように多種多様な微生物の姿をとおして、その分類上の位置づけや生物界における意義と役割について理解する。

[第2ターム] ウミガメやペンギン、アザラシ、イルカなどの大型海洋動物と陸上動物の対比を軸に、形態、生理、回遊、繁殖システムなどマクロな視点から、セキツイ動物の進化について学ぶ。あわせて、迫りくる温暖化とその影響についても理解する。

[第3ターム] 生物は、まわりの環境の情報を捉え、それに適切に反応することによって生命活動を営んでいる。まず、植物の生命活動に影響する環境要因の種類と反応の概要について理解する、次に、各環境シグナルの受容のしくみ、受容されたシグナルの変換・伝達機構、そして伝達されたシグナルに対する応答や適応のメカニズムについて理解する。

●授業内容・授業計画

[第1ターム] 担当：田中俊雄

1. 細胞とは何か
2. 遺伝子、タンパク質とは何か
3. 微生物とは何か
4. 微生物の多様性
5. タームのまとめと小テスト

[第2ターム] 担当：松沢慶将

1. ハ虫類、鳥類、哺乳類の形態、生理、ならびに生息環境への適応
2. クジラやウミガメの回遊とその意義、および定位能力
3. ハ虫類における性決定の仕組みと意義
4. タームのまとめと小テスト

[第3ターム] 担当：保尊隆享

1. 環境要因の種類と反応の概要
2. 光に対する反応
3. 重力に対する反応
4. 水に対する反応
5. 温度に対する反応

[まとめ] 担当：1. 田中俊雄

●事前・事後学習の内容

配布したプリントの内容および授業中に指摘した項目について、次回授業までに各2時間程度の予習・復習をしておくことが望ましい。

●評価方法

第1タームおよび第2タームに関しては、各タームの最終日に実施する小テストによって行う。第3タームに関しては、課題への回答の評価によって行う。3つのタームの成績を平均して評価するが、1つのタームにおいても評価点がゼロであった場合（例えば小テストを受けなかった場合）は不合格とする。なお、小テストは、第1タームの5回目と第2タームの4回目に実施する。

●受講生へのコメント

オフィスアワーは特に設けませんが、必要に応じて質問に答えるための便宜をはかる（第2タームの場合は、授業終了後のみ）。

●教材

プリント：適宜使用 参考書等：田中担当：村尾澤夫ら『くらしと微生物』（培風館）、保尊担当：テイツ・ザイガー『植物生理学』（培風館）

[科目ナンバー : GE NAT 01 08]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 地球の科学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 益田 晴恵 (理) |
| 113 | 英語表記 | Review of Earth Science | | | | | | |

●科目の主題

人間の社会活動と関係の深い地震や都市災害、環境汚染、天然資源などを中心の話題としながら、地球の歴史や現在の姿、将来予測などを、地球に関係する科学史や最深の地球学の知識に基づいて概説する。

●授業の到達目標

21世紀は「環境の世紀」と言われる。日本列島は、元々地球上の自然災害の多い場所に立地している。特に、近年は大規模な災害の発生が続き、自然と私たちのつきあい方に関心が持たれている。本講義は、私たちが暮らす周辺の自然環境は、様々な現象の微妙なバランスの上に保たれていることを、地球全体の活動（すなわちエネルギー移動）の観点から理解し、自然環境問題を考えるきっかけとしたい。さらに、未来を見通した社会的選択について、自然環境を基盤として考える素養を育てたい。

●授業内容・授業計画

- 1 地球の活動と地質災害
 - (1) 地球の内部構造
 - (2) 地震
 - (3) 津波と災害
 - (4) 活断層
 - (5) 火山と災害
 - (6) 都市地盤の特性
 - (7) 都市の環境変遷と災害 (以上、井上直人担当)

2 地球のエネルギー物質循環と環境

- (8) 水循環と水資源、地球システム概念
- (9) 大気圏・水圏の構造とエネルギー循環
- (10) 大気と海洋の相互作用 (ENSOイベント) 炭素循環と生物活動、地球温暖化
- (12) プレートテクトニクスとプルームテクトニクス (地球内部のエネルギー循環)
- (13) 元素濃縮と地下資源
- (14) ハビタブルゾーン (宇宙の中の地球)
- (15) 講義全体のまとめ (以上、益田晴恵担当)

●事前・事後学習の内容

授業中に出す課題を考えてくること。

●評価方法

出席点40点、レポート20点、期末試験40点。出席点には、講義ごとに行う小テストを含む。

●受講生へのコメント

これまでに地学の授業を受けたことがないことを前提に授業を行う。自然環境問題や自然災害に興味がある人はもちろん、持たない人にも、「地球の歴史と現在の姿を知る」ことの大切さが分かる授業を行いたい。できるだけ欠席しないでほしい。

重要：「地球学入門」の単位取得者は本科目を受講することはできない。

●教材

講義の資料は準備する。参考書は授業中に指示する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----------------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 体験で知る科学と技術 | 単位数 | 4 | 授業形態 | 講義 演習 実験 | 担当教員 | 山本 和弘 (理) 他 |
| 114 | 英語表記 | Experimental Learning of Science and Technology | | | | | | |

●科目の主題

現代では自然科学とそれを応用した技術は著しい発達をとげ、社会のあり方に大きな影響を及ぼしている。本科目は、人文系専攻（生活科学部人間福祉学科・医学部看護学科を含む）の学生を対象に、基本的な実験・実習を通して自然科学と技術に親しむことを目的とする。

●授業の到達目標

実験・実習を通じて、自然科学と技術の知識を幅広く身につけ、また自らこれを探求し読みとく能力を養う。

●授業内容・授業計画

第1週はガイダンスで、授業の概要説明、実験・実習にともなう注意、実験棟内の実験室見学、および消火訓練を行う。第2週からの内容は以下の通りで、日程はガイダンスで説明する。(担当者や内容は変更されることもある。)

1. 「顕微鏡による植物細胞の観察」レーウエンフックの顕微鏡と同じ原理の顕微鏡をガラスピースとペットボトルを用いて作り、光学顕微鏡で得られる像と比較しながら植物細胞を観察する。(担当：曾我康一、若林和幸 (生物学科))

2. 「地球の重力加速度」ガリレオやニュートンの言うように物体の自由落下が等加速度的かどうかを確かめ、ボルダの振り子の周期から重力加速度を求め。 (担当：神田展行 (物理学科))
3. 「楽器と声の音波」電子楽器や自分の声をマイククロホンで電気信号に変え、音を波としてとらえて、音の基本的な性質を理解する。 (担当：山本和弘 (物理学科))
4. 「プリズムを通してみたLEDの光とプランク定数」光はエネルギーの塊であり、光の色はその波長と関係する。この実験では、プリズムをもちいて単色LEDの光を観察し、光とエネルギーを対応づける基本的な定数「プランク定数」を求め。この定数が0でないということが、現代物理学の根幹をなしている。 (担当：小原 顕 (物理学科))
5. 「二酸化炭素 (CO₂)の性質」CO₂が地球温暖化の主役といわれている。CO₂が水に溶け、酸性を示し、溶けたCO₂は高温で気中に放出され、大理石に酸を加えるとCO₂が放される、などの実験からCO₂の性質を確かめる。温室効果、温暖化について理解を深める。 (担当：中沢浩 (化学科))
6. 「偏光で見る自然」身の回りには光があふれているが、偏光板を通していろいろなものを見ると、日常見る光景と違った光景が見える。青空や、液晶モニター、方解石を通してみる二重文字も偏光と関係している。偏光板を用いて身の回りの光を観察し法則を考える。 (担当：奥平敬元 (地球学科))
7. 「金属錯体のクロモトロピズム」金属錯体には温度や溶媒によって色が変化するクロモトロピズム現象を示すものがある。塩化コバルトなどの金属錯体を取り上げ、実際に自分の目で色の変化を確かめる。 (担当：三宅弘之 (化学科))
8. 「医薬品の活性成分 - 解熱剤からアスピリンの単離」身近な化学物質の一つである医薬品を通じて物質の性質を理解するとともに、医薬品に含まれる物質とその役割について考察する。 (担当：西村貴洋、坂口和彦 (化学科))
9. 「DNAとRNAの抽出」生物の設計図である遺伝子の本体は核酸であり、DNAとRNAの2つの種類が存在する。植物組織から変性剤等を用

い、DNAとRNAをそれぞれ分けて抽出し観察する。 (担当：曾我康一、若林和幸 (生物学科))

10. 「ニワトリの胚発生」めん鳥は卵を産み、卵からはヒヨコが生まれてくる。あたためられた有精卵の中で何が起きているのか、慎重に殻をひらき、覗いてみよう。 (担当：水野寿朗 (生物学科))
11. 「空中写真から読み取る活断層」地震をおこす可能性のある地下の活断層は、地表にも地形の違いとして明瞭に現れる。空中写真を用いて地形を立体的に観察し、活断層がどのような場所にあり、どのような変位が生じているのかを理解する。 (担当：井上 淳 (地球学科))
12. 「キャンパスの植物で探る陸上植物の進化」植物がどのようにして水中から陸上へ進出し、現在のような多様な姿に至ったのか、その過程を理解するために、杉本キャンパスに植栽されている実際の植物を観察しながらたどる。 (担当：大久保敦 (大教セ))
13. 「ブラウン運動」直径1 μm程度の微粒子が水中で不規則に動くのがブラウン運動である。2000倍の顕微鏡でその運動の時間経過を観察し、パソコンを使った解析によってアヴォガドロ定数を決定する。 (担当：吉野治一 (化学科))

●事前・事後学習の内容

各トピックの内容やわからない語句などについてあらかじめ調べておくこと。授業終了後は、レポート作成などを行うこと。

●評価方法

すべてのテーマについて総合して評価する。

●受講生へのコメント

初学者を歓迎する。ただし履修希望者が48名を超えるときは抽選とする。また『実験で知る自然環境と人間 (~2012年度)』もしくは『実験で知る自然の世界 (~2015年度)』を修得したものは本科目を履修することはできない。初回授業は基礎教育実験棟308教室へ集合すること。学生教育研究災害傷害保険などの傷害保険への加入が受講に必要である。各実験室に技術職員が常駐しているので、困ったことがあれば指導を仰ぐこと。

●教材

初回に指導書を配布する。白衣などその他必要な道具は貸与する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 10]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|----------|----|------|--------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 地球学入門 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 足立 奈津子 (理) 他 |
| 115 | 英語表記 | Introduction to Geosciences | | | | | | |

●科目の主題

地球の誕生以来、地球環境や生命はどのように変化してきたのだろうか。それらを制御するメカニズムはどのようなものであるのだろうか。本講義では、地球深部から表層、大気で生じる様々な地学現象および生命と地球環境の変遷史について概説する。また、わたしたちに身近な問題である、「自然災害」や「地球温暖化」との関わりについてもとりあげる。

●授業の到達目標

- ・地球の内部構造、構成、起源の理解
- ・プレートテクトニクスに関する基本事項の理解
- ・地球の変動によって生じる、地形や自然災害との関わり方の理解
- ・生命の誕生とその変遷過程に関する基本事項の理解
- ・地球に生命が存在する上で重要な気候システムの維持機構の理解
- ・人間活動と気候変動（温暖化）との関わりに関する理解

●授業内容・授業計画

- 1) 惑星地球の概要
- 2) 初期の地球環境
- 3) 地球の内部構造と構成物質
- 4) 日本列島の形成とプレートテクトニクス
- 5) 山脈と平野の形成
- 6) 地震災害・火山災害

7) 地質年代の区分と化石

8) 生命の起源

9-10) 生物放散と絶滅事変

11-12) 地球の気候システムとその長期的な変動

13-14) 地球温暖化－人為的二酸化炭素排出の影響と社会問題としての気候変動－

15) 講義全体のまとめ

担当、1-2, 7-10: 足立奈津子, 3-6: 金 幸隆, 11-14: 中村英人, 15: 全教員

●事前・事後学習の内容

事前に各回の内容について、書籍等で予習しておくことが望ましい。授業後には、各回の内容をまとめ、十分復習しておくこと。また、講義内で紹介された書籍を読み理解を深めることを勧める。

●評価方法

期末試験 (60%)、演習・小テスト・レポートによる平常点 (40%) で評価する。

●受講生へのコメント

高等学校で地学を履修しなかった学生を念頭に講義をおこなう。講義内容の順序、項目は授業の進捗状況によって変更することがある。「地球の科学」の単位取得者は本科目を受講することはできない。

●教材

毎回の講義でプリントを配布する。参考書籍を講義中に紹介する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 11]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 科学と社会 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 木野 茂 (非常勤) |
| 116 | 英語表記 | Science and Society | | | | | | |

●科目の主題

この授業では、公害・環境問題・原子力・薬害・職業病・専門家の役割など、身近な問題をテーマにして科学と社会のかかわりを考える。

●授業の到達目標

これからの社会では、さまざまな問題に対してどうすればよいかを自分で考えることのできる力をつけることと、その解決のために他人と理解し合い、協力し合う力が必要である。この授業では、科目の主題を通して、自分ならどうするかを考える力をつけてほしい。

●授業内容・授業計画

この授業では、講義を聞いて知識を得るだけで終わらず、クラスメイトや先生とのコミュニケーションを通して知識を自分のものとし、互いに学び合う双方向のスタイルを進める。ディベート大会や対話型授業だけでなく、ペアワークやグループ討議などを講義の中で常時併用しながら進める。

1. 授業への誘い－水俣病と福島原発事故から
2. 公害の原点：水俣病とは
3. 水俣病は終わっていない
4. 水俣病と三池炭じん爆発（故原田正純氏のビデオ講義あり）
5. 公害と労災職業病
6. 原発問題でチーム・ディベート大会
7. ディベートの振り返り＋高速増殖炉（アイリーン・M・スミスさんのビデオ講義あり）
8. 原発で働く労働者＋エネルギー問題
9. 環境問題と差別（受講生による討論劇予定、役者募集）
10. 薬害を防いだ労働者（ゲスト：北野静雄氏・元大鵬薬品労組）
11. 薬害エイズは今…（ゲスト：花井十伍氏・薬害HIV被害者）
12. 環境問題と行政（ゲスト：二木洋子さん・元高槻市議員）
13. 環境問題と専門家の役割
14. レポート事前発表会（発表者4人、エントリー制）
15. 授業の振り返りとレポート提出

●事前・事後学習の内容

この授業ではテキストを用意しているので、授業の前に該当の章を読み、事前学習（簡単な要約）してことを受講の前提にしている。それにより講義の理解度が高まることは毎年の受講生が等しく認めるとこ

ろであるが、もう一つの目的は講義をコンパクトにして質疑やさまざまなワークの時間を取ることにより、協同学習を通じて主体的な学びを促進することである。

授業後の事後学習はリフレクションで、毎回、授業後に感想や意見を自由にメールで出してもらい、それに私のコメントを付けたコミスペ（Communication Space）と名付けた頁を授業レジュメに掲載している。また、ゲストの講義の後には返礼として短歌とその心を作ってもらっている。

●評価方法

レポート評価4、平常評価（出席だけでなく日常の学習に対する評価）4、授業への積極度2で総合評価する。レポートの課題は授業で扱った範囲内なら自由であるが、内容は自力で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。

●受講生へのコメント

この授業は、環境問題に関心を持っている人はもちろん、聞くだけの授業に不満な人、先生やクラスメイトと話してみたい人、新しいスタイルの授業を経験してみたい人にお勧めである。

この授業は双方向型授業をモットーとしているので、受動的ではなく主体的能動的な参加を心掛けてほしい。授業中に上演する劇の役者や事前レポート発表会へのエントリーは大いに歓迎する。また、授業後に感想や意見をメールで出せば、翌週のプリントでコメントを付けて返すので、活用してほしい。さらに、授業後にはクラスメイトや私との交歓会（コミュニケーションの場）も設けている。

この授業のテーマでは当事者の方々の話を聞くことも大事なので、ボランティアでゲストに来ていただいたり、ビデオ講義を聞く機会も設ける。なお、二木さんと北野さんは市大の卒業生である。

関連科目：「ドキュメンタリー・環境と生命」

問い合わせはe-mailで：shigeru.kino@gmail.com

なお、第1回の出席者でディベートのチーム分けを行うので、出席できない場合は上記までメールで連絡すること。

●教材

教科書：木野茂編『新版 環境と人間－公害に学ぶ』（東京教学社）。

教室では、毎回、授業用プリントも配布する。

参考文献やビデオは学術情報総合センターに多数揃えてもらっているので、自由に利用してほしい。

[科目ナンバー : GE NAT 01 12]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 現代科学と人間 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 宮田 真人 (理) 他 |
| 117 | 英語表記 | Today's Natural Sciences and Human Beings | | | | | | |

●科目の主題

自然科学の最先端知識に基づき、現代の人間生活に及ぼす科学的成果の功罪を理解する。

●授業の到達目標

主題を理解し、有意義な考察が行えること。

●授業内容・授業計画

1. パンデミック (感染症世界流行) への警鐘：1970年代、人類は抗生物質やワクチンなどによってすべての感染症を制圧したかに見えたが、それは幻想にすぎなかった。今日、出血熱、インフルエンザ、AIDS、耐性菌、プリオンなど、感染症が話題にあがらない日がめずらしいと言って過言ではない。現代社会は発達した医療技術を有している反面で、グローバリゼーション、高齢化、テロリズムといった、パンデミックを誘発しうる要因も多い。既存の映画を例に用いて、現代社会における感染症を考察する。(宮田 真人)
2. ヒトゲノム解読がもたらすもの：ゲノムとは、1つの細胞内にあるDNAのすべてを指し、その細胞からなる生物を作り上げるのに必要な遺伝子を含んでいる。ヒトゲノムを読み解くことによって多くの新たな知識がもたらされたが、その情報の活用については様々な議論がある。そのいくつかの実例について考える。1) ヒトとチンパンジーのあいだ：「ヒトらしさ」はゲノムから分かるか。2) 病気のかかりやすさと遺伝子検査：自分の遺伝情報をどのように扱うか。3) 子どもを設計する親：ゲノム編集はどこまで認められるか。(増井 良治)
3. 現代の科学技術の基礎には物理学がある。そして、現代物理学は、20世紀前半に構築された量

子力学と相対性理論の上に成り立っている。現代物理学、特に量子力学の考え方を紹介し、その応用である低温物理学について述べる。

(坪田 誠)

4. 現代科学が発達する以前の人々が物質 (薬) というものをどう考えようとしていたかについて、歴史・民族性・地域性の対比を通じて学ぶ。現代の薬が体の中に入ってから出ていくまでの基礎を学ぶ。薬という物質を通して、生体のしくみをより深く理解する。(品田 哲郎)

●事前・事後学習の内容

1. 日頃からパンデミックについてよく考えること。講義で用いた映画の全編に興味があれば各自で鑑賞すること。
2. ヒトとチンパンジーの違いは何か、自分と親・他人の違いはどのようにして生じるのか等について、授業までに考えてみる。コミュニケーションペーパーに書く質問・疑問について、授業の後に自分自身でも調べて考え、次回の授業に臨む。3回の授業の内容をふまえて、最後の課題レポートに取り組み、自分なりの意見を述べること。
3. 授業中に指示された文献等を学習すること。
4. Q & Aを配布する。各自予習すること。

●評価方法

質問カード (毎時間提出) と2つのレポートにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

積極的な発言を期待する。

●教材

参考図書の指示、印刷物の配布など。

[科目ナンバー : GE NAT 01 13]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 心と脳 (神経・生理心理学) | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 川邊 光一 (文) |
| 118 | 英語表記 | Mind and Brain | | | | | | |

●科目の主題

脳科学は今世紀における自然科学の最も重要な研究テーマの一つとされている。脳は外界からの感覚情報を処理し、行動や運動の制御を行う生体の司令塔とし

での役割を果たしている器官であるといえるが、脳の構造はあまりに複雑であるため、その機能的役割については未だ不明な点が多い。しかしながら、生理学、解剖学、心理学、分子生物学、薬理学、医学、工学な

どさまざまな領域からアプローチが試みられ、数々の研究手法や方法論が開発された結果、20世紀後半に脳研究は飛躍的な発展を遂げた。現在でも数多くの精力的な研究がなされており、高次精神機能と脳の関係についても解明が進みつつある。

この講義ではいくつかの精神機能をトピックとしてとりあげ、それらと脳の関係についてこれまで得られている生理心理学的・神経心理学的知見について概説する。

●授業の到達目標

脳や神経系に関する基本的知識を習得し、脳と精神機能・行動の関係についての理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

講義は概ね以下の内容で進められる。ただし、授業進度の関係上、講義の順番が変更されたり、一部を省略したりすることもあるということ付記しておく。

- 1) 生理心理学・神経心理学とは
- 2) 生理心理学・神経心理学における研究手法
- 3) 脳の構造と機能
- 4) 神経系を構成する細胞とその機能
- 5) ニューロン・シナプスにおける情報伝達機構
- 6) 脳と睡眠・覚醒
- 7) 脳と生物時計
- 8) 脳と摂食
- 9) 脳と情動
- 10) 脳と学習・記憶
- 11) 脳と思考
- 12) 脳と精神疾患

●事前・事後学習の内容

参考書やノート、配布資料などを通じて事前・事後学習を行うことが望ましい。

●評価方法

期末試験の成績を基本とするが、平常点も考慮に入れる。試験は、授業内容についての深い理解が求められるので、講義には必ず出席すること。

●受講生へのコメント

授業を通して、脳と精神・行動の関係についての正しい知識を得てもらいたい。

また、本講義で扱う内容は、「心」の問題を取り扱う「心理学」の領域に関わるものである。心理学の研究手法への理解を深めてもらうため、授業時間内に行われる質問紙調査や、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

なお、本科目は、「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「神経・生理心理学」に対応している。

●教材

毎回、その日の講義に関する図表等をプリントとして配布する。

参考書：

- ブルーム, F.E. 他 (中村克樹・久保田競 監訳) 『新・脳の探検 (上・下)』 講談社ブルーバックス
- カールソン, N.R. (泰羅雅登・中村克樹 監訳) 『神経科学テキスト-脳と行動 (第4版)』 丸善
- ピネル, J.P.J. (佐藤敬他 訳) 『バイオサイコロジ：脳-心と行動の神経科学』 西村書店
- ベアー, M.F. 他 (加藤宏司他 監訳) 『神経科学-脳の探求-』 西村書店

[科目ナンバー : GE NAT 01 14]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|---------------------------------------|-----|---|----------|----|------|------------|
| 掲載番号 119 | 科目名 | ドキュメンタリー・ 環境と生命 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 木野 茂 (非常勤) |
| | 英語表記 | Documentary : Environment and Life | | | | | | |

●科目の主題

主題は「環境と生命」で、環境に関する問題も生命に関する問題とともに現代社会で大きな関心を集めているテーマである。この授業では、その中から、原発、公害、支援、生命、差別、難民などを取り上げる。

前半の授業では上記6つに関連したTVドキュメンタリーを題材にして考え、後半の授業ではこれらをテーマにしたグループ研究の発表をもとにみんなで考える。

この授業は受け身ではなく、学生が主体となって作る授業であり、クラス全体のコミュニケーションを大切にしたい。

●授業の到達目標

授業の前半では、関連するドキュメンタリーを教室で一緒に見た上で、自分の感想や考えたことを他人にうまく伝えるとともに、みんなと感想や意見を交換することで視野を広げ、理解力や考察力だけでなく、発信力や傾聴力など、コミュニケーション能力を高めることを目指す。

授業の後半では、グループで調べ、考えたことを発表し、クラス全体でQ&Aやディスカッションをすることにより、プレゼン能力とみんなで考える力をつけることを目指す。

この授業全体を通して、主体的・能動的な学習態度を身に付けるとともに、論理的思考力、課題発見力、

創造力などを高めてほしい。

●授業内容・授業計画

前半の授業では最初に30分程度のテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。取り上げる作品は最近数年間に放映されたものの中から考える素材を多く含む優秀作品を厳選している。

教室での鑑賞後は、各自、自分の感想や考えを400字程度にまとめ、SNSを通じて交換する。そのためのコミュニケーション・ツールとしてfacebookを利用する。facebookの使い方については初回の授業で実習を兼ねて指導するので、心配はいらない。facebookに投稿された感想意見の振り返りは次回の授業で行う。

また、後半の授業につながるため、ドキュメンタリーの鑑賞と前回の振り返り後に、上記6つのテーマに関連したグループ研究を続ける。

研究グループの編成は初回に各自の関心を尊重しながら人数を調整して決める。具体的な研究テーマはもちろんグループで相談して決めるが、教員からの助言や相談も随時行うので心配はいらない。

後半の授業は文字通り、グループ研究の発表会で、各グループの研究成果をメンバーが協同でプレゼンし、クラスメイトとQ&Aを行う。このときの司会進行も受講生に行ってもらい、みんなで作る授業を実践する。もちろん、最後に教員からの総評とコメントを行う。この後半の授業でも、facebookを活用し、発表を聞いた人たちの感想意見と発表をした人たちの振り返りを交換する。

●事前・事後学習の内容

この授業ではグループ研究を行うので、そのための調査研究やレジュメ作成、プレゼン準備が事前学習にあたる。グループは初回で編成するので、2回目の授

業からは事前の準備が必要である。

事後学習は、前半の授業ではドキュメンタリーの要約作成とfacebookへの投稿がそれにあたる。後半のグループ発表では、発表の振り返りや感想意見のfacebookへの投稿となる。

●評価方法

ドキュメンタリーの番組要約2、facebookへのドキュメンタリー感想意見2、グループ研究と発表2、facebookへのグループ研究発表に対する感想意見2、課題レポート2の割合で総合評価する。

レポートの課題は、授業期間中に放送されるテレビ・ドキュメンタリーの中から一つを選び、その番組要約と感想意見をまとめることである。

●受講生へのコメント

ドキュメンタリーの好きな人、環境と生命の問題に関心を持つ人、聞くだけではなく自分たちも参加できる授業を求めている人を歓迎する。とくにディスカッションやグループワーク・プレゼンテーションをやりたい人にはお勧めである。

なお、初回の授業で、facebookの使い方の実習を含めて説明するので、スマホか携帯かPCを持参してほしい。また、初回にグループ研究のグループ編成を行うので、必ず出席してほしい。やむを得ず欠席する場合は下記のアドレスにメールで事前連絡すること。

ともかくこの授業では、何事にも縛られずに自由に学ぶことの楽しさを味わってほしい。

関連科目：「科学と社会」

問い合わせはe-mailで：shigeru.kino@gmail.com

●教材

毎回、プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 15]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 森林環境と人間社会 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 大久保 敦 (大教) |
| 120 | 英語表記 | Forest environment and human society | | | | | | |

●科目の主題

この授業では科学的な視点も含めた多角的視点で森林環境を観ることを通して、森林環境と人間社会の関わりを考察します。また特に、これまで取り上げられることのなかった、地球46億年の歴史の中で森林の生い立ちや森林存在の意義を考えます。

●授業の到達目標

半期の授業のみでは森林環境問題の全てを網羅することは不可能です。従って、この授業では森林環境問題を考える「きっかけ作り」を目指します。

具体的には森林環境について

①興味・関心が持てるようになること

②多角的視点で観る態度を身につけること

③主体的に情報を得る態度を身につけること

④保全の意識を高めること

⑤将来に渡って学び続ける基礎を築くこと

●授業内容・授業計画

①森と林の違い (森林の基本概念)

②身の回りの森林環境1 (野外観察実習)

③身の回りの森林環境2 (野外観察実習まとめ)

④森林の恩恵1

⑤森林の恩恵2 (ディベート)

⑥森林の恩恵3 (ディベートのまとめ)

⑦森林の生い立ち1 植物分類の基礎 (室内観察実

習)

- ⑧森林の生い立ち 2 植物の上陸と森林の出現
- ⑨日本の森林
- ⑩世界の森林
- ⑪人間社会と森林 1 日本の森林問題①
- ⑫人間社会と森林 2 日本の森林問題②
- ⑬人間社会と森林 3 地球規模の森林問題（東南アジアの熱帯林）
- ⑭人間社会と森林 4 地球規模の森林問題（アマゾンの熱帯林）
- ⑮まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回目の授業において、この授業全体で参考となる文献やWEBサイトを紹介するので、各回の授業のテーマに関する事項について、授業開始前までに必ず内容を確認し授業に臨むこと。また、第6回目・7回目授業の事後学習の一環として中間レポートが課される。さらに第15回目授業では最終まとめの課題に取り

組むための事前の準備が必要である。

●評価方法

- 1. 毎授業の課題：70点
 - ① 1回～14回授業課題40点
 - ②最終回授業課題30点
- 2. 中間レポート：30点
 - 1、2を総合的に評価（記述内容を重視）

●受講生へのコメント

積極的に授業に参加しようとする人を期待していません（受身の授業を期待している人には不向き）。授業の内容は毎回完結していますが、それぞれ関連しているので授業目標を達成するために、全ての授業に参加することが理想です。高校時代に生物や地学を履修していない人を対象に授業内容を設定します。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

[科目ナンバー : GE NAT 01 16]

| | | | | | |
|-------------|------|--|----------|------------|----------------------|
| 掲載番号 121 | 科目名 | 21世紀の植物科学と食糧・環境問題 | 単位数 2 | 授業形態 講義 | 担当教員 植松 千代美 (理) 他 |
| | 英語表記 | Plant Biology for Addressing Societal Challenges of the 21st Century | | | |

●科目の主題

この世紀、人類はかつてない深刻な問題に直面することが予測されている。その一つは、増え続ける人口を支えるための食糧供給の問題（食糧問題）であり、もう一つは、人類の活動による環境破壊がもたらす諸問題（環境問題）である。植物の光合成によって固定される光エネルギーは、私たち人間を含めた全ての動物の生命活動を支えている。本講義では、食糧・環境問題を植物科学の視点から考える。

●授業の到達目標

植物の機能や生態系について理解し、食糧・環境問題の諸相を知り、これらの問題の解決策を探るために自分で考え、行動できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 1. 食糧・環境問題の現状 (担当: 植松千代美、1回)
- 2. 生態学から見た環境問題 (担当: 伊東明、2回)

環境問題には様々な側面がある。ここでは、「生態学」の視点から環境問題を考えて見たい。生き物と環境との関わりを研究してきた生態学には、生物（人間）にとって環境とは何か、環境が変わると生物にどんな影響が出るか、など、環境問題を考えるときの参考になりそうな概念がたくさんある。講義では、「共有地の悲劇」と「生物多様性」の2つのテーマを取り上げ、生態学的な概念を使った考え方について解説し、環境問題を理解する助けとしたい。

- 3. 絶滅危惧植物と食料・環境問題 (担当: 厚井聡、2回)

現在、日本の野生植物の1/4が絶滅の危機に瀕しているとして「絶滅危惧植物」に指定されている。絶滅危惧植物の現状とその保全を紹介し、食料・環境問題との関係を考えてい。また、保全に対する附属植物園の取り組みについて紹介する。

- 4. 食糧・環境問題に対する植物遺伝学からのアプローチ (担当: 植松、2回)

不可分の関係にある食糧問題と環境問題の現状を認識することが問題解決の第一歩となる。植物科学、特に遺伝学の立場からその解決を目指す取り組みとその問題点について以下の点から解説する。(1) 食糧問題への育種学の貢献、(2) 遺伝子組換え植物とその功罪。

- 5. 植物園から考える環境問題 (担当: 伊東・植松、4回)

植物園で実施されている環境問題研究プロジェクト「都市と森の共生をめざして」の成果をふまえて森の植物園の役割を考える。(1) なぜ今、都市と森の共生か (植松)、(2) 森林の二酸化炭素固定 (非常勤講師・小南裕志)、(3) 森林に暮らす動物の多様性 (非常勤講師・谷垣岳人)、(4) タンポポの多様性と保全 (伊東)、について解説する。

- 6. 地球温暖化防止のために (担当: 植松、3回)

(1) 地球温暖化－国際会議の現場から－（非常勤講師・早川光俊）、(2) 菜の花プロジェクト（非常勤講師・藤井絢子）、(3) バイオエタノールを中心とする自然エネルギー利用の可能性（植松）、などについて最新の状況を紹介する。

7. 生物の進化および地球環境の変遷と食糧・環境問題（担当：植松、1回）

誕生から現在までの生物の進化、およびそれと密接に関連する地球環境の変遷について、最近の研究成果も踏まえて概説する。これらの知見から現在の食糧・環境問題のもつ意味を探る。

●事前・事後学習の内容

配布プリント等を使って講義内容を復習し、講義で紹介した参考図書、新聞記事、Web記事などを読んで講義のテーマについて理解を深める。また講義では

理学部附属植物園における研究成果や取り組みを多数紹介するので、開講期間中あるいは事前・事後に植物園を訪れ、実際に植物を見ながら講義内容に関する理解を深める事がのぞましい。植物園は学生証提示で無料入園できる（月曜休園、詳細は植物園HP参照）。

●評価方法

授業で課す小テスト・レポートと期末に実施する試験、ならびに出席率によって評価する。

●受講生へのコメント

食糧・環境問題は社会的な問題であり、解決策は一つは限らない。受講生各自がこれらの問題にどう対処するかを考えるきっかけとなることを期待する。

●教材

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 17]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 植物の機能と人間社会 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 曾我 康一（理） |
| 122 | 英語表記 | Plant Function and Human Society | | | | | | |

●科目の主題

植物の持つ機能には、有用で優れたものが多く存在する。植物の機能を利用したり、植物の機能を模倣したりするためには、まず、植物の持つ機能を理解する必要がある。この科目では、はじめに、植物の性質について概説し、次に、私たちの生活に植物の機能がどのように役立っているのかを具体例を示しながら解説する。

●授業の到達目標

植物は忘れられやすい存在である。しかしながら、人間をはじめとするほとんどの生物は植物に依存して生きている。この科目を通して植物に興味・関心が持てるようになることを目指す。また、人間の生存にとって、植物がいかに重要であるかについて考えるきっかけを作ることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 植物と動物
2. 植物の生殖
3. 環境シグナルに対する反応とシグナル伝達
4. 環境シグナルの受容
5. 植物ホルモン（オーキシン、ジベレリン）
6. 植物ホルモン（サイトカイニン、アブシシン酸、エチレン）
7. 組織培養技術とその利用
8. 遺伝子組換え技術

9. 遺伝子組換え植物の利用

10. 植物工場
11. 宇宙農業
12. 植物を利用した有用物質の生産
13. 植物による環境浄化
14. まとめ
15. まとめと試験

●事前・事後学習の内容

今回の講義で使用するプリントを講義終了時に配布するので、事前に内容を確認し、不明な用語などは参考書などを利用して調べておくこと。また、講義内容に関する不明な点は講義時に配布する質問票を用いて質問をするとともに、各自で参考書などを利用して確かめること。

●評価方法

定期試験で評価する。

●受講生へのコメント

高等学校において生物を履修していないことを前提に講義をおこなう。また、講義終了時に質問票を配布・回収し、次回以降の講義時に質問に答える。

●教材

プリントを配布する。

参考書：絵とき 植物生理学入門 改訂3版（オーム社）ISBN：978-4-274-21927-6

[科目ナンバー : GE NAT 01 18 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------|-----|---|------|----|------|--------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 植物と人間 (演習) | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 植松 千代美 (理) 他 |
| 123 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

植物は生態系における生産者として、私たち人間を含む、ほぼ全ての生物の生存に必要な有機物とエネルギーを作り出している。植物は、私たちの食料としてだけではなく、衣料や医薬品の原料として、あるいは鑑賞用としても利用されている。このように、私たちの生活は植物と切っても切れない関係にある。本講義は、理学部附属植物園で収集・保存されている植物を活用して、植物と人間の関係について学び、植物についての理解を深めることを目標とする。

●授業の到達目標

植物園内に植栽されている植物の観察を通じて植物の多様性を体験的に学ぶ。また森林や植物進化の道筋、植物の遺伝資源としての重要性について学び、これらを伝える技術を習得する。

●授業内容・授業計画

(1) 陸上植物の進化 (担当：大久保敦、大教センター)

植物と人間の関係を理解する上で、植物の進化の過程を把握しておくことは重要です。かつて地球上の陸地には植物も動物も存在しない時代があった。植物がどのようにして水中から陸上へ進出し、現在のような多様な姿の森林に至ったのか、その過程を植物園に植栽されている実際の植物、身近な果物や野菜を観察しながらたどる。

(2) 遺伝資源と多様性 (担当：植松千代美)

植物園には様々なバラ科植物が植栽されているが、それらの中からナシ属野生種のコレクションを例に、観察や簡単な実験を通して遺伝的多様性、野生種から栽培種への進化、遺伝資源の重要性などを学ぶ。

(3) 熱帯植物の利用 (担当：植松千代美)

植物園で収集・保存されている熱帯植物には、鑑賞植物として親しまれているもの、食料、香辛料として、また工業用に利用されているものなどが含まれている。それらを観察、学習する。また、各自が興味をもった植物について、図書、インターネット、文献などで調べ、それをポスターにまとめることを実習する。

(4) 染料 (担当：厚井聡)

植物は染料として利用され、人間の生活と密接に関係してきた。園内の植物を実際に観察しながら、植物の染料としての利用について学習する。

●事前・事後学習の内容

教員が用意した配布資料を使って講義内容を復習するとともに、講義で紹介した参考図書、新聞や雑誌の記事、Webの記事などを読んで、各テーマについての理解を深める。

●評価方法

(1)～(4) で課すレポートをそれぞれ100点満点で評価し、各課題の評点を平均して科目の評価とする。また、演習科目であることを考慮して、講義時間中における発言などの積極的参加を評価し、加点する。

●受講生へのコメント

授業は夏季休暇中の研修期間に、大阪府交野市にある理学部附属植物園において、集中・オムニバス方式で行う。野外での実習が含まれるので、帽子など日除け対策を講じること。なお、1テーマ1日で4日間の内容だが、フィールドワークが中心のため、1日予備日を設けている。台風等で休講となった場合は予備日に補講を実施する。

●教材

プリントを適宜配布する。

[科目ナンバー : GE INF 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|----------|----------|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | 情報基礎 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 村上 晴美 (工) 豊田 博俊 (非常勤) 永田 好克 (工) 安倍 広多 (工) |
| 124 | 英語表記 | Introduction to Information Processing | | | | | | |

●科目の主題

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピュータを道具として使いこなすことをコンピュータ・リテラシと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピュータの利用が不可避になりつつある中で、将来も柔軟にコンピュータとかわかっていけるよう、リテラシの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なアプリケーションに慣れ親しむことを交えながら、コンピュータの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピュータを活用できる能力を涵養する。

●授業の到達目標

ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションなど、よく用いられるアプリケーションの基本操作を身につける。インターネット、Webや電子メールなどの基本的な仕組みを理解し、情報利用者・発信者としての能力を身につける。コンピュータの基本的な仕組み、コンピュータがさまざまな情報をどのように扱っているかを理解する。

●授業内容・授業計画

①② コンピュータになじむ

この授業で採用しているシステムに慣れる。また電子メール、Webブラウザ、ワードプロセッサなどの初歩的なツールに慣れる。

③④ Webページの作成手始め

簡単なWebページを作成しながら、ファイルシステム、ソースファイルの編集、HTMLの基礎を理解する。

⑤ 画像と描画ツール

画像ファイルの取り扱いや、画像描画ツールの考え方を理解する。

⑥⑦ 情報の符号化

デジタルとアナログの違い、2進数や16進数の表現、情報符号化の考え方、情報圧縮、文字コードなどを理解する。

電子メールの作成で文書作成の基礎を修得し併せてコミュニケーションの便利さと問題点を覚える。

⑧ コンピュータの仕組み

コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアについての基礎的な知識を習得する。

⑨ インターネット通信の仕組み

インターネット通信によって目的のコンピュータと情報を交換する仕組みを理解する。

⑩⑪ 洗練されたWebページを目指して

Webページの視覚的構造をスタイルシートによって制御する方法を理解する。

⑫ 情報セキュリティ

通信の秘密と信憑性を確保する技術とその意味について理解する。

⑬ 情報システムの利用と社会的問題

情報システムの利用につきまとう社会的問題について、その事象と対処法を理解する。

⑭ 表計算、プレゼンテーションなど

表計算、プレゼンテーション、あるいはその他の基礎的内容や発展的内容を取り扱う。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがある。

●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

コンピュータに関する予備知識や経験がほとんどない学生は、特に前半に授業外でも積極的にコンピュータに慣れる機会を作り、経験者に追いつく努力をすることが望ましい。

●教材

講義メモやWebページなどを活用する。

参考書：

情報処理学会編集ITText一般教育シリーズ「情報とコンピューティング」

情報処理学会編集ITText一般教育シリーズ「情報と社会」

[科目ナンバー : GE INF 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|------|-----|---|------|------|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | 情報基礎 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 大西 克実 (工) 西村 雄一郎 (非常勤) 米澤 剛 (工) 岡田 一郎 (非常勤) |
| 125 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピューターを道具として使いこなすことをコンピューターリテラシーと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピューターの利用が不可避になりつつある中で、将来も柔軟にコンピューターと関わっていけるよう、リテラシーの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なアプリケーションに慣れ親しむことを交えながら、コンピューターの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピューターを活用できる能力を涵養する。

●授業の到達目標

ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションなど、よく用いられるアプリケーションの基本操作を身につける。インターネット、Webや電子メールなどの基本的な仕組みを理解し、情報利用者・発信者としての能力を身につける。コンピューターの基本的な仕組み、コンピューターがさまざまな情報をどのように扱っているかを理解する。

●授業内容・授業計画

- ①コンピューターとその操作の基礎
- ②電子メールとコミュニケーション
- ③④リテラシーと情報セキュリティ

コンピューターリテラシー、ネットワークリテラシー、メディアリテラシーやリテラシーのレベル等を学び、併せて情報セキュリティ、プライバシーや知的財産権／著作権などの考え方を知る。

- ⑤⑥情報発信－ホームページ作成

各自のホームページ作成を通して、インターネット世界での情報収集や情報発信の便利さと問題点を覚える。併せて、プライバシーや著作権の重要性も理解す

る。

- ⑦⑧調べ方－情報検索

インターネットでの検索エンジン等を使いながら、基礎的な情報検索手法を学ぶ。併せて、インターネットでのセキュリティについても理解を深める。

- ⑨⑩考え方－アルゴリズム

コンピューターで考え方を実現する方法はプログラミングであるが、その基本となるアルゴリズムを疑似言語等を使いながら修得する。論理的な考え方を身につけることも目的の一つである。

- ⑪⑫空間情報の利用

地球上の位置と直接・間接に関連づけられた対象物や現象に関する情報である空間情報の取扱い方法の理解を深める。

- ⑬⑭表計算、文書作成など

ここまでで修得した情報検索や学術情報総合センターの図書サービス等を使い、文章の組み立てを考えながら、表作成と文章作成を組み合わせたレポート作成を修得する。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがあり、演習では各自の習熟度に応じた対応を行います。担当教員はそのクラスの採点責任者ですが、講義の内容に応じて教材作成担当者などがその時間の解説・質問などを受け持つ場合もあります。

●事前・事後学習の内容

今回の講義に関する資料などを本授業のWebサイトに掲載する場合がある。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。

●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●教材

Webページを基本的に利用する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------|-----|---|------|------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | プログラミング入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 松浦 敏雄 (非常勤) |
| 126 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

この講義では、プログラミングとは何かを体験し、それを通じて、コンピューターについての理解を深める

ことを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を、教育用擬似言語を用いて体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Javaを用いる予定) を通

して、プログラミングを経験する。

●授業の到達目標

自らアルゴリズムを考案し、プログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) 変数、制御構造、順次処理
- (2) 条件分岐
- (3) 繰り返し
- (4) 図形描画
- (5) 中間試験
- (6) Javaによるプログラム開発方法
- (7) 基本データ構造
- (8) オブジェクト指向
- (9) mainの引数とFile I/O
- (10) クラス定義とクラス継承
- (11) GUI (1)

- (12) GUI (2)
- (13) GUI (3)
- (14) 最終課題

● 事前・事後学習の内容

事前学習：なし
事後学習：毎回宿題を課す

●評価方法

レポートおよび試験により総合的に判断する

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどが自由に使えることを前提とする。「情報基礎」を受講していることが望ましい。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

配布資料およびWebページなどを利用する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|------|----------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | プログラミング入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 石橋 勇人 (工) |
| 127 | 英語表記 | Introduction to Programming | | | | | | |

●科目の主題

この講義は、いわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通してコンピュータについての理解を深めることを目的とする。

●授業の到達目標

特定の言語(Python)を通してプログラミングを体験的に学びつつ、どのプログラミング言語にも共通する概念を身につけ、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

各回、原則として1コマを講義、1コマを演習に充てる。毎回課題を課し、提出を求める。

- (1) イントロダクション (授業の概要, プログラム作成から実行までの流れ, など)
- (2) 制御構造
- (3) リストとディクショナリ
- (4) 文字列処理
- (5) ファイル入出力と関数
- (6) 中間課題
- (7) オブジェクト指向プログラミング
- (8) GUIプログラミング(1)

- (9) GUIプログラミング(2)
- (10) GUIプログラミング(3)
- (11) 正規表現とWebアクセス
- (12) 再帰呼び出し
- (13) 最終課題(1)
- (14) 最終課題(2)
- (15) 試験

※ 内容や順序は必要に応じて変更する場合がある。

●事前・事後学習の内容

事前学習は特に必要としない。授業後は、授業中に解説した課題の内容を復習しておくこと。また、各回の課題が時間内に終了しなかった場合は、指定された期日までに完成させて提出すること。

●評価方法

演習課題(70%程度)および試験(30%程度)によって評価する。

●受講生へのコメント

Webブラウザ, 電子メールなどは自由に使えることを前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Webページ上に掲示する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|------|------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | プログラミング入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 石橋 勇人 (工) 他 |
| 128 | 英語表記 | Introduction to Programming | | | | | | |

●科目の主題

この講義は、いわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通してコンピュータについての理解を深めることを目的とする。

●授業の到達目標

特定の言語 (Python) を通してプログラミングを体験的に学びつつ、どのプログラミング言語にも共通する概念を身につけ、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

各回、原則として1コマを講義、1コマを演習に充てる。毎回課題を課し、提出を求める。

- (1) イントロダクション (授業の概要、プログラム作成から実行までの流れ、など)
- (2) 制御構造
- (3) リストとディクショナリ
- (4) 文字列処理
- (5) ファイル入出力と関数
- (6) 中間課題
- (7) オブジェクト指向プログラミング
- (8) GUIプログラミング (1)
- (9) GUIプログラミング (2)

(10) GUIプログラミング (3)

- (11) 正規表現とWebアクセス
- (12) 再帰呼び出し
- (13) 最終課題 (1)
- (14) 最終課題 (2)
- (15) 試験

※一部を永田好克 (工) が担当する。なお、内容や順序は必要に応じて変更する場合がある。

●事前・事後学習の内容

事前学習は特に必要としない。授業後は、授業中に解説した課題の内容を復習しておくこと。また、各回の課題が時間内に終了しなかった場合は、指定された期日までに完成させて提出すること。

●評価方法

演習課題 (70%程度) および試験 (30%程度) によって評価する。

●受講生へのコメント

Webブラウザ、電子メールなどは自由に使えることを前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Webページ上に掲示する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|------|------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | プログラミング入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 大西 克実 (工) |
| 129 | 英語表記 | Introduction to Programming | | | | | | |

●科目の主題

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。

●授業の到達目標

どのプログラミング言語にも共通する概念を体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Javaを用いる予定) を通して、プログラミングを体験的に学び、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) プログラム言語の構成・ソースファイルの入力・コンパイル、コマンドプロンプト使用法

- (2) Java・形式、コメント・入力の扱い方・変数、演算子、型
- (3) 型の変換・制御構造 (if, while)
- (4) 制御構造 (for, continue, break)・配列・アルゴリズム (1) [数列]
- (5) 参照型の特徴・アルゴリズム (2) [成績処理]
- (6) メソッド・クラス・オブジェクト指向プログラミング
- (7) データ構造・再帰呼出
- (8) 整列問題 (1)
- (9) 整列問題 (2)
- (10) ファイル入出力
- (11) アプレットプログラミング (1) GUI部品

- (12) アプレットプログラミング(2) イベント処理
- (13) ネットワーキング
- (それぞれが、1回の授業に対応するわけではない)

●事前・事後学習の内容

講義中提示する課題を翌週までに提出すること。

●評価方法

出席とレポート

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどは自由に使えること（「情報基礎」程度）を前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Webページなどで提示する。

[科目ナンバー : GE INF 01 21]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|------|------|--------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 情報の探索と利用 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 吉田 大介 (工) 米谷 優子 (非常勤) |
| 130 | 英語表記 | Information Retrieval and its Application | | | | | | |

●科目の主題

大学では自主的に研究や学習を進め、考察を深めることが期待され、その成果として論文・レポートの作成が必須となっている。論文・レポート作成においては、テーマを絞り込み、そのテーマに即した情報をさまざまな情報源から収集し、読解し、整理し、論理的に思考を深め、新たな情報として発信する、情報活用能力が求められる。本講義では、上のような知的生産の基礎を身に付けられるよう、論文・レポート作成のプロセスを段階的に取り上げて、各ステップの要点を習得できるように、講義と演習によって実践的な力を育成する。

●授業の到達目標

論文・レポートの作成プロセスを理解し、大学の各専門分野での研究生活を円滑に、より効果的に進めるための、知的生産に関する基礎力を育成する。

●授業内容・授業計画

- 1 授業の概要・計画（概説）
- 2 論文・レポートの要件と作成のステップ
 - ・論文・レポートの意義と要件
 - ・論文・レポート作成のステップ
- 3 テーマの絞り込み・発想法
- 4-9 情報の収集
 - ・学術情報総合センターの使い方
 - ・OPAC、閲覧・貸出、外部データベース、ILL、レファレンスサービス
 - ・文献情報の探索と文献の入手、図書、雑誌記事、新聞記事
 - ・検索エンジン
 - ・各種データベース

10-11 情報の読解

12-13 論文・レポートの執筆

- ・読んでもらえるレポート・論文

- ・表・グラフの挿入

- ・著作権への配慮・引用のルール

14-15 発表

- ・口頭発表・プレゼンテーションソフトによる発表の方法と要点

※理解度その他によって、授業計画は変更することがある。

●事前・事後学習の内容について

授業内容を深く理解し身につけるために、ほぼ毎回課題を課す。授業外課題として課された場合は、事後学習として真摯に取り組み、期限を守って提出すること。また参考となる文献を適宜紹介するので、事前学習・事後学習として積極的に目を通すことが望ましい。

●評価方法

演習課題の提出レポートを対象に評価する(定期試験は実施しない)

●受講生へのコメント

授業は講義と実際の演習を組み合わせで進行する。

演習課題の提出が必須となるので、期日を守って提出すること。

電子提出の場合は提出の際のマナー等にも気をつけること。

●教材

適宜プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE INF 01 31 .CO]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 地図と地理情報 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 木村 義成 (文) |
| 131 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

地理情報と言えば、何か特殊な分野に聞こえるが、Google MapやYahoo Mapに代表されるように、地理情報は、誰にとっても身近にアクセスでき、日々の生活の中で役立つ情報となっている。近年のIT技術の進展により、地理情報は、GIS（地理情報システム）で管理・分析できるようになり、GPS（全地球測位システム）で高精度の位置情報を取得できるようになった。カーナビゲーションは、それらの一例である。本講義では、地理情報の取得・分析方法を中心に説明を行う。また、地理情報がどのような分野で、どのように活用されているかについて数多く紹介することで、日々の生活の中で、地理情報がどのように役立つかを理解してもらう。

●授業の到達目標

本講義を受講することにより、地理情報がどのような目的でどのように取得され、どのように活用されているかを自身で考えられるようになることが到達目標である。

●授業内容・授業計画

第1～5回

- ・イントロダクション
- ・GIS (Geographic Information System)とは？
- ・GPS (Global Positioning System)とは？
- ・地理情報の取得方法・管理方法・表現方法

第6～8回

- ・地理情報を用いた空間分析法

第9～11回

- ・危機管理分野（防災、犯罪、感染症、救急医療）における地理情報の利用

第12～13回

- ・環境分野、マーケティング戦略における地理情報の利用

第14～15回

- ・総括、および全体質疑応答

●事前・事後学習の内容

本講義では毎回授業の終わりに、次回までに受講生に調べてもらいたい点を説明する。次回の講義で、問題意識を持って講義に望めるように、担当者が説明したことを各自調べること。各講義の後に2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

講義中の課題やレポート等から総合的に評価する。配点の目安は小レポート課題が4割、学期末のレポート課題が6割である。第1回目のガイダンスで詳細を述べるので、必ずガイダンスを受講すること。

●受講生へのコメント

日常生活で利用されている地理情報の活用事例を中心に判り易く説明するので、受講されたい。皆さんの従来の地理という教科に対する考え方が変わると確信している。なお、第1回目のガイダンスは必ず受講すること。

●教材

講義の中で、適宜、参考文献・資料を紹介する。なお、自習書としては以下の文献を推薦する。

岡部篤行著『空間情報科学の挑戦』岩波書店、マーク・モンモニア著『地図は嘘つきである』晶文社、Paul A. Longley, et al.『Geographic Information Systems and Science』John Wiley & Sons

[科目ナンバー : GE INF 01 32]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 情報化の光と影 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 平田 茂樹 (文) 他 |
| 132 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

今日、インターネットを介してウェブやメールで情報をやり取りすることは、生活に不可欠の行為となっている。しかし私たちはその背後に存在するさまざまな問題について自覚する事が必要である。本科目では、現代社会の情報化に関連した問題について、経営学、

経済学、政治学、文学、医学という多視点から眺め、その功罪についてともに考えてみたい。

●授業の到達目標

情報化の功罪について多くの分野にわたって見聞を広め、自分の考えを表現できるようにする。

●授業内容・授業計画

第1回～第3回 太田雅晴、翟林瑜、高田輝子（商）

情報システム及び情報ネットワークの進展は、企業経営だけではなく企業関係も変貌させつつあり、それは私たちの生活、価値観さえも変えようとしている。本講義では、次のような視点で、企業と情報、企業と情報システムの関係論を論じる。

- (1) 情報化とイノベーション、太田雅晴
- (2) 情報と企業行動、翟林瑜
- (3) 情報大規模化の光と影、高田輝子

第4回～第6回 中島義裕（経済）

市場は取引を実現させる場所であるが、同時に価格を発見する所でもある。この講義では、最初に経済学の基礎を実験経済学的手法を利用して説明する。需要曲線と供給曲線によって価格が決定されること、このグラフを利用して税金や独占、生産調整など身近なニュースの背景が理解できることを示す。その上で、情報の非対称性が価格形成にもたらす影響と、その解決策について説明する。評価は、小テストで行う。2回目と3回目の小テストでは、前の週の授業内容について問うので復習してくること。

第7回～第8回 稗田健志（法）

民主主義を前提とする以上、政治は国民の声、すなわち「世論」を無視することはできない。しかし、「世論」なるものは真空の中で無媒介に形成されるものではなく、そこでは政治と国民とをつなぐさまざまなメディアがその形成に役割を果たしている。それでは、メディアが世論におよぼす影響はどの程度であり、どのようなメカニズムを通して影響するのであろうか。また、インターネットを含む多角化したメディア状況は政治のかたちをどのように変えつつあるのだろうか。本講義は、このような観点からメディアと政治の関係について講義する。評価は小テストで行う。

第9回～第11回 平田茂樹（文）

歴史世界の中では、情報は少数から多数へ次第に受容層が広がりを見せると共に、権力を掌握したものがそれを管理、統制をしたり、改竄、修正、抹消したりする動きが起こってくる。本講義ではこうした両面の歴史を捉えることによって、現代社会の情報化の意義について考えて行く。評価はレポートで行う。

第12回 朴 勤植（医）

医療分野においても急速に情報化が進んでいる。情報化の「光」として医療情報システムの発展と「陰」としての個人情報保護との関わりについて解説する。評価はレポートで行う。

第13回 福井 充（医）

最近では、マスメディアなどで、健康食品や健康法などが取り上げられることも多く、中には根拠の乏しいものも見られる。氾濫する情報を正しく評価するための統計学的考え方について講義する。事前学習課題については、講義1ヶ月前までに<http://statissv02.med.osaka-cu.ac.jp/kougi/jyouhouka.htm>に記載するので各自確認のこと。評価はレポートで行う。

第14回 全体総括

●事前・事後学習の内容

担当教員より授業中に指示する。授業内容・授業計画欄も参照すること。

●評価方法

レポート、出席、小テストなど（各講義担当者による）。各担当者が担当1回当たり7・7点で評価したものを合計する。レポートを提出しなかったり、小テストを受けないと、その部分は0点となる。

●受講生へのコメント

出席は必須である。

●教材

必要に応じて掲示するか、授業中に配布する。

[科目ナンバー : GE INF 01 41 .CO]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 133 | 科目名 | ジオ・リテラシー入門 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 木村 義成（文） |
| | 英語表記 | Introductory Geo-Literacy | | | | | | |

●科目の主題

本科目では、地域調査の基本となる地図を読む能力、地図を作る能力、地図を解釈する能力、地域を統計データや現地で収集したデータから分析する能力をジオ・リテラシーとして捉えて、地理情報システム（GIS）やGPSを利用した地域調査の手法を取得する。特に本科目では座学のみならず、実習を重視する。

●授業の到達目標

自分の興味のある分野に対して、自分で地理情報を収集し、加工し、簡単な地図化や空間分析ができるよ

うになることが本科目の到達目標である。

●授業内容・授業計画

第1～5回

- ・イントロダクション
- ・GIS (Geographic Information System)、GPS (Global Positioning System)とは？
- ・地理情報の取得方法・管理方法・表現方法

第6～10回

- ・地理情報を用いた空間分析法

第11～13回

・危機管理・環境・福祉医療・エリアマーケティング分野など各分野に応じた地理情報の活用法
第14～15回

・総括、および全体質疑応答、最終課題の提示

●事前・事後学習の内容

本集中講義では一日の終わりに、明日の講義・実習までに受講生に調べてもらいたい点を説明する。次回の講義・実習で、問題意識を持って講義に望めるように、担当者が説明したことを各自調べる。各講義の後に2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

評価は参加点と実習後の課題提出点で実施する。な

お、集中講義のため、1コマでも欠席した場合は、単位の認定が行われないため注意すること。集中講義期間中に全ての講義・実習に参加できる受講生のみを対象とする。

●受講生へのコメント

本科目は、Web履修登録のみでは、履修が認められない。別途、面接・レポート等の選抜を実施する。選抜内容は、ポータルサイトおよびサポートセンター掲示板・全学 共通教育棟掲示板にて周知する。

●教材

教材・参考資料については、教員が当日指定する。

初年次セミナー First Year Seminar

1回生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
「初年次セミナー」は、皆さんが大学で学ぶにあたってまず身につけておくのが望ましい、学び・考えるためのマナーについて、とともに思索する時間として用意されているものです。少人数のクラス編成でActive Learningを行う時間であり、皆さんがそれぞれの生きる道程を拓いてゆくための底力を養成する、その介添えをすることができればとの大学の念願を、かたちにしたものでもあります。

【初年次セミナーの到達目標】

平成30年度は7クラスの初年次セミナーが開講されます。具体的な授業内容はそれぞれ異なっていますが、次のような到達目標を共通して掲げています。

- ・異なる学部の学生との議論等を通じて興味関心の幅を広げ、自分の考え方や態度を相対化できること
- ・これからの人生において大学生活が持つ意義を広い視野から考えられるようになること
- ・異なる考え方や知識をもつ人々と対話・コミュニケーションができること
- ・情報検索、レポート執筆等のアカデミック・スキルを活用・増強させること

【初年次セミナーの特徴】

上記の到達目標を実現するため、初年次セミナーは次のような授業のあり方を共通して持っています。

- ・どのような問題に取り組むかについて、学生自身が考えて決定すること
- ・設定した課題・問題について、学生自身が調査等を行うこと
- ・調べた課題について議論や発表を行うこと
- ・レポートや報告を作成すること

このように初年次セミナーは、学生自身の主体的な学習姿勢が強く求められる授業です。そのことを理解して、積極的に授業に取り組んでください。

大学は、学ぶこと・感じること・思索することを通して、私たち1人ひとりの中に潜んでいる可能性をそれぞれに発見するための場であり、その可能性を人類の幸福のために発揮する、その方策をとともに探ろうとするところです。初年次セミナーを通じてこのことを、実感してもらえればと思います。

なお、2つ以上の初年次セミナーに履修登録することは出来ませんので注意してください。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 初年次セミナー | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 大久保 敦 (大教) |
| 134 | 英語表記 | First Year Seminary | | | | | | |

●科目の主題

身近な自然（キャンパス内の植物）を対象としたフィールドワークを通して、大学での学び方を学びます。

●授業の到達目標

- ①大学で学ぶための基本的な方法（レポートの執筆等を含む）を身につけること。
- ②映像と音声を用いて効果的に自分の考えを第三者に伝える方法（ビデオ番組作成）の基礎を身につけること。
- ③グループでの作業を通して仲間と協力して円滑にチームワークを行えるようになること。

●授業内容・授業計画

- ①オリエンテーション
- ②身近（キャンパス近辺）な自然に親しむ（野外観察実習）
- ③調査地域の分担、調査方法の基礎
- ④事前プレゼンテーション
- ⑤事前プレゼンテーションの検証

⑥効果的なプレゼンテーションの方法1（④、⑤の事前プレゼンテーションをもとに）

⑦効果的なプレゼンテーションの方法2

⑧効果的なプレゼンテーションの方法3

⑨調査および撮影リハーサル

⑩調査および撮影リハーサル

⑪調査および撮影本番

⑫調査および撮影本番

⑬調査および撮影本番

⑭最終プレゼンテーション

⑮まとめ（最終レポート作成）

●事前・事後学習の内容

プレゼンテーションや撮影（リハーサルおよび本番）の準備は基本的に毎回の授業開始までに済ませておくこと（事前学習）が前提となっている。

●評価方法

平常点(授業参加度(20%)、小レポート・中間発表(30%)及び最終レポート・発表(50%))を総合的に評価します。

初年次教育

()の数字はおおよその評価の割合を示します。

1、2を総合的に評価（記述内容を重視）

●受講生へのコメント

受講生は15名までとします。フィールドワークや植物、また映像や音声などのマルチメディアでのプレゼンテーションに興味があり、積極的に授業に参加しよ

うとする人を期待しています（受身の授業を期待している人には不向きです）。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 初年次セミナー | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 西垣 順子（大教） |
| 135 | 英語表記 | First Year Seminar | | | | | | |

●科目の主題

【文献を使って自分の研究をやってみよう！】

受講生各自が興味関心を持っているテーマを使って各自が問題（リサーチクエスト）を設定し、その問題を解くための研究を行います。研究方法としては、「文献レビュー」を採用します。設定した問題に関係のある問題を検討した書籍を2冊以上探し出して読み、それらを批判的に検討して「自分の研究成果」をまとめていきます。

●授業の到達目標

- ①自らの興味関心を、学問的に探究しうる「問い」に変換し、資料を収集分析、批判的に検討するなどして、その問いへの自分なりの答えを探究できること
- ②自ら立てた問いの意義と回答について、他の受講生と共有し、議論ができること
- ③他の受講生の立てた問いを共有し、議論に建設的に参加できること

●授業内容・授業計画

①リサーチクエストを設定する（4月）、②文献を2冊以上読みまとめる（5月-6月上旬）、③文献の内容とそれに対する批判的検討を総合した「自分の研究成果」をレポートにする（6月後半）、④レポートを改良しつつ最終プレゼンテーションとして発表する（7月）の4つのステージで授業を進行する。

第1週 ガイダンス

第2週 リサーチクエストを立てる・グループわけ

第3週 図書館ガイダンス

第4-5週 1冊目の本を紹介するプレゼン

第6-7週 2冊目の本を紹介するプレゼン

第8週 予備日

第9-10週 レポートの作り方

第11週 レポートの提出と返却

第12週 仲間のレポートをブラッシュアップ

第13-14週 最終プレゼン収録

第15週 総合的討論

●事前・事後学習の内容

各自が設定したりサーチクエストに関連して、書籍を探す、読む、批判的に検討してレポートとして執筆する、プレゼンテーションの準備をするといった作業は、すべて授業時間の外で行います。授業中は受講生相互の議論や情報交換の場になります。

●評価方法

最終レポートとプレゼンテーションが50点、議論等への参加状況50点の100点満点で評価します。

●受講生へのコメント

受講生数は15名程度以下に制限します。初回の授業に必ず出席すること。教員が教えることよりも、受講生の皆さんが行動したり考えたりすることが多い授業です。それがなければ授業が成り立ちませんので、積極的に参加してください。

次の2つは、単位認定に値するレポートを作るための現実的な必要条件になりますので、そのつもりで履修登録をしてください。

①遅刻や欠席をせずに授業に参加すること

②自習時間を授業に出席する時間（1週間あたり90分）より多く確保する。

●教材

授業中に、適宜参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 初年次セミナー | | | | | | |
| 136 | 英語表記 | First Year Seminar | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 飯吉 弘子 (大教) |

●科目の主題

本授業では、「大学での基本的な学びの姿勢」すなわち「自ら学び考えること」の基本を身につけることを目指している。具体的には、レポート作成の一連の流れやプロセスに沿って、高校までの学びのあり方とは異なる「大学での学び方」の基本を理解し身につけることを目指す。具体的には、レポート作成の一連のプロセスを通して、「自ら」調べ・「自ら」考え、考えたことを他者に伝えるように表現することを経験する中で、とくに「自分で考える」ことの重要性に気付いてもらいたいと考えている。また、「自分とは異なる考えを持つ他者とともに学び合う経験」も重視して授業を進める。

●科目の到達目標

この授業の具体的な到達目標は、第1に「自ら課題を探し考える力や姿勢の基本を身につける」、第2に「資料・文献の調べ方やレポート作成の基本を学ぶ」、第3に「プレゼンテーションと意見交換の基本を学ぶ」の3点である。最終的な目標はそれらを通して、「大学生として自ら学び考え、それを他者と共有すること」の基本を学んでほしい！

●授業内容・授業計画

具体的には、以下のプロセスを個人のペースにあわせて進めるが、授業進行の目安は以下の通りである。

- 1～2回：ガイダンスとテーマ選定
- 3～5回：文献検索、資料収集、テーマ・仮説の決定
- 6～8回：資料読解、アウトライン決定、レポート執筆と第1次草稿提出
- 9～12回：資料読解、アウトライン調整、レポート執筆と第2次草稿提出・発表準備
- 13～15回：発表と相互評価、最終レポート提出

毎回、各自の進行状況報告を行い、クラス全体で問題の共有化と意見交換を行う。

各プロセスの進め方の説明、学術情報総合センター(図書館)の活用法のガイダンス、レポート執筆の個別指導も行うが、大前提となるのは、授業時間内外における受講生個々人の自発的かつ積極的な取り組み・学びである。

●事前・事後学習の内容

毎回の授業時に提示する、次回授業までの課外課題や作業について、各自で調べたり考えたりしながら、記入し完成させてくること。その課外課題や作業を用いて、次回の授業を行う。また、授業内発表や、レポートの第1次草稿、第2次草稿および完成稿についても、授業時間外の作業が必要となる。それぞれの発表や原稿の提出期限までに、授業内指示に基づいて、各自で準備したり書き進めたりすること。

●評価方法

授業活動への参加度合、作業プロセスへの真摯な取り組み、レポート・発表等を総合評価する。最終レポートや発表の評価はもとより、作業プロセスの記録と授業内提出物や資料、レポート作成の途中成果物(第1次草稿・第2次草稿ほか)等を全てファイルング保存して、最終レポートと共に提出してもらい、それらの全体の評価を行う。

成績評価の割合は、授業活動への積極的参加度合20%、提出課題20%、最終発表の相互評価20%、最終レポート30%、途中資料・プロセス10%とする。

●受講者へのコメント

1. 毎回の授業で報告や意見交換を行い、1人1人が「考える」プロセスに教員もじっくりつきあいながら個別指導を行うため、受講生は15名程度までとする。
2. 自分で考え・探っていくという作業は、途中プロセスは苦しい反面、それが最終的に形になっていくと楽しい作業でもある。途中で投げ出さず最後までがんばって取り組んで楽しさを実感してほしい。
3. 全学共通のセミナーなので、様々な学部・分野の仲間とのコミュニケーションを存分に図り、多様な考え方や視点・アプローチがあることを実感してほしい。
4. また、グループワークでは、単なる意見交換ではなく、創造的・生成的な話し合いの基本姿勢についても学んでほしい。

●教材

必要に応じて、授業中に資料等を紹介する。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 初年次セミナー | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 渡邊 席子 (大教) |
| 137 | 英語表記 | First Year Seminar | | | | | | |

●科目の主題

本セミナーは、高校性から大学生へ、やがては社会人になるために必要な基礎力を、それぞれの受講生が自分に合った形で学びとることを目指す1回生向けの少人数演習科目である。

なお、本セミナーはactive learning形式(学生による討論、発表、グループワーク等を伴う形式)を採用している。受講生には、積極的にセミナーに参画することを通じて、大人の知的思考方法・知的表現方法・礼節ある討論への参画姿勢を(ときに失敗もしながら)自ら学びとっていただきたい。

●授業の到達目標

本セミナーの到達目標は、「誰かに答えを教えてもらうのではなく、大学および社会で自ら学び行動するために必要な思考力の基礎を確立できること」である。

●授業内容・授業計画

本セミナーでは、個人またはグループで、発表、討論、レポート作成(企画書形式のレポート、テーマ、手順、日程、企画のオリジナリティと意義の明確化)に取り組む。課題への取り組みを通じて、何が問題の本質であるのかを見極めながら(調べる、思考する)、受講生同士で創造的な討論を行い(聴く・話す)、800～2000字程度の企画書形式のレポートをまとめ(書く)、書いた内容が本当に企画として成立するのかを自己評価・相互評価し(読む・行動する)、自分の知的スキルの強みを把握し、弱みのカバーを目指す。

第1回：ガイダンス+導入課題

第2～3回：基礎演習1(ショートプレゼンテーション実践を通じて、今の自分にできることを知り、もっと伸ばしたいことを把握、整理する)

第4～8回：基礎演習2(企画書形式のレポート作成：試行錯誤と間違いを通じて成長することの重要性を体感する)

第9～14回：基礎演習3(企画書形式のレポート作成2回目：より本格的な企画立案を通じて、解くべき課題を発見し、解決し、成果に結びつけるための現実的具体策を提案するとともに、実行してその現実可能性を確認する)

第15回：まとめと総合自己評価

●事前・事後学習の内容

セミナーの進捗状況に応じて、主に次の課外学習課題を出す。

【1】自分で到達すべき目標をたて、実践し、その

結果どうなったかを振り返る報告書(複数回)

【2】企画に先立つ実地調査

【3】企画を立てるために用いる信頼のおける情報の収集と記録

また、受講者の学習到達度合いに応じて、副次的な宿題を出す場合がある。

●評価方法

- (1) 平常点(参画への意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、授業目標達成にかかる具体的な問題解決とその結果に対する適切な自己評価、時間・期限を順守できていたか等)：80点満点
- (2) 各種課題に関する学生同士の相互評価：20点満点

→合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・受講人数の上限を12名とする。
- ・①全15回のうち、13回以上の演習への誠実な参画と、それに見合った学修成果を上げていること、②節目ごとに行う個人目標設定とその達成度評価の提出、③企画書および企画解説(完成版)の提出、の3点をすべて満たすことが単位認定の最低ラインである。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・誰かに答えを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、「自ら学び、身に付け、掴みとる」意思を持つとともに、極度に失敗を恐れることなく試行錯誤してみる積極的を有する学生、ないしは、現時点の自分の力量に不足を感じ、もっと学ぶ力を伸ばしたい/積極性を持ちたいとの強い意志のある学生の受講を希望する。(つまり、最初から「よいお手本」を見せてもらって真似たい=「試行錯誤のプロセスをすっ飛ばし、楽をして”正答”を得たい」人には向かない。直面している課題に対して何をどうしたらいいのか、自分自身で1から考え発見し実践しときに失敗し、その失敗経験から学びたいストイックな人向けである。)

●教材

- ・教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。なお、教材となりうる素材を受講者自身が集めて持ち寄る場合もある。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 初年次セミナー | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 天野 景太 (文) |
| 138 | 英語表記 | First Year Seminar | | | | | | |

●科目の主題

「まちおこしや地域づくりの現場を『あるく・みる・きく』をテーマとした、現場学習（フィールドリサーチ）を伴ったプロジェクト遂行型のセミナーである。ゆるキャラやB級グルメのブランド化に象徴されるように、全国各地で地域の魅力を引き出すべくユニークな取り組みが行われている。そこで参加者各自で実際に行って調べてみたい場所を選び、調査プランを発表する。その中からセミナーして1つないし2つの場所を選び、実際に現地に出向いてカメラ等を携え街並みや地域の社会活動のリアルな姿を観察したり、現地の関係者に聞き取りをしたりといったフィールドワーク（6月の土・日に合宿形式で実施予定、昨年度は6月24～25日に三重県尾鷲市において実施した）を行い、その結果を調査日誌（フィールドノート）及び現場学習レポートにまとめ、発表する。

●授業の到達目標

授業におけるディスカッション、現場学習を通じた問題発見、レポートやプレゼンテーションの技法と作法といった基礎的なスタディスキルの獲得はもちろんのこと、プロジェクトを通じた企画・運営力、コミュニケーション力の鍛錬を通じて、実社会のリアリティを捉え、解釈するセンスを磨くこと、そして何より、自ら思考し、試行錯誤し、行動する実践を通じながら、今後のキャンパスライフや就職活動等において主体的に活躍するために必要な素養を体得することが目的である。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス、自己紹介、報告順序の決定
- 第2回 スタディスキル、プレゼンテーションの技法に関する講義
- 第3回～第6回 調査候補地に関するプレゼンテーション（フィールド選定コンペ）
- 第7回～第10回 合宿プランの企画（問題関心・仮説の設定、現場で何をしようとするのか）
- 第11回～第14回 ふりかえり（フィールドノートの報告、相互評価）
- 第15回 まとめ（現場学習レポートに基づく最終報告）

●事前・事後学習の内容

グループワークとしては、前半は調査候補地、調査対象地に関する机上調査、プレゼンテーション資料の作成、調査合宿の準備、インタビュー対象者へのアポ取りなど、後半は現地調査で得られたデータの整理、分析作業、レポート（フィールドノート）の執筆、報告書の編集、協力者への礼状の作成、送付などが求められる。

●評価方法

授業に積極的に参加し、議論や現場学習に貢献するとともに、セミナーを通じていかに自己成長がみられたかが全てである。内訳はクラスにおけるプレゼンテーションやディスカッション（33%）、フィールドノート（33%）、現場学習レポート（33%）です。当然合宿は参加必須。なお一度でも授業を無断欠席したり、やむを得ない事情で欠席するにしても出席率が70%未満の場合、原則としてF評価となる。

●受講生へのコメント

本セミナーは、合宿場所の選定、フィールドワークの企画と実施、成果の考察に至る全課程を参加学生の主体性に基づいて運営する。この意味で、参加者全員がセミナーに積極的に関与し、盛り上げていくことへの意欲と実行力がなければ、セミナー自体が成立しなくなる。逆に意欲が強ければ強いほど実りあるものとなる。参加者は、「生きた」社会体験を通じて今後の糧となるなにかを得られるはずである。情熱を持った学生の参加を期待したい。なお合宿参加のため、一定の時間と費用の負担が生じることを了解の上、履修のこと。また、合宿の参加には教育講演会への加入か学生教育研究災害傷害保険（年間1000円程度）への加入を要する。履修人数は20名を上限とする。

●教材

安福恵美子他(2006)『「観光まちづくり再考」古今書院 ほか。参考資料は授業中に資料を配付する。なお、フィールドノートに関しては、日本大学後藤研究室「東京人観察学会」(<http://n510.com/>)、現場学習レポートに関しては担当教員の授業で過去に制作された調査報告書（研究室にて閲覧可）が参考になる。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 初年次セミナー | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 高橋 太 (理) |
| 139 | 英語表記 | First Year Seminar | | | | | | |

●科目の主題

「『学び』のためのインターネット」

大学での『学び』を効率的に行っていくためには、旧来の書籍・論文等の紙ベース資料のほかに、インターネットを用いた資料検索・収集・利用技術が必要不可欠である。レポートや論文作成・研究情報の収集といった場面でもインターネットがもたらす膨大な情報は大いに参考になるであろう。しかし、最新の検索技術を有する検索エンジンによる資料収集は、ともすれば学習者を情報の海の中に投げ込み、コピーペーストで見栄えの良いレポートを作成することで満足させてしまいがちである。現代は、個々の学習者が、より注意深く情報の真偽を確かめ、主体的に情報を取捨選択していく必要に迫られている時代だといえる。

このセミナーでは、実際にインターネットを利用して情報検索・収集を行い、「インターネットで学ぶ」技術を学習するとともに、インターネットによる『学び』の様々な問題点を参加する諸君とともに議論し、「どのようにインターネットを創造的な『学び』に活用できるか」を考えて行きたい。

●授業の到達目標

インターネットの世界にある種々の情報を検索・入手するだけでなく、「学び」の目標に合わせてよりの確かな情報源を取捨選択できるようになることがこの授業の最大の到達目標である。また、得られた情報に対して自分の意見や見解を付け加えて、批判的な取り扱いができるようになることも目標の一つである。

●授業内容・授業計画

次の諸点を授業内容とする。各課題において具体的な内容を選定する際には、受講生自らが各自の興味に従って決定する。各課題のあとには全員がすべての参加者の前でプレゼンテーションを行い、発表内容について討論を行う。

- 1) 大学・研究機関・企業等のホームページを訪問し、どのような内容の情報発信がなされているかを調べる。

- 2) 様々な情報検索エンジンを実際を使ってみて、その利点・問題点をまとめる。
- 3) 電子図書館など、インターネット上にある様々な学習・研究資源を調べ、実際に使用してみる。
- 4) インターネット上の百科事典であるWikipediaの未編集項目の一つを選び、文献調査・編集作業を行い、新たな項目としてインターネット上に公開する。

セミナーでは、実際にインターネットに接続した環境でディスカッションやプレゼンテーションを行うので、学術情報センター9階「情報教育実習室4」を使用する。

●事前・事後学習の内容

毎回の課題ごとに受講生を3～4名程度のグループに分け、グループ毎に調査、課題レポートの作成、プレゼンテーションの準備を行う。プレゼンテーションのための調査・準備は授業時間内だけでは終わらず、十分な打ち合わせ時間も取れないので、打ち合わせ等は課外時間を利用して各グループでおこなうことになる。そのために授業の合間を見つけてグループリーダーが主導してミーティングを行うことを勧める。

●評価方法

課題ごとに平常点（課題への取り組み・授業参加度）（30%）、発表・討論への参加度（50%）、課題レポート（20%）を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

受講生は12名程度とする。インターネットの先は、もちろん【外】の世界なので、学生らしい節度ある行動がとれる人だけが受講して欲しい。担当者自身、コンピュータには全く詳しくなく、受講生諸君と共に学んでいけることを楽しみにしている。

●教材

教科書は使用しない。参考文献などは、授業中に適宜挙げる。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 初年次セミナー | | | | | | |
| 140 | 英語表記 | First Year Seminar | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 今津 篤志 (工) |

●科目の主題

【デジタルものづくりに挑戦しよう！】

3Dプリンタやフィジカルコンピューティングを活用したデジタルものづくり（デジタルファブリケーション）の演習を通して、大学での学び方を習得します。

●授業の到達目標

- ①大学で学ぶための、課題設定、調査、実現、評価の獲得、に至る自律的なプロセスの基本を身につけること
- ②グループでの作業を通して、協調と、自分の意見の主張とのバランスを身につけること
- ③家族や友人ではなく全くの他人に評価してもらう、という観点に立って、自分のすべきことを考えられるようになること
- ④デジタルものづくりのツールを活用し、頭に描いた物を実現できるようになること

●授業内容・授業計画

コンピュータの中で設計した物を現実の世界に出力する3Dプリンタや、現実世界とコンピュータをセンサやモータでつなぐフィジカルコンピューティングの演習を行います。それらを実際に用いて、製作する物を立案し、完成させ、プレゼンテーションを行います。最終レポート以外はグループワークとして行います。

第1週 オリエンテーション

第2 - 4週 使用する各ツールの演習

第5週 プレゼンテーション1（テーマ立案）

第6 - 11週 製作

第12週 プレゼンテーション2（中間報告会）

第13 - 14週 改良

第15週 プレゼンテーション3（最終報告会）

●事前・事後学習の内容

各週によって異なりますが、次の週にやることのための準備が必要です。例えば、テーマ立案の前には自分の考えをまとめておいたり、プレゼンテーションの前には資料をまとめてたり予行演習を行う必要があります。また実際にものを完成させるには時間がかかりますので、授業時間にはできない作業を授業時間以外に行う必要はでてくるでしょう。

●評価方法

プレゼンテーション、個人レポート、完成物によって評価を行います。

●受講生へのコメント

受講生を15名程度以下に制限します。またノートPCの持参を必須とします。

グループワークであること、ものを使った演習であることから、欠席や遅刻、途中での脱落は原則認められません。

●教材

演習で用いる機材（ノートPCを除く）、材料は貸与します。

必要に応じて参考図書等を紹介します。

3. 基礎教育科目

[科目ナンバー : GE MAT 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------|-----|---|------|----|------|---|
| 掲載番号 | 科目名 | 線形代数 I | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 古澤 昌秋 (理) 鎌田 聖一 (理) 金信 泰造 (理) 尾角 正人 (理) 河内 明夫 (理 特任) 綾野 孝則 (数学研究所員) 橋本 要 (数学研究所員) |
| 141 | 英語表記 | Linear Algebra I | | | | | | |

●科目の主題

行列と連立一次方程式、行列式

●授業の到達目標

行列の演算に関する基本事項を学び、それを連立一次方程式の解法に応用できる。正則行列について理解している。行列式の計算方法に習熟し、逆行列の計算や連立一次方程式の解法に応用できる。

●授業内容・授業計画

- 第1、2週 行列の演算に関する基本事項
- 第3、4週 行列の基本変形
- 第5、6週 連立一次方程式の解法
- 第7、8週 正則行列の性質
- 第9、10週 行列式の定義とその基本的性質
- 第11、12週 行列式の展開公式
- 第13、14週 行列式を用いた逆行列の表示、クラメル
の公式
- 第15週 期末試験

●事前・事後学習の内容

学習内容を理解し、身に着けるためには演習問題を解くことが重要である。そのため、各授業の後に2時

間程度の復習を行うことが望ましい。

●評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

●受講生へのコメント

クラスごとに授業内容あるいは、その重点の置き方が多少変わることがある。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、II との接続の関係で、S I 数のクラスの線形代数 I の授業を必ず受講すること。

●教材

三宅敏恒『線形代数学-初歩からジョルダン標準形へ』(培風館)

津島行男『線形代数・ベクトル解析』(学術図書)

ハワード・アントン『アントンのやさしい線型代数』(訳: 山下純一, 現代数学社)

三宅敏恒『入門線形代数』(培風館)

担当者によって、使用する教科書が変わるので、購入の際には注意すること

[科目ナンバー : GE MAT 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | 線形代数 II | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 尾角 正人 (理) 小松 孝 (理 特任) 大仁田 義裕 (理) 綾野 孝則 (数学研究所員) 橋本 要 (数学研究所員) 栢田 幹也 (理) |
| 142 | 英語表記 | Linear Algebra II | | | | | | |

●科目の主題

ベクトル空間、線形写像、内積空間

●授業の到達目標

線形代数 I を発展させ、ベクトル空間の基底、次元といった基礎概念を学び、それらを基に、線形写像の固有値、固有ベクトル、固有空間、表現行列、対角化可能性の判定、及び内積空間、といった今後の理学・工学の学習における基礎知識となる線形代数の重要な基本事項を習得する。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ベクトル空間、第2回 1次独立と1次従属、第3回 ベクトルの1次独立な最大個数、第4回 ベクトル空間の基と次元、第5回 1~4回の復習としての問題演習、第6回 線形写像、第7回 線形写像の表現行列、第8回 固有値と固有ベクトル、第9回 行列の対角化、第10回 6~9回の

復習としての問題演習、第11回 内積、第12回 正規直交基と直交行列、第13回 対称行列の直交化、第14回 2次形式、第15回 総復習としての問題演習

●事前・事後学習の内容

線形代数 I に比較して、授業内容は抽象性が著しく増す。しかし、それらは線形代数 I における、行列や行列式に対する具体的な操作に結局は帰着される。他人が数学をしているのを眺めているだけでは、決して数学が分かるようにはならない。能動的、積極的に授業内容に関する演習問題を解くことが求められる。1回の授業に対して、最低3時間程度の自主的学習は必要であろう。学習に困難を感じた場合は、オフィス・アワー、数学相談室等の受講生に対する支援を活用されたい。

●評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考慮する。

●受講生へのコメント

クラスごとに授業内容、進度、あるいは、重点の置き方が多少異なる場合がある。線形代数Ⅰの知識を前提とする。数学科の学生は、専門科目の代数学Ⅰ、Ⅱ

との接続の関係で、SⅠ数のクラスの線形代数Ⅱの授業を必ず受講すること。

●教材

原則として、線形代数Ⅰと同一の教科書を用いるが、担当者によっては変更される場合もあるので、購入するときには注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 03]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|------------|-----|---|----------|----|------|----------------|
| 掲載番号 143 | 科目名 | 解析Ⅰ | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 兼田 正治 (理) |
| | 英語表記 | Analysis I | | | | | | 齋藤 洋介 (数学研究所員) |
| | | | | | | | | 高橋 太 (理) |
| | | | | | | | | 河内 明夫 (理 特任) |
| | | | | | | | | 秋吉 宏尚 (理) |
| | | | | | | | | 河村 建吾 (理 特任) |
| | | | | | | | | 鎌田 聖一 (理) |

●科目の主題

本科目は理工系学生にとって必須である解析学への入門部分である。その理解度が後に続く多くの理系科目の習得に大きく影響すると考えられる。

●授業の到達目標

ニュートンやライプニッツによって基礎が造られて以来、自然科学を記述する言葉として発展してきた微分積分学は、現代科学技術においてもその土台となっている。それは力学と共に近代解析学へと進展し、理論的發展が現在も続いている。

この科目では、解析学の序章ともいべき極限概念や1変数関数の微積分法について、その知識や応用能力の習得を目指す。

その項目は高校での微分積分と重複する部分が多いが、総合性や理論水準からみて、その内容は高校でのものとは大きく異なるであろう。

●授業内容・授業計画

次の項目について解説し演習も行う。初めの6回分で、関数や写像の概念、初等関数の性質、平均値の定理、テイラーの定理、初等超越関数のべき級数展開、関数の極限値計算、7回目にまとめと復習、次の4回分で、リーマン積分、微積分法の基本定理、有理関数の不定積分、三角関数や無理関数の不定積分、次の2回で広義積分、残りの2回分で、面積や曲線の長さの計算への応用、まとめと復習。

●事前・事後学習の内容

各項目について事前に教科書を読むこと。事後学習は、授業で学習した内容を再度教科書とノートを読み返して理解を深める。授業中に指定された演習問題を解く。

●評価方法

基本的には学期末試験の成績と授業中で行われる演習によって評価する。それだけでは評価が困難な場合には、レポートや授業出席回数を評価の参考に加えることもある。

●受講生へのコメント

高等学校の数学Ⅲ、数学Cの知識を前提とする。解析Ⅰと解析Ⅱの内容は、以前通年で授業が行われていたものであり、これらは解析Ⅲ、Ⅳの前提にもなっているため、合わせて履修することが望ましい。

数学科の学生は、専門科目の解析学Ⅰ、Ⅱとの接続の関係で、SⅠ数のクラスの解析Ⅰの授業を必ず受講すること。

●教材

釜江哲朗／小松孝共著『解析学(上)』(学術図書)
三宅敏恒『入門微積分』(培風館)
ラング『解析入門』(岩波)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 04]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|-------------|-----|---|----------|----|------|----------------|
| 掲載番号 144 | 科目名 | 解析Ⅱ | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 吉田 雅通 (理) |
| | 英語表記 | Analysis II | | | | | | 濱野 佐知子 (理) |
| | | | | | | | | 齋藤 洋介 (数学研究所員) |
| | | | | | | | | 金信 泰造 (理) |
| | | | | | | | | 安本 真士 (理 特任) |
| | | | | | | | | (未定) (理) |
| | | | | | | | | 塚田 大史 (数学研究所員) |

●科目の主題

線形代数学と関連づけて、多変数関数の微積分、ベクトル解析の基礎を学習する。

●授業の到達目標

様々な物理量はベクトル場、すなわち時空の位置によって変化するベクトルで表される。物理現象を記述

する言葉として誕生した微分積分学は、もともとベクトル場という多変数の写像を対象としていた。多変数関数の微分とは、変数の微小変位に対する関数値の増分の線形近似のことであり、多変数関数の微積分に関する定理の多くは、線形代数学における定理と深く関係している。微積分の考え方は1変数の場合で尽くされているとはいえ、自然科学への応用のためには、ベクトル場の微積分が必要となる。この科目終了時には、ベクトル場の微積分を用いて物理現象を記述した式の意味が理解できるようになる。

●授業内容・授業計画

15回の授業内容・計画は以下の通り。1) 多変数の連続写像、2) 多変数関数の微分、3) 合成関数の微分に関する連鎖律、4) ヤコビ行列、5) 微分演算子とラプラシアン、6) テイラーの定理と極値問題、7) 陰関数・逆関数定理、8) ラグランジュ乗数法、9) 可測性と可積分性、10) 累次積分、11) 多重積分の変数変換公式、12) 広義積分とガンマ関数、13) 線積分と面積分、14) ガウス・グリーン・ストークスの定理、15) ポテンシャルと微分形式。いくつかの項目については直観的説明に留め、詳細については学生の

自習に委ねることもある。

●事前・事後学習の内容

豊富な内容をもつこの科目を修得するためには、沢山の問題を解いて理解を深めるが一番の方法である。予習・復習合わせて3時間位を充てる必要がある。

●評価方法

学期末試験の成績と演習による評価が基本であるが、授業担当者によっては、中間テスト、小テスト、レポート、授業出席回数などを評価の参考にすることもある。

●受講生へのコメント

解析Ⅰと線形代数学の基本的な内容を予備知識とする。数学科の学生は、専門科目の解析学Ⅰ、Ⅱとの接続の関係で、SⅠ数のクラスの解析Ⅱの授業を必ず受講すること。

●教材

釜江哲朗／小松孝共著『解析学(上)』(学術図書)、三宅敏恒『入門微分積分』(培風館)、ラング『続 解析入門』(岩波)。担当者によって使用教科書が異なることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 02 01]

| 掲載番号 | 科目名 | 解析Ⅲ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 高橋 太 (理) 濱野 佐知子 (理) 佐官 謙一 (理 特任) |
|------|------|------------|-----|---|------|----|------|--|
| 145 | 英語表記 | Analysis Ⅲ | | | | | | |

●科目の主題

常微分方程式

●授業の到達目標

未知関数の微分や偏微分を含む関係式を微分方程式という。その方程式を解いて未知関数を求めるという微分方程式論は、理工学の多くの分野において、現象解析のために不可欠な手段を提供している。

微分方程式の理論の出発点は常微分方程式論である。その中でも基本となるものは、線形方程式に関するものであるが、計算機の普及に伴って、非線形方程式の定性理論が重視されるようになった。

本科目では、線形方程式を中心とする常微分方程式の解法について議論を展開すると共に、非線形方程式の解の多様な挙動について解説し、理工系学生が、微分方程式に関して基本的知識を持ち、その初等解法を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

2階斉次線形微分方程式(3回)、基本解と定数変化法(2回)、定数係数線形微分方程式と演算子(2回)、

行列の指数関数(2回)、Laplace変換による解法(2回)、常微分方程式の基本定理(2回)、Hamilton系と勾配系(1回)、不動点の安定性(1回)、解の極限軌道(1回)－以上が授業予定の項目である。授業の進捗によっては、非線形微分方程式に関する詳しい解説は省略することもある。

●事前・事後学習の内容

関連する教材を事前に見て内容をおおまかに確認してから授業を受けるようにする。また、学習内容を理解し身に着けるため授業後に復習を行うことが望ましい。特に演習問題を解くことが有効である。

●評価方法

レポート課題、定期試験など。

●受講生へのコメント

予備知識としては、微積分学(解析Ⅰ、Ⅱ)及び線形代数学の基本的内容を想定している。

●教材

上記の授業内容を含む記述がされている本を教科書または参考書として用いる方針である。

[科目ナンバー : GE MAT 02 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------|-----|---|------|----|------|--------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 解析Ⅳ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 佐官 謙一 (理 特任) 加藤 信 (理) |
| 146 | 英語表記 | Analysis IV | | | | | | |

●科目の主題

複素数が登場したのは高次方程式の解法研究の過程においてである。変数の範囲を複素数にまで拡張した関数の微積分を論じるようになったのは、数学における必然的発展である。19世紀にCauchy, Riemannらによって基礎が造られた複素関数論は近代数学における中心課題となった。複素関数は、2変数の実関数の組合せで表現できるが、複素関数論で取り扱うのはこのような広い意味の複素関数ではなく、正則関数と呼ばれる、複素変数に関して微分可能な関数である。それは複素変数のべき級数に展開可能な関数であり、そのような関数は物理的にも重要な意味を持っている。純粹数学的な発足の経緯にもかかわらず複素関数論は理工学において、理論面からも応用面からも大変有用であることが明らかとなった。線形常微分方程式の解の挙動の複雑さの理由も、複素数の指数関数を考えることにより理解出来るであろう。

●授業の到達目標

この科目では、理工系の学生が、専門基礎として複素関数論の基本的内容を習得し、今や解析学の古典となった複素関数論の基礎を理解し、留数計算などに応用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1～4回：複素平面と複素数の指数関数，正則関

数，等角性と1次関数，整級数，

第5～10回：Cauchyの積分定理、Cauchyの積分公式とTaylor展開、最大値原理とLiouvilleの定理

第11～15回：Laurent展開，留数の定積分計算，などが予定の授業項目で，適時，演習問題等も課す。

●事前・事後学習の内容

2変数関数に関する微分積分学まではよく学習しておくこと。リーマン面，解析接続，調和関数等は複素関数論で重要であるが，授業時間数の制約のため割愛するので事後学習の内容として勧めたい。

●評価方法

学期末試験の成績による評価を基本とするが，授業担当者によっては，先行試験，レポート，授業出席回数，等を加えて総合的に評価することもある。

●受講生へのコメント

予備知識としては，微分積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）の基本的内容を想定している。

●教材

教科書等については，今吉洋一『複素関数概説』（サイエンス社），釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）など担当者によって，使用する教科書が変わることがあるので，購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 02 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | 応用数学 A | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 吉田 雅通 (理) 小松 孝 (理 特任) 伊達山 正人 (理) |
| 147 | 英語表記 | Applied Mathematics A | | | | | | |

●科目の主題

本科目のテーマは確率・統計である。

性質を知りたいものの集まりがあるが，その全てのもを調べるのが不可能なとき，その集まりから一部を標本として取り出し，標本から全体の性質を推測する理論と方法が統計学の目的である。一部のものから全体について客観的な判断をするための，統計学の基本的な应用能力を持つことは，理工系の学生にとって必須であろう。

統計学は確率の考え方に基礎を置いているので，確率の理解なくして統計的手法の有効な利用は不可能である。標本そのものも確率変数という確率論の基本概

念として捉えられる。このような数学的定式化のために確率論の基本事項を学ぶおくことも必要となる。本科目の前半では，標本平均や標本分散等の，後半に現れる統計量の確率分布を理解するのに不可欠であろう。

●授業の到達目標

本科目では，確率論の基礎，特に確率変数の独立性，大数の法則と中心極限定理の意味を理解し，その上に成立する統計学の基本的内容として標本平均や標本分散等を推定する等，理工系学生に必要な統計的推測能力を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1、2週 確率の定義、確率変数と期待値
- 第3、4週 典型的な確率分布
- 第5、6週 多次元の確率分布、確率変数の独立性
- 第7、8週 大数の法則と中心極限定理
- 第9、10週 正規母集団と統計量
- 第11、12週 推定
- 第13、14週 仮設検定、回帰分析
- 第15週 期末試験

理論的な内容についての解説は、統計学の応用に最低限必要な程度にとどめる。

●事前・事後学習の内容

テキスト等で授業内容の個所を事前に読み、理解すべきポイントを確認しておくこと。事前学習なしに、

[科目ナンバー : GE MAT 02 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|--------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 応用数学 B | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 釜江 哲朗 (理 特任) 阿部 健 (理) |
| 148 | 英語表記 | Applied Mathematics B | | | | | | |

●科目の主題

本科目のテーマはFourier解析と偏微分方程式である。

●授業の到達目標

関数をFourier級数やFourier積分に展開することの意義は、その関数によって表現される物理量を、三角関数が表す基本的な量に分解することによって、もとの物理量の性質を調べることを可能にすることにある。

Fourier解析は偏微分方程式論と強い関わりがある。古典的応用数学は、偏微分方程式の境界値問題と、それを処理するに必要な特殊関数の研究を中心としていた。本科目では、物理学や工学においてしばしば登場する基礎方程式である、熱伝導方程式、波動方程式、Laplace方程式の、初期値・境界値問題について解説する。

初期値問題の解はFourier変換によって見出すことができる。変数分離法は解の具体的表現を求める有力な方法であり、固有関数展開が行われる。その際、Fourier級数や特殊関数による展開が用いられる。

授業のスピードに合わせて理解することは難しい。授業後にも、演習問題等を解くことなどを通して理解を深めておく必要がある。事前・事後に各1時間程度の学習は必要である。

●評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数等によって、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

予備知識としては、微分積分学(解析Ⅰ、Ⅱ)および線形代数学の基本的事柄を前提としている。

●教材

上記授業内容に近い形式でまとめられている本を、各担当者が選んで使用する。

●授業内容・授業計画

Fourier級数(3回)、Fourier正弦、余弦展開(1回)、Fourier変換(2回)、Delta関数(1回)、物理学における基礎方程式(1回)、矩形領域での初期値・境界値問題(3回)、Helmholtz方程式とBessel関数・Legendre関数(1回)、円筒領域での初期値・境界値問題(1回)、Greenの積分公式とLaplace方程式(2回) - 以上が授業予定の項目である。

●事前・事後学習の内容

関連する教材を事前に見て内容をおおまかに確認してから授業を受けるようにする。また、学習内容を理解し身に着けるため授業後に復習を行うことが望ましい。特に演習問題を解くことが有効である。

●評価方法

レポート課題、定期試験など。

●受講生へのコメント

予備知識としては、解析Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び線形代数学の基本的事柄を想定している。

●教材

上記の授業内容を含む記述がされている本を参考書として用いる方針である。

[科目ナンバー : GE MAT 02 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 応用数学 C | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 伊達山 正人 (理) |
| 149 | 英語表記 | Applied Mathematics C | | | | | | |

●科目の主題

採取されたデータに基づいて数値計算的な処理を行なう上で生じる諸問題を、解決あるいは近似的に解明するアルゴリズムの数学的側面：主に、近似解の構成法、および、それに伴う誤差の事前評価

●授業の到達目標

取り組む問題は多岐にわたり、かつ問題それぞれの目的には個性があるため、授業の進行具合などにより、各問題への比重は変わりうる。しかしながら、科目の主題としてあげたように、あたえられた問題をいかに解決するか？という問いへの数理的着想（特に、数学的事実に基づいたアルゴリズムの構成と、それに伴う誤差評価）を理解し具体的に実行できることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

第1、2週は数値計算の基礎的な事柄と導入的な問題に対する数理的解決法を数例あげる。その後は、大別して2つの方向：一連の線形計算の方向と解析・確率統計の手法による方向が考えられる。但し、これらは必ずしも独立とは限らず、両者を混ぜた問題解決法も多い。授業進度に依るが、ひとまずのプランを以下に挙げてみる。第3週～第5週は補間法（主にラグランジュ補間）、第6週～第9週は数値積分と数値計算の極値問題、第10週～第13週は連立1次方程式の直接

解法と反復解法、第14週～第15週は固有値の数値計算。

●事前・事後学習の内容

数値計算はとりわけ、習うより慣れよという側面が強い。各項目で紹介された手法を、具体的な問題に対して、自分の手を動かして解くこと（時に電卓などを採用しつつ）が肝要である。講義15回の中盤あたりでレポート問題を幾つか課す予定である。それらをもとにして、具体的に、かつ自分の手を動かして取り組むことが、数値計算上の諸問題の個性および打開策をつかむ早道です。

●評価方法

定期試験、レポートの評価を主とする。それだけでは評価が困難な場合には、追加レポート課題に対する評価や授業出席の度合いを評価の参考に加えることもある。

●受講生へのコメント

応用数学Cには、それまでに準備されてきた数学的な諸事実によって、数値計算という一見すると素朴な問題のもつ深みと困難さを具体的に示す側面もあります。繰り返しますが、まず自分の手を動かしてみてください。また、基本はあくまで数学的側面です。

●教材

特に指定しないが、授業が始まる前に、教科書の指定を行なうことがある。

[科目ナンバー : GE MAT 01 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|---|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎数学 A | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 山中 仁 (数学研究所員) 宮地 兵衛 (理) 佐官 謙一 (理 特任) 塚田 大史 (数学研究所員) 佐野 昂迪 (理) |
| 150 | 英語表記 | Fundamental Mathematics A | | | | | | |

●科目の主題

1変数及び多変数の関数の微分法を中心として、数学的手法の基礎理論を展開する。

●授業の到達目標

1変数及び多変数の関数の微分法を最適化問題への応用を念頭に習得し、さらにそれらを発展させて、条件付き最適化問題の代表的な解法であるラグランジュの未定乗数法を習得する。これらの事項の理論的に厳密な展開ではなく、実用的な側面に重点を置いて、「使える数学」を目標に授業を展開する。

●授業内容・授業計画

第1回～第4回：1変数関数の微分法（微分とは何

か、多項式の微分、関数の増減と極値、微分の公式：線形性・積の微分・商の微分、合成関数の微分、指数関数・対数関数の導入及びそれらの微分）第5回：1～4回の復習としての問題演習、第6回～第9回：多変数（主に2変数）関数の微分法（偏微分とは何か、接平面、極値をとる候補点、第2次偏導関数、2変数関数の2次近似）、第10回：6～9回の復習としての問題演習、第11回～第14回：多変数（主に2変数）関数の極値問題（無制約極値問題、制約条件付き極値問題、ラグランジュの未定乗数法）、第15回：総復習としての問題演習

●事前・事後学習の内容

高等学校における数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学Bを履修していることを前提に講義を行う。他人が数学をしているのを眺めているだけでは、決して数学を使えるようにはならない。能動的、積極的に授業内容に関する演習問題を解くことが求められる。1回の授業に対して、最低3時間程度の自主的学習は必要であろう。学習に困難を感じた場合は、オフィス・アワー、数学相談室等の受講生に対する支援を活用されたい。

●評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考慮する。

●受講生へのコメント

クラスごとに授業内容、進度、あるいは、重点の置き方が多少異なる場合がある。

●教材

浦田健二（他）『経済学を学ぶためのはじめての微分法』（同文館出版）

木村哲三（他）『経済学を学ぶための微分法の基礎』（同文館出版）

田代嘉宏『数学概論 線形代数/微分積分』（裳華房）
Pemberton/Rau “Mathematics for Economists”
(University of Toronto Press)

担当者によって使用する教科書が異なることがあるので、購入するときには注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 06]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|---------------------------|-----|---|----------|----|------|--|
| 掲載番号 151 | 科目名 | 基礎数学B | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 山中 仁 (数学研究所員) (未定) (理) 古澤 昌秋 (理) 釜江 哲朗 (理 特任) 河内 明夫 (理 特任) |
| | 英語表記 | Fundamental Mathematics B | | | | | | |

●科目の主題

線形数学を素材とした数学的手法の基礎理論を展開する。

●授業の到達目標

行列、行列式、ベクトル空間に関する基礎的概念と計算力を習得する。

●授業内容・授業計画

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。(2回)
2. 行の基本操作とその応用……行基本操作、掃き出し法による連立一次方程式の解法、逆行列の決定。(4回)
3. 行列式……行列式の定義、余因子展開、逆行列と連立一次方程式の一般解の公式(Cramerの公式)(5回)
4. ベクトル……ベクトルの成分(平面、空間)、座標幾何への応用、空間ベクトルの外積。(2回)
5. 固有値とその応用……固有値と行列の対角化、対称行列の対角化。(2回)

●事前・事後学習の内容

高等学校の数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学Bを履修していることを前提に講義をおこなう。講義後は、その時間の講義でおこなった範囲の教科書の演習問題を各自で解き、講義内容の理解に務める必要がある。

●評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

●受講生へのコメント

オフィス・アワー等の受講生への支援については、講義の際に説明があるので、それらを積極的に活用して講義内容の理解に努めること。

●教材

田代嘉宏『数学概論 線形代数/微分積分』（裳華房）
三宅敏恒『線形代数-例とポイント』（培風館）

Pemberton/Rau “Mathematics for Economists”
(University of Toronto Press)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 07]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|--------------|-----|---|----------|----|------|----------|
| 掲載番号 152 | 科目名 | 統計学A | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 福井 充 (医) |
| | 英語表記 | Statistics A | | | | | | |

●科目の主題

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求され

ている。本講義では統計的考察を行なう上で必要な基礎的な概念と、推定・検定の概念の習得を目的とする。

●**授業の到達目標**

標本調査の概念を理解する。

1 変量・2 変量の記述統計を理解し、作表・作図・計算ができる。

確率分布の概念を理解し、正規分布・二項分布・ポアソン分布の確率計算ができる。

仮説検定、信頼区間の概念を理解する。

●**授業内容・授業計画**

1. 統計学とは。標本調査の考え方（1回）
2. 記述統計・単変量（2回）：度数分布表・ヒストグラム・箱ひげ図、平均・分散・標準偏差・中央値・パーセント点
3. 記述統計・2変量（2回）：散布図、相関係数・回帰直線
4. 確率分布（4回）：確率変数・確率分布の概念、代表的な確率分布（正規分布・二項分布・ポアソン分布）
5. 検定の考え方（4回）：（1母集団の母比率比較を例に）有意水準と検出力、片側検定と両側検定、棄却域、P値
6. 推定の考え方（2回）：（1母集団の母比率の推

定を例に）点推定、区間推定

●**事前・事後学習の内容**

テキストの例題、配布する演習問題を用いて復習を行うこと。演習問題の一部についてはWebを通じて提出を求め、提出された解答を基に講義内で解説を行う。

●**評価方法**

定期試験（80%程度）とレポート（20%程度）で評価する。

●**受講生へのコメント**

解析学（微積分）・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。

関数電卓を用意すること。試験は関数電卓の使用を前提とする。（詳細は授業時に指示）

●**教材**

教科書：丹後俊郎著「医学への統計学 第3版」（朝倉書店）

注）この教科書は統計学Bでも使用する。

補足資料、演習問題を講義中に配布する

[科目ナンバー : GE MAT 01 08]

| | | | | | | | | |
|--------------------|------|--------------|-----|----------|------|----|------|----------|
| 掲載番号 153 | 科目名 | 統計学B | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 福井 充 (医) |
| | 英語表記 | Statistics B | | | | | | |

●**科目の主題**

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では実際の問題に対する統計的手法を習得することを目標とする。

●**授業の到達目標**

1 変量および2 変量データについての基本的な検定・推定手法（t 検定、F 検定、カイ 2 乗検定、Wilcoxon の順位和検定など）について理解し、データに応じて正しく使用できる。

●**授業内容・授業計画**

各種統計的手法の適用について例題を用いて講義する。具体的には

1. 1つの正規母集団の母平均・母分散についての検定・推定（2回）
2. 2つの正規母集団の母平均・母分散の比較（データに対応のない場合）（2回）
3. 2つの正規母集団の母平均の比較（データに対応のある場合）（1回）
4. 2つの非正規母集団についてのノンパラメトリック検定（データに対応のない場合）（2回）
5. 2つの非正規母集団についてのノンパラメト

リック検定（データに対応のある場合）（1回）

6. 2つの母集団の母比率の比較（データに対応のない場合）（3回）
7. 2つの母集団の母比率の比較（データに対応のある場合）（1回）
8. 独立性の検定（1回）
9. 適合度検定（2回）

●**事前・事後学習の内容**

テキストの例題、配布する演習問題を用いて復習を行うこと。演習問題の一部についてはWebを通じて提出を求め、提出された解答を基に講義内で解説を行う。

●**評価方法**

定期試験で評価する。

●**受講生へのコメント**

解析学（微積分）・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。また、統計学Aでの講義内容を前提とする。

関数電卓を用意すること。試験は関数電卓の使用を前提とする。（詳細は授業時に指示）

●教材

教科書：丹後俊郎著「医学への統計学 第3版」
(朝倉書店)

注) この教科書は統計学Aでも使用する。
補足資料、演習問題を講義中に配布する

[科目ナンバー : GE PHY 03 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|---|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理学 I | 単位数 | 4 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 有馬 正樹 (理) 中川 道夫 (非常勤) 牝川 章 (非常勤) 林 嘉夫 (理 特任) |
| 154 | 英語表記 | Basic Physics I | | | | | | |

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する科目として「力学」を講義する。

●授業の到達目標

身近に起こる力学現象を支配する基礎方程式をもとにして、様々な複雑な系に対する系統的な考察の方法を学ぶ。そして、演習を通して「力学」の理解を深めるとともに応用力をつける。

●授業内容・授業計画

1. 運動：空間と時間、速度
2. 運動の法則：慣性、運動法則、作用・反作用の法則、運動量と力積
3. 運動とエネルギー：1次元の運動、1次元の運動とエネルギー、2次元の運動、仕事と運動エネルギー、力のポテンシャルとエネルギーの保存
4. 惑星の運動と中心力：ケプラーの法則、クーロン力による散乱
5. 角運動量：角運動量と力のモーメント
6. 質点系の力学：運動量保存の法則、2体問題、運動エネルギー、角運動量
7. 剛体の簡単な運動：剛体の運動方程式、固定軸

をもつ剛体の運動、剛体の慣性モーメント

8. 相対運動：回転しない座標系、重心系と実験室系、座標変換、回転座標系

(これらの内容は、受講者の理解度などに応じて変更することもある)

●事前・事後学習の内容

授業に臨むにあたり、前回の講義内容をノートなどで確認しておくこと。そして、講義で説明された事柄は、授業後に自分自身で手を動かして再確認すること。

●評価方法

授業で行う演習、レポート課題、小テスト、定期試験などを総合して評価する

●受講生へのコメント

まじめに出席すること。講義がわからないと感じたときには遠慮なく先生や仲間に質問すること。自分自身でじっくりと考えることが大事だから、時間に余裕をもって勉強に取り組むこと。

●教材

戸田盛和 著『力学』(岩波書店)を用いる。また、演習書や参考書を適宜紹介する。

(担当者によって使用する教材が代わることがあるので、教科書の購入の際は注意すること)

[科目ナンバー : GE PHY 03 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------|-----|---|------|----|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理学 II | 単位数 | 4 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 浜端 広充 (理) 竹内 宏光 (理) 寺本 吉輝 (理 特任) |
| 155 | 英語表記 | Basic Physics II | | | | | | |

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、電磁気学を学習する。

●授業の到達目標

本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象とする電磁気学を学習する。講義とともに演習を行い、より深い理解と応用力をつけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 静電場

クーロンの法則、電場、ガウスの法則、静電ポテンシャル、電気双極子、コンデンサー、誘電率

2. 定常電流

オームの法則、抵抗、キルヒホッフの法則

3. 電流と磁場

磁場、磁場に関するガウスの法則、アンペールの法則、ビオ・サバールの法則、ローレンツ力、磁気双極子、透磁率、変位電流

4. 電磁誘導と準定常電流

ファラデーの法則、自己および相互誘導、過渡現

象

5. 電磁気学の基本法則

マクスウェルの方程式、電磁波

●事前・事後学習の内容

事前に教科書で予習しておくこと。講義後は講義内容の理解を深めるため、演習問題やレポート課題などに積極的に取り組むこと。

●評価方法

通常授業で行う演習、レポート課題、小テスト、定期試験などを総合して評価する。

●受講生へのコメント

電磁気学は、力学と並んで物理学の中でも最も基本的な学問分野であるので、意欲的に取り組んで身につけて欲しい。

●教材

教科書として「砂川重信著『電磁気学 [改訂版] 初めて学ぶ人のために』(培風館)」を用いる。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE PHY 04 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理学 I - A | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 糸山 浩 (理) 牲川 章 (非常勤) |
| 156 | 英語表記 | Basic Physics I-A | | | | | | |

●科目の主題

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は振動及び波動の講義である。

●授業の到達目標

基礎物理学 I の発展と位置付けられると同時に、「場」という概念の導入にもなっている。マクロな古典的現象を対象にし、波動に関しては初歩から始め、多くの例を取り扱う。

●授業内容・授業計画

基礎物理学 I の履修を前提とする。

1. 力学と振動：単振動と減衰振動、強制振動と減衰項付きの強制振動、仕事率、パラメータ励振、固有値問題としての連成振動、連成振動の一般論、連続極限
2. 波動（1次元）：弦の微小振動と一般解、初期値問題、境界条件、流体中の音波、定常波と変数分離、フーリエ展開、分散と群速度、波のエネルギーと運動量
3. 多成分・空間 2, 3次元への拡張：粒子と場、ベクトルとテンソル、弾性体と流体、物体の変

形と歪テンソル、応力テンソル、フック則、等方媒質中の弾性波

4. 横波ベクトルとしての電磁波
5. 幾何光学極限と回折・干渉

●事前・事後学習の内容

教科書、配布プリント、クイズによる講義内容の復習。友人と相談しても良いが、自立心をもって解く。

●評価方法

試験及び宿題（レポート）による。

●受講生へのコメント

高校生時での「波動」の習熟度に関しては、受講生間の差が大きい。大学受験レベルでの波動の数学的取り扱いに不慣れな受講生は、講義期間最初の一月に自習すること。

●教材

教科書として「波動と場の物理学入門 糸山浩司著」(京都大学出版会)を使用する。2、3年次に進んでも有用な本である。高校の物理からの橋渡しとして「親切な物理(下) 渡辺久夫著」を挙げておく。

[科目ナンバー : GE PHY 04 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理学 II - A | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 糸山 浩 (理) |
| 157 | 英語表記 | Basic Physics II-A | | | | | | |

●科目の主題

微分形のMaxwell方程式の、物理的理解、その解析の枠組（そこで使用する数学的諸概念手法に触れること）、電磁場と荷電粒子系が主題である。干渉・回折の近似理論についても述べる予定である。

●授業の到達目標

基礎物理学の範囲内で、基礎物理学 II のAdvanced Courseとして設けられた電磁気学の講義というのが本授業の位置付けである。本授業の到達目標は次のようなことである；（1）3次元ベクトル解析の諸概念

の理解はもちろんのこと、実際の計算運用ができること、(2) 微分形のMaxwell方程式の物理的意味の理解、(3) Maxwell方程式の解析の枠組みとそこで使用する数学的諸概念手法に触れ親しみ、続く専門教育に備えること、(4) 干渉・回折の近似理論

●授業内容・授業計画

「ベクトル解析の復習」

- 第1回：線積分、面積分、体積積分の定義と性質、微積分学の基本定理
- 第2回：勾配、回転、発散の意味、微分形のMaxwell方程式と電荷保存則
「ベクトル解析の計算手法、スカラーポテンシャル、ベクトルポテンシャル」
- 第3回：Levi-Civita記号、Einstein規約、スカラーポテンシャル、ベクトルポテンシャル
- 第4回：一般曲線座標での表示
「Fourier解析入門」
- 第5回：平面波の式、Fourier級数、変換
- 第6回：デルタ関数、畳込積、高次元化
「電磁場の波数周波数分解」
- 第7回：源なしの電磁場（電磁波）
- 第8回：源が既知の電磁場（1）（静電磁場：縦波横波とHelmholtzの定理、LaplacianのGreen関数）
- 第9、10回：源が既知の電磁場（2）（一般の電磁場：d'Alembertian のGreen関数）
- 第11回：Green関数の一般論
「電磁場と荷電粒子」
- 第12回：連成振動から場（場の解析力学入門）、電磁ポテンシャル、ゲージ変換、Maxwell方程式を導くLagrangian密度

第13回：Lorentz力、電磁エネルギー等の場の保存量
「干渉・回折の近似理論」

第14回：キルヒホッフ積分とホイヘンスの原理の修正版

第15回：フラウンホーファー回折及びフレネル回折
なお上記の授業内容等は受講者諸氏の理解度等に応じて前後、変更する場合もある。

●事前・事後学習の内容

事後学習として、講義で示した計算結果等を、初めから終わりまで自分の手で再導出することが重要である。また事前学習としては、上述の授業内容について、書籍やインターネットを通じてある程度調べて授業に臨むことが場合によれば望ましい。

●評価方法

試験の成績と授業中に課すレポート課題の成績で評価する。

●受講生へのコメント

基礎物理学 I A 及び II の履修を前提として講義を行う。授業では、初等的なところから解き起すが、上記の本授業の割当をこなす必要のため進捗は早いので、常時継続的な事後学習が重要である。

●教材

特定の教科書に沿っては授業を進めないが、次に挙げる書籍（一部は絶版）は本授業の参考になる。

太田浩一著『電磁気学の基礎 I、II』（東京大学出版会）、高橋康著『電磁気学再入門』（講談社サイエンスフィク）、砂川重信著『理論電磁気学』（紀伊国屋書店）、深谷賢治著『電磁場とベクトル解析』（岩波書店）、井田大輔著『ベクトル解析と微分形式』（東洋書店）

[科目ナンバー : GE PHY 02 01]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|------------------------------------|
| 掲載番号 158 | 科目名 | 基礎物理学 I - E | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 浜端 広充 (理) 神田 展行 (理) (未定) (理) |
| | 英語表記 | Basic Physics I-E | | | | | | |

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は「力学」を講義する。

●授業の到達目標

最も身近に起こる力学現象を対象に、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、例題により理解を深めると共に応用力をつける。なお下記の授業内容等は受講者諸氏の理解度等に応じて前後、変更する場合もある。

●授業内容・授業計画

1. 変位とベクトル
2. 力のベクトル、力のつりあい、いろいろな力
3. 速度と加速度：直線上の運動、2次元、3次元

の運動

4. 円運動の速度と加速度
5. 運動の法則：慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則
6. いろいろな運動（1）：落体の運動、単振動、等速円運動、
7. いろいろな運動（2）：抵抗力をうけた物体の運動
8. 力学的エネルギー：仕事、運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー
9. 力学的エネルギー保存
10. 運動量と力積、運動量保存
11. 2物体の運動

- 12. 角運動量
- 13. 慣性系と慣性の力、回転系における運動
- 14. 剛体のつりあいと回転

●事前・事後学習の内容

事前に教科書で予習しておくこと。講義後は講義内容の理解を深めるため、演習問題やレポート課題などに積極的に取り組むこと。

●評価方法

小テスト、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

●受講生へのコメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。

●教材

「長岡洋介著『物理の基礎』(東京教学社)」を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE PHY 02 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理学Ⅱ-E | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | (未定) (理) 丸山 稔 (非常勤) |
| 159 | 英語表記 | Basic Physics II-E | | | | | | |

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では「電磁気学」を学習する。

●授業の到達目標

本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象とする電磁気学を学習し、その基本概念の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

講義の順序及び内容に関しては受講者の理解度等に応じて変更することがある。

1. 電荷と静電場
クーロンの法則, ガウスの法則
電場, 電位, コンデンサー
2. 定常電流と静磁場
オームの法則, ビオ・サバールの法則, アンペールの法則
定常電流, 磁場, ローレンツ力

3. 電磁誘導

ファラデーの法則
電磁誘導, 自己および相互誘導

4. 電磁気学の基本法則

マクスウェルの方程式
変位電流, 電磁波

●事前・事後学習の内容

演習問題やレポート課題などを活用して復習を行うこと。予習もすることが望ましい。

●評価方法

レポート課題、定期試験により評価する。

●受講生へのコメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。内容についての質問は積極的に行うことが望ましい。

●教材

教科書として「長岡洋介著『物理の基礎』(東京教学社)」を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE PHY 03 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|---|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理学Ⅲ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 矢野 英雄 (理) 石原 秀樹 (理) 畑 徹 (非常勤) 丸山 稔 (非常勤) |
| 160 | 英語表記 | Basic Physics III | | | | | | |

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、日常生活で体感される熱現象を基に築かれた熱力学を学習する。熱力学は熱とエネルギーの等価性を示し、また、現象が進む方向を示す。熱力学第一法則、第二法則をもとに、種々のエネルギー(熱力学関数)や気体分子運動論を学ぶ。

●授業の到達目標

熱力学は、力学では扱わなかった「物体内部の現象」を対象とし、冷・熱で体感するような巨視的な現

象を系統的に整理し、構築された学問である。本科目では、物体に内包する巨視的なエネルギーと状態量エントロピーの概念を理解できることを目標とする。これらは、物体内部の現象を微視的に取り扱う統計力学の基礎となり、また物理化学や機械工学などへと広く応用される。

●授業内容・授業計画

第1週～第2週(熱現象と熱力学)
熱平衡と温度, 状態量, 理想気体の状態方程式,
ファンデルワールスの状態方程式

第3週～第5週（熱力学第一法則）

準静的過程，熱力学第一法則，内部エネルギー，熱容量と比熱，等温過程，断熱過程，カルノーサイクル

第6週～第7週（熱力学第二法則）

可逆と不可逆過程，熱力学第二法則，熱機関の効率，熱力学温度，クラウジウスの不等式

第8週～第10週（エントロピー）

エントロピー，エントロピー増大の法則，不可逆性と確率論的意味，微視的狀態

第11週～第12週（熱力学関数）

エンタルピー，自由エネルギー，熱平衡

第13週～第15週（気体分子運動論）

エネルギー等分配の法則，速度の分布則

●事前・事後学習の内容

授業までにレポート課題や指定の問題を解いておくこと。また授業で必要とする数学（微分、ルジャンド

ル変換など）を予習しておくこと。授業の各項目はそれまでの学習内容の積み上げによって進むため、復習や演習問題を解き、学習内容を理解しておくことが重要である。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

主として期末試験により評価する。担当者によって、レポートや小テストなども評価に加える。

●受講生へのコメント

力学（基礎物理学Ⅰなど）と解析Ⅰ、Ⅱの履修が望ましい。

●教材

教科書として「國友正和著、基礎熱力学(共立出版)」を使用する。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE PHY 03 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理学Ⅳ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 中尾 憲一（理） |
| 161 | 英語表記 | Basic Physics IV | | | | | | |

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、現代物理学の根幹をなし、物質、生命、化学、工学、宇宙など自然科学のあらゆる分野において、ミクロな自然現象を理解するための基礎となっている量子力学の基本的事項を学ぶ。

●授業の到達目標

量子力学特有の新しい概念や考え方をしっかり理解すると共に、簡単な数式・例題を通してその本質の理解を深め、より専門的な科目を学習するための基礎を身につけることを目的とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 古典論の限界1：光の二重性
- 第2回 古典論の限界2：電子の二重性（1）
- 第3回 古典論の限界3：電子の二重性（2）
- 第4回 シュレディンガー方程式1：弦を伝わる波動（1）
- 第5回 シュレディンガー方程式1：弦を伝わる波動（2）
- 第6回 シュレディンガー方程式3：シュレディンガー方程式の導入
- 第7回 シュレディンガー方程式4：演算子と固有状態

第8回 物理量と期待値

- 第9回 1次元問題1：井戸型ポテンシャル（1）
- 第10回 1次元問題1：井戸型ポテンシャル（2）
- 第11回 1次元問題2：調和振動子（1）
- 第12回 1次元問題3：調和振動子（2）
- 第13回 1次元問題4：階段型ポテンシャルによる反射と透過
- 第14回 1次元問題5：トンネル効果
- 第15回 まとめと復習

●事前・事後学習の内容

教科書の予習・復習と章末の練習問題。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポートなど。

●受講生へのコメント

講義だけで理解できる内容ではないので、自習を怠らないように。また、不明な点があれば積極的に質問に来て下さい。

●教材

教科書として原康夫著「量子力学」（岩波基礎物理シリーズ5）を使用。また参考図書・演習書等を適宜紹介します。

[科目ナンバー : GE PHY 02 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理学Ⅳ－E | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 河合 俊治 (非常勤) |
| 162 | 英語表記 | Basic Physics IV-E | | | | | | |

●科目の主題

理科系の学生に必要なとされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、現代物理学の礎である量子力学および相対性理論の基礎事項を講義する。

●授業の到達目標

ミクロの世界を記述する量子力学、光速に近い速さで運動する物体の運動の記述に不可欠な特殊相対性理論、および一般相対性理論（相対論的重力理論）について、その考え方、基礎概念の理解を目標とする。ただし、受講生の理解の程度、講義の進捗状況等に応じて、内容を変更することがある。

●授業内容・授業計画

- [1] 量子力学の世界観
 - (1.1) 特徴的な実験事実
 - (1.2) 波動方程式、シュレーディンガー方程式
- [2] 平面波
 - (2.1) 平面波の基本事項
 - (2.2) 井戸型ポテンシャル
 - (2.3) トンネル効果
- [3] 調和振動子
 - (3.1) 調和振動子のシュレーディンガー方程式
 - (3.2) 調和振動子の波動関数
- [4] 波束
 - (4.1) 波束と不確定性関係
 - (4.2) エーレンフェストの定理
- [5] 量子力学の基礎づけ

(5.1) 量子力学の基本的前提

(5.2) 波動関数のいくつかの一般的性質

[6] 特殊相対性理論入門

(6.1) 光速の不変性、ローレンツ変換、4次元時空

(6.2) 同時刻の相対性、運動する時計の遅れ、運動物体の短縮

[7] 一般相対性理論の概要

●事前・事後学習の内容

予習、復習を怠らないこと。

●評価方法

小テスト、レポート、定期試験などを総合して評価する。

●受講生へのコメント

基礎物理学Ⅰおよび基礎物理学Ⅱ（或いは、基礎物理学Ⅰ－Eおよび基礎物理学Ⅱ－E）を履修済みであることを前提とする。

量子力学と相対性理論は概念的にも難しい。講義出席、積極的学習を強く勧める。

●教材

教科書として、小形正男著「量子力学（裳華房テキストシリーズ・物理学）」（裳華房）と配布するプリントを用いる。さらに時間的余裕がある場合には、朝永振一郎著「鏡の中の物理学」（講談社学術文庫）収録の「光子の裁判」を副教材として使用して講義する。

[科目ナンバー : GE PHY 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 物理学Ⅰ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 河合 俊治 (非常勤) |
| 163 | 英語表記 | Introduction to Physics I | | | | | | |

●科目の主題

力学を主に、波動についても触れる。

●授業の到達目標

近年、種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では高等学校で物理を履修しなかった学生を含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次い

でそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本事項の理解が得られることを目指す。

●授業内容・授業計画

1. 物理学とは
 - ・物理学の学び方・物理量の表し方
2. 運動の記述
 - ・速度・加速度・等速円運動
3. 運動の法則と力の法則
 - ・運動の第1・2・3法則

4. 力と運動
・運動方程式とその解
5. 振動
・単振動・減衰振動・強制振動
6. 仕事とエネルギー
・仕事、エネルギー、保存力、エネルギー保存則
7. 回転運動
・角運動量、回転運動の法則
8. 剛体の力学
・剛体の運動方程式、慣性モーメント
9. 見かけの力
・加速度系からみた運動

10. 波動と光
- 事前・事後学習の内容
予習、復習を怠らないこと。
- 評価方法
小テスト、レポート、定期試験などを総合して評価する。
- 受講生へのコメント
講義出席、自学、自習を強く勧める。
- 教材
教科書として、原 康夫著『(第5版) 物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。さらに、配布するプリントも用いる。

[科目ナンバー : GE PHY 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 物理学Ⅱ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 中川 道夫 (非常勤) |
| 164 | 英語表記 | Introduction to Physic II | | | | | | |

●科目の主題

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。

●授業の到達目標

自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学Ⅱでは、主に、電磁気学の分野を中心に学ぶ。

●授業内容・授業計画

1. 真空中の静電場
・電荷、・クーロンの法則、・電場のガウスの法則
2. 導体・誘電体と静電場
・導体、・誘電体、・キャパシター
3. 電流と回路
・オームの法則、・キルヒホッフの法則、・CR回路
4. 電流と磁場

- ・電流のつくる磁場、・ローレンツ力、
- ・ビオーサバルの法則、・磁場のガウスの法則
- ・アンペールの法則
- 5. 電磁誘導
・電磁誘導の法則、・自己誘導、・相互誘導
- 6. マクスウェル方程式と電磁波
- 7. 現代物理学の概要
・相対性理論、・ミクロの世界と量子論、
・原子核と素粒子

●事前・事後学習の内容

教科書で予習を行い、返却された演習問題の解説について復習しておくことが望ましい。

●評価方法

日常のレポートと期末試験の結果を総合して評価する。

●受講生へのコメント

復習した事項や、教科書のなかでの理解できない点については質問すること。

●教材

教科書として、原 康夫著『(第5版) 物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。

[科目ナンバー : GE PHY 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 入門物理学Ⅰ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 佐藤 弘一 (理 特任) 加藤 宏平 (理 特任) |
| 165 | 英語表記 | Introduction to Physics I | | | | | | |

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系

統的に提供する。本科目では、力学を中心に学習する。

●授業の到達目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

●授業内容・授業計画

最も身近にある物理現象を記述する力学を中心に講義を行う。始めに物理学の学び方を述べ、項目として、

- 1) 速度と加速度
速度，加速度，等速直線運動，等加速度運動
- 2) 運動の法則(ニュートンの運動の法則)
座標系，ベクトル，運動の法則，力，放物運動
- 3) 周期運動
周期運動，単振動，単振り子，等速円運動
- 4) 力と運動、エネルギー
力と仕事，運動エネルギー，位置エネルギー，

エネルギー保存則，運動量，運動量保存則

- 5) 剛体の運動
剛体，慣性モーメント，重心の運動，回転運動
- 6) 熱と温度
熱，温度，状態方程式，プランクの法則，熱力学の法則

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

●事前・事後学習の内容

事前に教科書で予習しておくこと。講義後は講義内容の理解を深めるため、演習問題やレポート課題などに積極的に取り組むこと。

●評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、本科目が必修あるいは選択必修に指定されていない場合、基礎物理学Ⅰ－Ⅴを履修すること。

●教材

原 康夫著『基礎からの物理学』(学術図書出版社)

[科目ナンバー : GE PHY 01 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|------|----|------|------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 入門物理学Ⅱ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 佐藤 弘一 (理 特任) 加藤 宏平 (理 特任) |
| 166 | 英語表記 | Introduction to Physics II | | | | | | |

●科目の主題

理科系の学生に必要なとされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、電磁気学を中心に学習する。

●授業の到達目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

●授業内容・授業計画

電氣的・磁氣的現象の基礎となる、電磁気学を中心に学び、現代物理学と呼ばれているミクロな世界の物理、相対性理論、原子核・素粒子論などの新しい物理

学の展開の概略についても講義する。項目として、

- 1) 電荷と電気力
電荷と電気力，電荷の保存則，静電誘導，クーロンの法則
- 2) 電場
電場，ガウスの法則
- 3) 電位
位置エネルギー，電位と電位差，
- 4) 誘電体とキャパシタ
キャパシタ，電気容量，電場のエネルギー，誘電体と電場
- 5) 電流とオームの法則
電流，起電力，オームの法則
- 6) 電流と磁場
磁場，アンペールの法則，磁気力
- 7) 電磁誘導
電磁誘導，誘導起電力，磁場のエネルギー
- 8) 新しい物理学の展開
光・電子の二重性，不確定原理，相対性理論，原子核

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

●事前・事後学習の内容

事前に教科書で予習しておくこと。講義後は講義内容の理解を深めるため、演習問題やレポート課題などに積極的に取り組むこと。

●評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評

価する。

●受講生へのコメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学Ⅱ-Eを履修すること。

●教材

原 康夫著『基礎からの物理学』(学術図書出版社)

[科目ナンバー : GE PEX 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 入門物理学実験 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 実験 | 担当教員 | 鐘本 勝一 (理) 他 |
| 167 | 英語表記 | Introductory Physics Experiments | | | | | | |

●科目の主題

高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。

●授業の到達目標

1. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。
2. 実験に対する自主性と積極性を養う。

●授業内容・授業計画

入門物理学実験は、高校で物理学を履修してこなかった場合でも理解できるように、解説・講義を交えて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスをする。実験は2回1テーマ、原則として2名1組で行う。各テーマとも、1週目に実験の説明・諸注意の後、測定を行い、2週目に解析・実験結果に関して討論し、レポートを作成する。テーマは次の予定である。

「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧-電流特性を測定し、その整流作用を観測する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷

の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは2週目終了時に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

●事前・事後学習の内容

実験開始前までに、教科書の該当するテーマの目的、理論、測定機器についての予習を行い、事前報告書にまとめる。実験終了後は、事前報告書を含めた実験レポートを提出する。実験レポートの内容が不十分であれば指導の上、再提出を求められる。

●評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

●受講生へのコメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は基礎物理学実験Ⅰを履修すること。本科目を修得したものは基礎物理学実験Ⅱと物理学実験S Bを受講することができる。また、本科目を履修した者は、基礎物理学実験Ⅰおよび物理学実験S Aを履修することはできない。必要な場合は基礎物理学実験Ⅱもしくは物理学実験S Bを履修すること。

●教材

本学理学部物理学科実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第4版』(東京教学社)

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------|-----|---|----------|----|------|---|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理学実験 I | 単位数 | 3 | 授業 形態 | 実験 | 担当教員 | 伊藤 洋介 (理) 他 岩崎 昌子 (理) 他 竹内 宏光 (理) 他 |
| 168 | 英語表記 | | | | | | | |

機械工学科：①学籍番号奇数の学生は前期火曜クラス、
②学籍番号偶数の学生は前期木曜クラス

●科目の主題

基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。

●授業の到達目標

1. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。
2. 実験に対する自主性と積極性を養う。

●授業内容・授業計画

基礎物理学実験 I は高校で物理学を履修した学生を対象とする。1 回目は履修に当たってのガイダンスと、実験全体に共通の事柄について講義を行う。2 回目以降は、前半・後半各 6 テーマとして、1 回 1 テーマ、原則として 2 名 1 組で実験を行い、レポートを作成する。

1. 前半テーマ

「剛体の等加速度運動」：斜面を転がる剛体の運動を調べ、剛体の慣性モーメントを求める。「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「熱の仕事当量」：電流による発熱と水温上昇の関係から熱の仕事当量を求める。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧-電流特性を測定し、その整流作用を観測する。

2. 後半テーマ

「ヤング率・剛性率」：力による金属の伸びや曲がりからヤング率を測定する。また、ねじれ振り子の周期から針金の剛性率を求める。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、

振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「固体の線膨張」：金属棒の熱による膨張を観測し、線膨張率を測定する。「トランジスタの特性」：トランジスタの静特性と動特性を測定し、動作原理・増幅作用を理解する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは当日時間内、あるいは 1 週間以内に提出する。最終週は実験・レポート等の総合的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

●事前・事後学習の内容

実験開始前までに、教科書の該当するテーマの目的、理論、測定機器についての予習を行い、事前報告書にまとめる。実験終了後は、事前報告書を含めた実験レポートを提出する。実験レポートの内容が不十分であれば指導の上、再提出を求められる。

●評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

●受講生へのコメント

機械工学科の学生は火曜クラスと木曜クラスに分かれる。学籍番号奇数の学生は前期火曜クラスを、偶数の学生は前期木曜クラスを受講すること。

本科目を修得したものは基礎物理学実験 II と物理学実験 S B を受講することができる。また、本科目を履修した者は、物理学実験 S A を履修することはできない。必要な場合は物理学実験 S B を履修すること。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理 I、II の履修者のため、適宜補足的説明を行う。

●教材

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第 4 版』（東京教学社）

[科目ナンバー : GE PEX 02 01]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|------------------------------|-----|---|----------|----|------|---------------------------|
| 掲載番号 169 | 科目名 | 基礎物理学実験Ⅱ | 単位数 | 3 | 授業 形態 | 実験 | 担当教員 | 小原 顕 (理) 他 岩崎 昌子 (理) 他 |
| | 英語表記 | Basic Physics Experiments II | | | | | | |

●科目の主題

基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。

●授業の到達目標

1. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。
2. 実験に対する自主性と積極性を養う。

●授業内容・授業計画

基礎物理学実験Ⅱは、入門物理学実験または基礎物理学実験Ⅰを修得した学生を対象に、より高いレベルのテーマを、より高度な測定機器を用いて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスを行う。2回目以降は、次のテーマの中から、原則として2名1組で実験を行う。

「万有引力定数」：大球と小球の間に働く力をねじれ秤を用いて測定し、万有引力定数を求める。「光の速度」：パルス化したレーザー光を用い、空気中の光速度を直接測定する。「光の回折」：レーザーの平行単色光を用い、1次元および2次元格子による光の回折現象を調べる。「過渡現象と交流回路」：抵抗・コンデンサー・コイルを含む回路を用いて過渡現象の時定数の測定、位相差の測定、インダクタンスの測定から交流についての理解を深める。「差動増幅器」：OPアンプを用いて簡単な差動増幅器を実際に作り、その動作を調べる。「電磁波」：波長約3cmのマイクロ波を用い、電磁波の反射や干渉などの基本現象を学ぶ。「磁化曲線」：強磁性体の磁化曲線を測定し、磁性の基礎を学ぶ。「電子の比電荷」：電磁場中での荷電粒子の運動を観察し、電子の比電荷を測定する。「レーザー」：固体レーザーの発振の様子や第二高調波発生

の観測を通して、非線形光学の基礎を学ぶ。

「真空」：低圧気体の熱伝導の圧力依存性を調べる。「熱放射」：黒体から放射される電磁波のエネルギーおよび強度の波長依存性を測定し、温度との関係調べる。「原子スペクトル」：水素原子の輝線スペクトルを観測する。「 γ 線スペクトル」：シンチレーション検出器と波高分析器を用い、 γ 線のエネルギースペクトルを測定する。

各実験終了後、レポートを次回までに提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては、補充実験を追加して行う。

●事前・事後学習の内容

実験開始前までに、教科書の該当するテーマの目的、理論、測定機器についての予習を行い、事前報告書にまとめる。実験終了後は、事前報告書を含めた実験レポートを提出する。実験レポートの内容が不十分であれば指導の上、再提出を求められる。

●評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

●受講生へのコメント

本科目を履修するためには、入門物理学実験または基礎物理学実験Ⅰ（それに相当するもの）を修得していなければならない。

●教材

本学理学部物理学科実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第4版』（東京教学社）

[科目ナンバー : GE PCH 01 01]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|----------------------------|-----|---|----------|----|------|---|
| 掲載番号 170 | 科目名 | 基礎物理化学A | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 佐藤 和信 (理) 神谷 信夫 (理) 他 麻田 俊雄 (非常勤) 中澤 重顕 (理 特任) |
| | 英語表記 | Basic Physical Chemistry A | | | | | | |

●科目の主題

我々の身の回りは、さまざまな物質で溢れている。物質の構造、機能、反応を扱う化学が現代社会の中で果たしている重要性は非常に大きい。本科目では、ミクロな視点から物質を理解するために必要な化学の基本概念を学ぶ。

●授業の到達目標

量子の法則に基づく原子、分子の構造と化学結合の基礎を理解する。

●授業内容・授業計画

(S I化クラス) 佐藤担当
第1回 原子の原子核モデルと周期表

- 第2回 微視的な系のエネルギー
 第3、4回 量子力学の起原
 第5、6回 微視的な系の力学
 第7、8回 量子論の原理
 第9、10回 井戸型ポテンシャルと量子化
 第11～13回 運動の量子論（並進、振動、回転）
 第14回 原子の構造と化学結合
 （M I 医クラス）神谷，豊田担当
 第1回 量子論の夜明け前
 第2回 原子のモデル
 第3回 水素原子のスペクトル
 第4回 水素原子のオービタル
 第5回 多電子原子についての組み立ての原理
 第6回 分子のルイス式と化学結合
 第7回 水素分子のオービタルとエネルギー準位図
 第8、9回 一般の二原子分子の化学結合
 第10回 分子の構造：VSEPR法
 第11回 結合を記述するための混成オービタル
 第12、13回 多原子分子の化学結合とMO法
 第14回 分子間に働く力
 第1～7回を神谷信夫，第8～14回を豊田和男が担当
 （S I 化，M I 医クラス以外）
 第1～4回 原子の構造と量子論の基礎

- 第5～7回 二原子分子の化学結合－共有結合とイオン結合
 第8、9回 三原子分子と結合角－分子を曲げる力の謎
 第10～12回 分子軌道法と混成－多原子分子の構造
 第13～14回 分子間に働く力

●事前・事後学習の内容

講義で配布される資料や演習問題について予習復習をおこなうこと。

●評価方法

試験の成績に出席状況を加味して評価する。

●受講生へのコメント

分子構造や化学結合を理解することは、あらゆる化学分野の基礎である。高校物理や高校数学を復習しておくこと。

●教材

中野元裕・上田貴洋・奥村光隆・北河康隆 訳，「アトキンス物理化学（上）第10版」（東京化学同人）（佐藤和信 担当）

M. J. Winter著，西本吉助訳，「フレッシュマンのための化学結合論」（化学同人）（神谷信夫・豊田和男 担当）

寺嶋正秀・馬場正昭・松本吉泰著「現代物理化学」（化学同人）（中澤重顕 担当）

[科目ナンバー : GE PCH 01 02]

| 掲載番号 | 科目名 | 基礎物理化学B | | | | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 塩見 大輔（理）他 宮崎 裕司（非常勤） |
|------|------|----------------------------|--|--|--|-----|---|------|----|------|-------------------------|
| 171 | 英語表記 | Basic Physical Chemistry B | | | | | | | | | |

●科目の主題

高校で物理を履修していない学生にも理解できるように、熱、仕事、温度、状態量、可逆過程と不可逆過程、エントロピーなど、熱力学における基本的な概念を分かり易く解説しながら、論理的な思考力を養う。

●授業の到達目標

自然は「物質の拡散」と「エネルギーの拡散」を伴いながら、「自ずから然り」の言葉通り自発的に変化して現在の姿となっている。いかなる拡散過程もそっくりには後戻りできない「不可逆過程」である。自然を支配している不可逆の法則を表したのが熱力学第2法則であり、エントロピー増大則である。エントロピー概念を正しく理解し、定められた環境の中に置かれた系が自発的に変化して平衡状態に達する法則を学ぶ。

●授業内容・授業計画

1. 基本事項：バルクの物質、力とエネルギー（2回）
2. 気体の性質（完全気体、気体の運動論モデル、実在気体）（3回）

3. 熱力学第1法則（内部エネルギー、エンタルピー、熱化学、状態関数と完全微分、断熱変化）（6回）

4. 熱力学第2法則（エントロピー、エントロピーの測定）（3回）

塩見・豊田担当クラスについては、第1～7回を塩見大輔、第8～14回を豊田和男が担当

●事前・事後学習の内容

授業前後に予習・復習をすることが望ましい。各回の授業前に教材の指定された部分に目を通しておくこと。また、教科書や資料を読むだけでなく演習問題に取り組んで自分の理解を試すことが必要である。

●評価方法

宿題、小テスト、試験、欠席率等により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

なるべく専門用語は使わず、わかりやすく説明する。化学になじみのない受講生も歓迎する。
 上記の講義内容は一部変更することがある。

●教材

中野元裕・上田資洋・奥村光隆・北河康隆 訳「アトキンス物理化学（上）第10版」（東京化学同人）（塩

見大輔・豊田和男担当）

菅宏著「はじめての化学熱力学」（岩波書店）（宮崎裕司担当）

[科目ナンバー : GE OCH 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎有機化学 I | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 西村 貴洋 (理) |
| 172 | 英語表記 | Basic Organic Chemistry I | | | | | | |

●科目の主題

有機化合物は自然界に広く存在し、我々の生活に深く関わっている。有機化学は、有機化合物を理解し扱う学問分野である。本講義では、有機化合物の「構造」、「性質」、「反応」の基礎を体系的に学習する。専門科目としての有機化学への入門としても位置づけられる科目である。

●授業の到達目標

有機化合物の「構造」、「性質」、「反応」の基礎を体系的に理解することを目指す。

●授業内容・授業計画

教科書に基づいて講義を行い、毎回、問題演習（10分程度）を行う。試験は中間試験と期末試験の2回実施する。

第1, 2回 有機反応とは、有機化合物の分類と命名法

第3回 アルカンと環状アルカン

第4, 5回 アルケンとアルキン

第6回 立体異性体

第7回 中間試験と解答解説

第8, 9回 芳香族化合物

第10, 11回 酸化と還元

第12~14回 ハロアルカンの反応

第15回 期末試験と解答解説

●事前・事後学習の内容

学習内容を理解し身につけるには、よく復習し、演習問題（教科書の章末問題）を解くことが重要である。

●評価方法

出席・授業中の演習課題（40%）・中間試験（30%）・期末試験（30%）を目安に成績を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

有機化学の理解を深めるため、基礎有機化学 I（本講義）と II（後期開講：担当教員、坂口和彦）を連続して受講することを強く推奨する。上記の授業内容は進捗状況により一部変更することがある。オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、メールで事前に連絡を取ること（tnishi@sci.osaka-cu.ac.jp）。

●教材

教科書：大冨幸一郎著「基礎有機化学」第2版（東京化学同人）

[科目ナンバー : GE OCH 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎有機化学 II | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 坂口 和彦 (理) |
| 173 | 英語表記 | Basic Organic Chemistry II | | | | | | |

●科目の主題

有機化合物は自然界に広く存在し、我々の生活に深く関わっている。有機化学は、有機化合物を理解し扱う学問分野である。本講義では、有機化合物の「構造」、「性質」、「反応」の基礎を体系的に学習する。専門科目としての有機化学への入門としても位置づけられる科目である。

●授業の到達目標

有機化合物の「構造」、「性質」、「反応」の基礎を体系的に理解することを目指す。

●授業内容・授業計画

教科書に基づいて講義を行い、毎回、問題演習（10分程度）を行う。試験は中間試験と期末試験の2回を実施する。

第1回 カルボニル化合物の性質

第2回 酸と塩基

第3, 4回 カルボニル化合物の反応

第5回 カルボン酸の性質

第6, 7回 カルボン酸およびその誘導体の反応

第8回 中間試験と解答解説

第9, 10回 アルコールおよびフェノール

- 第11回 エーテルおよびエポキシド
 第12、13回 アミンとその誘導体
 第14回 身のまわりの有機化学、問題演習と解説
 第15回 期末試験と解答解説

●事前・事後学習の内容

学習内容を理解し身につけるには、よく復習し、演習問題（教科書の章末問題）を解くことが重要である。

●評価方法

出席・授業中の演習課題（40%）・中間試験（30%）・

期末試験（30%）を目安に成績を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎有機化学Ⅰを受講しておくことを強く推奨する。上記の授業内容は進捗状況により一部変更することがある。

●教材

教科書：大冨幸一郎 著「基礎有機化学」第2版（東京化学同人）

[科目ナンバー : GE OCH 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎有機化学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 岡田 恵次（非常勤） |
| 174 | 英語表記 | Fundamental Organic Chemistry | | | | | | |

●科目の主題

化学を専門としない理系の学生を対象に、有機化合物の官能基とその性質・反応性について系統的に解説する。有機化合物への理解を広げる。

●授業の到達目標

我々の身の周りには、天然および人工の有機化合物が溢れている。ここでは、有機化合物の官能基の性質や反応性について解説し、化学を専門としない理系の学生が、有機化合物の基本的性質を理解できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

次の課題内容にて、15回の講義を行う。

1. 高校の化学と大学の化学の違い、化学結合、
2. 構造、形式電荷、異性体、
3. アルカンとシクロアルカン、
4. アルカンとアルキン、
5. 芳香族化合物の構造、
6. 芳香族化合物の反応、中間テスト、
7. 立体異性、R、S表示、
8. ジアステレオマー、光学分割、
9. 有機ハロゲン化合物、
10. アルコール、
- 11.

フェノール、チオール、12. エーテルとエポキシド、13. アルデヒド、14. ケトン、15. カルボン酸とその誘導体の各論を系統的に講義する。単元毎に演習問題を課す。

●事前・事後学習の内容

授業で進む部分を事前に読むこと、授業後に章末問題を解くことが望ましい

●評価方法

定期試験(50%)、中間テスト(30%)、出席率(20%)を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

1) 教科書をじっくり読むこと、次いで、2) 演習問題を解くことが大切である。

●教材

教科書としてH.ハート/D.E.クレーン/D.J.ハート共著・秋葉欣也/奥 彬共訳「ハート基礎有機化学」三訂版（培風館）

[科目ナンバー : GE OCH 01 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎有機化学M | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 宮田 興子（非常勤） |
| 175 | 英語表記 | Fundamental Organic Chemistry M | | | | | | |

●科目の主題

本講義では、有機化学の基礎を学ぶことで生体分子や薬の構造と性質について理解を深める。

●授業の到達目標

生体分子（炭水化物、タンパク質・酵素、核酸などの高分子化合物、脂質二重膜）および薬の性質を分子構造から読み解くための基礎と、薬に対する生体応答を分子構造レベルで考えることができる素養を身につける。

ける。

●授業内容・授業計画

授業内容：テキストに基づいて講義を進める。課題プリントを配布し、演習と解説を2～3回に1度、30分程度行う。

授業計画：1. 有機化学の基本概念：電子構造と結合の種類 2. 酸と塩基 3. 医薬品と生体分子との相互作用 4. 医薬品開発

プロセス [1～4で7回] 5. 医薬品の標的となる生体分子の化学 6. 医薬品の構造有機化学 7. 治療薬各論 [5～7で8回]。

●事前・事後学習の内容

教科書や配布資料をあらかじめ予習しておくこと。演習課題はその翌週にレポート提出する。

●評価方法

試験、演習、出席状況などを総合的に評価する。

[科目ナンバー : GE ICH 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎無機化学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 西岡 孝訓 (理) 小林 克彰 (理 特任) 中島 隆行 (非常勤) |
| 176 | 英語表記 | Basic Inorganic Chemistry | | | | | | |

●科目の主題

無機化学は、無機化合物の合成、構造、性質を系統的に理解することを目的とする化学の一分野である。近年では、生命科学や最先端の科学技術においてもその重要さが認識されつつある。基礎無機化学では、化学系・非化学系・医学系の3コースについて、それぞれがより高度な化学および関連領域を理解するために必要な基本的な考え方を習得する。

●授業の到達目標

無機化合物の構成単位である原子の性質、その集合体である分子や固体の構造や性質についての知識を習得する。さらに分子の構造の記述や軌道の表記に必要な対称の概念、酸塩基、酸化還元学習を通して物質の構造や機能性について理解する。

●授業内容・授業計画

SII化クラス (担当: 西岡) :

無機化学の基礎を理解するため、原子構造・分子構造と結合、酸と塩基、酸化と還元などを中心に講義する。原子を取り扱うための考え方を分子や固体にどのように応用できるかを、電子構造や幾何学的な形と関連させながら理解し、さまざまな化学的な性質や反応性を説明できることを示す。分子化合物の構造や物性を、電子のレベルから解き明かし、化学的な現象と理論的な取り扱いとを関連付けながら解説する。

1～3 原子の構造、4～6 分子の構造と結合、7～9 固体の構造、10～12 酸と塩基、13～15 酸化と還元

SII (数物生地) TII (機電建都情) クラス (担当: 小林) :

無機化学の基礎をまず原子や電子の構造および元素の性質と周期性から理解する。次に無機分子の結合、構造、反応性の特徴ならびに身近に存在する典型元素 (非金属元素) や遷移金属を含む化合物の性質や反応を系統的に講義する。また、酸、塩基の概念や酸化と

●受講生へのコメント

生体分子の成り立ちと薬の作用を有機化学と関連付けて考える一助としてほしい。

●教材

教科書: 赤路健一、林良雄、津田裕子著「ベーシック創薬化学」(化学同人)

補助資料: 適宜配布する。

還元についても学ぶ。さらに遷移金属錯体や固体無機物質、金属酵素などに焦点をあて、無機化学的観点から生命科学や最先端の科学技術の理解に役立つ授業内容とする。

1～2 原子のなかの電子の振舞い、3～4 元素の性質と周期性、5～7 原子価結合法と構造、8～10 分子軌道法による結合と構造の解釈、11～12 無機固体とその結合、13～15 平衡と反応

MI医クラス (担当: 中島) :

無機化学の基本を理解するために、まず周期表と各元素の関係について概観する。次に原子の電子構造と性質、そして分子の構造を決める要因と結合について解説する。また、酸および塩基の概念、酸化と還元について理解を深める。生体内で様々な代謝過程、呼吸、シグナル伝達などに重要な役割を担う金属錯体についても学ぶ。

1～4 無機化学の基礎 (元素の性質と周期性、ルイス構造、VSEPR則)、5～11 酸塩基と酸化還元、12～15 生物無機化学

●事前・事後学習の内容

授業前に教科書あるいは配付資料に目を通しておくこと。また、授業内容をより深く理解するためには、教科書あるいは参考書の問題を解くことが重要である。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席状況、レポート、講義中に実施する小テスト、試験などの成績を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

(SII化) 物理化学の基礎を学習しておくことが望ましい。

(SII (数物生地) (TII (機電建都情)) 授業終了後演習問題を解いて、復習すること。

(MI医) 適宜中間テストを行い、理解度をチェック

クしながら進める。

●教材

教科書

(SII化) Weller他著、田中他訳「シュライバー・アトキンス無機化学(上)」(東京化学同人)

(SII(数物生地)(TII(機電建都情))三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

(MI医)資料を配付

参考書

(SII化)、(MI医)三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

(SII(数物生地)(TII(機電建都情))、(MI医)Weller他著、田中他訳「シュライバー・アトキンス無機化学(上)」(東京化学同人)

[科目ナンバー : GE ACH 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------|-----|---|------|----|------|-------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎分析化学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 東海林 竜也(理) 細川 千絵(非常勤) |
| 177 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の目標

分析化学は、物質の分離、精製、検出、同定、定量分析などの方法論を研究開発する学問分野である。分析化学では水溶液中の化学反応を利用することが多いため、本科目では主に溶液内イオン平衡について取り扱う。

●授業の到達目標

- ・有効数字の取り扱いを習熟する。
- ・溶液内の基礎的な熱力学を理解する。
- ・酸塩基平衡を通じ、溶液内の化学平衡を理解する。
- ・最先端の分析化学を理解する。

●授業内容・授業計画

SII化クラス(担当:東海林):

溶液内反応に基づく分析手法の基礎理論と溶液内平衡反応を中心に進める。講義中对数および指数関数を扱う演習があるので、関数電卓を持参すること(スマートフォンの関数電卓アプリケーションの使用は不可とする)。第1-2回:有効数字と誤差、第3-5回:溶液中の熱力学、第6回:平衡状態における化学反応速度論、第7-10回:酸塩基平衡、第11-15回:錯生成平衡。

SII(数物生地)、TII(電建都)、HII(食環)クラス(担当:細川):

第1回:総論とイントロダクション、分析化学を学ぶ意義、第2-8回:化学平衡論(化学平衡の概念、

酸塩基平衡、酸化還元平衡)、第9-12回:各種機器分析装置の原理と応用(電気化学分析、分光分析、質量分析、クロマトグラフィー他)、第13-15回:最先端分析化学(産業における分析化学、生体分析化学、食品・環境分析)

●事前・事後学習の内容

講義前に次回の講義内容について連絡するので予習すること。講義後、復習しレポートを作成する。

●評価方法

定期試験やレポートなどにより総合的に成績を評価する。

●コメント

毎回講義後に実施するアンケートに疑問点を記入すること。翌週の講義で回答を共有するので、アンケートを積極的に活用すること。

●教科書等

SII化クラス

教科書:姫野貞之、市村彰男 著『溶液内イオン平衡に基づく分析化学』第2版(化学同人)

参考書:土屋正彦、他監訳『クリスチャン分析化学I基礎』(丸善)

SII(数物生地)、TII(電建都)、HII(食環)クラス

教科書なし

参考書:土屋正彦、他監訳『クリスチャン分析化学I基礎』(丸善)

[科目ナンバー : GE CHE 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|------|-----|---|------|----|------|------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 入門化学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 品田 哲郎(理) 姜 法雄(理 特任) |
| 178 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

19世紀の半ばの周期律の発見によって元素同士の関係性が体系化され、物質(分子)の組成をもとに分子

の性質が読み解けるようになりました。また、元素や分子を化合する技術が発展し、さまざまな人工物質が作られるようになりました。そのいくつかは、私たち

の生活に欠かすことができないものになっています。物質の理解は、生体物質を含む自然に存在する物質にも及んでいます。生体分子の構造と性質、さらには、生命現象が分子レベルで解き明かされ、その知識は薬、診断薬、農薬などを作ることに役だっています。本講義では、化学の扉を開く入門編として、物質の性質を分子の成り立ちから考えるための「化学の基礎」を学びます。

●授業の到達目標

分子の成り立ち、構造、性質から物質の生体内循環を学びます。これらを通じて、物質を化学的に考える素養を身に着けることを目標とします。

●授業内容・授業計画

- 第1回 化学的な考え方
- 第2回 分子の成り立ちと性質：共有結合を中心として
- 第3回 分子構造の多様性：C, H, N, Oを中心として
- 第4回 分子構造の多様性：立体化学
- 第5回 2～4の総合演習と解説
- 第6回 分子極性・酸と塩基
- 第7回 分子極性・酸と塩基 演習
- 第8回 生体分子の基本単位

- 第9回 生体高分子の構造と性質
- 第10回 6～9の総合演習と解説
- 第11回 生体内物質循環：栄養素の吸収過程
- 第12回 生体内物質変換：栄養素の化学変換
- 第13回 生体内物質循環：栄養素以外の物質の吸収過程
- 第14回 生体内物質循環：栄養素以外の物質の化学変換
- 第15回 試験と解説

●事前・事後学習の内容

予習課題とレポート提出を課す。授業の初めに小テストを行う。

●評価方法

出席・レポートの提出状況・試験の成績をあわせて評価する。

●受講生へのコメント

高校で化学を学んでいない場合は、高校の化学の教科書や下記参考書をあらかじめ自習することを勧める。

●教材

プリントを配布する。参考書：教養としての化学入門、Kimberley Waldron, 化学同人；「化学」入門編、日本化学会、化学同人；ビジュアル化学 第3版、ニュートン別冊。

[科目ナンバー : GE CEX 01 01]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|----------------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 179 | 科目名 | 基礎化学実験 I | 単位数 | 3 | 授業形態 | 実験 | 担当教員 | 宮原 郁子 (理) 他 |
| | 英語表記 | Basic Experiments in Chemistry I | | | | | | |

●科目の主題

身近な物質変化をもとにした基礎的な化学実験を通して、現代科学および技術にとって必須である化学的な知識や原理を理解する。注意深く実験経過を観察し、結果を考察することから種々の現象を論理的に考える力を培う。また、実験を通して自然科学への探究心を養う。

●授業の到達目標

化学実験を行ううえで必要な基本的な実験技術や操作を習得する。化学反応や分析法の原理を理解し実践する。実験の経過を緻密に観察し、正確な記録をとることができる。講義で学んだことを実験と結びつけて理解できる。実験結果について客観的な考察を行い、レポートにまとめて、的確な報告ができる。実験にともなう様々な危険から身を守ることができる。

●授業内容・授業計画

- 1回 ガイダンス：実験内容の説明と安全教育
- 2～6回 陽イオンの定性分析実験：①実験ノートとレポートの書き方について②銀，銅，スズ族イオン混合試料の分離分析と各イ

オンの確認③沈殿反応，炎色反応を利用した未知試料の分析など

- 7回 原子スペクトル分析実験：原子固有のスペクトル線の吸収および発光を利用した分光分析法による微量金属の定性および定量分析
- 8～11回 有機化学実験：①基本操作法 ②純物質の単離・精製実験“アスピリン錠剤からアセチルサリチル酸の抽出” ③薄層クロマトグラフィーTLCによる分離 ④酢酸イソアミルの合成
- 12～14回 物理化学実験：①「時計反応」と名付けられた反応を利用して、反応する物質の濃度や温度が反応速度に及ぼす効果を調べる②酸化還元反応を利用した滴定により溶液中の溶質濃度を決定する③両親媒性分子の単分子膜形成をもちいた分子長の推定とアボガドロ数の決定

●事前・事後学習の内容

テキストを熟読することで、それぞれの実験操作の

意味を十分に理解し、実験ノートに手順をまとめたうえで実験にのぞむこと。分からないことは、積極的に担当者に質問し、あいまいなままにしておかないこと。いずれの課題についても、実験結果とそれらへの考察をまとめたレポートを作成し、期日までに提出する。

●評価方法

毎回出席して実験することを原則とし、実験後の口頭試問やレポートにより実験内容の理解度および実験結果の考察力を総合的に評価する。レポートの受理をもって評価を行う。

●受講生へのコメント

高校化学基礎レベルの知識は必要である。受講希望者が化学実験室の定員を越える場合は、安全面を考慮して選択科目として受講する者について抽選を行い、受講人数を制限する（ただし、必修を除く）。各実験

の開始時に、担当教員から実験内容や注意事項に関する説明があるので、定刻までに遅刻することなく所定の場所に集合しなければならない。履修希望者は必ず初回のガイダンスに出席して、毒物および劇物の取り扱いに関する誓約書を提出すること。学生教育研究災害障害保険（学研災）および付帯賠償責任保険、またはこれらと同等の災害補償が可能な保険に必ず加入していること。

なお、実験内容は一部変更する場合がある。補講に相当する追加実験は提供しない。いかなる剽窃も不正行為とみなす。

●教材

『基礎化学実験 改訂3版』（大阪市立大学大学院理学研究科・基礎教育化学実験グループ編，2017，ふくろう出版）

[科目ナンバー : GE CEX 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎化学実験Ⅱ | 単位数 | 3 | 授業形態 | 実験 | 担当教員 | 吉野 治一（理）他 |
| 180 | 英語表記 | Basic Experiments in Chemistry II | | | | | | |

●科目の主題

自然科学は、実験によって明らかとなったことの積み重ねで構築されている。とくに化学において、実験は重要な役割を果たしている。講義を聴いただけでは分かりにくい事柄も、自ら手を動かして実験することによって鮮明に理解することができる。科学的な方法にしたがって自然と対話しながら、自分にとって多くの新しいことを発見し、論理的考察力を培う。また、実験を通して計画的に実験を進める能力を養う。

●授業の到達目標

化学実験を行ううえで必要な基礎的実験技術や操作を習得する。化学物質の性質と反応、分析法や機器分析の原理を理解し実践する。実験の経過を緻密に観察し、正確な記録をとることができる。講義で学んだことを実験と結びつけて理解する。実験結果について客観的な考察を行い、明解なレポートにまとめて、的確な報告ができる。実験にともなう様々な危険から身を守ることができる。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス：実験内容の説明と安全教育。
- 第2～3回：微粒子のブラウン運動の観察・拡散定数およびアボガドロ定数の決定。
- 第4～6回 DNA：①紫外可視吸収スペクトル変化によるDNA融解温度の測定②電気泳動によるDNAのサイズ決定③高速液体クロマトグラフィーHPLCによるDNAの成分分析。
- 第7～11回 有機化学実験：芳香族化合物の合成と

スペクトル解析・量子化学計算。

第12～14回 無機化学実験：遷移金属錯体の合成とその性質・機器を用いた陰イオンの分離や定性分析。

●事前・事後学習の内容

テキストを熟読することで、それぞれの実験操作の意味を十分に理解し、実験ノートに手順をまとめたうえで実験にのぞむこと。分からないことは、積極的に担当者に質問し、あいまいなままにしておかないこと。いずれの課題についても、実験結果とそれらへの考察をまとめたレポートを作成し、期日までに提出する。

●評価方法

毎回出席して実験することを原則とし、実験後の口頭試問やレポートにより実験内容の理解度および実験結果の考察力を総合的に評価する。レポートの受理をもって評価を行う。

●受講生へのコメント

基礎化学実験Iを履修した学生に対して提供される基礎科目であり、基礎教育科目の「基礎有機化学Ⅰ，Ⅱ」，「基礎無機化学」，「基礎物理化学A，B」を履修していることが望ましい。

受講希望者が化学実験室の定員を越える場合は、安全面を考慮して受講人数を制限する（ただし、必修を除く）。各実験の開始時に、担当教員から実験内容や注意事項に関する説明があるので、定刻までに遅刻することなく所定の場所に集合しなければならない。履修希望者は必ず初回のガイダンスに出席して、毒物および劇物の取り扱いに関する誓約書を提出すること。

学生教育研究災害障害保険（学研災）および付帯賠償責任保険，またはこれらと同等の災害補償が可能な保険に必ず加入していること。

なお，実験内容は一部変更する場合がある．補講に相当する追加実験は提供しない．いかなる剽窃も不正

行為とみなす．

●教材

『基礎化学実験 改訂3版』（大阪市立大学大学院理学研究科・基礎教育化学実験グループ編，2017，ふくろう出版）

[科目ナンバー : GE BIO 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|-----------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生物学概論 A | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 幸田 正典（理）他 伊東 明（理）他 |
| 181 | 英語表記 | General Biology A | | | | | | |

●科目の主題

生物界は階層構造をなす。ミクロの階層を扱い、生物の物質的側面に迫る分子生物学は、現代生物学の一方の極であるが、そのみでは生物の本質を全体的に理解することはできない。本科目では、生物の個体以上の階層（レベル）を対象とし、生物がどのような相互作用を営み、それがどのように進化してきたのかについて学ぶ。

●授業の到達目標

生命の歴史と進化の理論の基本、及び、生態学の基本概念を理解できる。それらの理論と概念に基づいて、生物の多様性とその保全について議論できる。

●授業内容・授業計画

授業の前半〔7回〕（名波・伊東）では、『生態系』のしくみ（構造）と働き（機能）を理解するために必要となる、生態学の基本概念を学習する。生態学の概要を説明した後、生態系の構成要素である、個体、個体群、群集の構造と機能について具体例を紹介しながら解説する。また、生態系における物質の循環とエネルギーの流れについても学ぶ。さらに、生物多様性がどのように創造され、どう維持されているかについて、進化的な見方にも触れながら解説する。

授業の後半〔7回〕（幸田・安房田）では、行動生態学の視点から、様々な動物の行動や形質とその意味

について考える。また、生物進化の実態としての生命の歴史と進化の理論を学び、生物進化と関連づけ系統分類学の基礎的考え方についても伝える。

最後に全体のまとめを行う〔1回〕。

●事前・事後学習の内容

授業で配布するプリント等を使って授業内容を毎回復習すること。また、授業中に紹介する参考図書、及び、学術的な情報（論文、ホームページ、動画、等）から、各回の授業内容に関連するもので自分の興味のあるものを選んで学習し、理解の幅を広げること。

●評価方法

試験の成績に、平常の小テストやレポートの成績を加味して評価する。

●受講生へのコメント

資料を多数用意し、配布する予定である。また、スライドを使用し、動物行動についてはビデオも見せる。

●教材

参考書（前半）：日本生態学会編『森林生態学』（共立出版）、その他、講義時に各項目ごとに参考書を紹介する。参考書（後半）：日本生態学会編『行動生態学』（共立出版）、ドーキンス著『利己的な遺伝子』（紀伊国屋書店）、長谷川真理子著『進化とはなんだろうか』（岩波書店）、長谷川真理子著『クジャクの雄はなぜ美しい？』（紀伊国屋書店）など。

[科目ナンバー : GE BIO 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生物学概論 B | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 藤田 憲一（理）他 |
| 182 | 英語表記 | General Biology B | | | | | | |

●科目の主題

生物は、外部環境から隔てられた体内に独自の環境を作り出して、生体分子による複雑な物質代謝・エネルギー代謝を行っている。また生物は、単細胞から多細胞まで多彩な形態の構造を持つ存在である。これらの生物学的な特徴について概説する。

●授業の到達目標

内部環境を作り出す源となっている生体膜の役割・機能や、生体内で行っている代謝について理解する。また組織の微細構造、器官の配置、さらには全体の形態へと、生物のからだをさまざまなスケールから俯瞰的に理解する。

●授業内容・授業計画

前半【藤田憲一（理）】

まず、外部環境と内部環境を区切っている生体膜の役割について概説する。ついで生体内で活躍する基本的な低分子が相互変換する代謝について触れる。さらに、生体膜を挟んだ低分子の輸送や環境シグナルの受容についても具体例を挙げながら紹介する。

- 第1回 生体膜の役割
- 第2回 生体分子の概説
- 第3回 エネルギー獲得系の代謝
- 第4回 生体膜の内外での物質輸送
- 第5回 膜蛋白質の構造と機能
- 第6回 環境シグナルの受容体
- 第7回 膜タンパク質の具体例

後半【水野寿朗（理）】

多細胞生物の体のなりたちと形づくりについて議論する。主に動物を対象とし、その形態学的特徴を細胞、組織、器官、解剖学的構造のスケールに整理する。また、これらの構造が作り上げられる過程や主な機能も概観する。

- 第8回 動物形態学の歴史
- 第9回 動物の一般的な体制
- 第10回 体の外層に分布する諸器官

- 第11回 体の内層に分布する諸器官
- 第12回 体の中層に分布する諸器官
- 第13回 動物の組織系
- 第14回 動物の生殖系と発生
- 第15回 授業の総まとめ

●事前・事後学習の内容

講義の前日までに、資料をウェブサイトよりダウンロード・印刷して講義内容について予習し、授業に臨むこと。授業の終わりに前回の講義内容の範囲から小テストを実施し、理解度を確認する（藤田）。プリントを毎回配布する。日常的に聞き慣れない名称や用語を多面的に理解するために、参考書や辞書を活用し、復習を中心に行うこと（水野）。

●評価方法

前半5割、後半5割の配点で総合評価する。評価方法は定期試験を中心として、小テストやレポートを加味する。

●受講生へのコメント

高校で「生物」を履修していない者には十分な予習を勧める。

●教材

配付資料およびウェブサイトからダウンロードしたもの。

[科目ナンバー : GE BIO 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生物学概論 C | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 後藤 慎介（理）他 |
| 183 | 英語表記 | General Biology C | | | | | | |

●科目の主題

代謝生物学・調節生物学：生物はいろいろな代謝系を有し、外界から取り入れた養分を用いて、エネルギーや生体構成物質を生成している。また、一方では貯蔵物質として蓄えたり不要となったものを分解再利用したり排出したりしている。本講義では、代謝とそれを調節する機構について学習する。

●授業の到達目標

環境からの物質とエネルギーの取り出し、アミノ酸やヌクレオチドといった細胞の構築単位の合成、構築単位からのタンパク質や核酸の組み立てなど、生物が自身を維持するために行う代謝とその調節機構についての基礎的な知識を身につける。

●授業内容・授業計画

さまざまな動物を例に、食物を摂取してエネルギーを獲得するしくみとその調節機構について解説を加える【後藤担当】。続いて、生体構成上の高分子物質（生体高分子）、特に核酸とタンパク質の生合成とその調節のメカニズムについて概説する【寺北明久（理）担当】。

(1) 摂食と消化、(2) 栄養、(3) 栄養要求と化学防衛、(4) 代謝速度とエネルギー、(5) 潜水に関する問題、(6) 代謝速度と体サイズ、(7) 移動のエネルギーと生理学的な時間、(8) 中間まとめ、(9) DNA・RNAの生合成1、(10) RNAの生合成2、(11) タンパク質の生合成1、(12) タンパク質の生合成2、(13) タンパク質の品質管理、(14) 遺伝子発現の調整、(15) 期末試験と解説

●事前・事後学習の内容

配布したプリントに事前に目を通し、授業に臨むこと。また、事後には各自講義の要点をまとめるなど、次の授業の準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

レポート・試験

●受講生へのコメント

高校程度の生物と化学を習得していることが望ましい。

●教材

教科書は使用しない。プリントを配布する。参考書として、クヌート・シュミット＝ニールセン

著『動物生理学 [原書第5版] 環境への適応』(東京大学出版会)(後藤担当分)、ブルース・アルバーツ他

著『Essential細胞生物学 (原書第4版)』(南江堂)(寺北担当分)を勧める。

[科目ナンバー : GE BIO 02 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生物学概論D | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 中村 太郎 (理) |
| 184 | 英語表記 | General Biology D | | | | | | |

●科目の主題

DNAを扱う研究・技術の大きな進展により、遺伝子が生命の営みにどのように関わっているかが明らかになりつつある。また、遺伝子組換え植物や遺伝子治療に代表されるように、遺伝子の研究を元にした技術は、私たちの生活に欠かせないものとなっている。本授業では、生命現象を分子(とくにDNA、RNA)レベルで明らかにする学問、分子生物学の基礎を学ぶ。

●授業の到達目標

本授業では、まず、遺伝子の構造と機能について学習する。次にそれに基づく応用例や最先端の研究を学ぶことで、分子生物学の基礎を身につけるとともに、統一的な生命観を学習する。

●授業内容・授業計画

1. 遺伝子とは何か (I) : 遺伝子の正体 DNA ~ 研究の歴史
2. 遺伝子とは何か (II) : DNAの構造
3. 遺伝子とは何か (III) : RNAとは
4. 遺伝子とは何か (IV) : 転写
5. 遺伝子とは何か (V) : RNAの加工
6. 遺伝子とは何か (VI) : 翻訳 その1 (tRNA、リボソーム)
7. 遺伝子とは何か (VII) : 翻訳 その2 (翻訳の過程)
8. 遺伝子とは何か (VIII) : DNA複製 その1 (染色体レベル)
9. 遺伝子とは何か (IX) : DNA複製 その2 (分

子レベル)

10. 遺伝子とは何か (X) : タンパク質をいづれくらい作るかを決定するメカニズム (原核生物)
11. 遺伝子とは何か (XI) : タンパク質をいづれくらい作るかを決定するメカニズム (真核生物)
12. ウイルス (I) : 遺伝子のしくみを理解することによりウイルスを学ぶ。ウイルスを理解することにより、遺伝子のしくみを学ぶ。
13. ウイルス (II) : インフルエンザウイルス、HIVなどのウイルスの感染を遺伝子の視点から解説する。
14. 遺伝子工学入門 : インスリンなどのタンパク質製剤についてその生産原理と方法を説明する。
15. 期末試験と解説

●事前・事後学習の内容

講義の始めに前回の講義内容に関するミニテストを行うので、各自講義の要点をまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

試験(50点)と講義中に課すミニテスト(50点)

●受講生へのコメント

高校で生物を履修していない人にも理解できるよう配慮する。

●教材

参考書として、アルバーツ他『Essential細胞生物学(原書第4版)』(南江堂)を薦める。

[科目ナンバー : GE BIO 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生物学概論I | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 幸田 正典(理)他 |
| 185 | 英語表記 | An Introduction to Biology I | | | | | | |

●科目の主題

ヒトを含め、動物たちは地球上のさまざまな環境に適応して生きている。本講義では、環境に対する適応のしくみに注意を払いながら、さまざまな動物の生理、形態、行動について学習する。

●授業の到達目標

ヒトを含めたさまざまな動物の生理、形態、行動に関する基礎的な知識を身につける。

●授業内容・授業計画

ヒトを含めたさまざまな動物の実例を提示しながら授業を進める。

- (1) 生理的調節機構の例として、さまざまな動物の呼吸、エネルギー代謝、体温調節機構について概説する【後藤慎介（理）担当：講義回数7回】。
- (2) 進化生物学、進化心理学や行動生態学的視点からヒトを含めた動物の行動を概説する。動物行動の研究手法、自然淘汰による生物進化、動物の雄と雌、動物の認知行動、ヒトの進化について説明する【幸田正典（理）担当：講義回数8回】。

●事前・事後学習の内容

教科書および配布したプリントに事前に目を通し、授業に臨むこと。また、事後には各自講義の要点をまとめるなど、次の授業の準備を欠かさないようにする

こと。

●評価方法

試験

●受講生へのコメント

授業内容（1）では以下の教科書を使用する。初回授業までに入手しておくこと。

授業内容（2）では印刷物を資料として配布する。必要に応じてスライド、ビデオを見せる。

●教材

授業内容（1）の教科書：クヌート・シュミット＝ニールセン『動物生理学－環境への適応』（東京大学出版会）1章，5章，7章。

[科目ナンバー : GE BIO 01 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生物学概論Ⅱ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 宮田 真人（理） 他 |
| 186 | 英語表記 | An Introduction to Biology Ⅱ | | | | | | |

●科目の主題

医科学の習得に必要な生物学の基礎知識を習得する。

●授業の到達目標

一見多様に見える生命現象も、必要な情報は全て遺伝子として細胞中に保持されている。遺伝情報がどのように発現するかを理解するためには、分子から個体にいたる多様な生命現象を理解する素養が求められる。本講義では、(Ⅰ) 遺伝子がどのように維持され発現するかを、細胞と生体高分子の構造に対する考察と共に解説する。また、(Ⅱ) 多細胞動物の発生過程に注目し、組織・器官・形態を構築する仕組みを筋組織の形成を例に分子レベルで説明する。以上を通じ、ヒトのからだと様々な疾病を理解するための生物学的なバックグラウンドを養う。

●授業内容・授業計画

(Ⅰ) 1. 細胞、2. タンパク質、3. セントラルドグマ、4. 転写、5. 翻訳、6. DNA複製【宮田真人（理）】

(Ⅱ) 1. 細胞分化と遺伝子発現、2. 筋肉の分化と転写制御、3. 誘導と筋肉の分化、4. 組織に

おける幹細胞について、5. 再生医学序論【小宮透（理）】

●事前・事後学習の内容

(Ⅰ) 小テストには十分な準備をして臨むこと。

(Ⅱ) あらかじめ資料を配布するので、事前に目を通し予習を行う。授業中に提起された項目について各自調べて理解を深める。

●評価方法

小テスト、出席点、受講態度、定期試験を総合して評価する。

●受講生へのコメント

本科目で解説する“生命科学の基礎”が現代医学の基礎でもあること、本科目が必修であること、再試験は行わないこと、などを認識して受講に臨むこと。いかなる不正行為にも厳罰をもって対処する。

●教材

アルバーツ他『細胞の分子生物学』第6版（ニュートンプレス）

ギルバート『発生生物学』第10版（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

[科目ナンバー : GE BIO 01 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生物学概論Ⅲ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 福永 昭廣（非常勤） |
| 187 | 英語表記 | An Introduction to Biology Ⅲ | | | | | | |

●科目の主題

生命現象を理解するために必要な細胞生物学的基礎

知識を得る。

●授業の到達目標

生体高分子、細胞の構造、細胞内小器官の構造と機能、タンパク質のはたらき、細胞分裂など細胞生物学的な基本事項について理解する。

●授業内容・授業計画

教科書に基づいた講義を主として行うが、必要に応じてプリント教材を配布して使用する。

1. 生物学の基本（生物の多様性と共通性、遺伝と階層性）（2回）
2. 生体を構成する物質（タンパク質、糖質、脂質）（3回）
3. 細胞小器官の構造と機能（2回）
4. 細胞骨格（1回）
5. タンパク質のさまざまなはたらき（2回）
6. 細胞結合（1回）
7. 細胞の情報伝達機構（1回）
8. 細胞の分裂（体細胞分裂と減数分裂）（2回）

9. 講義全体のまとめ（1回）

●事前・事後学習の内容

各講義の最後に次回行う講義の教科書範囲を伝えるので、事前に該当部分の内容を確認して受講すること。

●評価方法

定期試験の成績により評価する。

●受講生へのコメント

教科書や参考書（本学の図書館で所蔵）を活用して積極的に学んでください。

●教材

教科書として和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」（羊土社）を使用する。必要に応じて適宜、プリント教材を配布する。

参考書：東京大学生命科学教科書編集委員会編「理系総合のための生命科学」（羊土社）、アルバート他「細胞の分子生物学」（Newton Press）

[科目ナンバー : GE BEX 01 01]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|-------------------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 188 | 科目名 | 生物学実験 A | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 実験 | 担当教員 | 水野 寿朗（理）他 |
| | 英語表記 | Biological Laboratory A | | | | | | |

●科目の主題

理数工系の学生に期待される幅広い生物学の素養を身につけるための実験科目である。

●授業の到達目標

1. 実験テーマの目的と手順を理解し、自らの記録に基づき結果の分析や考察を行う。
2. 生物学の研究に特有の実験方法や観察技術を習得する。
3. 積極的にさまざまな生物材料に触れ、また野外での採集や観察に慣れる。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス
2. 微小な動物の観察と標本
3. 細胞分裂と染色体の観察
4. 植物の成長
5. 植物からの核酸の抽出
6. 外来植物の生態（2回）
7. 植物に由来する色素の分析
8. 植物園で学ぶ樹木の多様性
9. 花粉の形態と花粉管発芽の観察
10. ニワトリの胚発生の観察
11. アフリカツメガエルの卵と胚発生
12. 酵素活性の測定（他物質の共存下での酵素の働きと、同じ基質に作用する複数の酵素の作用、および反応生成物の比較検討などの生化学的解析など）（2回）

13. 実習器具のメンテナンス

（実習材料等の都合により、内容・順序を変更することがある）

●事前・事後学習の内容

事前学習：指定の教科書に目を通し、各実験テーマの基礎的な知識について予習をすること。

事後学習：返却レポートの評価やコメントを参考にすること。

●評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

●受講生へのコメント

受講希望者が多数の場合、人数を制限する（必修を除く）。

修正登録で履修を希望する者は必ず初回の授業に出席すること。

実習開始日までに、学生教育研究災害障害保険（学研災）および付帯賠償責任保険、またはこれらと同等の補償が可能な保険に必ず加入しておくこと。

●教材

教科書：『生物学実験への招待 Aコース』（大阪公立大学共同出版会）

履修登録の完了している者は初回から教科書を持参すること。

[科目ナンバー : GE BEX 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 生物学実験 B | 単位数 | 2 | 授業形態 | 実験 | 担当教員 | 水野 寿朗 (理) 他 |
| 189 | 英語表記 | Biological Laboratory B | | | | | | |

●科目の主題

理数工系の学生に期待される幅広い生物学の素養を身につけるための実験科目である。

●授業の到達目標

1. 実験テーマの目的と手順を理解し、自らの記録に基づき結果の分析や考察を行う。
2. 生物学の研究に特有の実験方法や観察技術を習得する。
3. 積極的にさまざまな生物材料に触れ、また野外での採集や観察に慣れる。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス
2. 昆虫の形態観察と同定、標本作製
3. ヒトとハエの甘味感度テスト
4. ゴウリムシを用いた細胞小器官の形態観察とその機能の解析
5. 動物の形態の観察、スケッチ、および生態学的研究における実験計画法など (3回)
6. 細菌からカビ・酵母にいたる種々の微生物の形態観察、および酵母のアルコール発酵能の測定など微生物の機能に関する解析 (2回)
7. PCR (遺伝子増幅)、プラスミド精製、制限酵素処理、電気泳動の手法を用いた遺伝子操作 (3回)

8. 生体高分子の *in vivo*, *in vitro*, *in silico* 検出 (3回)

(実習材料等の都合により、内容・順序を変更することがある)

●事前・事後学習の内容

事前学習：指定の教科書に目を通し、各実験テーマの基礎的な知識について予習をすること。

事後学習：返却レポートの評価やコメントを参考にすること。

●評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

●受講生へのコメント

受講希望者が多数の場合、人数を制限する (必修を除く)。

修正登録で履修を希望する者は必ず初回の授業に出席すること。

実習開始日までに、学生教育研究災害障害保険 (学研災) および付帯賠償責任保険、またはこれらと同等の補償が可能な保険に必ず加入しておくこと。

●教材

教科書：『生物学実験への招待 Bコース』(大阪公立大学共同出版会)

履修登録の完了している者は初回から教科書を持参すること。

[科目ナンバー : GE GEO 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|------|----|------|-------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 一般地球学 A - I | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 升本 眞二 (理) ・江崎 洋一 (理) |
| 190 | 英語表記 | General Geosciences A-I | | | | | | |

●科目の主題

地球とはどういうものか、現在の地球はどのような状態にあるのか、また、どのような過程を経て現在のようになったのかを主題とする。とくに、地球の過去を解明するための基本として必要な年代測定法とそれらに基づく地球・生物の変遷史、および地球上で起こる様々な地学現象を理解するためのプレートテクトニクスなどを重点的に学ぶ。

●授業の到達目標

- ・地球を解明するための視点 (時間と空間) に関する基本的な理解
- ・地球の形 (ジオイドや標高を含む) や大きさに関

する理解

- ・地形図の作成方法 (投影法を含む) や地表の観測 (GNSSなど) に関する理解
- ・地球の物理的性質 (重力・磁力・熱など) に関する基本的な理解
- ・放射年代測定法の基本原理と各測定法の原理や対象の理解
- ・地球史の復元方法や変遷過程に関する基礎的な理解
- ・プレートテクトニクスに関する基礎的事項 (運動、境界など) の理解
- ・地震とその被害に関する基礎的事項 (発生場所、

断層、津波など)の理解

●授業内容・授業計画

1. 地球を解明するための視点(時間と空間のスケール)
2. 地球の形と地図(2回)
3. 地球表層部の形態(陸地と海洋の形)
4. 地球の物理学的特性(重力・磁力・熱)
5. 岩石の年代(放射年代; 2回)
6. 地層の年代(化石; 2回)
7. 地球・生物の歴史と環境変遷(2回)
8. プレートテクトニクス(生成から消滅, 運動学; 3回)
9. 地震と活断層

(配布する資料に基づいた講義を主として、演習等を毎回行う。)

●事前・事後学習の内容

配布した資料の内容を、必ず事前に確認し、授業に臨むこと。また、講義終了後に講義やレポートの内容

を一通り復習すること。

●評価方法

演習・小テスト・レポートによる平常点(40%)と期末試験の成績(60%)で評価する。

●受講生へのコメント

高等学校での地学の履修の有無は問わない。電卓を持参のこと。なお、地球学科の必修科目である。

●教材

講義に関係する資料をまとめたものを授業の第1回目に配布するので、毎回持参すること。教科書は使用しない。

参考書:『地球生物学』(池谷仙之・北里 洋著, 東京大学出版会, 2004)、『地球学へのいざない』(OMUPユニヴァ編集部編, 大阪公立大学出版会, 2003)、『地球学入門』(酒井治孝著, 東海大学出版会, 2003)、『生命と地球の歴史』(丸山茂徳・磯崎行雄著, 岩波新書, 1998)、『地質学1』(平 朝彦著, 岩波書店, 2001)など。

[科目ナンバー : GE GEO 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------|-----|---|------|----|------|-------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 一般地球学 A - II | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 篠田 圭司(理) 中村 英人(理 特任) |
| 191 | 英語表記 | General Geosciences A-II | | | | | | |

●科目の主題

地球は様々な物質から構成され、温度・圧力の変化にとともない状態変化を起こす。また、地球誕生以来、時間の経過に伴って地球は様々な変遷を経てきた。地球物質の多様性と時間的経過の観点から地球を定量的に理解するために、基本的な法則をもとにして、地球を構成する物質の特徴と年代の決定法、それに伴う地球の活動を概説する。

●授業の到達目標

1. 万有引力の法則から地球や太陽の質量、太陽までの距離を定量的に求めることができること。
2. 波の屈折の法則などから地球内部構造・組成を定量的に求めることができること。
3. 太陽定数、熱放射の式から地球の平均気温、温室効果を定量的に求めることができること。
4. 放射性同位元素の崩壊の法則などから、地球の形成年代を定量的に求めることができること。
5. 温室効果ガスや生元素として重要な炭素の地球上での物質循環について、様々な時空間スケールでの生物学的・物理化学的・地質学的過程と、その気候システムにおける役割を理解すること。

●授業内容・授業計画

授業テーマとキーワード

第1回; 力と運動、地球の質量、太陽の質量などの求め方(万有引力の法則、ケプラーの法則)

第2回; 地球の内部構造(地震波、波の屈折の法則(スネルの法則))

第3回; 地球を構成する物質(コンドライト隕石、核、マントル)

第4回; 岩石と鉱物(球の最密充填、面心立方格子)

第5回; 大気の運動(転向力)

第6回; 地球環境と水(水の化学的特徴)

第7回; 大気の温室効果1(プランクの熱放射の式、温室効果ガス)

第8回; 大気の温室効果2(太陽定数)

第9回; 元素と同位体(放射性同位体、半減期)

第10回; 年代測定法1(放射性同位体を用いた年代測定、14C)

第11回; 年代測定法2(放射性同位体を用いた年代測定、アイソクロン)

第12回; 安定同位体地球化学(安定同位体)

第13回; 炭素循環と地球環境 1(炭素循環、人為的二酸化炭素排出の影響)

第14回; 炭素循環と地球環境 2(暗い太陽のパラドックス、気候システムの安定化機構)

第15回; 試験と解説

●事前・事後学習の内容

授業前に、次回の講義に関する本シラバスのキーワードについて事前に概略を確認し、授業に臨むこと。また、授業後に授業内容に関する問題を課すので、次

回の授業までに解答し提出すること。

●**評価方法**

主として期末試験により評価する。

●**受講生へのコメント**

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の地学の未履修者には、地学の基礎的事項の自習を期待する。高校の物理・化学・数学の基礎的な知識を前提とする。毎回授業内容に関して理解を深めるた

めに、基本的な計算問題を課すので、計算機を持参すること。地球学科の必修科目である。

●**教材**

(参考書)

地球学入門 (酒井治孝、東海大学出版)
 基礎地球科学 (西村祐二郎他、朝倉書店)
 図説地球科学 (岩波書店)
 授業内容に関連した印刷物を配布する。

[科目ナンバー : GE GEO 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------------|-----|---|------|----|------|-------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 一般地球学 B - I | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 井上 淳 (理) 金 幸隆 (理 特任) |
| 192 | 英語表記 | General Geosciences B- I | | | | | | |

●**科目の主題**

現在、私達が持っている地球像や地球の歴史に関する知識や概念は太古からあったものではない。この授業では、現在考えられている地球システムや地球の歴史がどのような実験や観察にもとづいているか、地球像や地球史に対しての考え方が古代から現代にかけてどのように変化してきたのかなど、地球科学についての基礎的な事項を地球科学の発展過程と共に解説する。

●**授業の到達目標**

1. 地球システムの基本的な事項を理解する。
2. 現在私達が持っている地球像がどのような観察事象に基づき、どのようにして得られているかを理解する。
3. 太古から現在までの時代を通して、地球像や地球の歴史に対する考え方がどのように変化してきたかを理解する。
4. 現在という時代が、地球の歴史の中でどのように位置づけられるかを理解する。

●**授業内容・授業計画**

1. 自然科学と地球科学：自然科学の考え方と地球科学
2. 地球の形と大きさ
3. 地球の質量と密度
4. 地球の年齢
5. 地質学の始まりと岩石の種類と成因
4. 堆積物と層序
6. 地球の歴史
7. 地球環境の変遷と生物進化

8. 地球上の大気循環
9. 地球上の気候分布
10. 氷期と間氷期
11. 第四紀の気候変動に伴う自然環境変遷
12. 人類の発生とホモ属までの進化,
13. ホモ・サピエンスまでの進化
14. 氷河の質量収支と流動様式および分布
15. 氷河の拡大と縮小による地形変化

●**事前・事後学習の内容**

行うべき予習や調べておくトピックや内容について授業内で指示するので、事前に学習すること。複数の回にまたがって、授業内容が関連することがあるので、授業後、次の授業までに十分に復習をしておくこと。

●**評価方法**

期末試験の成績 (60%) と授業内の各レポート・最終レポートの内容 (40%) で評価する。詳しくはガイダンスで説明する。

●**受講生へのコメント**

主に高等学校で地学を履修したことのない学生を対象として授業を行う。私語や携帯電話の使用など授業態度の悪い学生は、大きく減点するので注意すること。一般地球学 B - II よりも基礎的な内容を扱うので、なるべく B - II よりも先に履修すること。

●**教材**

指定しない。毎回の授業でプリントを配布する。

[科目ナンバー : GE GEO 01 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|------|----|------|--------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 一般地球学B-Ⅱ | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 柵山 徹也 (理) 金 幸隆 (理 特任) |
| 193 | 英語表記 | General Geosciences B-Ⅱ | | | | | | |

●科目の主題

地球で観測される様々な変動現象に関する基本的な観測事実と解釈を学ぶことによって、主に固体地球の誕生・進化プロセスや、我々の住む地球とそこで起こっている地学現象の基本的なメカニズムを理解することを目標とする。

●授業の到達目標

- ・地球の持っている大スケールの特徴（勢力圏，地形，内部構造）に関する理解
- ・地球史を理解する上で重要な岩石の種類とそれらの形成過程の理解
- ・プレートテクトニクス論とその成立過程の理解
- ・観測される変動現象（地殻変動，地震や断層運動，火山活動）の特徴とそれらの成因に関する理解
- ・過去の地層・岩石から推定されている日本列島の形成史に関する理解
- ・過去の地層・岩石から推定されている地球と生命の進化に関する理解

●授業内容・授業計画

1. 地球圏の拡がり
2. 固体地球の構成物質1：太陽・地球の化学組成
3. 固体地球の構成物質2：岩石の種類と形成過程
4. 固体地球の内部構造
5. 地球の形成と分化過程
6. プレートテクトニクス1：地球の変動現象とプレート運動

7. プレートテクトニクス2：プレートテクトニクス論成立の歴史
8. 火山とマグマ1：マグマの生成から噴火にいたる過程
9. 火山とマグマ2：噴火タイプと火山災害
10. 地震と断層運動1：地震発生メカニズム
11. 地震と断層運動2：地震に伴う災害
12. 固体地球圏の物質循環1：地球物理学的観測
13. 固体地球圏の物質循環2：地球化学的観測
14. 日本列島の形成史
15. 地球と生命の共進化

●事前・事後学習の内容

学習内容を理解し、身に着けるために、事前に参考書で該当項目を予習してから授業に臨み、授業後に改めて参考書を読みながら復習を行うことが望ましい。

●評価方法

各項目に対する講義内容の理解をまとめたレポート(30%)と期末試験の成績(70%)で評価する。

●受講生へのコメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の物理，化学，数学の基礎を理解しておくこと。

●教材

参考書：「ニューステージ新地学図表」(浜島書店)，「地球学入門」(東海大学出版部)，「地質学1地球のダイナミックス」(岩波書店)

[科目ナンバー : GE GEO 01 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 建設地学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 升本 眞二 (理) 他 |
| 194 | 英語表記 | Geology for Engineers | | | | | | |

●科目の主題

固体地球に関わる諸現象の理解は、建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって不可欠な素養である。本科目は、地球に直接携わる技術者となる学生を対象とし、地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、人為的環境変化、自然災害と防止に関する基礎的知識を習得する。

●授業の到達目標

建設、環境、防災などの工学分野に関連する地質学・地球科学の基礎知識を修得する。

●授業内容・授業計画

1. 代表的な造岩鉱物の紹介と観察 (篠田)
2. 岩石の構成鉱物と分類：岩石の成因、分類、命名法 (奥平)
3. 地震と地震波 (山口)
4. 地質時代の区分と化石 (足立)
5. 地球の歴史：地球の成り立ちと生い立ち，地球史の研究手法 (江崎)
6. 堆積岩の性質と分類 (別所)
7. 都市の地盤構造と災害：平野の地層構成・地盤

- 沈下・地震時の地盤挙動（三田村）
8. 第四紀堆積盆地と平野・丘陵・山地の地形発達（井上）
 9. 火山噴火過程と火山噴出物の種類（柵山）
 10. GISの基礎：GISの基礎概念、GISによる地球情報の処理（根本）
 11. リモートセンシングの基礎と応用（升本）
 12. 都市地盤の人工改変と防災（原口）
 13. 大阪の水資源とその管理（益田）
 14. 日本列島の中古生代付加体（栗本）
 15. 総合討論

●事前・事後学習の内容

事前に各回の内容に関連する書籍や資料を通読しておくこと。授業後は、各回の内容を十分に復習すること。

●評価方法

小テスト・レポートの成績で評価する。

●受講生へのコメント

「建設地学実験」と連動した講義を行うので、必ず同時に受講すること。

●教材

資料を配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 建設地学実験 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 升本 眞二（理）他 |
| 195 | 英語表記 | Geosciences, Laboratory Exercises for Engineers | | | | | | |

●科目の主題

現在の建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって、地球に対する基礎知識が不可欠である。具体的な実験および実習を通じて、地球物質の特性、地球の進化および地球環境についての認識を深める。

●授業の到達目標

建設、環境、防災などの工学分野に関連する地質学・地球科学の技術や手法の基礎を修得する。

●授業内容・授業計画

下記の項目について、実習・実験を行う。

1. 結晶によるX線回折とX線回折法による鉱物同定（篠田）
2. 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類、肉眼・顕微鏡による観察法（奥平）
3. 地震波データの特徴の読み取り、震源の決定・地殻の厚さの推定（山口）
4. 大型～微化石の観察と記載（足立）
5. 古生物から知る地球の歴史：地球史における生物変遷（江崎）
6. 砂岩組成からの供給源の推定（別所）
7. 地盤特性に関わる砂・粘土の簡易実験及び地盤データベースで見る平野域の地盤特性（三田村）

8. 様々な地質図法と地質構造の理解（井上）
9. 火山噴出物を作る地形の多様性（柵山）
10. GISによる地球情報の処理と可視化（根本）
11. リモートセンシングの基本処理と環境指標の抽出（升本）
12. 大都市（東京・大阪）の自然災害リスク地形の判読（原口）
13. 都市の水環境-大和川の水質汚濁（益田）
14. 中生代付加体の地質と構造形成（栗本）
15. 総合討論

●事前・事後学習の内容

事前に各回の内容に関連する書籍や資料をよく読んでおくこと。授業内で行った実習内容について、授業後レポートなどを提出すること。

●評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

●受講生へのコメント

「建設地学」と連動した実習・実験を行うので、必ず同時に受講すること。

●教材

テキストと資料を配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 地球学実験 A | 単位数 | 2 | 授業形態 | 実験 | 担当教員 | 根本 達也（理）他 |
| 196 | 英語表記 | Geosciences, Laboratory Exercise A | | | | | | |

●科目の主題

地球の大部分は、我々が直接見たり触れたりするこ

とができない。しかし、広範な知識や専門的な技術を用いることで、ある程度の精度をもってその概要を知

ることができる。本実験では、こうした知識や技術の基本的な事項について、実験および演習を通して幅広く習熟する。

●**授業の到達目標**

- ・地質学の基礎となる地質図の基本的な読み方・書き方を理解する。
- ・岩石の構成鉱物と内部構造、岩石の分類および命名法を理解する。
- ・堆積岩の構成と分類を理解する。
- ・空中写真判読、GISによる地形解析・各種表現方法を理解する。
- ・地球の大きさ、緯度・経度および地磁気偏角を総合的に理解する。
- ・パソコンを用いたデータの集計や解析と標準誤差の取り扱いを理解する。

●**授業内容・授業計画**

- 第1・2回 地質図の描き方と読み方（井上）
- 第3・4回 岩石の構成鉱物と内部構造、岩石の分類および命名法（奥平）
- 第5・6回 火山灰や砂岩の構成鉱物の抽出と観察（別所）
- 第7・8回 大型～微化石の抽出と観察・記載（足立）

- 第9・10回 地形の解析と可視化：空中写真判読、GISによる地形解析・各種表現（根本）
- 第11・12回 緯度・経度、地球の大きさおよび地球の磁場（山口）
- 第13・14回 パソコンによるデータ処理：測定値の基本処理（升本）
- 第15回 レポート

●**事前・事後学習の内容**

各回の実習内容について事前にテキストをよく読んでおくこと。授業内で行った実習内容について、授業後レポートなどを提出すること。

●**評価方法**

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

●**受講生へのコメント**

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学A-I・II」もしくは「一般地球学B-I・II」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。授業内容の順番を入れ替えることがある。関数電卓を用意すること。

●**教材**

テキストを配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 01 02]

| | | | | | | | | |
|-----------------|------|------------------------------------|-----|---|------|----|------|--------------|
| 掲載番号 197 | 科目名 | 地球学実験 B | 単位数 | 2 | 授業形態 | 実験 | 担当教員 | 三田村 宗樹 (理) 他 |
| | 英語表記 | Geosciences, Laboratory Exercise B | | | | | | |

●**科目の主題**

地球の大部分は、我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、広範な知識や専門的な技術を用いることで、ある程度の精度をもってその概要を知ることができる。本実験では、こうした知識や技術の基本的な事項について、実験および演習を通して幅広く習熟する。

●**授業の到達目標**

- ・GISによる地球情報の処理や地形解析について理解する。
- ・空中写真などを用いて、地形図の読み方を理解した上で、活断層の調査法を理解する。
- ・粉末X線回折による鉱物同定法を理解する。
- ・地質時代における生物変遷と絶滅生物の形態と機能について理解する。
- ・河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応について理解する。
- ・マグマの噴火機構と噴火様式を理解する。

●**授業内容・授業計画**

- 第1・2回 3D数値地形図判読による東京・大阪

- 主要部の自然災害危険度の評価（原口）
- 第3・4回 ボーリングデータベースを用いた大阪平野の地層分布と帯水層の評価（三田村）
- 第5・6回 地質図から読み解く日本列島の形成史（栗本）
- 第7・8回 鉱物の同定法：鉱物によるX線の回折（回折格子によるレーザーの回折）、粉末X線回折による鉱物同定（篠田）
- 第9・10回 地球史における生物変遷と化石記録（江崎）
- 第11・12回 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応（益田）
- 第13・14回 岩石密度と固体地球の成層構造、溶岩流がつくる地形の多様性（柵山）
- 第15回 まとめのレポート作成

●**事前・事後学習の内容**

各回の実習内容について事前にテキストをよく読んでおくこと。授業内で行った実習内容について、授業後レポートなどを提出すること。

●評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

●受講生へのコメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無

を問わないが、「一般地球学A-I・II」を受講しておくか、同時に受講の方が望ましい。授業内容の順番を入れ替えることがある。関数電卓を用意すること。

●教材

テキストを配布する。

[科目ナンバー : GE GRA 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|------|------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 図形科学 I | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 瀧澤 重志 (工) |
| 198 | 英語表記 | Graphic Science I | | | | | | |

●科目の主題

図形科学Iは、図法幾何学を基礎とする作図法を、実際に手を動かしながら学ぶ科目である。加えて、様々な形やそれらを分類する概念があることも学ぶ。

●授業の到達目標

各種投影法の内容を理解し、2次元の図面から3次元の立体構成やその逆がイメージできるようになり、実際にそれらの概念を用いて作図できるようになること。加えて、様々な立体図形を特徴づける幾何学的な性質について理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 基礎作図
- 第3週 投影法の概要と正投影
- 第4週 軸測投影
- 第5週 透視投影：直接法1
- 第6週 透視投影：直接法2
- 第7週 透視投影：消点法1
- 第8週 透視投影：消点法2
- 第9週 透視投影：距離点法
- 第10週 立体図形

- 第11週 図形の演算：切断
- 第12週 図形の演算：展開
- 第13週 図形の演算：陰影
- 第14週 透視投影：簡易焦点法
- 第15週 学期末試験

●事前・事後学習の内容

事前学習では、教科書の内容でわからない点を調べておくことが望ましい。事後学習は、毎回出される演習課題を行うことである。

●評価方法

提出課題 (45%)、及び学期末試験の結果 (55%)により評価を行う。なお、出席が3/5に満たない場合は単位を認めない。

●受講生へのコメント

授業の中で作図の演習を行うため、直定規 (透明30cm程度)、三角定規 (24cm程度)、製図用コンパスなどの作図用具が必要となる。詳細は初回の授業のガイダンスの際に説明する。

●教材

「図形科学I」(大阪市立大学生協で販売)を使用予定。演習課題は授業の都度に配布する。

[科目ナンバー : GE GRA 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 図形科学 II | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 瀧澤 重志 (工) |
| 199 | 英語表記 | Graphic Science II | | | | | | |

●科目の主題

図形科学IIでは、図を介してコミュニケーションを行う能力を養成するデザイン言語教育の一環として、コンピューターグラフィクス(Blender)の講義・演習を行う。

●授業の到達目標

各種投影法の内容を理解し、2次元の図面から3次元の立体構成やその逆がイメージできるようになり、実際にそれらの概念を用いて作図できるようになること。

と。加えて、様々な立体図形を特徴づける幾何学的な性質について理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Blenderの概要
- 第3週 モデリング1
- 第4週 モデリング2
- 第5週 ライティング, カメラワーク, ワールド設定

- 第6週 マテリアル, テクスチャ
- 第7週 レンダリング
- 第8週 アニメーション
- 第9週 シミュレーション
- 第10週 BlenderのためのPython入門
- 第11週 Blender + Python 1
- 第12週 Blender + Python 2
- 第13週 Blender + Python 3
- 第14週 実技試験
- 第15週 最終課題の提出・講評

●事前・事後学習の内容

事前学習として、各講義に関連するBlenderのWeb教材等を眺めておくことが望ましい。事後学習は、毎回の出題される演習課題を完成させることである。

●評価方法

各回の提出課題(35%)、実技試験の結果(35%)、及

び最終課題の提出作品(30%)により評価を行う。なお、出席が3/5に満たない場合は単位を認めない。

●受講生へのコメント

投影法の知識などが必要となるので、図形科学Iを事前に履修しておくことが望ましい。授業中に演習の時間を確保するが、作品を完成させるためには授業時間を超える取り組みが必要となることが多い。このため、履修学生自身が所有するコンピューターや学術情報センターの端末を利用する必要がある。また、インターネットメールやUSBメモリなども必要になる。

●教材

教科書や参考書はガイダンス時に指示する。なお、過去の授業の提出作品は、次のURLのホームページに掲載されている。

http://graphics.arch.eng.osaka-cu.ac.jp/?page_id=1092

[科目ナンバー : GE WRI 11 01]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|---------------------------------------|-----|---|----------|----------|------|-------------|
| 掲載番号 200 | 科目名 | 基礎文章力 向上セミナーS | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 大坪 亮介 (非常勤) |
| | 英語表記 | Seminar for basic academic writing | | | | | | |

●科目の主題

大学の講義や演習科目で課されるレポートでは、自らの考えを論理的に伝えるために、高校までの教育で修得してきたものとは異なった文章力が求められる。ただし、それは文章表現に関する基本的な考えを学び、何度か練習を行うことで、容易に身につけることができるものである。この科目では、大学で求められる文章表現力を演習形式で伝授する。

●授業の到達目標

自らの考えを論理的かつ明確に第三者に伝えるためのアカデミック・ライティング技術の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

まず、まとまった文章を要約する訓練から始まり、小論文を作成するためのテーマ設定、アウトラインの構想、執筆と推敲といった過程を通じて、大学で身につけるべき文章表現法を習得する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文章を要約する (1回目:「数学とは何か」をアウトラインに分解する)
- 第3回 文章を要約する (1回目:「数学とは何か」を要約する)
- 第4回 文章を要約する (2回目:「使用後を考えなかった兵器」をアウトラインに分解する)
- 第5回 文章を要約する (2回目:「使用後を考えなかった兵器」を要約する)
- 第6回 小論文を作成する1回目:「情報とは何か」

(アウトラインの構想を立てる)

- 第7回 小論文を作成する1回目:「情報とは何か」(アウトラインの構想を修正する)
- 第8回 小論文を作成する1回目:「情報とは何か」(本文を書く)
- 第9回 小論文を作成する1回目:「情報とは何か」(本文を完成させる)
- 第10回 小論文を作成する2回目:「選択課題その①」(アウトラインの構想を立てる)
- 第11回 小論文を作成する2回目:「選択課題その①」(アウトラインの構想を修正する)
- 第12回 小論文を作成する2回目:「選択課題その①」(本文を書く)
- 第13回 小論文を作成する2回目:「選択課題その①」(本文を完成させる)
- 第14回 学期末レポート (小論文)を作成する:「選択課題その②」(アウトラインの構想を立てる)
- 第15回 学期末レポート (小論文)を作成する:「選択課題その②」(アウトラインの構想を修正する)

●事前・事後学習の内容

この授業では、毎回課される課題を授業後に宿題として完成させ、次の授業に備えることが必要である。

●評価方法

毎回の課題提出 (50%)、学期末の小論文 (50%)

●受講生へのコメント

この授業では、まず文章の設計図（アウトライン）を構想し、それに基づいて文章の各パートを組み立てていくという文章作成法を伝授する。これはむしろ理科系の学生に向けた文章構成法であると言える。高校までの国語の作文とはまったく違ったやり方を教える

ので、「国語」が嫌いだった学生の受講も大歓迎する。なお各クラスとも、受講生数は15～20名程度とする。受講希望者多数の場合、抽籤をおこなう。

●教材

授業中にプリントを配布する。

[科目ナンバー : GE WRI 22 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------|-----|---|----------|----------|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎文章力 向上セミナー T | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 石川 優 (非常勤) 佐伯 綾那 (非常勤) 渡辺 拓也 (非常勤) |
| 201 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

大学の講義や演習科目で課されるレポートでは、自らの考えを論理的に伝えるために、高校までの教育で修得してきたものとは異なった文章力が求められる。ただし、それは文章表現に関する基本的な考えを学び、何度か練習を行うことで、容易に身につけることができるものである。この科目では、大学で求められる文章表現力を演習形式で伝授する。

●授業の到達目標

自らの考えを論理的かつ明確に第三者に伝えるためのアカデミック・ライティング技術の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

まず、まとまった文章を要約する訓練から始まり、小論文を作成するためのテーマ設定、アウトラインの構想、執筆と推敲といった過程を通じて、大学で身につけるべき文章表現法を習得する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文章を要約する（1回目：「数学とは何か」をアウトラインに分解する）
- 第3回 文章を要約する（1回目：「数学とは何か」を要約する）
- 第4回 文章を要約する（2回目：「使用後を考えなかった兵器」をアウトラインに分解する）
- 第5回 文章を要約する（2回目：「使用後を考えなかった兵器」を要約する）
- 第6回 小論文を作成する1回目：「情報とは何か」（アウトラインの構想を立てる）
- 第7回 小論文を作成する1回目：「情報とは何か」（アウトラインの構想を修正する）
- 第8回 小論文を作成する1回目：「情報とは何か」（本文を書く）

- 第9回 小論文を作成する1回目：「情報とは何か」（本文を完成させる）
- 第10回 小論文を作成する2回目：「選択課題その①」（アウトラインの構想を立てる）
- 第11回 小論文を作成する2回目：「選択課題その①」（アウトラインの構想を修正する）
- 第12回 小論文を作成する2回目：「選択課題その①」（本文を書く）
- 第13回 小論文を作成する2回目：「選択課題その①」（本文を完成させる）
- 第14回 学期末レポート（小論文）を作成する：「選択課題その②」（アウトラインの構想を立てる）
- 第15回 学期末レポート（小論文）を作成する：「選択課題その②」（アウトラインの構想を修正する）

●事前・事後学習の内容

この授業では、毎回課される課題を授業後に宿題として完成させ、次の授業に備えることが必要である。

●評価方法

毎回の課題提出（50%）、学期末の小論文（50%）

●受講生へのコメント

この授業では、まず文章の設計図（アウトライン）を構想し、それに基づいて文章の各パートを組み立てていくという文章作成法を伝授する。これはむしろ理科系の学生に向けた文章構成法であると言える。高校までの国語の作文とはまったく違ったやり方を教えるので、「国語」が嫌いだった学生の受講も大歓迎する。なお各クラスとも、受講生数は15～20名程度とする。受講希望者多数の場合、抽籤をおこなう。

●教材

授業中にプリントを配布する。

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------|-----|---|----------|----------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 基礎文章力 向上セミナーH | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 渡辺 拓也 (非常勤) |
| 202 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

大学の講義や演習科目で課されるレポートでは、自らの考えを論理的に伝えるために、高校までの教育で修得してきたものとは異なった文章力が求められる。ただし、それは文章表現に関する基本的な考えを学び、何度か練習を行うことで、容易に身につけることができるものである。この科目では、大学で求められる文章表現力を演習形式で伝授する。

●授業の到達目標

自らの考えを論理的かつ明確に第三者に伝えるためのアカデミック・ライティング技術の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

まず、まとまった文章を要約する訓練から始まり、小論文を作成するためのテーマ設定、アウトラインの構想、執筆と推敲といった過程を通じて、大学で身につけるべき文章表現法を習得する。

第1回 ガイダンス

第2回 文章を要約する (1回目:「数学とは何か」をアウトラインに分解する)

第3回 文章を要約する (1回目:「数学とは何か」を要約する)

第4回 文章を要約する (2回目:「使用後を考えなかった兵器」をアウトラインに分解する)

第5回 文章を要約する (2回目:「使用後を考えなかった兵器」を要約する)

第6回 小論文を作成する1回目:「情報とは何か」(アウトラインの構想を立てる)

第7回 小論文を作成する1回目:「情報とは何か」(アウトラインの構想を修正する)

第8回 小論文を作成する1回目:「情報とは何か」(本文を書く)

第9回 小論文を作成する1回目:「情報とは何か」(本文を完成させる)

第10回 小論文を作成する2回目:「選択課題その①」(アウトラインの構想を立てる)

第11回 小論文を作成する2回目:「選択課題その①」(アウトラインの構想を修正する)

第12回 小論文を作成する2回目:「選択課題その①」(本文を書く)

第13回 小論文を作成する2回目:「選択課題その①」(本文を完成させる)

第14回 学期末レポート (小論文)を作成する:「選択課題その②」(アウトラインの構想を立てる)

第15回 学期末レポート (小論文)を作成する:「選択課題その②」(アウトラインの構想を修正する)

●事前・事後学習の内容

この授業では、毎回課される課題を授業後に宿題として完成させ、次の授業に備えることが必要である。

●評価方法

毎回の課題提出 (50%)、学期末の小論文 (50%)

●受講生へのコメント

この授業では、まず文章の設計図 (アウトライン) を構想し、それに基づいて文章の各部分を組み立てていくという文章作成法を伝授する。これはむしろ理科系の学生に向けた文章構成法であると言える。高校までの国語の作文とはまったく違ったやり方を教えるので、「国語」が嫌いだった学生の受講も大歓迎する。なお各クラスとも、受講生数は15~20名程度とする。受講希望者多数の場合、抽籤をおこなう。

●教材

授業中にプリントを配布する。

4. 外国語科目

- シラバス
英 語
- 新修外国語履修の仕方について
- 新修外国語クラス分け表
- シラバス
ドイツ語
フランス語
中国語
ロシア語
朝鮮語
日本語

英語 English

(平成19年度以降入学者用)

カリキュラム概要

日本の中学校・高等学校における英語教育は、単に技能の習熟にとどまらず、全人教育を目指すものである。本学では、これをさらに発展させ、生きたことばとしての英語の習得を目的とする。生きたことばとは、自分の考えを表現し、相手の意図を理解するために自然に使われることばを指す。そこには、コミュニケーションの道具としてだけでなく、思考の手段としてのことばも含まれる。本学において、生きたことばとしての英語の習得を達成するために、母語獲得の場合と同様に、必要以上に文法を意識することなく、ごく普通に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。

この考えに基づき、英語カリキュラムが大幅に変更された。1年生、2年生ともに25名程の少人数・習熟度別クラス編成で、必修科目のCollege English(CE)が、1年生で4時間、2年生で2時間の合計6時間提供される。本カリキュラムに基づき、先述の英語運用能力の習得を目指す。

1年生の授業は、英語が母語の教員が主に担当し、学生のレベルに合わせた英語教育を行う。前・後期ともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく伸ばすことを目標とし、リスニングとスピーキング中心のクラスと、リーディングとライティング中心のクラスをそれぞれ1時間ずつ、合計週2時間の授業を行う。前期の授業では、中学校・高等学校で習得した基本的な英語の運用能力に基づき、大学生の知的レベルにあった話題を扱い、4技能の基礎力の育成と強化を目指す。後期の授業では、前期と同レベルで、大学生の知的好奇心を満たす話題を扱いながら、授業で扱う英語の量を前期と比較して1.5倍を増やし、それに比例して英語の理解と表現に費やす時間を増やすことにより、4技能の基礎力の定着を図るとともに応用力を養成する。

2年生の授業では、1年生で培った英語運用能力の強化、即ち、基礎力のアップと応用力の習得を目的とする。前期の目標は、CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることにある。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。後期の授業目標は、所属学部の専門性を考慮し、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることにある。具体的には、専門に近い内容を扱い、リーディングとライティングに重点を置いた授業を行う。これにより、専門科目で使用される英語に対処できる応用力の習得を目指す。

さらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、理解力を磨くことを目的とした自由選択科目のAdvanced College English(ACE)を開講する。

英語カリキュラム編制表

| 必修科目 | | 選択科目 | |
|------|----|--------------|-------|
| | | 月曜 | 水曜 |
| 1年 | 前期 | CE I | CE II |
| | 後期 | CE III | CE IV |
| 2年 | 前期 | CE V (※2) | |
| | 後期 | CE VI (※1・2) | |

※1. ただし、医学部医学科は2年前期に開講する。

※2. ただし、医学部看護学科は開講しない。

○単位数：各科目とも1単位。

○クラス指定制（共通テスト等の成績による）である。クラス分けは学期当初又はそれまでに全学ポータル等に掲示する。

○College English I～VIのいずれかの成績が「F(E)」(不合格)又は「欠」であった者は、その科目については「再度履修者向けクラス」で履修しなければならない。

クラス分け表

CE I～CEIV

| | CL I | EJ I | SMH I | TN I |
|--------------------|------|------|-------|------|
| Advanced | a | a | a | a |
| Upper Intermediate | b～e | b～e | b～e | b～e |
| Intermediate | f～i | f～i | f～i | f～i |
| Lower Intermediate | j～n | j～n | j～n | j～l |
| Elementary | o | o | o | m |

CE V～CEVI

| | C II | E II | J II | L II | S II | T II | H II | M II |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| Advanced | a～b | a～b | a～b | a～b | a～b | a～c | a | a～c |
| Intermediate | c～e | c～e | c～e | c～e | c～e | d～g | b～c | |
| Elementary | f～h | f～h | f～g | f～g | f～g | h～k | d～e | |

履修科目内容

<1年>

[科目ナンバー : GE ENG 01 01]

| 掲載番号 | 科目名 | College English I (CE I) | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
|------|------|--------------------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 203 | 英語表記 | College English I (CE I) | | | | | | |

●科目の主題

授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて大筋を理解する力、並びに、自分の考えを口頭で表現しようとする力を養う。

●授業の到達目標

中学・高校で習得した基本的な英語のリスニング・スピーキングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。

●授業内容・授業計画

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リスニングからスピーキングへ段階的に移行する。
- (2) リスニングとスピーキングの双方向で言語運用を行う。
- (3) スピーキングを通してリスニングを強化する。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じてリスニング・スピーキング能力の向上を目的とした課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、60：40とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。

●受講生へのコメント

本科目は、リスニングとスピーキングが中心である。音声英語をすばやく理解する力と時間をかけても適切に表現する力を身につけてほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 | クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|--------|-------|----------------|---------|-------|----------------|
| CL I a | 月・1 | [Chen] | TN I a | 月・3 | (Jacobs) |
| CL I b | 月・1 | (Fernandes) | TN I b | 月・3 | (Fenstermaker) |
| CL I c | 月・1 | (Quinn) | TN I c | 月・3 | (Quinn) |
| CL I d | 月・1 | (Thorson) | TN I d | 月・3 | (McAvoy) |
| CL I e | 月・1 | (Fenstermaker) | TN I e | 月・3 | (Fernandes) |
| CL I f | 月・1 | (Walsh) | TN I f | 月・3 | [Mansfield] |
| CL I g | 月・1 | (McAvoy) | TN I g | 月・3 | (Thorson) |
| CL I h | 月・1 | Richards | TN I h | 月・3 | (Vaughan) |
| CL I i | 月・1 | (Stepanczuk) | TN I i | 月・3 | (Silva) |
| CL I j | 月・1 | (Dalby) | TN I j | 月・3 | (Jones) |
| CL I k | 月・1 | (Jones) | TN I k | 月・3 | (Dalby) |
| CL I l | 月・1 | (Vaughan) | TN I l | 月・3 | (Stepanczuk) |
| CL I m | 月・1 | [高森] | TN I m | 月・3 | (Sievert) |
| CL I n | 月・1 | (Sievert) | SMH I a | 月・4 | (Quinn) |
| CL I o | 月・1 | [Leigh] | SMH I b | 月・4 | (Fernandes) |
| EJ I a | 月・2 | (Fernandes) | SMH I c | 月・4 | (Fenstermaker) |
| EJ I b | 月・2 | (Quinn) | SMH I d | 月・4 | [高森] |
| EJ I c | 月・2 | [Mansfield] | SMH I e | 月・4 | (Jacobs) |
| EJ I d | 月・2 | (Jacobs) | SMH I f | 月・4 | (Dalby) |
| EJ I e | 月・2 | (Thorson) | SMH I g | 月・4 | (McAvoy) |
| EJ I f | 月・2 | (McAvoy) | SMH I h | 月・4 | (Thorson) |
| EJ I g | 月・2 | (Vaughan) | SMH I i | 月・4 | [Mansfield] |
| EJ I h | 月・2 | [Chen] | SMH I j | 月・4 | (Sievert) |
| EJ I i | 月・2 | (Fenstermaker) | SMH I k | 月・4 | (Silva) |
| EJ I j | 月・2 | (Sievert) | SMH I l | 月・4 | (Vaughan) |
| EJ I k | 月・2 | Richards | SMH I m | 月・4 | (Jones) |
| EJ I l | 月・2 | (Dalby) | SMH I n | 月・4 | (Stepanczuk) |
| EJ I m | 月・2 | (Walsh) | SMH I o | 月・4 | [Leigh] |
| EJ I n | 月・2 | (Stepanczuk) | | | |
| EJ I o | 月・2 | (Jones) | | | |

[科目ナンバー : GE ENG 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | College English II (CE II) | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる。 |
| 204 | 英語表記 | College English II (CE II) | | | | | | |

●科目の主題

授業では大学生の知的レベルに合った話題を扱い、英語で書かれた文章の大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英文で表現する力を養う。

●授業の到達目標

中学・高校で習得した基本的な英語のリーディング・ライティングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。

●授業内容・授業計画

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リーディングからライティングへ段階的に移行する。
- (2) リーディングとライティングの双方向で言語運用を行う。
- (3) ライティングを通してリーディングを強化する。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じてリーディング・ライティング能力の向上を目的とした課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、70：30とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。

●受講生へのコメント

本科目は、リーディングとライティングが中心である。英文を正しく読み取る力と英語母語話者に通じる基本的な表現力を身につけてほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 | クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|--------|-------|----------------|---------|-------|-----------|
| EJ I a | 水・1 | [Chen] | SMH I a | 水・3 | (Silva) |
| EJ I b | 水・1 | (Silva) | SMH I b | 水・3 | (Micklas) |
| EJ I c | 水・1 | (Dalby) | SMH I c | 水・3 | (Dalby) |
| EJ I d | 水・1 | (多賀) | SMH I d | 水・3 | (Walsh) |
| EJ I e | 水・1 | (Micklas) | SMH I e | 水・3 | (Jones) |
| EJ I f | 水・1 | (Sievert) | SMH I f | 水・3 | (Hudgens) |
| EJ I g | 水・1 | (Fenstermaker) | SMH I g | 水・3 | (Sievert) |
| EJ I h | 水・1 | [Leigh] | SMH I h | 水・3 | (多賀) |
| EJ I i | 水・1 | (Walsh) | SMH I i | 水・3 | (Vaughan) |
| EJ I j | 水・1 | (Hudgens) | SMH I j | 水・3 | (McAvoy) |
| EJ I k | 水・1 | (McAvoy) | SMH I k | 水・3 | (Lau) |

| | | | | | |
|--------|-----|----------------|---------|-----|----------------|
| EJ I l | 水・1 | (Selzer) | SMH I l | 水・3 | (Thorson) |
| EJ I m | 水・1 | (Vaughan) | SMH I m | 水・3 | (Fenstermaker) |
| EJ I n | 水・1 | (Thorson) | SMH I n | 水・3 | (Selzer) |
| EJ I o | 水・1 | (Lau) | SMH I o | 水・3 | Richards |
| CL I a | 水・2 | (Micklas) | TN I a | 水・4 | (Jones) |
| CL I b | 水・2 | (Jones) | TN I b | 水・4 | (Sievert) |
| CL I c | 水・2 | (Silva) | TN I c | 水・4 | (Micklas) |
| CL I d | 水・2 | (多賀) | TN I d | 水・4 | (Silva) |
| CL I e | 水・2 | (Walsh) | TN I e | 水・4 | (Dalby) |
| CL I f | 水・2 | [高森] | TN I f | 水・4 | (Walsh) |
| CL I g | 水・2 | (Hudgens) | TN I g | 水・4 | (Vaughan) |
| CL I h | 水・2 | (Vaughan) | TN I h | 水・4 | (Thorson) |
| CL I i | 水・2 | (Dalby) | TN I i | 水・4 | (Hudgens) |
| CL I j | 水・2 | (Selzer) | TN I j | 水・4 | (Lau) |
| CL I k | 水・2 | (Thorson) | TN I k | 水・4 | (Selzer) |
| CL I l | 水・2 | (Fenstermaker) | TN I l | 水・4 | (Fenstermaker) |
| CL I m | 水・2 | (McAvoy) | TN I m | 水・4 | (McAvoy) |
| CL I n | 水・2 | (Lau) | | | |
| CL I o | 水・2 | [Chen] | | | |

[科目ナンバー : GE ENG 01 03]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|---------------------------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 205 | 科目名 | College English III (CE III) | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる。 |
| | 英語表記 | College English III (CE III) | | | | | | |

●科目の主題

授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解する力、並びに、自分の考えを口頭で適切に表現する力を養う。

●授業の到達目標

前期の授業を発展させ、リスニング・スピーキングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。

●授業内容・授業計画

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。前期と比べ、扱う言語データ量(音声)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にスピーキングに移行する。
- (2) リスニングとスピーキングを強化しながら、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) スピーキング力を向上させることにより、リスニング力をさらに強化する。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じてリスニング・スピーキング能力の向上を目的とした課題(予習・復習)を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、60：40とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。

●受講生へのコメント

本科目は、リスニングとスピーキングが中心である。前期に習得した基本的な技能を踏まえ、要点を聞き取り、相手に自分の思いをうまく伝える力を身につけてほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 | クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|--------|-------|----------------|---------|-------|----------------|
| CL I a | 月・1 | [Leigh] | TN I a | 月・3 | (Dalby) |
| CL I b | 月・1 | (Dalby) | TN I b | 月・3 | (Sievert) |
| CL I c | 月・1 | (Sievert) | TN I c | 月・3 | (Silva) |
| CL I d | 月・1 | (Walsh) | TN I d | 月・3 | (McAvoy) |
| CL I e | 月・1 | (McAvoy) | TN I e | 月・3 | [Mansfield] |
| CL I f | 月・1 | (Fenstermaker) | TN I f | 月・3 | (Jones) |
| CL I g | 月・1 | (Fernandes) | TN I g | 月・3 | (Fenstermaker) |
| CL I h | 月・1 | (Quinn) | TN I h | 月・3 | (Quinn) |
| CL I i | 月・1 | (Stepanczuk) | TN I i | 月・3 | (Fernandes) |
| CL I j | 月・1 | (Vaughan) | TN I j | 月・3 | (Vaughan) |
| CL I k | 月・1 | Richards | TN I k | 月・3 | (Jacobs) |
| CL I l | 月・1 | 山本 | TN I l | 月・3 | (Thorson) |
| CL I m | 月・1 | (Thorson) | TN I m | 月・3 | (Stepanczuk) |
| CL I n | 月・1 | (Jones) | SMH I a | 月・4 | (Sievert) |
| CL I o | 月・1 | [Chen] | SMH I b | 月・4 | [Mansfield] |
| EJ I a | 月・2 | (McAvoy) | SMH I c | 月・4 | (McAvoy) |
| EJ I b | 月・2 | (Walsh) | SMH I d | 月・4 | (Silva) |
| EJ I c | 月・2 | [Mansfield] | SMH I e | 月・4 | (Dalby) |
| EJ I d | 月・2 | (Sievert) | SMH I f | 月・4 | [Chen] |
| EJ I e | 月・2 | (Dalby) | SMH I g | 月・4 | (Fenstermaker) |
| EJ I f | 月・2 | (Thorson) | SMH I h | 月・4 | (Jones) |
| EJ I g | 月・2 | Richards | SMH I i | 月・4 | [高森] |
| EJ I h | 月・2 | (Fenstermaker) | SMH I j | 月・4 | (Stepanczuk) |
| EJ I i | 月・2 | [Chen] | SMH I k | 月・4 | (Quinn) |
| EJ I j | 月・2 | (Jones) | SMH I l | 月・4 | (Jacobs) |
| EJ I k | 月・2 | (Vaughan) | SMH I m | 月・4 | (Fernandes) |
| EJ I l | 月・2 | (Fernandes) | SMH I n | 月・4 | (Thorson) |
| EJ I m | 月・2 | (Quinn) | SMH I o | 月・4 | (Vaughan) |
| EJ I n | 月・2 | (Stepanczuk) | | | |
| EJ I o | 月・2 | (Jacobs) | | | |

[科目ナンバー : GE ENG 01 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | College English IV (CE IV) | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる。 |
| 206 | 英語表記 | College English IV (CE IV) | | | | | | |

●科目の主題

授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で書かれた文章を正確に理解する力、並びに、自分の考えを英文で適切に表現する力を養う。

●授業の到達目標

前期の授業を発展させ、リーディング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。

●授業内容・授業計画

前期と比べ、扱う言語データ量(文字)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリーディングに重点を置きながら、段階的にライティングに移行する。
- (2) リーディングとライティングを強化しつつ、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) ライティング力を向上させることにより、リーディング力をさらに強化する。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じてリーディング・ライティング能力の向上を目的とした課題(予習・復習)を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、70:30とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。

●受講生へのコメント

本科目は、リーディングとライティングが中心である。長文を読んで大意を把握する力と、自分の考えを英語で的確に表現する力を身につけてほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 | クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|--------|-------|----------------|---------|-------|----------------|
| EJ I a | 水・1 | (Vaughan) | SMH I a | 水・3 | (Selzer) |
| EJ I b | 水・1 | (Lau) | SMH I b | 水・3 | (Vaughan) |
| EJ I c | 水・1 | (Selzer) | SMH I c | 水・3 | (Walsh) |
| EJ I d | 水・1 | (Thorson) | SMH I d | 水・3 | (Thorson) |
| EJ I e | 水・1 | (Sievert) | SMH I e | 水・3 | (Lau) |
| EJ I f | 水・1 | [高森] | SMH I f | 水・3 | (Sievert) |
| EJ I g | 水・1 | (Walsh) | SMH I g | 水・3 | (Hudgens) |
| EJ I h | 水・1 | (Hudgens) | SMH I h | 水・3 | (Dalby) |
| EJ I i | 水・1 | (McAvoy) | SMH I i | 水・3 | (Jones) |
| EJ I j | 水・1 | (Micklas) | SMH I j | 水・3 | (Fenstermaker) |
| EJ I k | 水・1 | (Silva) | SMH I k | 水・3 | (McAvoy) |
| EJ I l | 水・1 | (Fenstermaker) | SMH I l | 水・3 | [Chen] |

| | | | | | |
|--------|-----|----------------|---------|-----|----------------|
| EJ I m | 水・1 | (Dalby) | SMH I m | 水・3 | (Micklas) |
| EJ I n | 水・1 | (多賀) | SMH I n | 水・3 | [高森] |
| EJ I o | 水・1 | [Leigh] | SMH I o | 水・3 | (Silva) |
| CL I a | 水・2 | (Lau) | TN I a | 水・4 | (Thorson) |
| CL I b | 水・2 | (Vaughan) | TN I b | 水・4 | (Selzer) |
| CL I c | 水・2 | (Selzer) | TN I c | 水・4 | (Lau) |
| CL I d | 水・2 | (Thorson) | TN I d | 水・4 | (Walsh) |
| CL I e | 水・2 | [高森] | TN I e | 水・4 | (Vaughan) |
| CL I f | 水・2 | (Hudgens) | TN I f | 水・4 | (Dalby) |
| CL I g | 水・2 | (Dalby) | TN I g | 水・4 | (McAvoy) |
| CL I h | 水・2 | Richards | TN I h | 水・4 | (Hudgens) |
| CL I i | 水・2 | (Walsh) | TN I i | 水・4 | (Sievert) |
| CL I j | 水・2 | (Jones) | TN I j | 水・4 | (Micklas) |
| CL I k | 水・2 | (多賀) | TN I k | 水・4 | (Silva) |
| CL I l | 水・2 | (Silva) | TN I l | 水・4 | (Jones) |
| CL I m | 水・2 | (McAvoy) | TN I m | 水・4 | (Fenstermaker) |
| CL I n | 水・2 | (Fenstermaker) | | | |
| CL I o | 水・2 | (Micklas) | | | |

< 2年 >

[科目ナンバー : GE ENG 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | College English V (CE V) | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる。 |
| 207 | 英語表記 | College English V (CE V) | | | | | | |

●科目の主題

授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。

●授業の到達目標

1年生で培った英語運用能力の基礎力アップを目指す。CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることを目標とする。

●授業内容・授業計画

4技能に関して、インプットとアウトプットのバランスを考慮し、以下の段階を踏まえた授業を行う。

- (1) リスニングとリーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リスニングとリーディングに、それぞれスピーキングとライティングの要素を取り入れた授業を行う。
- (3) スピーキングとライティングに重点を置いた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて4技能それぞれに対応する課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、70：30とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。※ただし、医学科は担当教員の評価のみとする。

●受講生へのコメント

本科目は、1年次のCEで培った：リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける理解力と表現力を統合的に扱う。より多くの英語に触れることで、応用力を身につけてほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

| クラス | 曜・時限 | 担当者 | クラス | 曜・時限 | 担当者 |
|-----|------|------|-----|------|---------|
| CⅡa | 火・1 | (筒井) | HⅡc | 木・1 | (津田) |
| CⅡb | 火・1 | (山澤) | HⅡd | 木・1 | (北岡) |
| CⅡc | 火・1 | (辻) | HⅡe | 木・1 | 田中(一) |
| CⅡd | 火・1 | (倉恒) | SⅡa | 木・2 | (山口) |
| CⅡe | 火・1 | (高) | SⅡb | 木・2 | (津田) |
| CⅡf | 火・1 | 山本 | SⅡc | 木・2 | (藤井) |
| CⅡg | 火・1 | (清川) | SⅡd | 木・2 | 高島 |
| CⅡh | 火・1 | (片岡) | SⅡe | 木・2 | (北岡) |
| JⅡa | 火・2 | (清川) | SⅡf | 木・2 | (高橋) |
| JⅡb | 火・2 | (高) | SⅡg | 木・2 | 関 |
| JⅡc | 火・2 | (熊懷) | EⅡa | 木・3 | 杉井 |
| JⅡd | 火・2 | (片岡) | EⅡb | 木・3 | (長嶺) |
| JⅡe | 火・2 | (倉恒) | EⅡc | 木・3 | (フィゴーニ) |
| JⅡf | 火・2 | (笹倉) | EⅡd | 木・3 | (高橋) |
| JⅡg | 火・2 | (山澤) | EⅡe | 木・3 | (中村) |
| TⅡa | 火・3 | (片岡) | EⅡf | 木・3 | (荒木) |
| TⅡb | 火・3 | (筒井) | EⅡg | 木・3 | 豊田 |
| TⅡc | 火・3 | (名和) | EⅡh | 木・3 | 野末 |
| TⅡd | 火・3 | 豊田 | MⅡa | 木・3 | (廣田) |
| TⅡe | 火・3 | 古賀 | MⅡb | 木・3 | (辻) |
| TⅡf | 火・3 | (笹倉) | MⅡc | 木・3 | (上里) |
| TⅡg | 火・3 | 山崎 | LⅡa | 木・4 | (荒木) |
| TⅡh | 火・3 | 井狩 | LⅡb | 木・4 | 田中(孝) |
| TⅡi | 火・3 | 野末 | LⅡc | 木・4 | 野末 |
| TⅡj | 火・3 | 山本 | LⅡd | 木・4 | (長嶺) |
| TⅡk | 火・3 | 野田 | LⅡe | 木・4 | (フィゴーニ) |
| HⅡa | 木・1 | (藤井) | LⅡf | 木・4 | (中村) |
| HⅡb | 木・1 | (山口) | LⅡg | 木・4 | 古賀 |

[科目ナンバー : GE ENG 02 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | College English VI (CE VI) | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる。 |
| 208 | 英語表記 | College English VI (CE VI) | | | | | | |

●科目の主題

所属学部 of 専門性を考慮し、専門に近い内容を扱うリーディングとライティングに重点を置いた授業を行うことにより、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることを目指す。

●授業の到達目標

1年生の時に学んだCE I～IV、及び、CE Vで培った基本的な英語運用能力の上に、応用力を習得することを目的とする。

●授業内容・授業計画

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した授業を行う。

- (1) リーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リーディングの中にライティングを取り入れた授業を行う。
- (3) ライティングに重点を置いた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて総合的な英語運用能力に関する課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目は、CEの総仕上げである。これまで学んだことを専門科目で活かせるよう、リーディングとリスニングにおいて、正しく理解した上で要点が整理できる力を、ライティングでは自分の考えをうまく的確に表現する力をしっかり養ってほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 | クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|-------|-------|------|-------|-------|-------|
| CIIa | 火・1 | (高) | HIIb | 木・1 | (高橋) |
| CIIb | 火・1 | (倉恒) | HIIc | 木・1 | (藤井) |
| CIIc | 火・1 | (片岡) | HIId | 木・1 | (山口) |
| CII d | 火・1 | (清川) | HIIE | 木・1 | (津田) |
| CIIe | 火・1 | (山澤) | SIIa | 木・2 | (北岡) |
| CII f | 火・1 | (辻) | SIIb | 木・2 | (廣田) |
| CII g | 火・1 | (筒井) | SIIc | 木・2 | (高橋) |
| CII h | 火・1 | 野田 | SII d | 木・2 | (山口) |
| JII a | 火・2 | (笹倉) | SII e | 木・2 | (津田) |
| JII b | 火・2 | (片岡) | SII f | 木・2 | (藤井) |
| JII c | 火・2 | (筒井) | SII g | 木・2 | 高島 |
| JII d | 火・2 | (高) | EII a | 木・3 | 田中(孝) |

| | | | | | |
|--------|-----|--------|--------|-----|---------|
| J II e | 火・2 | (熊懷) | E II b | 木・3 | (上里) |
| J II f | 火・2 | (清川) | E II c | 木・3 | (荒木) |
| J II g | 火・2 | (倉恒) | E II d | 木・3 | (辻) |
| T II a | 火・3 | (清川) | E II e | 木・3 | (フィゴーニ) |
| T II b | 火・3 | 野田 | E II f | 木・3 | (中村) |
| T II c | 火・3 | (笹倉) | E II g | 木・3 | (長嶺) |
| T II d | 火・3 | 山本 | E II h | 木・3 | (廣田) |
| T II e | 火・3 | (筒井) | L II a | 木・4 | (辻) |
| T II f | 火・3 | (名和) | L II b | 木・4 | (長嶺) |
| T II g | 火・3 | (片岡) | L II c | 木・4 | (荒木) |
| T II h | 火・3 | 田中 (孝) | L II d | 木・4 | (中村) |
| T II i | 火・3 | 高島 | L II e | 木・4 | 杉井 |
| T II j | 火・3 | 山崎 | L II f | 木・4 | (上里) |
| T II k | 火・3 | 古賀 | L II g | 木・4 | (フィゴーニ) |
| H II a | 木・1 | (北岡) | | | |

CEVI (前期)

| クラス | 曜・時限 | 担当者 | クラス | 曜・時限 | 担当者 |
|--------|------|------|--------|------|-----|
| M II a | 木・4 | (上里) | M II c | 木・4 | (辻) |
| M II b | 木・4 | (廣田) | | | |

◎Advanced College English (ACE)

Advanced College Englishは高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

Advanced College English (ACE) の履修方法について

ACE科目の受講を希望する者は、履修登録期間中にWebシステムにて登録をすること。

・各科目とも25名程度を上限とする。定員を上回った場合は抽選とし、抽選後の取り消しは一切認めない。

[科目ナンバー : : GE ENG 03 03]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|----------------|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 209 | 科目名 | ACE : TOEFL 80 | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 川端 淳司 (非常勤) |
| | 英語表記 | ACE : TOEFL 80 | | | | | | |

●科目の主題

本講座では、米国及びカナダの主要大学入学の基準であるTOEFL iBT80点(従来のCBTの213点に相当)を取得することを目標とした訓練を行う。

●授業の到達目標

ドリル等の演習形式の授業を通して、読解能力・聴解能力の向上、並びに、語彙・文法に関する知識の増強を目指す。

●授業内容・授業計画

基礎レベルの問題で確実に得点できるよう、受講生に適切な進捗で授業を進める。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）具体的に指示する。

●評価方法

出席回数要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

TOEFL 80はiBTテスト(すべてインターネットで行うテスト)で80点を目指すための講座です。iBTテストは、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4つのセクションから構成されており、4時間30分もの長時間におよぶさわめてタフな試験です。その分、ある一定の点数を取得すれば信用度や評価も高いため、大学生として総合的な英語力を身に付けておくには最適な試験といえます。スピーキングとライティングはほとんどやったことがないので、とても高いハードルのように感じている学生が多いようですが、実際は取り組んでみると案外できると実感するようになると思います。実際のところ、スピーキングやライティングのアウトプットセクションは、リーディングやリスニングのインプットセクションよりも点数が高めに出やすいのです。TOEFL 80では、インプットセクションはもちろんのこと、アウトプットセクションの実践演習に多くに時間をかけます。スピーキングなどは単に漫然と英語を話せばよいというものではなく、しっかりと自分の考えや、講義の内容などを英語でまとめる力が要求されます。授業では、全体的な英語力の底上げを目指すと同時に、TOEFLで高得点を取るために必要なスキルやテクニックを伝授していきます。TOEFLを何度か受験した人はもちろん、これからチャレンジしてみたい人も、目標をしっかりとをもって、真に国際人にふさわしい英語運用能力の習得を目指しましょう。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE : TOEFL 80+ | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 川端 淳司 (非常勤) |
| 210 | 英語表記 | ACE : TOEFL 80+ | | | | | | |

●科目の主題

米国・カナダ・オーストラリアの主要大学の入学基準である TOEFL iBT80(TOEFL ITP 550, Versant 48)以上の英語力を有する学生を対象に、ドリル等の演習形式の授業を行い、4技能(reading, writing, listening, speaking)を鍛える。本科目は、GC副専攻登録学生以外でも、さらに上のレベルの英語力をを目指す学生も受講できる。

●授業の到達目標

国際的に活躍するための英語運用能力を備えた人材を養成することを目指す。

●授業内容・授業計画

TOEFLの4技能を測る試験の特徴に応じた、より高度の演習問題を受講生の進捗に合わせて取り組んで行く。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

小テスト、課題、平常点を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

TOEFL 80+はTOEFL 80の上位クラスに当たりますが、TOEFLの受験経験がなくても、今までのスコアがそれほど良くななくても、何としても短期間で80以上目指したいという強い意欲がある人には最適の講座です。80点以上を目指すためには、リーディングセクションで高得点を取る必要があります。まずは、語彙力が不足している人が圧倒的に多いため、1万語以上レベルの単語を効率よく習得し、それをもとに早く正確に英語を処理する能力を身につけるための実践的なトレーニングを行っていきます。リスニングセクションは、長くやや難しい内容の英語を聞き取る力と重要なポイントをメモとして書き留める力が要求されます。リスニングでしっかり得点を取るためには、何をすればよいのかを伝えていきます。大きく苦手なセクションがあると、80点以上を取ることが難しくなります。スピーキングおよびライティングに関しては、単に話せばいい、書くことができればいいというものではありません。得点を取るためには、何が求められているのかをしっかりと理解したうえで、対策を取っていく必要があります。講義ではスピーキングおよびライティングの実践的な演習も多く行っていきます。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|-------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE: TOEIC 650 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 高森 理絵 (英語C 特任) 川端 淳司 (非常勤) |
| 211 | 英語表記 | ACE: TOEIC 650 | | | | | | |

●科目の主題

データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

●授業の到達目標

ビジネスの国際化に伴い、企業が求めるTOEICの基準点突破を目標とした訓練を行う。2016年5月以降、TOEICに導入された新形式の出題傾向に沿った対策を行い、繰り返し予行演習を行う。TOEICの攻略という実利的側面はもちろんのこと、将来的にも、語学能力試験等を利用しながら、目標を持って学び続けられるよう、総合的な英語運用能力の向上を目指す。

●授業内容・授業計画

本試験の対策に特化した教材に基づき、受講生の進度に応じた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

これからTOEICの受験を考えているみなさん、受験したことはあるけれど、まだ目標のスコアに届いていないみなさん、この講座で試験対策をしてみませんか。TOEICには、昨年5月から新傾向の問題が導入されました。一人で試験対策に取り組むことが不安なみなさんは、ぜひ、この講座で予行練習を何度も繰り返し、自信をつけましょう。教室でクラスメイトとともに学ぶことで、試験対策のノウハウに止まらず、将来、実用的に活かす英語を身に付けることができるでしょう。さあ、国際社会で求められる基準点の突破に向けて、一緒に頑張りましょう。
(高森)

私が本学で教える受講生たちは、ある程度TOEIC対策に必要な基本的な英語力を備えています。特にリーディングセクションは時間をかければ、高得点を取る力を備えている受講生も多く見受けられます。文法や語彙などは、その多くを忘れてしまったという人もいますが、必要な範囲をしっかりと見直し、早く正確に解く意識を忘れずにトレーニングをすれば、短期間であっても650という結果を出すことはそれほど難しくはありません。またリスニングセクションは、長い間英語を聞いていないという受講生もいるため、まずは耳馴らしから始め、各Partの傾向と対策を行っていきます。TOEICだけというよりは、より実践的なリスニング力を身に着けるために、シャドーイングやリピーティングなどのトレーニング法なども指導していきます。TOEICは本年度より若干のリニューアルがありました。これまでの対策法や学習法が大きく変わるわけではありません。新しくなった部分を確認しながら、まずは自分の弱点をしっかりと補強し、目標点を目指して頑張りましょう。(川端)

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 11]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE : Comparative Culture | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | David Chen (英語C 特任) |
| 212 | 英語表記 | ACE : Comparative Culture | | | | | | |

●科目の主題

英語を通して、日本を新たな視点から知る。

●授業の到達目標

日本について学術的な議論をする技能を身につける。エクササイズを通じて、日本のどこが面白く驚くべきことに気付く。

●授業内容・授業計画

授業中は英語のみを使用する。評判の記事等を題材に文化的テーマを絞り、英語圏からの視点と日本からの視点と比較検討しながら、ディスカッションやプレゼンテーションを介して文化理解を深める。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

This course provides an opportunity for students to learn about different cultures, with an emphasis on the United States. The class will also examine themes related to literature, race and politics while at the same time, comparing these to Japan's society and accepted cultural norms. The course would be useful for students who are interested in foreign cultures and would like to improve their writing and discussion skills.

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 07]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------------|-----|---|------|----|------|---|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE : Critical Writing | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 高森 理絵 (英語C 特任) Jim Mansfield (英語C 特任) David Chen (英語C 特任) |
| 213 | 英語表記 | ACE: Critical Writing | | | | | | |

●科目の主題

ある問題やトピックを主体的に設定し、その問題、あるいはトピックに関する資料を検索、収集、分析、統合した上で、論理的かつ自分の意見を主張する文章を書く技術がcritical writingである。本科目は、CE I、IIをすでに単位修得した学生を対象とする。

●授業の到達目標

問題提起や問題解決策の提示、新たな説の展開等という形で、自らの考えを英語の文章を用いて表現する力を養成する。

●授業内容・授業計画

critical writingの理解から始めて、実際に英文を構成する能力の養成を段階的に行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

みなさんはこれまでに、文章を読んでその内容に感銘を受けたり、あるいは著者とは異なる意見を持ったことがあるでしょう。それでは、自分の考えを述べる時、どのように表すと読み手の理解や関心をより得られるのでしょうか。この講座では、英作文で用いられる表現の定着、批判的な視点からの文献理解、考察した内容を論理的に述べるための段落構成、自分で書いた文章を確認し改善する校訂作業を通して、英語による文章を構成する力を養い、自分の興味や関心、学んでいることについて、説得力を持って伝える技術を身につけることを目指します。

(高森)

ACE Writing continues to provide instruction of writing skills learned in first year. While the early part of the course will look at general essay forms, students will have the opportunity to do independent research and to present their findings. This course would be useful for students who would like to improve their knowledge and writing skills, and practice writing about various topics. (Chen)

This course will help you learn the writing process, you will learn the steps in the writing process. Such as free-writing and brainstorming. Also you will have a chance to pair work and peer edit, this course will also assist you with the knowledge of proper sentence structures that develop practical writing skills. We want to motivate you and build your confidence during this enjoyable ACE Critical Writing class, and I will guide you throughout the entire process. (Mansfield)

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------------|-----|---|----------|----|------|--------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE : Media English | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 野田 三貴 (英語C) 古賀 哲男 (文) |
| 214 | 英語表記 | ACE : Media English | | | | | | |

●科目の主題

現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。この視点に立って、Media Englishを扱う。

●授業の到達目標

ジャーナリスティックな英語の読解力、聴解力の強化を目的とする。

●授業内容・授業計画

代表的なメディアの英語の文章や音声媒体を用いて、受講生の進度に合わせた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

語彙・表現・スタイルなど独特のものがあるので、慣れるまでに少し時間がかかるかもしれませんが、根気よく取り組んでください。メディア・リテラシーも同時に高めていきましょう。(野田)

英字新聞 (The New York Times)、テレビニュース (The ABC News)、報道討論テレビ番組 (The CNN News Hour)、ラジオ朗読番組 (The V. O. A. programs) 等の多様なニュース媒体を教材に授業しますので、授業外での学習も含めて、意欲的に取り組んでください。(古賀)

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|----------|----|------|--------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE : Literature | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 筒井 香代子 (非常勤) |
| 215 | 英語表記 | ACE : Literature | | | | | | |

●科目の主題

英米の文学作品を教材に取り上げ、英語の表現の理解だけにとどまらず、その作品をとりまくさまざまな要因（時代背景、作家自身のこと）を考慮に入れながら、その作品を読み解く力を養成する。

●授業の到達目標

文学テキストの代表的なジャンル・修辞技法・モチーフについて理解できるようになる。
文学テキストの精読を通して、異なる歴史観・文化観・言語観を理解できるようになる。

●授業内容・授業計画

適宜解説を加えながら、演習形式で読み進める。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

世界の文豪の名作を原書で読んでいきます。作家特有の英語表現を理解すると同時に、その国の生活習慣や伝統に関する知識を深めて、文学作品の楽しさを存分に堪能しましょう。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 08]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-----------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE : Presentation | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | Elizabeth Leigh (英語C 特任) |
| 216 | 英語表記 | ACE : Presentation | | | | | | |

●科目の主題

色々な題材を用いてプレゼンテーションの訓練を行う。

●授業の到達目標

様々な専門分野に必要な、英語による口頭発表能力の向上を図る。

●授業内容・授業計画

この授業では企業や学校で用いられるプレゼンテーションをたくさん練習する。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

This course provides a lot of practice of both business and academic presentations; the emphasis is on practical application of presentation skills.

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 10]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------|-----|---|------|----|------|---------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE : Discussion | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | Jim Mansfield (英語C 特任) |
| 217 | 英語表記 | ACE : Discussion | | | | | | |

●科目の主題

この授業では academic discussion の諸相について学ぶ。

●授業の到達目標

筋道を立てて物事を説明し、意見を述べて、相手との理解を深める基本的なコミュニケーション能力を養成する。

●授業内容・授業計画

教育や研究の分野で行われる議論を取り上げて、その方法を学び、実践的な訓練を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数 of 要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

This Discussion course will help prepare you for the real world as we will have weekly interesting discussion based on current topics such as, smartphone addiction, music in your life, international marriage, education for all children, education differences between Japan and America, immigration in Japan, security legislation in Japan, the problem of poverty, the lack of childcare workers, discrimination against Muslims, consequences of agricultural chemicals, influences of war on children, pet owner responsibilities, world peace, and food waste in Japan. I hope that you will enjoy talking with me every week as we try to have really good practical discussions together.

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------------------|-----|---|------|----|------|--------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE : Intensive Reading | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 田中 一彦 (文) 山澤 園子 (非常勤) |
| 218 | 英語表記 | ACE : Intensive Reading | | | | | | |

●科目の主題

難解な英文を正確に読み解く。

●授業の到達目標

表現・内容ともにややレベルの高い評論やエッセイを素材にして、英文を正確に読む力を養成する。

●授業内容・授業計画

指定したテキストを読み進める。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

精読は、一文毎を正確に読むことだけが出来れば良いというわけではありません。パラグラフごとに要点を整理して英語の論理の流れをつかむ能力も同時に養成、強化しましょう。(田中一)

難解な英語を読み解き、日本語に置き換える中で、論理的思考を養ってもらいたい。(山澤)

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ACE : Films | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 多賀 亜紀 (非常勤) |
| 219 | 英語表記 | ACE: Films | | | | | | |

●科目の主題

映画は娯楽のためだけではなく外国語学習の教材としても有用である。映像と音声を同時に理解することで、ストーリーを楽しみながら、特に口語的な言い回しを学ぶことができる。それは、教科書だけの文字学習からは得にくいリアルな英語に接する機会でもあると考える。

●授業の到達目標

必ずしも英語そのものの理解だけでなく、作品の背景や、登場人物あるいは作者の思いなども含め、映画を教材にして、総合的な英語力の養成を目指す。

●授業内容・授業計画

できるだけ多くの受講生の興味に合うとともに、大学生が社会を理解するのに適切な教材を選び、段階的に語学能力を向上させるカリキュラムを組み立てている。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

この授業では、英語圏を舞台とした映画を通して、それぞれの国の英語・文化・歴史を学ぶことを目的としている。時間の都合上、1つのテーマにつき、3～4本の映画の「抜粋」部分を視聴する形式となる。

受講希望者は、第1回目のオリエンテーションに必ず出席すること。授業の進め方や成績評価の仕方を説明し、プレゼンテーション及びライティングの担当者割りなどを決定する。

受講生は、テキストの他、必要に応じて参考資料を前週に配布するので、内容をよく読み込んだうえで、次週の授業に出席すること。プレゼン担当者への積極的な質問や意見発表を重視する。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

前期

| 科目名 | クラス | 曜・時限 | 担当者 |
|---------------------|-----|------|-------------|
| TOEFL 80 | 全 | 木・2 | (川端) |
| TOEIC 650 | 全 | 月・2 | [高森] |
| TOEIC 650 | 全 | 木・1 | (川端) |
| Critical Writing | 全 | 水・4 | [高森] |
| Comparative Culture | 全 | 木・4 | [Chen] |
| Discussion | 全 | 火・1 | [Mansfield] |
| Intensive Reading | 全 | 火・4 | 田中(一) |
| Media English | 全 | 月・4 | 野田 |
| Literature | 全 | 火・2 | (筒井) |

後期

| 科目名 | クラス | 曜・時限 | 担当者 |
|-------------------|-----|------|-------------|
| TOEFL 80 | 全 | 木・2 | (川端) |
| TOEFL 80+ | 全 | 木・3 | (川端) |
| TOEIC 650 | 全 | 月・2 | [高森] |
| TOEIC 650 | 全 | 木・1 | (川端) |
| Critical Writing | 全 | 火・1 | [Mansfield] |
| Critical Writing | 全 | 木・4 | [Chen] |
| Presentation | 全 | 水・2 | [Leigh] |
| Intensive Reading | 全 | 火・2 | (山澤) |
| Films | 全 | 水・3 | (多賀) |
| Media English | 全 | 水・3 | 古賀 |

| 掲載番号 | 科目名 | 再度履修者向けクラス (CE I・II・III・IV・V・VI) | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる。 |
|------|------|--|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 220 | 英語表記 | College English for re-registration | | | | | | |

●科目の主題

未履修科目の単位を取得する。

●授業の到達目標

再度履修者を対象とし、CE I・II・III・IV・V・VIの再習熟をはかる。

●授業内容・授業計画

受講生の進度に合わせた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点・レポート等で評価する。

●受講生へのコメント

再度履修することになった原因をしっかりと考えて受講すること。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

●履修条件

受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、WEB履修登録を行った上で、各学期の最初の授業に出席すること。最初の授業に出席しない者は、受講許可を取り消すこともあるので十分注意すること。

CEⅢ・Ⅳ（前期）

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 | クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|------|-------|-----|------|-------|-----|
| 全「再」 | 月・5 | 山本 | 全「再」 | 水・5 | 高島 |
| 全「再」 | 月・5 | 山崎 | 全「再」 | 水・5 | 関 |
| 全「再」 | 火・4 | 野田 | | | |

CEⅠ・Ⅱ（後期）

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 | クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|------|-------|-----|------|-------|-----|
| 全「再」 | 月・5 | 野田 | 全「再」 | 水・5 | 野末 |
| 全「再」 | 月・5 | 豊田 | | | |

CEⅤ（前期）

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|------|-------|-------|
| 全「再」 | 木・5 | 田中（孝） |

CEⅥ（前期）

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 | クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|------|-------|------|------|-------|-----|
| 全「再」 | 火・4 | （熊懐） | 全「再」 | 水・5 | 杉井 |
| 全「再」 | 火・4 | （名和） | 全「再」 | 木・5 | 古賀 |

CEⅤ（後期）

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 | クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|------|-------|------|------|-------|-------|
| 全「再」 | 火・4 | （熊懐） | 全「再」 | 水・5 | 関 |
| 全「再」 | 火・4 | （名和） | 全「再」 | 木・5 | 田中（一） |

CEⅥ（後期）

| クラス | 曜日・時限 | 担当者 |
|------|-------|-----|
| 全「再」 | 火・4 | 山本 |

新 修 外 国 語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、日本語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語（英語以外の外国語）を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場がない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげてを諸君に期待する。

新修外国語履修の仕方について

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

新修外国語の履修には、学部により、「基礎」をコアとした次のA、B二つのパターンがある。
提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

(どのパターンをとるかは、各学部で異なるので、所属学部の履修規程に基づくこと)

A.

| | | | |
|--------|---|-------------------|--------------------|
| 1 年次前期 | 基礎 1 ・ 基礎 2 | Basic 1 ・ Basic 2 | 応用 1 A Applied 1 A |
| 1 年次後期 | 基礎 3 Basic 3 | 基礎 4 Basic 4 | 応用 2 A Applied 2 A |
| 2 年次以降 | 特修 1 Specialized 1 特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 ・ ・ ・ | | |

B.

| | | | |
|--------|--------------------|--------------------|--------|
| 1 年次前期 | 基礎 1 ・ 基礎 2 | Basic 1 ・ Basic 2 | |
| 1 年次後期 | 基礎 3 Basic 3 | 基礎 4 Basic 4 | |
| 2 年次前期 | 応用 1 B Applied 1 B | 特修 1 Specialized 1 | 2 年次以降 |
| 2 年次後期 | 応用 2 B Applied 2 B | 特修 2 Specialized 2 | |
| | | 特修 3 Specialized 3 | |
| | | ・ ・ ・ | |

三重線で囲まれた部分は必修科目

二重線で囲まれた部分は学部によって必修科目

単線で囲まれた部分は自由選択科目

日本語教育編成表（留学生対象）

| 1 年 次 | | 2 年 次 | |
|-------|-----|-------|-----|
| 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 |
| 1 A | 1 B | 3 A | 3 B |
| 2 A | 2 B | 4 A | 4 B |
| | | 5 A | 5 B |

§ 1. 標準的履修の場合

I. ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. 1年次前期で、Aパターンの学部の学生は「基礎1」「基礎2」（合計2単位）および「応用1A」（1単位）を、Bパターンの学部の学生は「基礎1」および「基礎2」（合計2単位）を履修すること。なお、「基礎1」「基礎2」はペアの担当者により進度を合わせて授業が行われる同時履修科目である。月曜日に提供されている「基礎1」と、水曜日に提供されている「基礎2」を両方とも履修しなければならない、どちらか片方だけを履修することはできない。したがって、単位の認定も両方合わせて行われ、合格すれば2単位、不合格の場合は0単位となる。
2. 1年次後期で、Aパターンの学部の学生は「基礎3」「基礎4」および「応用2A」（各1単位）を、Bパターンの学部の学生は「基礎3」および「基礎4」（各1単位）を履修すること。
なお、新修外国語では、グレード制を採用しており、「基礎1」「基礎2」の単位を修得していなければ、Aパターンの場合は「基礎3」「基礎4」および「応用2A」を、Bパターンの場合は「基礎3」および「基礎4」を履修することができないので、十分注意すること。
3. Bパターンの学部の学生は、2年次前期で「応用1B」（1単位）を、2年次後期で「応用2B」（1単位）を履修すること。
なお、「応用1B」および「応用2B」は「基礎3」および「基礎4」を受講していることを前提に授業が行われる。
4. さらに学びたいという意欲のある2年次以上の学生のために、「特修」（2単位）が提供されている。各学生は、複数提供される科目を複数回、選択することができる。
なお、「基礎3」、「基礎4」のいずれかの単位を修得していなければ「特修」を履修することができないので、注意すること。

備考

高校での既習者ならびに帰国生徒の履修に関しては、所属学部担当に願い出て、相談すること。

II. 日本語

「日本語」は留学生を対象とする新修外国語である。

A：新修外国語として、「日本語」だけを履修する場合

1. 1年次前期で1A、2Aの2科目、1年次後期で1B、2Bの2科目をそれぞれセットで登録・履修することが望ましい。
2年次も同じで、前期に3A、4Aを、後期に3B、4Bをセットで登録・履修することが望ましい。
2. さらに、非漢字文化圏の留学生のために、2年次前期で「5A」が、後期で「5B」が提供されている。
3. 学部によっては、必修の単位数が異なる。
8単位の場合は、「1A、1B、2A、2B、3A、3B」+「4A～5Bから2科目」
6単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」+「3A～4Bから2科目」
4単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」

B：「日本語」と「他の新修外国語」を同時に履修する場合

1. まず、日本語「1A、1B、2A、2B」を優先的に登録すること。
2. 学部指定の新修外国語のクラスと重なる場合には、他学部指定の新修外国語クラスに登録すること。

§ 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1」、「基礎2」、「基礎3」、「基礎4」、「応用1A」、「応用2A」の不合格者は、2年次で、不合格であった科目を再度履修すること。なお、平成28年度以前に入学し、「基礎1・2」が不合格であった者については「基礎1」、「基礎2」の両方を履修すること。2年次提供の「応用1B」、「応用2B」の不合格者は、3年次で、不合格であった科目を再度履修すること。

○外国語のクラス分け

英語のクラス分け表

*別途掲示によること。

新修外国語クラス分け表

*クラス内の数字は、各所属学部学籍番号下3桁を表す。

| 科目 | | ドイツ語 | | | | フランス語 | | | | |
|------------|-----|----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------------|--------------|--------------|--------------|--|
| 学部 | クラス | 基礎1・基礎2 基礎3・基礎4 | 応用1A 応用2A | 応用1B 応用2B | 特修 (12科目) | 基礎1・基礎2 基礎3・基礎4 | 応用1A 応用2A | 応用1B 応用2B | 特修 (10科目) | |
| 商学部 | a | 001～110 | | 001～110 | 1クラス | 1クラス | | 1クラス | | |
| | b | 111～終 | | 111～終 | | | | | | |
| 経済学部 | a | 001～110 | | | | 1クラス | | | | |
| | b | 111～終 | | | | | | | | |
| 法学部 | a | 001～095 | 001～095 | | | 1クラス | 1クラス | | | |
| | b | 096～終 | 096～終 | | | | | | | |
| 文学部 | a | 001～080 | 001～080 | | | 001～080 | 001～080 | | | |
| | b | 081～終 | 081～終 | | | | | | | |
| 理学部 | a | 数学、生物 | ※注1参照 | | | 1クラス | ※注1参照 | | | |
| | b | 物理、地球 | | | | | | | | |
| | c | 化学、理科選択 | | | | | | | | |
| 工学部 | a | 機械 | | | 1クラス | | | 1クラス | | |
| | b | 電子・物理 建築(001～017) | | | | | | | | |
| | c | 電気情報 建築(018～終) | | | | | | | | |
| | d | 化学バイオ | | | | | | | | |
| | e | 都市 | | | | | | | | |
| 医学部看護学科 | | | | | | | | | | |
| 医学部 医学科 | a | 001～045 | | | 1クラス | | | | | |
| | b | 046～終 | | | | | | | | |
| 生活科学部 | a | 1クラス | | | 居住環境 | | | | | |
| | b | | | | | | | | 食品栄養 人間福祉 | |

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

新修外国語クラス分け表 *クラス内の数字は、各所属学部の学籍番号下3桁を表す。

| 科目 | | 中国語 | | | | ロシア語 | | | 朝鮮語 | | |
|------------|-----|----------------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------------|-------------|---------------------------|--------------------|-------------|
| 学部 | クラス | 基礎1・基礎2 基礎3・基礎4 | 応用1A 応用2A | 応用1B 応用2B | 特修 (10科目) | 基礎1・基礎2 基礎3・基礎4 | 応用1A、2A 応用1B、2B | 特修 (4科目) | 基礎1・基礎2 基礎3・基礎4 | 応用1A、2A 応用1B、2B | 特修 (4科目) |
| 商学部 | a | 001~075 | / | 001~075 | / | 2クラス | / | / | 3クラス | / | / |
| | b | 076~150 | | 076~150 | | | | | | | |
| | c | 151~終 | | 151~終 | | | | | | | |
| 経済学部 | a | 001~055 | / | / | / | {商学部 経済学部 法学部 文学部 理学部 医学部医学科 医学部看護学科 (CEJLSMN) クラス } | / | / | {商学部 工学部 (CT)クラス} | / | / |
| | b | 056~110 | | | | | | | | | |
| | c | 111~165 | | | | | | | | | |
| | d | 166~終 | | | | | | | | | |
| 法学部 | a | 001~095 | 001~095 | / | / | / | / | / | {法学部、 文学部L (JL)クラス} | / | / |
| | b | 096~終 | 096~終 | | | | | | | | |
| 文学部 | a | 001~085 | 001~085 | / | / | / | / | / | / | / | / |
| | b | 086~終 | 086~終 | | | | | | | | |
| 理学部 | | ※注1参照 | | | | | | | ※理学部は 注1参照 | | |
| 工学部 | a | 機械 電子・物理 | / | / | 1クラス | / | 1クラス | 1クラス | / | 1クラス | 1クラス |
| | b | 電気情報 化学バイオ | | | | | | | | | |
| | c | 建築 都市 | | | | | | | | | |
| 医学部看護学科 | | | | | | | | | | | |
| 医学部 医学科 | | 医学部医学科 | / | / | / | / | / | / | / | / | / |
| 生活科学部 | | 居住環境 食品栄養 人間福祉 | | | | | | | | | |

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

ドイツ語 German

カリキュラム概要

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読み近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらす、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を築いてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりがない。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の実相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

[科目ナンバー : GE GER 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語基礎 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 221 | 英語表記 | German Basic 1 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎 1」は「基礎 2」との同時履修科目（片方みの履修は不可）で、ドイツ語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造について体系的に学ぶ。

●授業の到達目標

ドイツ語の綴りと発音の基礎から始めて、名詞の性・数と格変化、動詞の人称変化を学び、単一文と単一時称など、ドイツ語の語・句・文の基本的な構造とそのしくみについて把握する。

●授業内容・授業計画

第 1 週：導入部 授業方針・到達目標・評価方法の確認・周知、辞書・参考書の紹介。

第 2 週～第 5 週：動詞の人称変化、名詞の性・数、冠詞と名詞の格変化、など。

第 6 週～第 10 週：単一文の語順、前置詞の格支配、並列接続詞、など。

第 11 週～第 14 週：形容詞の格変化、比較表現、など。

*教科書によって学習する文法項目が前後する場合がある。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1 回の授業時間に加え、事前・事後学習として 1 時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材

- CIa (月2) 林田陽子 (非常勤)
杉村涼子『基礎固めのドイツ語』(郁文堂)
- CIb (月2) 三上雅子 (非常勤)
上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール【改訂版】』(白水社)
- EIa (月1) 林田陽子 (非常勤)
杉村涼子『基礎固めのドイツ語』(郁文堂)
- EIb (月1) 神野ゆみこ (非常勤)
森公成、渡辺広佐『クヴェレ・ドイツ文法 (新訂版)』(同学社)
- JIa (月1) 高井絹子 (文)
西本美彦、Nishimoto Angelika、高田博行『新・文法システム15』(同学社)
- JIb (月1) 長谷川健一 (文)
上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版]』(白水社)
- LIa (月2) 神竹道士 (文)
神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』(朝日出版社)
- LIb (月2) 國光圭子 (非常勤)
神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)
- SIa (月3) 國光圭子 (非常勤)
神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)
- SIb (月3) 三上雅子 (非常勤)
上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール【改訂版】』(白水社)
- SIc (月3) 和田資康 (非常勤)
神竹道士 他『アルタナティーフー第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)
- TIa (月4) 海老根 剛 (文)
三室次雄『ドイッチェ・プラクティッシュ〈グリユーン〉』(三修社)
- TIb (月4) 三上雅子 (非常勤)
春日正男、松澤淳『怖くはないぞドイツ文法』(朝日出版社)
- TIc (月4) 國光圭子 (非常勤)
神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう! ドイツ語』(白水社)
- TI d (月4) 和田資康 (非常勤)
神竹道士 他『アルタナティーフー第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)
- TIE n I (月4) 神野ゆみこ (非常勤)
神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 (改訂版)』(朝日出版社)
- MIa (月3) 海老根 剛 (文)
三室次雄『ドイッチェ・プラクティッシュ〈グリユーン〉』(三修社)
- MIb (月3) 神野ゆみこ (非常勤)
西本美彦、Nishimoto Angelika、高田博行『新・文法システム15』(同学社)
- HI (月3) 神竹道士 (文)
神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』(朝日出版社)

[科目ナンバー : GE GER 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語基礎 2 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 222 | 英語表記 | German Basic 2 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎 2」は「基礎 1」との同時履修科目（片方みの履修は不可）で、ドイツ語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造について実践的に学ぶ。

●授業の到達目標

ドイツ語の綴りと発音の基礎から始めて、名詞の性・数と格変化、動詞の人称変化を学び、単一文と単一時称など、ドイツ語の語・句・文の基本的な構造とそのしくみについて把握する。

●授業内容・授業計画

第 1 週：導入部 授業方針・到達目標・評価方法の確認・周知、辞書・参考書の紹介。

第 2 週～第 5 週：動詞の人称変化、名詞の性・数、冠詞と名詞の格変化、など。

第 6 週～第 10 週：単一文の語順、前置詞の格支配、並列接続詞、など。

第 11 週～第 14 週：形容詞の格変化、比較表現、など。

*教科書によって学習する文法項目が前後する場合がある。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1 回の授業時間に加え、事前・事後学習として 1 時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎 1」と「基礎 2」の担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材

C I a (水 1) 神野ゆみこ (非常勤)

橋本政義、Heike Pinnau、橋本淑恵『フィール・シュパース (四訂版)』(郁文堂)

C I b (水 1) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

前田良三、高木葉子『ドイツ語ナビゲーション 2.0』(朝日出版社)

E I a (水 2) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)

E I b (水 2) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

前田良三、高木葉子『ドイツ語ナビゲーション 2.0』(朝日出版社)

J I a (水 2) 田中秀穂 (非常勤)

清野智昭、時田伊津子、牛山さおり『ドイツ語の時間 〈ときめきミュンヘン〉 コミュニカティブ版 - マルチメディア -』(朝日出版社)

J I b (水 2) 中村 恵 (非常勤)

大久保進、Gabi Greve『ポータルサイト：ドイツ語』(朝日出版社)

L I a (水 1) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)

L I b (水 1) 長谷川健一 (文)

高橋亮介、川名真矢『アプライゼ 伝えあうドイツ語』(朝日出版社)

SIa (水4) 武田良材 (非常勤)

高橋秀彰『ドイツ語 スパイラル』(朝日出版社)

SIb (水4) 中村 恵 (非常勤)

荻野蔵平、Andrea Raab『ミステリアスなドイツ文法』(朝日出版社)

SIc (水4) 田中秀穂 (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間〈恋するベルリン〉Web改訂版 エピローグ付』(朝日出版社)

TIa (水3) 武田良材 (非常勤)

高橋秀彰『ドイツ語 スパイラル』(朝日出版社)

TIb (水3) 田中秀穂 (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間〈恋するベルリン〉Web改訂版 エピローグ付』(朝日出版社)

TIc (水3) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)

TI d (水3) 中村 恵 (非常勤)

荻野蔵平、Andrea Raab『ミステリアスなドイツ文法』(朝日出版社)

TIeNI (水3) 千田まや (非常勤)

近藤・小林・新倉・松尾『Dialog—ドイツ語へのキックオフ Ver 5』(郁文堂)

MIa (水4) 千田まや (非常勤)

田原・飛鳥井・井尻『ドイツ語プラスアルファ』(郁文堂)

MIb (水4) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)

HI (水4) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子『ゲナウ！レーゼン』(第三書房)

[科目ナンバー : GE GER 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語基礎 3 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 223 | 英語表記 | German Basic 3 | | | | | | |

●科目の主題

ドイツ語「基礎 1」、「基礎 2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎 4」との連携のもと、より高度なドイツ語のしくみを把握する。

●授業の到達目標

複合文、複合時称、接続法など、より複雑なドイツ語の文体と文構造を学習し、ドイツ語の基礎的な文法知識をひとつお習得することをめざす。

●授業内容・授業計画

第1週：ドイツ語基礎 1 での学習内容の復習を行う。

第2週～第5週：話法の助動詞、分離動詞、動詞の3基本形、未来形、過去形、完了形、など。

第6週～第10週：再帰動詞、zu不定詞、従属接続詞、関係代名詞、など。

第11週～第14週：受動態、接続法、など。

*教科書によって学習する文法項目が前後する場合がある。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説

明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材

CIa (月2) 林田陽子 (非常勤)

杉村涼子『基礎固めのドイツ語』(郁文堂)

CIb (月2) 三上雅子 (非常勤)

上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール【改訂版】』(白水社)

EIa (月1) 林田陽子 (非常勤)

杉村涼子『基礎固めのドイツ語』(郁文堂)

EIb (月1) 神野ゆみこ (非常勤)

森公成、渡辺広佐『クヴェレ・ドイツ文法 (新訂版)』(同学社)

JIa (月1) 高井絹子 (文)

西本美彦、Nishimoto Angelika、高田博行『新・文法システム15』(同学社)

JIb (月1) 長谷川健一 (文)

上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版]』(白水社)

LIa (月2) 神竹道士 (文)

神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』(朝日出版社)

LIb (月2) 國光圭子 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)

SIa (月3) 國光圭子 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)

SIb (月3) 三上雅子 (非常勤)

上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール【改訂版】』(白水社)

SIc (月3) 和田資康 (非常勤)

神竹道士 他『アルタナティーフ-第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

TIa (月4) 海老根 剛 (文)

三室次雄『ドイッチェ・プラクティッシュ〈グリューン〉』(三修社)

TIb (月4) 三上雅子 (非常勤)

春日正男、松澤淳『怖くはないぞドイツ文法』(朝日出版社)

TIc (月4) 國光圭子 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう! ドイツ語』(白水社)

TI d (月4) 和田資康 (非常勤)

神竹道士 他『アルタナティーフ-第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

TIeNI (月4) 神竹道士 (文)

神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 (改訂版)』(朝日出版社)

MIa (月3) 海老根 剛 (文)

三室次雄『ドイッチェ・プラクティッシュ〈グリューン〉』(三修社)

MIb (月3) 神野ゆみこ (非常勤)

西本美彦、Nishimoto Angelika、高田博行『新・文法システム15』(同学社)

HI (月3) 神竹道士 (文)

神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』(朝日出版社)

[科目ナンバー : GE GER 02 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語基礎 4 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 224 | 英語表記 | German Basic 4 | | | | | | |

●科目の主題

ドイツ語「基礎1」、「基礎2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、より高度なドイツ語のしくみを把握する。

●授業の到達目標

複合文、複合時称、接続法など、より複雑なドイツ語の文体と文構造を学習し、ドイツ語の基礎的な文法知識をひとつお習得することをめざす。

●授業内容・授業計画

第1週：ドイツ語基礎2での学習内容の復習を行う。

第2週～第5週：語法の助動詞、分離動詞、動詞の3基本形、未来形、過去形、完了形、など。

第6週～第10週：再帰動詞、zu不定詞、従属接続詞、関係代名詞、など。

第11週～第14週：受動態、接続法、など。

*教科書によって学習する文法項目が前後する場合がある。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材

CIa (水1) 神野ゆみこ (非常勤)

橋本政義、Heike Pinnau、橋本淑恵『フィール・シュパース (四訂版)』(郁文堂)

CIb (水1) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

前田良三、高木葉子『ドイツ語ナビゲーション 2.0』(朝日出版社)

EIa (水2) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)

EIb (水2) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

前田良三、高木葉子『ドイツ語ナビゲーション 2.0』(朝日出版社)

JIa (水2) 田中秀穂 (非常勤)

清野智昭、時田伊津子、牛山さおり『ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉コミュニケーション版
—マルチメディア—』(朝日出版社)

JIb (水2) 中村 恵 (非常勤)

大久保進、Gabi Greve『ポータルサイト：ドイツ語』(朝日出版社)

LIa (水1) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)

LIb (水1) 長谷川健一 (文)

高橋亮介、川名真矢『アプライゼ 伝えあうドイツ語』(朝日出版社)

- SIa (水4) 武田良材 (非常勤)
高橋秀彰『ドイツ語 スパイラル』(朝日出版社)
- SIb (水4) 中村 恵 (非常勤)
荻野蔵平、Andrea Raab『ミステリアスなドイツ文法』(朝日出版社)
- SIc (水4) 田中秀穂 (非常勤)
清野智昭『ドイツ語の時間〈恋するベルリン〉Web改訂版 エピローグ付』(朝日出版社)
- TIa (水3) 武田良材 (非常勤)
高橋秀彰『ドイツ語 スパイラル』(朝日出版社)
- TIb (水3) 田中秀穂 (非常勤)
清野智昭『ドイツ語の時間〈恋するベルリン〉Web改訂版 エピローグ付』(朝日出版社)
- TIc (水3) 田島昭洋 (非常勤)
神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)
- TI d (水3) 中村 恵 (非常勤)
荻野蔵平、Andrea Raab『ミステリアスなドイツ文法』(朝日出版社)
- TIE n I (水3) 千田まや (非常勤)
近藤・小林・新倉・松尾『Dialog—ドイツ語へのキックオフ Ver 5』(郁文堂)
- MIa (水4) 千田まや (非常勤)
田原・飛鳥井・井尻『ドイツ語プラスアルファ』(郁文堂)
- MIb (水4) 田島昭洋 (非常勤)
神竹道士、國光圭子、田島昭洋『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)
- HI (水4) 廣瀬ゆう子 (非常勤)
新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子『ゲナウ！レーゼン』(第三書房)

[科目ナンバー : GE GER 02 03]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|--------------------|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 225 | 科目名 | ドイツ語応用 1 A | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 江川 英明 (非常勤) |
| | 英語表記 | German Applied 1 A | | | | | | 大森 智子 (非常勤) |

●科目の主題

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業の到達目標

ドイツ語「基礎1」、「基礎2」履修中の者を対象として、「基礎1」「基礎2」と連携しながら、コミュニケーション能力を高めるために、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、ドイツ語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD(クラスによってはコンピュータ)などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業内容・授業計画(学習する文法項目は前後する場合がある。)

- 第1回: ドイツ語・ドイツ語圏文化への導入
- 第2回: ドイツ語の文字と発音
- 第3回: 動詞の現在人称変化 その1、語順
- 第4回: 動詞の現在人称変化 その1、語順、Lesetextを使った対話練習
- 第5回: 名詞の性と冠詞、名詞の複数形
- 第6回: 名詞の性と冠詞、名詞の複数形、Lesetextを使った対話練習
- 第7回: 動詞の現在人称変化 その2、命令法、分離動詞
- 第8回: 動詞の現在人称変化 その2、命令法、分離動詞、Lesetextを使った対話練習
- 第9回: 前置詞、人称代名詞
- 第10回: 前置詞、人称代名詞、Lesetextを使った対話練習
- 第11回: 冠詞類、形容詞

- 第12回：冠詞類、形容詞、Lesetextを使った対話練習
- 第13回：話法の助動詞、未来
- 第14回：話法の助動詞、未来、Lesetextを使った対話練習
- 第15回：まとめ
試験

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、平常点（授業への取り組み、参加度）等により評価する。詳細は授業時に確認すること。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材

- J I a (金3) 江川英明 (非常勤)
大岩信太郎 『はじめての独作文 [改訂新正書法版]』 (朝日出版社)
- J I b (金3) 大森智子 (非常勤)
Elisabeth Schmidt 他2名 『はじめようドイツ語 Unterwegs mit Tobi』 (郁文堂)
- L I a (金4) 大森智子 (非常勤)
Elisabeth Schmidt 他2名 『はじめようドイツ語 Unterwegs mit Tobi』 (郁文堂)
- L I b (金4) 中村 恵 (非常勤)
大久保進、Gabi Greve 『ポータルサイト：ドイツ語』 (朝日出版社)

[科目ナンバー : GE GER 02 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語応用 2 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 江川 英明 (非常勤) 大森 智子 (非常勤) 中村 恵 (非常勤) |
| 226 | 英語表記 | German Applied 2 A | | | | | | |

●科目の主題

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業の到達目標

ドイツ語「基礎3」、「基礎4」履修中の者を対象として、「基礎3」「基礎4」と連携しながら、コミュニケーション能力を高めるために、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、ドイツ語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業内容・授業計画（教科書によって学習する文法項目は前後することがある。）

- 第1回：応用1Aでの既習事項の確認
- 第2回：副文
- 第3回：副文、Lesetextを使った対話練習
- 第4回：再帰動詞、形容詞の比較、比較の用法
- 第5回：再帰動詞、形容詞の比較、比較の用法、Lesetextを使った対話練習
- 第6回：動詞の3基本形、過去形
- 第7回：現在完了形

- 第8回：動詞の3基本形、過去形、現在完了形、Lesetextを使った対話練習
- 第9回：受動態
- 第10回：受動態、Lesetextを使った対話練習
- 第11回：関係代名詞
- 第12回：関係代名詞、Lesetextを使った対話練習
- 第13回：接続法
- 第14回：接続法、Lesetextを使った対話練習
- 第15回：まとめ
- 試験

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、平常点（授業への取り組み、参加度）等により評価する。詳細は授業時に確認すること。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材

J I a (金3) 江川英明 (非常勤)

大岩信太郎 『はじめての独作文 [改訂新正書法版]』 (朝日出版社)

J I b (金3) 大森智子 (非常勤)

Elisabeth Schmidt 他2名 『はじめようドイツ語 Unterwegs mit Tobi』 (郁文堂)

L I a (金4) 大森智子 (非常勤)

Elisabeth Schmidt 他2名 『はじめようドイツ語 Unterwegs mit Tobi』 (郁文堂)

L I b (金4) 中村 恵 (非常勤)

大久保進、Gabi Greve 『ポータルサイト：ドイツ語』 (朝日出版社)

[科目ナンバー : GE GER 02 05]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|--------------------|-----|---|----------|----|------|----------------------------|
| 掲載番号 227 | 科目名 | ドイツ語応用 1 B | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 石黒 義昭 (非常勤) 神野ゆみこ (非常勤) |
| | 英語表記 | German Applied 1 B | | | | | | |

●科目の主題

ドイツ語「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業の到達目標

ドイツ語「基礎3」、「基礎4」を受講した者を対象として、コミュニケーション能力を高めるために、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、ドイツ語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業内容・授業計画（復習する文法項目は前後する場合がある。）

第1回：ドイツ語・ドイツ語圏文化への導入

第2回：ドイツ語の発音（補強）

第3回：動詞の現在人称変化 その1、語順

第4回：動詞の現在人称変化 その1、語順、Lesetextを使った対話練習

- 第5回：名詞の性と冠詞、名詞の複数形
- 第6回：名詞の性と冠詞、名詞の複数形、Lesetextを使った対話練習
- 第7回：動詞の現在人称変化 その2、命令法、分離動詞
- 第8回：動詞の現在人称変化 その2、命令法、分離動詞、Lesetextを使った対話練習
- 第9回：前置詞、人称代名詞
- 第10回：前置詞、人称代名詞、Lesetextを使った対話練習
- 第11回：冠詞類、形容詞
- 第12回：冠詞類、形容詞、Lesetextを使った対話練習
- 第13回：話法の助動詞、未来
- 第14回：話法の助動詞、未来、Lesetext、会話文の作成とその練習
- 第15回：まとめ
試験

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、平常点（授業への取り組み、参加度）等により評価する。詳細は授業時に確認すること。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材

C IIa (火2) 石黒義昭 (非常勤)

荻野蔵平、Andrea Raab『ドイツってすてき！ビデオで学ぶドイツ語表現練習 (DVD付き改訂版)』(朝日出版社)

C IIb (火2) 神野ゆみこ (非常勤)

荻野蔵平、Andrea Raab『ドイツってすてき！ビデオで学ぶドイツ語表現練習 (DVD付き改訂版)』(朝日出版社)

[科目ナンバー : GE GER 02 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|----------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語応用 2 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 石黒 義昭 (非常勤) 神野ゆみこ (非常勤) |
| 228 | 英語表記 | German Applied 2 B | | | | | | |

●科目の主題

ドイツ語「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業の到達目標

ドイツ語「基礎3」、「基礎4」を受講した者を対象として、コミュニケーション能力を高めるために、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、ドイツ語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD (クラスによってはコンピュータ) などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業内容・授業計画 (復習する文法項目は前後することがある。)

- 第1回：応用1Bでの既習事項の確認
- 第2回：副文
- 第3回：副文、Lesetextを使った対話練習
- 第4回：再帰動詞、形容詞の比較、比較の用法
- 第5回：再帰動詞、形容詞の比較、比較の用法、Lesetextを使った対話練習

- 第6回：動詞の3基本形、過去形
- 第7回：現在完了形
- 第8回：動詞の3基本形、過去形、現在完了形、Lesetextを使った対話練習
- 第9回：受動態
- 第10回：受動態、Lesetextを使った対話練習
- 第11回：関係代名詞
- 第12回：関係代名詞、Lesetextを使った対話練習
- 第13回：接続法
- 第14回：接続法、Lesetextを使った対話練習
- 第15回：まとめ
試験

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、平常点（授業への取り組み、参加度）等により評価する。詳細は授業時に確認すること。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材

C II a (火2) 石黒義昭 (非常勤)

荻野蔵平、Andrea Raab『ドイツってすてき！ビデオで学ぶドイツ語表現練習 (DVD付き改訂版)』(朝日出版社)

C II b (火2) 神野ゆみこ (非常勤)

荻野蔵平、Andrea Raab『ドイツってすてき！ビデオで学ぶドイツ語表現練習 (DVD付き改訂版)』(朝日出版社)

[科目ナンバー : GE GER 03 01]

| | | | | | | | | |
|-----------------|------|-----------------------|-----|---|----------|----------|------|-----------------------|
| 掲載番号 229 | 科目名 | ドイツ語特修1a | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 講義 | 担当教員 | エルトレ ジモン (文 特任) |
| | 英語表記 | German Specialised 1a | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修1aでは授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

●授業の到達目標

「ヨーロッパ共通参照枠」の最初のレベル、A1。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第3週：Kennenlernen (挨拶、自己紹介など)
- 第4週～第6週：Freizeit (自由時間の過ごし方など)
- 第7週～第9週：Tagesablauf (時刻、スケジュールなど)
- 第10週～第12週：Essen und Trinken (食べ物、飲み物)
- 第13週～第14週：Familie (家族)

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。

●評価方法

小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。詳細は、第1週の授業で説明します。

●受講生へのコメント

必ず毎週、復習のため出される宿題をやってください。宿題は授業の最初に集めます。

●教材

プリント。

[科目ナンバー : GE GER 03 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------|-----|---|------|------|------|--------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 1 b | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | エルトレ ジモン (文 特任) |
| 230 | 英語表記 | German Specialised 1 b | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修1bでは授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

●授業の到達目標

「ヨーロッパ共通参照枠」の最初のレベル、A1。

●授業内容・授業計画

第1週～第3週: Kennenlernen (挨拶、自己紹介など)

第4週～第6週: Freizeit (自由時間の過ごし方など)

第7週～第9週: Tagesablauf (時刻、スケジュールなど)

第10週～第12週: Essen und Trinken (食べ物、飲み物)

第13週～第14週: Familie (家族)

第15週: まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。

●評価方法

小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。詳細は、第1週の授業で説明します。

●受講生へのコメント

必ず毎週、復習のため出される宿題をやってください。宿題は授業の最初に集めます。

●教材

プリント。

[科目ナンバー : GE GER 03 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----------|------|--------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 2 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 講義 | 担当教員 | エルトレ ジモン (文 特任) |
| 231 | 英語表記 | German Specialised 2 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修2では授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

●授業の到達目標

「ヨーロッパ共通参照枠」の最初のレベル、A1。

●授業内容・授業計画

「ドイツ語特修1 a/b」の続き。

- 第1週：Sommerferien (夏休み)
- 第2週～第4週：Wohnen (住まい)
- 第5週～第8週：Einkaufen (買い物)
- 第9週～第11週：Geburtstag (誕生日)
- 第12週～第14週：Reisen (旅行)
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。

●評価方法

小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。詳細は、第1週の授業で説明します。

●受講生へのコメント

必ず毎週、復習のため出される宿題をやってください。宿題は授業の最初に集めます。

●教材

プリント。

[科目ナンバー : GE GER 03 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------|-----|---|------|----------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 3 a | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 竹内 一高 (非常勤) |
| 232 | 英語表記 | German Specialized 3 a | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修3aではドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材に使用して、聞き取りなどの練習を行う一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

●授業の到達目標

ドイツ語のさまざまな映像を教材化しながら、できるだけ現実に近い形で使用されるドイツ語に触れる機会を提供する。それによって学習者自身でドイツ語を使えるような方法を見つけ出し、それを実践できるようになる。

●授業内容・授業計画

2、3回の授業で一つの映像・作品を取り扱う予定である。映画、ミュージカル、ドラマ、アニメ、さらに広告や投稿動画も教材として取り入れられると判断される場合は、それらも積極的に取り扱ってゆきたい。

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践的能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としては、テキストの予習、復習、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

学習者からの提出物あるいは発表によって評価する。つまりほぼ毎時間、何らかの自己発信を要求するので、それらがすべて評価対象となると考えてもらいたい。

●受講生へのコメント

映像を見たり聴いたり、あるいは原稿を読んだりしたあとに、かならずドイツ語で自己発信をする（書く・話す・演じる）ことを要求しますので、ドイツ語をできるだけたくさん使いたいという方に向いている授業だと思います。

●教材

ドイツ語で製作されたさまざまな映像、教材化のための学習用プリント

[科目ナンバー : GE GER 03 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 3 b | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 田島 昭洋 (非常勤) |
| 233 | 英語表記 | German Specialised 3 b | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修3bではドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材に使用して、聞き取りなどの練習をおこなう一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

●授業の到達目標

聴解と発音、読解においてA1～A2レベルを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

モーツァルトの歌劇『魔笛』の台本を読み、映像を見、ドイツ語の表現を学ぶ。庶民性と芸術性が最高度に融合した親しみやすく奥深い本作品は比較的平易な日常会話表現が使われており、芸術を理解しながら実践的なドイツ語能力の養成が期待できる。

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践的能力の初歩的養成

第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示にしたがうこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、平常点（出席を含む）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を超える場合には履修制限をおこなう場合がある。

●教材

資料・台本は毎回担当者が印刷して持参する。また参考書等を紹介する。

[科目ナンバー : GE GER 03 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 4 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 竹内 一高（非常勤） |
| 234 | 英語表記 | German Specialized 4 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修4ではドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材に使用して、聞き取りなどの練習を行う一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

●授業の到達目標

ドイツ語のさまざまな映像を教材化しながら、できるだけ現実に近い形で使用されるドイツ語に触れる機会を提供する。それによって学習者自身でドイツ語を使えるような方法を見つけ出し、それを実践できるようになる。

●授業内容・授業計画

2、3回の授業で一つの映像・作品を取り扱う予定である。映画、ミュージカル、ドラマ、アニメ、さらに広告や投稿動画も教材として取り入れられると判断される場合は、それらも積極的に取り扱ってゆきたい。

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践的能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としては、テキストの予習、復習、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

学習者からの提出物あるいは発表によって評価する。つまりほぼ毎時間、何らかの自己発信を要求するので、それらがすべて評価対象となると考えてもらいたい。

●受講生へのコメント

映像を見たり聴いたり、あるいは原稿を読んだりしたあとに、かならずドイツ語で自己発信をする（書く・話す・演じる）ことを要求しますので、ドイツ語をできるだけたくさん使いたいという方に向いている授業だと思います。

●教材

ドイツ語で製作されたさまざまな映像、教材化のための学習用プリント

[科目ナンバー : GE GER 03 07]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 5 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 竹内 一高（非常勤） |
| 235 | 英語表記 | German Specialized 5 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修5ではドイツ語技能検定（独検）の受験希望者を対象の中心とし、過去に出題された問題を教材にして、合格を目指した練習を行う。

●授業の到達目標

独検では知識とそれを運用できる技能に対する能力が求められているため、学習者はこれに十分に対応できる総合的な能力を身につけられるようになる。

●授業内容・授業計画

学期の前半には、出題されるドイツ語に見られるテーマを分析しながら、それに必要な語彙や文法、文章表現を中心とした練習を行う。学期後半には、発音・文法・文章読解、作文の練習を、過去に出題された問題を教材化しながら、演習を行う。

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践的能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としては、テキストの予習、復習、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

学習者によって受験希望級が異なるため、学期の前半に目標とする級を学習者に申告してもらい、それをもとにどれくらい目標に近づけたか達成度を図る試験を実施する。ただ、結果をそのまま評価するのではなく、その努力過程も評価の対象とする。

●受講生へのコメント

ドイツ語の知識を増やしたい方にはもちろん、ドイツ語により多く触れ、使いつづけたいと考えておられる方にも受講を勧めます。

●教材

担当教員の作成するプリント、独検で過去に出題された問題。

[科目ナンバー : GE GER 03 08]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 6 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 竹内 一高 (非常勤) |
| 236 | 英語表記 | German Specialized 6 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修6ではドイツ語技能検定(独検)の受験希望者を対象の中心とし、過去に出題された問題を教材にして、合格を目指した練習を行う。

●授業の到達目標

独検では知識とそれを運用できる技能に対する能力が求められているため、学習者はこれに十分に対応できる総合的な能力を身につけられるようになる。

●授業内容・授業計画

学期の前半には、過去に出題された問題に見られるドイツ語の内容やテーマを分析しながら、それに必要な語彙や文法、文章表現を中心とした練習を行う。学期後半には、発音・文法・文章読解、作文の練習を、過去に出題された問題を教材化しながら、演習を行う。

第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：ドイツ語の実践的能力の初歩的養成

第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化

第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としては、テキストの予習、復習、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

学習者によって受験希望級が異なるため、学期の前半に目標とする級を学習者に申告してもらおう。それをもとにどれくらい目標に近づけたか達成度を図る試験を実施する。ただ、結果をそのまま評価するのではなく、その努力過程も評価の対象とする。

●受講生へのコメント

ドイツ語の知識を増やしたい方にはもちろん、ドイツ語により多く触れ、使いつづけたいと考える方にも受講を勧めます。

●教材

担当教員の作成するプリント、独検で過去に出題された問題。

[科目ナンバー : GE GER 03 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 7 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | 江川 英明 (非常勤) |
| 237 | 英語表記 | German Specialised 7 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修7では新聞・雑誌記事・ホームページなど、リアルタイムのドイツ語テキストを読む練習を通して、現在の生きたドイツ語の読解力を身につけるとともに、現在のドイツ語圏の社会・文化についての認識を深める。

●授業の到達目標

辞書と文法書を使って、また場合によってはインターネット上の情報を参考に、現代のドイツについて書かれた文章を読解できるように目指す。難易度としては独検3級レベルからはじめて、2級レベルの読解文章を扱う。

●授業内容・授業計画

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入。
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成。
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化。
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成。
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間としての1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、平常点（訳読の発表や出席数など）により評価する。

●受講生へのコメント

予習の際は雑な意味を捉えるだけでなく、細かな語形変化まで調べることが肝要。

●教材

石井寿子、Andrea Raab 『時事ドイツ語2018年度版』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE GER 03 10]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 8 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | 中村 恵 (非常勤) |
| 238 | 英語表記 | German Specialised 8 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲のある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修8では新聞・雑誌記事・ホームページなど、リアルタイムのドイツ語テキストを読む練習を通して、現在の生きたドイツ語の読解力を身につけるとともに、現在のドイツ語圏の社会・文化について認識を深める。

●授業の到達目標

ドイツ語で書かれた新聞・雑誌記事、またホームページなどを辞書を引きながら読むことができ、そのことを通してドイツ語圏の様々な事象に対する理解と認識を深め、精神的なキャパシティを拡げる。

●授業内容・授業計画

比較的平易な記事から読みはじめ、徐々に難易度の高いものに挑戦していく。記事の読解にとどまらず、背後の知識習得も盛り込んでいく。毎回何人かの担当者を決め、しっかりと読んできてもらう。

第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：ドイツ語の実践的能力の初歩的養成

第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化

第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

ただ椅子に座っているだけでなく授業への積極的な関与が見られるかどうか、担当箇所について字面だけでなくしっかりと読みこんでいるかどうか、自分の担当以外の箇所も予習してきているかどうか、また学期末に定期試験を実施するのでその結果も含めて、すべてを総合的に判定し、評価する。

●受講生へのコメント

適宜文法の復習なども織り交ぜながら授業を進めていくので、多少ブランクがあっても積極的に参加してもらいたい。

●教材

こちらでプリントを用意する。

[科目ナンバー : GE GER 03 11]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修 9 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | 中村 恵 (非常勤) |
| 239 | 英語表記 | German Specialised 9 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲のある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修9ではドイツの小説・童話・エッセイなど、文学的・文化的なテキストを原語で精読し、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文学・文化について理解を深める。

●授業の到達目標

ドイツ語で書かれた文学作品、エッセイ等を辞書を引きながら読むことができる。また内容をしっかりと咀嚼することで、ドイツ語圏の文化に対する理解と認識を深め、精神的なキャパシティを拡げる。

●授業内容・授業計画

童話 (ヘルメ・ハイネ『ほくたちともだち』)、文学作品 (エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』)、エッセイ (アンゲリカ・ホーファー『愛情物語 [インドガン-子育てアルバム]』)、哲学書 (マックス・ピカート『沈黙の世界』) 等からの抜粋を、平易なものから始め、徐々に難易度を高めて読んでいく。毎回分担を決め、担当者に発表しても

らう。15回目には試験を実施する。

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践的能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

ただ椅子に座っているだけでなく授業への積極的な関与が見られるかどうか、担当箇所について字面だけでなくしっかりと読みこんでいるかどうか、自分の担当以外の箇所も予習してきているかどうか、また学期末に定期試験を実施するのでその結果も含めて、すべてを総合的に判定し、評価する。

●受講生へのコメント

適宜文法の復習なども織り交ぜながら授業を進めていく。多少ブランクがあっても積極的に参加してもらいたい。

●教材

こちらでプリントを用意する。

[科目ナンバー : GE GER 03 12]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ドイツ語特修10 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | 江川 英明 (非常勤) |
| 240 | 英語表記 | German Specialised 10 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や独検試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修10ではドイツの小説・童話・エッセイなど、文学的・文化的テキストを原語で精読し、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文学・文化についても理解を深める。

●授業の到達目標

辞書と文法書を使って、ドイツの文学・文化について書かれた文章を読解できるように目指す。難易度としては独検3級レベルからはじめて、2級レベルの読解文章を扱う。

●授業内容・授業計画

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入。
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成。
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化。
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成。
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間としての1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●**評価方法**

定期試験のほかに、平常点（訳読の発表や出席数など）により評価する。

●**受講生へのコメント**

予習の際には大雑把な意味を捉えるだけでなく、細かな語形変化まで調べるのが肝要。

●**教材**

プリントを配布する。

フランス語 French

カリキュラム概要

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は53ヶ国・地域）、使用人口（第1言語+第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

[科目ナンバー : GE FRN 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語基礎 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 241 | 英語表記 | French Basic 1 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎1」は「基礎2」との同時履修科目（片方みの履修は不可）で、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語圏文化への導入）
- 第2週～第3週：フランス語の文字と発音
- 第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

当科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランス語は難しいと思っている人が多いですが、きちんと手順をふんで学んでいけば意外に理解できるはずで

す。手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

CI (月2) 辻 昌子 (非常勤)

テキスト：鈴木田研二・福島祥行・藤澤秀平・中條健志・辻昌子『フランス・ヴァリエ』(青山社)

EI (月1) 久後 貴行 (非常勤)

テキスト：藤田裕二『パリ-ポルドー』(朝日出版社)

II (月1) 藤本 智成 (非常勤)

テキスト：鈴木田研二・福島祥行・藤澤秀平・中條健志・辻昌子『フランス・ヴァリエ』(青山社)

L1a (月2) 福島 祥行 (文)

テキスト：福島祥行『ちびキキ パリで迷子』(朝日出版社)

L1b (月2) 原野 葉子 (文)

テキスト：福島祥行『ちびキキ パリで迷子』(朝日出版社)

SI (月3) 久後 貴行 (非常勤)

テキスト：藤田裕二・東海麻衣子『タルト・タタン』(駿河台出版社)

TNI (月4) 酒井 美貴 (非常勤)

テキスト：大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

HIa (月3) 辻 昌子 (非常勤)

テキスト：大塚陽子『プティシュマン』(白水社)

HIb (月3) 酒井 美貴 (非常勤)

テキスト：大塚陽子『プティシュマン』(白水社)

MI (月3) 藤田 あゆみ (非常勤)

テキスト：大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

[科目ナンバー : GE FRN 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語基礎 2 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 242 | 英語表記 | French Basic 2 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎1」は「基礎2」との同時履修科目(片方だけの履修は不可)で、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVD(クラスによってはコンピュータ)などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：イントロダクション(フランス語・フランス語圏文化への導入)
- 第2週～第3週：フランス語の文字と発音
- 第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

当科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランス語は難しいと思っている人が多いですが、きちんと手順をふんで学んでいけば意外に理解できるはずです。手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

CI (水1) 鈴木田 研二 (非常勤)

テキスト：鈴木田研二・福島祥行・藤澤秀平・中條健志・辻昌子『フランス・ヴァリエ』(青山社)

EI (水2) 秋吉 孝浩 (非常勤)

テキスト：藤田裕二『パリ-ポルドー』(朝日出版社)

JI (水2) 鈴木田 研二 (非常勤)

テキスト：鈴木田研二・福島祥行・藤澤秀平・中條健志・辻昌子『フランス・ヴァリエ』(青山社)

LIa (水1) 大山 大樹 (非常勤)

テキスト：福島祥行『ちびキキ パリで迷子』(朝日出版社)

LIb (水1) 福島 祥行 (文)

テキスト：福島祥行『ちびキキ パリで迷子』(朝日出版社)

SI (水4) 原野 葉子 (文)

テキスト：藤田裕二・東海麻衣子『タルト・タタン』(駿河台出版社)

TNI (水3) 小林 裕史 (非常勤)

テキスト：大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

IIIa (水4) 藤田 あゆみ (非常勤)

テキスト：大塚陽子「プティシュマン」(白水社)

IIIb (水4) 大山 大樹 (非常勤)

テキスト：大塚陽子「プティシュマン」(白水社)

MI (水4) 小林 裕史 (非常勤)

テキスト：大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

[科目ナンバー : GE FRN 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語基礎3 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 243 | 英語表記 | French Basic 3 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎1」は「基礎2」との同時履修科目（片方だけの履修は不可）で、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語圏文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の文字と発音

第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

当科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランス語は難しいと思っている人が多いですが、きちんと手順をふんで学んでいけば意外に理解できるはず。手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

CI (月2) 辻 昌子 (非常勤)

テキスト：鈴木田研二・福島祥行・藤澤秀平・中條健志・辻昌子『フランス・ヴァリエ』(青山社)

EI (月1) 久後 貴行 (非常勤)

テキスト：藤田裕二『パリ-ポルドー』(朝日出版社)

Ji (月1) 藤本 智成 (非常勤)

テキスト：鈴木田研二・福島祥行・藤澤秀平・中條健志・辻昌子『フランス・ヴァリエ』(青山社)

L1a (月2) 原野 葉子 (文)

テキスト：福島祥行『ちびキキ パリで迷子』(朝日出版社)

Lib (月2) 白田 由樹 (文)

テキスト：福島祥行『ちびキキ パリで迷子』(朝日出版社)

SI (月3) 久後 貴行 (非常勤)

テキスト：藤田裕二・東海麻衣子『タルト・タタン』(駿河台出版社)

TNI (月4) 酒井 美貴 (非常勤)

テキスト：大塚陽子「プティシユマン」(白水社)

HIa (月3) 酒井 美貴 (非常勤)

テキスト：大塚陽子「プティシユマン」(白水社)

HIb (月3) 辻 昌子 (非常勤)

テキスト：大塚陽子「プティシユマン」(白水社)

MI (月3) 藤田 あゆみ (非常勤)

テキスト：大塚陽子『プティ・シユマン (改訂版)』(白水社)

[科目ナンバー : GE FRN 02 02]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|----------------|-----|---|----------|----|------|----------|
| 掲載番号 244 | 科目名 | フランス語基礎4 | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| | 英語表記 | French Basic 4 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎1」は「基礎2」との同時履修科目(片方だけの履修は不可)で、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVD(クラスによってはコンピュータ)などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語圏文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の文字と発音

第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

当科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランス語は難しいと思っている人が多いですが、きちんと手順をふんで学んでいけば意外に理解できるはずで
す。手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながらい身に付けていきましょう

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

CI（水1） 鈴木田 研二（非常勤）

テキスト：鈴木田研二・福島祥行・藤澤秀平・中條健志・辻昌子『フランス・ヴァリエ』（青山社）

EI（水2） 秋吉 孝浩（非常勤）

テキスト：倉方秀憲・セルジュ・ジュンタ『セース ドゥ ヴィ』（早美出版社）

JI（水2） 鈴木田 研二（非常勤）

テキスト：鈴木田研二・福島祥行・藤澤秀平・中條健志・辻昌子『フランス・ヴァリエ』（青山社）

LIa（水1） 白田 由樹（文）

テキスト：福島祥行『ちびキキ パリで迷子』（朝日出版社）

LIb（水1） 福島 祥行（文）

テキスト：福島祥行『ちびキキ パリで迷子』（朝日出版社）

SI（水4） 原野 葉子（文）

テキスト：藤田裕二・東海麻衣子『タルト・タタン』（駿河台出版社）

TNI（水3） 小林 裕史（非常勤）

テキスト：大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

HIa（水4） 白田 由樹（文）

テキスト：大塚陽子「プティシュマン」（白水社）

HIb（水4） 藤田あゆみ（非常勤）

テキスト：大塚陽子「プティシュマン」（白水社）

MI（水4） 小林 裕史（非常勤）

テキスト：大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|---|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語応用 1 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 藤澤 秀平 (非常勤) 藤本 智成 (非常勤) 大山 大樹 (非常勤) |
| 245 | 英語表記 | French Applied 1 A | | | | | | |

●科目の主題

フランス語「基礎1」、「基礎2」履修中の者を対象として、「基礎1」「基礎2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、対話訓練などを行う。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 挨拶をする。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第3回 質問する。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第4回 否定する。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第5回 身分、職業について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第6回 身分、職業について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第7回 所有、存在について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第8回 所有、存在について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第9回 趣味、嗜好について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第10回 趣味、嗜好について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第11回 過去について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第12回 過去について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第13回 目的語代名詞をもちいる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第14回 代名動詞をもちいる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第15回 ふりかえりとまとめ。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間（特修は2時間）の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（授業への取り組み、参加度）等により評価する。詳細については、授業時に確認すること。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

II 藤澤 秀平 (非常勤)

テキスト：藤田裕二・東海麻衣子『タルト・タタン』（駿河台出版社）

L1a 藤本 智成 (非常勤)

テキスト：今中舞衣子・中條健志『アクティヴ!』（白水社）

LIb 大山 大樹（非常勤）

テキスト：今中舞衣子・中條健志『アクティヴ!』（白水社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|--|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語応用 2 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 藤澤 秀平（非常勤） 藤本 智成（非常勤） 大山 大樹（非常勤） |
| 246 | 英語表記 | French Applied 2 A | | | | | | |

●科目の主題

フランス語「基礎1」、「基礎2」履修中の者を対象として、「基礎1」「基礎2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、対話訓練などを行う。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 命令する。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第3回 数える、比較する。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第4回 疑問詞をもちいる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第5回 複文をつくる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第6回 過去の状態について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第7回 過去の状態について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第8回 未来について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第9回 未来について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第10回 仮定について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第11回 仮定について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第12回 接続法をもちいる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第13回 くださった表現にふれる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第14回 単純過去、前過去にふれる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第15回 ふりかえりとまとめ。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間（特修は2時間）の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（授業への取り組み、参加度）等により評価する。詳細については、授業時に確認すること。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

JI 藤澤 秀平 (非常勤)

テキスト：藤田裕二・東海麻衣子『タルト・タタン』(駿河台出版社)

L1a 大山 大樹 (非常勤)

テキスト：今中舞衣子・中條健志『アクティヴ!』(白水社)

L1b 藤本 智成 (非常勤)

テキスト：今中舞衣子・中條健志『アクティヴ!』(白水社)

[科目ナンバー : GE FRN 02 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語応用 1 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 秋吉 孝浩 (非常勤) |
| 247 | 英語表記 | French Applied 1 B | | | | | | |

●科目の主題

フランス語「基礎 3」、「基礎 4」を受講した者を対象として、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD(クラスによってはコンピュータ)などを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを行う。

●授業の到達目標

フランス語「基礎 1」から「基礎 4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 挨拶をする。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第3回 質問する。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第4回 否定する。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第5回 身分、職業について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第6回 身分、職業について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第7回 所有、存在について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第8回 所有、存在について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第9回 趣味、嗜好について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第10回 趣味、嗜好について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第11回 過去について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第12回 過去について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第13回 目的語代名詞をもちいる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第14回 代名動詞をもちいる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第15回 ふりかえりとまとめ。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間(特修は2時間)の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(授業への取り組みや参加度)等により評価する。詳細については、授業時に確認すること。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

小松祐子・Gilles Delmaire『フランコフォニーへの旅』（駿河台出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語応用 2 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 岩本 篤子（非常勤） |
| 248 | 英語表記 | French Applied 2 B | | | | | | |

●科目の主題

フランス語「基礎 3」、「基礎 4」を受講した者を対象として、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、対話訓練などを行う。

●授業の到達目標

フランス語「基礎 1」から「基礎 4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 命令する。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第 3 回 数える、比較する。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第 4 回 疑問詞をもちいる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第 5 回 複文をつくる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第 6 回 過去の状態について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第 7 回 過去の状態について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第 8 回 未来について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第 9 回 未来について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第10回 仮定について聞き、話す。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第11回 仮定について読み、書く。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第12回 接続法をもちいる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第13回 くださった表現にふれる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第14回 単純過去、前過去にふれる。(グループワーク等による会話、読解練習)
- 第15回 ふりかえりとまとめ。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間（特修は2時間）の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（授業への取り組みや参加度）等により評価する。詳細については、授業時に確認すること。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

小松祐子・Gilles Delmaire『フランコフォニーへの旅』（駿河台出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 03 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語特修 1 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 岩本 篤子（非常勤） |
| 249 | 英語表記 | Specialised French 1 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修1では、フランスの童話について、その背景を考えながら、歌詞の訳、歌唱を通して、フランス文化への理解を深める。

●授業の到達目標

歌詞特有の表記、脚韻等をふまえた表現に慣れつつ、内容を理解できるようになることを目標とする。読むことにおいてCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA2-～A2+、書くことにおいてA2+～B1±とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

積極的な参加を望みます。

●教材

プリント使用

[科目ナンバー : GE FRN 03 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語特修 2 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 岩本 篤子（非常勤） |
| 250 | 英語表記 | Specialised French 2 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごと

とに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修2では、フランスの歌（主にポップス）について、その背景を考えながら、歌詞の訳、歌唱を通して、フランス文化への理解を深める。

●**授業の到達目標**

歌詞特有の表記、脚韻等をふまえた表現に慣れつつ、内容を理解できるようになることを目標とする。読むことにおいてCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のB1-～B1+、書くことにおいてA2+～B1±とする。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●**事前・事後学習の内容**

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●**評価方法**

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●**受講生へのコメント**

積極的な参加を望みます。

●**教材**

プリント使用

[科目ナンバー : GE FRN 03 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|--------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語特修3 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | ロラン・バレイユ (文 特任) |
| 251 | 英語表記 | Specialised French 3 | | | | | | |

●**科目の主題**

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修3では、旅行や留学を楽しむための、最低限のサバイバル会話力を身に付けることを目的として編んだ、練習中心のテキストを使用する。初めて会ったフランス人に自己紹介、タクシーに乗ってなんとかホテルに、そして買い物……とテーマはあくまで実用的。

●**授業の到達目標**

観光などで使うフランス語能力を身につけること、そして、フランスの文化、社会を理解することを目標とする。聞くこと、読むこと、書くことにおいてCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1±とする。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成

- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

学期の終わりに、クラスでフランス映画を鑑賞する。

●教材

内村瑠美子他『フランス語でサバイバル！(CD付改訂版)』(白水社)

[科目ナンバー : GE FRN 03 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語特修 4 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 大山 大樹 (非常勤) |
| 252 | 英語表記 | Specialised French 4 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修4では、フランス語圏、および日本について書かれた文章の読解を通して、フランス語圏、および日本の文化への理解を深める。

●授業の到達目標

読むことにおいてCEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) のB1 - ~ B1 + とする。つまり、日常的な語彙や表現で書かれた、ある程度長い文章が読めるようになることが目標である。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

毎回、皆さんが興味を惹かれると思われる、様々なテーマの文章を読みます。必要に応じて、初級文法の復習もおこないます。グループワークを基本とし、クラスのメンバーと協力しながら、おおらかに、じっくり、楽しく、フランス語のテキストを読みましょう。

●教材

プリント使用。

[科目ナンバー : GE FRN 03 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|--------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語特修 5 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | ロラン・バレイユ (文 特任) |
| 253 | 英語表記 | Specialised French 5 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修5では、フランス人が考案したバリエーションの多い教科書を用いて、同じフランス人が演じている物語風なビデオを見ながら、会話、文法、リーディング、リスニングを学ぶ。

●授業の到達目標

観光などで使うフランス語能力を身につけること、そして、フランスの文化、社会を理解することを目標とする。口頭でのやりとり、聞くこと、読むこと、書くことにおいてCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1+とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

学期の終わりに、クラスでフランス映画を鑑賞する。

●教材

Interactions 1 (Clé international)

[科目ナンバー : GE FRN 03 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語特修 6 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 福島 祥行 (文) |
| 254 | 英語表記 | Specialised French 6 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修6では、では、現代口語フランス語の特徴にふれながら、口語表現による会話練習と読解をつうじて、フランス語を中心とする複言語主義的コミュニケーション能力の強化をめざす。具体的には、ガールズ雑誌、アニメ雑誌、日本漫画・絵本の仏訳版読解と、それにもとづくコミュニケーション練習をおこなう。

●授業の到達目標

口頭で会話のやりとりをすることにおいてCEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) のA2+~B1±、読解においてB1-~B1+のレベルをめざす。

●授業内容・授業計画

- 第1回~第5回：ガールズ雑誌Grils! とGazelleを読む。(グループワークによる読解と応用とふりかえり)
- 第6回~第7回：アニメ雑誌Animelandを読む(グループワークによる読解と応用とふりかえり)
- 第8回~第12回：市川春子「宝石の国」、羽海野チカ「星のオペラ」、林明子「こんとあき」を読む(グループワークによる読解と応用とふりかえり)
- 第13回~第14回：中川李枝子・山脇百合子『ぐりとぐら』を読む(グループワークによる2種類の仏訳比較とふりかえり)
- 第15回：ふりかえりとまとめ

●事前・事後学習の内容

事後のふりかえりとノート、単語帖作成等により、1回の授業あたり2時間の自習時間をとること。

●評価方法

毎回おこなわれるポートフォリオによるふりかえり、および自己評価。

●受講生へのコメント

外国語にかぎらないが、学びは一生モンである。生涯学びつづけられるような自律学習者となることが目標であり、そのプロセスとして協働(具体的にはグループワーク)が求められる。また、ふりかえり(リフレクション)こそが学びを身につけさせる実践である。したがって、われわれの授業では、その点こそが評価の対象となることに留意されたい。

●教材

プリント配布。

[科目ナンバー : GE FRN 03 07]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語特修 7 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 藤本 智成 (非常勤) |
| 255 | 英語表記 | Specialised French 7 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスご

とに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修7では、実用フランス語技能検定試験（略称：仏検）の3級（学習200時間以上、大学2年修了程度）の合格を目指し、過去問や模擬問題の演習を行う。

●授業の到達目標

仏検3級の検定基準は、「基本的なフランス語を理解し、簡単なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる」（2017年度の受験要項より）である。聞くこと、読むこと、口頭で会話のやりとりをすること、口頭で表現すること、書くことの、いずれにおいても、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA2±とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランス語を学ぶ喜びや楽しさを分かち合いましょう。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE FRN 03 08]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|--------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語特修 8 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | ロラン・バレイユ (文 特任) |
| 256 | 英語表記 | Specialised French 8 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修8では、フランス人が考案したバリエーションの多い教科書を用いて、同じフランス人が演じている物語風なビデオを見ながら、フランスの文化や日常生活を中心としたさまざまな話題について、実践的な会話練習を行う。

●授業の到達目標

観光などで使うフランス語能力を身につけること、そして、フランスの文化、社会を理解することを目標とする。口頭でのやりとり、聞くこと、読むこと、書くことにおいてCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1+～A2±とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入

- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

学期の終わりに、クラスでフランス映画を鑑賞する。

●教材

Totem 1 A 1 (Hachette)

[科目ナンバー : GE FRN 03 09]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|----------------------|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 257 | 科目名 | フランス語特修 9 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 藤澤 秀平 (非常勤) |
| | 英語表記 | Specialised French 9 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修9は、フランス語による哲学入門。大学入学資格試験バカロレアの受験科目として「フィロゾフィ哲学」があり、進学希望の大多数の高校生が哲学を学んでいるフランス。デカルト、パスカル、ヴォルテールにサルトル、フーコー。多くの偉大な哲学者を生んだフランスでは、人々の思考の基盤を哲学が支えている。そんなフランスには「哲学的エッセEssai philosophique」というジャンルがあり、そのスタイルは、けっして堅苦しくも、難解でもない。そんな種類のテキストを通して、フランス語が持つロジック・リズムを体感してもらおうというのがこの授業の狙いである。

●授業の到達目標

洗練されたフランス語に内在するロジックの流れをつかみ、またそのスタイルを自分のものにした上で、フランス語表現を豊かにする。読むことにおいてCEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) のB2 ±、書くことにおいてB1 ±とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後

の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●**評価方法**

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●**受講生へのコメント**

専門家向けではなく、新聞や週刊誌に掲載された哲学的エッセを読む。テーマは、性、恋愛、睡眠、夢、時間、そして死、etc…。こうして生きてあることを、外国語を通して振り返って見る。大学以外では味わえない、貴重な体験となるはず。

●**教材**

適宜プリントを配布。

[科目ナンバー : GE FRN 03 10]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フランス語特修10 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 藤澤 秀平 (非常勤) |
| 258 | 英語表記 | Specialised French 10 | | | | | | |

●**科目の主題**

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修10では、フランスの今を知る。インターネットを通して、ニュース・インタビュー動画や、ラジオニュースを視聴することによって、フランスが直面している様々な問題の一端に触れる。テーマは、移民問題、若者の仕事探し、教育改革 etc…。

●**授業の到達目標**

ネットを利用してフランスのメディアに触れることを日常とする。もちろん、1年次に学んだフランス語の知識を総動員、総復習する機会ともする。聞くこと、読むことにおいてCEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) のB2±とする。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●**事前・事後学習の内容**

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●**評価方法**

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランスのメディアを通して、風通しの悪くなった日本発の報道を相対化して見る機会とする。

●教材

適宜プリントを配布。

中国語 Chinese

カリキュラム概要

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まっていくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

[科目ナンバー : GE CHN 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語基礎 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 259 | 英語表記 | Chinese Basic 1 | | | | | | |

●科目の主題

中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」や「そり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎 1」「中国語基礎 2」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：イントロダクション
- 第2週～第5週：発音の基礎練習
- 第6週～第7週：動詞「是」、「吗」疑問文、名前の聞き方と答え方、疑問詞疑問文
- 第8週～第9週：動詞述語文、所有を表す動詞「有」
- 第10週～第11週：形容詞述語文、数量を尋ねる疑問詞、時を表す語、反復疑問文
- 第12週～第13週：完了を表す「了」、所在を表す「在」
- 第14週：連動文、選択疑問文
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材

竹島毅・趙堅：「さあ、中国語を学ぼう！—会話・講読—」（白水社）

- 月2 CIa 山口 博子（非常勤）
- 月2 CIb 秋岡 英行（非常勤）
- 月2 CIc 福田 知可志（非常勤）
- 月1 EIa 秋岡 英行（非常勤）
- 月1 E Ib 福田 知可志（非常勤）
- 月1 E Ic 韓 艶玲（非常勤）
- 月1 E Id 田淵 欣也（非常勤）
- 月1 J Ia 大岩本 幸次（文学部）
- 月1 J Ib 山口 博子（非常勤）
- 月2 L Ia 岩本 真理（文学部）
- 月2 L Ib 韓 艶玲（非常勤）
- 月3 MHI 長谷川 慎（非常勤）
- 月4 T Ia 山口 博子（非常勤）
- 月4 T Ib 長谷川 慎（非常勤）
- 月4 T IcNI 田淵 欣也（非常勤）

[科目ナンバー : GE CHN 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語基礎 2 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 260 | 英語表記 | Chinese Basic 2 | | | | | | |

●科目の主題

中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎 1」「中国語基礎 2」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：イントロダクション
- 第2週～第5週：発音の基礎練習
- 第6週～第7週：動詞「是」、「吗」疑問文、名前の聞き方と答え方、疑問詞疑問文
- 第8週～第9週：動詞述語文、所有を表す動詞「有」
- 第10週～第11週：形容詞述語文、数量を尋ねる疑問詞、時を表す語、反復疑問文
- 第12週～第13週：完了を表す「了」、所在を表す「在」
- 第14週：連動文、選択疑問文
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材

竹島毅・趙堅：「さあ、中国語を学ぼう！—会話・講読—」（白水社）

- 水1 CIa 趙冬輝（非常勤）
- 水1 CIb 王標（非常勤）
- 水1 CIc 大野陽介（非常勤）
- 水2 EIa 王標（非常勤）
- 水2 EIb 史彤春（非常勤）
- 水2 EIc 大野陽介（非常勤）
- 水2 EId 南真理（非常勤）
- 水2 JIa 田婧（非常勤）
- 水2 JIb 趙冬輝（非常勤）
- 水1 LIa 史彤春（非常勤）
- 水1 LIb 松浦恆雄（文学部）
- 水4 MHI 田婧（非常勤）
- 水3 TIa 趙冬輝（非常勤）
- 水3 TIb 史彤春（非常勤）
- 水3 TIcNI 田婧（非常勤）

[科目ナンバー : GE CHN 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語基礎 3 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 261 | 英語表記 | Chinese Basic 3 | | | | | | |

●科目の主題

様々な補語や助動詞など、様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：前期の復習
- 第2週：経験の「过」、介詞「跟」「给」
- 第3週：動詞の進行を表す「在」、主述述語文
- 第4週：様態補語、動詞重ね型
- 第5週：比較を表す「比」、持続を表す「着」
- 第6週～第7週：名詞述語文 変化を表す「了」
- 第8週：「是～的」構文、二つの目的語をもつ文
- 第9週～第10週：結果補語、存現文
- 第11週～第12週：可能補語、使役を表す「过」
- 第13週～第14週：方向補語、受身を表す「被」、「把」の文
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

時間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材

竹島毅・趙堅：「さあ、中国語を学ぼう！—会話・講読—」（白水社）

- 月2 CIa 山口 博子（非常勤）
- 月2 CIb 秋岡 英行（非常勤）
- 月2 CIc 福田 知可志（非常勤）
- 月1 E1a 秋岡 英行（非常勤）
- 月1 E1b 福田 知可志（非常勤）
- 月1 E1c 韓 艶玲（非常勤）
- 月1 E1d 田渕 欣也（非常勤）
- 月1 J1a 大岩本 幸次（文学部）
- 月1 J1b 山口 博子（非常勤）
- 月2 L1a 岩本 真理（文学部）
- 月2 L1b 韓 艶玲（非常勤）
- 月3 MHI 長谷川 慎（非常勤）
- 月4 T1a 山口 博子（非常勤）
- 月4 T1b 長谷川 慎（非常勤）
- 月4 T1cNI 田渕 欣也（非常勤）

[科目ナンバー : GE CHN 02 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語基礎 4 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | クラス毎に異なる |
| 262 | 英語表記 | Chinese Basic 4 | | | | | | |

●科目の主題

様々な補語や助動詞など、様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎 3」、「中国語基礎 4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：前期の復習
- 第2週：経験の「过」、介詞「跟」「给」
- 第3週：動詞の進行を表す「在」、主述述語文
- 第4週：様態補語、動詞重ね型
- 第5週：比較を表す「比」、持続を表す「着」
- 第6週～第7週：名詞述語文 変化を表す「了」
- 第8週：「是～的」構文、二つの目的語をもつ文
- 第9週～第10週：結果補語、存現文
- 第11週～第12週：可能補語、使役を表す「让」
- 第13週～第14週：方向補語、受身を表す「被」、「把」の文

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材

竹島毅・趙堅「さあ、中国語を学ぼう！—会話・講読—」白水社

- 水1 CIa 趙冬輝（非常勤）
- 水1 CIb 王標（非常勤）
- 水1 CIc 大野陽介（非常勤）
- 水2 EIa 王標（非常勤）
- 水2 EIb 史彤春（非常勤）
- 水2 EIc 大野陽介（非常勤）
- 水2 EId 南真理（非常勤）
- 水2 JIa 田婧（非常勤）
- 水2 JIb 松浦恆雄（文学部）
- 水1 LIa 史彤春（非常勤）
- 水1 LIb 松浦恆雄（文学部）
- 水4 MHI 田婧（非常勤）
- 水3 TIa 趙冬輝（非常勤）
- 水3 TIb 史彤春（非常勤）
- 水3 TIcNI 田婧（非常勤）

[科目ナンバー : GE CHN 02 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------|-----|---|------|----|------|--------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語応用 1 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 王標（非常勤） 馮艶（非常勤） 范紫江（非常勤） |
| 263 | 英語表記 | Chinese Applied 1 A | | | | | | |

●科目の主題

ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第4週：発音の基礎練習
- 第5週：呼称、挨拶
- 第6週：自己紹介
- 第7週：これは何ですか
- 第8週～第9週：これはいかがですか（1）（2）
- 第10週～第11週：買い物（1）（2）

第12週～第14週：どこにありますか（1）（2）

第15週：総復習

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

塚本慶一・劉穎：『新版 1年生のコミュニケーション中国語』（白水社）

金3 J1a 王 標（非常勤）

金4 J1b 馮 艶（非常勤）

金3 L1a 范 紫江（非常勤）

金4 L1b 馮 艶（非常勤）

[科目ナンバー : GE CHN 02 04]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|---------------------|-----|---|----------|----|------|-----------------------|
| 掲載番号 264 | 科目名 | 中国語応用 2 A | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 王 標（非常勤） |
| | 英語表記 | Chinese Applied 2 A | | | | | | 馮 艶（非常勤） 范 紫江（非常勤） |

●科目の主題

ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週～第2週：何がありますか（1）（2）

第3週～第4週：何時に行きますか（1）（2）

第5週～第6週：ホテルのフロントで（1）（2）

第7週～第8週：タクシーに乗る（1）（2）

第9週～第10週：試着と支払い（1）（2）

第11週～第12週：苦情を訴える（1）（2）

第13週～第14週：紛失届を出す（1）（2）

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

塚本慶一・劉穎：『新版 1年生のコミュニケーション中国語』（白水社）

金3 J1a 王 標（非常勤）

金4 J1b 馮 艶（非常勤）

金3 L1a 范 紫江（非常勤）

金4 L1b 馮 艶（非常勤）

[科目ナンバー : GE CHN 02 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------|-----|---|------|----|------|-------------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語応用 1 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 田 淵 欣也（非常勤） 張 新民（文） 大岩本 幸次（文） |
| 265 | 英語表記 | Chinese Applied 1 B | | | | | | |

●科目の主題

前年度後期の「基礎3・4」に続いて中国語を学ぶ学生のために提供する。中級レベルにふさわしい表現力、読解力の養成に努める。

●授業の到達目標

「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回：第一課。“動詞+在”、“不论～还是…”、“除了～以外…”
- 第2回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第3回：第二課。“A+比+B+差量”、“因为～、所以…”、アスペクト助詞“了”
- 第4回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第5回：第三課。“不但～、而且…”、文末に置く“了”、方向補語
- 第6回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第7回：第四課。“特别是～”、“以为～”、前置詞“随着”
- 第8回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第9回：第五課。“以～为主”、接続詞“而且”、“越来越～”
- 第10回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第11回：第六課。“连～都（也）…”、前置詞“把”、アスペクト助詞“着”
- 第12回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第13回：第七課。“不是～而是…”、“比～得多”、“一边～、一边…”
- 第14回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しい

ものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

CIa 田渕 欣也

竹島金吾 監・尹景春 著・竹島毅 著『中国語さらなる一步』（白水社）

CIb 張 新民

陳淑梅・陸薇『ことばと文化 一挙両得 中級中国語』（朝日出版社）

CIc 大岩本 幸次

洪潔清『Chinese Adventure ~DVDで学ぶ中国文化~』（金星堂）

[科目ナンバー : GE CHN 02 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------|-----|---|------|----|------|---------------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語応用 2 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 田渕 欣也 (非常勤) 張 新民 (文) 大岩本 幸次 (文) |
| 266 | 英語表記 | Chinese Applied 2 B | | | | | | |

●科目の主題

中級レベルにふさわしい表現力、読解力の養成に努める。

●授業の到達目標

「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回：第八課。“是～的”構文、“在～下”、“只不过～”
- 第2回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第3回：第九課。“是～也是…”、受身文、助動詞“会”
- 第4回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第5回：第十課。“不像～那样…”、“即使～也…”、可能補語
- 第6回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第7回：第十一課。“好像～似的”、“只要～（就）…”、“虽然～但（是）…”
- 第8回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第9回：第十二課。“先～（然后）再…”、“每～都…”、動詞+回数
- 第10回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第11回：第十三課。“据说～似的”、“一～就…”、“哪怕～也…”
- 第12回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第13回：第十四課。“有”連動文、“对～来说”、副詞“更”
- 第14回：本文（1）の朗読練習、本文（2）対話練習、小テスト
- 第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

CⅡa 田淵 欣也

竹島金吾 監・尹景春 著・竹島毅 著『中国語さらなる一歩』（白水社）

CⅡb 張 新民

陳淑梅・陸薇『ことばと文化 一挙両得 中級中国語』（朝日出版社）

CⅡc 大岩本 幸次

洪潔清『Chinese Adventure ~DVDで学ぶ中国文化~』（金星堂）

[科目ナンバー : GE CHN 03 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語特修 1 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | 韓 艶玲 (非常勤) |
| 267 | 英語表記 | Chinese Specialised 1 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修1では、飲食、趣味、キャンパス生活、旅行、ショッピングなどテーマごとに、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、生の中国語に多く触れてもらい、テーマに沿った最新の中国事情を紹介し、徐々にリスニング力、会話能力の向上と中国文化への理解を主題とする。

●授業の到達目標

「基礎」を習得した上、発音、表現力をより上達させ、日常生活についての馴染みあるものや個人的関心あるもの（家族、余暇、旅行、現状など）についての会話ができ、中国語を母国語とする相手と普通のやりとりができる程度のコミュニケーション能力を習得する。

●授業内容・授業計画

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は履修制限をおこなう場合がある。

●教材

楊曉安：『現代中国アラカルト』（郁文堂）

[科目ナンバー : GE CHN 03 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語特修 2 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | 韓 艶玲 (非常勤) |
| 268 | 英語表記 | Chinese Specialised 2 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修2では、飲食、趣味、キャンパス生活、旅行、ショッピングなどテーマごとに、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、生の中国語に多く触れてもらい、テーマに沿った最新の中国事情を紹介し、徐々にリスニング力、会話能力の向上と中国文化への理解を主題とする。

●授業の到達目標

「基礎」を習得した上、発音、表現力をより上達させ、日常生活についての馴染みあるものや個人的関心あるもの(家族、余暇、旅行、現状など)についての会話ができ、中国語を母国語とする相手と普通のやりとりができる程度のコミュニケーション能力を習得する。

●授業内容・授業計画

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席をふくむ)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は履修制限をおこなう場合がある。

●教材

楊曉安：『現代中国アラカルト』(郁文堂)

[科目ナンバー : GE CHN 03 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語特修 3 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 岩本 真理 (文) |
| 269 | 英語表記 | Chinese Specialised 3 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修3では、検定試験を一つの目安として、総合的な学力の向上をめざす。

●**授業の到達目標**

中国語検定4級のレベルを到達目標とし、身近な話題や日常の基本的な事項に関わる談話の内容が聞き取れ、情報のやり取りが可能な語学力の養成をめざす。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●**事前・事後学習の内容**

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●**評価方法**

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●**受講生へのコメント**

毎回、各自に暗唱を課す。また中国語辞書は必携である。電子辞書、アプリケーションなどの利用も許可する。

●**教材**

相原茂『亜鈴式で鍛える 中国語コロケーション』朝日出版社

[科目ナンバー : GE CHN 03 04]

| | | | | | | | | |
|-----------------|------|-----------------------|-----|---|----------|----------|------|-----------|
| 掲載番号 270 | 科目名 | 中国語特修 4 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 岩本 真理 (文) |
| | 英語表記 | Chinese Specialised 4 | | | | | | |

●**科目の主題**

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修4では、検定試験を一つの目安として、総合的な学力の向上をめざす。

●**授業の到達目標**

中国語検定3級のレベルを到達目標とし、日常の基本的な事項や仕事、趣味などに関わる談話の内容が聞き取れ、情報のやり取りが可能な語学力の養成をめざす。ノーマルスピードに近い速度への対応も含む。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

毎回、各自に暗唱を課す。また中国語辞書は必携である。電子辞書、アプリケーションなどの利用も許可する。

●教材

相原茂『亜鈴式で鍛える 中国語コロケーション』朝日出版社

[科目ナンバー : GE CHN 03 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語特修 5 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 演習 | 担当教員 | 南 真理（非常勤） |
| 271 | 英語表記 | Chinese Specialised 5 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修5では、長文読解能力を養うと同時に、新聞・雑誌などで話題となった題材を通じて、多様な側面から現代中国を理解することを目的とする。

●授業の到達目標

中国語の情報をスムーズに読んだり聞いたりすることができ、会話や文章により、自分の見解を流暢に表現することができる。著者が特定の姿勢や視点で書いている現代的問題についての論説やレポートが読める。

●授業内容・授業計画

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

予習復習は自宅でしっかりとやっておくこと。

●教材

三瀧正道 陳祖蓀：『時事中国語の教科書 2018年度版』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|------|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語特修 6 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 南 真理 (非常勤) |
| 272 | 英語表記 | Chinese Specialised 6 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修6では、長文読解能力を養うと同時に、新聞・雑誌などで話題となった題材を通じて、多様な側面から現代中国を理解することを目的とする。

●授業の到達目標

中国語の情報をスムーズに読んだり聞いたりすることができ、会話や文章により、自分の見解を流暢に表現することができる。著者が特定の姿勢や視点で書いている現代の問題についての論説やレポートが読める。

●授業内容・授業計画

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

予習復習は自宅でしっかりとやっておくこと。

●教材

三瀧正道 陳祖蓀：『時事中国語の教科書 2018年度版』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 07]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|------|------|----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語特修 7 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | 張 新民 (文) |
| 273 | 英語表記 | Chinese Specialised 7 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスご

とに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修7では、中国語圏の映画を教材として、その背景を考えながら、せりふの翻訳、朗読を通して、コミュニケーションに適応しうる能力を養成し、中国文化への理解を深める。

●**授業の到達目標**

なじみある話題や行動について、簡単に率直な情報のやりとりのみの、単純で日常的な用事でならコミュニケーションできることを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●**事前・事後学習の内容**

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●**評価方法**

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●**受講生へのコメント**

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は、履修制限をおこなう場合がある。

●**教材**

プリント配布

[科目ナンバー : GE CHN 03 08]

| | | | | | | | | |
|-----------------|------|-----------------------|-----|---|----------|----------|------|----------|
| 掲載番号 274 | 科目名 | 中国語特修 8 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 講義 | 担当教員 | 張 新民 (文) |
| | 英語表記 | Chinese Specialised 8 | | | | | | |

●**科目の主題**

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修8では、中国語圏の映画を教材として、その背景を考えながら、せりふの翻訳、朗読を通して、コミュニケーションに適応しうる能力を養成し、中国文化への理解を深める。

●**授業の到達目標**

話題が日常生活についてのなじみあるものや個人的関心あるもの（家族、余暇、旅行、現状など）についての会話に、準備なく参加できることを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化

第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は、履修制限をおこなう場合がある。

●教材

プリント配布

[科目ナンバー : GE CHN 03 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語特修 9 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | 范 紫江（非常勤） |
| 275 | 英語表記 | Chinese Specialised 9 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修9では、「入門」、「初級」で身に付けた正確な発音を基に自由に会話できることを目標とする。中国人教員が担当、生の中国語に多く触れてもらい、「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行なう。

●授業の到達目標

一つ的话题をめぐって複数の場面と文体のバリエーションが提示された教材を使ってコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、聞く力と話す力を養成する。

関心のある話題なら、明晰かつ詳細に自分の意見が述べられることを目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、平常点（授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績）等により評価する。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は、履修制限をおこなう場合がある。

●教材

沈国威・安力：『新版トーク・トピックス』（白帝社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 10]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------------------|-----|---|------|------|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 中国語特修10 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習講義 | 担当教員 | 范 紫江（非常勤） |
| 276 | 英語表記 | Chinese Specialised 10 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修10では、「入門」、「初級」で身に付けた正確な発音を基に自由に会話できることを目標とする。中国人教員が担当、生の中国語に多く触れてもらい、「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行なう。

●授業の到達目標

一つ的话题をめぐって複数の場面と文体のバリエーションが提示された教材を使ってコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、聞く力と話す力を養成する。

関心のある話題なら、明晰かつ詳細に自分の意見が述べられることを目指す。

●授業内容・授業計画

第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：中国語の実践能力の強化

第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、平常点（授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績）等により評価する。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は、履修制限をおこなう場合がある。

●教材

沈国威・安力：『新版トーク・トピックス』（白帝社）

ロシア語 Russian

カリキュラム概要

ウクライナ問題に端を発する経済制裁や、原油価格の下落により、ロシア経済は現在失速ぎみといわれていますが、その経済的な潜在性ととも、政治的発言力を強めているロシアから目がはなせません。また、ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアにも目を向けています。日本アニメは相変わらず圧倒的人気を保ち、村上春樹など日本作家の本が書店に並び、日本料理は大人気です。ロシアの魅力は何か、と聞かれたら、かつては、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チェーホフ、ゴーリキイなど）という答えが多かったように思われますが、広大なロシアの自然、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ラフマーニノフ、ショスタコーヴィチなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、有力選手を輩出するロシアのフィギュアスケート、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きることがありません。ロシア語は国連の公用語のひとつで、世界一広い国土を有する隣国の言葉です。ソ連の崩壊から20年以上たちましたが、ロシアはつねに変化し続けています。ぜひロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。

[科目ナンバー : GE RUS 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|---------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語基礎 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 江村 公 (文 特任) バクン・エレナ (非常勤) |
| 277 | 英語表記 | Russian Basic 1 | | | | | | |

●科目の主題

実践的な会話が収録された教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進めるとともに、ロシア語文法の骨組みを理解するための導入的授業。ロシアの生活・文化への理解を深めてもらうために、映像資料なども紹介する。

●授業の到達目標

ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章を的確に音読できるようになるのが第一の目標。第二には、名詞の性と数、格変化の仕組み、動詞の使い方など初歩的な文法機能を理解できるようになること。さらに簡単なあいさつの表現を習得し、聞きなれた単語や日常的な表現がわかるようになる。

●授業内容・授業計画

日本人担当者が主に文法説明、外国人担当者が発音・会話練習を担当し、授業を進める。

第1週: イントロダクション(ロシア語・ロシア文化への導入)

第2週～第3週: ロシア語の文字と発音

第4週～第8週: ロシア語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週: ロシア語の基礎的な総合能力の発展的養成

第15週: まとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、テキストの音源を授業前に聞いておき、音に慣れるよう努めるなど、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。それぞれ担当者が採点した評価点の平均点を算出し、最終的な成績とする。授業ごとの詳細については、各担当者に確認のこと。

●受講生へのコメント

ロシア語の文字の練習から、わかりやすくゆっくりと授業を進めていきます。外国人教員の先生方は日本語堪能ですので、心配ありません。

●教材

THI [江村]

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』(ナウカ出版)適宜プリントを配布

CEJLSMNI(バクン)

プリント教材使用

[科目ナンバー : GE RUS 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|-------------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語基礎 2 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤) 江村 公 (文 特任) |
| 278 | 英語表記 | Russian Basic 2 | | | | | | |

●科目の主題

実践的な会話が収録された教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進めるとともに、ロシア語文法の骨組みを理解するための導入的授業。ロシアの生活・文化への理解を深めてもらうために、映像資料なども紹介する。

●授業の到達目標

ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章を的確に音読できるようになるのが第一の目標。第二には、名詞の性と数、格変化の仕組み、動詞の使い方など初歩的な文法機能を理解できるようになること。さらに簡単なあいさつの表現を習得し、聞きなれた単語や日常的な表現がわかるようになる。

●授業内容・授業計画

日本人担当者が主に文法説明、外国人担当者が発音・会話練習を担当し、授業を進める。

第1週:イントロダクション(ロシア語・ロシア文化への導入)

第2週～第3週:ロシア語の文字と発音

第4週～第8週:ロシア語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週:ロシア語の基礎的な総合能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、テキストの音源を授業前に聞いておき、音に慣れるよう努めるなど、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。それぞれ担当者が採点した評価点の平均点を算出し、最終的な成績とする。授業ごとの詳細については、各担当者に確認のこと。

●受講生へのコメント

ロシア語の文字の練習から、わかりやすくゆっくりと授業を進めていきます。外国人教員の先生方は、日本語堪能ですので心配ありません。

●教材

THI(ズマグロワ)

プリント教材使用

CEJLSMNI [江村]

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』(ナウカ出版)適宜プリントを配布

[科目ナンバー : GE RUS 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|---------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語基礎 3 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 江村 公 (文 特任) バクン・エレナ (非常勤) |
| 279 | 英語表記 | Russian Basic 3 | | | | | | |

●科目の主題

前期の授業テキストを引き続き使用し、やさしい日常会話の表現と基本的な文法事項を学習する。さらに文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も採用する。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1・2」と同じ担当者が授業を行う。

●授業の到達目標

名詞の格変化に慣れ、使いこなせるようになるのが第一の目標。第二には、動詞の体の違いを理解できるようになること。さらに語彙や表現の積み上げを目指し、なじみのある話題や必要なことらについて簡単な質問や受け答えができるようになる。

●授業内容・授業計画

日本人担当者が主に文法説明、外国人担当者が発音・会話練習を担当し授業を進める。

第1週:〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週～第5週:ロシア語基礎的な文法知識・実践能力の拡充

第6週～第10週:ロシア語の基礎的な文法知識・実践能力の強化

第11週～第14週:ロシア語の基礎的な文法知識・実践能力の仕上げ

第15週:まとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、テキストの音源を授業前に聞いておき、音に慣れるよう努めるなど、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。それぞれ担当者が採点した評価点の平均点を算出し、最終的な成績とする。授業ごとの詳細については、各担当者に確認のこと。

●受講生へのコメント

教育内容の継続性・効果の観点から、同じ担当者の「基礎3」「基礎4」は取ることができないので注意。

●教材

THI [江村]

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』(ナウカ出版)適宜プリントを配布

CEJLSMNI(バクン)

プリント教材使用

[科目ナンバー : GE RUS 02 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------|-----|---|------|----|------|-------------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語基礎 4 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤) 江村 公 (文 特任) |
| 280 | 英語表記 | Russian Basic 4 | | | | | | |

●科目の主題

前期の授業テキストを引き続き使用し、やさしい日常会話の表現と基本的な文法事項を学習する。さらに文化の

背景を理解してもらうための視聴覚教材も援用する。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1・2」と同じ担当者が授業を行う。

●授業の到達目標

名詞の格変化に慣れ、使いこなせるようになるのが第一の目標。第二には、動詞の体の違いを理解できるようになること。さらに語彙や表現の積み上げを目指し、なじみのある話題や必要なことごとについて簡単な質問や受け答えができるようになる。

●授業内容・授業計画

日本人担当者が主に文法説明、外国人担当者が発音・会話練習を担当し授業を進める。

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語基礎的な文法知識・実践能力の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識・実践能力の強化
- 第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識・実践能力の仕上げ
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、テキストの音源を授業前に聞いておき、音に慣れるよう努めるなど、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。それぞれ担当者が採点した評価点の平均点を算出し、最終的な成績とする。授業ごとの詳細については、各担当者に確認のこと。

●受講生へのコメント

教育内容の継続性・効果の観点から、同じ担当者の「基礎3」「基礎4」は取ることができないので注意。

●教材

THI (ズマグロワ)

プリント配布

CEJLSMNI [江村]

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』(ナウカ出版)適宜プリントを配布

[科目ナンバー : GE RUS 02 03]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|--------------------|-----|---|----------|----|------|----------------------|
| 掲載番号 281 | 科目名 | ロシア語応用1A | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤) |
| | 英語表記 | Russian Applied 1A | | | | | | |

●科目の主題

ロシア語「基礎1」「基礎2」受講中の学生を対象として、履修中のクラスと連携しながら、さらに文字と発音のしくみを理解し、ロシア語をより確実に学習するためのクラスで、外国人教員が担当する。授業に参加する学生との交流とロシアの文化理解に焦点をあてた授業を行なう。

●授業の到達目標

「基礎1」「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。ロシア語の文字の理解と発音を外国人教師の指導の下、より確実なものにする。身の回りの物事に関する、聞き慣れた単語や日常的な表現がわかるようになる。

●授業内容・授業計画

- 第1回：イントロダクション（ロシア語・ロシア語圏文化への導入）
- 第2回：ロシア語のアルファベット、キリル文字に親しむ
- 第3回：文字と発音の仕組み、発音練習
- 第4回：簡単なあいさつの語彙、対話練習
- 第5回：人称代名詞と主格、対話練習
- 第6回：動詞の現在人称変化、対話練習
- 第7回：動詞の過去形、対話練習
- 第8回：名詞の格変化について、対話練習
- 第9回：前置格の使い方、対話練習
- 第10回：前置詞と格の関係について、対話練習
- 第11回：命令形の作り方、対話練習
- 第12回：生格の意味と使い方、対話練習
- 第13回：所有代名詞、対話練習
- 第14回：形容詞の性と数、対話練習
- 第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。詳細は授業中に説明する。

●受講生へのコメント

授業はさまざまな教材を使用し、授業を進めていきます。楽しく勉強しましょう。

●教材

プリント教材使用

[科目ナンバー : GE RUS 02 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------|-----|---|------|----|------|----------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語応用 2 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤) |
| 282 | 英語表記 | Russian Applied 2 A | | | | | | |

●科目の主題

ロシア語「基礎1」「基礎2」を受講した者を対象として、履修中のクラスと連携しながら、より集中的に発音のしくみや文の構造を学習する。外国人教員の指導の下、ロシア語の「聞く・話す・読む・書く」の基本的力を養う。テキストの他に、映像等を用いて文化紹介も行なう。

●授業の到達目標

ロシア語「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。身の回りの物事に関する、聞き慣れた単語や日常的な表現がわかるようになる。

●授業内容・授業計画

- 第1回：既習事項の確認
- 第2回：運動の動詞の意味と使い方、対話練習
- 第3回：与格について、対話練習
- 第4回：造格について、対話練習

- 第5回：動詞の完了体・不完了体の違い、対話練習
- 第6回：動詞の未来形、対話練習
- 第7回：対格の活動体と不活動体の区別、対話練習
- 第8回：指示代名詞の性と数、対話練習
- 第9回：形容詞の格変化について、対話練習
- 第10回：形容詞と副詞、対話練習
- 第11回：副詞の使い方、対話練習
- 第12回：数詞、対話練習
- 第13回：個数詞と名詞の結びつきについて、対話練習
- 第14回：数に関するさまざまな表現、対話練習
- 第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。詳細は授業で説明する。

●受講生へのコメント

授業はさまざまな教材を使用し、最新のロシア文化事情も紹介しながら、授業を進めていきます。楽しく勉強しましょう。

●教材

プリント教材配布。

[科目ナンバー : GE RUS 02 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語応用1B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | バクン・エレーナ (非常勤) |
| 283 | 英語表記 | Russian Applied 1B | | | | | | |

●科目の主題

ロシア語「基礎3」「基礎4」を受講した者を対象として、日常生活で役に立つ会話表現を学びながら、様々な話題についてロシア語で聴いたり、話したりすることを目指して、語彙、表現を学習する。仕事、スポーツ、生活面で注目されている話題にも触れる機会を持つ。

●授業の到達目標

ロシア語「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。身の回りの物事に関する、聞き慣れた単語や日常的な表現がわかるようになる。

●授業内容・授業計画

- 第1回：文字と発音の関係等、既習事項の確認
- 第2回：あいさつの表現と語彙の確認、対話練習
- 第3回：場所をたずねる表現と主格の意味、対話練習
- 第4回：所有代名詞と名詞の複数形、対話練習
- 第5回：住居に関する語彙と前置格の用法、対話練習
- 第6回：大学と教室に関する語彙、対話練習
- 第7回：食べ物の語彙、対話練習
- 第8回：飲み物の語彙と好みに関する表現、対話練習

- 第9回：対格の意味と使い方、対話練習
- 第10回：家族について説明するための語彙、対話練習
- 第11回：時間に関する語彙と表現、対話練習
- 第12回：買い物に関する表現と生格の用法、対話練習
- 第13回：動詞の命令形、対話練習
- 第14回：形容詞の格変化、対話練習
- 第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の子習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。詳細は授業中に説明する。

●受講生へのコメント

さまざまな資料を用いて、授業を行ない、現代ロシアの最新の文化についても紹介していきます。楽しく勉強しましょう。

●教材

ディヴォフスキイ、北岡千夏著『会話で学ぶロシア語』初級、中級（南雲堂フェニックス）、プリント教材使用

[科目ナンバー : GE RUS 02 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------|-----|---|------|----|------|------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語応用 2 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | バクン・エレナ (非常勤) |
| 284 | 英語表記 | Russian Applied 2 B | | | | | | |

●科目の主題

ロシア語「基礎3」「基礎4」を受講した者を対象として、様々な話題についてロシア語で聴いたり、話したりすることを目指し、語彙、表現を学習する。現代のロシアにおいて、仕事、スポーツ、生活面などで注目されている話題にも触れる機会を持つ。

●授業の到達目標

ロシア語「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。身の回りの物事に関する、聞き慣れた単語や日常的な表現がわかるようになる。

●授業内容・授業計画

- 第1回：既習事項の確認
- 第2回：色彩の語彙と表現、対話練習
- 第3回：形容詞と名詞の格変化、対話練習
- 第4回：対格の活動体と不活動体、動詞の不規則変化、対話練習
- 第5回：場所と交通に関する語彙と表現、対話練習
- 第6回：数と時間の表現、対話練習
- 第7回：移動の動詞の使い方、対話練習
- 第8回：旅に関する語彙と表現、対話練習
- 第9回：天候についての語彙と表現、対話練習
- 第10回：述語副詞の意味と使い方、対話練習
- 第11回：無人称文と与格、対話練習
- 第12回：動詞の完了体と完了体の違い、対話練習

- 第13回：体と時制について、対話練習
- 第14回：所有の表現と人称代名詞の格変化、対話練習
- 第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の子習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。詳細は授業中に説明。

●受講生へのコメント

さまざまな資料を用いて、授業を行ない、現代ロシアの最新の文化についても紹介していきます。楽しく勉強しましょう。

●教材

ディヴォフスキイ、北岡千夏著『会話で学ぶロシア語』初級、中級（南雲堂フェニックス）、プリント教材使用

[科目ナンバー : GE RUS 03 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語特修 1 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 江村 公 (文 特任) |
| 285 | 英語表記 | Russian Specialised 1 | | | | | | |

●科目の主題

基礎で学習した教科書を引き続き使用し、既習内容を復習しながら、語彙や表現の上積みを行ない、ロシア語の表現力の向上を目指す。視聴覚教材を用いてロシアの文化を紹介し、その現代的課題についても考える授業。

●授業の到達目標

移動の動詞の特徴、数の表現、形容詞の比較級、最上級、簡単な関係代名詞が理解でき、運用できるようになることが目標。日常語で書かれたテキストや手紙の中の出来事の記述や感情表現、願望がわかるようになる。

●授業内容・授業計画

- 第1週:既習内容の確認
- 第2週～第3週:ロシア語の動詞と形容詞について
- 第4週～第9週:ロシア語実践的能力の初歩的養成
- 第10週～第14週:映画の鑑賞と役立つ表現についての理解
- 第15週:まとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、テキストの音源を授業前に聞いておき、音に慣れるよう努めるなど、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の子習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。詳細は初回の授業で詳しく説明する。

●受講生へのコメント

基礎で使用したテキストを引き続き学びながら、ロシアを旅行したり、生活したりするための役に立つ表現を習得していきたいと思います。さらに映画の鑑賞を通して、ロシアの文化事情についても考えていきましょう。

●教材

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』（ナウカ出版）、適宜プリント配布。

[科目ナンバー : GE RUS 03 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語特修 2 | | | | | | |
| 286 | 英語表記 | Russian Specialised 2 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 江村 公 (文 特任) |

●科目の主題

読解のための文法事項の確認を行なったうえで、短いロシア語の文章を読む。さらに、映画の鑑賞を通して、ロシアの歴史と文化を学び、ロシアへの関心と理解を深める。

●授業の到達目標

辞書を使いこなし、簡単な文章が読めるようになる。インターネットで自身の関心のあるトピックを見つけるなど、ロシア語による情報リテラシーを高めることを目指す。最終的に、現代的問題についての論説やレポートが読め、平易な文学のテキストがわかるようになることが目標。

●授業内容・授業計画

- 第1週:既習内容の確認
- 第2週～第4週:関係代名詞、関係副詞、形動詞の文法確認
- 第5週～第10週:ロシア語文章講読
- 第11週～第14週:映画鑑賞によるロシア語能力の発展的養成
- 第15週:まとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習(合計2時間)を行うことが望ましい。

●評価方法

授業毎の予習が義務づけられ、割り当てされた範囲は訳出してから出席することが前提となるため、出席・授業参加による評価を行なう。詳細は初回の授業で詳しく説明する。

●受講生へのコメント

使用テキストについては、授業参加者の習熟度や関心にあわせて選択する予定。

●教材

プリント教材使用。

[科目ナンバー : GE RUS 03 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------|-----|---|------|----|------|----------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ロシア語特修 3 | | | | | | |
| 287 | 英語表記 | Russian Specialized 3 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤) |

●科目の主題

「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」の単位を修得した学生を対象に、基本的文法事項の復習をしつつ、会話・表現力の向上を目指す。より高度な文法事項を学習し、コミュニケーション能力の養成を行なう授業。

●**授業の到達目標**

関係代名詞の用法、無人称文(副詞と述語)、数詞(40-2000)、動詞の体、出発と到着の表現、形容詞、人称代名詞、所有代名詞の前置格、形容詞、所有代名詞、指示代名詞の与格、体調の表現、西暦年代を理解し、運用できるようになる。自分の経験や出来事、希望、目標などについて簡単な方法で話すことができるようになる。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週:既習内容の確認
- 第2週～第3週:ロシア語の文法の補強
- 第4週～第9週:ロシア語実践能力の初歩的養成
- 第10週～第14週:ロシア語実践能力の発展的養成
- 第15週:まとめ

●**事前・事後学習の内容**

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の子習・復習を行うことが望ましい。

●**評価方法**

出席・授業参加による平常点と定期試験で評価。詳細は授業で詳しく説明する。

●**受講生へのコメント**

さまざまな教材を用いて、グループワークなどを交えつつ、実践的な授業を行ないます。楽しく勉強していきましょう。

●**教材**

プリント配布。

[科目ナンバー : GE RUS 03 04]

| | | | | | | | | |
|-----------------|------|-----------------------|-----|---|----------|----|------|----------------------|
| 掲載番号 288 | 科目名 | ロシア語特修 4 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤) |
| | 英語表記 | Russian Specialised 4 | | | | | | |

●**科目の主題**

基本的文法事項の復習をしつつ、会話・表現力の向上を目指す。より高度な文法事項を学習し、会話のやりとりやプレゼンテーションなど、コミュニケーション能力全般を高めるための授業。

●**授業の到達目標**

数量の表現、複数生格、数詞、動詞の体、活動体対格(複数)、複数与格、造格、前置格、形容詞短語尾、形容詞・比較級、副動詞、形動詞を理解し、運用できるようになる。意見や計画の理由を手みじかに述べたり、本や映画のあらすじを語ったり、自分の感想を表明したりできるようになる。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週:既習内容の確認
- 第2週～第3週:ロシア語文法の補強
- 第4週～第9週:ロシア語実践能力の初歩的養成
- 第10週～第14週:ロシア語実践能力の発展的養成
- 第15週:まとめ

●**事前・事後学習の内容**

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ1時間程

度の予習・復習を行うことが望ましい。

●**評価方法**

出席点・授業参加による平常点と定期試験で評価。詳細は授業で詳しく説明する。

●**受講生へのコメント**

さまざまな教材を用いて、グループワークなどを交えつつ、実践的な授業を行ないます。楽しく勉強していきましょう。

●**教材**

プリント配布。

朝鮮語 Korean

カリキュラム概要

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語後です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の人々が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

[科目ナンバー : GE KOR 01 02]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|----------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 289 | 科目名 | 朝鮮語基礎 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 野崎 充彦 (文) |
| | 英語表記 | Korean Basic 1 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎 1」は「基礎 2」との同時履修科目（片方みの履修は不可）で朝鮮語初学者を対象とし、文字と発音のしくみ、文の構造や用言の活用形、韓国・朝鮮の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：入門篇（朝鮮語・韓国朝鮮文化への導入）
- 第2週～第3週：ハングルの発音、単語の読み方と音韻変化
- 第4週～第8週：朝鮮語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが大切である。

●評価方法

「基礎 1」と「基礎 2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

朝鮮語はもっとも日本語に近い言語です。語順はほぼ同じで、漢字語の多くは共通なので学びやすいのですが、表音文字であるハングルを使いこなすのがポイント。何より音に慣れましょう。

●教材

すべてのクラスで共通の教材を用います。

『ミニマム韓国語』 高秀賢 （国書刊行会）

[科目ナンバー : GE KOR 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|------------------------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語基礎 2 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 北島 由紀子 (文 特任) 金 宝英 (文 特任) |
| 290 | 英語表記 | Korean Basic 2 | | | | | | |

●科目の主題

「基礎 2」は「基礎 1」との同時履修科目（片方のみの履修は不可）で、朝鮮語初学者を対象とし、文字と発音のしくみ、文の構造や用言の活用形、韓国・朝鮮の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第 1 週：入門篇（朝鮮語・韓国朝鮮文化への導入）
- 第 2 週～第 3 週：ハングルの発音と単語の読み方と音韻変化
- 第 4 週～第 8 週：朝鮮語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第 9 週～第 14 週：朝鮮語の基礎的な総合能力の発展的養成
- 第 15 週：まとめ

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが大切である。

●評価方法

「基礎 1」と「基礎 2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。詳細は教員に確認すること。

●受講生へのコメント

朝鮮語はもっとも日本語に近い言語です。語順はほぼ同じで、漢字語の多くは共通なので学びやすいのですが、表音文字であるハングルを使いこなすのがポイント。何より音に慣れましょう。

●教材

- すべてのクラスで共通の教材を用います。
- 『ミニマム韓国語』 高秀賢（国書刊行会）

[科目ナンバー : GE KOR 02 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語基礎 3 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 野崎 充彦 (文) |
| 291 | 英語表記 | Korean Basic 3 | | | | | | |

●科目の主題

朝鮮語「基礎 1」、「基礎 2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎 3」との連携のもと、ヘヨ体を用いた「です・ます」形、勧誘や願望を表す表現、過去形などについて学ぶとともに、朝鮮語の能力を総合的に問う教科書付随の検定模擬問題にも挑戦し、既習文法の定着を促す。授業では、テキストの他にCD等を用いて、聴覚情報を提示する。

●授業の到達目標

日常会話で多用される「です・ます」形、過去の時制、勧誘、願望、敬語表現などの文法を理解し、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週：「基礎1」、「基礎2」の既習事項の確認
- 第3週～第6週：朝鮮語の基礎的な文法知識の拡充 (教科書13課～17課)
- 第7週：朝鮮語の基礎的な文法の確認と強化 (中間試験)
- 第8週～第11週：朝鮮語の基礎的な文法の拡充 (教科書18課～20課)
- 第12週～第14週：朝鮮語の基礎的な文法知識の強化と仕上げ
- 第15回：まとめ (期末試験)

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが大切である。

●評価方法

定期試験の他、中間試験、小テスト、平常点（出席を含む）などにより評価する。

●受講生へのコメント

朝鮮語を読む・書く・話す・聞くといった実践に結びつけるには、文法知識を確実に定着させていく必要があり、そのためには知識の導入と練習の反復が不可欠です。特に復習をしっかり行うことで新しく習い始めた語学において、できる・わかるが増えていく楽しさを実感してください。

●教材

『ミニマム韓国語』 高秀賢 (国書刊行会)

[科目ナンバー : GE KOR 02 02]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|----------------|-----|---|----------|----|------|------------------------------|
| 掲載番号 292 | 科目名 | 朝鮮語基礎 4 | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 北島 由紀子 (文 特任) 金 宝英 (文 特任) |
| | 英語表記 | Korean Basic 4 | | | | | | |

●科目の主題

朝鮮語「基礎1」、「基礎2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、ヘヨ体を用いた「です・ます」形、勧誘や願望を表す表現、過去形などについて学ぶとともに、朝鮮語の能力を総合的に問う教科書付随の検定模擬問題にも挑戦し、既習文法の定着を促す。

●授業の到達目標

日常会話で多用される「です・ます」形、過去の時制、勧誘、願望、敬語表現などの文法を理解し、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週：「基礎1」、「基礎2」の既習事項の確認 (教科書1課～9課)
- 第3週～第6週：朝鮮語の基礎的な文法知識の拡充 (教科書10課～13課)
- 第7週：朝鮮語の基礎的な文法の確認と強化 (中間試験)
- 第8週～第11週：朝鮮語の基礎的な文法の拡充 (教科書14課～16課)
- 第12週～第14週：朝鮮語の基礎的な文法知識の強化と仕上げ (ハングル検定模擬問題、作文練習等)
- 第15回：まとめ (期末試験)

●事前・事後学習の内容

事前・事後の学習としてはテキストの予習、復習や宿題、また試験の準備等があげられる。目安としては1回の授業につき1時間以上の復習をすることが望ましい。詳細は各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験の他、中間試験、小テスト、平常点（出席を含む）などにより評価する。

●受講生へのコメント

朝鮮語を読む・書く・話す・聞くといった実践に結びつけるには、文法知識を確実に定着させていく必要があり、そのためには知識の導入と練習の反復が不可欠です。特に復習をしっかりと行うことで新しく習い始めた語学において、できる・わかることが増えていく楽しさを実感してください。

●教材

北島由紀子：改訂版『パラセ韓国語初級－ハングル能力検定試験5級完全準拠』金京子他
朝日出版社 2013年
金宝英：基礎から学ぶ 韓国語講座 初級 木内明著 国書刊行会

[科目ナンバー : GE KOR 02 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語応用 1 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 金 静愛 (文 特任) |
| 293 | 英語表記 | Korean Applied 1 A | | | | | | |

●科目の主題

朝鮮語「基礎1」、「基礎2」履修中の者を対象として、「基礎1」「基礎2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみや文の構造について学ぶとともに、朝鮮半島の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを行う。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回：朝鮮語の特徴、文字の仕組み
- 第2回：文字と発音(1)平音、激音、濃音
- 第3回：文字と発音(2)終声、連音化
- 第4回：名詞文の叙述・疑問
- 第5回：存在分の叙述・疑問
- 第6回：用言文の叙述・疑問、漢語系数詞 テキストを使用した会話練習
- 第7回：まとめと中間テスト
- 第8回：否定形、固有語系数詞
- 第9回：尊敬形
- 第10回：連用形
- 第11回：連用形の縮約形
- 第12回：해요体の叙述・疑問
- 第13回：해요体の尊敬形 会話文の作成とその練習
- 第14回：総合練習と対話練習 スピーチ練習
- 第15回：まとめと期末テスト

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが

大切である。

●**評価方法**

定期テスト2回：50%、授業への取り組み、参加度：30%、平常点（小テスト、提出物ふくむ）：20%

●**受講生へのコメント**

試験や練習問題はできるようになっても、外国語で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで朝鮮語の理解を深めていきましょう。

●**教材**

生越直樹（著）『ことばの架け橋』改訂版（白帝社）

[科目ナンバー : GE KOR 02 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語応用 2 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 金 静愛（文 特任） |
| 294 | 英語表記 | Korean Applied 2 A | | | | | | |

●**科目の主題**

朝鮮語「基礎1」、「基礎2」履修中の者を対象として、「基礎1」「基礎2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみや文の構造について学ぶとともに、朝鮮半島の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを行う。

●**授業の到達目標**

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

- 第1回：過去形
- 第2回：尊敬の過去形
- 第3回：連体形(1)
- 第4回：連体形(2)、補助語幹
- 第5回：ㄷ語幹
- 第6回：総合練習とテキストを使用した会話練習
- 第7回：まとめと中間テスト
- 第8回：ㄴ変則用言
- 第9回：ㄷ変則用言
- 第10回：ㄹ変則用言
- 第11回：ㅇ変則用言
- 第12回：ㄹ変則用言
- 第13回：ㅇ変則用言 会話文の作成とその練習
- 第14回：総合練習と対話練習
- 第15回：まとめと期末テスト

●**事前・事後学習の内容**

テキストの予習や復習、宿題、テストや発表の準備など。授業のはじめに前回の講義内容について小テストを実施する予定のため、各自講義で学んだことを復習するなど、準備を欠かさないようにすること。

●**評価方法**

定期テスト2回：50%、授業への取り組み、参加度：30%、平常点（小テスト、提出物ふくむ）：20%

●受講生へのコメント

試験や練習問題はできるようになっても、外国語で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで朝鮮語の理解を深めていきましょう。

●教材

生越直樹（著）『ことばの架け橋』改訂版（白帝社）

[科目ナンバー : GE KOR 02 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語応用 1 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 金 静愛（文 特任） |
| 295 | 英語表記 | | | | | | | |

●科目の主題

朝鮮語基礎を履修した者を対象として、コミュニケーション能力を高める訓練をしながら、朝鮮半島の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを積極的に行う。

●授業の到達目標

基礎で学んだ内容をもとに、より自然なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回：既習事項の確認
- 第2回：願望、意図を表す表現
- 第3回：理由、引用・伝聞の表現
- 第4回：発音のルール、対話練習
- 第5回：反問や確認の表現
- 第6回：不可能の表現 テキストを使用した会話練習
- 第7回：まとめと中間テスト
- 第8回：仮定や許可・禁止・願望などの慣用表現
- 第9回：勧誘や命令の表現
- 第10回：連用形を含む慣用表現
- 第11回：動詞・存在詞の連体形、文法事項の確認
- 第12回：過去連体形と慣用表現
- 第13回：目的をあらわす表現 会話文の作成とその練習
- 第14回：復習と対話練習
- 第15回：まとめと期末テスト

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが大切である。

●評価方法

定期テスト2回：50%、授業への取り組み、参加度：30%、平常点（小テスト、提出物ふくむ）：20%

●受講生へのコメント

試験や練習問題はできるようになっても、外国語でコミュニケーションをとるのは難しいものです。習った知識を実践することで朝鮮語の理解を深めていきましょう。

●教材

金京子（著）『パランセ韓国語中級』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE KOR 02 06]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語応用 2 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 金 静愛（文 特任） |
| 296 | 英語表記 | Korean Applied 2 B | | | | | | |

●科目の主題

朝鮮語基礎を履修した者を対象として、コミュニケーション能力を高める訓練をしながら、朝鮮半島の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを積極的に行う。

●授業の到達目標

基礎で学んだ内容をもとに、より自然なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業計画

- 第1回：形容詞・指定詞の連体形と許可の表現
- 第2回：意思や推量、約束などの表現
- 第3回：未来連体形を含む慣用表現
- 第4回：語彙を増やそう、対話練習
- 第5回：丁寧な提案や要求の表現
- 第6回：未来意志や推量、控えめな気持ちの表現 テキストを使用した会話練習
- 第7回：まとめと中間テスト
- 第8回：前置きや理由の表現
- 第9回：親しい間柄での言葉づかい(1)
- 第10回：禁止や否定の表現
- 第11回：親しい間柄での言葉づかい(2)
- 第12回：経験をあらわす表現
- 第13回：可能・不可能をあらわす表現 会話文の作成とその練習
- 第14回：復習と対話練習
- 第15回：まとめと期末テスト

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や復習、宿題、テストや発表の準備など。授業のはじめに前回の講義内容について小テストを実施する予定のため、各自講義で学んだことを復習するなど、準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

定期テスト2回：50%、授業への取り組み、参加度：30%、平常点（小テスト、提出物ふくむ）：20%

●受講生へのコメント

試験や練習問題はできるようになっても、外国語でコミュニケーションをとるのは難しいものです。習った知識を実践することで朝鮮語の理解を深めていきましょう。

●教材

金京子（著）『パランセ韓国語中級』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE KOR 03 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語特修 1 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 野崎 充彦 (文) |
| 297 | 英語表記 | Specialised Korean 1 | | | | | | |

●科目の主題

朝鮮語特修1では生の言語に慣れるため、TVドラマや映画などの視覚・聴覚教材を用い、そこに出てくる語法や表現・語彙の聞き取りや理解のトレーニングに励む。さらに、物語の背景となる韓国文化についても解説を加える。なお、受講生の希望に応じ、検定試験対策にも取り組む。

●授業の到達目標

読み、書き、聞く、話す4技能が韓国語能力試験3級レベルまでの到達を目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：入門篇：韓国ドラマ・映画の世界
- 第2週～第14週：TVドラマや映画に出てくる語法と表現・語彙（検定試験対策）
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

予習よりも徹底した復習と反復練習が必要である。

●評価方法

平常点 (50%)、定期試験 (50%)

●受講生へのコメント

語学的な知識だけでなく、韓国文化や社会への関心を高めていくことを望む。

●教材

プリント

●参考書

『韓国映画100年史』鄭宗樺著（野崎・加藤訳 明石出版 2017年）

[科目ナンバー : GE KOR 03 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語特修 2 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 金 宝英 (文 特任) |
| 298 | 英語表記 | Specialised Korean 2 | | | | | | |

●科目の主題

朝鮮語特修2ではより実践的な場面での会話の想定し学習内容を構成する。まず学んだ文法を生かして文章の読み、作文、聴解、会話を通じて応用力を高める練習をする。さらに会話の背景となる韓国文化について韓国のドラマやK-popを用いてより理解を高める。

●授業の到達目標

読み、書き、聞く、話す4技能が韓国語能力試験3級レベルまでの到達を目指す。

●授業内容・授業計画

第1週：朝鮮語の基礎的能力の確認と主題への導入
 第2週～第3週：朝鮮語の実践能力の初歩的養成
 第4週～第8週：朝鮮語の実践能力の強化
 第9週～第14週：朝鮮語の実践能力の発展的養成
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に提示した単語を覚え授業に備える。また習った会話は丸暗記し、応用会話ができるようにする。

●評価方法

会話ミニテスト (20%)、中間試験 (30%)、定期試験 (50%)

●受講生へのコメント

朝鮮語学習を深めてきた学生には、より高い完成度をめざす授業内容。
 今後の学習にもつながるように、受講者は自主的に学習の方法を工夫するようにする。

●教材

プリント授業
 西江韓国語 2 A (西江大学国際文化教育院出版部)

[科目ナンバー : GE KOR 03 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語特修 3 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 野崎 充彦 (文) |
| 299 | 英語表記 | Specialised Korean 3 | | | | | | |

●科目の主題

朝鮮語特修3では特修1で学んだことを踏まえ、さらに高度な実力養成をめざす。TVドラマや映画などの視覚・聴覚教材を用いて、語法や表現・語彙の聞き取りや理解のトレーニングし、さらに物語の背景となる韓国文化についても解説を加える。なお、受講生の希望に応じ、検定試験対策にも取り組むことも1と同様である。

●授業の到達目標

読み、書き、聞く、話す4技能が韓国語能力試験3級レベルまでの到達を目指す。

●授業内容・授業計画

第1週：入門篇：韓国ドラマ・映画の世界
 第2週～第14週：TVドラマや映画に出てくる語法と表現・語彙 (検定試験対策)
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

予習よりも徹底した復習と反復練習が必要である。

●評価方法

平常点 (50%)、定期試験 (50%)

●受講生へのコメント

語学的な知識だけでなく、韓国文化や社会への関心を高めていくことを望む。

●教材

プリント

●参考書

『韓国映画100年史』鄭宗樺著（野崎・加藤訳 明石出版 2017年）

[科目ナンバー : GE KOR 03 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 朝鮮語特修 4 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 金 宝英 (文 特任) |
| 300 | 英語表記 | Specialised Korean 4 | | | | | | |

●科目の主題

朝鮮語特修4では特修2で学んだことを小祖に、さらに実践的な場面での会話を想定して学習を進める。文章読解、作文、ヒアリング、会話を通じて応用力を高める。さらに韓国文化について韓国のドラマやK-popを用いてより理解を高める。

●授業の到達目標

読み、書き、聞く、話す4技能が韓国語能力試験3級レベルまでの到達を目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：朝鮮語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：朝鮮語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：朝鮮語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：朝鮮語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に提示した単語を覚え授業に備える。また習った会話は丸暗記し、応用会話ができるようにする。

●評価方法

会話ミニテスト（20%）、中間試験（30%）、定期試験（50%）

●受講生へのコメント

朝鮮語学習を深めてきた学生には、より高い完成度を目指す授業内容。
今後の学習にもつながるように、受講者は自主的に学習の方法を工夫するようにする。

●教材

プリント

日本語 Japanese

カリキュラム概要

日本語は、他の言語と同様に、じつに奥の深い言語である。ことばが文化と密接に関連していることを考えれば、日本語の習得は日本文化・日本社会の理解とも無縁ではない。本講座は、留学生の日本語力向上と、それに付随する日本文化理解を目的としている。

留学生にとって日本語の習得は容易なことではない。もちろん「日本語の習得」といっても、その内容も基準も、状況に応じて様々である。日常生活に必要な会話から、手紙や役所の届け出の書類を書くこと、テレビなどのメディアの中で使われる日本語の新しい言葉を通しての趣味・娯楽など、個々人の必要度に応じて、どこが「習得」の基準になるかが決まる。しかしここでは、研究活動や大学生活において必要な日本語の習得をめざしている。

大学生活を実り豊かなものにするため、学習活動や研究活動のために必要となる日本語能力を身につけること。つまり、学習活動に必要な日本語能力とは、講義を聞き、理解する、ノートを取る、自分の疑問点を日本語で表現する能力である。また、研究活動に必要な能力とは、専門書を読んで要約し、自分の問題意識を絞ってゼミで発表する、質疑応答してディスカッションする技術、さらにはレポートをまとめたり、論文を書く能力である。そして、本講座の最終目標は、言葉の学習を通して、日本語の豊かさを知り、ことばや日本文化や日本社会の特質や特性を考えて、個々人の専門分野や個人研究のなかでさらに問題意識を追求していくことである。

「日本語1～5」ではそのような日本語能力の養成を、幅広い観点・多彩な角度からおこなう。なお、各講座、内容や目的が異なるので、留学生は順次全てを履修することが望まれる。なお「日本語5」は短期留学や交換留学生を対象とした科目である。

[科目ナンバー : GE JPN 03 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本語 1 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 堀 まどか (文) |
| 301 | 英語表記 | Japanese 1 A | | | | | | |

●科目の主題

本科目では、「ニュースを読む」なかで、日本語の基礎を確認しながら、日本の現代社会について学び、はばひろい知識と教養を深める。新聞記事やニュース記事から導きだされる疑問や課題について、どのように他者と話題を共有し、自説を述べたり弁護したりする技術を学ぶ。日本語の能力の「読む・聞く・話す」の3つをバランスよく伸ばすことを目的とするが、中でも特にコミュニケーション（やりとり）の力を伸ばす。

●授業の到達目標

大学生活や卒業後に必要となる日本語能力をやしなうこと。①高度な論説文や新聞記事の読解力をつける。②難しい言葉・漢字を習得し、内容を要約する力をつける。③時事問題や広い分野の専門的課題について、討論する技術をつける。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本の現代社会への関心と導入
- 第4週～第8週：日本語の基礎能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の基礎能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

出席、発表、授業内でのディスカッション、レポートなどにより、総合的に評価する。出席日数、学習意欲や授業参加は、非常に重要な評価軸となる。

●受講生へのコメント

専門分野の異なる仲間たちとともに、これまで習ってきた日本語の知識を実践的に使用し、日本語運用能力を高めていこう。

●教材

「協働で学ぶクリティカル・リーディング」(館岡洋子編、ひつじ書房、2015年) 他

[科目ナンバー : GE JPN 03 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本語 1 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 堀 まどか (文) |
| 302 | 英語表記 | Japanese 1 B | | | | | | |

●科目の主題

本科目では、時事問題を中心に、日本語の応用力を身につけ、日本の現代社会についての教養を深める。新聞記事やインタビューを題材にして、大学生活で必要となる語彙力、情報処理能力、発信力を身につける。論理的な文章を批判的に読むことに慣れ、情報活用能力と幅広い語彙力を身につける。日本語の能力の「読む・聞く・話す」の3つをバランスよく伸ばすことをめざすが、とくに母語話者と自然に濃密なコミュニケーション(ディスカッション)ができる技術の習得をめざす。

●授業の到達目標

大学生活や卒業後に必要となる日本語能力をやしなうこと。①高度な論説文や新聞記事の読解力をつける。②難しい言葉・漢字を習得し、内容を要約する力をつける。③時事問題や広い分野の専門的課題について、批判的に検討する週間をつけ、明快な討論をおこなう技術を身につける。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・印象づける自己紹介や発表の方法について
- 第2週～第3週：日本の現代社会への関心と導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

出席、発表、授業内でのディスカッション、レポートなどにより、総合的に評価する。出席日数、学習意欲や授業参加は、非常に重要な評価軸となる。

●受講生へのコメント

外国語で自分の思いを伝えたり発信することは、案外難しい。これまで培ってきた日本語の知識を実践・応用しながら、異文化コミュニケーションを楽しもう。

●教材

「NIE実践ワークブック 新聞で身につく日本語力」(宮弘美著、国書刊行会、2015年)

[科目ナンバー : GE JPN 03 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本語 2 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 坂本 美加 (非常勤) |
| 303 | 英語表記 | Japanese 2 A | | | | | | |

●科目の主題

簡単な作文トレーニングを通じて、レポート・論文といった、アカデミック・ライティング能力の向上を目指す。レポートや論文を書くために必要な基礎的事項を学ぶ。

●授業の到達目標

大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。特に、日本語を口頭で、あるいは文章で表現する能力、レポートの執筆や論述試験に対応できるような作文力を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、ミニレポート、ミニテスト、平常点(課題への取り組み)等により評価する。

●受講生へのコメント

文章を書くことに苦手意識を持つ留学生は多い。しかし、学習活動では限られた時間の中での論述試験や多くのレポート課題に取り組まなければならない。文章の構成や論理の組み立て方を学び、練習課題を数多くこなすことで作文力を身につけ、苦手意識をぜひ克服してほしい。

●教材

二通信子・佐藤不二子『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク)

[科目ナンバー : GE JPN 03 04]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本語 2 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 坂本 美加 (非常勤) |
| 304 | 英語表記 | Japanese 2 B | | | | | | |

●科目の主題

レポート・論文を書くための作文トレーニングを行う。特に、アカデミック・ライティングで必要とされる論理的な文章の構成、展開方法、要約のしかたについて学ぶ。

●授業の到達目標

大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。特に、日本語を口頭で、あるいは文章で表現する能力、レポートの執筆や論述試験に対応できるような作文力を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（課題への取り組み）等により評価する。

●受講生へのコメント

文章を書くことに苦手意識を持つ留学生は多い。しかし、学習活動では限られた時間の中での論述試験や多くのレポート課題に取り組まなければならない。文章の構成や論理の組み立て方を学び、練習課題を数多くこなすことで作文力を身につけ、苦手意識をぜひ克服してほしい。

●教材

二通信子・佐藤不二子『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）他、適宜プリントを配付する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 05]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本語 3 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 堀 まどか (文) |
| 305 | 英語表記 | Japanese 3 A | | | | | | |

●科目の主題

本科目では、日本語で書かれた文学作品に触れるなかで、①日本語の基礎を確認し、②日本での研究や学習に励むための、基礎知識や文化理解、研究の視点を身に付け、③日本の文化社会について考え、国際的な課題に応用する視点を養う。テキストは、日本語と英語の両方が存在するものを使用し、語彙や表現を比較して「翻訳」の方法に注意しながら、丁寧によんでいく。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするので、協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

日本語の能力をバランスよく伸ばすことを目的とするが、とくに「読む」力をつけることをめざす。「日本語」翻訳や通訳に関心をもつ学生にとっての、基礎力を養う。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本語の基礎的能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：日本語の基礎的能力の応用的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点（出席、発表、授業内でのディスカッション、レポート）を主体にして、総合的に評価する。詳細については、授業内に説明する。

●受講生へのコメント

この科目は、N1～N4レベルまでのさまざまな日本語能力の学生が受講可能です。一人一人の能力と意欲に合わせて、無理なく授業を進めていきます。焦らずにじっくり日本語に取り組みましょう。

●教材

授業時に指示する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 06]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|--------------|-----|---|----------|----|------|-----------|
| 掲載番号 306 | 科目名 | 日本語 3 B | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 演習 | 担当教員 | 堀 まどか (文) |
| | 英語表記 | Japanese 3 B | | | | | | |

●科目の主題

本科目では、日本語で書かれた歴史や文化に関する文献や文学作品に触れるなかで、①日本語の基礎を確認し、②日本での研究や学習に励むための、基礎知識や文化理解、研究の視点を身に付け、③日本の文化社会について考え、国際的な課題に応用する視点を養う。テキストは、日本語と英語の両方が存在するものを使用し、語彙や表現を比較して「翻訳」の方法に注意しながら、丁寧によんでいく。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするので、協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

日本語の能力のなかの、とくに「読む」力をつけることを中心にして、幅広く語彙力と好奇心を広げ、日本語の実践力をバランスよく伸ばすことをめざす。「日本語」翻訳や通訳に関心をもつ学生にとっての、基礎力～応用力を養う。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第5週：日本語の基礎的能力の養成

- 第6週～第9週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点（出席、発表、授業内でのディスカッション、レポート）を主体にして、総合的に評価する。詳細については、授業内に説明する。

●受講生へのコメント

日本語文献の精読を通して、日本社会や文化、歴史について、幅広い関心と教養を深めていきましょう。学生たちが共に教え合い、話し合い、学びあう場にしましょう。

●教材

授業時に指示する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 07]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本語 4 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 坂本 美加（非常勤） |
| 307 | 英語表記 | Japanese 4 A | | | | | | |

●科目の主題

口頭発表技術を高める活動を中心に行う。各自が興味・関心を持っている社会問題などからテーマを選んでプレゼンテーションを行い、そのテーマについてクラス全員でディスカッションする。発表スライド、発表レジュメを作成する際の日本語表現について学ぶ。

●授業の到達目標

大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。日本語「1、2」で学習した内容を、より高度に運用できることを目標とする。①いくつかの文献を読み、論点を整理して発表する。②ゼミなどにおいて、文献の内容や自分の研究についてわかりやすく口頭発表できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

発表およびレポート、平常点（授業への取り組み）等により評価する。

●受講生へのコメント

相手に伝える技術を学ぶだけでなく、質疑応答、ディスカッションにも積極的に参加し、日本語運用能力を向上させるように取り組むこと。

●教材

鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』（スリーエーネットワーク）他。

[科目ナンバー : GE JPN 03 08]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本語 4 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 担当教員 | 坂本 美加（非常勤） |
| 308 | 英語表記 | Japanese 4 B | | | | | | |

●科目の主題

「はなす・伝える」といった日本語で発信する技術を高める活動を中心に行う。歌舞伎、文楽、茶の湯、生け花などの日本の伝統的な芸能・文化を題材にして、理解した内容を日本語で正確に自分のことばで伝える発信能力（スピーチ・プレゼンテーション能力）を身につけるためのトレーニングを行う。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするが、コミュニケーション能力の向上をめざす正規留学生の受講も歓迎する。協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。日本語「1、2」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。①いくつかの文献を読み、論点を整理して発表する。②ゼミなどにおいて、文献の内容や自分の研究についてわかりやすく口頭発表できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

発表およびレポート、平常点（授業への取り組み）等により評価する。

●受講生へのコメント

相手に伝える技術を学ぶだけでなく、質疑応答にも積極的に参加し、日本語運用能力を向上させるように取り組むこと。

●教材

プリント配付。

[科目ナンバー : GE JPN 03 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本語 5 A | 単位数 | 1 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 高坂 史朗 (非常勤) |
| 309 | 英語表記 | Japanese 5 A | | | | | | |

●科目の主題

日本語によるプレゼンテーションにより、日本語の総合的運用力を高める。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするので、協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

日本の文化について、学生（留学生）が関心のあるテーマを掲げ、それについて調査・研究し、発表する。日本での生活を体験する中で日本とその文化の特徴を考え、自分の日本研究の核を形成する。

それぞれの学生がプレゼンテーションすることによって、日本語の表現能力を高める。母国での日本語学習が2年間（120時間）日本語能力N3以上が望ましい。

●授業内容・授業計画

第1週：オリエンテーション・既習事項の確認

第2週～第3週：日本文化の諸相

第4週～第8週：学生の日本文化についての発表を中心に授業を進める

第9週～第14週：日本の文化についてのディスカッション

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

授業時の発表やそれへの参加・発言などで評価する。また最終レポートを課せる。

●受講生へのコメント

日本語の学習には日常生活の体験や日々の学習ばかりではなく、自分の関心のあるテーマを核として日本の文化に自ら関わってゆくことが重要である。その問題意識を形成することを目標にする。

●教材

授業時に指示する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 10]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|------|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 日本語 5 B | 単位数 | 1 | 授業形態 | 講義演習 | 担当教員 | 高坂 史朗 (非常勤) |
| 310 | 英語表記 | Japanese 5 B | | | | | | |

●科目の主題

日本語によるプレゼンテーションにより、日本語の総合的運用力を高める。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするので、協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

日本の都市について、学生（留学生）が関心のある都市・地域を掲げ、それについて調査・研究し、発表する。日本の各地を見聞する中でその都市とその文化の特徴を考え、自分の日本の研究の主題を形成する。

それぞれの学生がプレゼンテーションすることによって、日本語の表現能力を高める。母国での日本語学習が2年間（120時間）日本語能力N3以上が望ましい。

●授業内容・授業計画

第1週：オリエンテーション・既習事項の確認

第2週～第3週：日本の都市とその文化

第4週～第8週：学生の日本の都市についての発表を中心に授業を進める

第9週～第14週：日本の都市についてのディスカッション

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

授業時の発表やそれへの参加・発言などで評価する。また最終レポートを課せる。

●受講生へのコメント

日本語の学習には日常生活の体験や日々の学習ばかりではなく、自分の関心のあるテーマを核として日本の文化に自ら関わってゆくことが重要である。大阪を中心に日本の諸都市を考察することによって日本へのアプローチの仕方を形成することを目標にする。

●教材

授業時に指示する。

5. 健康・スポーツ科学科目

健康・スポーツ科学

Health, Exercise and Sport Sciences; HESS

学習の意義

近年の著しい科学技術の発達、生活の利便性を向上させる一方で、人々の健康に大きな影を落としている。日常生活における機械化、電動化、モータリゼーションの発達等による運動不足が「生活習慣病」の要因であることは周知の事実である。かつて成人病と呼ばれたこの疾患は、もはや子ども世代にも深刻な問題を投げかけており、生涯を通して身体運動を実践することの重要性が指摘されている。発育発達の完成期を迎える大学生の今、新しい時代に即した健康とスポーツの情報や科学的な身体運動の理論と実践法を学び、かつ体験することは、将来健康で豊かな社会生活を送るために必要不可欠なものである。

本科目では、1) 健康・スポーツ科学講義、2) 健康・スポーツ科学実習を通して、疾病の予防、健康・体力の維持・増進に関する知識と実践法を習得し、生涯を通してスポーツや身体運動に親しむ習慣を獲得することを目的としている。

○ 健康・スポーツ科学科目の履修について

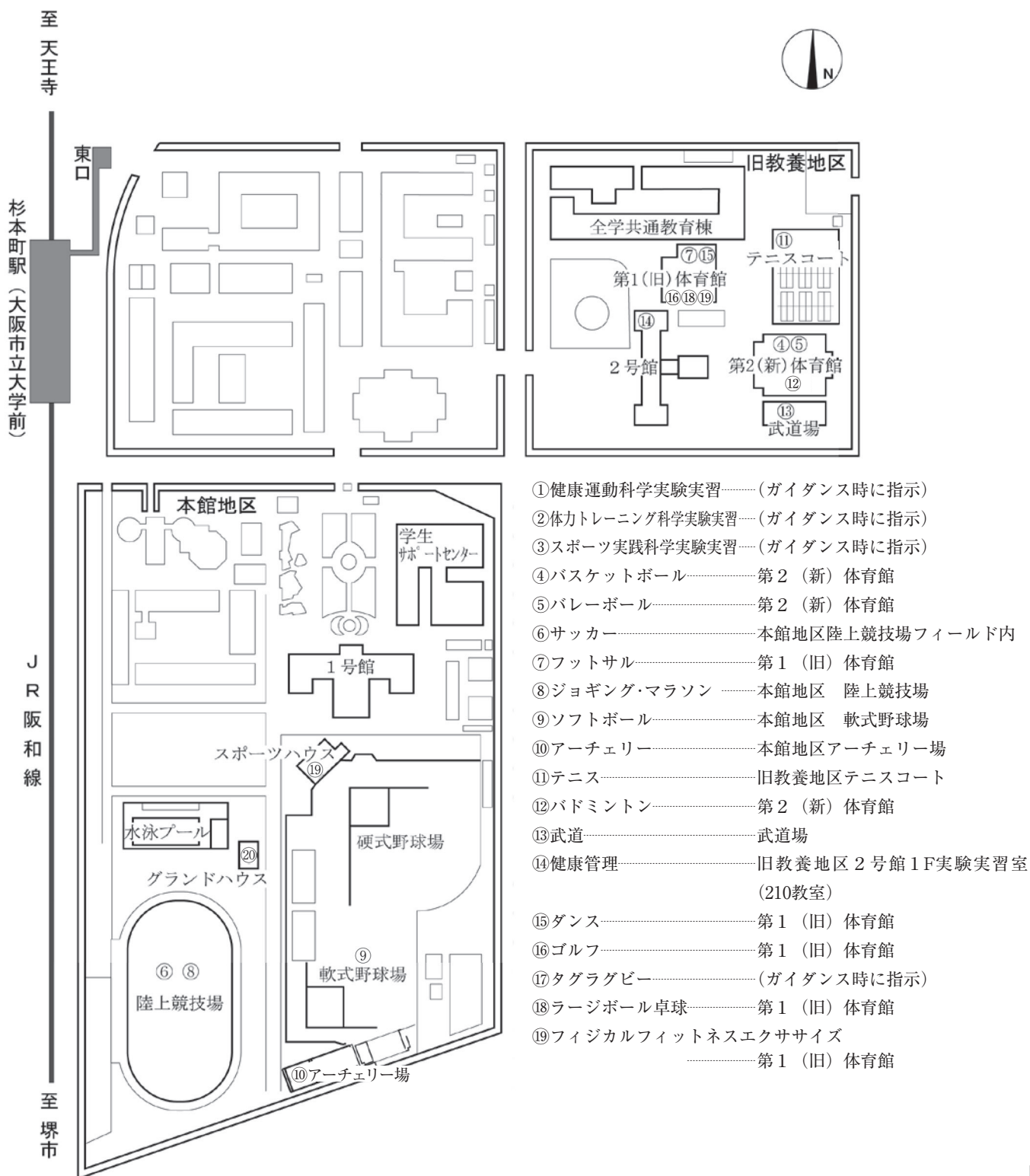
- (1) 健康・スポーツ科学科目の履修については、原則として所属学部の指定に従って履修することが望ましい。
- (2) 健康・スポーツ科学科目の単位は、1・2年次の間に修得することが望ましい。
- (3) 健康・スポーツ科学講義（以下「講義」という）の開講計画の説明は、第1週時の講義授業時に行う。
- (4) 講義の履修希望者が授業定員を上回る場合、抽選により履修を制限することがある。
- (5) 健康・スポーツ科学実習（以下「実習」という）は、原則として自由に選択することができるが、各実習とも定員があるため、各人の希望する実習を履修できない場合がある。
- (6) 実習の内容の説明および人員編成は、第1週時の実習ガイダンスにて行う。
- (7) 実習は、半期に2単位を修得することはできない。
- (8) 同じ実習は、原則として履修することができない。
- (9) 実習1は初心者（ビギナー）向けの内容であり、実習2は経験者（アドバンス）向けの内容である。
- (10) 実習を履修しようとする者は、本学が実施する健康診断を受けなければならない。
- (11) 実習を履修しようとする者は、各自で傷害保険等に加入しなければならない。
- (12) 健康上の事由により、実習の履修が困難と認められる者に対しては、「健康管理1」を開講している。
- (13) 健康上の事由により、学期途中で実習を履修できなくなった者は、担当教員の指示をうけなければならない。特に、1ヶ月以上にわたる場合は、医師の診断書を提出し、担当教員の指示をうけなければならない。
- (14) 特別な事由により、学期途中で履修した実習を変更する場合（健康管理1への変更等）は、新・旧担当教員の承認を得た上、実習変更届を所属学部の事務室に提出しなければならない。
- (15) 履修する担当教員へ提出する「実習選択カード」は、都市健康・スポーツ研究センターが提供したカードでなければならない。
- (16) 実習に関するその他詳細については、第1週時に行う実習ガイダンスにおいて説明するので、必ず出席しなければならない。その日時・場所については、別途全学ポータル及び第1体育館前「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示する。

注意事項

- 1) 健康・スポーツ科学実習では、必ず運動靴および運動着（水泳は水着）に更衣すること。
- 2) 体育館、卓球場における実習は、すべて上履き専用の運動靴を使用すること。
- 3) テニス実習を履修する者は、必ずテニスシューズを使用すること。
- 4) 実習中における各自の貴重品の取り扱いについては、盗難予防のため、担当教員の指示に従うこと。
- 5) 前期実習の場合は、実習によっては実習期間中に短期間の水泳を実施することがある。ただし何らかの事由により、水泳を受けることが不可能な者は、5月末日までに担当教員に届け出ること。
- 6) 健康・スポーツ科学科目についての連絡事項（教室変更、休講等）は、第1体育館の「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示するので、見落とさないよう注意すること。

○実習授業時の集合場所

(注) 前期・後期第1週は実習ガイダンスを行う。実習ガイダンスの場所は全学ポータル及び第1体育館前に掲示する。



| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 健康運動科学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 渡辺 一志 (健スポ) |
| 311 | 英語表記 | Exercise Science for Health | | | | | | |

●科目の主題

日本人の寿命は、女性87.14歳、男性80.98歳であるが、健康寿命（日常生活に制限のない期間）は10歳程度短い。また、国民医療費は増加が続き41兆円を超えている。このような日本の社会において、運動やスポーツのもたらす効用の重要性が認識され、健康増進法やスポーツ基本法などに基づいた「幸福で豊かな生活を営む」ことを実現するため、「健康」への関心はますます高まっている。

運動は、人間が健康に生きていくために欠かすことのできない3要素（栄養、運動、休養）の一つである。また、スポーツは、世界共通の人類の文化であり、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利でもある。

人間の体の仕組みと運動が健康に及ぼす効用について理解し、運動・スポーツを享受し、健康寿命の延伸に寄与する健康運動（生涯スポーツ）を創造するための最新の健康・運動・スポーツ科学について教授する。

●授業の到達目標

現代社会における人間の健康において、運動がいかに重要な役割を果たしているのかを理解するとともに、種々の運動に対するからだの適応と運動が及ぼす効果について理解し、自身が目的に応じた運動実践の方法を理解する。生涯を通じて、運動を享受して実践することができる知識を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 現代社会における健康の理解と運動・スポーツ科学について（ガイダンス）
2. 健康・体力について：健康と体力のとらえ方、身体組成、肥満
3. 筋の構造と特徴：骨格筋の形態や機能に及ぼす影響
4. 健康・運動・スポーツとエネルギー代謝・

5. 健康・運動・スポーツとコンディショニング：ストレッチング、ウォームアップ、クールダウン
6. 健康・運動・スポーツと体温調節機能：熱中症、運動時の水分補給
7. 健康・運動・スポーツとトレーニング：トレーニングの原理・原則
全身持久性トレーニングの基礎：運動・スポーツと呼吸・循環機能
8. 健康・運動・スポーツと全身持久性トレーニング
9. 健康・運動・スポーツとたばこ
10. 健康・運動・スポーツと筋力・筋力トレーニング
11. 健康・運動・スポーツとスピード・パワー
12. 健康・運動・スポーツと筋持久力・調整力
13. 健康・運動・スポーツと骨・骨粗鬆症
14. 健康・運動・スポーツと栄養
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に、次回の講義に関する資料をWebサイトに掲載する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、講義内容について小テスト等を数回実施する。各自講義の要点をノートにまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

レポート、小テスト（数回）、まとめテスト、受講状況等を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

できるだけ相方向的な授業を心がけています。講義を通じて身近な疑問や課題を解決して、自分の生活の中に運動を享受して実践できるように解説します。運動不足を感じている学生、これから運動やスポーツを始めようという学生の積極的な受講を期待する。

●教材

必要に応じて資料の配布や文献の紹介を行う。

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 健康運動科学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 横山 久代 (健スポ) |
| 312 | 英語表記 | Exercise Science for Health | | | | | | |

●科目の主題

昨今のマラソンプームに象徴されるように、運動・スポーツを自ら実践することによって、その達成感・爽快感や健康面への効果を楽しもうとする動きは高まりつつある。一方で、肥満・糖尿病をはじめとする生活習慣病は、誰もが直面しうる普遍的な疾患でありながら、心血管疾患などの死亡リスクを増大させ、本邦でも深刻な健康問題となっている。さらに世界に先駆け超高齢化社会を迎える長寿国日本において、認知症・運動器疾患対策により高齢者の日常生活を自立させ、「健康寿命」の延伸を図ることは喫緊の課題である。

将来、さまざまな分野での活躍が期待される学生が、地域保健をとりまく情勢、とりわけ生活習慣病について十分な問題意識を持ち、スポーツが本来もつ文化的価値のみならず、それら健康障害の予防・治療手段としての運動・スポーツを科学的に理解し、実践する能力を養う。

●授業の到達目標

- ・生活習慣病や、今後さらなる患者数増加が予測される認知症、骨粗鬆症などの各種疾患の概要について説明できる
- ・予防、治療の方法について、特に運動の役割について説明できる
- ・運動・スポーツを環境や社会的問題との関わりの中で捉え、市民の健康増進に結びつけるための実践方法について説明できる

●授業内容・授業計画

1. 総論 (この講義全体の目標、ガイダンス)
2. 肥満とメタボリックシンドローム
3. 糖尿病の概念
4. 糖尿病の治療
5. 痛風・高尿酸血症
6. 高血圧
7. 妊娠糖尿病
8. 骨粗鬆症

9. 認知症
10. 嗜好品と健康障害
11. 運動による生体適応
12. スポーツ現場における救急医療
13. メディカルチェック
14. 各種疾患における運動の実践方法
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習として、次回の講義で取り上げるテーマについて、現在話題となっていることや医療情勢上問題視されていることなどを新聞記事や文献を利用して調べておくこと。また、講義後はそのテーマについて、概要と現代社会で取り組むべき課題、課題解決に向けた手段、特に運動が果たす役割について復習し、論述ができるようにしておくこと。

●評価方法

期末筆記試験 (100%)

●受講生へのコメント

現場での勤務実績を重ねた医師の視点から、身近なケースや診療経験をふまえてわかりやすく解説するので、高校レベルの生物、化学の知識がなくとも十分理解できる内容となっている。これまで、健康やスポーツにとくに関心のなかった学生の受講も歓迎するが、課題解決に向け自ら考察する力を養うことを目標とするため、ディスカッションなど積極的に授業に参加する姿勢を求める。

講義に際し、レジュメの配布は行わないが、講義スライドのMoodleでの閲覧は可能である。

●教材

特定の教科書は使用しない。

参考図書：健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方 (講談社、2012年発行、田口貞善監修)、スポーツ医学研修ハンドブック (文光堂、2012年発行、日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修)

[科目ナンバー : GE HEA 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | スポーツ実践科学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 鈴木 雄太 (健スポ) |
| 313 | 英語表記 | Kinematic and Practical Science for Sports | | | | | | |

●科目の主題

スポーツの実践は、身体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足や楽しさ、喜びをもたらすとともに、心身の健康の保持・増進、体力向上など様々な効果をもたらす。特に、子どもの体力向上や高齢者の健康寿命の延伸が求められる日本では、生涯を通じたスポーツの実践が重要となる。

本科目では、スポーツの実践が身体に及ぼす影響や身体が動く仕組みを理解し、生涯にわたってスポーツを楽しむための基礎を養う。

●授業の到達目標

スポーツの実践における身体の諸機能やスポーツが健康や体力に及ぼす影響を科学的に理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. スポーツ実践科学の概要、
2. スポーツと健康、
3. スポーツと体力、
4. スポーツと傷害、
- 5-7. スポーツにおける身体運動のしくみ、
- 8-10. スポー

ツとトレーニング、11. スポーツと発育発達、12. スポーツと加齢・老化、13-14. 競技スポーツにおける科学、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

各講義において次回の講義内容について説明する。必ず事前学習した上で講義に臨むこと。また、学習内容を定着するために、講義の要点をまとめるなど復習を欠かさないこと。各講義の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

期末試験の成績、レポート内容および課題提出状況などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

スポーツや自身の身体に興味を持ち、主体的に取り組める学生の受講を期待します。

●教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE HEA 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|--|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | スポーツ実践科学 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 担当教員 | 荻田 亮 (健スポ) |
| 314 | 英語表記 | Kinematic and Practical Science for Sports | | | | | | |

●科目の主題

我々人間にとって、スポーツとは豊かな生活を営むために行う身体活動であり、生きがいであり、文化であるといえる。また、スポーツは単に楽しみとして実施するだけではなく、身体機能の向上や健康づくりのためには不可欠である。

本講義では、生涯にわたってスポーツや身体活動を実践するために必要な身体の諸機能と、目的に応じた効果的な運動・スポーツ実践についての理解を深める。

●授業の到達目標

運動に対する身体適応や、個々の目的に応じた効果的な運動方法についての理解を深めるとともに、生活の中における運動・スポーツの実践方法を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. スポーツ実践科学の概要、
2. スポーツの意義、
- 3-4. スポーツと健康・体力、
- 5-8. スポーツと身体の仕組み (骨格筋・エネルギー・神経系・呼吸循環

系)、9-11. スポーツと身体の適応、12. 発育・発達とスポーツ、13. 加齢・老化とスポーツ、14. スポーツとダイエット、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

各授業において事前に学習すべき内容について説明する。また、授業終了後には各自講義の要点をまとめるなど、事後の学習に取り組み、理解を深めておくこと。各講義の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

試験、小テスト、課題提出状況により評価する。

●受講生へのコメント

運動やスポーツに興味を持ち、主体的に講義に取り組む学生の受講を歓迎する。

●教材

必要に応じて資料等の配布を行う。

[科目ナンバー : GE HEA 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 体力トレーニング科学 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 岡崎 和伸 (健スポ) |
| 315 | 英語表記 | Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription | | | | | | |

●科目の主題

‘体力’は、競技スポーツ選手が優れた成績を収めるために重要な因子である。また、体力は、各種疾患や生活習慣病の罹患と関係すること、体力が低下すると日常生活活動が制限されて、支援・介護が必要になることが示されている。このように、体力は競技スポーツ選手にとって重要であるだけでなく、我々の日常生活や健康に深く関わっている。

本科目では、体力の捉え方、体力に影響する因子、および、体力トレーニングについて学び、運動やスポーツを楽しむ(する・見る)ための基礎を習得する。これらを通して、生涯に渡って自身の体力を維持・増進するために、どんな運動をどのくらい実施すれば良いか? といった具体的な実践方法とその習慣を獲得する。また、運動やスポーツに親しむことで、アクティブで充実した社会生活を営むための下地を養う。

●授業の到達目標

自身の‘からだ’の中で‘体力’をどのように捉えれば良いか? 実生活で経験する、年齢、環境、食生活などが体力にどのように影響するのか? 競技スポーツのパフォーマンスを決定する体力はどんなものか? を理解すること、さらに、運動による‘からだ’の応答や体力トレーニングによる‘からだ’の適応変化を科学的に理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 体力とは何か、
2. 体力と健康、
- 3～4. 体力

とスポーツ：一流スポーツ選手の体力、5. 体力に影響する因子：心理的因子と生理的因子、6. 体力トレーニングの基礎、7～8. 循環器系トレーニング、9～10. 骨格筋系トレーニング、11～12. トレーニング効果(トレーナビリティ)を決定する因子、13～14. エルゴジェニックエイド：ドーピングとサプリメント、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

授業1週間前に、次回の講義に関する資料を本授業のWebサイトに掲載する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、学習内容を理解し身に着けるために、講義の要点をまとめるなど復習を欠かさないこと。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

期末試験の成績、レポート内容、および、課題提出状況から評価する。

●受講生へのコメント

自身の‘からだ’に関する講義であり、誰でも興味を持って受講できます。毎回、講義内容に沿った簡単な課題や調査、測定、実験を行ったり、あるいは、身体を動かしたりしながら理解を深めていきます。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

●教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE HEA 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 体力トレーニング科学 | 単位数 | 2 | 授業 形態 | 講義 | 担当教員 | 今井 大喜 (健スポ) |
| 316 | 英語表記 | Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription | | | | | | |

●科目の主題

体力といえば、筋の発揮するパワーや持久力が、その一般的なイメージとして定着している。しかし、体力にはそれら以外の要素も数多く存在している。本講義では、“体力”を身体・精神的要素から、さらには行動・防衛体力と分類し、「種々の体力要素」に関するトレーニング理論について、今なぜ体力をトレーニングする必要があるのか社会的背景から紐解きながら、科学的エビデンスに基づいて解説していく。

●授業の到達目標

各種の体力要素およびそのトレーニング方法について理解を深め、自ら実践できる能力を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 体力の捉え方、
2. 健康と体力、
3. 運動のメカニズム、
4. 体力における精神的要素、
5. 精神性ストレスの対抗手段、
6. トレーニングの概念、
7. 持久力トレーニング、
8. 筋力トレーニング、
9. スポーツイベントと運動強度、
10. コンディショニング、

11. トレーニング期の食事管理、12. コンディション維持とビタミン摂取、13. 骨づくりとカルシウム摂取、14. 貧血予防と鉄・たんぱく質摂取、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習では、シラバスの授業内容をキーワードに自身の知識を整理しておくこと。事後学習では、配布資料を参考に新たに得た概念や知見等について整理すること。

●評価方法

期末試験、レポート課題等から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

いわゆる「筋トレ」についてのみ講義する科目ではない。

●教材

参考資料を配布し、必要に応じて参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 01]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | アーチェリー 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 渡辺 一志 (健スポ) |
| 317 | 英語表記 | Archery 1 | | | | | | |

●科目の主題

アーチェリーは多くの「動的」スポーツに対して、移動の少ない「静的」スポーツである。シューティングを安定して行うためには、姿勢（安定したフォームの形成）、筋力（繰り返して射つ筋力）、集中力（メンタルコントロール）が特に重要となる。

本科目では、初めてアーチェリーという新しいスポーツに接し、アーチェリーの基本技術を習得し、集中力を養うとともに生涯スポーツに通ずるコンディショニングやトレーニングの方法についても習得する。

●授業の到達目標

アーチェリーの基本技術（射法8節；スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドロウイング、フルドロウ、リリース、フォロースルー）を習得し、インドア競技で実施されている18メートルからシューティングできる技術を獲得すること。また、生涯スポーツの観点から、スポーツ実践におけるコンディショニング（ストレッチング等）や種々の筋力トレーニングの方法（アイソトニック・アイソメトリック）について理解し、応用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 健康・スポーツ科学科目実習ガイダンス
2. アーチェリーの歴史と競技および弓具の概要、安全管理
3. 弓具の取り扱いについて、基本技術（射法8節；スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドロウイング、フルドロウ、リリース、フォロースルー）の習得、索引き、コンディショニング（ストレッチング）および筋力トレーニング（アイソトニック・アイソメトリック）の方法
4. 基本技術の習得、近射、ストレッチング、筋力トレーニング
5. 基本技術の習得、サイトの調節（上下）、近射、ストレッチング、筋力トレーニング

6. サイトの調節（左右）、近射、ストレッチング、筋力トレーニング、熱中症対策
7. 5メートルシューティング、ストレッチング、筋力トレーニング
8. 10メートルシューティング、ストレッチング、筋力トレーニング
9. 15メートルシューティング、ストレッチング、筋力トレーニング
10. 10メートル、15メートルシューティング（基礎）、スコアリングの方法、ストレッチング
11. 10メートル、15メートルスコアリング（発展）、ストレッチング
12. 10メートル、15メートルスコアリング（応用）、ストレッチング
13. 10メートル、15メートルスコアリング、18メートル体験（基礎）、ストレッチング
14. 10メートル、15メートルスコアリング、18メートル体験（発展）、ストレッチング
15. シューティングの振り返り、知識の復習と総括

●事前・事後学習の内容

初回に配布する資料（安全に関する事項・競技に関する事項）の内容をよく理解し、授業に臨むこと。授業時に説明した技術やトレーニングを事前・事後に実践し、アーチェリーの技術習得および体力の向上に努めること。

●評価方法

知識、技術の習得状況、受講状況など総合的に判断する。

●受講生へのコメント

初心者を対象とします。積極的に参加し、アーチェリーの楽しさ、奥深さを体験するとともに、生涯スポーツへの意識を高めて下さい。

●教材

必要に応じて資料の配付、ビデオ等の視聴を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 02]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | アーチェリー 2 | | | | | | |
| 318 | 英語表記 | Archery 2 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 渡辺 一志 (健スポ) |

●科目の主題

アーチェリーは多くの「動的」スポーツに対して、移動の少ない「静的」スポーツである。シューティングを安定して行うためには、姿勢（安定したフォームの形成）、筋力（繰り返して射つ筋力）、集中力（メンタルコントロール）が特に重要となる。

本科目では、アーチェリーの基本技術を習得していることを前提として、より高い技術の習得とパフォーマンスの向上をめざす。

●授業の到達目標

基礎的な技術（射法 8 節；スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー）をふまえて、10～30mのシューティングを行う。アーチェリーの競技におけるより深い知識、より高い技術の習得および弓具の使用などを発展させた実習である。生涯競技スポーツとしてアーチェリーを実践できるようにすることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 健康・スポーツ科学実習ガイダンス
2. アーチェリー競技の概要とルールおよび弓具の概要、安全管理
3. 基本技術（射法 8 節；スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドローイング、フルドロー）の習得、索引き、コンディショニング（ストレッチング）および筋力トレーニング（アイソトニック・アイソメトリック）
4. 基本技術の習得、近射、ストレッチング、筋力トレーニング
5. 10メートルシューティング、ストレッチング、

筋力トレーニング

6. 15メートルシューティング、ストレッチング、筋力トレーニング、熱中症対策
7. 18メートルシューティング、ストレッチング、フォーム分析（写真）
8. 20メートルシューティング、ストレッチング
9. 25メートルシューティング、ストレッチング
10. 30メートルシューティング、ストレッチング
11. 18メートル（インドア40cm的）のシューティング、ストレッチング
12. 30メートルシューティング、ストレッチング、フォーム分析（動画）
13. 30メートルシューティング、ストレッチング、重心動揺測定
14. 30メートルシューティング、ストレッチング
15. アーチェリー知識の復習と総括

●事前・事後学習の内容

授業時に配布する資料の内容をよく理解し、授業に臨むこと。授業時に説明した技術やトレーニングを事前・事後に実践し、アーチェリーの技術習得および体力の向上に努めること。

●評価方法

知識、技術の習得状況、受講状況など総合的に判断する。

●受講生へのコメント

アーチェリー 1 の受講者またはアーチェリー経験者が対象です。より深くアーチェリーの楽しさ、醍醐味を味わって下さい。

●教材

必要に応じて資料の配付、ビデオ等の視聴を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 03]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ゴルフ 1 | | | | | | |
| 319 | 英語表記 | Golf 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 上野 聖志 (非常勤) |

●科目の主題

長い歴史を持つゴルフは2016年のリオデジャネイロオリンピックで正式種目に返り咲いたように、今また新たに注目されているスポーツである。ゴルフ競技では精神面が強く求められると同時に、老若男女を問わずコミュニケーションを図ることが求められるため、

その実践は社会における自己のコントロール能を高め、生涯にわたる自己形成に寄与する。

本実習では、ゴルフの実践を通して、技術的な向上といった側面だけでなく、生涯スポーツに関する総合的な素養を含めた全人的能力の向上を目的とする。

●**授業の到達目標**

ゴルフの構成要素としては、身体の軸や体幹を意識した「運動性」、静止しているボールに対してゴルフクラブを扱いスイングを行う「技術性」、静から動を作り出すために必要な集中力やメンタルコントロールといった「精神性」、プレーの失敗後や成功後の「自己感情への対応」、そしてゴルフ競技で重んじられるルール・マナー・エチケット、他者との関わりの中での自己コントロールといった「社交性」の5要素があげられる。

本実習においては、以上にあげられる5要素の総合的な向上を目標とする。

●**授業内容・授業計画**

- 1、競技特性と安全、ルール、マナー、道具について
- 2、ストレッチとバットイング、距離感、パタースコアリングゲーム
- 3、アプローチの基本、ハンドファーストインパクト、アプローチスコアリングゲーム
- 4、グリップ、アドレス、クラブヘッドの振り方
- 5、軌道、フェース面、インパクトを学ぶ
- 6、コック・リコックをL字スイングで学ぶ
- 7、軸をイメージした身体の動かし方、スイング軌道を作る
- 8、腕の振り、胴体部分の同調した動き
- 9、7番アイアンを使ったフルスイングの技術
- 10、ドライバー（ウッド）とアイアンショットの違い
- 11、飛距離アップの為に身体とクラブの使い方
- 12、動画にてスイング分析を行い、自己修正力を身につける

13～14、様々なクラブ、様々な技術でのポイントゲーム

15、知識の復習と総括（まとめ）

●**事前・事後学習の内容**

授業中に指示する文献、動画等を事前に確認し、学習しておくこと。授業で実施したシャドウトレーニング、ストレッチ等を事後の学習として実践し、理解を深めておくこと。各実習の前後にそれぞれ30分程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●**評価方法**

知識、技術の習得状況、授業への取組姿勢、授業レビューへの記入内容ならびに履修状況等により総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

ゴルフは年代をつなぐスポーツでもある。将来の為に取り組むという方も歓迎したい。

一方で、長く硬い道具や、大きな力が加わるボールは扱い方を間違えると凶器にも成り得る。安全面など他者に対する配慮を含め、実習へのまじめな取り組みができない受講生は、本実習での活動を認めない場合がある。

実習内容は基本的な技術から進めるので、履修に際してゴルフ経験の有無は問わない。

受講に際しては、スポーツウェアおよび室内専用のスポーツシューズ（ゴルフシューズ不可）、ならびに防滑用ゴルフグローブの着用が必要となる。グローブの仕様等についての詳細は授業時に説明する。

●**教材**

必要に応じて資料（文献、動画）などの紹介を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 05]

| | | | | | | | | |
|-------------|------|------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 320 | 科目名 | サッカー 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 今井 大喜（健スポ） |
| | 英語表記 | Association Football 1 | | | | | | |

●**科目の主題**

サッカーは、世界的にポピュラーであり、我々にとって身近なスポーツである。また、11人でおこなうチームスポーツである為、プレー中には仲間と数多くのコミュニケーション要し、個人の社会性を養える。さらに、広いグラウンドでプレーすることは、我々に心地良い爽快感を提供するであろう。本科目では、サッカーの実践からその魅力を体感し、競技特性を理解する。

●**授業の到達目標**

サッカーの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、サッカーを楽しみながら集団競技の利点を活かして個人の社会性を養う。

●**授業内容・授業計画**

【授業内容】

ボールを蹴る、止める、キープするといった基礎的な個人技術を習得した後、オフense・ディフェンス別の集団技術を習得する。数回のゲーム結果からチームの課題を見出し、それに対する解決策を講じながら、チームの勝利に挑んでいく。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、
2. ルールの説明、キック、トラップ、
3. パス、ヘディング、ドリブル、
4. オフense練習（シュート練習含む）、
5. ディフェンス練習（キーパー練習含む）、
6. セットプレー、
7. 審判法、ミニゲーム、
8. ミニゲーム（対

人戦術 2:1, 2:2~4:3, 4:4)、9. ゲーム① (攻撃・守備のフォーメーション)、10. ゲーム② (チームメイトの特性を知る)、11. ゲーム③ (チームメイトの特性を活かす)、12. チーム毎の課題別練習、13. ゲーム④ (攻撃・守備展開を意識して)、14. ゲーム⑤ (総当たり戦前半)、15. ゲーム⑥ (総当たり戦後半)

●事前・事後学習の内容

事前学習として、競技の概要について日本サッカー協会HP等を参照して確認しておくこと。事後学習と

して、授業時に指示された課題について実践すること。

●評価方法

取り組み状況、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎的な技術の習練から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 07]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ジョギング・マラソン 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 岡崎 和伸 (健スポ) |
| 321 | 英語表記 | Jogging Marathon 1 | | | | | | |

●科目の主題

“ジョギング”とは、ゆっくりとした速さで走ることである。一般的にランニングよりもスピードが遅く、健康増進効果の高い有酸素運動として人気が高い。一方、“マラソン”とは、42.195km (フルマラソン) を走って順位や時間を競う陸上競技種目である。近年、誰でも参加できる市民マラソン大会が多数開催されるようになり、現在、国内のフルマラソンの年間完走者数は20万人以上、また、ジョギング人口は1千万人以上にも及んでいる。

本科目では、ジョギング未経験者や初心者が、ジョギングに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてジョギングやマラソンを楽しむことが出来る下地を養う。

●授業の到達目標

“ゆっくり走る”ジョギングの楽しさ、爽快感を体験し、自分にあったジョギングフォームやペース感覚を身につけること、マラソン出走と完走を目指した科学的なトレーニング方法を体験することを目標とする。また、身体運動やスポーツによる健康増進効果についても学習し、生涯にわたって身体運動やスポーツに積極的に取り組み、健康的な生活を送る習慣を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ウォーキングから “ゆっくり走る” ジョギング、マラソンレースペースでのジョギングに段階的に移行する。ジョギングのペース、距離、時間は各自の走能力に合わせて無理なく増加していく。ウォーキング、ジョギングをもとにしたリクリエーションな

ども実施し、仲間とのコミュニケーションを深める。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチング、2. ジョギング体験、3. 簡易持久力評価テスト、各自の目標設定、4. ジョギングフォーム、各種ドリル、5. “ゆっくり走る” ジョギング①、6. “ゆっくり走る” ジョギング②、7. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. マラソンレースペースでのジョギング (ペース走)、10. ファルトレイクラン、11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義 (雨天時)、12. ジョギングマップ作成、13. ロングスローディスタンス (LSD)、14. 簡易持久力評価テスト、15. 自己評価

●事前・事後学習の内容

各回の終了時に次週の内容や資料などを提示する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。授業で実施する運動をスムーズに開始できるように、授業前に軽いストレッチングや体操を実施しておくこと。また、運動効果を高め障害を予防するために、授業後や自宅において十分にストレッチングや体操を実施すること。

●評価方法

課題への取り組み、課題レポート内容から評価する。

●受講生へのコメント

ジョギングやマラソンの経験の有無、走能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 08]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ジョギング・マラソン 2 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 岡崎 和伸 (健スポ) |
| 322 | 英語表記 | Jogging Marathon 2 | | | | | | |

●科目の主題

“ジョギング”とは、ゆっくりとした速さで走ることである。一般的にランニングよりもスピードが遅く、健康増進効果の高い有酸素運動として人気が高い。一方、“マラソン”とは、42.195 km (フルマラソン)を走って順位や時間を競う陸上競技種目である。近年、誰でも参加できる市民マラソン大会が多数開催されるようになり、現在、国内のフルマラソンの年間完走者数は20万人以上、また、ジョギング人口は1千万人以上にも及んでいる。

本科目では、ジョギングやマラソン経験者が、フルマラソンや半分の距離を走るハーフマラソンの完走や目標記録の達成のためのトレーニングを実践し、それらを通してジョギングやマラソンの楽しみ方を学ぶ。

●授業の到達目標

持久力評価テスト結果から自己の走能力を把握し、それを参考にして目標を設定すること、また、目標達成のための練習・レース計画の立案方法、練習日誌の作成方法、科学的なトレーニング方法、ペース配分などの戦略、さらに、パフォーマンス向上のためのスポーツ科学的な知識を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ジョギングのペース、距離、時間は各自の走能力に合わせて段階的に増加していく。授業初期に実施する各種測定結果などにに基づき、各自の目標や練習・レース計画を立案する。授業で実施するトレーニングに加えて、日々の練習状況を練習日誌に記録し、毎回それを提出する。練習日誌は、担当者のコメントと共に次回の授業時に返却する。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、スト

レッチング、“ゆっくり走る”ジョギング、2. 持久力評価テスト、各自の目標設定、練習・レース計画の立案、3. ピッチとストライドの計測、速く走るためのフォーム、各種ドリル、4. 無酸素性作業閾値(AT)の計測、マラソンペースの設定、5. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、6. マラソンレースペースでのジョギング (ペース走) ①、7. ファルトレイクラン、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. ロングスローディスタンス (LSD) ①、10. マラソンレースペースでのジョギング (ペース走) ②、11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義 (雨天時)、12. インターバル走、13. ロングスローディスタンス (LSD) ②、14. 持久力評価テスト、15. 自己評価

●事前・事後学習の内容

各回の終了時に次週の内容や資料などを提示する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。授業で実施する運動をスムーズに開始できるように、授業前に軽いストレッチングや体操を実施しておくこと。また、運動効果を高め障害を予防するために、授業後や自宅において十分にストレッチングや体操を実施すること。

●評価方法

課題への取り組み、課題レポート内容から評価する。

●受講生へのコメント

ジョギング・マラソン1の受講者、あるいは、ジョギングやマラソンの経験者を対象とするが、走能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ソフトボール 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 加藤 由香 (非常勤) |
| 323 | 英語表記 | Softball 1 | | | | | | |

●科目の主題

ソフトボールはアメリカ発祥のスポーツで、日本には大正時代に紹介された。ソフトボールにはファーストピッチとスローピッチがある。平成24年度から文部

科学省・学習指導要領の改訂に伴い、小学生高学年から中学校の球技にベースボール型としてソフトボールが加わり「学校体育ソフトボール」が導入された。本実習では、ファーストピッチとスローピッチの基本か

らゲームまでと併せて、将来の学校現場での指導者を想定して、学校体育ソフトボールも紹介する。

ソフトボールを通し、集団でのコミュニケーション能力、協調性、役割分担、自己責任能力などを養う。

●授業の到達目標

技術的な面では、基本的な技術習得からチームプレイまでの応用技術の習得を目指す。

同じベースボール型の野球とは違うソフトボール独特のルールを理解し、ゲームで活用できるようにする。

目標達成のための戦略や適材適所のポジション、打順を各チームで協議し改善していき、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでをコーディネートする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

投げる・捕る・打つの基本的な個人技術について合理的な体の使い方の観点から説明をして習得できるようにする。基本的な個人技術習得後は、ゲームに必要な応用技術の習得に努める。次に、チーム編成を行い、チームごとの目標を設定して、ファーストピッチでリーグ戦を行い、ソフトボール特有のルールを駆使しながら技術・戦術の習得に取り組む。

【授業計画】

1. ウォーミングアップ・クーリングダウン、施設・用具の使い方、捕球・送球の基本練習
2. キャッチボール、ゴロ捕球・フライ捕球
3. 守備練習
4. ウインドミルピッチング
5. バッティング、バント
6. グループ別バッティング・守備練習
7. チーム編成、審判法、ルール
- 8～10. ゲーム
11. チーム再編成、チーム別練習
- 12～15. ゲーム

●事前・事後学習の内容

事後学習として、競技ルールについて、ガイドブックなどで勉強すること。

●評価方法

履修態度(積極性・協調性)、技能習得度、チーム別の課題解決能力および目標達成に向けたチームへの貢献度などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基本的な技術の習得から始めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

チーム編成も経験者と初心者のバランスを考え均等なチーム編成をしてゲームを行う。

●教材

必要に応じて参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ソフトボール 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 今井 大喜 (健スポ) |
| 324 | 英語表記 | Softball 1 | | | | | | |

●科目の主題

ソフトボールは、野球に比して老若男女行える生涯スポーツとして、社会で広く認識されている。ダイナミックなウインドミル投法により投球されるボールを、瞬時に判断して打ち返す喜びは、ソフトボールが生涯スポーツとして発展している魅力の一つであろう。本科目では、ソフトボールの実践からその魅力を体感し、競技特性を理解する。

●授業の到達目標

ソフトボールの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、ソフトボールを楽しみながら集団競技の利点を活かして個人の社会性を養う。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

投げる、捕る、打つ、といった基礎的な個人技術を習得した後、ポジション別の守備技術や連係プレーを習得する。数回のゲーム結果からチームの課題を見出し、それに対する解決策を講じながら、チームの勝利に挑んでいく。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明
3. キャッチボール、ゴロ捕球、3. ピッチング(ウインドミル投法)、4. バッティング、5. ティーバッティング、6. ポジション別守備練習、7. 審判法、8. ゲーム①(スローピッチ)、9. ゲーム②(ファーストピッチ)、10. ゲーム③(チームメイトの特性を知る)、11. ゲーム④(チームメイトの特性を活かす)、12. チーム毎の課題別練習、13. ゲーム⑤(攻撃・守備展開を意識して)、14. ゲーム⑥(総当たり戦前半)、15. ゲーム⑦(総当たり戦後半)

●事前・事後学習の内容

事前学習として、競技の概要について日本ソフトボール協会HP等を参照して確認しておくこと。事後学習として、授業時に指示された課題について実践すること。

●評価方法

取り組み状況、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎的な技術の習練から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 09]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ソフトボール1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 鈴木 雄太 (健スポ) |
| 325 | 英語表記 | Softball 1 | | | | | | |

●科目の主題

ソフトボールは野球に比べ、ボールが大きく、安全性が高いことから、年齢や性別に関わらず誰にでも気軽にできるスポーツの1つである。ソフトボールには、ファーストピッチとスローピッチがあるが、特に後者はレクリエーションとして世界中で楽しまれている。本科目では、ファーストピッチとスローピッチ両方の実践を通して、安全に配慮しながらスポーツを楽しむ態度を養う。

●授業の到達目標

ソフトボールのルールや特性を理解し、基本技能を習得することに加えて、ソフトボールの各ポジションの役割や連係プレーを理解することを目標とする。また、チームでの課題解決や安全管理、ゲームの運営についても学習することで、生涯にわたってスポーツを楽しむための基礎を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ソフトボールは野球に比べ、ボールが大きく、安全性が高いことから、年齢や性別に関わらず誰にでも気軽にできるスポーツの1つである。ソフトボールには、ファーストピッチとスローピッチがあるが、特に後者はレクリエーションとして世界中で楽しまれている。本科目では、ファーストピッチとスローピッチ両方の実践を通して、安全に配慮しながらスポーツを楽しむ態度を養う。

【授業計画】

1. ガイダンスと安全管理、2. ウォーミングアップとクーリングダウン、ルールと用具の説明、3. 捕球・送球の基礎、4. ゴロ、フライの捕球とスローイング、5. 素振りとティーバッティング、6. フリーバッティング、7. 各ポジションの役割とノック、8. カーバリング、中継プレーとスローピッチゲーム、9. 審判法とスローピッチゲーム、10. ピッチングとファーストピッチゲーム、11. 個人技能の課題練習とファーストピッチゲーム、12. チーム毎の課題設定とファーストピッチゲーム、13. チーム毎の課題練習(攻撃)とファーストピッチゲーム、14. チーム毎の課題練習(守備)とファーストピッチゲーム、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

予めソフトボールの基本的なルールを理解しておくこと。授業で練習した技能は反復練習を行い、次週までに習得しておくこと。

●評価方法

授業への取り組み、知識や技能の習得状況などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目では、基本技能の獲得やルールの理解から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

参考資料: オフィシャル ソフトボール ルール・日本ソフトボール協会。また、必要に応じて資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 10]

| | | | | | | | | |
|------|------|------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ソフトボール2 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 加藤 由香 (非常勤) |
| 326 | 英語表記 | Softball 2 | | | | | | |

●科目の主題

ソフトボール2では、ソフトボール、野球経験者およびソフトボール1受講者を対象に、使用球もゴムボールから革ボールにグレードアップして、ソフトボール1で習得した基礎的な内容に加え、ソフトボ

ールの醍醐味であるファーストピッチソフトボールにおける守備や攻撃それぞれの組織プレー、サインプレーを習得して、本格的なゲームまで行えるようにする。

ソフトボールを通し、集団でのコミュニケーション能力、協調性、役割分担、自己責任能力などを養う。

●**授業の到達目標**

技術的な面では、基本的な技術習得からチームプレイまでの応用技術の習得を目指す。

同じベースボール型の野球とは違うソフトボール独特のルールを理解し、オフィシャルルールに則ってゲームを円滑に行う。

目標達成のための戦略や適材適所のポジション、打順を各チームで協議し改善していき、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでをコーディネートする。

●**授業内容・授業計画**

【授業内容】

投げる・捕る・打つの基本的な個人技術について合理的な体の使い方の観点から説明し基本技術の確認をする。基本的な個人技術確認後は、ゲームに必要となる応用技術を習得する。守備においてはランナーを想定した守備フォーメーションの習得、攻撃においては得点を取るための打撃、走塁などの攻撃方法を習得する。次に、チームごとの目標を設定して、ファーストピッチでリーグ戦を行い、ソフトボール特有のルールを駆使しながら技術・戦術の習得に取り組む。

【授業計画】

1. ウォーミングアップ・クーリングダウン、施設・用具の使い方、捕球・送球の基本確認
2. キャッチボール、守備練習
3. ウインドミルピッチング、バッティング、バント
4. フリーバッティング
5. 走塁、ヒットエンドラン、スクイズ、審判法、ルール
6. グループ別攻守練習、チーム編成
- 7～10. ゲーム
11. チーム再編成、チーム別練習
- 12～15. ゲーム

●**事前・事後学習の内容**

事後学習として、競技ルールについて、ガイドブックなどで勉強すること。

●**評価方法**

出席状況、履修態度(積極性・協調性)、技能習得度、チーム別の課題解決能力および目標達成に向けたチームへの貢献度などから総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

野球、ソフトボール経験者向けのソフトボール上級コース。

後半は、チーム力が均等になるよう自分達でチーム分けをしてリーグ戦を実施。

●**教材**

必要に応じて参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 11]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | タグラグビー 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 鈴木 雄太 (健スポ) |
| 327 | 英語表記 | Tag Rugby 1 | | | | | | |

●**科目の主題**

タグラグビーは、ラグビーで危険度の高いタックルをタグに置き換え、ルールを単純化したことで、年齢や性別に関わらず誰にでも気軽にできるスポーツである。タグラグビーでは、チームメイトと協力してオフenseやディフェンスを行うため、チームメイトとのコミュニケーションや役割分担が重要となる。本科目では、タグラグビーの基本技能を習得するとともに、安全に配慮しながらスポーツを楽しむ態度を養う。

●**授業の到達目標**

タグラグビーのルールや特性を理解し、基本技能を習得することに加えて、組織的なオフenseとディフェンスの方法を理解することを目標とする。また、チームでの課題解決や安全管理、試合の運営についても学習することで、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を築くことを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

【授業内容】

ルールの理解やパス、タグなどの基本技能の習得を図り、その後オフenseとディフェンスの戦術や

戦略の習得を目指す。そして、チーム毎に設定した課題を協力して解決していくとともに、安全に留意して試合を運営する。

【授業計画】

1. ガイダンスと安全管理、2. ウォーミングアップとクーリングダウン、ルールと用具の説明、3. パスとキャッチ、4. タグとタグ取りゲーム、5. オフenseとディフェンスの実践(2対1、2対2)、6. オフenseとディフェンスの実践(3対2)、7. オフenseの戦術と戦略、8. ディフェンスの戦術と戦略、9. サインプレーと試合、10. ルールの確認(オフサイド、フリーパス)と審判法、11. 個人技能の課題練習と試合の運営方法、12. チーム毎の課題設定と試合、13. チーム毎の課題練習(オフense)と試合、14. チーム毎の課題練習(ディフェンス)と試合、15. まとめ

●**事前・事後学習の内容**

予めタグラグビーの基本的なルールを理解しておくこと。授業で練習した技能は反復練習を行い、次週までに習得しておくこと。

●評価方法

授業への取り組み、知識や技能の習得状況などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目では、基本技能の獲得やルールの理解から進

めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

参考資料：タグラグビー競技規則・日本ラグビーフットボール協会。また、必要に応じて資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 13]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------|-----|---|------|----|------|--------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ダンス 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 加藤 真由子 (非常勤) |
| 328 | 英語表記 | Dance 1 | | | | | | |

●科目の主題

ダンスの発生や歴史的発展など理解し、以下の内容を通して、自ら創り踊り発表することができるようになることを目標とする。1. ウォーミングアップ：からだほぐしと身体意識の覚醒 2. 新しい動きの探求：日常的な動きからダンス的な動きへの発展 3. イメージから動きの創造：即興や創作を通して新しい動きへの挑戦 4. 作品構成：クラスやグループによる創作 5. クラス内発表

●授業の到達目標

ダンスのスキル習得獲得だけを目標とするのではなく、他者との身体を介したコミュニケーションをはかりながらソーシャルスキルにも着目し、自らの心身への気づきと学習の場となることも目標とする。

●授業内容・授業計画

1. オリエンテーション(授業内容や最終目標について) 2. ウォーミングアップ(リズムカルな動きでからだほぐし) 3. 移動運動のいろいろ(歩く、走るなどの空間運動) 4. 個の運動のいろいろ(曲げる、伸ばす、縮めるなど) 5. 創作その1(移動運動と個の運動) 6. ミラーリングとシェイプ 7. 創作その2(ミラーリングとシェイプ) 8. 即興と模倣(遊びからダンスへ) 9. 創作その3(物を用いた即興) 10. いろいろなダンス(フォークダンスや現代的なリズム

のダンス) 11~12. 作品構成 13. クラス内発表と観賞(VTR撮影) 14. VTR観賞と相互評価、自己評価 15. まとめ

●事前・事後学習の内容

第1-10回

事前学習：-

事後学習：授業内で実施したトレーニングをおこなうこと。ダンスの振り付けについて復習すること。

第11-15回

事前学習：創作作品についてグループで話し合い選曲、振り付け、構成等の準備をすること。

事後学習：いろいろな創作作品について整理し復習すること。

●評価方法

実技のため、出席を重視する。また、受講態度、レポートの状況などを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

「できる・できない」ではなく、「やってみる」という受講態度を重視します。上手に踊ることよりも、ダンスを通じた受講者同士のコミュニケーションを楽しみましょう。

●教材

必要に応じて参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 15]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | テニス 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 松原 慶子 (非常勤) |
| 329 | 英語表記 | Tennis 1 | | | | | | |

●科目の主題

テニスは、ラケットを使いネットを介しボールを打ち合うスポーツである。基礎技術の習得はもちろんのこと、テニスの特性を理解し、ゲームの楽しみ方を知る。

●授業の到達目標

本授業では、テニスの知識を深め基礎技術の習得、そしてゲーム展開ができるようになる。

●授業内容・授業計画

テニスは、老若男女を問わず生涯スポーツとして人気のある種目である。本授業では、初心者を対象とし、

どのようにラケットを操作すれば身体に負担なく効率的に打球できるかを導きながらテニスの基礎技術の習得、ルールやマナー、審判法の理解とともにゲームの楽しみ方を知る。

【授業計画】

1. オリエンテーション “テニスとは”
2. ラケットイング、グリップ、打点についての考え方、ミニラリー
3. 基礎技術1 フォアハンドストローク&バックハンドストローク
4. 基礎技術2 サーブ 運動連鎖について
5. サーブからのラリー（フットワーク、ラケットワーク、ボディーワーク）
6. 基礎技術3 ボレー、オーバーヘッドシュマツシュ
7. テニスのルール、審判法、マナーおよび歴史について
8. 各技術の確認、簡易ゲーム
9. ダブルスの戦術1
10. ダブルスの戦術2

11. シングルのゲーム
12. ～14. リーグ戦およびトーナメント
15. まとめ

*天候により順を変更、あるいは講義になる場合がある。

●事前・事後学習の内容

テニスの専門書やDVD等を利用して、学習内容の予習や復習を行う。また、四大大会等のトップアスリーのゲームを視聴することで体力面や戦術面、メンタル面を学ぶ。

●評価方法

出席状況、受講態度、技能から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

実習では、スポーツウエア、テニスシューズを用意すること。日頃から、体調管理には気をつけること。テニスは個人種目であるが、授業では練習やゲームを通して他の学生とのコミュニケーション能力の向上にも役立たせてほしい。

●教材

必要に応じ資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 16]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | テニス2 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 松原 慶子（非常勤） |
| 330 | 英語表記 | Tennis 2 | | | | | | |

●科目の主題

テニスは、上達するにつれ奥深さを知るスポーツでもある。ゲームの中であらゆる状況に対応するためには、技術、体力、戦術、メンタル面等の能力が必要とされる。ゲーム環境の中でよりテニスの魅力を知る。

●授業の到達目標

テニスの技術、体力、メンタル面の向上を図り各自のゲームの質を向上させる。

●授業内容・授業計画

本授業では、テニス熟練者および経験者（テニス1履修済の者も含む）を対象とし、より実践的な内容を展開する。効率のよい動作、そしてよい動作の再現性を高めるとともに高度なテクニックの習得とゲームに関連させた実践的な練習を取り入れゲームレベルの向上を図る。また、テニス技術の向上にはコーディネーション能力の必要性も理解する。

【授業計画】

1. オリエンテーション “テニスの特性”
2. 各ストロークについて
3. 応用技術、ラリー練習
4. 効率のよい打ち方とは
5. スキル上達のためのヒント、簡易ゲーム
6. 各技術の自己評価と矯正法

7. 5つのゲーム状況
8. テニスに必要な体力
9. シングルの戦術
10. ダブルスの戦術
11. ～14. リーグ戦またはトーナメント
15. まとめ

*天候により順の変更やトップレベルのプレー、テニスの科学について講義する場合がある。

●事前・事後学習の内容

テニスの専門書やDVD等を利用して学習内容の予習や復習を行う。また、四大大会等のトップアスリーのゲームを視聴することで体力面や戦術面、メンタル面を学ぶ。

●評価方法

出席状況、受講態度、技能から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

実習では、スポーツウエア、テニスシューズを用意すること。日頃から、体調管理には気をつけること。テニスは個人種目であるが、授業では練習やゲームを通して他の学生とのコミュニケーションを図り安全面に配慮し楽しんでほしい。

●教材

必要に応じ資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 17]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | バスケットボール 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 荻田 亮 (健スポ) |
| 331 | 英語表記 | Basketball 1 | | | | | | |

●科目の主題

バスケットボールは、楽しさや爽やかな気持ちをもたらすと同時に、相当な運動量と判断力や調整力といった運動能力が必要とされるスポーツである。個人技術の習得には、走・跳・投など多種多様な動きが必要とされるため、オールラウンドな身体づくりが期待できる。

本実習では、バスケットボールに関わる技術の習得だけでなく、安全にスポーツを行うための基礎知識を深めるなど、スポーツの実践に関わる総合的な能力を高める。

●授業の到達目標

バスケットボールの基礎的な個人技術の習得と、その技術を集団の中で活用するための応用技能の習得を目標とする。また、安全に楽しくスポーツを実践するための基礎知識、ならびにスポーツ実践に取り組む態度の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

1. バスケットボール 1 の概要、2. ウォーミングアップとストレッチ、シュート動作の基礎、3. スポーツビジョン、個人技術の応用、4～5. パス技術の基礎と応

用、集団の理解と実践、6～9. 集団的技術の基礎と応用、集団的対峙の理解と実践 (ゲームの実践)、10～14. ゲームの運営と規則、ゲームの実践、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

各授業において事前に学習すべき内容について説明する。また、授業終了後には各自実習で体験した動作を授業時間外で実践するなど、事後の学習に取り組み、理解を深めておくこと。各実習の前後にそれぞれ30分程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

知識、技術の習得状況ならびに履修状況により、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

受講の際には、スポーツウェアとスポーツシューズ (体育館専用) の着用が必要となる。アクセサリ (ネックレス、ピアス、指輪等) を装着しての受講は原則として認めない。スポーツに興味を持ち、自主的、積極的に実習に取り組む学生の受講を歓迎する。

●教材

必要に応じて資料等の配布を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 19]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | バレーボール 1 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 中嶋 紀子 (非常勤) |
| 332 | 英語表記 | Volleyball 1 | | | | | | |

●科目の主題

バレーボールを通じて運動能力を高めると共に、自主性・協調性・積極性を育てる。

●授業の到達目標

基本技術との習得とゲーム展開に必要なフォーメーション・各ポジションの動きを理解し、ゲームにて実践できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- バレーボールの準備段階や競技中に際に起きる障害例と予防について説明。
基本技術の習得
オーバーハンドパス (ボールハンドリング・一人パス・対人パス)
- 基本技術の習得
オーバーハンドパス (ジャンプパス・ロングパ

- ス・バックパス・移動パス)
- 基本技術の習得
アンダーパス (片手パス・組手パス・対人パス)
- 基本技術習得
アンダーパス (移動パス・対人レシーブ)
- 基本技術の習得
スパイク (助走・ステップ・腕の振り)
ブロック (フォーム・移動)
- 基本技術の習得
サーブ (サーブの種類と打ち方)
サーブカットの練習
- 応用技術の習得
フォーメーション・各ポジションの動きの説明と実践
- 応用技術の習得

- チャンスボール・サーブカットからの連携
- 9、応用技術の習得
6人制バレーボールの特徴とルールの説明
ゲーム練習
10～15、応用技術の習得
ゲームの実践

●事前・事後学習の内容

6人制バレーボールのルールについて事前に調べておく。

●評価方法

技術の習得・出席状況・協調性・積極性等を総合的に評価する。

に評価する。

●受講生へのコメント

真摯な態度で受講すること。
授業前の準備及び後片づけ等人任せにせず積極的に行うこと。

装飾品（指輪・イヤリング等）は外し、髪の毛の長い者はゴムでくくって参加すること。

●教材

体育館シューズ・体操服を用意する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 20]

| | | | | | | | | |
|------|------|--------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | バレーボール 2 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 中嶋 紀子（非常勤） |
| 333 | 英語表記 | Volleyball 2 | | | | | | |

●科目の主題

バレーボールを通じて運動能力を高めると共に自主性・積極性を育てる。

●授業の到達目標

ゲーム展開に必要な基本を習得すると共に、バレーボールのフォーメーションを理解し、ポジションの固定、更にはコンビネーションを取り入れたゲーム展開を図る。

●授業内容・授業計画

- 1～4 基本技術の確認
パス（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）
レシーブ（スパイク・サーブレシーブ）
スパイク（オープン・平行・クイック）
ブロック
- 5～6 連携練習
パス→トス→スパイク→ブロック→ブロックカバー
スパイクレシーブ→トス→スパイク→ブロック
サーブカット→トス→スパイク→ブロック
- 7～11 総合練習

フォーメーションの確認から攻防の実践練習
コンビネーションの練習
チャンスボール・サーブレシーブからの乱打練習

12～15 ゲームの実践

●事前・事後学習の内容

バレーボール試合・テレビ放映などを積極的に観戦するようにする。

●評価方法

出席状況・協調性・積極性等を総合的に評価する

●受講生へのコメント

この授業はバレーボール経験者かバレーボール1を受講した学生を対象とした授業であるが、受講生が少ない場合等の諸事情が生じた場合は未経験者の受講も認めるとする。

真摯な態度で授業に参加すること。

授業前の準備及び後片付け等、人任せにせず積極的に行うこと。

装飾品（指輪・イヤリング等）は取り外し、髪の毛の長いものはゴムでくくって参加すること。

●教材

体育館シューズ・体操服を用意すること。

[科目ナンバー : GE SPO 01 21]

| | | | | | | | | |
|------|------|-------------|-----|---|------|----|------|-----------|
| 掲載番号 | 科目名 | バドミントン 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 正岡 毅（非常勤） |
| 334 | 英語表記 | Badminton 1 | | | | | | |

●科目の主題

バドミントンは、屋外で楽しめるレクリエーション

の性格を持つ一方で、競技としては、球速が世界最速（スマッシュ・421km）から最低（ヘアピン・ほぼ0

km)の変化に富んだショットでラリーを行う非常に激しいスポーツである。6.1m x 6.7mのコート内を、高さ約1.5mのネットを挟んで戦うため、ラリーのテンポが速く、短時間に速く長く動く必要があり、瞬発力と持久力の両方が求められる。また、対人競技であるため、戦術の巧みさや精神力の強さも試合結果に大きな影響を与える。

生涯スポーツとしてのバドミントンは、天候に左右されず、少人数で行えて、運動量が多く、手軽に楽しめることから、QOLの向上に寄与する魅力的な競技だと言える。

本科目では、受講者がバドミントン競技の基礎を学び、ラケットワーク・フットワーク及び各ショットの基本を習得することで、生涯スポーツとしてバドミントンに親しめる素地を養う。

●授業の到達目標

バドミントン独特の動作、シャトルの飛行感覚に慣れ、基本技術を習得し、コート内でスムーズに動きながら、様々な種類のショットを使い、狙った位置にシャトルをコントロールできるようになることを目標とする。バドミントンのルール、マナー、審判、ゲームの進行方法を学び、楽しみながらバドミントンのシングルス・ダブルスができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

初期はグリップ、スイング、フットワーク等の基礎を学び、ラリーを続けるために不可欠な技術を身に付ける。中期は半面シングルスゲームを通して、動きながら各種ショットを力強く、より正確なコントロールで打てる態勢を整えられるよう、ストロー

クとフットワークを融合させた動きを習得する。後期はゲーム中心として、ラリーの中での動き、スイング、ショットの打ち分け、レシーブ等、相手のショットに適切に対応できるように、実戦形式を数多く体験する。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクールダウン、基本姿勢、グリップ、スイング、シャトルの跳ね上げ、近距離での打ち合い（ネットなし）、2～3 基本ストロークの素振り、フットワーク（前後左右）、サイドハンド（フォア・バック）ドライブ、サービス（ロング、ショート）、ヘアピン、近距離での打ち合い（ネット越し）、4～5 オーバーヘッドストローク（スマッシュ、クリヤー、ドロップ）アンダーハンドストローク（ロビング）、半面シングルス、6～7 アンダーハンドストローク（ロビング） 半面シングルス、8～9 プッシュ、レシーブ、レシーブ～ロビング、半面シングルス（勝ち残り）、10～11 ルール、審判、シングルス戦術、シングルスゲーム（リーグ戦）、12～13 ダブルスの基本（ルール、戦術、動き）、14～15 ダブルスゲーム（リーグ戦）

●事前・事後学習の内容

事前に、インターネットに掲載されている、バドミントンの競技規則について、確認しておくこと。

事後に、授業で学んだ各技術について復習すること。

●評価方法

出席状況・履修態度（重視）・技能習得度などから総合的に評価する。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書・教材を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 23]

| | | | | | | | | |
|------|------|----------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フットサル 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 今井 大喜（健スポ） |
| 335 | 英語表記 | Futsal 1 | | | | | | |

●科目の主題

フットサルは、室内で行う5人制のミニサッカーであり、近年日本においても盛んに行われている。また、サッカーに比べてピッチが小さい為に、ボールに触れる回数や得点シーンの多いスポーツである。したがって、得点の喜びを味わうチャンスが、初心者にも多数あることは、フットサルの大きな魅力といえよう。本科目では、フットサルの実践からその魅力を体感し、競技特性を理解する。

●授業の到達目標

フットサルの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、フットサルを楽しみながら集

団競技の利点を活かして個人の社会性を養う。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

フットサル特有のボールを蹴る、止める、キープするといった基礎的な個人技術を習得した後、オフフェンス・ディフェンス別の集団技術を習得する。数回のゲーム結果からチームの課題を見出し、それに対する解決策を講じながら、チームの勝利に挑んでいく。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明、

キック、トラップ、3. パス、応用テクニック、4. オフェンス練習（シュート練習含む）、5. ディフェンス練習（キーパー練習含む）、6. 簡単なシミュレーション、7. 審判法、8. ゲーム①（ボールタッチ数の制限）、9. ゲーム②（ボールタッチ数制限なし）、10. ゲーム③（チームメイトの特性を知る）、11. ゲーム④（チームメイトの特性を活かす）、12. チーム毎の課題別練習、13. ゲーム⑤（攻撃・守備展開を意識して）、14. ゲーム⑥（総当たり戦前半）、15. ゲーム⑦（総当たり戦後半）

●事前・事後学習の内容

事前学習として、競技の概要について日本フットサ

ル連盟（日本サッカー協会HPにリンク）HP等を参照して確認しておくこと。事後学習として、授業時に指示された課題について実践すること。

●評価方法

取り組み状況、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎的な技術の習練から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー :]

| | | | | | | | | |
|------|------|---------------------------|-----|---|------|----|------|------------|
| 掲載番号 | 科目名 | ラージボール卓球 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 横山 久代（健スポ） |
| 336 | 英語表記 | Large ball table tennis 1 | | | | | | |

●科目の主題

ラージボール卓球は、ラリーを続けやすくすることにより、年代や競技歴に関わらずプレーを楽しむことのできるように考案された日本発祥の卓球である。使用するボール径が大きく軽いことに加え、ツブが表面にある表ソフトラバーを使用するため、ボールに回転がかかりにくく、球速が出にくいという特徴を持つ。さらに、通常の卓球（硬式卓球）に比べネットも高いため、台のそばでの強打が減る一方、返球には全身を使った大きな動作が必要となるため、高いフィットネス効果が期待できる。

本実習により、ゲームを通じた他者とのコミュニケーションスキルを構築し、学生自身が生涯にわたり運動に親しみ、健康的なライフスタイルを獲得するための基礎づくりを行う。

●授業の到達目標

- ・基本技術の習得だけでなく、プレーの向上のために必要なことは何か、どこを修正すべきか、自ら振り返り、次のプレーに反映させることができる
- ・競技特性やルールを理解することで、プレーヤーとしてはもちろんのこと、審判の立場でのゲーム運営もできる

●授業内容・授業計画

【授業内容】

基本的な技術の習得と並行して、早期よりゲーム（シングルス、ダブルス）をとり入れることで、全身的な運動時間を確保し、得点をめざした連携プレーなどが実践できるような授業展開を行う。

【授業計画】

- 1 授業概要、オリエンテーション
- 2 用具、グリップの説明、基本姿勢、ボールに親しむ
- 3～4 基本打法（フォアハンドドライブ、バックハンド、ツツキ）、フットワーク
- 5～6 サービス、レシーブ、ラリー練習
- 7 ルール、審判法、ゲームの体勢
- 8～10 ゲーム（シングルス）
- 11～13 ゲーム（ダブルス）
- 14～15 ゲーム（団体戦）

●事前・事後学習の内容

事前にラージボール卓球の競技の概要について調べ、理解しておくこと。授業後はスイングやフットワークなど習得した内容について復習し、プレーの向上のために必要な基礎体力づくりに各々取り組むこと。

●評価方法

履修態度、技能の習得状況などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

受講に際してはスポーツウエア、スポーツシューズ（室内用）を着用すること。競技中だけでなく、準備や後片付けにおいても、他の受講生と積極的にコミュニケーションをとり、自主的に取り組む姿勢を求める。

●教材

必要に応じて資料などを配布する。

[科目ナンバー :]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | フィジカルフィットネス エクササイズ1 | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 実習 | 担当教員 | 渡部 悠香 (非常勤) |
| 337 | 英語表記 | Physical Fitness Exercise 1 | | | | | | |

●科目の主題

オリンピック競技は、今日の日本において多種多様なフィットネスやエクササイズに人気が集まるひとつのきっかけになっている。オリンピック競技種目の中でも、レスリング競技は特に長い歴史をもち、古くから存在するスポーツである。対人競技であるレスリングは、道具を一切使わずに、直径9mの円の中で相手の力を利用して戦う競技特性を有し、動きのなかでの姿勢や体幹維持を図りながら、自らの身体を操作することが求められる種目である。

本実習では、レスリング競技が有する格闘技スポーツの持つ要素を安全に活用し、ストレッチやスタイルアップ、筋力アップなどバリエーション豊富なエクササイズを安全なレスリングマット上で楽しく実践すると同時に、健康の維持・増進や無理のないダイエット、ストレス解消などのスポーツ理論を習得し、個々の趣味嗜好にあったライフスキルのツールを養うことを目的とする。

●授業の到達目標

自身の健康・体力について理解し、それらを維持・増進するための知識と方法を習得すること。

個々の目的に応じた運動の選択、運動強度の選択スキルを身に付けること。

フィットネスの重要性と楽しさについて理解を深めること。

●授業内容・授業計画

1回、最古のスポーツから現代のスポーツの在り方を考える。

2回、脂肪燃焼と減量の違いについて (BMIから自己の健康を考える)。

3～7回、グループレクリエーション、コミュニケー

ションづくりのエクササイズ、ペアで行うストレッチ・体幹トレーニング、筋力トレーニングなどを、特別な器具を使用せず行うと同時に、基礎代謝および筋肉量を身につける知識・技能を学ぶ。

8、日常生活におけるボディケア (心拍数を用いた運動強度)。

9、運動メニューの作成・実践 (運動処方ワーク1)。

10～13回、レスリング競技の構えやルールについて学び、下半身の引き締め、バランス力、体を支える動きなどを取り入れたエクササイズ。動きの中での手押し相撲。

13～14回、ヨガを取り入れた静的なエクササイズ、リラクゼーション。

15回、自宅のできる体幹トレーニング、筋力トレーニングの方法。

●事前・事後学習の内容

人気のあるフィットネスやスポーツの情報について予習すること。

授業で実施したスキルや知識を各自まとめ、日常生活の中に取り入れ実践すること。

●評価方法

スキルの習得と取り組みの姿勢、授業内ワーク、グループ実践ワークにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

装飾品 (指輪・ピアス・ネックレス等) を装着しての受講は認めない。

●教材

屋内専用運動シューズ (可能な限り靴底が薄いもの)、季節に合った運動できる服装を各自用意すること。参考資料は必要に応じて配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 27]

| | | | | | | | | |
|------|------|---|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 体力トレーニング 科学実験実習1 | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 実習 | 担当教員 | 岡崎 和伸 (健スポ) |
| 338 | 英語表記 | Experimental Education for Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription 1 | | | | | | |

●科目の主題

自身の‘体力’の測定・評価を体験することで、体力についての理解を深め、さらに、競技スポーツや運動における体力の役割、あるいは、我々の日常生活や健康と体力の関わり合いについての理解を深める科目

である。また、実際に体力トレーニングを実施し、自身の体力の変化を体験する。本科目は、講義「体力トレーニング科学」の内容を踏まえて展開する。

●授業の到達目標

自身を測定対象として、体力の測定、さらに、実生

活で経験する、運動、環境、食生活などが体力に及ぼす影響の測定・解析を行い、それらから自己を客観的に評価出来ることを目標とする。また、体力トレーニングのノウハウを習得し、運動やスポーツを楽しむ(する・見る)ための基礎と、生涯に渡って自身の体力を維持・増進するための習慣を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

数題の実習テーマを設け、そのテーマごとに目的および内容の詳説、実験準備、実施、データ解析を行い、ショートレポートを作成する。最終的に、グループごとに自由課題に取り組み、グループディスカッションおよび研究成果の発表を実施する。また、それに関する個人レポートを作成する。

【授業計画】

1～3. 体力の計測・評価、4～5. 生活・運動習慣の計測・評価、6～7. 循環器系トレーニングの実際、8～9. 骨格筋系トレーニングの実際、10～13. グル

プ自由課題の計画・実施、14. データディスカッションと研究成果発表、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

各回の終了時に次週の内容や資料などを提示する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、学習内容を理解し身に着けるために、要点をまとめるなど復習を欠かさないこと。そのため、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

研究発表、レポート内容、および、課題提出状況から評価する。

●受講生へのコメント

本実習は、「体力トレーニング科学」を受講した学生が履修することが望ましい。本実習を通して、講義内容がさらに深く理解できます。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

●教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 29]

| | | | | | | | | |
|------|------|-----------------------------------|-----|---|------|----|------|-------------|
| 掲載番号 | 科目名 | 健康運動科学実験実習 1 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 実習 | 担当教員 | 渡辺 一志 (健スポ) |
| 339 | 英語表記 | Experimental Education for HESS 1 | | | | | | |

●科目の主題

日本の社会において、運動やスポーツのもたらす効用の重要性が認識され、「幸福で豊かな生活を営む」ことを実現するため「健康」への関心はますます高まっている。

運動は、人間が健康に生きていくために欠かすことのできない要素(栄養、運動、休養)の一つである。人間の体の仕組みや体力の構成要素を知り、運動を発現したり持続する生体の適応機序について理解し、健康を維持・増進する運動について教授する。

●授業の到達目標

本実験実習では、自身の身体を対象として、身体組成、運動の発現(筋力・スピード・パワー)や運動の持続(筋持久力・全身持久力)について測定・分析する方法と評価について学ぶ。実習を通して、自身の身体を客観的に見つめ直し、種々体力要素の測定・評価および運動やスポーツ動作の仕組みを科学的に理解し、今後の健康づくりの実践に応用することを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス
2. 現代社会における運動・スポーツの意義と体力
3. 身体組成の測定
4. 健康・運動・スポーツと筋、筋収縮
5. 筋力の測定
6. 健康・運動・スポーツとスピード・パワース

ビードの測定

7. スピード・パワーの測定
8. 健康・運動・スポーツと代謝
9. 健康・運動・スポーツと呼吸循環機能
10. 健康・運動・スポーツとたばこ
11. 運動時の呼吸循環応答の測定(最大酸素摂取量・有酸素運動)
12. 全身持久性トレーニングと健康
13. 健康・運動・スポーツとコンディショニング
14. 健康・運動・スポーツと筋電図
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に、今回の講義に関する資料を配布する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、各自講義の要点および実験のデータをノートにまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

レポート、受講状況により評価する。

●受講生へのコメント

自分自身の体を客観的に見つめ直す機会となります。積極的に参加し、運動に関する科学的な理解を楽しく深めて、目的に応じた運動の実践につなげましょう。

●教材

必要に応じて資料の配布や文献の紹介を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 29]

| | | | | | | | | |
|-----------------|------|-----------------------------------|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 340 | 科目名 | 健康運動科学実験実習 1 | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 実習 | 担当教員 | 横山 久代 (健スポ) |
| | 英語表記 | Experimental Education for HESS 1 | | | | | | |

●科目の主題

健康は「単に病気でない、虚弱でないというのみならず、身体的、精神的そして社会的に完全に良好な状態」(WHO)と定義されており、さまざまな生体のしくみを理解することなく健康を評価、具現化することは難しい。生理学は人の身体の働き(機能)とそのメカニズムを扱う学問であり、医学分野の基礎となっていることは言うまでもないが、その研究成果は栄養やスポーツ現場で広く応用され、我々の健康づくりに貢献している。「健康」やそれを支える基盤としての「体力」を構成する生体諸機能と、運動によりこれらに生じる変化について、実験を通じて自ら体験することにより理解を深め、健康的な日常生活の実践力を養うことを本実習の目的とする。

●授業の到達目標

- ・実習を通じて、生体の仕組みや運動することによって生じる身体機能の変化を体験し、考察できる。
- ・健康増進につながる運動の効果について説明でき、自ら実践できる。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス (この実習全体の目標)
2. 血圧、心拍数測定の基本
3. 生体の血圧、心拍数調節機能
4. 心肺持久力の評価
5. 筋力・筋持久力測定
6. 体組成評価
7. 血糖値の測定

8. 骨塩定量
9. 救命処置の実際
10. 呼吸機能測定
11. 運動介入後の心肺持久力再評価
12. 運動介入後の筋力・筋持久力再評価
13. 運動介入後の体組成再評価
14. 体力の縦断評価と運動処方
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

実習で学んだ生体機能の測定・評価方法を習得していることを前提に、次回以降の実習を進めるため、あらゆる場面で応用できるよう、運動が生体機能にもたらす変化とともに十分に復習をしておくこと。

●評価方法

- 受講態度など平常点 (50%)
- レポート課題 (50%)

●受講生へのコメント

実習に関しては高校レベルの生物、化学の知識がなくとも十分理解できるように、また臨床医としての経験をふまえた結果の解説を行うため、生体のしくみや健康に関心はあるがこれまでに学習、実践の経験がなかった学生も不安なく受講できる。測定結果をもとに自ら考察する力を養うことを目標とするため、ディスカッションなど積極的に授業に参加する姿勢を求める。

●教材

特定の教科書は使用しない。
必要に応じて参考資料などを配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 31]

| | | | | | | | | |
|-----------------|------|--|-----|---|----------|----|------|-------------|
| 掲載番号 341 | 科目名 | 健康管理 1 | 単位数 | 1 | 授業 形態 | 実習 | 担当教員 | 横山 久代 (健スポ) |
| | 英語表記 | Health Promotion Program for The People with Physical Disability 1 | | | | | | |

●科目の主題

何らかの身体的障害があったり、年齢を重ねたりしても、私たちは豊かな日常生活を送れること(生きがい、身体能力、精神機能を保ち、疾病を予防すること)に重きをおいて、体力諸要素の状態を高めておく必要がある。それらは決して、筋力が何kgであるとか、前屈が何cmできるかといった従来の体力測定で数値化できる項目に限らない。また、人々が運動・ス

ポーツをする目的は「健康増進」、「ストレス解消」、「仲間との交流」などさまざまであり、いうまでもなく、身体的能力に優れた一部のアスリートのみがその効果や楽しさを享受するものではない。身体的理由から、けがや疾病の悪化を懸念してスポーツに参加することを躊躇する場合でも、自身の身体特性を理解し、適切な運動種目、強度を選択することによりスポーツを始め、生涯にわたり実践することが可能である。

本実習では、肢体不自由や内部障害などの医学的理
由により健常人と同様の運動に参加困難な学生が、
各々の「体力」と「目的」に応じた運動・スポーツを
継続して取り入れるための方法を理解し、実践する能
力を養う。

●授業の到達目標

- ・身体計測や体力測定により自身の身体特性につい
て把握する
- ・日常生活動作の向上や健康増進につながる運動の
効果について説明でき、実践方法を身につけ、自
ら実践できる

●授業内容・授業計画

1. 総論（この実習全体の目標、ガイダンス）、問診
2. 血圧、心拍数の測定
3. 心電図
4. 呼吸機能測定
5. 血糖値と運動
6. 体組成の評価
7. 心肺持久力の評価
8. 筋力・筋持久力の評価
9. 姿勢・タイトネスチェック
10. 自重負荷を用いたレジスタンストレーニング
11. フレキシビリティエクササイズ（マット）
12. フレキシビリティエクササイズ（ストレッチ
ポール）
13. 軽スポーツ（フライングディスク・アキュラ
シー）

14. 軽スポーツ（ペタンク）

まとめ

●事前・事後学習の内容

運動が日常生活動作の向上や健康増進に寄与するメ
カニズムについて十分に復習し、実習で身につけた自
身の身体特性に応じた運動の実践方法に基づき、日常
生活に運動を取り入れること。

●評価方法

履修態度などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

担当教員はスポーツドクターとしての競技大会での
実務や、主として生活習慣病を対象とした運動処方
の実績を重ねており、スポーツに関心はあるが医学的観
点から安全面に不安を有する学生や、これまでに実践
の経験がない学生でも安心して受講できる。

受講人数や個々の受講学生の身体状況に応じて、授
業内容に変更が生じる場合がある。

●教材

（参考資料）

『ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価』（市村
出版、2010年発行、Dwyer G・Davis S編、青木純一郎・
内藤久士監訳）

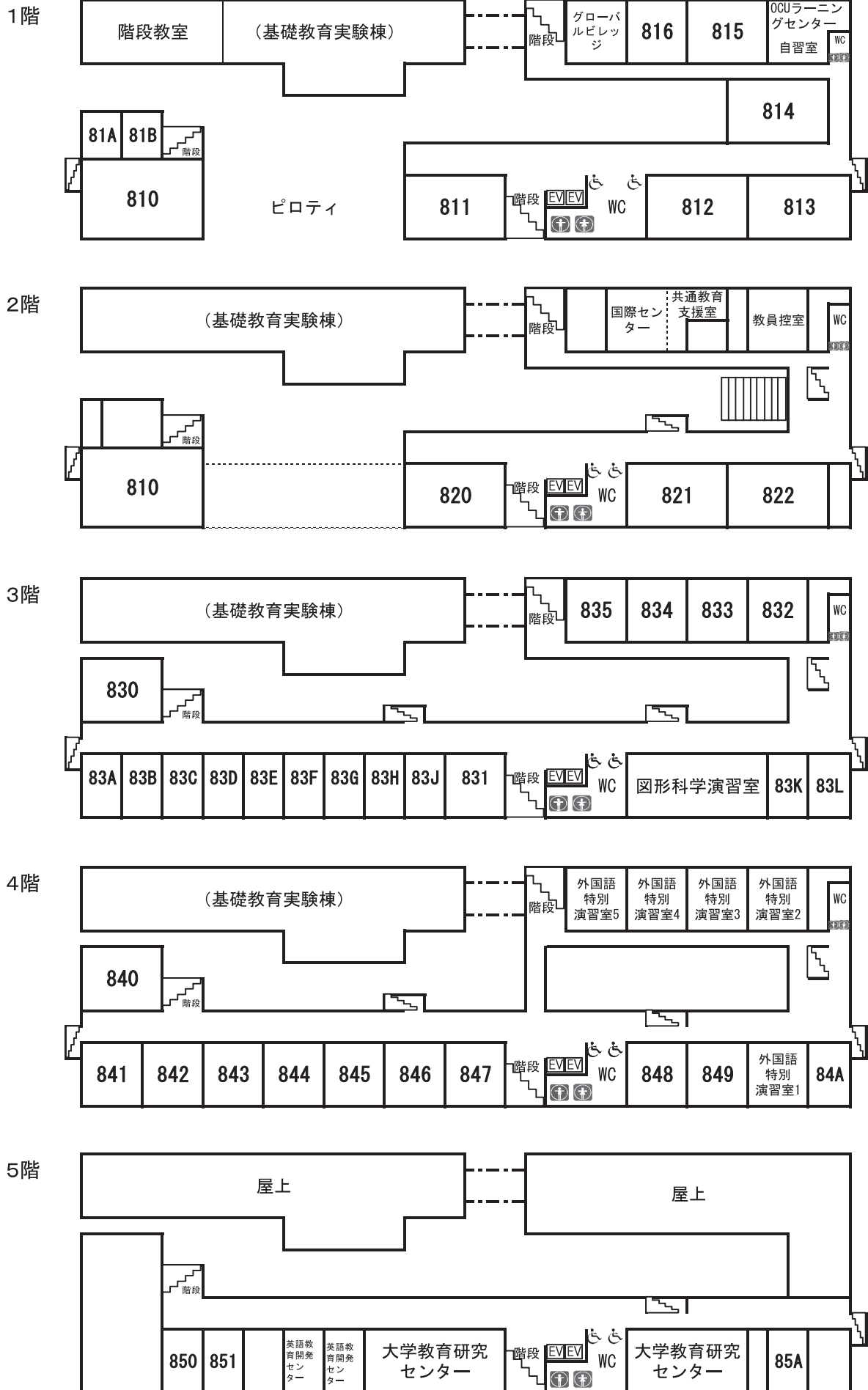
『スポーツ医学研修ハンドブック』（文光堂、2012
年発行、日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツ
ドクター部会監修）

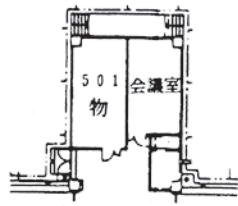
特定の教科書は使用しない。

必要に応じて参考資料などを配布する。

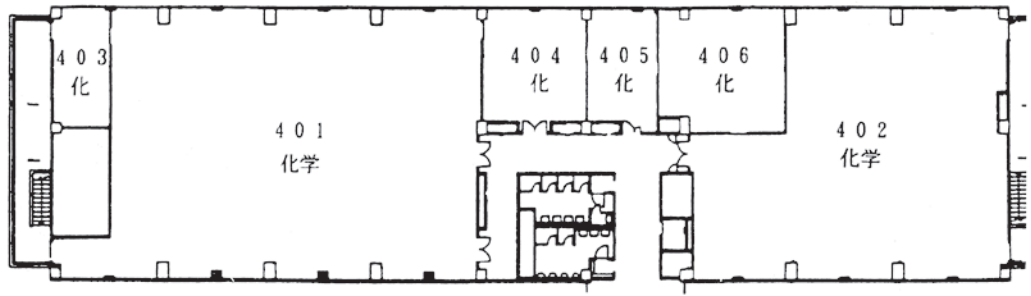
IV 教室等施設配置図

全学共通教育棟 教室配置図



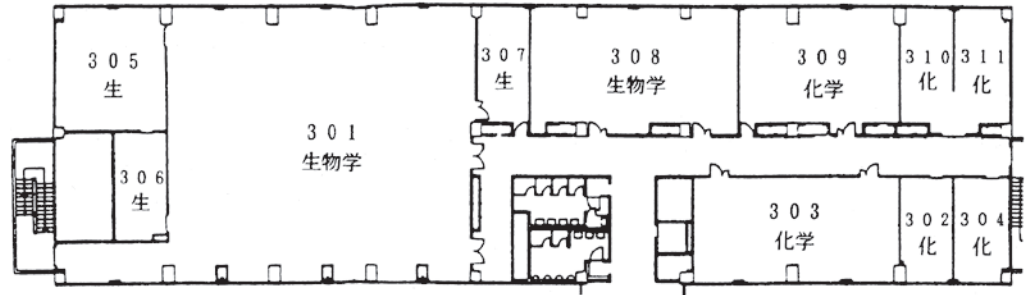


5階

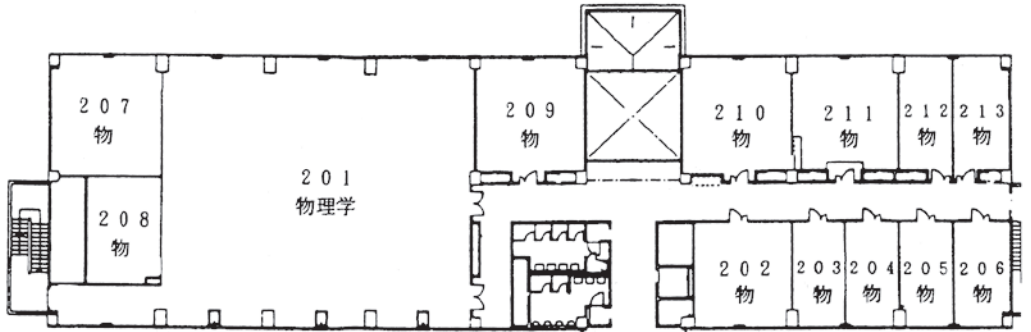


4階

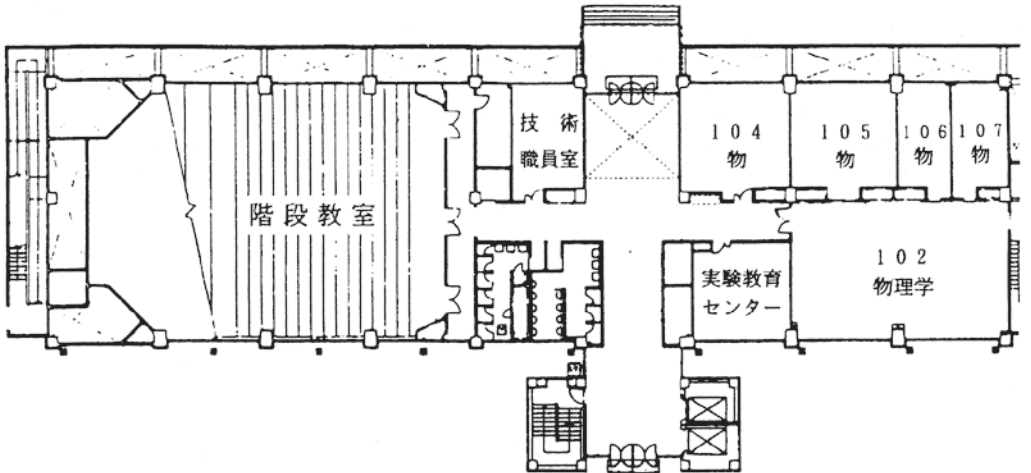
基礎教育実験棟



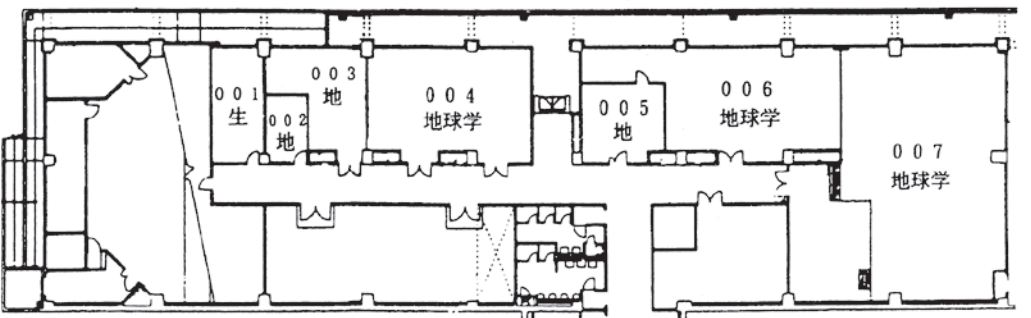
3階



2階



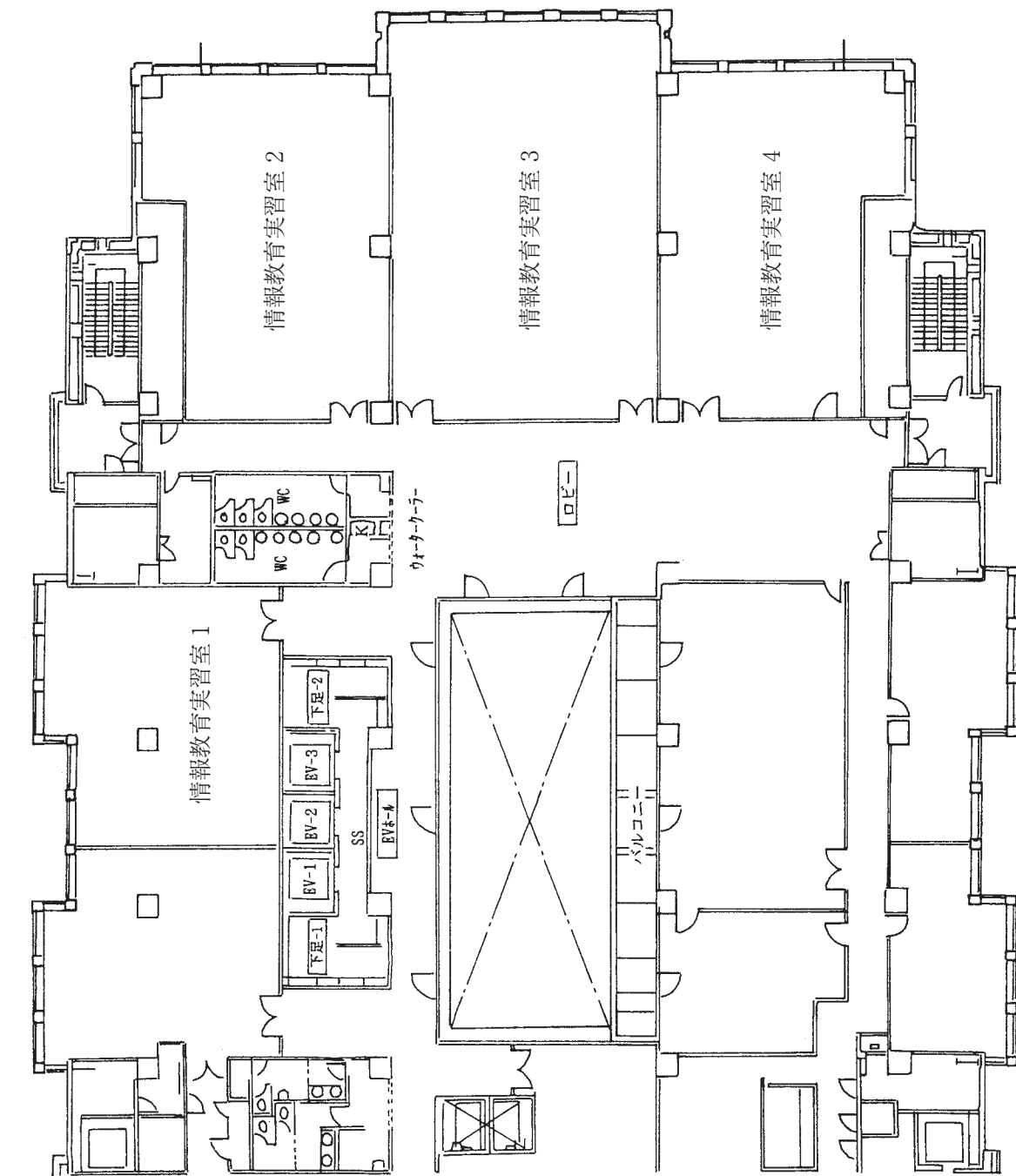
1階



地下1階

(1階以外はエレベーター及び階段部分を省略した。
男子、女子、身障者用の便所は地階から4階の各階にある。)

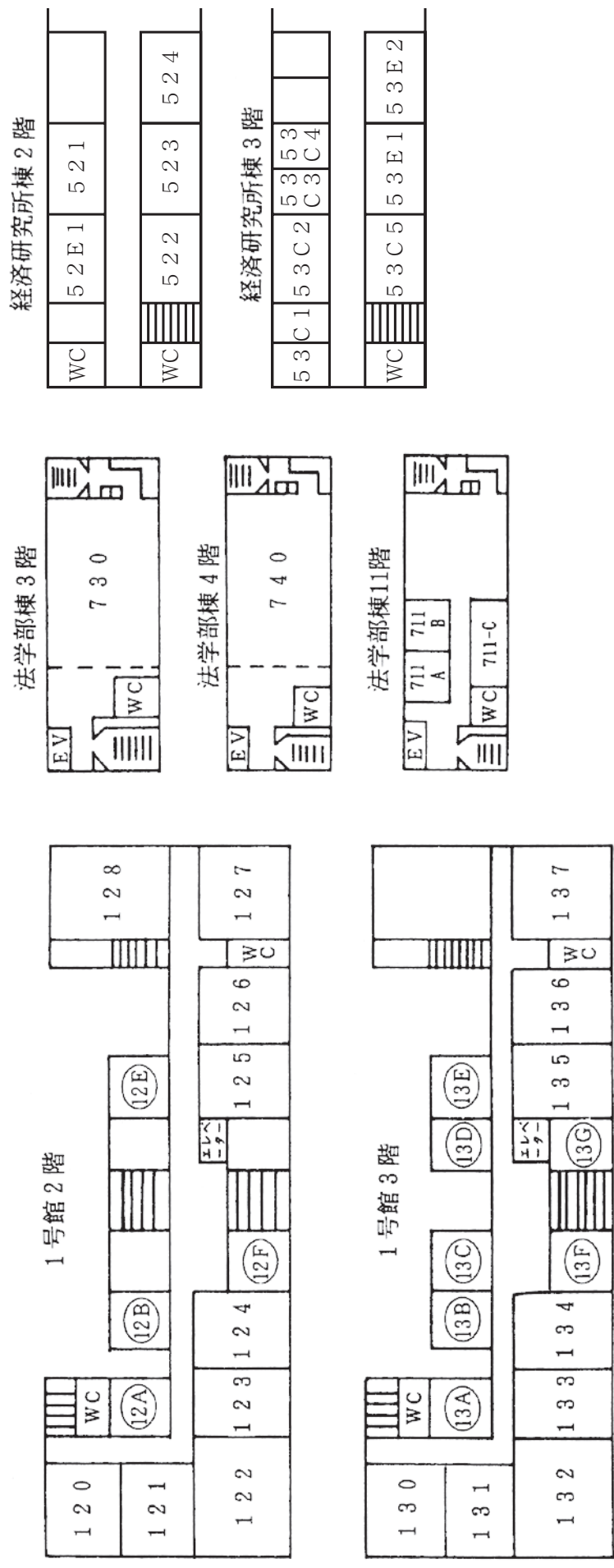
学術情報総合センター 9F



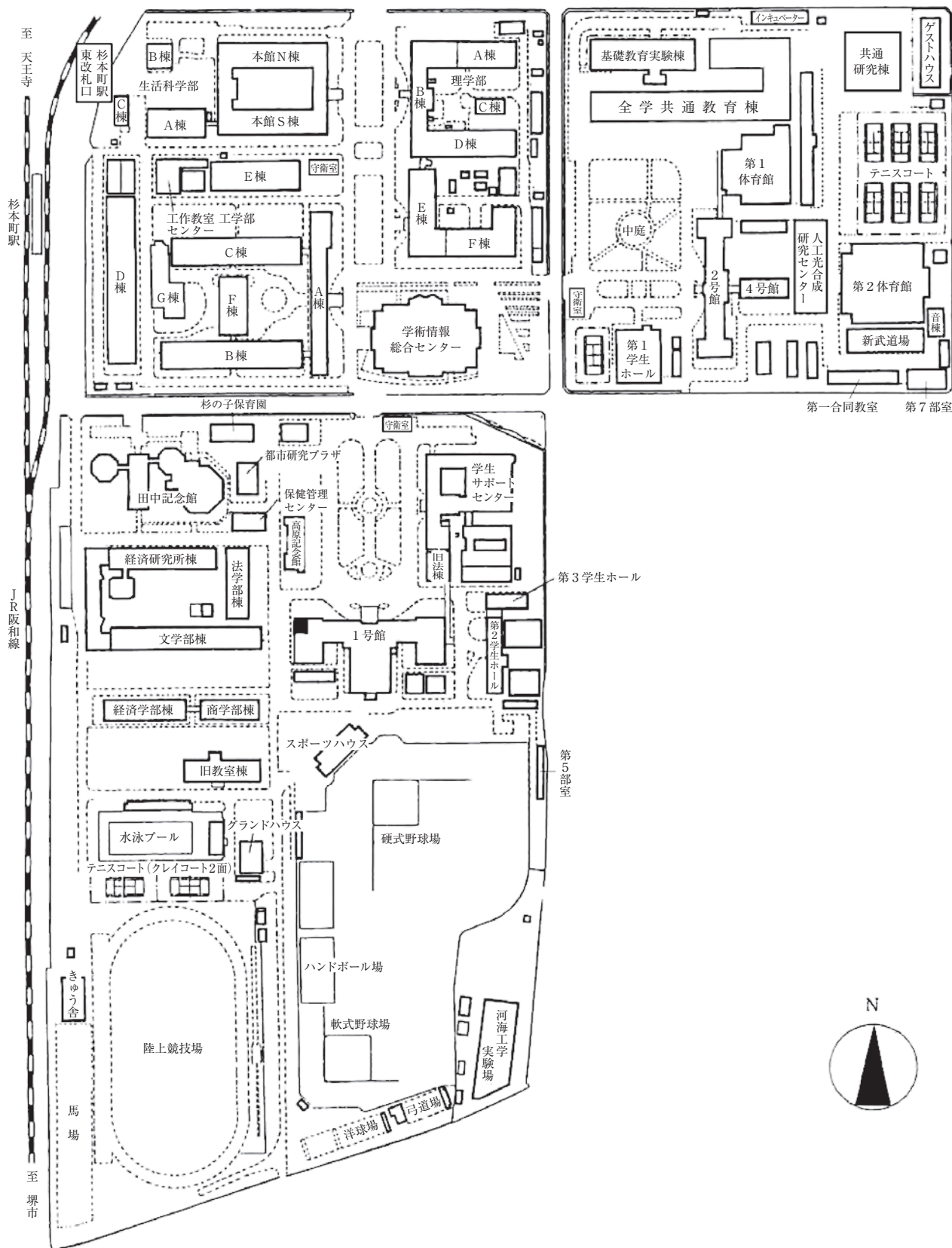
(西側省略)



本館地区各教室見取図



杉本学舎配置図



V 学 则

大阪市立大学学則

〔 制 定 平成18年4月1日規程第1号 〕
〔 最近改正 平成29年3月31日規程第12号 〕

第1章 総則

(目的)

第1条 大阪市立大学（以下「大学」という。）は、学術研究の中心として深く専門の学芸を研究し、かつ、学校教育法（昭和22年法律第26号）の規定に従い高い学問的教養を授けるとともに、人格の向上を図ることを目的とする。

2 学部、学科ごとの人材の養成に関する目的その他の

教育研究上の目的については、別に定める。

(学部等)

第2条 大学の学部（医学部を除く。）、学科、入学定員、第3年次編入学定員（第11条及び第12条の規定による編入学の定員をいう。）及び収容定員は、次のとおりとする。

| 学部 | 学科 | 第1部 | | |
|-------|----------|----------|-----------|----------|
| | | 入学定員 | 第3年次編入学定員 | 収容定員 |
| 商学部 | 商学科 | 名 220 | 名 | 名 880 |
| 経済学部 | 経済学科 | 220 | | 880 |
| 法学部 | 法学科 | 165 | 5 | 670 |
| 文学部 | 哲学歴史学科 | 32 | 3 | 134 |
| | 人間行動学科 | 56 | 3 | 230 |
| | 言語文化学科 | 67 | 4 | 276 |
| | 計 | 155 | 10 | 640 |
| 理学部 | 数学科 | 24 | | 96 |
| | 物理学科 | 33 | | 132 |
| | 化学科 | 42 | 3 | 174 |
| | 生物学科 | 31 | | 124 |
| | 地球学科 | 18 | | 72 |
| | 計 | 148 | 3 | 598 |
| 工学部 | 機械工学科 | 56 | | 224 |
| | 電子・物理工学科 | 42 | | 168 |
| | 電気情報工学科 | 42 | | 168 |
| | 化学バイオ工学科 | 56 | | 224 |
| | 建築学科 | 34 | | 136 |
| | 都市学科 | 50 | | 200 |
| | 計 | 280 | | 1,120 |
| 生活科学部 | 食品栄養科学科 | 35 | | 140 |
| | 居住環境学科 | 43 | | 172 |
| | 人間福祉学科 | 45 | | 180 |
| | 計 | 123 | | 492 |
| 合計 | | 1,311 | 18 | 5,280 |

- 2 医学部の学科、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

| 学科 | 入学定員 | 収容定員 |
|------|------|------|
| | 名 | 名 |
| 医学科 | 95 | 570 |
| 看護学科 | 55 | 220 |
| 合計 | 150 | 790 |

- 3 学部に別表に掲げる講座又は学科目を置く。
- 4 大学に教育推進本部、研究推進本部、地域貢献推進本部、産学官連携推進本部、国際化戦略本部及び入試本部を置く。
- 5 大学に学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、英語教育開発センター、都市研究プラザ、情報基盤センター、国際センター、地域連携センター、人工光合成研究センター、健康科学イノベーションセンター、都市防災教育研究センター、U R Aセンター、入試センター及び複合先端研究機構を置く。
- 6 理学部に附属植物園を、医学部に附属病院及び附属刀根山結核研究所を置く。
- 7 この規則に定めるもののほか、教育推進本部、研究推進本部、地域貢献推進本部、産学官連携推進本部、国際化戦略本部及び入試推進本部並びに学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、英語教育開発センター、都市研究プラザ、情報基盤センター、国際センター、地域連携センター、人工光合成研究センター、都市防災教育研究センター、U R Aセンター、健康科学イノベーションセンター、複合先端研究機構、理学部附属植物園、医学部附属病院及び医学部附属刀根山結核研究所については、別に定める。

(大学院)

第3条 大学に大学院を置く。

- 2 大学院については、別に定める。

(学年)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第5条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

- 2 学長は、特別の事情があると認めるときは、前項の学期の開始日及び終了日を変更することができる。

(休業日)

第6条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (3) 春季休業 3月20日から4月6日まで
- (4) 夏季休業 8月5日から9月15日まで
- (5) 冬季休業 12月23日から翌年1月7日まで
- (6) その他学長が必要と認めた日

- 2 学長は、特別の事情があると認めるときは、前項の休業日を取りやめ、又は変更することができる。

第2章 学生

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第7条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科の修業年限は、6年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の修業年限については、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。
- 3 第1項の規定にかかわらず、第23条の2の規定に基づき長期にわたる教育課程の履修を認められた者(以下「長期履修学生」という。)の修業年限については、当該履修を許可された年限とする。

(在学年限)

第8条 在学年限は、8年とする。ただし、医学部医学科の在学年限は、11年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の在学年限については、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

第2節 入学、転学部、転学科、留学、退学、休学及び除籍

(入学の時期)

第9条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学については、この限りでない。

(入学)

第10条 大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、所定の入学試験に合格した者でなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験又は同規則による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による資格検定に合格した者
 - (7) 大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- 2 大学において教育を受ける目的をもって入国する外国人が入学を願い出たときは、前項の規定による入学試験に代えて教授会における選考によることができる。
- 3 第1項各号のいずれかに該当し、かつ、大学において別に定める入学資格を有する者が入学を願い出たときは、同項の規定による入学試験に代えて教授会における選考によることができる。
- 4 第1項の入学試験に合格した者並びに第2項及び第3項により選考された者に対し、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可する。

第11条 次の各号のいずれかに該当する者で、法学部第1部、文学部第1部又は理学部化学科の第3年次への編入学を志願するものについては、教授会が選考し、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可することができる。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
- (4) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (5) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
- (7) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
- (8) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第7条第1項の表の上欄に掲げる従前の規定による学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者（同条第2項又は第3項の規定により、これらの学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者とみなされる者を含む。）で学部長が定めるもの

第12条 前条に定めるもののほか、次の各号のいずれかに該当する者で、編入学を志願するものについては、欠員のある場合に限り、教授会が選考し、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可することができる。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
- (4) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (5) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
- (6) 高等学校の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
- (7) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
- (8) その他大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者と同等以上の学力があると学部長が認める者

- 2 学長は、第15条第1項の規定により退学し、又は第17条第2項第1号若しくは第2号の規定により除籍された者が再入学を願い出たときは、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえでこれを許可することができる。ただし、再入学の願い出は、退学又は除籍の日から3年以内に限る。

（転学部及び転学科）

第13条 本学の他学部転学部を志願する者があるときは関係学部の教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえでこれを許可することができる。

- 2 転学科を志願する者があるときは、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえでこれを許可することができる。
- 3 本条に定めるもののほか転学部及び転学科について必要な事項は、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

（留学）

第14条 外国の大学（外国の短期大学を含む。以下同じ。）に留学することを願い出た者については、教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで、その大学と協議し、これを許可することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由により外国の大学と事前に協議を行うことが困難な場合には、これを欠くことができる。
- 3 留学の期間は、在学年数に算入する。

(退学及び休学)

第15条 病気その他やむを得ない事情のため退学しようとする者については、本人の願い出により、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで退学を許可することができる。

- 2 病気その他やむを得ない事情のため原則として2月以上にわたって学修することができない者については、本人の願い出により、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで休学を許可することができる。
- 3 前項の規定による休学の願い出は、学年ごとに行わなければならない。
- 4 病気のため療養を必要とすると認められる者については、学部長の申請により、学長が休学を命ずることができる。ただし、事前に、時宜によっては事後に、教授会の審議を経て、その意見を聴かなければならない。
- 5 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。
- 6 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第16条 休学期間中にその事由が消滅した者については、本人の願い出により、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで復学を許可することがある。

(除籍)

第17条 第8条に定める在学年限内に成業することのできない者は、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで除籍する。

- 2 次の各号のいずれかに該当する者は、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで除籍することがある。
 - (1) 授業料を納付しない者
 - (2) 大阪市立大学の授業料等に関する規則第5条第2項の規定に基づき入学料の徴収を猶予され、なお理事長の指定する日までに入学料を納付しない者、又は入学後同規則第7条第4項に定める納付をしない者
 - (3) 病気その他の事由により成業の見込みのない者
 - (4) 教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める期間内に所定の単位を修得しない者
 - (5) 第15条第5項に定める休学期間を満了してなお就学できない者

第3節 教育課程

(教育課程の編成方針)

第18条 教育課程は、大学、学部及び学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を第19条第1項及び第2項に定める区分に従って開設し、体系的に編成するものとする。

- 2 教育課程の編成にあたっては、学部及び学科等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い

教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性をおかぬ養するよう適切に配慮するものとする。

(副専攻)

第18条の2 前条第1項により編成する教育課程として、特定の課題に関する科目で構成する教育課程(副専攻)を開設し、その学習成果を認定することができる。

(授業科目及び単位数)

第19条 大学において開設する授業科目は、全学共通科目、専門教育科目、教職に関する科目及び副専攻科目とする。

- 2 全学共通科目は、総合教育科目、基礎教育科目、外国語科目及び健康・スポーツ科学科目に区分する。
- 3 前2項に定めるもののほか、各授業科目及びその単位数については、全学共通科目履修規程、各学部履修規程及び副専攻規程で定める。

(履修方法)

第20条 学生(医学部医学科の学生を除く。)は、全学共通科目及び専門教育科目を合計して124単位以上を修得しなければならない。

- 2 医学部医学科の学生は、医学部医学科履修規程で定める単位数以上の全学共通科目を修得するとともに、同規程で定めるところにより、専門教育科目を履修して試験に合格しなければならない。
- 3 第1項の規定にかかわらず、学部長は、教育上必要があると認めるときは、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、同項の単位数を増加することができる。
- 4 前3項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者に係る履修方法については、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

(国内の他の大学等の授業科目の履修)

第21条 学生が国内の他の大学(国内の短期大学を含む。以下同じ。)の授業科目を履修することが教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで、その大学と協議し、これを承認することができる。

- 2 第14条及び前項の規定により修得した授業科目及び単位数については、30単位を超えない範囲で、これを大学において修得したものとみなすことができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第22条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生の行う学修で文部科学大臣が定めるものを、大学における授業科目の履修とみなすことができる。

- 2 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、単位を与えることができる。
- 3 前項の規定により与えることのできる単位数は、前

条第2項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(既修得単位等の認定)

第23条 学部長は、教育上有益と認めるときは、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、既修得単位(大学の第1年次に入学した者が当該入学前に大学、国内の他の大学又は外国の大学において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)をいう。)を、当該入学後大学において修得したものとみなすことができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。

2 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、大学における授業科目の履修とみなすことができる。

3 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、単位を与えることができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。

4 第1項又は前項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、合わせて30単位を超えないものとする。

第23条の2 学長は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第7条第1項に規定する修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

(その他)

第24条 本節に定めるもののほか、履修方法、単位の計

算方法及び学習の評価方法については、全学共通科目履修規程及び各学部履修規程で定める。

第4節 卒業の認定

(卒業の認定及び学位の授与)

第25条 大学に所定の期間在学して、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得し、所定の卒業資格を得た者に対し、学長は、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで卒業を認定する。

2 学長は、前項の規定により卒業を認定した者に対し、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、次の区分に従って学士の学位を授与する。

- 商学部 学士(商学)
- 経済学部 学士(経済学)
- 法学部 学士(法学)
- 文学部 学士(文学)
- 理学部 学士(理学)
- 工学部 学士(工学)
- 医学部
- 医学科 学士(医学)
- 看護学科 学士(看護学)
- 生活科学部 学士(生活科学)

第5節 教員免許

(教員免許)

第26条 教員の免許状授与の所要資格を取得することのできる学部・学科は、次のとおりとする。

| 学部 | 学科 | 免許教科 | 免許状の種類 |
|------|--------|------|-------------|
| 商学部 | 商学科 | 社会 | 中学校教諭1種免許状 |
| | | 地理歴史 | 高等学校教諭1種免許状 |
| | | 公民 | |
| | | 商業 | |
| 経済学部 | 経済学科 | 社会 | 中学校教諭1種免許状 |
| | | 地理歴史 | 高等学校教諭1種免許状 |
| | | 公民 | |
| | | 商業 | |
| 法学部 | 法学科 | 社会 | 中学校教諭1種免許状 |
| | | 地理歴史 | 高等学校教諭1種免許状 |
| | | 公民 | |
| 文学部 | 哲学歴史学科 | 社会 | 中学校教諭1種免許状 |
| | | 地理歴史 | 高等学校教諭1種免許状 |
| | | 公民 | |
| | 人間行動学科 | 社会 | 中学校教諭1種免許状 |
| | | 地理歴史 | 高等学校教諭1種免許状 |
| | | 公民 | |

| | | | |
|-------|----------|----------------------------------|---------------------------|
| 文学部 | 言語文化学科 | 国語 中国語 英語 ドイツ語 フランス語 | 中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状 |
| 理学部 | 数学科 | 数学 | 中学校教諭1種免許状 |
| | 物理学科 | 理科 | 高等学校教諭1種免許状 |
| | 化学科 | | |
| | 生物学科 | | |
| | 地球学科 | | |
| 工学部 | 機械工学科 | 工業 | 高等学校教諭1種免許状 |
| | 電子・物理工学科 | | |
| | 電気情報工学科 | | |
| | 化学バイオ工学科 | | |
| | 建築学科 | | |
| | 都市学科 | | |
| 生活科学部 | 食品栄養科学科 | 家庭 | 中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状 |
| | | | 栄養教諭1種免許状 |
| | 居住環境学科 | 家庭 | 中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状 |

2 前項に定めるもののほか、教員の免許状授与に係る基礎資格及び単位の修得方法等については、学長が別に定めるところによる。

第6節 賞罰

(表彰)

第27条 品性学力ともに優秀な者、又は篤行のあった者はこれを表彰する。

(懲戒)

第28条 学則その他の規定又は命令に違反した者、大学の秩序を乱した者その他学生の本分にもとると認められる者は、懲戒委員会の議決を経て学長が懲戒する。

- 2 懲戒委員会の組織は、教育研究評議会で定める。
- 3 懲戒処分は、訓告、停学及び退学の3種とする。

第3章 科目等履修生及び研修生

(科目等履修生)

第29条 特定の授業科目の履修を志願する者がいるときは、教授会、都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター研究員会議又は大学教育研究センター研究員会議が選考し、学長がその意見を聴いたうえで科目等履修生として入学を許可することが

ある。

(特別履修学生)

第30条 学長は、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、その大学の学生が、大学の授業科目を履修することを認めることができる。

- 2 前項の規定により大学の授業科目の履修を認められた学生を特別履修学生と称する。
- 3 第1項の規定にかかわらず、やむを得ない事情により外国の大学と事前に協議を行うことが困難なときは、これを欠くことができる。

(研修生)

第31条 公の機関又は団体等から、その所属の職員につき、学修題目を定めて研修を願い出たときは、教授会又は都市健康・スポーツ研究センター教員会議が選考し、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可することができる。

- 2 前項の規定により入学を許可された者を研修生とする。

(その他)

第32条 本章に定めるもののほか、科目等履修生及び研修生について必要な事項は学長が別に定める。

第4章 授業料その他の納付金

(納付金)

第33条 納付金の額については、別に定める。

(既納付金の還付)

第34条 既納の納付金は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合においては、この限りでない。

- (1) 学生に係る入学試験において、出願書類等による選抜を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜を行う場合
- (2) 前号のほか公立大学法人大阪市立大学（以下「法人」という。）理事長が必要と認めた場合

(減免及び分納)

第35条 休学者に対しては授業料を免除する。ただし、休学した日の前日又は復学した日の属する学期の授業料を納めなければならない。

2 学年の途中で卒業する者、退学する者及び除籍された者は、その日の属する学期の授業料を納めなければならない。

第36条 特別の事情があると認めるときは、授業料の減免若しくは分納又は入学検定料若しくは入学料の減免を許可することがある。

第37条 特別履修学生に対しては、入学検定料及び入学料を免除する。

2 特別履修学生に対しては、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、授業料を免除することがある。

(その他)

第38条 本章に定めるもののほか、授業料等の納期その他納付金については別に定めるところによる。

第5章 職員組織

(職員)

第39条 大学に次の職員を置く。

- (1) 学長、副学長、教育推進本部長、研究推進本部長、地域貢献推進本部長、産学連携推進本部長、国際化戦略本部長、学部長、副学部長、研究所長、学術情報総合センター所長、病院長、学生担当部長、教務担当部長、入試担当部長
 - (2) 教授、准教授、講師、助教
 - (3) 事務職員、技術職員
 - (4) その他必要な職員
- 2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
- 3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(組織)

第40条 大学の教育研究の発展に資するため教員組織と

して研究院をおく。

- 2 大学の事務を処理するため、大学に大学運営本部を、医学部に医学部・附属病院運営本部を置く。
- 3 研究院、大学運営本部及び医学部・附属病院運営本部については、別に定める。

第6章 教授会、教育研究評議会等

(教授会等)

第41条 各学部に教授会を、都市健康・スポーツ研究センターに都市健康・スポーツ研究センター教員会議を、人権問題研究センターに人権問題研究センター研究員会議を、大学教育研究センターに大学教育研究センター研究員会議を置く。

2 教授会は教授をもって組織する。ただし、教育研究評議会の承認を経て准教授その他の教員を加えることができる。

3 都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター研究員会議及び大学教育研究センター研究員会議については、別に定める。

第42条 学部教授会は、次の事項を審議する。

- (1) 研究に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 学科、課程及び履修方法に関する事項
- (4) 学生の入学、留学、退学、卒業その他学生の身分に関する事項
- (5) 科目等履修生及び研修生に関する事項
- (6) 学部の内規の制定及び改廃に関する事項
- (7) 学校教育法第93条第3項に基づき、学長及び学部長に述べる意見に関する事項
- (8) その他学部における重要事項

2 教授会の議事の手続その他その運営に必要な事項については、別に定める。

(教育研究評議会)

第43条 大学に教育研究評議会を置く。

2 教育研究評議会は、次に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長が指名する理事
- (4) 学長が定める教育研究上重要な組織の長
- (5) 教育研究評議会が定めるところにより学長が指名する職員

3 前項第5号に定める職員を、教育研究評議員と称する。

4 教育研究評議員は、大学院の各研究科教授会、都市健康・スポーツ研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議において、当該研究科、都市健康・スポーツ研究センター又は大学教育研究センターに所属する常勤教員のうちから選定し、学長がこれを指名する。

第44条 教育研究評議会は、次の事項を審議する。

- (1) 中期目標について大阪市長に対し述べる意見及び年度計画に関する事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (2) 地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）により大阪市長の認可又は承認を受けなければならない事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (3) この規則（法人の経営に関する部分を除く。）及び大阪市立大学大学院学則（法人の経営に関する部分を除く。）の改正並びに教育研究に関する規程の制定及び改廃に関する事項
- (4) 教育研究評議員の任期に関する事項
- (5) 教員の人事に関する方針及び基準に係る事項
- (6) 教員の懲戒処分の審査に関する事項
- (7) 教育課程の編成に関する方針に係る事項
- (8) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
- (9) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
- (10) 学生の身分に関する重要事項
- (11) 学生の厚生補導に関する事項
- (12) 教授会その他の機関の連絡調整に関する事項
- (13) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- (14) 前各号に掲げるもののほか、大学における教育研究に関する重要事項

（招集及び議事）

第45条 教育研究評議会は、学長が招集する。

- 2 教育研究評議会に議長を置き、学長をもって充てる。
- 3 議長は、教育研究評議会を主宰する。
- 4 教育研究評議会は、構成員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 5 教育研究評議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 6 この規則に定めるもののほか、教育研究評議会の運営に必要な事項については、教育研究評議会の議を経て学長が定める。

第7章 雑則

（改正）

第46条 この規則の改正は、法人の経営に関する事項については、公立大学法人大阪市立大学定款（平成16年大阪市議会議決）に定める経営審議会の、法人の経営に関する事項以外の事項については、教育研究評議会の意見を聴いて行うものとする。

（施行の細目）

第47条 この規則の施行について必要な事項は、学長が定める。

附 則

（施行期日）

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第2条第1項の規定（理学部生物学科第1部第3年次編入学定員に係る部分に限る。）については、平成19年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 平成18年度における理学部生物学科第1部第3年次編入学定員については、第2条第1項の規定にかかわらず、2名とする。
- 3 平成18年度及び平成19年度における各学部各学科（工学部機械工学科、電気工学科、建築学科、医学部並びに生活科学部居住環境学科を除く。以下この項において同じ。）の第1部収容定員、文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計、全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計、医学部看護学科の収容定員並びに医学部の収容定員の合計については、第2条第1項及び第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 各学部各学科の第1部収容定員

| 学部 | 学科 | 平成18年度 | 平成19年度 |
|-------|---------|--------|--------|
| 商学部 | 商学科 | 751 | 775 |
| 経済学部 | 経済学科 | 751 | 775 |
| 法学部 | 法学科 | 612 | 600 |
| 文学部 | 哲学歴史学科 | 120 | 122 |
| | 人間行動学科 | 196 | 200 |
| | 言語文化学科 | 227 | 235 |
| 理学部 | 数学科 | 90 | 93 |
| | 物理学科 | 114 | 119 |
| | 物質科学科 | 62 | 68 |
| | 化学科 | 89 | 97 |
| | 生物学科 | 98 | 108 |
| | 地球学科 | 68 | 71 |
| 工学部 | 応用化学科 | 107 | 109 |
| | 都市基盤工学科 | 56 | 84 |
| | 応用物理学科 | 107 | 109 |
| | 情報工学科 | 100 | 106 |
| | バイオ工学科 | 56 | 84 |
| | 知的材料工学科 | 100 | 106 |
| | 環境都市工学科 | 100 | 106 |
| 生活科学部 | 食品栄養科学科 | 130 | 135 |
| | 人間福祉学科 | 175 | 177 |

(2) 文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計

| 学部 | 平成18年度 | 平成19年度 |
|-------|----------|----------|
| 文学部 | 名 543 | 名 557 |
| 理学部 | 521 | 556 |
| 工学部 | 1,063 | 1,090 |
| 生活科学部 | 477 | 484 |

(3) 全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計

| 平成18年度 | 平成19年度 |
|------------|------------|
| 名 4,718 | 名 4,836 |

(4) 医学部看護学科の収容定員

| 平成18年度 | 平成19年度 |
|----------|----------|
| 名 160 | 名 230 |

(5) 医学部の収容定員の合計

| 平成18年度 | 平成19年度 |
|----------|----------|
| 名 640 | 名 710 |

4 平成18年度から平成20年度までの各年度における商学部、経済学部、法学部及び文学部各学科の第2部収容定員、文学部の第2部収容定員の合計並びに商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部収容定員の合計については、第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

| 学部 | 学科 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|------|--------|----------|----------|----------|
| 商学部 | 商学科 | 名 250 | 名 225 | 名 200 |
| 経済学部 | 経済学科 | 280 | 270 | 260 |
| 法学部 | 法学科 | 240 | 210 | 180 |
| 文学部 | 哲学歴史学科 | 36 | 24 | 12 |
| | 人間行動学科 | 42 | 28 | 14 |
| | 言語文化学科 | 42 | 28 | 14 |
| | 人文学科 | 60 | 90 | 120 |
| | 計 | 180 | 170 | 160 |
| 合計 | | 950 | 875 | 800 |

5 この規則の施行の際、現に工学部に在学する者（平成17年3月31日までに工学部土木工学科及び生物応用化学科に入学した者に限る。）については、第2条第1項、第26条第1項及び別表の規定にかかわらず、法人の設立前の大阪市立大学学則（昭和30年大阪市規則第18号。以下「廃止前の市規則」という。）における当該規定の取扱いを準用する。

6 この規則の施行の際、現に商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部に在学する者（平成17年3月31日までに入学した者に限る。）については、第2条第

1項、第7条、第8条及び第26条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。

7 平成11年3月31日までに入学した者に係る授業料の額は、第33条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。

附 則（平成18年11月21日規程第173号）
この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成18年12月19日規程第184号）
この規則は、平成19年4月1日から施行する。

ただし、第2条の改正規定は、平成18年12月19日から施行する。

附 則（平成19年3月20日規程第14号）
（施行期日）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成19年3月31日までに生活科学部人間福祉学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第26条第1項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成19年7月24日規程第72号）
（施行期日）

1 この規則は、平成19年10月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に医学部に在学する者（平成19年9月30日までに医学部医学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成20年3月18日規程第14号）
この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年7月29日規程第86号）
この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月27日規程第15号）
（施行期日）

1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成21年度から平成23年度までの各年度における理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第1部収容定員、理学部の第1部収容定員の合計、工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第1部収容定員並びに全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計については、第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第1部収容定員

| 学科 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| | 名 | 名 | 名 |
| 物理学科 | 126 | 128 | 130 |
| 物質科学科 | 53 | 32 | 16 |
| 化学科 | 123 | 140 | 157 |
| 生物学科 | 119 | 120 | 121 |
| 地球学科 | 72 | 70 | 70 |

(2) 理学部の第1部収容定員の合計

| 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 |
|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 |
| 589 | 586 | 590 |

(3) 工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第1部収容定員

| 学科 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 |
|----------|--------|--------|--------|
| | 名 | 名 | 名 |
| 機械工学科 | 140 | 168 | 196 |
| 電子・物理工学科 | 42 | 84 | 126 |
| 情報工学科 | 126 | 140 | 154 |
| 化学バイオ工学科 | 56 | 112 | 168 |
| 建築学科 | 118 | 124 | 130 |
| 都市学科 | 50 | 100 | 150 |

(4) 全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計

| 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 |
|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 |
| 4,973 | 4,970 | 4,974 |

3 平成21年度から平成25年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

| 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 | 名 | 名 |
| 490 | 500 | 510 | 520 | 530 |

(2) 医学部の収容定員の合計

| 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 | 名 | 名 |
| 720 | 730 | 740 | 750 | 760 |

4 この規則の施行の際、現に理学部に在学する者（平成21年3月31日までに理学部物質科学科に入学した者に限る。）及び工学部に在学する者（平成21年3月31日までに工学部電気工学科、応用化学科、都市基盤工

学科、応用物理学科、バイオ工学科、知的材料工学科、環境都市工学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第2条第1項、第26条第1項及び別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成22年3月31日規程第64号）

（施行期日）

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成22年度から平成24年度までの各年度における商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員、文学部の第1部の収容定員の合計、全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員並びに文学部第1部の収容定員の合計

| 学部 | 学科 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| | | 名 | 名 | 名 |
| 商学部 | 商学科 | 820 | 840 | 860 |
| 経済学部 | 経済学科 | 820 | 840 | 860 |
| 法学部 | 法学科 | 620 | 640 | 655 |
| 文学部 | 哲学歴史学科 | 127 | 130 | 132 |
| | 人間行動学科 | 211 | 218 | 224 |
| | 言語文化学科 | 253 | 262 | 269 |
| | 計 | 591 | 610 | 625 |

(2) 全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計

| 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 |
| 5,057 | 5,136 | 5,206 |

3 平成22年度から平成26年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

| 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 | 名 | 名 |
| 502 | 514 | 526 | 538 | 550 |

(2) 医学部の収容定員の合計

| 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 | 名 | 名 |
| 732 | 744 | 756 | 768 | 780 |

附 則（平成22年9月27日規程第111号）
この規則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則（平成23年3月30日規程第139号）
（施行期日）
1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成23年3月31日までに生活科学部に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第26条第1項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成24年3月30日規程第17号）
（施行期日）
1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
（経過措置）

2 平成24年度から平成25年度までの各年度における医学部看護学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部看護学科の収容定員

| 平成24年度 | 平成25年度 |
|----------|----------|
| 名 212 | 名 194 |

(2) 医学部の収容定員の合計

| 平成24年度 | 平成25年度 |
|----------|----------|
| 名 764 | 名 746 |

附 則（平成24年6月29日規程第75号）
この規則は、平成24年7月1日から施行する。

附 則（平成25年1月31日規程第2号）
この規則は、平成25年2月1日から施行する。

附 則（平成25年3月29日規程第23号）
この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年5月31日規程第56号）
この規則は、平成25年6月1日から施行する。

附 則（平成25年10月31日規程第106号）
この規則は、平成25年11月1日から施行する。

附 則（平成26年3月28日規程第18号）
（施行期日）
1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
（経過措置）

2 平成26年度から平成28年度までの各年度における理学部生物学科及び地球学科の第1部の収容定員、理学

部の第1部の収容定員の合計並びに全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 理学部生物学科及び地球学科の第1部の収容定員

| 学科 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|------|--------|--------|--------|
| | 名 | 名 | 名 |
| 生物学科 | 121 | 120 | 122 |
| 地球学科 | 69 | 68 | 70 |

(2) 理学部の第1部の収容定員の合計

| 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 |
| 592 | 590 | 594 |

(3) 全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計

| 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 |
| 5,274 | 5,272 | 5,276 |

附 則（平成26年7月31日規程第67号）
この規則は、平成26年8月1日から施行する。

附 則（平成26年10月1日規程第74号）
この規則は、平成26年10月1日から施行する。

附 則（平成27年2月10日規程第12号）
この規則は、平成27年3月1日から施行する。

附 則（平成27年3月31日規程第23号）
（施行期日）

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
（経過措置）
2 平成27年度から平成31年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

| 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 | 名 | 名 |
| 555 | 558 | 561 | 564 | 567 |

(2) 医学部の収容定員の合計

| 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 名 | 名 | 名 | 名 | 名 |
| 760 | 778 | 781 | 784 | 787 |

附 則（平成27年9月28日規程第214号）
この規則は、平成27年9月28日から施行し、平成27年

4月1日から適用する。

附 則（平成27年12月21日規程第229号）

この規則は、平成27年12月21日から施行する。

附 則（平成28年3月28日規程第20号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年8月30日規程第154号）

（施行期日）

1 この規則は、平成28年9月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、平成28年度までに入学した者については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第33条第1項及び第2項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成28年11月9日規程第173号）

（施行期日）

1 この規則は、平成28年12月1日から施行する。

附 則（平成29年3月31日規程第12号）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

別表（第2条関係）

（略）

Ⅵ 各学部の電話番号・所在地

各学部等の電話番号・所在地

杉本学舎 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

| 学 部 等 | 電 話 番 号 | 備考 |
|---------------|-------------------------|----------|
| 教 務 兼 教 職 担 当 | 0 6 - 6 6 0 5 - 2 9 3 6 | 教職関係 |
| 商 学 部 | 0 6 - 6 6 0 5 - 2 2 0 1 | |
| 経 済 学 部 | 0 6 - 6 6 0 5 - 2 2 5 1 | |
| 法 学 部 | 0 6 - 6 6 0 5 - 2 3 0 3 | |
| 文 学 部 | 0 6 - 6 6 0 5 - 2 3 5 3 | |
| 理 学 部 | 0 6 - 6 6 0 5 - 2 5 0 4 | |
| 工 学 部 | 0 6 - 6 6 0 5 - 2 6 5 3 | |
| 生 活 科 学 部 | 0 6 - 6 6 0 5 - 2 8 0 3 | |
| 共 通 教 育 担 当 | 0 6 - 6 6 0 5 - 2 9 3 5 | 全学共通教育全般 |

阿倍野学舎 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

| 学 部 等 | 電 話 番 号 | 所在地 |
|--------------|-------------------------|-----|
| 医学部学務課（医学科） | 0 6 - 6 6 4 5 - 3 6 1 1 | |
| 医学部学務課（看護学科） | 0 6 - 6 6 4 5 - 3 5 1 1 | |

| | | | |
|-----|--|------|--|
| 学 部 | | 学籍番号 | |
| 氏 名 | | | |